

基本計画書

基本計画												
事項		記入欄							備考			
計画の区分		学部設置										
フリガナ設置者		ガクコリカクジシムケンノダクイカク 学校法人武蔵野大学										
フリガナ大学の名称		ムサシノダクイカク 武蔵野大学										
大学本部の位置		東京都江東区有明三丁目3番3号										
大学の目的		本学は、教育基本法及び学校教育法に準拠し、かつ、仏教精神を根幹として学識、情操、品性ともにすぐれた人格を育成するとともに、学問の研究を深め、世界の平和と人類の幸福に寄与することをもって目的とする。										
新設学部等の目的		【ウェルビーイング学部】 仏法の真理観を根幹として、人間の抱える根源的な苦悩からの解放を見据えつつ、学識、情操、品性にすぐれた人格を育成するとともに、科学や技術の最先端の知見や成果も取り入れた学際的なアプローチによって、幸せ・生きがい・安心・福祉・健康・平和など、人々と世界のウェルビーイングをデザインし、創造していく人材の育成を目的とする。 【ウェルビーイング学科】 ウェルビーイングという総合的概念についての社会学・心理学的知見や、新たに創造的なデザインを行うため問題発見・課題解決できる実践的な能力を身につけ、今後のあるべきウェルビーイング社会の創造に主体的に取り組んでいく人材を養成する。										
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地				
	ウェルビーイング学部 ウェルビーイング学科	年	人	年次人	人		年 月 第 年次					
	計	4	80	2年次 10 2年次 10	350 350	学士（ウェルビーイング）	令和6年4月 第1年次 令和7年4月 第2年次	東京都西東京市新町一丁目1番20号				
同一設置者内における変更状況 （定員の移行、名称の変更等）		ウェルビーイング学部ウェルビーイング学科〔定員増〕（80） （2年次編入学定員）（10）（令和5年3月認可申請）										
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数					
		講義	演習	実験・実習		計						
	ウェルビーイング学部 ウェルビーイング学科	75科目	114科目	0科目		189科目	124単位					
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等						兼任教員等		
				教授	准教授	講師	助教	計	助手			
	新設	ウェルビーイング学部 ウェルビーイング学科			人	人	人	人	人	人	人	
					12 (7)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	16 (11)	0 (0)	93 (77)	
		計			12 (7)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	16 (11)	0 (0)	— (—)	
	既存	文学部			13 (13)	0 (0)	3 (3)	1 (1)	17 (17)	0 (0)	111 (111)	
		日本文学文化学科										
		グローバル学部			7 (7)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	84 (84)	
		グローバルコミュニケーション学科										
		日本語コミュニケーション学科			4 (4)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	89 (89)	
		グローバルビジネス学科			4 (4)	2 (2)	3 (3)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	93 (93)	
		法学部			11 (11)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	165 (165)	
		法律学科										
		政治学科			6 (6)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	149 (149)	
要分	経済学部			7 (7)	5 (5)	3 (3)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	142 (142)		
	経済学科											
	経営学部			9 (9)	4 (4)	3 (3)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	137 (137)		
	経営学科											
	会計ガバナンス学科			5 (5)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	146 (146)		

教 員 組 織 の 概 要	既 設 分	アントレプレナーシップ学部 アントレプレナーシップ学科		18 (18)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	19 (19)	0 (0)	154 (154)	※通学課程を兼ねる ※通学課程を兼ねる
		データサイエンス学部 データサイエンス学科		7 (7)	6 (6)	2 (2)	2 (2)	17 (17)	0 (0)	136 (136)	
		人間科学部 人間科学科		12 (12)	2 (2)	3 (3)	5 (5)	22 (22)	0 (0)	115 (115)	
		社会福祉学科		11 (11)	2 (2)	1 (1)	2 (2)	16 (16)	0 (0)	98 (98)	
		工学部 サステナビリティ学科		5 (6)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	10 (11)	0 (0)	115 (115)	
		数理工学科		9 (9)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	146 (146)	
		建築デザイン学科		5 (5)	2 (2)	1 (1)	1 (1)	9 (9)	2 (2)	173 (173)	
		教育学部 教育学科		10 (10)	11 (11)	3 (3)	0 (0)	24 (24)	0 (0)	190 (190)	
		幼児教育学科		4 (4)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	157 (157)	
		薬学部 薬学科（6年制）		17 (17)	3 (3)	23 (23)	12 (12)	55 (55)	1 (1)	139 (139)	
		看護学部 看護学科		9 (9)	8 (8)	9 (9)	7 (7)	33 (33)	5 (5)	167 (167)	
		通信教育部 人間科学部人間科学科		4 (4)	2 (2)	2 (2)	1 (1)	9 (9)	0 (0)	125 (125)	
		通信教育部 教育学部教育学科		9 (9)	8 (8)	2 (2)	0 (0)	19 (19)	0 (0)	91 (91)	
		計		186 (187)	79 (79)	70 (70)	31 (31)	366 (367)	8 (8)	— (—)	
		合 計		198 (194)	81 (81)	72 (72)	31 (31)	382 (378)	8 (8)	— (—)	
教 員 以 外 の 職 員 の 概 要	職 種		専 任		兼 任		計				
	事 務 職 員		265 (265) 人		10 (10) 人		275 (275) 人				
	技 術 職 員		0 (0)		0 (0)		0 (0)				
	図 書 館 専 門 職 員		2 (2)		0 (0)		2 (2)				
	そ の 他 の 職 員		2 (2)		0 (0)		2 (2)				
	計		269 (269)		10 (10)		279 (279)				
校 地 等	区 分	専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計		・武蔵野大学高等学校 （収容定員1,200人、運動 場必要面積8,400㎡） ・武蔵野大学中学校 （収容定員750人、運動場 必要面積8,400㎡）		
	校 舎 敷 地	82,698.59㎡	1,352.00㎡		15,977.44㎡		100,028.03㎡				
	運 動 場 用 地	30,383.01㎡	0.00㎡		4,759.00㎡		35,142.01㎡				
	小 計	113,081.60㎡	1,352.00㎡		20,736.44㎡		135,170.04㎡				
	そ の 他	5,482.84㎡	0.00㎡		0.00㎡		5,482.84㎡				
	合 計	118,564.44㎡	1,352.00㎡		20,736.44㎡		140,652.88㎡				
校 舎		専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計		・武蔵野大学高等学校 （収容定員1,200人、校舎 基準面積6,240㎡） ・武蔵野大学中学校 （収容定員750人、校舎基 準面積4,320㎡） ・借用面積 有明4号館 4,735.4㎡ ・借用期間 20年6ヵ月		
		88,936.94㎡ (88,936.94㎡)	624.78㎡ (624.78㎡)		16,690.59㎡ (15,890.59㎡)		106,252.31㎡ (105,452.31㎡)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室		情報処理学習施設		語学学習施設		大学全体		
	135室	39室	86室		4室 (補助職員 8人)		0室 (補助職員 0人)				
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称				室 数					
		ウェルビーイング学部ウェルビーイング学科				10 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点				
		ウェルビーイング学部 ウェルビーイング学科	42,033 [3,731] (38,297 [3,567])	125 [42] (125 [42])	26 [26] (26 [26])	733 (733)	361 (361)		10 (10)		
	計	42,033 [3,731] (38,297 [3,567])	125 [42] (125 [42])	26 [26] (26 [26])	733 (733)	361 (361)	10 (10)				

基本計画書-2

図書館		面積		閲覧座席数				収 納 可 能 冊 数		大学全体
		5,934.14㎡		896				560,600		
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
		4,159.11㎡		テニスコート 3面						
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書購入費には電子ジャーナル・データベースの整備費(運用コスト含む)を含む
		教員1人当り研究費等		447千円	447千円	447千円	447千円	— 千円	— 千円	
		共 同 研 究 費 等		152千円	348千円	522千円	696千円	— 千円	— 千円	
		図 書 購 入 費	0千円	1,169千円	2,671千円	4,006千円	5,342千円	— 千円	— 千円	
		設 備 購 入 費	0千円	2,811千円	6,425千円	9,637千円	12,849千円	— 千円	— 千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		1,475千円	1,295千円	1,295千円	1,295千円	— 千円	— 千円			
	学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資産運用収入、手数料 等						

	大 学 の 名 称	武蔵野大学							備 考	
	学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又は 称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地	
既 設 大 学 等 の 状 況	文学部	年	人	年次 人	人		倍			
	日本文学文化学科	4	200	2年次 5	835	学士(文学)	0.98 0.98	平成23年度	東京都西東京市 新町一丁目1番 20号	※令和3年度入学定員減(△20人)
	グローバル学部						0.86			
	グローバルコミュニケーション学科	4	165	3年次 3	666	学士(グローバルコミュニケーション)	0.80	平成28年度	東京都江東区 有明三丁目3番 3号	
	日本語コミュニケーション学科	4	80	3年次 5	330	学士(日本語コミュニケーション)	0.93	平成28年度	東京都江東区 有明三丁目3番 3号	
	グローバルビジネス学科	4	55	3年次 7	234	学士(グローバルビジネス)	0.92	平成28年度	東京都江東区 有明三丁目3番 3号	
	法学部						0.96			
	法律学科	4	190	2年次 3	769	学士(法律学)	0.95	平成26年度	東京都江東区 有明三丁目3番 3号	
	政治学科	4	100	2年次 3	409	学士(政治学)	0.97	平成26年度	東京都江東区 有明三丁目3番 3号	
	経済学部						1.03			
	経済学科	4	175	2年次 3	709	学士(経済学)	1.03	平成26年度	東京都江東区 有明三丁目3番 3号	
	経営学科	4	-	-	-	学士(経営学)	-	平成26年度	東京都江東区 有明三丁目3番 3号	※平成31年度より学生募集停止(経営学科)
	会計ガバナンス学科	4	-	-	-	学士(会計学)	-	平成30年度	東京都江東区 有明三丁目3番 3号	※平成31年度より学生募集停止(会計ガバナンス学科)
	経営学部						1.00			
	経営学科	4	220	2年次 3	889	学士(経営学)	0.99	平成31年度	東京都江東区 有明三丁目3番 3号	
	会計ガバナンス学科	4	90	-	360	学士(会計学)	1.02	平成31年度	東京都江東区 有明三丁目3番 3号	
	政治経済学部						-			
	政治経済学科	4	-	-	-	学士(政治経済学)	-	平成10年度	東京都江東区 有明三丁目3番 3号	※平成26年度より学生募集停止(政治経済学科)
	アントレプレナーシップ学部						0.98			
	アントレプレナーシップ学科	4	60	-	180	学士(ビジネス)	0.98	令和3年度	東京都西東京市 新町一丁目1番 20号	
	データサイエンス学部						1.02			
	データサイエンス学科	4	90	-	340	学士(データサイエンス学)	1.02	平成31年度	東京都江東区 有明三丁目3番 3号	※令和3年度入学定員増(20人)
	人間科学部						0.98			
	人間科学科	4	215	2年次 2	866	学士(人間学)	1.04	平成11年度	東京都江東区 有明三丁目3番 3号	
	社会福祉学科	4	145	2年次 4	604	学士(社会福祉学)	0.89	平成20年度	東京都西東京市 新町一丁目1番 20号	※令和3年度入学定員減(△12人)
	工学部						1.03			
	サステナビリティ学科	4	70	-	70	学士(サステナビリティ学)	1.14	令和5年度	東京都江東区 有明三丁目3番 3号	
	環境システム学科	4	-	-	-	学士(環境システム学)	-	平成27年度	東京都江東区 有明三丁目3番 3号	※令和5年度より学生募集停止(環境システム学科)
	数理工学科	4	60	-	240	学士(工学)	0.98	平成27年度	東京都江東区 有明三丁目3番 3号	
	建築デザイン学科	4	70	-	280	学士(工学)	1.05	平成27年度	東京都西東京市 新町一丁目1番 20号	
	教育学部						0.97			
	教育学科	4	120	-	480	学士(教育学)	0.96	平成23年度	東京都西東京市 新町一丁目1番 20号	
幼児教育学科	4	100	-	400	学士(幼児教育学)	0.99	平成30年度	東京都西東京市 新町一丁目1番 20号		
薬学部						0.90				
薬学科	6	145	-	915	学士(薬学)	0.90	平成16年度	東京都西東京市 新町一丁目1番 20号	※令和3年度入学定員減(△15人)	
看護学部						0.94				
看護学科	4	125	-	520	学士(看護学)	0.94	平成18年度	東京都江東区 有明三丁目3番 3号	※令和3年度入学定員減(△20人)	
通信教育部						1.15				
人間科学部			3年次			1.15				
人間科学科	4	250	700	2,400	学士(人間学)	1.15	平成14年度	東京都西東京市 新町一丁目1番 20号		
教育学部			2年次			0.66				
教育学科	4	15	55	227	学士(教育学)	0.66	平成25年度	東京都西東京市 新町一丁目1番 20号	※令和3年度入学定員減(△2人) ※令和3年度2年次編入学定員(55人) ※令和3年度3年次編入学定員減(△85人)	

大 学 の 名 称		武蔵野大学大学院							備 考	
学部等の名称		修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又は 称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地	
既 設 大 学 等 の 状 況		年	人	年次 人	人		倍			
	文学研究科 日本文学専攻	2	7	-	14	修士（文学）	0.71	平成26年度	東京都西東京市 新町一丁目1番 20号	
	日本文学専攻	3	2	-	6	博士（文学）	0.16	平成29年度	東京都西東京市 新町一丁目1番 20号	
	言語文化研究科 言語文化専攻	2	55	-	110	修士（人文科学、ビジネス日 本語）	0.58	平成22年度	東京都江東区 有明三丁目3番 3号	
	言語文化専攻	3	2	-	6	博士（人文科学）	0.66	平成29年度	東京都江東区 有明三丁目3番 3号	
	法学研究科 ビジネス法務専攻	2	10	-	20	修士（法学）	0.30	平成30年度	東京都江東区 有明三丁目3番 3号	
	ビジネス法務専攻	3	3	-	9	博士（法学）	0.55	令和3年度	東京都江東区 有明三丁目3番 3号	
	政治経済学研究科 政治経済学専攻	2	10	-	20	修士（政治経済学）	0.15	平成22年度	東京都江東区 有明三丁目3番 3号	
	政治経済学専攻	3	3	-	9	博士 （政治学、経済学）	0.00	平成25年度	東京都江東区 有明三丁目3番 3号	
	経営学研究科 会計学専攻	2	10	-	20	修士（会計学）	0.90	平成31年度	東京都江東区 有明三丁目3番 3号	
	データサイエンス研究科 データサイエンス専攻	2	10	-	20	修士（データサイエンス 学）	0.75	令和3年度	東京都江東区 有明三丁目3番 3号	
	データサイエンス専攻	3	3	-	6	博士（データサイエンス 学）	1.00	令和4年度	東京都江東区 有明三丁目3番 3号	
	人間社会研究科 人間学専攻	2	30	-	60	修士 （臨床心理学、人間行動学、言 語聴覚学）	0.86	平成11年度	（臨床心理学、 人間行動学） 東京都江東区 有明三丁目3番 3号	
	人間学専攻	3	3	-	9	博士（人間学）	0.88	平成14年度	（言語聴覚学） 東京都西東京市 新町一丁目1番 20号	
	実践福祉学専攻	2	7	-	14	修士（社会福祉学）	0.28	平成24年度	東京都江東区 有明三丁目3番 3号	
	仏教学研究科 仏教学専攻	2	5	-	10	修士（仏教学）	0.20	平成28年度	東京都西東京市 新町一丁目1番 20号	
	仏教学専攻	3	2	-	6	博士（仏教学）	0.50	平成25年度	東京都西東京市 新町一丁目1番 20号	
	工学研究科 数理工学専攻	2	15	-	30	修士（工学）	0.36	平成31年度	東京都江東区 有明三丁目3番 3号	
	数理工学専攻	3	2	-	6	博士（工学）	0.00	令和3年度	東京都江東区 有明三丁目3番 3号	
	建築デザイン専攻	2	15	-	30	修士（工学）	0.40	平成31年度	東京都西東京市 新町一丁目1番 20号	
	環境学研究科 環境マネジメント専攻	2	10	-	20	修士（環境学）	0.35	平成22年度	東京都江東区 有明三丁目3番 3号	
	環境システム専攻	3	2	-	6	博士（環境学）	0.50	平成30年度	東京都江東区 有明三丁目3番 3号	
	教育学研究科 教育学専攻	2	10	-	20	修士（教育学）	0.75	平成26年度	東京都西東京市 新町一丁目1番 20号	
	薬科学研究科 薬科学専攻	2	5	-	10	修士（薬科学）	0.20	平成24年度	東京都西東京市 新町一丁目1番 20号	
	薬科学専攻	3	5	-	15	博士（薬科学）	0.40	平成21年度	東京都西東京市 新町一丁目1番 20号	
	看護学研究科 看護学専攻	2	10	-	20	修士（看護学）	0.50	平成22年度	東京都江東区 有明三丁目3番 3号	
看護学専攻	3	3	-	9	博士（看護学）	1.11	平成25年度	東京都江東区 有明三丁目3番 3号		

既設大学の状況	通信教育部 人間社会研究科 人間学専攻	2	60	-	120	修士（人間学）	1.82	平成21年度	東京都江東区 有明三丁目3番3号	
	実践福祉学専攻	2	10	-	20	修士（社会福祉学）	1.25	平成30年度	東京都西東京市 新町一丁目1番20号	
	仏教学研究科 仏教学専攻	2	20	-	40	修士（仏教学）	1.52	平成28年度	東京都江東区 有明三丁目3番3号	
	環境学研究科 環境マネジメント専攻	2	10	-	20	修士（環境学）	1.85	平成26年度	東京都江東区 有明三丁目3番3号	
附属施設の概要		名称：薬用植物園 目的：薬学に関する教育研究 所在地：東京都西東京市新町一丁目1番20号 設置年月：平成16年4月 規模等：土地992㎡、保有植物は68科190種								

教 育 課 程 等 の 概 要																
（ウェルビーイング学部ウェルビーイング学科）																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
ツ ス 体 ・ ポ 身	スポーツと身体科学	1①～②		1			○							兼6	オムニバス	
	フィールド・スポーツ	2休		1			○							兼1	集中	
	小計（2科目）	—	0	2	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼6	—	
	情報	データサイエンス基礎	1①	1			○							兼1	メディア	
共 通 科 目	人工知能基礎	1②	1				○							兼1	メディア	
	メディアリテラシー	1③・④		1			○							兼3	メディア	
	情報技法基礎	1③・④		1			○							兼3	メディア	
	情報技法発展A	2①・②		1			○							兼1	メディア	
外 国 語	情報技法発展B	2②～③		1			○							兼1	メディア	
	情報技法発展C	2②～③		1			○							兼1	メディア	
	プログラミング基礎	1③・④		1			○							兼3	メディア	
	プログラミング発展A	2①・②		1			○							兼2	メディア	
教 養 日 本 語	プログラミング発展B	2②～③		1			○							兼1	メディア	
	人工知能技術と社会	2③～④		1			○							兼1	メディア	
	機械学習活用1	2④		1			○							兼1	メディア	
	機械学習活用2	2④		1			○							兼1	メディア	
教 養 日 本 語	データサイエンス活用1	2④		1			○							兼1	メディア	
	データサイエンス活用2	2④		1			○							兼1	メディア	
	メディアデザイン	2④		1			○							兼1	メディア	
	サービスデザイン	2④		1			○							兼1	メディア	
教 養 日 本 語	人工知能実践プロジェクト	3①～②		2			○							兼1	—	
	小計（18科目）	—	2	17	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼9	—	
	英語基礎A	1①～②	2				○							兼6	—	
	英語基礎B	1①～②		1			○							兼4	—	
教 養 日 本 語	英語基礎C	1③～④	2				○							兼6	—	
	英語基礎D	1③～④		1			○							兼4	—	
	英語発展A	2①～②		1			○							兼1	—	
	英語発展B	2①～②		1			○							兼3	—	
教 養 日 本 語	英語発展C	2③～④		1			○							兼1	—	
	英語発展D	2③～④		1			○							兼3	—	
	英語総合A	3①～②		1			○							兼2	—	
	英語総合B	3③～④		1			○							兼2	—	
教 養 日 本 語	中国語基礎1	1①～②		1			○							兼4	—	
	中国語基礎2	1③～④		1			○							兼4	—	
	中国語発展1	2①～②		1			○							兼1	—	
	中国語発展2	2③～④		1			○							兼1	—	
教 養 日 本 語	中国語総合1	3①～②		1			○							兼1	—	
	中国語総合2	3③～④		1			○							兼1	—	
	フランス語基礎1	1①～②		1			○							兼1	—	
	フランス語基礎2	1③～④		1			○							兼1	—	
教 養 日 本 語	フランス語発展1	2①～②		1			○							兼1	—	
	フランス語発展2	2③～④		1			○							兼1	—	
	フランス語総合1	3①～②		1			○							兼1	メディア	
	フランス語総合2	3③～④		1			○							兼1	メディア	
教 養 日 本 語	ドイツ語基礎1	1①～②		1			○							兼2	—	
	ドイツ語基礎2	1③～④		1			○							兼2	—	
	ドイツ語発展1	2①～②		1			○							兼1	—	
	ドイツ語発展2	2③～④		1			○							兼1	—	
教 養 日 本 語	ドイツ語総合1	3①～②		1			○							兼1	メディア	
	ドイツ語総合2	3③～④		1			○							兼1	メディア	
	スペイン語基礎1	1①～②		1			○							兼2	—	
	スペイン語基礎2	1③～④		1			○							兼2	—	
教 養 日 本 語	スペイン語発展1	2①～②		1			○							兼1	—	
	スペイン語発展2	2③～④		1			○							兼1	—	
	スペイン語総合1	3①～②		1			○							兼1	メディア	
	スペイン語総合2	3③～④		1			○							兼1	メディア	
教 養 日 本 語	韓国語基礎1	1①～②		1			○							兼3	—	
	韓国語基礎2	1③～④		1			○							兼3	—	
	韓国語発展1	2①～②		1			○							兼1	—	
	韓国語発展2	2③～④		1			○							兼1	—	
教 養 日 本 語	韓国語総合1	3①～②		1			○							兼1	メディア	
	韓国語総合2	3③～④		1			○							兼1	メディア	
	留学準備1	1①～②		1			○							兼1	—	
	留学準備2	1①～②		1			○							兼1	—	
教 養 日 本 語	英語資格・検定試験対策1	1①・②		1			○							兼1	—	
	英語資格・検定試験対策2	1①・②・③		1			○							兼1	—	
	小計（44科目）	—	4	42	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼25	—	
	日本語リテラシー	1②	1				○							兼5	メディア	
教 養 日 本 語	日本語基礎A	1①		1			○							兼2	—	
	日本語基礎B	1②		1			○							兼2	—	
	日本語基礎C	1③		1			○							兼2	—	
	日本語基礎D	1④		1			○							兼2	—	
教 養 日 本 語	日本語発展A	2①		1			○							兼1	—	
	日本語発展B	2②		1			○							兼1	—	
	日本語発展C	2③		1			○							兼1	—	
	日本語発展D	2④		1			○							兼1	—	
教 養 日 本 語	日本事情	1③～④		2			○							兼1	—	
	小計（10科目）	—	1	10	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼9	—	

教 育 課 程 等 の 概 要																
(文学部日本文学文化学科)																
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
建 学		仏教（生き方を考える）基礎	1①～②	2			○			1					兼1	メディア
		仏教（生き方を考える）発展	3③～④	2			○					1			兼1	メディア
ツ ス 体・ボ 身		小計（2科目）	—	4	0	0	—	—	1	0	1	0	0	兼1	—	
		スポーツと身体科学	1①～②		1			○							兼7	オムニバス
		フィールド・スポーツ	2休		1			○						兼1	集中	
		小計（2科目）	—	0	2	0	—	—	0	0	0	0	0	兼7	—	
情 報		データサイエンス基礎	1①	1				○							兼1	メディア
		人工知能基礎	1②	1											兼1	メディア
		メディアリテラシー	1③・④		1			○							兼2	メディア
		情報技法基礎	1③・④		1			○							兼3	メディア
		情報技法発展A	2①・②		1			○							兼1	メディア
		情報技法発展B	2②～③		1			○							兼1	メディア
		情報技法発展C	2②～③		1			○							兼1	メディア
		プログラミング基礎	1③・④		1			○							兼3	メディア
		プログラミング発展A	2①・②		1			○							兼2	メディア
		プログラミング発展B	2②～③		1			○							兼1	メディア
		人工知能技術と社会	2③～④		1			○							兼1	メディア
		機械学習活用1	2④		1			○							兼1	メディア
		機械学習活用2	2④		1			○							兼1	メディア
		データサイエンス活用1	2④		1			○							兼1	メディア
		データサイエンス活用2	2④		1			○							兼1	メディア
		メディアデザイン	2④		1			○							兼1	メディア
		サービスデザイン	2④		1			○							兼1	メディア
		人工知能実践プロジェクト	3①～②		2			○							兼1	—
		小計（18科目）	—	2	17	0	—	—	0	0	0	0	0	兼8	—	
共 通 科 目	外 国 語	英語基礎A	1①～②	2				○							兼6	
		英語基礎B	1①～②		1			○							兼4	
		英語基礎C	1③～④	2				○							兼6	
		英語基礎D	1③～④		1			○							兼4	
		英語発展A	2①～②		1			○							兼1	
		英語発展B	2①～②		1			○							兼3	
		英語発展C	2③～④		1			○							兼1	
		英語発展D	2③～④		1			○							兼3	
		英語総合A	3①～②		1			○							兼2	
		英語総合B	3③～④		1			○							兼2	
		中国語基礎1	1①～②		1			○							兼4	
		中国語基礎2	1③～④		1			○							兼4	
		中国語発展1	2①～②		1			○							兼1	
		中国語発展2	2③～④		1			○							兼1	
		中国語総合1	3①～②		1			○							兼1	
		中国語総合2	3③～④		1			○							兼1	
		フランス語基礎1	1①～②		1			○							兼1	
		フランス語基礎2	1③～④		1			○							兼1	
		フランス語発展1	2①～②		1			○							兼1	
		フランス語発展2	2③～④		1			○							兼1	
		フランス語総合1	3①～②		1			○							兼1	メディア
		フランス語総合2	3③～④		1			○							兼1	メディア
		ドイツ語基礎1	1①～②		1			○							兼2	
		ドイツ語基礎2	1③～④		1			○							兼2	
		ドイツ語発展1	2①～②		1			○							兼1	
		ドイツ語発展2	2③～④		1			○							兼1	
		ドイツ語総合1	3①～②		1			○							兼1	メディア
		ドイツ語総合2	3③～④		1			○							兼1	メディア
		スペイン語基礎1	1①～②		1			○							兼1	
		スペイン語基礎2	1③～④		1			○							兼1	
		スペイン語発展1	2①～②		1			○							兼1	
		スペイン語発展2	2③～④		1			○							兼1	
		スペイン語総合1	3①～②		1			○							兼1	メディア
		スペイン語総合2	3③～④		1			○							兼1	メディア
		韓国語基礎1	1①～②		1			○							兼3	
		韓国語基礎2	1③～④		1			○							兼3	
		韓国語発展1	2①～②		1			○							兼1	
		韓国語発展2	2③～④		1			○							兼1	
		韓国語総合1	3①～②		1			○							兼1	
		韓国語総合2	3③～④		1			○							兼1	
		留学準備1	1①～②		1			○							兼1	
		留学準備2	1①～②		1			○							兼1	
		英語資格・検定試験対策1	1①・②		1			○							兼1	
		英語資格・検定試験対策2	1①・②・③		1			○							兼1	
	小計（44科目）	—	4	42	0	—	—	0	0	0	0	0	兼23	—		
教 養 日 本 語		日本語リテラシー	1②	1			○							兼5	メディア	
		日本語基礎A	1①		1			○						兼2		
		日本語基礎B	1②		1			○						兼2		
		日本語基礎C	1③		1			○						兼2		
		日本語基礎D	1④		1			○						兼2		
		日本語発展A	2①		1			○						兼1		
		日本語発展B	2②		1			○						兼1		
		日本語発展C	2③		1			○						兼1		
		日本語発展D	2④		1			○						兼1		

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通科目	日教 語本養	日本事情	1③～④		2		○			1					
		小計 (10科目)	—	1	10	0	—			1	0	0	0	0	兼8 —
	C H P	SDG s 基礎	1①	1			○			1					兼6
		SDG s 発展 1	1②	1			○			2					兼4
		SDG s 発展 2	1③	1			○								兼7
		SDG s 発展 3	1④	1			○			1		1			兼5
		SDG s 特講	3①～②		2			○							兼1
		小計 (5科目)	—	4	2	0	—			3	0	1	0	0	兼21 —
	フ ィ ー ル ド ・ ス タ デ ィ ー ズ	フィールド・スタディーズ	1休	1			○								兼1
		フィールド・スタディーズ 1	1休		1			○							兼1
		フィールド・スタディーズ 2	1休		2			○							兼1
		フィールド・スタディーズ 3	1休		3			○							兼1
		フィールド・スタディーズ 4	1休		4			○							兼1
		フィールド・スタディーズ発展 1 A	1休		1			○							兼1
		フィールド・スタディーズ発展 1 B	1休		2			○							兼1
		フィールド・スタディーズ発展 1 C	1休		3			○							兼1
		フィールド・スタディーズ発展 1 D	1休		4			○							兼1
		フィールド・スタディーズ発展 2 A	2休		1			○							兼1
		フィールド・スタディーズ発展 2 B	2休		2			○							兼1
		フィールド・スタディーズ発展 2 C	2休		3			○							兼1
		フィールド・スタディーズ発展 2 D	2休		4			○							兼1
		フィールド・スタディーズ発展 2 E	2休		5			○							兼1
		フィールド・スタディーズ発展 3 A	3休		1			○							兼1
		フィールド・スタディーズ発展 3 B	3休		2			○							兼1
		フィールド・スタディーズ発展 3 C	3休		3			○							兼1
		フィールド・スタディーズ発展 3 D	3休		4			○							兼1
		フィールド・スタディーズ発展 3 E	3休		5			○							兼1
		フィールド・スタディーズ発展 4 A	4休		1			○							兼1
		フィールド・スタディーズ発展 4 B	4休		2			○							兼1
		フィールド・スタディーズ発展 4 C	4休		3			○							兼1
		フィールド・スタディーズ発展 4 D	4休		4			○							兼1
		小計 (23科目)	—	1	60	0	—			0	0	0	0	0	兼2 —
	シ タ ー ン ブ ル ン	インターンシップ	2②～④		1		○								兼1
		企業協働プロジェクト	2①～④		2			○							兼1
	ナ ー ゼ ル ミ 教	小計 (2科目)	—	0	3	0	—			0	0	0	0	0	兼1 —
		全学教養ゼミナール 1	1①～②		2		○			1		1			兼4
	講 寄 座 付	全学教養ゼミナール 2	1③～④		2		○								兼3
		小計 (2科目)	—	0	4	0	—			1	0	1	0	0	兼6 —
		武蔵野市自由講座	1③～④		2		○								兼1
		証券ビジネス論	2③～④		2		○								兼1
科 関 教 目 連 職	関 教 連 職	小計 (2科目)	—	0	4	0	—			0	0	0	0	0	兼2 —
		日本国憲法	1①～②		2		○								兼1
学 科 目	学 科 基 礎 科 目	小計 (1科目)	—	0	2	0	—			0	0	0	0	0	兼1 —
		古代文学	1③・④	2			○					1			兼1
		中古文学	2③・④	2			○								兼1
		中世文学	1③・④	2			○								兼2
		近世文学	2①・②	2			○								兼2
		近代・現代文学	2③・④	2			○								兼2
		日本語学概論 I	1①・②	2			○					1			兼1
		日本語学概論 II	2③・④	2			○			1					兼1
		入門ゼミ A	1①・②	2			○			6		2			兼4
		入門ゼミ B	1③・④	2			○			8		2			兼4
		漢文学	1①・②	2			○			1					兼1
		日本文学史 I (古典)	1①	2			○								兼1
		日本文学史 II (近現代)	1②	2			○								兼2
		小説の歴史	2①・②	2			○								兼1
		武蔵野学	3①・②	2			○			8		2			兼2
	学 科 展 開 科 目	小計 (14科目)	—	26	2	0	—			10	0	2	0	0	兼14 —
		ブレゼミ 1A	2①～②	2			○			7		2			兼5
		ブレゼミ 1B	2③・④	2			○			7		2			兼5
		ブレゼミ 2A	2①・②	2			○						1		兼7
		ブレゼミ 2B	2③・④	2			○						1		兼7
		ゼミ A	3①・②	2				○		8		2			兼4
		ゼミ B	3③・④	2					○	8		2			兼4
		日本文学文化研究調査実習 I	1③・④		1				○	2					兼2
		日本文学文化研究調査実習 II	1③・④		1					2					兼2
		日本文学文化研究調査実習 III	1③・④		1					2					兼2
		日本文学文化研究 (日本書誌学と文献資料講読)	3③・④		2		○			1					兼2
		小計 (10科目)	—	12	5	0	—			9	0	2	1	0	兼15 —
	業 文 卒 制 ・ 業 作 卒 論	卒論ゼミ	4①～④	4			○			8		1			兼5
		卒業論文	4①～④	4			○			8		1	1		兼5
	文 学 ・ 語 学 コ ー ス	小計 (2科目)	—	8	0	0	—			8	0	1	1	0	兼5 —
		日本文学特講 I (奈良時代の作家と作品)	2③・④		2		○								兼1
		日本文学特講 II (平安時代の作家と作品)	1①・②		2		○			1					兼1
		日本文学特講 III (鎌倉・室町時代の作家と作品)	2③・④		2		○					1			兼1
		日本文学特講 IV (江戸時代の作家と作品)	1③・④		2		○								兼1
		日本文学特講 V (近代・現代の作家と作品)	1③・④		2		○								兼1
		日本文学特講 VI (戦前・戦後の作家と作品)	1③・④		2		○			1					兼1
		日本文学特講 VII (児童文学の作家と作品)	2①・②		2		○					1			兼1
		日本文学研究 I (奈良時代の文学と文化)	3①・②		2		○								兼1
		日本文学研究 II (平安時代の文学と文化)	3③・④		2		○			1					兼1
		日本文学研究 III (鎌倉・室町時代の文学と文化)	3③・④		2		○								兼1
		日本文学研究 IV (江戸時代の文学と文化)	3①・②		2		○								兼1
		日本文学研究 V (近代・現代の文学と文化)	3③		2		○			1					兼1

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
学科科目	文学・語学コース	日本文学研究Ⅵ（児童文学と詩の研究）	3①・②		2		○			1						兼1	メディア
		日本文学研究Ⅶ（近代・現代の文学と表現）	3①		2		○										
		日本文学研究Ⅷ（近代・現代の文学と人生）	3①・②		2		○			1					兼1 兼1		
		漢文学中国文学特講（漢文訓読学）	2①・②		2		○										
		漢文学中国文学研究Ⅰ（和漢比較文学）	3③・④		2		○						1		兼1 兼1		
		漢文学中国文学研究Ⅱ（日本漢文学）	3③・④		2		○			1							
		日本語学特講（古代の日本語）	2③・④		2		○					1			兼1 兼1		
		日本語学研究（近代の日本語）	3①		2		○					1					
		仏教と日本文学文化	2③・④		2		○			1					兼8		
		小計(21科目)	—	0	42	0	—			6	0	2	0	0			
	文化・創作・芸術コース	創作入門Ⅰ	1③		2		○									兼1 兼1	メディア
		創作入門Ⅱ	2④		2		○										
		日本の演劇（古典芸能）	1①・②		2		○			1						兼2 兼1 兼1 兼1 兼1	メディア
		書道基礎	1①・②		2		○										
		日本文化特講Ⅰ（日本の祭りと民話）	2①・②		2		○								兼1 兼1 兼1 兼1 兼1	メディア	
		日本文化特講Ⅱ（日本の生活文化）	2②		2		○										
		日本文化研究Ⅰ（朗読・語りと舞台演出）	3①・②		2		○								兼1 兼1 兼1 兼1 兼1	メディア	
		日本文化研究Ⅱ（演劇実践演習）	3③・④		2		○										
		比較文学特講（外国文学）	2③・④		2		○								兼1 兼1 兼1 兼1 兼1	メディア	
		創作基礎Ⅰ（小説Ⅰ）	2①・②		2		○			1							
		創作基礎Ⅱ（小説Ⅱ）	2③・④		2		○								兼1 兼1 兼1 兼1 兼1	メディア	
		創作基礎Ⅲ（俳句）	2①・②		2		○			1							
		創作基礎Ⅳ（短歌）	2③・④		2		○								兼1 兼1 兼1 兼1 兼1	メディア	
		創作基礎Ⅴ（現代詩）	2①・②		2		○										
		創作基礎Ⅵ（児童文学）	2③・④		2		○								兼1 兼1 兼1 兼1 兼1	メディア	
		創作基礎Ⅶ（絵本）	2③・④		2		○										
		創作研究Ⅰ（小説Ⅰ）	3③・④		2		○			1					兼1 兼1 兼1 兼1 兼1	メディア	
		創作研究Ⅱ（小説Ⅱ）	3①・②		2		○										
		創作研究Ⅲ（俳句）	3③・④		2		○			1					兼1 兼1 兼1 兼1 兼1	メディア	
		創作研究Ⅳ（短歌）	3①・②		2		○										
		創作研究Ⅴ（現代詩）	3③・④		2		○								兼1 兼1 兼1 兼1 兼1	メディア	
		書道学特講Ⅰ（書道漢字）	2①・②		2		○										
		書道学特講Ⅱ（書道仮名）	2③・④		2		○								兼1 兼1 兼1 兼1 兼1	メディア	
		書道学研究（書道応用）	2③・④		2		○										
		書論・鑑賞	3③・④		2		○								兼1 兼1 兼1 兼1 兼1	メディア	
		日文キャリア演習Ⅰ（編集デザイン）	2①・②		2		○										
		日文キャリア演習Ⅱ（編集デザイン）	3③・④		2		○								兼18		
		小計(27科目)	—	0	54	0	—			3	0	0	0	0			
	副専攻	日文特別ゼミⅠ	3①～④		4					1						兼1 兼1	
		日文特別ゼミⅡ	3①～④		4					2							
		日文特別ゼミⅢ	3①～④		4												
		日文特別ゼミⅣ	3①～④		4												
		小計(4科目)	—	0	16	0	—			3	0	0	0	0	兼2		
合計（189科目）			—	62	265	0	—			13	0	3	1	0	兼111		
学位又は称号		学士（文学）			学位又は学科の分野				文学関係								
卒業要件及び履修方法								授業期間等									
共通科目は、必修16単位。学科科目は、必修46単位を含めて76単位。自由選択単位は、32単位以上。自由選択単位は、共通科目、学科科目、教職課程科目等の資格取得科目、5大学単位認定科目、他学部・他学科の学科科目の単位をあてることができる。 （履修科目の登録の上限：1年次40単位、2年次44単位、3年次44単位、4年次32単位（年間））								1学年の学期区分				4学期					
								1学期の授業期間				7週					
								1時限の授業時間				100分					

教育課程等の概要																
(グローバル学部グローバルコミュニケーション学科)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
建 学	仏教（生き方を考える）基礎	1①～②	2			○								兼1 兼1	メディア メディア	
	仏教（生き方を考える）発展	3③～④	2			○								兼2	—	
	小計（2科目）	—	4	0	0		—		0	0	0	0	0	兼6 兼1	オムニバス 集中	
	スポーツと身体科学 フィールド・スポーツ	1①～② 2休	1 1			○ ○								兼7	—	
ツ ッ ス ポ ー ツ 身 体	小計（2科目）	—	0	2	0		—		0	0	0	0	0	兼7	—	
情 報	データサイエンス基礎	1①	1				○							兼1 兼1	メディア メディア	
	人工知能基礎	1②	1				○							兼1 兼1	メディア メディア	
	メディアリテラシー	1③・④		1			○							兼1 兼1	メディア メディア	
	情報技法基礎	1③・④		1			○							兼4 兼1	メディア メディア	
	情報技法発展A	2①・②		1			○							兼1 兼1	メディア メディア	
	情報技法発展B	2②～③		1			○							兼1 兼1	メディア メディア	
	情報技法発展C	2②～③		1			○							兼1 兼1	メディア メディア	
	プログラミング基礎	1③・④		1			○							兼3 兼1	メディア メディア	
	プログラミング発展A	2①・②		1			○							兼2 兼1	メディア メディア	
	プログラミング発展B	2②～③		1			○							兼1 兼1	メディア メディア	
	人工知能技術と社会	2③～④		1			○							兼1 兼1	メディア メディア	
	機械学習活用1	2④		1			○							兼1 兼1	メディア メディア	
	機械学習活用2	2④		1			○							兼1 兼1	メディア メディア	
	データサイエンス活用1	2④		1			○							兼1 兼1	メディア メディア	
	データサイエンス活用2	2④		1			○							兼1 兼1	メディア メディア	
	メディアデザイン	2④		1			○							兼1 兼1	メディア メディア	
	サービスデザイン	2④		1			○							兼1 兼1	メディア メディア	
	人工知能実践プロジェクト	3①～②		2			○							兼1	—	
	小計（18科目）	—	2	17	0		—		0	0	0	0	0	兼8	—	
共 通 科 目	外 国 語	フランス語基礎1	1①～②		1		○							兼1 兼1	メディア メディア	
		フランス語基礎2	1③～④		1		○							兼1 兼1	メディア メディア	
		フランス語発展1	2①～②		1		○							兼1 兼1	メディア メディア	
		フランス語発展2	2③～④		1		○							兼1 兼1	メディア メディア	
		フランス語総合1	3①～②		1		○							兼1 兼1	メディア メディア	
		フランス語総合2	3③～④		1		○							兼1 兼1	メディア メディア	
		ドイツ語基礎1	1①～②		1		○							兼1 兼1	メディア メディア	
		ドイツ語基礎2	1③～④		1		○							兼1 兼1	メディア メディア	
		ドイツ語発展1	2①～②		1		○							兼1 兼1	メディア メディア	
		ドイツ語発展2	2③～④		1		○							兼1 兼1	メディア メディア	
		ドイツ語総合1	3①～②		1		○							兼1 兼1	メディア メディア	
		ドイツ語総合2	3③～④		1		○							兼1 兼1	メディア メディア	
		スペイン語基礎1	1①～②		1		○							兼2 兼2	メディア メディア	
		スペイン語基礎2	1③～④		1		○							兼2 兼2	メディア メディア	
		スペイン語発展1	2①～②		1		○							兼1 兼1	メディア メディア	
		スペイン語発展2	2③～④		1		○							兼1 兼1	メディア メディア	
		スペイン語総合1	3①～②		1		○							兼1 兼1	メディア メディア	
		スペイン語総合2	3③～④		1		○							兼1 兼1	メディア メディア	
		韓国語基礎1	1①～②		1		○							兼3 兼3	メディア メディア	
		韓国語基礎2	1③～④		1		○							兼3 兼3	メディア メディア	
		韓国語発展1	2①～②		1		○							兼1 兼1	メディア メディア	
		韓国語発展2	2③～④		1		○							兼1 兼1	メディア メディア	
		韓国語総合1	3①～②		1		○							兼1 兼1	メディア メディア	
		韓国語総合2	3③～④		1		○							兼1 兼1	メディア メディア	
		留学準備1	1①～②		1		○							兼1 兼1	メディア メディア	
		留学準備2	1①～②		1		○							兼1 兼1	メディア メディア	
		英語資格・検定試験対策1	1①・②		1		○							兼1 兼1	メディア メディア	
		英語資格・検定試験対策2	1①・②・③		1		○							兼1	—	
		小計（28科目）	—	0	28	0		—	0	0	0	0	0	兼10	—	
日 本 語 教 育	日本語リテラシー	1②	1			○								兼2	メディア	
	小計（1科目）	—	1	0	0		—		0	0	0	0	0	兼2	—	
C H P	SDG s 基礎	1①	1				○							兼9 兼6	メディア メディア	
	SDG s 発展1	1②	1				○							兼7 兼5	メディア メディア	
	SDG s 発展2	1③	1				○							兼5 兼1	メディア メディア	
	SDG s 発展3	1④	1				○							兼1	—	
	SDG s 特講	3①～②		2			○							兼21	—	
	小計（5科目）	—	4	2	0		—		0	0	0	0	0	兼21	—	
フ ィ ー ル ド ・ ス タ デ ィ ー ズ	フィールド・スタディーズ	1休	1				○							兼1 兼1	集中 集中	
	フィールド・スタディーズ1	1休		1				○						兼1 兼1	集中 集中	
	フィールド・スタディーズ2	1休		2										兼1 兼1	集中 集中	
	フィールド・スタディーズ3	1休		3										兼1 兼1	集中 集中	
	フィールド・スタディーズ4	1休		4										兼1 兼1	集中 集中	
	フィールド・スタディーズ発展1 A	1休		1				○						兼1 兼1	集中 集中	
	フィールド・スタディーズ発展1 B	1休		2				○						兼1 兼1	集中 集中	
	フィールド・スタディーズ発展1 C	1休		3				○						兼1 兼1	集中 集中	
	フィールド・スタディーズ発展1 D	1休		4				○						兼1 兼1	集中 集中	
	フィールド・スタディーズ発展2 A	2休		1				○						兼1 兼1	集中 集中	
	フィールド・スタディーズ発展2 B	2休		2				○						兼1 兼1	集中 集中	
	フィールド・スタディーズ発展2 C	2休		3				○						兼1 兼1	集中 集中	
	フィールド・スタディーズ発展2 D	2休		4				○						兼1 兼1	集中 集中	
	フィールド・スタディーズ発展2 E	2休		5				○						兼1 兼1	集中 集中	
	フィールド・スタディーズ発展3 A	3休		1				○						兼1 兼1	集中 集中	
	フィールド・スタディーズ発展3 B	3休		2				○						兼1 兼1	集中 集中	
	フィールド・スタディーズ発展3 C	3休		3				○						兼1 兼1	集中 集中	
	フィールド・スタディーズ発展3 D	3休		4				○						兼1 兼1	集中 集中	
	フィールド・スタディーズ発展3 E	3休		5				○						兼1	集中 集中	

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
共通科目	ディ ・イ ・ス ・ズ タル	フィールド・スタディーズ発展 4 A	4休		1			○							兼1	集中	
		フィールド・スタディーズ発展 4 B	4休		2			○							兼1	集中	
		フィールド・スタディーズ発展 4 C	4休		3			○							兼1	集中	
		フィールド・スタディーズ発展 4 D	4休		4			○							兼1	集中	
		小計 (23科目)	—	1	60	0		—		0	0	0	0	0	兼2	—	
	シ ・タ ・イ ・ン ・ブ ・ン	インターンシップ	2②～④		1			○							兼1		
		企業協働プロジェクト	2①～④		2				○						兼1		
		小計 (2科目)	—	0	3	0		—		0	0	0	0	0	兼1	—	
	ナ ・養 ・全 ・学 ・ミ ・ゼ ・ル ・ミ ・教	全学教養ゼミナール 1	1①～②		2			○							兼6	メディア	
		全学教養ゼミナール 2	1③～④		2			○							兼3	メディア	
講 ・寄 ・座 ・付	小計 (2科目)	—	0	4	0		—		0	0	0	0	0	兼8	—		
	武蔵野市自由講座	1③～④		2			○							兼1			
	証券ビジネス論	2③～④		2			○							兼1			
	小計 (2科目)	—	0	4	0		—		0	0	0	0	0	兼2	—		
学科科目	日本 語 科 目 群	日本語 1 A	1①～②		1			○							兼2		
		日本語 1 B	1①～②		1			○							兼2		
		日本語 1 C	1③～④		1			○							兼2		
		日本語 1 D	1③～④		1			○							兼2		
		日本語 2 A	2③～④		1			○							兼1		
		日本語 2 B	2③～④		1			○							兼1		
		日本語 2 C	2①～②		1			○							兼1		
		日本語 2 D	2①～②		1			○							兼1		
		小計 (8科目)	—	0	8	0		—		0	0	0	0	0	兼4	—	
		中国 語 科 目 群	中国語 1 A	1①～②		1			○							兼4	
			中国語 1 B	1①～②		1			○							兼4	
			中国語 1 C	1③～④		1			○							兼4	
			中国語 1 D	1③～④		1			○							兼4	
			中国語 2 A	2③～④		1			○		1					兼3	
			中国語 2 B	2③～④		1			○							兼4	
			中国語 2 C	3①～②		1			○		1					兼3	
			中国語 2 D	3①～②		1			○							兼4	
			中国語 3 A	3③～④		1			○		1					兼3	
			中国語 3 B	3③～④		1			○							兼4	
			中国語資格試験演習 (初級) 1	1①～②		1			○							兼4	
			中国語資格試験演習 (初級) 2	1③～④		1			○		1					兼3	
			中国語資格試験演習 (初級) 3	1③～④		1			○							兼4	
			中国語資格試験演習 (中級) 1	2③～④		1			○							兼4	
			中国語資格試験演習 (中級) 2	3①～②		1			○							兼4	
	中国語資格試験演習 (中級) 3		3③～④		1			○							兼4		
	小計 (16科目)	—	0	16	0		—		2	0	0	0	0	兼18	—		
	英語 演 習 科 目 群	English for Qualifications A	1①～②		1			○							兼3		
		English for Qualifications B	1①～②		1			○							兼3		
		English for Qualifications C	1③～④		1			○							兼3		
		English for Qualifications D	1③～④		1			○							兼3		
		Practical Communication A	1①～②		2			○				1					
		Practical Communication B	1③～④		2			○				1					
		Integrated Skills for Qualifications A	2③～④		1			○		1							
		Integrated Skills for Qualifications B	2③～④		1			○		1							
		Integrated Skills for Qualifications C	3①～②		1			○		1							
		Integrated Skills for Qualifications D	3①～②		1			○		1							
		Integrated Skills for Communication A	2③		2			○		1							
		Integrated Skills for Communication B	3④		2			○		1							
		英語資格試験演習 A	1①～②		2			○				1					
		英語資格試験演習 B	1③～④		2			○				1					
		英語資格試験演習 C	2③～④		2			○				1					
		英語資格試験演習 D	2③～④		2			○				1					
		Advanced Skills for Communication A	3③		2			○		1							
		Advanced Skills for Communication B	3④		2			○		1							
	小計 (18科目)	—	16	12	0		—		2	0	2	0	0	兼3	—		
	E ・n ・g ・I ・n ・t ・e ・r ・m ・e ・d ・i ・a ・t ・e ・S ・t ・a ・g ・e ・d ・C ・o ・u ・r ・s ・1 ・2 ・3 ・4 ・5 ・6 ・7 ・A ・B ・C ・D ・E ・F ・G ・H ・I ・J ・K ・L ・M ・N ・O ・P ・Q ・R ・S ・T ・U ・V ・W ・X ・Y ・Z	EAP Beginner 1	2①～③		4			○			1						
		EAP Beginner 2	2①～③		4			○		1							
		EAP Beginner 3	2①～③		4			○		1							
		EAP Intermediate 1	2①～③		4			○		1							
		EAP Intermediate 2	2①～③		4			○		1							
		EAP Intermediate 3	2①～③		4			○		1							
		EAP Advanced 1	2①～③		4			○		1							
		EAP Advanced 2	2①～③		4			○		1							
		EAP Advanced 3	2①～③		4			○		1							
		EAP Masters 1	2①～③		4			○		1							
		EAP Masters 2	2①～③		4			○		1							
		EAP Masters 3	2①～③		4			○		1							
		EAP Masters 4	2①～③		4			○		1							
		EAP Masters 5	2①～③		4			○		1							
		EAP Masters 6	2①～③		4			○		1							
		EAP Masters 7	2①～③		4			○		1							
		Undergraduate Courses 1	2①～④		2			○		1							
		Undergraduate Courses 2	2①～④		2			○		1							
		Undergraduate Courses 3	2①～④		3			○		1							
		Undergraduate Courses 4	2①～④		4			○		1							
	Undergraduate Courses 5	2①～④		5			○		1								
	Undergraduate Courses 6	2①～④		10			○		1								
	Undergraduate Courses 7	2①～④		10			○		1								
	小計 (23科目)	—	0	100	0		—		1	0	0	0	0	兼0	—		
	科基学 目礎科	基礎ゼミ	1①～②		1			○		3	1	3					
		ブレゼミ	2③～④		1			○		3	1	3					
		小計 (2科目)	—	2	0	0		—		3	1	3	0	0	兼0	—	

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
学 科 区 分	共 多 目 修 文 科 化	グローバルスタディーズ/Global Studies	2③～④	2			○			1	1	2				
		キャリアデザイン入門	1③～④	2			○			1						
		異文化コミュニケーション概論	1③～④	2			○			3	1	3				
		小計 (3科目)	—	6	0	0	—			4	1	3	0	0	兼0	—
	翻 訳・ 通 訳 科 目 群	英語翻訳演習A	3①		2		○			1						
		英語翻訳演習B	3②		2		○			1						
		英語翻訳演習C	3③		2		○			1						
		英語翻訳演習D	3④		2		○			1						
		英語通訳演習A	3①		2		○								兼1	
		英語通訳演習B	3②		2		○								兼1	
		英語通訳演習C	3③		2		○								兼1	
		英語通訳演習D	3④		2		○								兼1	
		中国語翻訳演習A	3①		2		○			1						
		中国語翻訳演習B	3②		2		○			1						
		中国語翻訳演習C	3③		2		○			1						
		中国語翻訳演習D	3④		2		○			1						
		中国語通訳演習A	3①		2		○								兼1	
		中国語通訳演習B	3②		2		○								兼1	
		中国語通訳演習C	3③		2		○			1						
		中国語通訳演習D	3④		2		○			1						
	言 語・ 文 化 科 目 群	小計 (16科目)	—	0	32	0	—			3	0	0	0	0	兼2	—
		中国研究 (文化文学) 初級A	1③		2		○			1						
		中国研究 (文化文学) 初級B	1④		2		○			1						
		中国研究 (文化文学) 中級A	2③		2		○			1						
		中国研究 (文化文学) 中級B	2④		2		○			1						
		中国研究 (文化文学) 中級C	2③		2		○			1						
		中国研究 (文化文学) 中級D	2④		2		○			1						
		中国研究 (文化文学) 上級A	3①		2		○								兼1	
		中国研究 (文化文学) 上級B	3②		2		○								兼1	
		中国研究 (文化文学) 上級C	3③		2		○			1						
		中国研究 (文化文学) 上級D	3④		2		○			1						
		Communication Studies A	2③		2		○			1		1				
		Communication Studies B	2④		2		○			1		1				
		Area Studies US A	1③		2		○								兼1	
		Area Studies US B	1④		2		○								兼1	
		Area Studies UK A	1①		2		○					1				
		Area Studies UK B	1②		2		○					1				
		Area Studies China A	1①		2		○			1						
		Area Studies China B	1②		2		○			1						
		Global Media Literacy A	3①		2		○			1						
		Global Media Literacy B	3②		2		○			1						
		Media English A	2③		2		○			1						
		Media English B	2④		2		○			1						
		EFL Reading A	3①		2		○			1						
		EFL Reading B	3②		2		○			1						
		EFL Reading C	3③		2		○			1						
		EFL Reading D	3④		2		○			1						
		Literary Texts, Critical Methods A	2①		2		○					1				
		Literary Texts, Critical Methods B	2②		2		○					1				
		English and Film Studies A	2③		2		○					1				
		English and Film Studies B	2④		2		○					1				
		Academic Reading A	3①		2		○								兼1	
		Academic Reading B	3②		2		○								兼1	
		Academic Reading C	3③		2		○								兼1	
		Academic Reading D	3④		2		○								兼1	
		Language Acquisition A	3③		2		○								兼1	
		Language Acquisition B	3④		2		○								兼1	
		Sociolinguistics A	3①		2		○					1				
		Sociolinguistics B	3②		2		○					1				
		World Englishes A	2③		2		○					1				
		World Englishes B	2④		2		○					1				
		Comparative Culture A	3③		2		○			1						
		Comparative Culture B	3④		2		○			1						
		Cultural Studies A	2③		2		○				1					
		Cultural Studies B	2④		2		○				1					
		小計 (44科目)	—	0	88	0	—			6	1	3	0	0	兼4	—
	学 部 隣 接 科 目 群	日本研究 (政治・社会) A	3①		2		○								兼1	
		日本研究 (政治・社会) B	3②		2		○								兼1	
		日本研究 (政治・社会) C	3③		2		○								兼1	
		日本研究 (政治・社会) D	3④		2		○								兼1	
		日本研究 (文化・文学・サブカルチャー) A	2①		2		○								兼1	
		日本研究 (文化・文学・サブカルチャー) B	2②		2		○								兼1	
		日本研究 (文化・文学・サブカルチャー) C	2③		2		○								兼1	
		日本研究 (文化・文学・サブカルチャー) D	2④		2		○								兼1	
		日本研究 (歴史・地域・メディア) A	3①		2		○								兼1	
		日本研究 (歴史・地域・メディア) B	3②		2		○								兼1	
		日本研究 (歴史・地域・メディア) C	3③		2		○								兼1	
		日本研究 (歴史・地域・メディア) D	3④		2		○								兼1	
	特 別 講 義	小計 (12科目)	—	0	24	0	—			0	0	0	0	0	兼3	—
		特別講義 A	3③		1		○								兼1	変則、メディア
		特別講義 B	3④		1		○								兼1	変則、メディア
		特別講義 C	3③		1		○								兼1	変則、メディア
		特別講義 D	3④		1		○								兼1	変則、メディア
		小計 (4科目)	—	0	4	0	—			0	0	0	0	0	兼1	—

科目 区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
学 科 科 目	学 科 専 門 科 目	ゼ ミ / S e m i n a r	ゼミ/Seminar A	3①～②		2			○		5		2				
			ゼミ/Seminar B	3③～④		2			○		5		2				
			ゼミ/Seminar C	4①～②		2			○		5		2				
			ゼミ/Seminar D	4③～④		2			○		5		2				
			課題研究演習A	3①～②		2			○		3		1				
			課題研究演習B	3③～④		2			○		3		1				
			課題研究演習C	4①～②		2			○		3		2				
			課題研究演習D	4③～④		2			○		3		2				
			卒業論文/Research Project	4①～④		4			○		5		2				
			小計 (9科目)	—	0	20	0	—		5	0	2	0	0	兼0	—	
合計(240科目)				—	36	424	0	—		7	1	3	0	0	兼84	—	
学位又は称号			学士 (グローバルコミュニケーション)		学位又は学科の分野			文学関係									
卒業要件及び履修方法									授業期間等								
共通科目は、必修12単位。学科科目は、必修24単位及び選択必修単位を含めて75単位。 自由選択単位は、37単位以上。自由選択単位は、共通科目、学科科目、資格取得科目、5大 学単位認定科目、他学部・他学科の学科科目の単位をあてることができる。 (履修科目の登録の上限：1年次40単位、2年次40単位、3年次40単位、4年次40単 位)									1学年の学期区分			4学期					
									1学期の授業期間			7週					
									1時限の授業時間			100分					

教 育 課 程 等 の 概 要															
（グローバル学部日本語コミュニケーション学科）															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
建 学 ツ ス 体・ボ 身	仏教（生き方を考える）基礎	1①～②	2			○								兼1 兼1	メディア メディア
	仏教（生き方を考える）発展	3③～④	2			○								兼1 兼1	メディア メディア
	小計（2科目）	—	4	0	0	—			0	0	0	0	0	兼2	—
	スポーツと身体科学	1①～②		1			○							兼7	オムニバス
	フィールド・スポーツ	2休		1			○							兼1	集中
	小計（2科目）	—	0	2	0	—			0	0	0	0	0	兼7	—
	データサイエンス基礎	1①	1				○							兼1	メディア
	人工知能基礎	1②	1				○							兼1	メディア
	メディアリテラシー	1③・④		1			○							兼1	メディア
	情報技法基礎	1③・④		1			○							兼4	メディア
	情報技法発展A	2①・②		1			○							兼1	メディア
	情報技法発展B	2②～③		1			○							兼1	メディア
	情報技法発展C	2②～③		1			○							兼1	メディア
	プログラミング基礎	1③・④		1			○							兼3	メディア
	プログラミング発展A	2①・②		1			○							兼2	メディア
	プログラミング発展B	2②～③		1			○							兼1	メディア
	人工知能技術と社会	2③～④		1			○							兼1	メディア
	機械学習活用1	2④		1			○							兼1	メディア
	機械学習活用2	2④		1			○							兼1	メディア
	データサイエンス活用1	2④		1			○							兼1	メディア
	データサイエンス活用2	2④		1			○							兼1	メディア
	メディアデザイン	2④		1			○							兼1	メディア
	サービスデザイン	2④		1			○							兼1	メディア
	人工知能実践プロジェクト	3①～②		2			○							兼1	メディア
	小計（18科目）	—	2	17	0	—			0	0	0	0	0	兼8	—
共 通 科 目	フランス語基礎1	1①～②		1			○							兼1	
	フランス語基礎2	1③～④		1			○							兼1	
	フランス語発展1	2①～②		1			○		1						
	フランス語発展2	2③～④		1			○		1						
	フランス語総合1	3①～②		1			○		1						メディア
	フランス語総合2	3③～④		1			○		1						メディア
	ドイツ語基礎1	1①～②		1			○							兼1	
	ドイツ語基礎2	1③～④		1			○							兼1	
	ドイツ語発展1	2①～②		1			○		1						
	ドイツ語発展2	2③～④		1			○		1						
	ドイツ語総合1	3①～②		1			○		1						メディア
	ドイツ語総合2	3③～④		1			○		1						メディア
	スペイン語基礎1	1①～②		1			○							兼2	
	スペイン語基礎2	1③～④		1			○							兼2	
	スペイン語発展1	2①～②		1			○		1						
	スペイン語発展2	2③～④		1			○		1						
	スペイン語総合1	3①～②		1			○		1						メディア
	スペイン語総合2	3③～④		1			○		1						メディア
	韓国語基礎1	1①～②		1			○							兼3	
	韓国語基礎2	1③～④		1			○							兼3	
	韓国語発展1	2①～②		1			○							兼1	
	韓国語発展2	2③～④		1			○							兼1	
	韓国語総合1	3①～②		1			○							兼1	
	韓国語総合2	3③～④		1			○							兼1	
	留学準備1	1①～②		1			○							兼1	
	留学準備2	1①～②		1			○							兼1	
	英語資格・検定試験対策1	1①・②		1			○							兼1	
	英語資格・検定試験対策2	1①・②・③		1			○							兼1	
	小計（28科目）	—	0	28	0	—			1	0	0	0	0	兼9	—
日 教 本 養	日本語リテラシー	1②	1			○								兼2	メディア
	小計（1科目）	—	1	0	0	—			0	0	0	0	0	兼2	—
C H P	SDGs基礎	1①	1			○								兼9	メディア
	SDGs発展1	1②	1			○								兼6	メディア
	SDGs発展2	1③	1			○								兼7	メディア
	SDGs発展3	1④	1			○								兼5	メディア
	SDGs特講	3①～②		2		○								兼1	メディア
	小計（5科目）	—	4	2	0	—			0	0	0	0	0	兼21	—

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
共通科目	フィールド・スタディーズ	フィールド・スタディーズ	1休	1			○									兼1	集中	
		フィールド・スタディーズ1	1休		1			○								兼1	集中	
		フィールド・スタディーズ2	1休		2			○								兼1	集中	
		フィールド・スタディーズ3	1休		3			○								兼1	集中	
		フィールド・スタディーズ4	1休		4			○								兼1	集中	
		フィールド・スタディーズ発展1 A	1休		1			○								兼1	集中	
		フィールド・スタディーズ発展1 B	1休		2			○								兼1	集中	
		フィールド・スタディーズ発展1 C	1休		3			○								兼1	集中	
		フィールド・スタディーズ発展1 D	1休		4			○								兼1	集中	
		フィールド・スタディーズ発展2 A	2休		1			○								兼1	集中	
		フィールド・スタディーズ発展2 B	2休		2			○								兼1	集中	
		フィールド・スタディーズ発展2 C	2休		3			○								兼1	集中	
		フィールド・スタディーズ発展2 D	2休		4			○								兼1	集中	
		フィールド・スタディーズ発展2 E	2休		5			○								兼1	集中	
		フィールド・スタディーズ発展3 A	3休		1			○								兼1	集中	
		フィールド・スタディーズ発展3 B	3休		2			○								兼1	集中	
		フィールド・スタディーズ発展3 C	3休		3			○								兼1	集中	
		フィールド・スタディーズ発展3 D	3休		4			○								兼1	集中	
		フィールド・スタディーズ発展3 E	3休		5			○								兼1	集中	
		フィールド・スタディーズ発展4 A	4休		1			○								兼1	集中	
		フィールド・スタディーズ発展4 B	4休		2			○								兼1	集中	
		フィールド・スタディーズ発展4 C	4休		3			○								兼1	集中	
		フィールド・スタディーズ発展4 D	4休		4			○								兼1	集中	
		小計 (23科目)	—	1	60	0		—		0	0	0	0	0	0	兼2	—	
シ タ イ ン ブ ル ミ ナ ル	インターンシップ	2②～④		1			○									兼1		
	企業協働プロジェクト	2①～④		2				○								兼1		
	小計 (2科目)	—	0	3	0		—		0	0	0	0	0	0	兼1	—		
ナ ル ミ ナ ル ミ ナ ル	全学教養ゼミナール1	1①～②		2			○									兼6	メディア	
	全学教養ゼミナール2	1③～④		2			○			1	1					兼1	メディア	
	小計 (2科目)	—	0	4	0		—		1	1	0	0	0	0	兼6	—		
講 座 付	武蔵野市自由講座	1③～④		2			○									兼1		
	証券ビジネス論	2③～④		2			○			1								
	小計 (2科目)	—	0	4	0		—		1	0	0	0	0	0	兼1	—		
学 科 科 目	日 本 語 科 目 群	日本語1A	1①～②		1				○							兼2		
		日本語1B	1①～②		1				○							兼2		
		日本語1C	1③～④		1				○							兼2		
		日本語1D	1③～④		1				○							兼2		
		日本語2A	2①～②		1				○							兼5		
		日本語2B	2①～②		1				○							兼5		
		日本語2C	2③～④		1				○							兼5		
		日本語2D	2③～④		1				○							兼5		
		小計 (8科目)	—	0	8	0		—		0	0	0	0	0	0	兼6	—	
	言 語 演 習 科 目	英 語 科 目 群	English for Qualifications1A	1①～②		1				○							兼2	
			English for Qualifications1B	1①～②		1				○							兼2	
			English for Qualifications1C	1③～④		1				○							兼2	
			English for Qualifications1D	1③～④		1				○							兼2	
			English for Qualifications2A	2①～②		1				○							兼2	
			English for Qualifications2B	2①～②		1				○		1					兼1	
			English for Qualifications2C	2③～④		1				○							兼2	
			English for Qualifications2D	2③～④		1				○		1					兼1	
			English for Qualifications3A	3①～②		1				○		1					兼1	
			English for Qualifications3B	3①～②		1				○		1					兼1	
			English for Qualifications3C	3③～④		1				○		1					兼1	
			English for Qualifications3D	3③～④		1				○		1					兼1	
			Practical Communication1A	1①～②		1				○		1						
			Practical Communication1B	1①～②		1				○		1						
			Practical Communication1C	1③～④		1				○		1						
			Practical Communication1D	1③～④		1				○		1						
			Practical Communication2A	2①～②		1				○		1						
			Practical Communication2B	2①～②		1				○		1						
			Practical Communication2C	2③～④		1				○		1						
			Practical Communication2D	2③～④		1				○		1						
			Practical Communication3A	3①～②		1				○		1						
			Practical Communication3B	3①～②		1				○		1						
			Practical Communication3C	3③～④		1				○		1						
			Practical Communication3D	3③～④		1				○		1						
			Remedial English A	2②～③		1											兼1	集中
			Remedial English B	2④		1					○						兼1	集中
			英語資格試験演習A	3①		2				○							兼1	
			英語資格試験演習B	3②		2				○							兼1	
			英語資格試験演習C	3③		2				○							兼1	
			英語資格試験演習D	3④		2				○							兼1	
		小計 (30科目)	—	0	34	0		—		2	0	0	0	0	0	兼7	—	
言 語 演 習 科 目	中 国 語 科 目 群	中国語1A	1①～②		1				○							兼3		
		中国語1B	1①～②		1				○							兼3		
		中国語1C	1③～④		1				○							兼3		
		中国語1D	1③～④		1				○							兼3		
		中国語2A	2①～②		1				○							兼3		
		中国語2B	2①～②		1				○							兼3		
		中国語2C	2③～④		1				○							兼3		
		中国語2D	2③～④		1				○							兼3		
中国語3A	3①～②		1				○							兼2				

科目 区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
言語 演習科 目群	中国語科目群	中国語3B	3①～②		1			○								兼2	
		中国語3C	3③～④		1			○								兼2	
		中国語3D	3③～④		1			○								兼2	
		中国語資格試験演習1A	1①～②		1			○								兼3	
		中国語資格試験演習1B	1③～④		1			○								兼3	
		中国語資格試験演習2A	2①～②		1			○								兼3	
		中国語資格試験演習2B	2③～④		1			○								兼3	
	小計（16科目）		—	0	16	0	—			0	0	0	0	0	兼14	—	
	基礎 学科基 礎科目	基礎ゼミ	1①～②	1				○		1	2						
		プレゼミA	2①～②	1				○		2	1						
プレゼミB		2③～④	1				○		2	1							
小計（3科目）		—	3	0	0	—			3	2	0	0	0	兼0	—		
共通 多文化 科目	グローバルスタディーズ/Global Studies グローバルプロジェクト/Global Project 海外インターンシップ1（基礎） 海外インターンシップ2（基礎） 海外インターンシップ3（基礎） 海外インターンシップ4（発展） 海外インターンシップ5（発展） 海外インターンシップ6（発展）	2③～④	2			○									兼1		
		3②～③	2			○									兼1	オムニバス、変則	
		2, 3, 4③～④	2				○		1	1						オムニバス、集中	
		2, 3, 4③～④	3				○		1	1						オムニバス、集中	
		2, 3, 4③～④	4				○		1	1						オムニバス、集中	
		2, 3, 4③～④	2				○		1	1						オムニバス、集中	
		2, 3, 4③～④	3				○		1	1						オムニバス、集中	
	2, 3, 4③～④	4				○		1	1						オムニバス、集中		
小計（8科目）		—	4	18	0	—			1	2	1	0	0	兼2	—		
日本 語教員 養成科 目群	異文化コミュニケーションA 異文化コミュニケーションB 日本語学概論 音声学基礎A 音声学基礎B 第二言語習得理論A 第二言語習得理論B 日本語教授法概論A 日本語教授法概論B 日本語教育実習 日本語実践教育A 日本語実践教育B 日本語教育文法A 日本語教育文法B 日本語学各論A 日本語学各論B 日本語教育学各論A 日本語教育学各論B	1③	2			○			1						兼1		
		1④	2			○			1						兼1		
		1①～②	2			○									兼1		
		2①～②	2			○			1								
		2③～④	2			○											
		2①～②	2			○									兼1		
		2③～④	2			○									兼1		
		2①～②	2			○			1								
		2③～④	2			○			1								
		3①～③	4				○		1	1					兼1	変則	
		3③	2			○				1							
		3④	2			○				1							
		3①～②	2			○			1								
		3③～④	2			○			1								
		4①	2			○									兼1		
		4②	2			○									兼1		
		4①	2			○									兼1		
		4②	2			○									兼1		
	小計（18科目）		—	2	36	0	—			3	1	0	0	0	兼6	—	
	ビジネス 日本語 科目群	実用日本語1A 実用日本語1B 実用日本語1C 実用日本語1D 実用日本語2A 実用日本語2B 実用日本語2C 実用日本語2D 観光学概論 日本研究（経済・経営）A 日本研究（経済・経営）B 日本研究（経済・経営）C 日本研究（経済・経営）D 日本研究（政治・社会）A 日本研究（政治・社会）B 日本研究（政治・社会）C 日本研究（政治・社会）D 日本研究（ビジネス）A 日本研究（ビジネス）B 日本研究（ビジネス）C 日本研究（ビジネス）D	1①～②	1				○								兼2	
			1①～②	1				○								兼2	
1③～④			1				○								兼2		
1③～④			1				○								兼2		
2①～②			1				○								兼2		
2①～②			1				○								兼2		
2③～④			1				○								兼2		
2③～④			1				○								兼2		
1③～④			2				○				1						
3①			2				○								兼1		
3②			2				○								兼1		
3③			2				○								兼1		
3④			2				○								兼1		
3①			2				○			1							
3②			2				○			1							
3③			2				○			1							
3④			2				○			1							
2①			2				○				1						
2②		2				○				1							
2③		2				○				1							
2④	2				○				1								
小計（21科目）		—	2	32	0	—			1	0	1	0	0	兼4	—		
サブカル チャー・ メディア 科目群	日本研究（文化・文学・サブカルチャー）A 日本研究（文化・文学・サブカルチャー）B 日本研究（文化・文学・サブカルチャー）C 日本研究（文化・文学・サブカルチャー）D 日本研究（教育とサブカルチャー）A 日本研究（教育とサブカルチャー）B 日本研究（教育とサブカルチャー）C 日本研究（教育とサブカルチャー）D 日本研究（歴史・地域・メディア）A 日本研究（歴史・地域・メディア）B 日本研究（歴史・地域・メディア）C 日本研究（歴史・地域・メディア）D	2①	2			○									兼1		
		2②	2			○									兼1		
		2③	2			○									兼1		
		2④	2			○									兼1		
		2①	2			○				1							
		2②	2			○				1							
		2③	2			○				1							
		2④	2			○				1							
		3①	2			○									兼1		
		3②	2			○									兼1		
		3③	2			○									兼1		
		3④	2			○									兼1		
小計（12科目）		—	0	24	0	—			0	1	0	0	0	兼2	—		
特別講 義	特別講義A 特別講義B 特別講義C 特別講義D	3③	1			○									兼1	変則、メディア	
		3④	1			○									兼1	変則、メディア	
		3③	1			○									兼1	変則、メディア	
		3④	1			○									兼1	変則、メディア	
		小計（4科目）		—	0	4	0	—			0	0	0	0	0	兼1	—

科目 区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
学科科目	学科専門科目	ゼミ / Seminar	ゼミ/Seminar A	3①～②	2				○		2	2	1				
			ゼミ/Seminar B	3③～④	2				○		2	2	1				
			ゼミ/Seminar C	4①～②	2				○		2	2	1				
			ゼミ/Seminar D	4③～④	2				○		2	2	1				
			卒業論文/Research Project	4①～④	4				○		2	2	1				
			小計（5科目）	—	12	0	0	—		2	2	1	0	0	兼0	—	
小計（210科目）				—	35	292	0	—		4	3	1	0	0	兼89	—	
学位又は称号		学士（日本語コミュニケーション）			学位又は学科の分野			文学関係									
卒業要件及び履修方法									授業期間等								
日本語コミュニケーション学科の共通科目は、必修12単位。学科科目は、必修23単位及び選択必修単位を含めて79単位。自由選択単位は、33単位以上。自由選択単位は、共通科目、学科科目、資格取得科目、5大学単位認定科目、他学部・他学科の学科科目の単位をあてることができる。 （履修科目の登録の上限：1年次40単位、2年次40単位、3年次40単位、4年次40単位）									1学年の学期区分			4学期					
									1学期の授業期間			7週					
									1時限の授業時間			100分					

教 育 課 程 等 の 概 要														
（グローバル学部グローバルビジネス学科）														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
建 学	仏教（生き方を考える）基礎	1①～②	2			○								兼1 メディア
	仏教（生き方を考える）発展	3③～④	2			○								兼1 メディア
	小計（2科目）	—	4	0	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼2 —
	スポーツと身体科学	1①～②		1			○							兼6 オムニバス
体・ボ 身	フィールド・スポーツ	2休		1			○							兼1 集中
	小計（2科目）	—	0	2	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼7 —
	データサイエンス基礎	1①	1				○							兼1 メディア
	人工知能基礎	1②	1				○							兼1 メディア
情 報	メディアリテラシー	1③・④		1			○							兼1 メディア
	情報技法基礎	1③・④		1			○							兼4 メディア
	情報技法発展A	2①・②		1			○							兼1 メディア
	情報技法発展B	2②～③		1			○							兼1 メディア
	情報技法発展C	2②～③		1			○							兼1 メディア
	プログラミング基礎	1③・④		1			○							兼3 メディア
	プログラミング発展A	2①・②		1			○							兼2 メディア
	プログラミング発展B	2②～③		1			○							兼1 メディア
	人工知能技術と社会	2③～④		1			○							兼1 メディア
	機械学習活用1	2④		1			○							兼1 メディア
	機械学習活用2	2④		1			○							兼1 メディア
	データサイエンス活用1	2④		1			○							兼1 メディア
	データサイエンス活用2	2④		1			○							兼1 メディア
	メディアデザイン	2④		1			○							兼1 メディア
	サービスデザイン	2④		1			○							兼1 メディア
	人工知能実践プロジェクト	3①～②		2			○							兼1 —
	小計（18科目）	—	2	17	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼8 —
共 通 科 目	フランス語基礎1	1①～②		1			○							兼1 —
	フランス語基礎2	1③～④		1			○							兼1 —
	フランス語発展1	2①～②		1			○							兼1 —
	フランス語発展2	2③～④		1			○							兼1 —
	フランス語総合1	3①～②		1			○							兼1 メディア
	フランス語総合2	3③～④		1			○							兼1 メディア
	ドイツ語基礎1	1①～②		1			○							兼1 —
	ドイツ語基礎2	1③～④		1			○							兼1 —
	ドイツ語発展1	2①～②		1			○							兼1 —
	ドイツ語発展2	2③～④		1			○							兼1 —
	ドイツ語総合1	3①～②		1			○							兼1 メディア
	ドイツ語総合2	3③～④		1			○							兼1 メディア
	スペイン語基礎1	1①～②		1			○							兼2 —
	スペイン語基礎2	1③～④		1			○							兼2 —
	スペイン語発展1	2①～②		1			○							兼1 —
	スペイン語発展2	2③～④		1			○							兼1 —
	スペイン語総合1	3①～②		1			○							兼1 メディア
	スペイン語総合2	3③～④		1			○							兼1 メディア
	韓国語基礎1	1①～②		1			○							兼3 —
	韓国語基礎2	1③～④		1			○							兼3 —
	韓国語発展1	2①～②		1			○							兼1 —
	韓国語発展2	2③～④		1			○							兼1 —
	韓国語総合1	3①～②		1			○							兼1 —
	韓国語総合2	3③～④		1			○							兼1 —
	留学準備1	1①～②		1			○							兼1 —
	留学準備2	1①～②		1			○							兼1 —
	英語資格・検定試験対策1	1①・②		1			○							兼1 —
	英語資格・検定試験対策2	1①・②・③		1			○							兼1 —
	小計（28科目）	—	0	28	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼10 —
日 教 本 養	日本語リテラシー	1②	1			○								兼2 メディア
	小計（1科目）	—	1	0	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼2 —
C H P	SDG s 基礎	1①	1			○			1					兼9 —
	SDG s 発展1	1②	1			○								兼6 メディア
	SDG s 発展2	1③	1			○								兼7 メディア
	SDG s 発展3	1④	1			○								兼5 メディア
	SDG s 特講	3①～②		2			○		1					兼1 メディア
	小計（5科目）	—	4	2	0	—	—	—	2	0	0	0	0	兼21 —
フ ィ ー ル ド ・ ス タ デ ィ ー ズ ・ ス タ	フィールド・スタディーズ	1休	1			○								兼1 集中
	フィールド・スタディーズ1	1休		1			○							兼1 集中
	フィールド・スタディーズ2	1休		2			○							兼1 集中
	フィールド・スタディーズ3	1休		3			○							兼1 集中
	フィールド・スタディーズ4	1休		4			○							兼1 集中
	フィールド・スタディーズ発展1 A	1休		1			○							兼1 集中
	フィールド・スタディーズ発展1 B	1休		2			○							兼1 集中
	フィールド・スタディーズ発展1 C	1休		3			○							兼1 集中
	フィールド・スタディーズ発展1 D	1休		4			○							兼1 集中
	フィールド・スタディーズ発展2 A	2休		1			○							兼1 集中

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	フィールド・スタディーズ	フィールド・スタディーズ発展 2 B	2休	2			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展 2 C	2休	3			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展 2 D	2休	4			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展 2 E	2休	5			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展 3 A	3休	1			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展 3 B	3休	2			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展 3 C	3休	3			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展 3 D	3休	4			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展 3 E	3休	5			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展 4 A	4休	1			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展 4 B	4休	2			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展 4 C	4休	3			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展 4 D	4休	4			○							兼1	集中
	小計 (23科目)		—	1	60	0	—		0	0	0	0	0	兼2	—
	インターンシップ	企業協働プロジェクト	2②～④	1		○								兼1	
		小計 (2科目)	2①～④	2		○								兼1	—
	ナゼ教養	全学教養ゼミナール 1	1①～②	2		○								兼6	メディア
		全学教養ゼミナール 2	1③～④	2		○								兼3	メディア
		小計 (2科目)	—	0	4	0	—		0	0	0	0	0	兼8	—
	講座付	武蔵野市自由講座	1③～④	2		○								兼1	
		証券ビジネス論	2③～④	2		○								兼1	
	小計 (2科目)		—	0	4	0	—		0	0	0	0	0	兼2	—
学科科目	中国語科目群	中国語 1 A	1①～②	1		○								兼3	オムニバス
		中国語 1 B	1①～②	1		○								兼3	オムニバス
		中国語 1 C	1③～④	1		○								兼3	オムニバス
		中国語 1 D	1③～④	1		○								兼3	オムニバス
		中国語 2 A	2①～②	1		○								兼3	オムニバス
		中国語 2 B	2①～②	1		○								兼3	オムニバス
		中国語 2 C	2③～④	1		○								兼3	オムニバス
		中国語 2 D	2③～④	1		○								兼3	オムニバス
		中国語 3 A	3①～②	1		○								兼2	オムニバス
		中国語 3 B	3①～②	1		○								兼2	オムニバス
		中国語 3 C	3③～④	1		○								兼2	オムニバス
		中国語 3 D	3③～④	1		○								兼2	オムニバス
		中国語資格試験演習 1 A	1①～②	1		○								兼3	
		中国語資格試験演習 1 B	1③～④	1		○								兼3	
		中国語資格試験演習 2 A	2①～②	1		○								兼3	
		中国語資格試験演習 2 B	2③～④	1		○								兼3	
		ビジネス中国語 A	2・3①～②	1		○								兼1	
		ビジネス中国語 B	2・3①～②	1		○								兼1	
		ビジネス中国語 C	2・3③～④	1		○								兼1	
		ビジネス中国語 D	2・3③～④	1		○								兼1	
	小計 (20科目)		—	0	20	0	—		0	0	0	0	0	兼14	—
	言語演習科目	English for Qualifications 1A	1①	1		○								兼2	
		English for Qualifications 1B	1②	1		○								兼2	
		English for Qualifications 1C	1③	1		○								兼2	
		English for Qualifications 1D	1④	1		○								兼2	
		English for Qualifications 2A	1・2①	1		○								兼3	
		English for Qualifications 2B	1・2②	1		○								兼3	
		English for Qualifications 2C	1・2③	1		○								兼3	
		English for Qualifications 2D	1・2④	1		○								兼3	
		English for Qualifications 3A	2・3①	1		○								兼1	
		English for Qualifications 3B	2・3②	1		○								兼1	
		English for Qualifications 3C	2・3③	1		○								兼1	
		English for Qualifications 3D	2・3④	1		○								兼1	
		Practical Communication 1A	1①	1		○								兼2	
		Practical Communication 1B	1②	1		○								兼2	
		Practical Communication 1C	1③	1		○								兼2	
		Practical Communication 1D	1④	1		○								兼2	
		Practical Communication 2A	1・2①	1		○								兼3	
		Practical Communication 2B	1・2②	1		○								兼3	
	英語科目群	Practical Communication 2C	1・2③	1		○								兼3	
		Practical Communication 2D	1・2④	1		○								兼3	
		Practical Communication 3A	2・3①	1		○								兼1	
		Practical Communication 3B	2・3②	1		○								兼1	
		Practical Communication 3C	2・3③	1		○								兼1	
		Practical Communication 3D	2・3④	1		○								兼1	
		Reading for business studies A	1①～②	1		○								兼1	
		Business Writing	1・2①～②	1		○						1		兼1	
		Business Presentation	1・2③～④	1		○								兼1	
		Business Meeting	2・3③～④	1		○								兼1	
	小計 (28科目)		—	0	28	0	—		0	0	1	0	0	兼7	—

科目 区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
言語 演習科目	日本語 科目群	基礎日本語 1 A	1①		1		○									兼1	メディア メディア メディア メディア			
		基礎日本語 1 B	1②		1		○									兼1				
		基礎日本語 1 C	1③		1		○									兼1				
		基礎日本語 1 D	1④		1		○									兼1				
		基礎日本語 1 E	1①		1		○											兼2		
		基礎日本語 1 F	1②		1		○											兼2		
		基礎日本語 1 G	1③		1		○											兼2		
		基礎日本語 1 H	1④		1		○											兼2		
		日本語 1 A	1①		1		○											兼4		
		日本語 1 B	1②		1		○											兼4		
		日本語 1 C	1③		1		○											兼4		
		日本語 1 D	1④		1		○											兼4		
		日本語 2 A	1・2①		1		○											兼4		
		日本語 2 B	1・2②		1		○											兼4		
		日本語 2 C	1・2③		1		○											兼4		
		日本語 2 D	1・2④		1		○											兼4		
		実用日本語 1 A	1①～②		1		○											兼2		
		実用日本語 1 B	1①～②		1		○											兼2		
		実用日本語 1 C	1③～④		1		○											兼2		
		実用日本語 1 D	1③～④		1		○											兼2		
		実用日本語 2 A	2①～②		1		○											兼2		
		実用日本語 2 B	2①～②		1		○											兼2		
		実用日本語 2 C	2③～④		1		○											兼2		
		実用日本語 2 D	2③～④		1		○											兼2		
		日本語資格試験演習 A	2・3①～②		1		○											兼1		
		日本語資格試験演習 B	2・3③～④		1		○											兼1		
		日本語資格試験演習 C	2・3①～②		1		○											兼1		
		日本語資格試験演習 D	2・3③～④		1		○											兼1		
		小計(28科目)			—	0	28	0		—			0	0	0	0		0	兼12	—
		学 科 目 基 礎	基礎ゼミ/Fundamental Seminar	1①～②	1			○					2	1						
			プレゼミA/Pre-seminar A	1・2①～②	1			○					1	1						
			プレゼミB/Pre-seminar B	1・2③～④	1			○						2						
			Career Design	1・2④	1		○					1								メディア
			小計(4科目)	—	4	0	0		—			1	2	3	0	0			兼0	—
		共 多 目 修 文 科 化	グローバルスタディーズ/Global Studies	1・2③～④	2		○					1		2						
			グローバルプロジェクト/Global Project	2・3①～②	2		○					2		1						
		小計(2科目)			—	4	0	0		—		2	0	2	0	0			兼0	—
		学 科 目	ビ ジ ネ ス 科 目	Introduction to Business Studies A	1③	2		○					1							
				Introduction to Business Studies B	1④	2		○					1							
				Management A	1・2①	2		○					1							
				Management B	1・2②	2		○					1							
				Accounting A	1③		2		○						1					
Accounting B	1④				2		○						1							
Accounting Advanced A	1・2①			2		○							1							
Accounting Advanced B	1・2②			2		○							1							
Research Method for Business Studies	1・2①			2		○							1							
Problem-Solving and Decision-Making	1・2②			2		○							1							
Finance A	1・2③			2		○					1									
Finance B	1・2④			2		○					1									
Management in Japan	1・2③			2		○											兼1			
Digital Economy	1・2③～④			2		○							1				兼1			
Statistics for Business Studies A	2・3①～②			2		○											兼1			
Statistics for Business Studies B	2・3③～④			2		○											兼1			
Managerial Accounting A	2・3①			2		○							1							
Managerial Accounting B	2・3②			2		○							1							
Organizational Behavior A	2・3③			2		○							1							
Organizational Behavior B	2・3④			2		○							1							
Business Economics A	1・2③			2		○						1								
Business Economics B	1・2④			2		○						1								
Global Trading A	2・3③			2		○												兼1		
Global Trading B	2・3④			2		○												兼1		
Financial Services A	2・3①			2		○						1								
Financial Services B	2・3②			2		○						1								
Hospitality A	2・3③			2		○												兼1		
Hospitality B	2・3④			2		○												兼1		
Marketing in Global Business A	1・2③			2		○							1							
Marketing in Global Business B	1・2④			2		○							1							
Advanced Marketing in Global Business A	2・3①			2		○							1							
Advanced Marketing in Global Business B	2・3②			2		○							1							
Digital Marketing	2・3③～④			2		○								1						
Strategy in Global Business A	2・3①			2		○							1							
Strategy in Global Business B	2・3②			2		○							1							
China Business Studies A	2・3①			2		○												兼1		
China Business Studies B	2・3②			2		○												兼1		
Emerging Markets	2・3③～④	2		○							1									
International Business Law and Ethics	2・3③～④	2		○												兼1				
Internship A	1・2①～④	1				○				1										

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
学科科目	ビジネス科目	Internship B	1・2①～④	1				○		1						メディア メディア メディア メディア
		Internship C	1・2①～④	2				○		1						
		Internship D	1・2①～④	4				○		1						
		Entrepreneurship	3・4①～②	2	○						1					
		International Lectures 1 (GB)	1①	1	○				1							
		International Lectures 2 (GB)	1②	1	○					1						
		International Lectures 3 (GB)	1③	1	○				1							
		International Lectures 4 (GB)	1④	1	○				1							
		小計(48科目)	—	8	84	0	—			2	2	2	0	0	兼7	
	学部隣接科目	英語資格試験演習 A/Practical Exercises for English Qualifications A	1①～②	2	○										兼1	
		英語資格試験演習 B/Practical Exercises for English Qualifications B	1③～④	2	○										兼1	
		英語資格試験演習 C/Practical Exercises for English Qualifications C	2③～④	2	○										兼1	
		英語資格試験演習 D/Practical Exercises for English Qualifications D	2③～④	2	○										兼1	
		異文化コミュニケーション A/Cross-cultural Communication A	1①	2	○										兼1	
		異文化コミュニケーション B/Cross-cultural Communication B	1②	2	○										兼1	
		小計(6科目)	—	0	12	0	—			0	0	0	0	0	兼2	
	特別講義	特別講義/Special Lectures A	3③	1	○										兼1	変則、メディア
		特別講義/Special Lectures B	3④	1	○										兼1	変則、メディア
		特別講義/Special Lectures C	3③	1	○										兼1	変則、メディア
		特別講義/Special Lectures D	3④	1	○										兼1	変則、メディア
		小計(4科目)	—	0	4	0	—			0	0	0	0	0	兼1	—
	ゼミ／ S e m i n a r e	ゼミ/Seminar A	2・3①～②	2				○		1	2	2				
		ゼミ/Seminar B	2・3③～④	2				○		1	2	2				
		ゼミ/Seminar C	3・4①～②	2				○		2	2	1				
		ゼミ/Seminar D	3・4③～④	2				○		2	2	1				
		卒業論文/Research Project for Graduation Thesis	3・4①～④	4				○		2	2	1				
		小計(5科目)	—	12	0	0	—			1	2	2	0	0	兼0	
合計(230科目)			—	40	296	0	—			4	2	3	0	0	兼93	—
学位又は称号		学士（グローバルビジネス）			学位又は学科の分野			文学関係、経済学関係								
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
グローバルビジネス学科の共通科目は、必修 11 単位。学科科目は、必修 28 単位及び選択必修単位を含めて 84 単位。自由選択単位は、29 単位以上。自由選択単位は、共通科目、学科科目、5 大学単位認定科目、他学部・他学科の学科科目の単位をあてることができる。								1 学年の学期区分				4 学期				
								1 学期の授業期間				7 週				
								1 時限の授業時間				100 分				
(履修科目の登録の上限：1 年次 40 単位、2 年次 40 単位、3 年次 40 単位、4 年次 40 単位)																

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(人間科学部人間科学科)																	
科目 区分		授業科目の名称	配当年度	単位数		授業形態			専任教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教			助手	
建 学	体・ボ 身	仏教（生き方を考える）基礎	1①～②	2			○			1					兼1	メディア	
		仏教（生き方を考える）発展	3③～④	2			○								兼1	メディア	
		小計（2科目）	—	4	0	0	—		0	1	0	0	0	兼1	—		
		スポーツと身体科学	1①～②		1			○							兼7	オムニバス	
情 報	体・ボ 身	フィールド・スポーツ	2休		1			○							兼1	集中	
		小計（2科目）	—	0	2	0	—		0	0	0	0	0	兼7	—		
		データサイエンス基礎	1①	1				○								兼1	メディア
		人工知能基礎	1②	1				○								兼1	メディア
		メディアリテラシー	1③・④		1			○								兼2	メディア
		情報技法基礎	1③・④		1			○								兼4	メディア
		情報技法発展A	2①・②		1			○								兼1	メディア
		情報技法発展B	2②～③		1			○								兼1	メディア
		情報技法発展C	2②～③		1			○								兼1	メディア
		プログラミング基礎	1③・④		1			○								兼3	メディア
		プログラミング発展A	2①・②		1			○								兼2	メディア
		プログラミング発展B	2②～③		1			○								兼1	メディア
		人工知能技術と社会	2③～④		1			○								兼1	メディア
		機械学習活用1	2④		1			○								兼1	メディア
		機械学習活用2	2④		1			○								兼1	メディア
		データサイエンス活用1	2④		1			○								兼1	メディア
		データサイエンス活用2	2④		1			○								兼1	メディア
		メディアデザイン	2④		1			○								兼1	メディア
		サービスデザイン	2④		1			○								兼1	メディア
		人工知能実践プロジェクト	3①～②		2			○								兼1	—
共 通 科 目	外 国 語	小計（18科目）	—	2	17	0	—		0	0	0	0	0	兼9	—		
		英語基礎A	1①～②	2				○								兼8	
		英語基礎B	1①～②		1			○								兼4	
		英語基礎C	1③～④	2				○								兼8	
		英語基礎D	1③～④		1			○								兼4	
		英語発展A	2①～②		1			○								兼2	
		英語発展B	2①～②		1			○								兼2	
		英語発展C	2③～④		1			○								兼2	
		英語発展D	2③～④		1			○								兼2	
		英語総合A	3①～②		1			○								兼2	
		英語総合B	3③～④		1			○								兼2	
		中国語基礎1	1①～②		1			○								兼4	
		中国語基礎2	1③～④		1			○								兼4	
		中国語発展1	2①～②		1			○								兼1	
		中国語発展2	2③～④		1			○								兼1	
		中国語総合1	3①～②		1			○								兼1	
		中国語総合2	3③～④		1			○								兼1	
		フランス語基礎1	1①～②		1			○								兼1	
		フランス語基礎2	1③～④		1			○								兼1	
		フランス語発展1	2①～②		1			○								兼1	
		フランス語発展2	2③～④		1			○								兼1	
		フランス語総合1	3①～②		1			○								兼1	
		フランス語総合2	3③～④		1			○								兼1	
		ドイツ語基礎1	1①～②		1			○								兼1	
		ドイツ語基礎2	1③～④		1			○								兼1	
		ドイツ語発展1	2①～②		1			○								兼1	
		ドイツ語発展2	2③～④		1			○								兼1	
		ドイツ語総合1	3①～②		1			○								兼1	
		ドイツ語総合2	3③～④		1			○								兼1	
		スペイン語基礎1	1①～②		1			○								兼2	
		スペイン語基礎2	1③～④		1			○								兼2	
		スペイン語発展1	2①～②		1			○								兼1	
		スペイン語発展2	2③～④		1			○								兼1	
		スペイン語総合1	3①～②		1			○								兼1	
		スペイン語総合2	3③～④		1			○								兼1	
		韓国語基礎1	1①～②		1			○								兼3	
		韓国語基礎2	1③～④		1			○								兼3	
		韓国語発展1	2①～②		1			○								兼1	
		韓国語発展2	2③～④		1			○								兼1	
		韓国語総合1	3①～②		1			○								兼1	
		韓国語総合2	3③～④		1			○								兼1	
		留学準備1	1①～②		1			○								兼1	
		留学準備2	1①～②		1			○								兼1	
		英語資格・検定試験対策1	1①・②		1			○								兼1	
		英語資格・検定試験対策2	1①・②・③		1			○								兼1	
小計（44科目）	—	4	42	0	—			0	0	0	0	0	0	兼27	—		

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	教養 日本語	日本語リテラシー	1②	1			○								兼2	メディア
		日本語基礎A	1①		1			○							兼5	
		日本語基礎B	1②		1			○							兼6	
		日本語基礎C	1③		1			○							兼6	
		日本語基礎D	1④		1			○							兼6	
		日本語発展A	2①		1			○							兼1	
		日本語発展B	2②		1			○							兼1	
		日本語発展C	2③		1			○							兼1	
		日本語発展D	2④		1			○							兼1	
		日本事情	1③～④		2		○								兼1	
		小計 (10科目)	—	1	10	0		—		0	0	0	0	0	兼9	—
	C H P	SDG s 基礎	1①	1			○								兼9	メディア メディア メディア メディア メディア
		SDG s 発展 1	1②	1			○								兼6	
		SDG s 発展 2	1③	1			○								兼7	
		SDG s 発展 3	1④	1			○								兼4	
		SDG s 特講	3①～②	2			○			1					兼1	
		小計 (5科目)	—	4	2	0		—		1	0	0	0	0	兼20	—
	フ ィ ー ル ド ・ ス タ デ ィ ー ズ	フィールド・スタディーズ	1休	1			○								兼1	集中
		フィールド・スタディーズ 1	1休		1			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ 2	1休		2			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ 3	1休		3			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ 4	1休		4			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展 1 A	1休		1			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展 1 B	1休		2			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展 1 C	1休		3			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展 1 D	1休		4			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展 2 A	2休		1			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展 2 B	2休		2			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展 2 C	2休		3			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展 2 D	2休		4			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展 2 E	2休		5			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展 3 A	3休		1			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展 3 B	3休		2			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展 3 C	3休		3			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展 3 D	3休		4			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展 3 E	3休		5			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展 4 A	4休		1			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展 4 B	4休		2			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展 4 C	4休		3			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展 4 D	4休		4			○							兼1	集中
			小計 (23科目)	—	1	60	0		—		0	0	0	0	0	兼2
	シ タ ィ ン ブ ィ ン	インターンシップ	2②～④		1		○	○							兼1	—
		企業協働プロジェクト	2①～④		2			○							兼1	
		小計 (2科目)	—	0	3	0		—		0	0	0	0	0	兼1	—
	ナ ー ゼ 学 教 育 ミ ニ ム ス	全学教養ゼミナール 1	1①～②		2		○								兼6	メディア
		全学教養ゼミナール 2	1③～④		2		○								兼3	メディア
		小計 (2科目)	—	0	4	0		—		0	0	0	0	0	兼8	—
	講 寄 座 付	武蔵野市自由講座	1③～④		2		○								兼1	—
		証券ビジネス論	2③～④		2		○								兼1	
		小計 (2科目)	—	0	4	0		—		0	0	0	0	0	兼2	—
学科科目	学 科 基 礎 科 目	人間学入門	1①～②	2			○			13	2	3	4			オムニバス
		人間科学基礎	1④	2			○			1						オムニバス
		人間論基礎	2③～④	2			○			1						
		基礎ゼミ 1	2①	1			○			11	2	1				
		基礎ゼミ 2	2③～④	1			○			10	2	1				
		心理学概論Ⅰ	1③	2			○					1				
		心理学概論Ⅱ	1④	2			○					1				
		心理学研究法	2②		2		○									
		心理学統計法	2③		2		○									
		メンタルヘルス論Ⅰ	1①	2			○									
		メンタルヘルス論Ⅱ	2③	2			○									
		対人コミュニケーション論	1③～④	2			○									
		小計 (12科目)	—	14	8	0		—		13	2	3	4	0	兼4	
	人 間 学 基 幹 科 目 群	論理学	1①～②		2		○								兼1	—
		ロジカルシンキング	2①～②		2		○			1						
		東洋思想論 1	2①～②		2		○				1					
		東洋思想論 2	2③～④		2		○									
		西洋思想論 1	3①		2		○			1						
		西洋思想論 2	3②		2		○									
		平和学	2②		2		○									
		宗教学概論	3③～④		2		○								兼1	
		死生学	3①		2		○								兼1	
		小計 (9科目)	—	0	18	0		—		2	1	0	0	0	兼4	
	臨 床 心 理 科 目 群	心理学実験 1	2①～②		2				○						兼2	オムニバス
		心理学実験 2	2③～④		2										兼2	オムニバス
		知覚・認知心理学	2④	2			○								兼1	
		感情・人格心理学	2③～④		2		○								兼1	
		学習・言語心理学	2③		2		○								兼1	
		臨床心理学概論	2①～②	2			○						1			

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考												
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手													
学科科目	臨床心理科目群	発達心理学 1	2①～②	2			○				1				兼1	オムニバス 集中											
		発達心理学 2	2③～④	2		○				1																	
		人格心理学	1③～④	2		○								兼1 兼1 兼1	オムニバス												
		司法・犯罪心理学 1	2②	2		○			1																		
		司法・犯罪心理学 2	2②～③	2		○			3		1	1															
		教育・学校心理学	1①～②	2		○								兼1 兼1 兼1	オムニバス												
		家族心理学	2④	2		○																					
		心理的アセスメント	3③	2		○																					
		心理療法論（心理学的支援法）	3②	2		○				1				兼2 兼1 兼1	オムニバス 集中												
		臨床心理学特殊演習	3①～④	2			○		2																		
		精神分析学	3③	2		○			1																		
		英語文献研究	3①～②	2				○						兼1	オムニバス 集中												
		カウンセリング演習	3①～②	1				○	1																		
		心理演習	3①～②	1				○						兼1 兼1	オムニバス 集中												
		公認心理師の職責	1①～②	2			○			6	1	1	2														
		心理実習 1	3①～④	1					○	6	1	1	2	兼11	—												
		心理実習 2	4①～④	1					○																		
		小計（23科目）		—	6	36	0	—			6	1	1	2	0	兼11	—										
	産業・社会科目群	社会学	1③～④	2			○				1				兼1	集中											
		地域社会学	2②	2		○																					
		家族社会学	2②	2		○				1				兼1 兼1	集中												
		社会調査法	3②～③	2		○				1																	
		社会調査実習	3③～④	2					○					兼1 兼1			集中										
		社会・集団・家族心理学	2①～②	2			○																				
		社会心理学	1③～④	2			○							兼1 兼1				集中									
		対人行動論 1	2③	2		○																					
		対人行動論 2	2④	2		○								兼1 兼1					集中								
		産業・組織心理学	2④	2		○			1																		
		集団心理学	2①～②	2		○								兼1 兼1						集中							
		産業カウンセリング論	2②	2		○			1																		
		コミュニティ心理学	2①	2		○								兼1 兼1							集中						
		文化心理学	3休	2		○			1																		
		マスコミュニケーション論	3②	2		○								兼1 兼1								集中					
		社会保障Ⅰ	3①	2		○																					
		社会保障Ⅱ	3②	2		○								兼1 兼1									集中				
		地域福祉論Ⅰ	3②～③	2		○																					
		地域福祉論Ⅱ	3③	2		○								兼1 兼1										集中			
		権利擁護を支える法制度	3②～③	2		○																					
		社会福祉の原理と政策Ⅰ	2③	2		○								兼1 兼1											集中		
		社会福祉の原理と政策Ⅱ	2④	2		○																					
		関係行政論	2④	2		○								兼1 兼1												集中	
		刑事司法と福祉	3①	2		○																					
		小計（24科目）		—	6	42	0	—			3	0	0	0		0											兼13
	生命・健康科学科目群	生命科学 1	1②	2			○				1					兼1 兼1											集中
		生命科学 2	2③	2							1																
		生命科学実験演習 1	3③	1					○		1				兼1 兼1	集中											
		生命科学実験演習 2	3④	1							1																
		自然人類学 1	2②	2			○				1				兼1 兼1		集中										
		自然人類学 2	2③	2			○				1																
		生理実験演習 1	3③	1						○					兼1 兼1			集中									
		生理実験演習 2	3④	1						○																	
		脳と心 1	1③	2			○								兼1 兼1				集中								
		脳と心 2	2④	2			○																				
		心理統計法演習	3①～②	2			○								兼1 兼1					集中							
		健康・医療心理学	3①～②	2			○			1																	
		健康科学	2③～④	2			○								兼1 兼1						集中						
		精神医学(精神疾患とその治療)Ⅰ	2①～②	2			○			1																	
		精神医学(精神疾患とその治療)Ⅱ	2③～④	2			○			1					兼1 兼1							集中					
		医学知識（人体の構造と機能及び疾病）	1③～④	2			○			1																	
		心身医学	3④	2			○								兼1 兼1								集中				
		障害者・障害児心理学	2④	2			○																				
		福祉心理学	1④	2			○					1			兼1 兼1									集中			
		神経・生理心理学	2③	2			○																				
		スポーツ心理学	2休	2			○			1					兼1 兼1										集中		
		生体適応論	2④	2			○																				
		小計（22科目）		—	6	34	0	—			5	0	1	0	0											兼8	—
	精神保健福祉科目群	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2③		2		○								兼1 兼1											オムニバス	
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2④		2		○																				
		精神障害リハビリテーション論	3③～④		2		○								兼1 兼1	オムニバス											
		精神保健福祉の原理Ⅰ	2③		2		○			1																	
		精神保健福祉の原理Ⅱ	2④		2		○			1					兼1 兼1		オムニバス										
		精神保健福祉制度論	2④		2		○																				
		ソーシャルワーク論	1②		2		○			1					兼1 兼1			オムニバス									
		ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅰ	3①		2		○			1																	
		ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅱ	3②		2		○			1					兼1 兼1				オムニバス								
		ソーシャルワーク演習	2③～④		1			○		1																	
		ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ	3①～②		1			○		1					兼1 兼1					オムニバス							
		ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱ	3③～④		1			○		1																	
		ソーシャルワーク演習(専門)Ⅲ	4③～④		1			○		1			1		兼1 兼1						オムニバス						

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
学科科目	福祉保健 群科目	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	3③～④	1			○		1			1		オムニバス オムニバス オムニバス	
		ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	4①～④	2			○		1			1			
		ソーシャルワーク実習	4①～④	4					1			1			
		障害者福祉論	3①～②	2		○			1			1			
		小計（17科目）	—	0	31	0	—		1	0	0	1	0		兼3
	人間 演習 論	人間論演習1	3①～②	1				○		8	2				オムニバス オムニバス
		人間論演習2	3③～④	1				○		8	2				
		小計（2科目）	—	2	0	0	—		8	2	0	0	0	—	—
	発達・フ ィールド・イ ンタースタ ディーズ学 部	フィールド・スタディーズ発展1（人間科学）	2①～④	3			○		1					集中	
		フィールド・スタディーズ発展2（人間科学）	2休	3			○		1						
	小計（2科目）	—	0	6	0	—		1	0	0	0	0	—	—	
	総合 科目	人間科学プロジェクト1	2休	2				○		1					集中
		人間科学プロジェクト2	3休	2				○		1					
		総合研究1	2休	2				○		1					
		総合研究2	2休	2				○		1					
		International Lectures(Human Sciences)1	2休	1		○			1						
		International Lectures(Human Sciences)2	2②～③	1		○			1						
		小計（6科目）	—	0	10	0	—		3	0	0	0	0	—	
	卒業 研究	卒業論文	4①～④	2			○		9	2				兼1	
		卒業論文演習1	4①～②	1				○	9	2				兼1	
		卒業論文演習2	4③～④	1				○	9	2				兼1	
		小計（3科目）	—	4	0	0	—		9	2	0	0	0	兼1	
合計（230科目）				54	329	0	—		13	2	3	5	0	兼115	—
学位又は称号		学士（人間学）		学位又は学科の分野				文学関係、社会学・社会福祉学関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
共通科目は、必修16単位。学科科目は、必修38単位を含めて86単位。自由 選択単位は、22単位以上。自由選択単位は、共通科目、学科科目、資格取得科 目、5大学単位認定科目、他学部・他学科の学科科目の単位をあてることができ る。 （履修科目の登録の上限：1年次40単位、2年次42単位、3年次42単位、 4年次36単位（年間））							1学年の学期区分				4学期				
							1学期の授業期間				7週				
							1時限の授業時間				100分				

教 育 課 程 等 の 概 要															
（人間科学部社会福祉学科）															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
建 学	仏教（生き方を考える）基礎	1①～②	2			○								兼2	メディア
	仏教（生き方を考える）発展	3③～④	2			○								兼1	メディア
ツ ス 体・ポ 身	小計（2科目）	—	4	0	0	—			0	0	0	0	0	兼3	—
	スポーツと身体科学	1①～②		1			○							兼7	オムニバス
体・ポ 身	フィールド・スポーツ	2休		1			○							兼1	集中
	小計（2科目）	—	0	2	0	—			0	0	0	0	0	兼7	—
情 報	データサイエンス基礎	1①	1				○							兼1	メディア
	人工知能基礎	1②	1				○							兼1	メディア
	メディアリテラシー	1③・④		1			○							兼3	メディア
	情報技法基礎	1③・④		1			○							兼3	メディア
	情報技法発展A	2①・②		1			○							兼1	メディア
	情報技法発展B	2②～③		1			○							兼1	メディア
	情報技法発展C	2②～③		1			○							兼1	メディア
	プログラミング基礎	1③・④		1			○							兼3	メディア
	プログラミング発展A	2①・②		1			○							兼2	メディア
	プログラミング発展B	2②～③		1			○							兼1	メディア
	人工知能技術と社会	2③～④		1			○							兼1	メディア
	機械学習活用1	2④		1			○							兼1	メディア
	機械学習活用2	2④		1			○							兼1	メディア
	データサイエンス活用1	2④		1			○							兼1	メディア
	データサイエンス活用2	2④		1			○							兼1	メディア
	メディアデザイン	2④		1			○							兼1	メディア
	サービスデザイン	2④		1			○							兼1	メディア
	人工知能実践プロジェクト	3①～②		2			○							兼1	—
共 通 科 目	小計（18科目）	—	2	17	0	—			0	0	0	0	0	兼9	—
	英語基礎A	1①～②	2				○			1				兼5	
	英語基礎B	1①～②		1			○							兼4	
	英語基礎C	1③～④	2				○			1				兼5	
	英語基礎D	1③～④		1			○							兼4	
	英語発展A	2①～②		1			○							兼1	
	英語発展B	2①～②		1			○							兼3	
	英語発展C	2③～④		1			○							兼1	
	英語発展D	2③～④		1			○							兼3	
	英語総合A	3①～②		1			○			1				兼1	
	英語総合B	3③～④		1			○			1				兼1	
	中国語基礎1	1①～②		1			○							兼4	
	中国語基礎2	1③～④		1			○							兼4	
	中国語発展1	2①～②		1			○							兼1	
	中国語発展2	2③～④		1			○							兼1	
	中国語総合1	3①～②		1			○							兼1	
	中国語総合2	3③～④		1			○							兼1	
外 国 語	フランス語基礎1	1①～②		1			○							兼1	
	フランス語基礎2	1③～④		1			○							兼1	
	フランス語発展1	2①～②		1			○							兼1	
	フランス語発展2	2③～④		1			○							兼1	
	フランス語総合1	3①～②		1			○							兼1	メディア
	フランス語総合2	3③～④		1			○							兼1	メディア
	ドイツ語基礎1	1①～②		1			○							兼2	
	ドイツ語基礎2	1③～④		1			○							兼2	
	ドイツ語発展1	2①～②		1			○							兼1	
	ドイツ語発展2	2③～④		1			○							兼1	
	ドイツ語総合1	3①～②		1			○							兼1	メディア
	ドイツ語総合2	3③～④		1			○							兼1	メディア
	スペイン語基礎1	1①～②		1			○							兼1	
	スペイン語基礎2	1③～④		1			○							兼1	
	スペイン語発展1	2①～②		1			○							兼1	
	スペイン語発展2	2③～④		1			○							兼1	
	スペイン語総合1	3①～②		1			○							兼1	メディア
	スペイン語総合2	3③～④		1			○							兼1	メディア
	韓国語基礎1	1①～②		1			○							兼3	
	韓国語基礎2	1③～④		1			○							兼3	
	韓国語発展1	2①～②		1			○		1						
	韓国語発展2	2③～④		1			○		1						
	韓国語総合1	3①～②		1			○		1						
	韓国語総合2	3③～④		1			○		1						
	留学準備1	1①～②		1			○			1					
	留学準備2	1①～②		1			○			1					
	英語資格・検定試験対策1	1①・②		1			○			1					
	英語資格・検定試験対策2	1①・②・③		1			○			1					
共 通 科 目	小計（44科目）	—	4	42	0	—			1	1	0	0	0	兼21	—

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通科目	教養日本語	日本語リテラシー	1②	1		○								兼5 メディア
		日本語基礎A	1①	1			○							兼2
		日本語基礎B	1②	1			○							兼2
		日本語基礎C	1③	1			○							兼2
		日本語基礎D	1④	1			○							兼2
		日本語発展A	2①	1			○							兼1
		日本語発展B	2②	1			○							兼1
		日本語発展C	2③	1			○							兼1
		日本語発展D	2④	1			○							兼1
		日本事情	1③～④	2		○								兼1
	小計 (10科目)		—	1	10	0	—		0	0	0	0	0	兼9
	CHP	SDGs基礎	1①	1		○			2					兼5
		SDGs発展1	1②	1		○			2					兼5
		SDGs発展2	1③	1		○								兼7
		SDGs発展3	1④	1		○								兼7
		SDGs特講	3①～②	2		○								兼1
	小計 (5科目)		—	4	2	0	—		3	0	0	0	0	兼23
	フィールド・スタディーズ	フィールド・スタディーズ	1休	1		○								兼1
		フィールド・スタディーズ1	1休		1		○							兼1
		フィールド・スタディーズ2	1休		2		○							兼1
		フィールド・スタディーズ3	1休		3		○							兼1
		フィールド・スタディーズ4	1休		4		○							兼1
		フィールド・スタディーズ発展1A	1休		1		○							兼1
		フィールド・スタディーズ発展1B	1休		2		○							兼1
		フィールド・スタディーズ発展1C	1休		3		○							兼1
		フィールド・スタディーズ発展1D	1休		4		○							兼1
		フィールド・スタディーズ発展2A	2休		1		○							兼1
		フィールド・スタディーズ発展2B	2休		2		○							兼1
		フィールド・スタディーズ発展2C	2休		3		○							兼1
		フィールド・スタディーズ発展2D	2休		4		○							兼1
		フィールド・スタディーズ発展2E	2休		5		○							兼1
		フィールド・スタディーズ発展3A	3休		1		○							兼1
		フィールド・スタディーズ発展3B	3休		2		○							兼1
		フィールド・スタディーズ発展3C	3休		3		○							兼1
		フィールド・スタディーズ発展3D	3休		4		○							兼1
		フィールド・スタディーズ発展3E	3休		5		○							兼1
		フィールド・スタディーズ発展4A	4休		1		○							兼1
		フィールド・スタディーズ発展4B	4休		2		○							兼1
		フィールド・スタディーズ発展4C	4休		3		○							兼1
		フィールド・スタディーズ発展4D	4休		4		○							兼1
	小計 (23科目)		—	1	60	0	—		0	0	0	0	0	兼2
	シタイン ブ	インターンシップ	2②～④		1		○							兼1
		企業協働プロジェクト	2①～④		2		○							兼1
	小計 (2科目)		—	0	3	0	—		0	0	0	0	0	兼1
	ナ養全 ーゼ学 ルミ教	全学教養ゼミナール1	1①～②		2		○							兼6
		全学教養ゼミナール2	1③～④		2		○							兼3
		小計 (2科目)	—	0	4	0	—		0	0	0	0	0	兼8
	講寄 座付	武蔵野市自由講座	1③～④		2		○		1					兼1
		証券ビジネス論	2③～④		2		○							兼1
	小計 (2科目)		—	0	4	0	—		1	0	0	0	0	兼1
学科科目	社会福祉 基盤形成 科目群	ソーシャルワークの基盤と専門職1	1	2		○			1					兼1
		ソーシャルワークの基盤と専門職2	1	2		○			1					
		ソーシャルワークの理論と方法1	1	2		○			1					
		ソーシャルワークの理論と方法2	1	2		○			1					
		地域福祉と包括的支援体制1	1	2		○			1					
		地域福祉と包括的支援体制2	1	2		○								
		コミュニティ・オーガナイズ論	3		2	○								
		ケースマネジメント論	3		2	○			1					
		ソーシャルワークの理論と方法3	2	2		○			1					
		ソーシャルワークの理論と方法4	2	2		○					1			
		社会福祉の原理と政策1	1	2		○			1					
		社会福祉の原理と政策2	1	2		○			1					
	小計 (12科目)		—	20	4	0	—		7		1			兼2

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
社会福祉実践領域科目群		高齢者福祉	2①	2			○			1					兼1 <	

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
学科 科目 目	社会福祉実 践力統 合科	社会福祉職業論	3④		1		○			1						
		社会福祉特講 1	4①		1		○			8		1				
		社会福祉特講 2	4②		1		○			8		1				
		社会福祉特講 3	4③		1		○			8		1				
		社会福祉特講 4	4④		1		○			8		1				
		小計 (5科目)	—	0	5	0	—			8		1				—
		合計 (183科目)	—	80	223		—			10	2	1	2		兼98	—
学位又は称号		学士 (社会福祉学)		学位又は学科の分野			社会学・社会福祉学関係									
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
共通科目は、必修 16 単位。学科科目は必修 64 単位を含めて 88 単位。自由選択単位は、20 単位以上。自由選択単位は、共通科目、学科科目、5 大学単位認定科目、他学部・他学科の学科科目の単位をあてることができる。 (履修科目の登録の上限：1 年次 44 単位、2 年次 42 単位、3 年次 39 単位、4 年次 35 単位 (年間))							1 学年の学期区分				4 学期					
							1 学期の授業期間				7 週					
							1 時限の授業時間				100 分					

教 育 課 程 等 の 概 要															
（工学部サステナビリティ学科）															
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実験・実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
建 学		仏教（生き方を考える）基礎	1①～②	2			○								兼1 メディア
		仏教（生き方を考える）発展	3③～④	2			○								兼1 メディア
		小計（2科目）	—	4	0	0	—			0	0	0	0	0	兼2 —
		スポーツと身体科学	1①～②		1			○							兼7 オムニバス
ツ ス 体・ボ 身		フィールド・スポーツ	2休		1			○							兼1 集中
		小計（2科目）	—	0	2	0	—			0	0	0	0	0	兼7 —
	情 報	データサイエンス基礎	1①	1				○							兼1 メディア
		人工知能基礎	1②	1				○							兼1 メディア
		メディアリテラシー	1③・④		1			○							兼2 メディア
		情報技法基礎	1③・④		1			○							兼4 メディア
		情報技法発展A	2①・②		1			○							兼1 メディア
		情報技法発展B	2②～③		1			○							兼1 メディア
		情報技法発展C	2②～③		1			○							兼1 メディア
		プログラミング基礎	1③・④		1			○							兼3 メディア
		プログラミング発展A	2①・②		1			○							兼2 メディア
		プログラミング発展B	2②～③		1			○							兼1 メディア
		人工知能技術と社会	2③～④		1			○							兼1 メディア
		機械学習活用1	2④		1			○							兼1 メディア
		機械学習活用2	2④		1			○							兼1 メディア
		データサイエンス活用1	2④		1			○							兼1 メディア
		データサイエンス活用2	2④		1			○							兼1 メディア
		メディアデザイン	2④		1			○							兼1 メディア
		サービスデザイン	2④		1			○							兼1 メディア
		人工知能実践プロジェクト	3①～②		2			○							兼1 メディア
		小計（18科目）	—	2	17	0	—			0	0	0	0	0	兼9 —
共 通 科 目	外 国 語	英語基礎A	1①～②	2				○							兼8 メディア
		英語基礎B	1①～②		1			○							兼4 メディア
		英語基礎C	1③～④	2				○							兼8 メディア
		英語基礎D	1③～④		1			○							兼4 メディア
		英語発展A	2①～②		1			○							兼2 メディア
		英語発展B	2①～②		1			○							兼2 メディア
		英語発展C	2③～④		1			○							兼2 メディア
		英語発展D	2③～④		1			○							兼2 メディア
		英語総合A	3①～②		1			○							兼2 メディア
		英語総合B	3③～④		1			○							兼2 メディア
		中国語基礎1	1①～②		1			○							兼4 メディア
		中国語基礎2	1③～④		1			○							兼4 メディア
		中国語発展1	2①～②		1			○							兼1 メディア
		中国語発展2	2③～④		1			○							兼1 メディア
		中国語総合1	3①～②		1			○							兼1 メディア
		中国語総合2	3③～④		1			○							兼1 メディア
		フランス語基礎1	1①～②		1			○							兼1 メディア
		フランス語基礎2	1③～④		1			○							兼1 メディア
		フランス語発展1	2①～②		1			○							兼1 メディア
		フランス語発展2	2③～④		1			○							兼1 メディア
		フランス語総合1	3①～②		1			○							兼1 メディア
		フランス語総合2	3③～④		1			○							兼1 メディア
		ドイツ語基礎1	1①～②		1			○							兼1 メディア
		ドイツ語基礎2	1③～④		1			○							兼1 メディア
		ドイツ語発展1	2①～②		1			○							兼1 メディア
		ドイツ語発展2	2③～④		1			○							兼1 メディア
		ドイツ語総合1	3①～②		1			○							兼1 メディア
		ドイツ語総合2	3③～④		1			○							兼1 メディア
		スペイン語基礎1	1①～②		1			○							兼2 メディア
		スペイン語基礎2	1③～④		1			○							兼2 メディア
		スペイン語発展1	2①～②		1			○							兼1 メディア
		スペイン語発展2	2③～④		1			○							兼1 メディア
		スペイン語総合1	3①～②		1			○							兼1 メディア
		スペイン語総合2	3③～④		1			○							兼1 メディア
		韓国語基礎1	1①～②		1			○							兼3 メディア
		韓国語基礎2	1③～④		1			○							兼3 メディア
		韓国語発展1	2①～②		1			○							兼1 メディア
		韓国語発展2	2③～④		1			○							兼1 メディア
		韓国語総合1	3①～②		1			○							兼1 メディア
		韓国語総合2	3③～④		1			○							兼1 メディア
		留学準備1	1①～②		1			○							兼1 メディア
		留学準備2	1①～②		1			○							兼1 メディア
		英語資格・検定試験対策1	1①・②		1			○							兼1 メディア
		英語資格・検定試験対策2	1①・②・③		1			○							兼1 メディア
		小計（44科目）	—	4	42	0	—			0	0	0	0	0	兼27 —

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	教養 日本語	日本語リテラシー	1②	1		○								兼2 兼5 兼6 兼6 兼6 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1	メディア
		日本語基礎A	1①	1			○								
		日本語基礎B	1②	1			○								
		日本語基礎C	1③	1			○								
		日本語基礎D	1④	1			○								
		日本語発展A	2①	1			○								
		日本語発展B	2②	1			○								
		日本語発展C	2③	1			○								
		日本語発展D	2④	1			○								
		日本事情	1③～④	2		○									
	小計（10科目）		—	1	10	0	—		0	0	0	0	0	兼9	—
	C H P	SDGs基礎	1①	1		○								兼5 兼6 兼6 兼8 兼1	メディア メディア メディア メディア
		SDGs発展1	1②	1		○									
		SDGs発展2	1③	1		○									
		SDGs発展3	1④	1		○									
		SDGs特講	3①～②	2			○								
	小計（5科目）		—	4	2	0	—		0	0	0	0	0	兼21	—
	フ ィ ー ル ド ・ ス タ デ ィ ー ズ	フィールド・スタディーズ	1休	1		○								兼1	集中
		フィールド・スタディーズ1	1休	1			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ2	1休	2			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ3	1休	3			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ4	1休	4			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展1A	1休	1			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展1B	1休	2			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展1C	1休	3			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展1D	1休	4			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展2A	2休	1			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展2B	2休	2			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展2C	2休	3			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展2D	2休	4			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展2E	2休	5			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展3A	3休	1			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展3B	3休	2			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展3C	3休	3			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展3D	3休	4			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展3E	3休	5			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展4A	4休	1			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展4B	4休	2			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展4C	4休	3			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展4D	4休	4			○							兼1	集中
	小計（23科目）		—	1	60	0	—		0	0	0	0	0	兼1	—
	シ ッ プ ン	インターンシップ	2②～④	1		○								兼1	
		企業協働プロジェクト	2①～④	2			○							兼1	
	小計（2科目）		—	0	3	0	—		0	0	0	0	0	兼1	—
	ナ 養 全 ル ミ 教	全学教養ゼミナール1	1①～②	2		○								兼6 兼3	メディア メディア
		全学教養ゼミナール2	1③～④	2		○									
	小計（2科目）		—	0	4	0	—		0	0	0	0	0	兼8	—
	講 寄 座 付	武蔵野市自由講座	1③～④	2		○								兼13	
		証券ビジネス論	2③～④	2		○								兼1	
	小計（2科目）		—	0	4	0	—		0	0	0	0	0	兼14	—
学 科 科 目	サ ス テ ナ ビ リ テ ィ 基 幹 科 目	サステナビリティ学と創造的学び	1①	1			○		2	2				兼4	共同
		アカデミックスキル入門	1②	2			○								
		サステナビリティ学基礎A	1①	2			○			1					
		サステナビリティ学基礎B	1②	2			○		2						
		環境倫理・環境正義	1③	2			○							兼1	
		環境エネルギー論	1③	2			○							兼1	
		資源循環論	1④	2			○				1				
		サステナビリティ思考入門	2①	2			○		1	2					
		環境福祉学	2②	2			○		1						
		環境政策論	2③	2			○		1						
		環境経済学	2・3③	2			○							兼1	
		サステナブルライフスタイル論	2・3④	2			○							兼1	
		環境保全生態学	2①	2			○				1				
		環境地球化学	2②	2			○			1					
		水とサステナビリティ	2・3①	2			○							兼1	
		食とサステナビリティ	2・3②	2			○							兼1	
	小計（16科目）		—	23	8	0	—		5	3	2	0	0	兼10	—
	ソ ー シ ャ ル デ ザ ィ ン 科 目	ソーシャルデザイン事例研究	2・3①	2		○				1					
		サステナブルデザイン思考	2・3②	2			○			1					
		システム思考と学習する組織	2・3③	2			○							兼1	集中
		共創型リーダーシップ論	2・3休	2										兼1	
		シビックアクション論	2・3③	2										兼1	
		ファシリテーション演習	2・3①	2										兼1	
		メディア表現演習	2・3②	2										兼1	
		社会調査法	2・3①	2										兼1	
		ソーシャルビジネス論	2・3④	2		○				1					
		サステナブル経営論	2・3①	2		○			1						
	小計（10科目）		—	2	2		○		1					兼1	オムニバス

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考															
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手																
学科科目	デザイン ソーシャル 科目	コミュニティデザイン論	2・3③		2		○				1					兼1 オムニバス														
		持続可能な地域づくり論	2・3④		2		○			1					兼1 オムニバス															
		交渉と合意形成	2・3③		2			○		1							兼1 オムニバス													
		環境心理学	2・3②		2		○			1								兼1 オムニバス												
		E S D論	2・3④		2		○			1									兼1 オムニバス											
	小計 (16科目)	—	0	32	0	—	—	3	1	0	0	0	兼9	—																
	環境エン ジニアリ ング科目	環境統計学	2①		2			○			1		1			兼1 オムニバス														
		環境材料学	2・3③		2			○			1						兼1 オムニバス													
		環境気象学	2・3③		2			○			1		1					兼1 オムニバス												
		生物多様性保全特論	3②		2			○				1							兼1 オムニバス											
		環境分析化学	2・3②		2			○			1		1							兼1 オムニバス										
		CAD演習	2・3①		2				○				1								兼1 オムニバス									
		G I S ・ 測量演習	2・3①		2				○				1									兼1 オムニバス								
		環境調査演習A	3①		2				○			1		1									兼1 オムニバス							
		環境調査演習B	2・3②		2				○				1											兼1 オムニバス						
		環境調査演習C	3②		2				○			1													兼1 オムニバス					
		サステナビリティリスク学	2・3④		2			○				1														兼1 オムニバス				
		ライフサイクルアセスメント論	2・3③		2			○			1																兼1 オムニバス			
		カーボンマネジメント演習	2・3④		2				○		1																	兼1 オムニバス		
		資源循環マネジメント演習	2・3③		2				○				1																兼1 オムニバス	
		持続可能技術特論 1	2・3④		2			○																						兼1 オムニバス
		持続可能技術特論 2	2・3②		2			○			1																			
	小計 (16科目)	—	0	32	0	—	—	3	1	2	0	0	兼5	—																
	プロ ジェ クト 科目	サステナビリティプロジェクト入門	1②	2				○			5	1				兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 オムニバス														
		サステナビリティプロジェクト1	1後	4					○		5	3	2				兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 オムニバス													
		サステナビリティプロジェクト2	2前	4					○		5	3	2					兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 オムニバス												
		サステナビリティプロジェクト3	2後	4					○		5	3	2						兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 オムニバス											
		サステナビリティプロジェクト4	3前	4					○		5	3	2							兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 オムニバス										
		サステナビリティ研究1	3後	4					○		5	3	2								兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 オムニバス									
		サステナビリティ研究2	4前	4					○		5	3	2									兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 オムニバス								
		卒業論文	4後	4					○		5	3	2										兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 オムニバス							
	小計 (8科目)	—	26	4	0	—	—	5	3	2	0	0	兼1	—																
	社会 連 携 科目	サステナビリティ学社会実践演習A	1・2・3・4通		1				○		5	3	2																	
		サステナビリティ学社会実践演習B	1・2・3・4通		1				○		5	3	2																	
		サステナビリティ学社会実践演習C	1・2・3・4通		2				○		5	3	2																	
		サステナビリティ学社会実践演習D	1・2・3・4通		2				○		5	3	2																	
		サステナビリティ学社会実践演習E	1・2・3・4通		4				○		5	3	2																	
		サステナビリティ学総合演習	1・2・3・4通		1				○		1	1	1																	
	小計 (6科目)	—	0	11	0	—	—	5	3	2	0	0	0	—																
	リ テ ィ 先 端 ビ ジ ネ ッ ス 科目	サステナビリティ学特殊授業A	1・2・3・4通		2			○			6	3	2			兼1 兼1														

授 業 科 目 の 概 要			
（ウェルビーイング学部ウェルビーイング学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
スポーツ・身体 共通科目	スポーツと身体科学	生涯にわたる心身の健康の維持増進に必要な知識と方法を、実技を通して獲得することを目的とする。 本授業は、全14回の授業からなる。授業の半分（6回）を「身体科学」として全員が、坐禅、ヨガ、筋力トレーニングを履修する。残りの半分（8回）は、「スポーツ科学5種目」（バスケットボール、バレーボール、サッカー、テニス、合気道）から1種目を選択して履修する。 （オムニバス方式/全14回） 前半（6回） （58 中村 剛/2回）ヨガ （71 大久保 寛之/2回）筋力トレーニング （91 秦 慧州/2回）坐禅 後半（8回）については、以下いずれかのクラスから選択する。 （71 大久保 寛之/8回）バスケットボール （63 青葉 真紀/8回）バレーボール （58 中村 剛/8回）合気道 （86 高橋 徹/8回）テニス （104 山本 恵弥里/8回）サッカー	オムニバス方式
	フィールド・スポーツ	集中演習形式による各種の運動体験を通じて「健康・体力の維持増進を含めて、自己の身体及び身体運動のもつ意義」を考えると同時に、「社会的適応能力や社会発展のメカニズムに積極的に関わりうる能力の獲得」を企図し実現する。演習展開のすべての作業に学生が主体的に携わりながらPDCAサイクルを毎時間繰り返すことで、「自己理解」「他者理解」を深めるとともに、「コミュニケーション能力」を高め、創造力・実践力を高めていく。	
	データサイエンス基礎	本授業は、目的に応じてデータを収集・管理・編集し、基本的なデータ処理関数を適用し、その結果を可視化・図式化し第三者に客観的エビデンスを示せるようになるデータサイエンスリテラシーを学習の到達目標とする。さらに、クラウドベースの文書表現ツールの活用法および動画レポートの作成、インターネット時代の情報倫理、自己防衛法などの情報リテラシーを学ぶ。グループ協調学習を基軸に進め、協働・プレゼンスキルなども副次的に身につける。	
	人工知能基礎	本授業は、人工知能の基本的な能力や社会応用の可能性について理解をするとともに、人工知能ツールやサービスの利活用方法について体験的な学修を進め人工知能の利活用リテラシーを学ぶ。さらに、人工知能に代表される人間の知性を代行するサービスの社会的浸透が進むと働き方、職業、職種、社会生活がどのように変化しどのように対応して自分のキャリアを描くべきかを考える。グループ協調学習を基軸に進め、協働・プレゼンスキルなども副次的に身につける。	
	メディアリテラシー	WebからSNSに代表される個人が発信し、個人が利活用できる多様な社会メディアが溢れている時代で、個人はモバイル端末から直接不特定多数に向けて情報発信や不特定多数の情報ソースから情報を収集することができる環境に置かれている。 本授業では、これらの情報環境を前提にした、メディアを安全安心に、相互の権利やマナーを尊重して利活用できるスキルセットを実践的に理解し、自らメディアを通じた社会発信や利活用できる実践的なリテラシーを学ぶ。	
	情報技法基礎	目的に応じた情報（データ）の可視化と分析、仮説（アイディア）の創出、情報の論理的な図式化技法を学ぶ。具体的には、クラウドツールであるスプレッドシートや可視化ツールを活用し、情報・データを様々な形で可視化したり、情報を分類・比較したりすることを通じて、情報の新しい関係性（仮説）を発見する基本的な方法論と実践技法を学ぶ。さらに発見された仮説（アイディア）を論理的に表現・論証し、その論理構造が他者に伝わりやすい形で表現する手法（可視化・図式化）を学ぶ。これらの技法を学ぶことを通じて、他者に伝達したい主張の共通理解を得るために、情報分析による論証や論理的な説明の重要性と具体的な実践スキルを身につける。	
	情報技法発展A	「情報技法基礎」の履修を前提に、データの統計的な分析法及び論理的な分析と表現手法について学修する。いわゆる統計的思考及び論理的思考について実践的知識とスキルを学ぶ。問題を発見し、解決案を見出し、他者を説得するためには、エビデンスに基づいた主張と論理的な説得の構造が必要である。本授業では、「情報技法基礎」で学んだ分析スキルに加え、より高度な統計的手法を学ぶ。また論理的思考法では、観察された事象を論理的な構造として捉える論理構造の構築手法、論理構造の説得力のある表現手法について学ぶ。これらの学修を通じて、統計的思考及び論理的思考の実践的な思考法及びスキルを身につけると同時に、情報を正しく読む力、データに基づき論理的に主張する力、異なる考え方の間を論理的に埋めていくコミュニケーション力など、社会で求められる能力の基礎スキルを獲得することを狙いとする。	
	情報技法発展B	「情報技法基礎」の履修を前提に、質的データの収集方法やその分析表現方法及び情報（アイディア）の創出方法等について体系的・実践的に学ぶ。いわゆるデザイン思考についての実践的知識とスキルを学ぶ。質的データの収集・分析・表現方法については、社会調査法、観察方法の基本的な方法論とスキルセットを学ぶ。また、デザイン思考については、アイディアを創出し洗練化する基本的なプロセス、重要な概念・方法論について実践的なワークショップを通じて反復的に学ぶ。	
	情報技法発展C	「情報技法基礎」の履修を前提に、データの高度な分析や可視化の技法について専用の可視化・分析ツールを活用して行う。本授業では、BIツールと呼ばれるような、大量のデータをリアルタイムに可視化し、迅速な問題発見や意思決定を行うための技法を身につける。大量のデータの分析にあたり、まずはデータ自身の性質を把握するために可視化技法が最も基本となるスキルである。1つのデータを多角的に可視化することを通じて、データの本質を見出していく手法を学ぶ。また単に可視化することとどまらず、AIツールなどと連動したデータのモデル化やシミュレーションを行い、現状のデータを理解する手法とともに、予測のための方法も学ぶ。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	情報	プログラミング基礎	ブロックを組み合わせることでコンピュータのキャラクターを動かしたり、IoTデバイスのランプや音をコントロールすることで、簡単なプログラムを作成する方法を学び、プログラミングの基本的な仕組みを理解する。授業ではプログラミングをするときに重要な問題解決手法（問題の分離、パターンの発見、抽象化、手順化）について学び、課題を解決するために必要な機能を自分で考え、プログラムで作成できる能力を身につける。
		プログラミング発展A	AIを学ぶために必要なプログラミング言語の一つであるPythonを利用し、プログラミングの基礎、またAIの基本要素の一つである回帰モデルを作成する。プログラミングでは変数やリストディクショナリなどの基本型、算術及び比較演算子、またifやfor文などの制御型について学ぶ。また単回帰や重回帰などの線形回帰による分析方法について学び、Webサイトの広告費からクリック数を予測するプログラムを作成する。
		プログラミング発展B	「プログラミング発展A」の履修を前提に、AIを学ぶために必要なプログラミング言語の一つであるPythonを利用した関数化、またヒストグラムや折れ線グラフなどを作成する可視化方法について学ぶ。またAIの学習アルゴリズムとして近年注目されているニューラルネットワークについて学び、基本的なアルゴリズムの一つであるパーセプトロンを実装して手書き文字を学修し、自分で書いた文字を分類するプログラムを作成する。
		人工知能技術と社会	本授業では、人工知能技術の最前線で活躍する第一人者による知見に触れ、また、AIメディアの事例調査を通して、今後の社会の情報の変化について、理解を深め自身のビジョンを醸成する。調査と相互の意見交換によって、自分のテーマへの取り組み方を具体化させる。前半は人工知能技術の最前線で活躍する第一人者による知見に触れ、後半は主にグループワークを通じて、最新事例からの学びと自分自身のテーマについて、AI活用に必要な視点からの深掘りを進める。
		機械学習活用 1	人と会話することが可能なコンピュータを作りながら、人はどのように言葉を獲得しているのか、なぜ言葉を理解することができるのか、またコンピュータは人の言葉をどのように理解しているのか、コンピュータが理解できる会話とできない会話にはどのような違いがあるのかについて理解する。本授業では質問応答システムをもとに、質問の解析、文書の検索、回答候補の抽出、回答を選択する仕組みについて学び、コンピュータがどのように人の質問を理解しているのかを学ぶ。更に人同士の会話の仕組みと比較し、現在のコンピュータでできていないこと、またできるようになるためにはどのような仕組みが必要なのかについて議論する。
		機械学習活用 2	周りを理解して人に教えることができるコンピュータを作りながら、人はどのように世界を見ているのか、なぜものを見て理解することができるのか、またコンピュータは世界をどのように理解しているのか、コンピュータが理解できる世界とできない世界にはどのような違いがあるのかについて理解する。授業では画像認識システムを元に、画像の特徴検出、物体検出、また物体の分類、シーンの認識について学び、コンピュータがどのように世界を理解しているのかを学ぶ。更に人がものを見て理解する仕組みと比較し、現在のコンピュータでできていないこと、またできるようになるためにはどのような仕組みが必要なのかについて議論する。
		データサイエンス活用 1	情報処理、人工知能、統計学などの情報科学系の知恵を理解し、使う力の育成を学修の到達目標とする。また、課題背景を理解したうえで、専門分野の課題を整理し、解決する力の育成も重視する。大学や企業で扱うのは「新しい」ことであり、いわゆる「正解」がないため、「適切な前提と適切な方法で導かれた結果は、きっと適切だろう」という判断の仕方をする必要がある。この授業では、適切な調査と適切な分析をするための実践的な能力を修得する。
		データサイエンス活用 2	データサイエンスを意味のある形に使えるようにし、実装、運用できるようにする力の育成を到達目標とする。また、課題背景を理解したうえで、専門分野の課題を整理し、解決する力の育成も重視する。授業方法としては、ペアワークや、グループワークを念頭に、Google Classroomの「質問」機能や「課題」機能などのICTを活用して、授業中にリアルタイムで実施する双方向活動と、授業後に非同期で実施する双方向活動により進行する。
		メディアデザイン	人工知能やデータサイエンスの技術を、様々な情報メディアで活用する上で必要となるメディアの基本的な知識、スキルを実践的に学ぶ。メディアとしては、Webメディアを取り上げる。Webメディアを構成する重要要素技術であるHTMLとCSSを編集できるツールを扱う基礎スキルを修得して、Webメディアをデザインし、実運用できるようにする。さらに、動画メディア（MRなども）の作成・編集・発信ができる基礎的なスキルも学ぶ。
		サービスデザイン	「情報技法基礎」、「情報技法発展A」、「情報技法発展B」、「プログラミング基礎」、「プログラミング発展A」、「プログラミング発展B」の履修を前提とした内容である。基本は、サービスデザインの体系的な方法論・プロセスを実践的かつ体験的に学ぶ。デザインするサービスは、モバイルアプリやWebサービスを想定して、アイディア創出からデザイン、プロトタイプ作成まで行うことを想定している実践的な内容である。プロトタイプとしては、ビデオプロトタイプ作成を目標にする。
		人工知能実践プロジェクト	本授業では、各学生が個別にテーマを持ち教員の指導下で遂行する。一連の情報科目の知識やスキルを集大成し、ユニークなアイディアを創出することで、具体的にそのアイディアを具現化し、成果をアウトプットする実践的プロジェクト科目である。一連の情報科目で学んだ先進的なツールの活用や方法論を駆使して、SDGsに貢献できるようなユニークなアイディアをメディア、サービス、分析など、カタチのあるものとして集大成する総合的な演習活動である。

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	外国語	英語基礎 A	これからの英語学修の第一段階として、講読テキスト〈時事または文化的内容〉をしっかりと訳読しながら、基礎的な文法も確認して語彙力・読む力を高めていく。授業中に随時行うTOEIC-Bridgeワーク演習では、サブテキストの〈Reading〉の部分を、問題演習を徹底して、スコアアップに活かしていく。 基本文法の理解を確実にして読解力をつけること、自分にとって英語を学ぶ意味を明確にすること、英文を読解しながら幅広い考え方に触れ自己の思考力を向上させることを授業到達目標とする。	
		英語基礎 B	これからの英語学修の第一段階として、視聴覚テキスト〈時事または文化的内容〉をしっかりと訳読しながら、基礎的な文法も確認して語彙力・聞く力を高めていく。授業中に随時行うTOEIC-Bridgeワーク演習では、サブテキストの〈Listening〉の部分を、問題演習を徹底して、スコアアップに活かしていく。 基本文法の理解を確実にして読解力をつけること、自分にとって英語を学ぶ意味を明確にすること、英文を読解しながら幅広い考え方に触れ自己の思考力を向上させることを授業到達目標とする。	
		英語基礎 C	総合英語教材を使用して、日常的に「使える英語」の基本を学び、〈Reading & Listening〉という両技能の修得を目標にした授業展開をしていく。授業中に随時行うTOEIC-Bridge ワーク演習ではより実践的な問題演習を繰り返して、e-learning活用のワークブックとともにスコアアップをはかっていく。 基本文法の理解を確実にして読解力をつけること、自分にとって英語を学ぶ意味を明確にすること、英文を読解しながら幅広い考え方に触れ自己の思考力を向上させることを授業到達目標とする。	
		英語基礎 D	この演習の中で学生はしっかりとノートをとり単語の勉強を行っていく。またグループ発表等を通して、自分の考えを英語でまとめて発表することで、〈Speaking & Writing〉の英語スキル向上を図っていく。単語帳を作って定期的に更新し、それを小テストや他の英語クラスでも活用していくことを学生に求める。 小テストを実施し、学生はその結果を受けて自身の学修状況を把握していく。	
		英語発展 A	2 年次は英語の自律学習の段階ととらえて、異文化英語教材を使用して日常的に「使える英語」のレベルを高めつつ、〈Reading & Listening〉という総合的な技能の修得を目標にした授業展開をしていく。演習中に随時行うTOEIC-IPワーク演習では、e-learning活用のワークブックとともに問題演習を徹底して、スコアアップをはかっていく。 1 年次で身につけた基礎を元に大学での学びへの英文読解力・表現力を高め、英語への世界観を広げること、自身の専門分野で有効な英語を積極的に見つけていくこと、「英語発展 B」の授業とつながりながら、自分が英語で発信したい情報は何かをしっかりと考えることを授業到達目標とする。	
		英語発展 B	グループワーク・発表・作文練習・毎週の問題演習等を通して〈Speaking & Writing〉の力を高めていく。新しい単語や文法等を書き込んで単語帳を作り、演習中のテストや他の英語クラスでも活用していくことを学生に求める。定期的に小テストを実施して、学生には自身の英語レベルを理解させる。教員は様々な手法・教材を用いて、学生の英語表現のスキル向上やTOEICスコアアップを図っていく。	
		英語発展 C	「英語発展 A」・「英語発展 B」に引き続き、2 年次は英語の自律学習の段階ととらえて、特色のある英語教材を使用して、日常的に「使える英語」のレベルを高めつつ、〈Reading & Listening〉という総合的な 2 つの技能の修得を目標にした授業展開をしていく。授業中に随時行うTOEIC-IPワーク演習では、e-learning活用のワークブックとともに模擬テストなどの問題演習を徹底して、スコアアップをはかっていく。「英語発展 D」の授業とつながりながら徐々に難易度を上げ、専門分野で活用できる英語力を身につけること、「英語発展 A」・「英語発展 B」での学修を継続して最終段階として英語を「自分のものにする」こと、2 年間でどこまで「使える」ようになったか自分の力を把握し次の学びへ活かすことを授業到達目標とする。	
		英語発展 D	「英語発展 A」・「英語発展 B」に引き続き、2 年次は英語の自律学習の段階ととらえて、学部に即した英語教材を使用して、日常的に「使える英語」のレベルを高めつつ、特に〈Reading & Speaking〉（プレゼン）という重要な 2 つの技能の修得を目標にした授業展開をしていく。「英文を読み込むこと」そして「人前で簡単なプレゼンをすること」を実践する。授業中に随時行うTOEIC-IPワーク演習では、模擬テストなどの問題演習を徹底して行い、スコアアップをはかっていく。	
		英語総合 A	以下の 3 クラスのうち、いずれかを選択する。 《TOEIC演習》 TOEIC公開テストを受験するために徹底したレベルアップを図るクラスである。レベルの高いTOEIC問題集を活用しながら、実践的な应用能力を身につける。チャレンジしつつ、英語 4 技能の総合力を高めていく。 《Reading》 少しレベルの高い英文を読みこなしていく技能を身につける。徹底した講読演習を進めながら、英語 4 技能の総合力を高める。 《コミュニケーション》 ディスカッションやディベートを中心とした演習を行う。	
		英語総合 B	以下の 3 クラスのうち、いずれかを選択する。 《TOEIC演習》 TOEIC公開テストを受験するために徹底したレベルアップを図るクラスである。「英語総合 A」に引き続き、レベルの高いTOEIC問題集を活用しながら、実践的な应用能力を身につける。チャレンジしつつ、英語 4 技能の総合力を高めていく。 《Reading》 「英語総合 A」に引き続き、レベルの高い英文を読みこなしていく技能を身につける。徹底した講読演習を進めながら、英語 4 技能の総合力を高める。 《コミュニケーション》 「英語総合 A」に引き続き、ディスカッションやディベートを中心とした演習を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	外国語	中国語基礎 1	【演習概要】ピンインを見て正しい発音ができる訓練をし、他者が発音した中国語の音を正しいピンインで把握することを通して、単語をはじめとして文章にいたるまでのリスニング能力を養う。また日本語文法と中国語文法の対応関係を理解できるようにする。 【到達目標】ピンインを見れば正しい発音ができるようになり、辞書をひいて円滑に自習できる基礎力をつくる。中国語の主要な文法に目を通して理解し、中国語文法の特徴を把握する。	
		中国語基礎 2	【演習概要】「中国語基礎 1」に続き、ピンインを見て正しい発音ができる訓練をし、他者が発音した中国語の音を正しいピンインで把握することを通して、単語から文章にいたるリスニング能力を養う。また日本語文法と中国語文法の対応関係を理解できるようにする。 【到達目標】ピンインを見れば正しい発音ができるようになり、辞書をひいて円滑に自習できる基礎力をつくる。中国語の主要な文法に目を通して理解し、中国語文法の特徴を把握する。	
		中国語発展 1	【演習概要】「中国語基礎 1」・「中国語基礎 2」に続く中級の文法を、段階を追って無理なく理解できるようにする。実践的な中国語を反復して練習する。基礎文法を段階を追って無理なく理解できるようにする。演習中に反復練習をして、文法事項の完全修得を目標とする。毎週単語テストを行うため、復習は必須であり、予習として授業前に必ず本文の朗読練習を行うこととする。 【到達目標】中国語検定 4 級に合格できる中国語力を完全に身につけるとともに、3 級合格も目指す。	
		中国語発展 2	【演習概要】「中国語発展 1」に続き、中級の文法を、段階を追って無理なく理解できるようにする。実践的な中国語を反復して練習する。基礎文法を段階を追って無理なく理解できるようにする。演習中に反復練習をして、文法事項の完全修得を目標とする。毎週単語テストを行うため、復習は必須であり、予習として演習前に必ず本文の朗読練習を行うこととする。 【到達目標】中国語検定 4 級に合格できる中国語力を完全に身につけるとともに、3 級合格も目指す。	
		中国語総合 1	「中国語総合 1」では、「中国語基礎 1、2」・「中国語発展 1、2」で学修した内容をふまえ、基礎的な文法の知識と運用力をより確実なものとすることを目指す。具体的には、「読む」「書く」「聞く」「話す」の 4 分野についてバランスよく学修をし、中国語を用いたコミュニケーション能力を養う。さらに、4 分野の学修のみならず、中国語圏の文化にも触れることで、中国語学修を通じた異文化理解を図る。	
		中国語総合 2	「中国語総合 2」では、「中国語基礎 1、2」・「中国語発展 1、2」・「中国語総合 1」で学修した内容をふまえ、基礎的な文法の知識と運用力を定着させることを目指す。具体的には、「読む」「書く」「聞く」「話す」の 4 分野についてバランスよく学修をし、中国語を用いたコミュニケーション能力の定着を図る。さらに、4 分野の学修のみならず、中国語圏文化の理解を深め、中国語学修を通じた異文化理解を図る。	
		フランス語基礎 1	【演習概要】テキストを使用し、文法の基礎を教え、様々な例文を補足して理解を深める。まずは、文法及び発音の規則に時間をかけ、修得させる。時事に関する話題や逸話などを取り入れ、フランス語に対する興味を高める。また、視聴覚教材を積極的に取り入れる。 【到達目標】初級の発音や文法を修得し、フランス語学修の基礎を形成する。また、フランス語学習の全体像を示し、フランス語修得のための道筋を示す。フランス語学修の意義を歴史の文化等の観点から教え、学習意欲を高める。	
		フランス語基礎 2	【演習概要】発音、文法事項を丁寧に解説し、何度も練習を繰り返しながら、フランス語に慣れていく。しっかり修得できるように定期的に小テストを行う。ときにはシャンソンなど視聴覚教材も活用する。 【到達目標】初級文法を中心に、フランス語の基礎を修得することを目標とする。フランス語の発音やリズムに慣れ、聞く・話す・書く・読むという総合的なコミュニケーション能力を養い、言葉を通じてフランスの社会や文化にも関心を広げていく。	
		フランス語発展 1	【演習概要】初等文法を踏まえた上で、さらに本格的な文法修得をする。発音の正確さと基礎を絶えず確認しながら、映画、小説・詩などを活用して、フランス語に対する感性を磨いていく。普段からの予習・復習を怠りなく行う。 【到達目標】1 年で学んだ基礎を押さえた上で、さらなる表現の上達を目指す。映像・朗読CDなどの視聴覚資料などを用いながら、運用の多様性を獲得し、フランス語のニュアンスに触れうる感性を獲得することを目指す。	
		フランス語発展 2	【演習概要】指定された教科書のテキストを読みながら文法事項を解説し、文の基本構造を説明する。フランス語で話したり、聞いて理解することにも注意を払う。また、仏検対策の練習も重ねていき、ときには視聴覚教材も活用する。 【到達目標】1 年次に学修した文法事項を確認しながら、フランス語の比較的やさしい文章を理解し、日常の出来事をフランス語で表現できるようになることが目標である。仏検 4 級に合格できるように文法を復習し基礎を固めていく。さらに、文章を通してフランスの社会や文化にも関心を広げる。	
		フランス語総合 1	「フランス語総合 1」では、「フランス語基礎 1、2」・「フランス語発展 1、2」で学修した内容をふまえ、基礎的な文法の知識と運用力をより確実なものとすることを目指す。具体的には、「読む」「書く」「聞く」「話す」の 4 分野についてバランスよく学修をし、フランス語を用いたコミュニケーション能力を養う。さらに、4 分野の学修のみならず、フランス語圏の文化にも触れることで、フランス語学修を通じた異文化理解を図る。	
		フランス語総合 2	「フランス語総合 2」では、「フランス語基礎 1、2」・「フランス語発展 1、2」・「フランス語総合 1」で学修した内容をふまえ、基礎的な文法の知識と運用力を定着させることを目指す。具体的には、「読む」「書く」「聞く」「話す」の 4 分野についてバランスよく学修をし、フランス語を用いたコミュニケーション能力の定着を図る。さらに、4 分野の学修のみならず、フランス語圏文化の理解を深め、フランス語学修を通じた異文化理解を図る。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	外国語	ドイツ語基礎 1	ドイツ語圏の文学、音楽、哲学は言うに及ばず、近年ではエコ先進国として環境問題でも注目されている。サッカー等のスポーツやモダンアートも盛んである。またヨーロッパ連合EUの中でユーロ経済の重要な役割を担っている。ドイツ語圏は中世からの面影を残した街並みや、森と水の豊かな自然にも恵まれ一年中美しい観光国でもある。この演習ではドイツ語の基礎を、「ドイツ短期留学」を設定したCDの付いた教科書を用いて実践的な演習を通して学修する。
		ドイツ語基礎 2	ドイツ語圏の文学、音楽、哲学は言うに及ばず、近年ではエコ先進国として環境問題でも注目されている。サッカー等のスポーツやモダンアートもさかんである。またヨーロッパ連合EUの中でユーロ経済の重要な役割を担っている。ドイツ語圏は中世からの面影を残した街並みや、森と水の豊かな自然にも恵まれ一年中美しい観光国でもある。この演習では「ドイツ語基礎 1」に続き、ドイツ語の基礎を、「ドイツ短期留学」を設定したCDの付いた教科書を用いて実践的な演習を通して学修する。
		ドイツ語発展 1	【演習概要】「ドイツ語基礎 1」・「ドイツ語基礎 2」で学んだ知識を復習しながら、できるだけ多くの文に触れることで、ドイツ語の表現力をつけていく演習である。具体的な「場面」を設定したワークブックとCDの付いた教科書を用いて演習形式で進めていく。教科書と並行して、1年次の復習を兼ねて、ドイツ語検定 4 級の準備も行う。 【到達目標】ドイツ語初級後期から中級の文法事項を修得し、表現力を向上させて、学年中にドイツ語検定 4 級合格のドイツ語能力を身につける事を目標とする。
		ドイツ語発展 2	【演習概要】「ドイツ語基礎 1」・「ドイツ語基礎 2」で学んだ知識を復習しながら、ドイツ語発展 1 とあわせ、できるだけ多くの文に触れることで、ドイツ語の表現力をつけていく演習である。具体的な「場面」を設定したワークブックとCDの付いた教科書を用いて演習形式で進めていく。教科書と並行して、1年次の復習を兼ねて、ドイツ語検定 4 級の準備も行う。 【到達目標】ドイツ語初級後期から中級の文法事項を修得し、表現力を向上させて、学年中にドイツ語検定 4 級合格のドイツ語能力を身につける事を目標とする。
		ドイツ語総合 1	「ドイツ語総合 1」では、「ドイツ語基礎 1、2」・「ドイツ語発展 1、2」で学修した内容をふまえ、基礎的な文法の知識と運用力をより確実なものとするを目指す。具体的には、「読む」「書く」「聞く」「話す」の 4 分野についてバランスよく学修をし、ドイツ語を用いたコミュニケーション能力を養う。さらに、4 分野の学修のみならず、ドイツ語圏の文化にも触れることで、ドイツ語学修を通じた異文化理解を図る。
		ドイツ語総合 2	「ドイツ語総合 2」では、「ドイツ語基礎 1、2」・「ドイツ語発展 1、2」・「ドイツ語総合 1」で学修した内容をふまえ、基礎的な文法の知識と運用力を定着させることを目指す。具体的には、「読む」「書く」「聞く」「話す」の 4 分野についてバランスよく学修をし、ドイツ語を用いたコミュニケーション能力の定着を図る。さらに、4 分野の学修のみならず、ドイツ語圏文化の理解を深め、ドイツ語学修を通じた異文化理解を図る。
		スペイン語基礎 1	本授業では、スペイン語の文法の基本的構造を理解し、初歩的な読み（発音）・聞き取り・書く能力を培い、相手の話をよく聞き、同時に自分の考えを正確に伝えようとするアクティブな言語力のある姿勢をつくり、スペイン語の初歩的な文法・基本表現を修得する。具体的には、スペイン語圏の文化や歴史、社会事情を知るための教材や視聴覚教材も活用し、初級文法を学びながら、学修した表現を用いて、筆記や口頭練習問題、日常会話、ロールプレイ等を行う。
		スペイン語基礎 2	本授業では、「スペイン語基礎 1」に続き、スペイン語の文法の基本的構造を理解し、初歩的な読み（発音）・聞き取り・書く能力を培い、相手の話をよく聞き、同時に自分の考えを正確に伝えようとするアクティブな言語力のある姿勢をつくり、スペイン語の初歩的な文法・基本表現を修得する。具体的には、スペイン語圏の文化や歴史、社会事情を知るための教材や視聴覚教材も活用し、初級文法を学びながら、学修した表現を用いて、筆記や口頭練習問題、日常会話、ロールプレイ等を行う。
		スペイン語発展 1	初級文法や表現を実習し、コミュニケーション中心の演習で口頭練習問題、日常会話、ロールプレイ等を行う。スペイン語圏の文化や歴史、社会事情を知るための教材を取り入れ、視聴覚教材も適宜使用する。「スペイン語基礎 1」・「スペイン語基礎 2」の学修内容を定着させ、初級文法を一通り身につける。日常のさまざまな場面での表現をおぼえ、簡単な文章を読み書きしたり、基本的な日常会話ができるようになる。過去のことについても話せるようになり、予定、願望、要求などを表せるようになる。スペイン語圏の文化を知り、視野を広げる。
		スペイン語発展 2	「スペイン語発展 1」に引き続き、初級文法や表現を実習し、コミュニケーション中心の演習で口頭練習問題、日常会話、ロールプレイ等を行う。スペイン語圏の文化や歴史、社会事情を知るための教材を取り入れ、視聴覚教材も適宜使用する。日常のさまざまな場面での表現を覚え、簡単な文章を読み書きしたり、基本的な日常会話ができるようになる。過去のことについても話せるようになり、予定、願望、要求などを表せるようになる。スペイン語圏の文化を知り、視野を広げる。
		スペイン語総合 1	「スペイン語総合 1」では、「スペイン語基礎 1、2」・「スペイン語発展 1、2」で学修した内容をふまえ、基礎的な文法の知識と運用力をより確実なものとするを目指す。具体的には、「読む」「書く」「聞く」「話す」の 4 分野についてバランスよく学修をし、スペイン語を用いたコミュニケーション能力を養う。さらに、4 分野の学修のみならず、スペイン語圏の文化にも触れることで、スペイン語学修を通じた異文化理解を図る。
		スペイン語総合 2	「スペイン語総合 2」では、「スペイン語基礎 1、2」・「スペイン語発展 1、2」・「スペイン語総合 1」で学修した内容をふまえ、基礎的な文法の知識と運用力を定着させることを目指す。具体的には、「読む」「書く」「聞く」「話す」の 4 分野についてバランスよく学修をし、スペイン語を用いたコミュニケーション能力の定着を図る。さらに、4 分野の学修のみならず、スペイン語圏文化の理解を深め、スペイン語学修を通じた異文化理解を図る。

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	外国語	韓国語基礎 1	初習外国語として演習の効率をあげるために、テキストを使って授業を進める。最初ハングルの発音と書き方等の文字の初歩的な練習から始め、基礎的な文法と表現を学ぶ。 以下の力を身につけることを目標とする。 ・文字（ハングル）の読み書きができる。 ・正確な発音ができる。 ・簡単な自己紹介とあいさつができる。 ・文法が理解・活用でき、簡単な文章が読める。 ・初級の文型を活用した簡単な文章が書ける。	
		韓国語基礎 2	韓国語の基本的な文法事項と表現を学ぶと共に、簡単な文章の読解、作文と会話の練習を行う。学修項目の文法と表現はドリルを多くして、読む・書く・話す総合的な力が身につくように進める。 以下の力を身につけることを目標とする。 ・基本的なあいさつができる。 ・正確な発音ができる。 ・辞書が使える。 ・初中級レベルの文法と文型が活用できる。 ・初級レベルの文章が読解でき、作文ができる。	
		韓国語発展 1	基本的な文法事項と表現を学び、簡単な文章の読解、作文と会話の練習を行う。学んだ事項が確実に身につけられるように文法事項と関連表現のドリルを多くして、読む・書く・話す総合的な力が身につくように進める。 以下の力を身につけることを目標とする。 ・各回で提示された文型と表現が作文と会話で応用できる。 ・各回で提示された不規則活用、慣用表現などの文法事項が理解でき、活用できる。 ・中級前半レベルの文章の読解と作文ができる。 ・あいさつと、買い物・食事など生活に必要な簡単な会話ができる。	
		韓国語発展 2	中級レベルの文章を読んで、関連する文法や表現を学修する。練習問題を通して関連表現を確実に覚え活用できるように十分な練習をする。文の内容と関連した韓国の文化、社会についてもとりあげ、理解が深まるように進める。 以下の力を身につけることを目標とする。 ・中級レベルの文法・文型が理解でき、活用できる。 ・言い回しや縮約形や省略形が理解できる。 ・中級レベルの文章が訳読でき、関連の文法・文型を活用した作文ができる。 ・あいさつと、買い物・食事・交通・銀行など生活で必要な簡単な会話ができる。	
		韓国語総合 1	「韓国語総合 1」では、「韓国語基礎 1、2」・「韓国語発展 1、2」で学修した内容をふまえ、基礎的な文法の知識と運用力をより確実なものとするを目指す。具体的には、「読む」「書く」「聞く」「話す」の 4 分野についてバランスよく学修をし、韓国語を用いたコミュニケーション能力を養う。さらに、4 分野の学修のみならず、韓国語圏の文化にも触れることで、韓国語学修を通じた異文化理解を図る。	
		韓国語総合 2	「韓国語総合 2」では、「韓国語基礎 1、2」・「韓国語発展 1、2」・「韓国語総合 1」で学修した内容をふまえ、基礎的な文法の知識と運用力を定着させることを目指す。具体的には、「読む」「書く」「聞く」「話す」の 4 分野についてバランスよく学修をし、韓国語を用いたコミュニケーション能力の定着を図る。さらに、4 分野の学修のみならず、韓国語圏文化の理解を深め、韓国語学修を通じた異文化理解を図る。	
		留学準備 1	「留学準備 1」では、英語圏の大学に協定留学等の制度を利用して留学を希望する学生向けの授業として、主にスピーキングとリスニングの 2 技能の能力向上を目指す。スピーキングについては、一定のテーマに関して、英語で自分の意見をわかりやすく伝えられるように練習をし、そのうえでグループに分かれて意見交換を行う。リスニングについては、ビデオを視聴し演習を行い、視聴後に教員と内容に関する質疑応答を行う。	
		留学準備 2	「留学準備 2」では、英語圏の大学に協定留学等の制度を利用して留学を希望する学生向けの授業として、主にリーディングとライティングの 2 技能の能力向上を目指す。リーディングについては、ウェブ上の英文記事などから講師が選定した英文を読んだうえで質疑応答を行う。ライティングについては、一定のテーマに対して説得力のある理由を設けた上で自己の意見を簡潔に英文で表現することを目的とし、適宜、グループに分かれての意見交換も行う。	
	英語資格・検定試験対策	英語資格・検定試験対策 1	本授業では、到達目標を TOEIC 公開テストにおけるスコア向上に絞る。TOEIC に熱意のある学生に向けた効率的なスコア向上のためのテクニック、及び自宅での学習方法を中心として教授する。保持スコアのレベル別に「英語資格・検定試験対策 1」、「英語資格・検定試験対策 2」を開講し、学生のレベルに合わせた確実なスコア向上につなげる。対象学生の推奨保持 TOEIC スコアは 400 点以上とし、本演習修了時の目標 TOEIC スコアは 730 点とする。	
		英語資格・検定試験対策 2	本授業では、到達目標を TOEIC 公開テストにおけるスコア向上に絞る。TOEIC に熱意のある学生に向けた効率的なスコア向上のためのテクニック、及び自宅での学習方法を中心として教授する。保持スコアのレベル別に「英語資格・検定試験対策 1」、「英語資格・検定試験対策 2」を開講し、学生のレベルに合わせた確実なスコア向上につなげる。対象学生の推奨保持 TOEIC スコアは 400 点以上とし、本演習修了時の目標 TOEIC スコアは 550 点とする。	
	教養日本語	日本語リテラシー	会話場面におけるリスニング能力を高め、場面に応じて適切に話す能力をつける。相手が述べた情報を正確に聞き取り、相手の意図や感情を正しく理解した上で、自分の言いたいことを相手に誤解されことなく伝えることのできる能力をつける。 【到達目標】 ・自らの得意不得意を認識し、これから学ぶ専門との繋がりを考える。4 年間の学びで専門性を高められるよう、長期目標と短期目標を立てることができる。 ・与えられる学びではなく、自ら楽しみ求めにいく学びにシフトできる。苦手なことに関して、他者に助言などを求める勇気とつながりをもち、互いに学びを深め合うことができる。 ・自己の得意不得意を認識し、得意分野を伸ばし、不得意分野を克服するための学修計画を戦略的に立てることができる。与えられたテーマに関して、「なぜそう思うのか」「他者と異なるポイントは何か」をじっくり考えることができる。	

基本計画書-41

科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	教養 日本語	日本語基礎 A	アカデミック・ジャパニーズを身につけるために必要な基礎的な部分を養成する。論理的思考力を養成する。 【到達目標】 ・日々の生活の中から、日々の課題や物事を解決するためのヒントを見つけることができる。 ・個別経験を抽象的な概念につなげ、汎用性をもった伝え方ができる。他者に伝えたい強力なメッセージを抽出し、メッセージを伝えるためにどのような資料を用いるべきかを検討できる。 ・自分の発表テーマに関する資料を読む際に、筆者が特別の立場や視点から取り上げた、現代の問題に関する記事やレポートを理解できる。 ・主張、論争、議論を含むニュース、インタビュー、ドキュメンタリーからの抜粋を要約することができる。 ・理路整然と、論拠を並べ上げることができる。 ・自分の関心のある分野に関連した広範囲な話題について、明確かつ詳細に述べ、プレゼンテーションができる。必要事項を補足しながら、関連事例をあげて、主張を強化、展開することができる。	
		日本語基礎 B	文章による表現技術を養成する。的確な表現を使って正しい構造の文を書く能力や、構成のしっかりした論理的な文章を書く能力をつける。 【到達目標】 ・長いレポートを執筆するための表現や、それを支える細かい文法について精査し、より正確に言語を使用する能力を身につける。また、自身が能力を身につけるだけでなく、他者にわかりやすく説明できるような知識と説明力も身につける。 ・失敗や苦手なところ、曖昧なところをそのままにせず、じっくり調べて取り組むことができる。 ・事象が生じた原因を探り、解決する力を養う。物事を解決するいくつかの方策を検討し、どのような伝え方が他者により良く伝わるか工夫する力を身につける。 ・自分が関心を持つ様々な話題や問題点について、明瞭、詳細に書くことができる。 ・標準的なレイアウトや段落切りの慣例に従って、ある程度の長さのはっきりと理解できる文章を書くことができる。 ・いくつかの選択肢の利点と不利な点や、構成要素・特徴を挙げて説明できる。 ・エッセイやレポートを書くときに、根拠を提示しながらある視点に賛成や反対の理由を挙げ、様々な選択肢の利点と不利な点を説明できる。	
		日本語基礎 C	自分の専門分野について詳しく説明できるようになる。また、話をする相手に、自分の専門分野に興味をもってもらえる伝え方を身につける。1年次の集大成として専門書の読解を行い、2年次以降につながるより豊かな学びの基礎を築く。 【到達目標】 ・部分的な情報に出会ったときに、それ以外の場所での学びとリンクさせながら総合的に捉えることができる。 ・部分的な情報を総合的に捉える力を身につける。得た情報をそのまま話すのではなく、大きな枠組・詳細を区別しながら他者に伝えられるようになる。 ・発表準備の際に、そのテーマに関する主張、論争、議論を含むニュース、インタビュー、ドキュメンタリーからの抜粋を要約することができる。 ・関連説明、根拠、コメントを述べることによって、議論で自分の意見を説明したり、維持したりすることができる。 ・原因や結果を推測し、異なるアプローチの利点と不利な点を比較考察しながら、論点や問題の概略をはっきりと述べることができる。 ・相手の発話を正しく理解したかどうかを確認するための質問ができ、あいまいな点の説明を求めることができる。	
		日本語基礎 D	実践的な日本語能力を向上させつつ、大学での学習に必要なアカデミック・ジャパニーズスキルの習得をめざす。 【到達目標】 ・興味のあることや社会的な問題について詳しく説明したり、自分の意見をわかりやすく述べたりする能力を身につける。 ・話をしている相手に、興味を持ってもらえる能力を身につける。 ・相手と異なる意見を述べるとき、意見交換ができる能力を身につける。 ・1年次の成果物から自らの得意不得意を再認識し、これから学ぶ専門との繋がりを考える。2年次以降のより専門性の高い学びに繋がるよう、長期目標と短期目標が立てられるようになる。 ・日々の生活の中で見つけた課題について、今後の予想を推測する知的好奇心と洞察力を持つことができる。	
		日本語発展 A	大学での研究活動のため、発表の聞き取りと発表・質疑応答の仕方を身につけ、うまく発表するためのテクニックを学ぶ。データを批判的に読む力を身につけ、自らも興味に基づいた簡易調査を行う。日々の生活の中で見つけた課題について、傾向を推測し調査する知的好奇心と実践力を持つことを目指す。 【到達目標】 ・個別経験を抽象的な概念につなげ、傾向・要因を探るために考えて調査計画を立てることができる。 ・自分が推測したことに関して、なぜそのような推測に至ったかを独自調査をもとに説明することができる。	
		日本語発展 B	アカデミックレベルの文章を書く技術を身につける。短文の書き方、段落の作り方、いくつかの段落からなる長文の書き方を学ぶ。資料を利用した論理的なレポートの作成を行う。独自の調査につなげるため、より専門的な書籍や論文を読解・整理し、体系的に他者に伝える力を身につける。 【到達目標】 ・専門に関する他者の発表をクリティカルに聞き、疑問点を挙げたり、より深い議論になりそうな意見を述べたりし、他者の発表に貢献できる。また、それにより自分の考える力も磨く。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養 日本語	日本語発展C	自分の専門分野について詳しく説明できるようになる。話をする相手に、自分の専門分野に興味をもってもらえる伝え方を身につける。 【到達目標】 ・専門的な資料をもとに、比較検討し、自分の見解をまとめた文字数のレポートにまとめることができる。 ・専門的なディスカッションや質疑応答に対応できる能力を身につける。 ・自己の興味だけでなく、他者の調査についても興味を持ち、積極的に議論に参加できる。 ・個別経験を抽象的な概念につなげ、複数の資料をもとに比較検討し、持論を展開することができる。 ・比較の軸を自分で決め、課題を整理できる。 ・抽象的な概念と具体事例の双方をいったりきたりしながら考察を深めることができる。	
	日本語発展D	現代日本を理解するために、時間軸（歴史的視点）、水平軸（地理的視点）で考える視点も加味し、現代の諸問題を扱う。前半は、具体的なテーマとして、文化、教育、労働、農業、食糧、観光、宗教、防衛などからVTRや書籍、データで事例を示す。後半は、小グループでテーマを設定し、文献等の調査や討論により焦点化された疑問や課題について、インタビューやアンケート調査により一定の結論をまとめ発表する。	
	日本事情	本授業では、国連におけるSDG s 制定の経緯から始めて、地球（世界）を取り巻く様々な課題を認識し、それらの課題と17の目標それぞれとの関連を学ぶ。実例として1つの目標を深く考察することも行う。本授業は初年次教育として情報・文献等の収集、情報の吟味と整理、大学レベルの学修の基本的な手続きと作法等を実地に学ぶ場とし、適宜グループ学習、プレゼンテーション等を取り入れる。	
共通 科目	SDG s 基礎	17のSDG s のうち、（1）貧困 （4） 教育（5） ジェンダー（10） 不平等（16） 平和（17） 実施手段 の6つの目標について、専門的な立場からの講義を行う。分野に属する1つの目標を掘り下げたり、複数の目標について取り上げたりして、これらの目標をいかに実現できるかを真剣に考える場とする。 食品・飲料・消費財産業、製造業、金融サービス業、エネルギー・天然資源・化学産業、ヘルスケア・ライフサイエンス産業、運輸・輸送機器産業等、様々な業界で目標達成のためになされている具体的な取組の事例紹介を行う。 また、SDG s 基礎で修得した情報・文献の収集、情報の吟味と整理を活用して、グループで設定した興味関心に応じて調査した内容発表を行う。	
	SDG s 発展1	17のSDG s のうち、（2）飢餓（8）経済成長と雇用（9）インフラ・産業化・イノベーション（11）持続可能な都市（12）持続可能な消費と生産の5つの目標について、専門的な立場からの講義を行う。分野に属する1つの目標を掘り下げたり、複数の目標について取り上げたりして、これらの目標をいかに実現できるかを真剣に考える場とする。 食品・飲料・消費財産業、製造業、金融サービス業、エネルギー・天然資源・化学産業、ヘルスケア・ライフサイエンス産業、運輸・輸送機器産業等、様々な業界で目標達成のためになされている具体的な取組の事例紹介を行う。 また、SDG s 基礎・SDG s 発展1で修得した情報・文献の収集、情報の吟味と整理を活用して、自らの興味関心に応じて調査した内容発表を行う。	
	SDG s 発展2	17のSDG s のうち、（3）保健（6）水・衛生（7）エネルギー（13）気候変動（14）海洋資源（15）陸上資源の6つの目標について、専門的な立場からの講義を行う。分野に属する1つの目標を掘り下げたり、複数の目標について取り上げたりして、これらの目標をいかに実現できるかを真剣に考える場とする。 食品・飲料・消費財産業、製造業、金融サービス業、エネルギー・天然資源・化学産業、ヘルスケア・ライフサイエンス産業、運輸・輸送機器産業等、様々な業界で目標達成のためになされている具体的な取組の事例紹介を行う。 また、SDG s 基礎・SDG s 発展1・SDG s 発展2で修得した情報・文献の収集、情報の吟味と整理を活用して、調査した内容を分析し、提言ができるようになる。	
	SDG s 発展3	世界に観察される様々な問題の解決を図り、将来の長きにわたって解決に向かう方向を維持して行くため、日々われわれが具体的に何に取り組む、何をなすべきか、現状認識を深めつつ、多角的・複眼的に考察することで実践への手がかりをつかむ演習授業である。 さらに「世界の幸せをカタチにする。」という本学のブランド・ステートメントを、SDG s の17の目標を通じていかに実現できるかを真剣に考える場とする。	
	SDG s 特講	プログラムから、自ら1つ選択し実践する。各プログラムの趣旨に沿って活動に参加した場合に、認定単位を付与する。なお、認定される単位数は、各プログラムの実施期間（実日数）により決定する。 （1）海外フィールドワーク （2）国内フィールドワーク （3）チームビルディング （4）地方創生プロジェクト＜ボランティア・農業体験・地域活性化支援＞ （5）体験学習 （6）学会・シンポジウム	
フ ィ ー ド ・ ス タ	フィールド・スタ ディーズ	プログラムから、自ら1つ選択し実践する。各プログラムの趣旨に沿って活動に参加した場合に、認定単位を付与する。なお、認定される単位数は、各プログラムの実施期間（実日数）により決定する。 （1）海外フィールドワーク （2）国内フィールドワーク （3）チームビルディング （4）地方創生プロジェクト＜ボランティア・農業体験・地域活性化支援＞ （5）体験学習 （6）学会・シンポジウム	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	フィールド・スタ ディーズ 1	プログラムから、自ら1つ選択し実践する。各プログラムの趣旨に沿って活動に参加した場合に、認定単位を付与する。なお、認定される単位数は、各プログラムの実施期間（実日数）により決定する。 （１）海外フィールドワーク （２）国内フィールドワーク （３）チームビルディング （４）地方創生プロジェクト＜ボランティア・農業体験・地域活性化支援＞ （５）体験学習 （６）学会・シンポジウム 本演習は、1週間～2週間のプログラムが対象となる。プログラムによっては、事前及び事後学修を行う。	
	フィールド・スタ ディーズ 2	プログラムから、自ら1つ選択し実践する。各プログラムの趣旨に沿って活動に参加した場合に、認定単位を付与する。なお、認定される単位数は、各プログラムの実施期間（実日数）により決定する。 （１）海外フィールドワーク （２）国内フィールドワーク （３）チームビルディング （４）地方創生プロジェクト＜ボランティア・農業体験・地域活性化支援＞ （５）体験学習 （６）学会・シンポジウム 本演習は、2週間～3週間のプログラムが対象となる。プログラムによっては、事前及び事後学修を行う。	
	フィールド・スタ ディーズ 3	プログラムから、自ら1つ選択し実践する。各プログラムの趣旨に沿って活動に参加した場合に、認定単位を付与する。なお、認定される単位数は、各プログラムの実施期間（実日数）により決定する。 （１）海外フィールドワーク （２）国内フィールドワーク （３）チームビルディング （４）地方創生プロジェクト＜ボランティア・農業体験・地域活性化支援＞ （５）体験学習 （６）学会・シンポジウム 本演習は、3～4週間のプログラムが対象となる。プログラムによっては、事前及び事後学修を行う。	
	フィールド・スタ ディーズ 4	プログラムから、自ら1つ選択し実践する。各プログラムの趣旨に沿って活動に参加した場合に、認定単位を付与する。なお、認定される単位数は、各プログラムの実施期間（実日数）により決定する。 （１）海外フィールドワーク （２）国内フィールドワーク （３）チームビルディング （４）地方創生プロジェクト＜ボランティア・農業体験・地域活性化支援＞ （５）体験学習 （６）学会・シンポジウム 本演習は、4週間以上のプログラムが対象となる。プログラムによっては、事前及び事後学修を行う。	
	フィールド・スタ ディーズ発展 1 A	上級学年で受ける専門教育と社会とのつながりをより明確に理解し、社会の課題に対してSDGsの指標を実現するための解決策を提示していくことを本授業の目的とする。 1年次の授業科目として開講する。事前・事後学修と18時間以上の学外学修を、合計で24時間以上実施し、単位認定を行う。学外学修の体験を通じて世界や社会、地域、産業界等の現状を理解し、課題を発見し、課題解決に向けて、自身に何ができるのかを考える。大学入学までに習得してきた力を客観的に認識し、卒業後のことやグローバル人材になることなどを念頭に置いた大学生活を総合的に構想し、学科での学び、専門性の獲得に向けての決意を新たにする。	
	フィールド・スタ ディーズ発展 1 B	上級学年で受ける専門教育と社会とのつながりをより明確に理解し、社会の課題に対してSDGsの指標を実現するための解決策を提示していくことを本授業の目的とする。 1年次の授業科目として開講する。事前・事後学修と36時間以上の学外学修を、合計で48時間以上実施し、単位認定を行う。学外学修の体験を通じて世界や社会、地域、産業界等の現状を理解し、課題を発見し、課題解決に向けて、自身に何ができるのかを考える。大学入学までに習得してきた力を客観的に認識し、卒業後のことやグローバル人材になることなどを念頭に置いた大学生活を総合的に構想し、学科での学び、専門性の獲得に向けての決意を新たにする。	
	フィールド・スタ ディーズ発展 1 C	上級学年で受ける専門教育と社会とのつながりをより明確に理解し、社会の課題に対してSDGsの指標を実現するための解決策を提示していくことを本授業の目的とする。 1年次の授業科目として開講する。事前・事後学修と54時間以上の学外学修を、合計で72時間以上実施し、単位認定を行う。学外学修の体験を通じて世界や社会、地域、産業界等の現状を理解し、課題を発見し、課題解決に向けて、自身に何ができるのかを考える。大学入学までに習得してきた力を客観的に認識し、卒業後のことやグローバル人材になることなどを念頭に置いた大学生活を総合的に構想し、学科での学び、専門性の獲得に向けての決意を新たにする。	
	フィールド・スタ ディーズ発展 1 D	上級学年で受ける専門教育と社会とのつながりをより明確に理解し、社会の課題に対してSDGsの指標を実現するための解決策を提示していくことを本授業の目的とする。 1年次の授業科目として開講する。事前・事後学修と72時間以上の学外学修を、合計で96時間以上実施し、単位認定を行う。学外学修の体験を通じて世界や社会、地域、産業界等の現状を理解し、課題を発見し、課題解決に向けて、自身に何ができるのかを考える。大学入学までに習得してきた力を客観的に認識し、卒業後のことやグローバル人材になることなどを念頭に置いた大学生活を総合的に構想し、学科での学び、専門性の獲得に向けての決意を新たにする。	
	フィールド・スタ ディーズ発展 2 A	上級学年で受ける専門教育と社会とのつながりをより明確に理解し、社会の課題に対してSDGsの指標を実現するための解決策を提示していくことを本授業の目的とする。 2年次の授業科目として開講する。事前・事後学修と18時間以上の学外学修を、合計で24時間以上実施し、単位認定を行う。学外学修の体験を通じて、世界や社会、地域、産業界等の現状を理解し、課題を発見し、課題解決に向けて、自身に何ができるのかを考える。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	インターンシップ		インターンシップ	効果的なインターンシップの実現のためには、社会で「働く」ことの意義や、就業に必要な心構え・知識・能力を理解するとともに、就業体験において最低限必要な基礎的能力を身につけなければならない。そのため、就業体験に必要な知識・技術等を総合的に学ぶ。具体的には、体験者を交えた働くことの意義に関するプレスト、自己分析・履歴書（企業への自己紹介書）、ソーシャル・スキル、企業・業界研究、実習目標の設定など、導入から応用実践的な内容まで及び、教育方法においてもアクティブ・ラーニングを取り入れている。	
			企業協働プロジェクト	企業や自治体等より提示された課題に対し、企業等と協働して解決に取り組むプロジェクトに従事する。プロジェクト派遣前授業では、派遣前にあらためて心得や諸注意等の伝達を含む授業を行う。プロジェクト実習では、企業等の課題解決に向けて、先方と共に取り組む。実習後には、実習を通じて学び得られたことを動画としてまとめ、実習成果報告会にて発表し、実習での気付きを共有する。また、実習を振り返り、今後のキャリアについて考える面談を行う。	
	ゼミナール	全学教養	全学教養ゼミナール 1	本授業は、「思想・芸術」、「国際・地域」、「社会・制度」を主なテーマとする。各教員の専門的研究について、場合によっては学外にも門戸を広げて、当該分野についての深い理解を培う。日常あまり掘り下げないような思考を経験することによって、思い込みに捕らわれない公平な視点を持つ能力を培う。また、何かの問題が発生したときに、特定の視点にこだわらずに、多様な観点から物事を捉えられるような学問的判断力を養い、長期的な事態の推移に対する、客観的かつ理性的な予見を行い、学問的根拠を持って、そうした見込みへの説明ができる人材を養成する。	
			全学教養ゼミナール 2	本授業は、「人間・環境」、「物質・生命」、「数理・情報」を主なテーマとする。各教員の専門的研究について、場合によっては学外にも門戸を広げて、当該分野についての深い理解を培う。日常あまり掘り下げないような思考を経験することによって、思い込みに捕らわれない公平な視点を持つ能力を培う。また、何かの問題が発生したときに、特定の視点にこだわらずに、多様な観点から物事を捉えられるような学問的判断力を養い、長期的な事態の推移に対する、客観的かつ理性的な予見を行い、学問的根拠を持って、そうした見込みへの説明ができる人材を養成する。	
	寄付講座		武蔵野市自由講座	まちづくりの担い手は「市民」である。地域にある様々な問題や生きづらさは、地域で暮らす誰にとっても、他人事ではない。どこかで誰かが生きづらさを抱えている、そんな地域を誰もが自分らしく暮らせる地域に変えていくために、本講座では、市民のみなさんが仲間をつくり、ともにまちづくりに取り組む市民活動の方法や考え方を学ぶ。また、様々な市民活動の実践に取り組んでいる方をゲストスピーカーにお招きし、一緒にまちづくりや市民活動を考える。	
			証券ビジネス論	激変する日本や世界の資本市場の全容と、投資のリスク&リターンの考え方、株式投資・債券投資・グローバル証券投資・分散投資の方法などを実務の観点から解説する。証券会社社員をスピーカーとして招き、実例をおり込み講義を行う。経済情報の捉え方、金融資本市場の役割とその変化、証券投資のリスク・リターン、ポートフォリオ・マネジメント、債券市場の役割と投資、株式市場の役割と投資、投資信託の役割と仕組み、外国為替相場と変動要因、グローバル化する世界と資本市場の果たす役割、ライフプランニングとNISA等に触れる。	
学科科目	基盤科目群	建学の精神	建学の精神入門A（人間観）	建学の精神である仏教の人間観の基本的特質について概観し、ウェルビーイング学部において建学の精神をふまえてウェルビーイングのあるべき方向性を学修していく上で、の、基礎的、全体的な理解を得ることを目的とする。仏教が人間という存在についてどのように捉えてきたか、人間が根源的な苦悩から解放されて幸福な道を得ることの意味と可能性について、問い、考え、自分の言葉で表現するトレーニングを行う。	
			建学の精神入門B（真理観）	建学の精神である仏教の真理観の基本について学修し、基本的な理解を得る。「すべての事象は変化し続けている」（諸行無常）、「すべての事象は不変的に固定化された特質を持たない」（諸法無我）、「この世界の生存の欲望増殖システムは苦しみをもたらす」（一切皆苦）、「欲望増殖システムから自由に解放された世界がある」（涅槃寂静）、「すべての事象は相互に無限に関係しあうことによって成立している」（縁起・空）などの真理観について、問い、考え、表現するトレーニングを行う。	
			建学の精神入門C（Dharma Dialogue）	現代社会が混迷の時代を迎えている中で、いかに危機的状況乗り越えていくべきか、人類は大きな難題に直面している。本学では、人類が抱える諸課題に対して、仏教の真理観（ブッダダルマ）を基軸に据えつつ、世界の最前線で活躍する人々と対話を行い、課題解決の方途を探っていくとする活動（カンファ・ヴィレッジ・プロジェクト）を展開している。この授業においては、これまでの対話の成果に学びつつ、学生や教員が相互に対話者となり、世界の課題解決に向けた活動に足を踏み出していく契機とすることを目的としている。	共同
			建学の精神入門D（幸福論）	人類が思索を積み上げてきた幸福論の諸相について学修し、基本的な理解を得る。人間にとって幸福とは何か、不幸とな何か、いかにすれば幸福が得られるか、これらのテーマは、古今東西の哲学者達の共通テーマであった。古代から現代に至る先人の思索の成果を、歴史的変遷や地理的な特徴も含めて通観し、これからの時代にふさわしい幸福論のあり方について自ら問い、考え、自分の言葉で表現するトレーニングを行う。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
学 科 科 目	基 盤 科 目 群	建 学 の 精 神	建学の精神基礎A（死生学）	人間存在を含めて、あらゆるいのちのある存在が、生きていくことと死んでいくことという不可避の営みについて、古今東西の人々はどのように捉えてきたのだろうか。人類が蓄積してきた古今東西の死生観を通観し、死生観に関する基本的な理解を得るとともに、自他ともにいかに生きていくか、いかに死んで行くかという、人間存在の本質の意味に関する考察を自ら深め、自分の言葉で表現するトレーニングを行う。 (オムニバス方式／全7回) (3 一ノ瀬 正樹／3回)西洋を中心とした死生観。 (5 下田 正弘／3回)東洋を中心とした死生観。 (3 一ノ瀬 正樹、5 下田 正弘／1回)（共同）一ノ瀬正樹と下田正弘の対話。	オムニバス方式・共同(一部)
			建学の精神基礎B（巡礼）	人々は、大自然の織り成す景観や人間の思想・宗教・文化活動が長い年月を経る中で結晶化されていった宗教・文化の諸施設や空間に対して崇敬の念を抱き、日常の生活をいったん離れてその非日常的な空間に詣でる営みを巡礼と称して過去から現在へと継承しつづけてきた。日常と非日常の往還、過去と現在と未来の接点について、巡礼という営みを通じて体験的に考える中で、何気ない日常に対して斬新な時空間の意味を与え、人間の生活に生きるエネルギーを与え続けてきたのである。本授業では、大学のキャンパス空間から離れて巡礼地に詣で、巡礼という宗教・文化的活動を自身で体験する中で、その宗教・文化的意味を自ら考え、表現するトレーニングを行う。	共同
			建学の精神基礎C（縁起・共生）	この世界のあらゆる事象は、相互に無限の関係性によって成立している。仏教では、この真理観を「縁起」の法として重視し、あらゆる事象に対する認識の基底に縁起観を据えてきた。本授業では、仏教思想における縁起観の展開をたどり、世界の真実相の把握へのアプローチを学修するとともに、その縁起観に基づいて人類のみならず生きとし生けるものが「共生」していくことの重要性について議論を深め、「縁起」「共生」の世界認識をベースにしたウェルビーイング社会のあるべき方向性について議論を深めている。 (オムニバス方式／全7回) (5 下田 正弘／3回)仏教の縁起観の展開 (6 西本 照真／3回)共生思想の可能性 (5 下田 正弘、6 西本 照真／1回)（共同）下田正弘と西本照真の対話	オムニバス方式・共同(一部)
			建学の精神応用A（文献講読）	本授業では、仏教や哲学の真理観、幸福観に関する重要文献の講読を行う。インド、中国、日本、西洋など多様な地域の多様な時代における文献を講読する。この講義においては、当該文献の内容理解を進めるとともに、文献講読の方法論的理解も身につけることを目的とする。 (3 一ノ瀬 正樹)西洋を中心とした哲学文献の講読 (5 下田 正弘)インドを中心とした仏教文献の講読 (6 西本 照真)中国・日本を中心とした仏教文献の講読	
			建学の精神応用B（Ancestors' Voices）	先人（祖先）がこれまでに歩んできた英知や貴重な経験を、現在に生きる世代がいかに傾聴し、Ancestors の声として保存しつつ、次代に継承していくか、という活動を「Ancestors' Voices Program」として実施する。本学の大学関係者以外から、相手の人生経験などに基づいた「幸せ・ウェルビーイング」観についてインタビューを実施する。各自がインタビュー実施内容を持ち寄って、分析・検討を加え発表するとともに、データを蓄積し、時代ごとの「幸せ・ウェルビーイング」観の分析につなげていく。	共同
		ウ ェ ル ビ ー イ ン グ デ ザ イ ン	WBデザイン入門A（全体像と歴史）	ウェルビーイング学を学び始めるにあたって、ウェルビーイング学の全体像と歴史的位置付け、そしてデザインへの展開についての講義を行う。人類史における現代という時代の位置づけ、ウェルビーイングの定義、建学の精神との関係、各科目の関係、科目の特徴と意義についても述べる。また、主観的ウェルビーイングについての研究結果を概説する。ウェルビーイング学を学んだ者が活躍する分野と意義についても述べる。これらにより、ウェルビーイングおよびウェルビーイングデザインについての最も基本的な概念を身につけることを目的とする。	
			WBデザイン入門B（健康）	ウェルビーイングは健康、幸せ、福祉を包含する概念であるため、健康という観点は非常に重要である。世界保健機関(WHO)は「健康寿命」という概念を提唱しており、健康寿命は「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」と定義されている。本授業では、健康とは何か、健康で生きるためにはどうしたらよいか、わが国の健康づくり政策はどういうものかを学び、自身が人生の最後まで健康でいられるために、さらに周りも健康でいられるような環境をどのように形成できるかを考える基礎を作ることを目的とする。	
			WBデザイン入門C（心理）	主観的ウェルビーイング研究は心理学を基礎とする学問である。ウェルビーイング研究を学ぶためには、心理学に関する基礎的な知識を得ることが有益である。心理学は、人間のこころの働きを科学的に明らかにする学問領域であるため、その知見は、領域分けされた各心理学分野の研究成果によって蓄積されている。本授業では、多様な心理学分野の基本知見を、ウェルビーイングと関連付けながら概論的に学ぶ。具体的には、系統発生的基盤（脳・神経細胞の構造と機能）、認知的基盤（注意、記憶、認知過程）、個体発生的基盤（学習理論、動機づけ、感情理論）、個人的基盤（パーソナリティ理論、パーソナリティの発達）、社会的基盤（集団の中の個人、グループダイナミクス）とウェルビーイングの関係について学ぶ。	
			WBデザイン入門D（教育）	ウェルビーイングについて学ぶ際に重要な点のひとつは、ウェルビーイング教育とは何か、ウェルビーイング教育はいかに行うべきかを明らかにすることである。そのため、本授業ではウェルビーイングと教育との関係の全体像を学ぶ。学校や企業研修・家庭教育などで実際にウェルビーイング教育を導入している事例を紹介し、その中で用いられている手法をワークを通じて体験しながら学んでいく。また、ウェルビーイング教育の効果測定法など、教育工学的手法についても学ぶ。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科科目	基礎科目群	ウェルビーイングデザイン	WBデザイン基礎A (経済・行動科学)	人間は社会活動として資本主義システムの下で、売買や貸借を行い、会社などの組織を経営し、貨幣の流通に関与するなど、広義の経済活動に従事している。人間の経済活動はウェルビーイングと密接な関係があり、ヒューマンビヘイビアと人間心理の關係に着目した行動経済学をはじめとする行動科学のようなディシプリンも近年台頭している。本授業では、経済学、経営学、金融システム及び行動科学の基礎を学修し、人間の経済活動をウェルビーイングデザインの観点から分析できる知識を身につける。	
			WBデザイン基礎B (社会)	「私は幸せか・豊かか」という問いは、私とは何者かという認識、家族や友人との関係、地域、学校、職場、国や地域といった社会集団、あるいは他者から提供される情報など、私を取り巻くさまざまな事象と複雑に絡み合っている。「この社会は幸せか・豊かか」という問いに対しても、人々の社会生活を評価する手法として、ウェルビーイングの測定に関する多様な理論的、実践的研究が積み重ねられてきた。本授業では、社会の在り方とウェルビーイングの關係についての考え方や理論、分析手法など基礎的な知識を得るとともに、現代社会の抱える様々な課題を、ウェルビーイングという視点から読み解く力を醸成することを目指す。	
			WBデザイン基礎C (福祉)	ウェルビーイングは健康、幸せ、福祉を包含する概念であり、福祉はウェルビーイングを構成する重要な柱である。福祉には幸せだけでなく、公的給付や福祉的支援を通じた生活の安定・充足といった意味がある。しかし、福祉に包含される幸せとは、高齢や障害、貧困といった福祉的なニーズを有する方の幸せだけではなく、人の暮らしや生活、そして自分だけにとどまらず他者や地域、社会の幸せにつながっていく。本授業では、生活の質（QOL）、よりよく生きること、相互支援や社会的な支援を通じた生活の充足など、他者との関係性の中で営まれる人間の生活をウェルビーイングの観点から理解し、実践するための知識の基礎を身につける。	
			WBデザイン応用A (社会心理)	社会心理学は個人の態度や行動、対人関係や集団における意識や行動のこころの過程を明らかにする学問である。社会心理学における知見に基づきウェルビーイングの個人的側面と社会的側面をつなぐことは、ウェルビーイングデザインの応用的な学びになるため重要な学修である。本授業では、ウェルビーイングの実現に向けた社会心理学の知見活用について学ぶ。具体的には、社会的自己、社会的認知、対人関係・対人行動・集団に関する基礎理論（衡平理論や自己表出、グループダイナミクスなど）やウェルビーイングデザインの観点から社会心理学の知見活用方法について、議論などのアクティブラーニングを取り入れ学ぶ。	
			WBデザイン応用B (哲学・倫理学)	本授業では、西洋哲学全般とウェルビーイングデザインの關係について学ぶ。特に、哲学が実社会で生きる上でどのように役に立つのか、といった応用的な視点から、単に哲学を学ぶのみならずその実践との接続という部分を重点的に学ぶ。因果、人格、確率などの概念とウェルビーイングの關係についても学ぶ。さらに、現代という時代において、経済成長重視の時代からウェルビーイングの時代への転換という大きな時代変化と、モダンからポストモダンという西洋哲学的な変化の対応關係についても学ぶ。	
			WBデザイン応用C (医療)	少子高齢化、多様化が進む社会の中で、高齢者、障害のある人、様々な属性のある人を巻き込んで共に健康で生き生きと暮らすために医療・看護・介護・福祉はどうするべきかを、講義や対話を通して考えデザインする力を身につけることを目的とする。医療・看護がどのような役割を果たすか、多職種連携で協働するためにはどうしたら良いか、医療安全のためにどのような体制が整えられているか、看護の質を保つにはどうしたら良いか、といった応用的な項目について講義し、グループでディスカッションを行う。	
			WBデザイン発展（デザイン工学）	改めて、広義のデザイン工学の側面から、これまで学んできたことを俯瞰的に捉え直すことにより、ウェルビーイング学の全体像を深く理解することを目的とする。本学科におけるデザインとは、新たに創造的な答えを提案し実践することを指す。したがって、本授業は、さまざまな科目で学んできたウェルビーイングデザイン工学の、授業としての総まとめである。4年間学んできたさまざまな事柄の關係を再定義し、各人ごとの整理・体系化を図ることをもって、ウェルビーイングの発展的な学びとする。	
	ウェルビーイングリテラシー	ウェルビーイングリテラシー	WBリテラシー入門A (ポジティブ心理学基礎)	主観的ウェルビーイング研究は心理学を基礎とする学問である。心理学におけるウェルビーイングの捉え方や研究知見について学ぶことは、ウェルビーイングデザインを考えるうえで重要な基礎になる。本授業では、心理学領域においてウェルビーイング研究が注目されるようになった背景および代表的な研究知見を学ぶ。具体的には、ポジティブ心理学の勃興、ヘドニック、エウダイモニアな幸福感、よく生きることに関する認識の文化差、ウェルビーイングの代表的なモデルであるPERMAモデル、ポジティブ感情がウェルビーイングに及ぼす影響について①理論と②実践について学ぶ。 (オムニバス方式／全7回) (16 吉野 優香／3回) ①ポジティブ心理学の理論。 (2 秋山 美紀／4回) ②ポジティブ心理学の実践。	オムニバス方式
			WBリテラシー入門B (パーマカルチャー)	ウェルビーイングな世界のための重要な概念の一つは生きとし生けるもののつながりを想像する力である。このため、パーマカルチャーについて学ぶ。パーマカルチャーとは、パーマネント（永続性）、農業（アグリカルチャー）、文化（カルチャー）を組み合わせた造語であり、自然のエコシステムに学ぶ自己維持型の農業である。本授業では、主に千葉県いすみ市を題材に、自然のエコシステムを参考にし、持続可能な建築や自己維持型の農業システムを取り入れ、社会や暮らしを変化させる総合的なデザイン科学概念であり、完結自給型農業開発とも呼ばれるパーマカルチャーについて学ぶ。	
			WBリテラシー入門C (アート（書）)	「道」とは、自然とともに生きることのアートとしての表現である。特に書道は、日本の文化に根差しており、武道、茶道、華道、仏道とも関連性があり、本来日本人が継続的に学んできたものである。本授業では「道」の一つの代表例として書道を継続的に学ぶことにより、日本のウェルビーイングと感性、アート、創造の關係について、全体として考えるための基礎的素養を身につけることを目的とする。入門科目である本授業では、基本点画について学ぶとともに楷書について学び始める。	

科目 区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
学 科 科 目	基 盤 科 目 群	ウ ェ ル ビ ー イ ン グ リ テ ラ シ ー	WBリテラシー入門D (アート（身体表現）)	自然とともに生きることのアートとしての表現で、古くから続いているものの代表例の一つは、歌やダンスなどの身体表現である。本授業では、身体表現を通してウェルビーイングを感じるとはどのようなことなのかを考えるきっかけとするため、身体表現について学ぶ。単に身体表現について学ぶだけでなく、言葉の意味、声を出すということの意味、ともに歌い踊るということの意味など、ウェルビーイングの基本について体感的に理解することを目的とする。アートの周辺領域である、芸術支援活動についても学ぶ。	
			WBリテラシー基礎A (感性工学)	学校教育は論理的理解に偏りがちな傾向があるが、ウェルビーイングについては感性という側面からも理解する必要がある。このため、感性という側面からウェルビーイングをとらえることを目指す。感性とはすなわち五感で美を感じることである。このため、各人が五感で何を感じることが好きであるか、得意であるかを探求する。現代社会においてはとかく感性を閉ざしてあふれるデジタル情報にとらわれがちであるが、本授業では感性情報の可能性を理解することを目指す。感性工学の最先端についても理解を深める。	
			WBリテラシー基礎B (対人コミュニケーション)	適切な対人コミュニケーションによって豊かな対人関係を有することは、ウェルビーイングに寄与する。対人コミュニケーションは、技術論で捉えソーシャルスキルの活用とみなすことにより学修が可能になる。ウェルビーイング学を修め、自己および他者のウェルビーイングを実現するためには、ソーシャルスキルの学修は重要である。本授業では、ウェルビーイングの実現に向けたソーシャルスキルの獲得と活用について学ぶ。具体的には、言語・非言語コミュニケーションやソーシャルスキルモデル、聴くスキル・主張するスキル・対人葛藤に対処するスキルなどのソーシャルスキルを学び、最後にトレーニーとトレーナーの両立場からグループワークを通してソーシャルスキルトレーニングについて学ぶ。	
			WBリテラシー基礎C (ロジカル思考)	ウェルビーイングに満ち溢れた社会を構築するために重要なスキルの一つはロジカル（論理的）思考能力である。ロジカル思考は、課題や問題を解決する際に、自分の考えを筋道を立ててまとめ、相手にわかりやすく伝えたり、問題の本質を捉え、効率よく解決していったりする際に大いに役立てることができる工学的・実用的手法である。このため、本授業ではロジカル思考の基礎的な理論と手法について学ぶ。また、それらの手法を用いてウェルビーイングに関連したいくつかの課題に取り組むことで、ロジカル思考能力を身につけ、日常生活の様々な場面で活用するための方法を身につける。	
			WBリテラシー基礎D (システム思考)	多様かつ複雑で先の読めない現代社会において、ウェルビーイングに満ち溢れた世界を構築するためには、対象とする課題を相互に作用する複数要素の組み合わせであるシステムとして捉える工学的視点が必要である。そのためには、要素間のつながり（関係性）を理解し、構造化、可視化するプロセスによって全体を俯瞰することが重要となる。本授業では、複雑な問題を俯瞰的に捉えるシステム思考について、基本的な考え方、関連するツールや技法を理解するとともに、ウェルビーイングに関連する問題の構造化や可視化など全体俯瞰を行う演習を通して、システム思考や実践力を能動的な学修により身につける。	
			WBリテラシー基礎E (文章)	文章を書いたり読んだりする力は、ウェルビーイングに満ち溢れた世界を構築するための問題発見・課題探求の際や創造的デザインの結果を他人に伝える際に重要である。このため、特にウェルビーイングに関連した項目について、文章を書く力を高めることを目指す。各種文章の目的と構成を学び、テンプレートなどを参考にしながら文章を作成する課題を通じて、目的に応じて自分の考えや思いを相手にわかりやすく伝えられるような高度な文章力を身につけることを目指す。	
			WBリテラシー基礎F (プロジェクトマネジメント)	グループで何らかのプロジェクトを成し遂げるためには、プロジェクトマネジメント能力が要求される。このため、本授業では、プロジェクトマネジメントの基礎を身につける。プロジェクト・マネジメント・インスティテュート(PMI)が定める「PMBoKガイド」及び日本プロジェクトマネジメント協会が定める「プログラム&プロジェクトガイド」等のプロジェクトマネジメントのための諸標準の概要を学修し、プロジェクトマネジメントの基礎知識を身につけた上で、ウェルビーイング向上のためのプロジェクトについて企画立案及び運営できる実践力を能動的な学修により身につける。	
			WBリテラシー基礎G (成人発達理論)	大人の心がいかに発達するかという成人発達理論を学ぶことは、ウェルビーイングに生きるために必要不可欠である。このため、本授業では、成人発達理論の基礎について、具体的には、成長の二軸（水平的成長・垂直的成長）、知性の三段階（環境順応型知性、自己主導型知性、自己変容型知性）、成人発達理論の五段階（具体的思考段階、道具主義的段階、他者依存段階、自己主導段階、自己変容・相互発達段階）について実例を交えて学ぶ。	
			WBリテラシー基礎H (ビジネス・イノベーション)	人を幸せにするビジネスとはいかなるものであるのか、創造的な発想とはどのようなものであるのか、について実務家教員による実際の体験談より学ぶ。これにより、ウェルビーイングなビジネスの基本やチャレンジスピリットについてのヒントを得ることを本授業の目的とする。具体的には、企業や社団法人の事例や、講師のさまざまな体験談など、ウェルビーイングなビジネスをイノベータティブに創造してきた事例を学ぶ。	
			WBリテラシー基礎I (アート（書）)	「道」とは、自然とともに生きるもののアートとしての表現である。その一つの形であり日本人が本来学ぶべきで素養である書道を継続的に学ぶことにより、ウェルビーイングと感性、アート、創造の関係について学ぶ。なお、道の世界では守破離の守を愚直なほどに繰り返すことによって道は開けると言われる。大学教育においても単純な繰り返しによる基本の修得を学生が実感するために書道を各学年において繰り返し学ぶものとする。基礎科目である本授業では、楷書、行書、草書の基本を学ぶ。	
			WBリテラシー応用A (論理学)	哲学の一分野に論理学がある。この学問の基本を学ぶことは、論理的に考えるとともに、その考えを人に伝える能力、すなわち、社会人の基礎的能力として不可欠である。このため、本授業ではリテラシーの応用として論理学を学ぶ。また、論理学を使いこなすためには、具体的に平易な事例について十分に学ぶことが重要である。このため、多様な事例に基づき、論理的思考力を実践的に身につけることを目指す。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
学 科 科 目	基 盤 科 目 群	ウ ェ ル ビ ー イ ン グ リ テ ラ シ ー	WBリテラシー応用B (社会調査法)	社会調査は、変化し続ける社会の実態、人々の意識や行動について把握するために用いられる研究方法であり、行動科学、社会科学領域に共通する研究手法として広く用いられている。本授業では、社会調査の目的、質的調査と量的調査、統計的調査と事例研究など、様々な調査の種類と実例を学ぶ。社会調査を計画し実施する一連の流れに沿って、研究課題に応じてどのように資料やデータを収集するのか、収集の際に留意しなくてはならない点、収集したデータの整理の仕方まで、社会調査の設計と実施の基本を修得する。社会調査データに基づく論文や資料を読んで理解するため、あるいは自分自身の課題や関心に基づいた社会調査を計画するために必要とされる基本的な知識を身につけることを目指す。	
			WBリテラシー応用C (対話の場づくり)	自己理解、他者理解を深めるために「対話」は有効であり、「対話」というスキルを具体的に使いこなすためには、その場づくり（ファシリテーション）についての理解が必要不可欠である。このため、本授業では場づくり（ファシリテーション）の方法、スキル、注意点、実践例など、場づくりの基本について学ぶ。また、自然環境と自分との関わり合いを生かした、自分と他者と環境との相互作用から生まれる対話の場づくり、人の持つ感性を生かした関係性構築の方法についても学ぶ。	
			WBリテラシー応用D (コーチング的コミュニケーション)	対人コミュニケーション能力を高めるためのスキルとして近年注目されているスキルが「コーチング」である。企業組織においても部下マネジメント、組織内コミュニケーションにおいて重要な心理的安全性を高めるための土台として相互理解を促進するコーチング的コミュニケーションの重要性が高まっている。このため、本授業では、ウェルビーイング的な対話の基本スキルとしてコーチングの基礎的な要素、特に傾聴について体験学習形式で学ぶ。	
			WBリテラシー応用E (アート（書）)	「道」とは、自然とともに生きることのアートとしての表現である。その一つの形である書道を継続的に学ぶことにより、ウェルビーイングと感性、アート、創造の関係について学ぶ。なお、道の世界では守破離の守を愚直なほどに繰り返すことによって道は開ける。このため、繰り返し学ぶものとする。応用科目である本授業では、作品制作について学ぶことにより、自己表現としての書道の真髄に触れ、ウェルビーイングと美の関係について発展的に学ぶ。	
			WBリテラシー応用F (人類の歴史)	旧石器時代（日本では縄文時代）以来の人類の歴史について、人類史的視点から学ぶ。縄文時代、人々は互いに協力し合いながら平和裡に（つまりウェルビーイングに）暮らしていたと考えられている。このため、古代史のウェルビーイングについて学ぶことは、これからの人類のウェルビーイングについて考える際に極めて重要であるといえる。本授業では、人類の歴史を俯瞰的に理解することによってウェルビーイングな世界の創造について考えることを目的とする。	
			WBリテラシー応用G (エコシステム)	生きとし生けるものが幸せな世界とは、地球の動植物がコクリエーション（協創）するエコシステム（生態系）である。このため、エコシステムおよびエコシステム構築のためのコクリエーションについてウェルビーイングと関係付けながら多面的に学ぶことを本授業の目的とする。具体的には、エコシステムについて、生物学や環境工学の側面から学ぶとともに、エコシステム構築のためのコクリエーション手法と実際についても学ぶ。	
			WBリテラシー発展A (実践者に聴く1)	各界でウェルビーイング実践を行いながら活躍するゲストスピーカーから、実社会におけるウェルビーイング実践内容をはじめ、講師それぞれが有する視点や物事の捉え方、経験からの学びなどに関する話を聞くとともに、学生と講師が対話を重ねることによってウェルビーイング実践に関する知恵や工夫を学ぶ。また、ゲストスピーカーとの質疑を通じて、ウェルビーイングの多様な実践を知り、ウェルビーイングに関する多面的な理解を深める。 (オムニバス方式／全7回) (13 浦谷 裕樹／4回)ビジネス系・地域系の登壇者の際のファシリテーションを担当する。 (15 楠 聖伸／3回)医療福祉系・学術系の登壇者の際のファシリテーションを担当する。	オムニバス方式
			WBリテラシー発展B (実践者に聴く2)	ウェルビーイングの向上を柱とした仕事を通じて社会的に活躍している様々な人の話を聞くことは、刺激にもなり学びにもなり人脈形成にもつながる。このため、本授業ではゲストスピーカーの話を聞くとともに対話を重ねる機会を設ける。多様なゲストスピーカーたちとの交流を通じて、ウェルビーイングについての多面的な理解を深めるとともに、自分の興味や適性を知り、社会に出た後にウェルビーイングを自らの仕事に活かすための様々な方法について学ぶ。 (オムニバス方式／全7回) (13 浦谷 裕樹／3回)ビジネス系・地域系の登壇者の際のファシリテーションを担当する。 (15 楠 聖伸／4回)医療福祉系・学術系の登壇者の際のファシリテーションを担当する。	オムニバス方式
			WBリテラシー発展C (プレゼンテーション)	卒業論文のように、高度な内容を複合的にまとめ、それを発表するという発展的なプレゼンテーションを行うためには、文章でのまとめ及びスライドを用いてのプレゼンテーションについての応用的スキルを身につける必要がある。このため、社会背景と過去の研究及びその課題、研究の目的と仮説、研究内容と結果・考察、結論を理路整然とまとめるとともに、それをわかりやすく伝えるスキルを身につける。このことは、ウェルビーイングな世界を構築するために必要不可欠な能力である。	
			WBリテラシー発展D (お金)	お金という経済的価値と幸せの関係について、その背景も含めて学ぶ。自分らしく生きるには、ワクワクしながら働くには、やさしい社会をつくるには、これからの時代に合った生き方をはぐくむためには、などの問いとともにお金と経済・金融の基本について学ぶ。すなわち、ウェルビーイング学の一つの発展的理解のために、経済学や金融工学の基礎をウェルビーイングと関連づけながら学ぶことによって、お金とウェルビーイングの関係について学ぶ。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
学 科 科 目	探 求 す る 科 目 群	ゼ ミ ナ ー ル	入門ゼミ A	各人の状況をきめ細かく把握するとともに、学生間の交流を活発化して各科目の理解度・進捗度を相互に確認することを一つの目的として入門ゼミを設ける。また、自己紹介能力の向上と、文章力の基礎の修得、コミュニケーション能力の発展を担うべく、4年間用いるポートフォリオの作成や、パワーポイントを用いた自己紹介資料の作成、その資料を用いた自己紹介など、自らを理解し人とコミュニケーションすることの基礎を身につけるための交流も行う。	
			入門ゼミ B	「入門ゼミ A」に引き続き、各人の状況をきめ細かく把握するとともに、学生間の交流を活発化して各科目の理解度・進捗度を相互に確認することを一つの目的とする。また、文章力の発展、コミュニケーション能力の発展を担うべく、4年間用いるポートフォリオの作成や、パワーポイントを用いた自己紹介資料の作成、その資料を用いた質疑応答など、自らを理解し人とコミュニケーションする能力の発展を身につけるための交流も行う。	
			基礎ゼミ A	10名程度の少人数グループにおいて、2年次の学びについて相互理解し交流を活発化することを第一の目的として基礎ゼミを設ける。なぜなら、人は他の人と深く知り合うことによって刺激を受けウェルビーイングを高める生物だからである。学びの全体像を俯瞰するために、ポートフォリオを用いた学びも継続する。文章による自己アピールの作成や、プレゼンテーションの基礎についても学びながら、相互に深く知り合うことによって、学びについてフォローをし合う関係性を構築することを目指す。	
			基礎ゼミ B	「基礎ゼミ A」に引き続き、10名程度の少人数グループにおいて、2年次の学びについて相互理解し交流を活発化することを第一の目的とする。なぜなら、人は他の人と深く知り合うことによって刺激を受けウェルビーイングを高める生物だからである。学びの全体像を俯瞰するために、ポートフォリオを用いた学びも継続する。プレゼンテーション能力をさらに向上させ、相互に深く知り合うことによって、学びについてフォローをし合う関係性を構築することを目指す。	
		自 己 理 解	自己理解入門 A（自己との対話）	ウェルビーイングについて学ぶにあたり「自分とは何者なのか」を理解することは極めて根源的に重要である。また、哲学的な問いである「自分とは何者であるか」を理解するためには、他者からのコメントを繰り返しインプットすることが重要である。本授業では、まず、対話の基礎である傾聴、尊重、保留、発話からなるアイザックスによる対話の基本について学ぶとともに、自己と対話する基本的手法を繰り返し学ぶことにより、自己との対話の基本について学ぶ。	
			自己理解入門 B（自己肯定感）	自己と対話するにあたり、もっとも大切なことの一つは、自己肯定感について理解し、自己肯定の低くない状態にいることである。このため、本授業では自己肯定感の基本について学ぶ。また、自己肯定感に類似した概念である自尊感情、自己効力感、自己有用感などについても学ぶ。また、自己肯定感を向上するためには、自信を持つことや、楽観的なこと、周りの人との心理的安全性の確保された関係性を構築することなどが重要であることも知られている。このため、本授業では、小さな成功体験を積んだり、楽観的になったり、信頼関係を構築したりするための方法についても学びながら、自分とは何者なのか、どうすれば自分の自己肯定感が高められるのか、について学ぶ。	
			自己理解入門 C（他者との対話）	「自分とは何者か」を学ぶために有効なことの一つは、他者との対話である。他者と語ることによってこそ、自己が浮き彫りになるからである。しかし他者との対話は、同時に怖れや不安を抱き、本音を隠して表面上の関わり合いに終始してしまうことも多い。本授業では他者との対話の手法やプロセス、理解・共感することのメカニズムへの理解を深める。実践を重視し、多くの事例に基づき、他者との対話の基本について学ぶ。	
			自己理解入門 D（自己受容・他者信頼）	自己のウェルビーイングについて理解し、ウェルビーイングの高い自己を形成するために重要な概念に、自己受容と他者信頼がある。自己受容と他者信頼は、他者貢献と並んで、アドラー心理学の哲学を構成する要素であると言われている。アドラー心理学は人がウェルビーイングに生きるための心理学であるとも言われる。このため、本授業では、自己受容と他者信頼を通して自己の理解を深めることを目的とする。アドラー心理学の教育への実践例を交えながら、アドラー心理学に基づいて自己理解を進めることについて学ぶ。	
			自己理解基礎 A（コンパッション）	コンパッションとは、苦悩している人を見て、その苦しみを感じ取り、なんとかその苦しみをやわらげたいと心をむけること、行動することである。なぜ人はネガティブな事象にとらわれるのか。コンパッションを育てるにはどうしたらよいか、普段の生活の中でどう使うか、コンパッションを持続するにはどうしたらよいか、について科学的な知見をもとに講義とワークによって進めていく。本授業の目的はコンパッションとは何か理解し、人と人が支え合う方法を修得し実践することである。	
			自己理解基礎 B（対話）	他者との対話を繰り返し学ぶことによって、自己理解が進むと同時に、「自己との対話」「他者との対話」を通じて、その関わり合いの相互作用である「対話」そのものについての理解も深まる。本授業では、自分と他者の間にある「対話」そのものについての、心理学・言語学・文化人類学・社会学・神経生理学・哲学など、多面的なアプローチによる理解にまで踏み込み、対話自体の学術基盤を深く学びながら、自己と幸せの関係についての基礎を学ぶ。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
学 科 目	探 究 す る 科 目 群	自己理解	自己理解基礎C（セルフ・コンパッション）	自己理解を深めるために重要な要素の一つは、セルフ・コンパッションである。セルフ・コンパッションは、コンパッションを自分に向けること、自分を思いやることである。生きていく上で自己批判や孤独感や過剰な同一化で苦しむことがある。また対人援助をしていると他人の苦しみを自分の苦しみのように感じてつらくなる時がある。そんなときに自分にコンパッションを向けることで、つらい気持ちを癒し活力を取り戻すことができる。本授業では、セルフ・コンパッションの基本的知識についての講義とそれを培うためのワークを行う。本講義の目的は、セルフ・コンパッションについて理解し、それを培う技法を身に付け、対人援助をすることや自分が困難を乗り越えることに役立てることである。	
		自然・環境	自然・環境入門A	自然と触れる体験はウェルビーイングを高める。よって、本授業では、繰り返し、畑、公園、自然林などを訪れ、農作業や自然体験を通して、社会の中での自己の心理状態について考えるとともに、人類のウェルビーイングについて考えることとする。本授業では感性を開き、自分とは何者であるか、他者や世界を感じる力を呼び覚ますことに主眼を置く。各自なりの感性に応じた気づきを得るとともに、感性の豊かさを取り戻していくことを目指す。 (オムニバス方式／全28回) (12 山田 博／14回) 自然環境に触れ合う人の心理状態を育むという視点を中心に本授業を担当する。 (8 菅原 育子／14回) 社会心理学的視点から、社会の中の自分が自然と触れ合う意味について考えることを担当する。	オムニバス方式
			自然・環境入門B	自然に身を置くことはウェルビーイングを高めることが知られている。このため、「自然・環境入門A」に引き続き、農作業、公園、自然林に入る体験を繰り返す。学生同士、あるいは他の人との対話も行い、自然とともに生きること、ないしは自然を改造して都市をつくり生きることを意味を問い直すなど、引き続き、感性を磨くことを目指す。 (オムニバス方式／全28回) (14 中村 一浩／14回) 自然、他者、自己との対話という視点からの教育を担当する。 (16 吉野 優香／14回) コミュニケーション・ポジティブ心理学という視点からの自然体験の意味理解を主に担当する。	オムニバス方式
			自然・環境基礎A	自然と触れる体験はウェルビーイングを高めることがさまざまな研究により知られている。これは単に美しい景色が心を癒すから、というような表面的な意味ではなく、そもそも人類が20万年前に生まれて以来19万年以上にわたって自然生態系とともに生きてきた記憶が呼び覚まされるからとも考えられる。よって、本授業では、「自然・環境入門」に引き続き、繰り返し、畑、公園、自然林などを訪れ、農作業や自然体験を通して人類のウェルビーイングと生態系の関係について実践的に学ぶ。	
			自然・環境基礎B	自然と触れる体験はウェルビーイングを高めることがさまざまな研究により知られている。これは単に美しい景色が心を癒すから、というような表面的な意味ではなく、そもそも人類が20万年前に生まれて以来19万年以上にわたって自然生態系とともに生きてきた記憶が呼び覚まされるからとも考えられる。よって、本授業では、「自然・環境基礎A」に引き続き、繰り返し、畑、公園、自然林などを訪れ、農作業や自然体験を通して人類のウェルビーイングと生態系の関係について実践的に学ぶ。 (オムニバス方式／全28回) (12 山田 博／14回) 自然環境に触れ合う人の心理状態を育むという視点を中心に本授業を担当する。 (8 菅原 育子／14回) 社会心理学的視点から、社会の中の自分が自然と触れ合う意味について考えることを担当する。	オムニバス方式
			自然・環境プロジェクト	現代社会における思考中心の生活から離れ、自然の中で感性、感覚を高めるために、農林水産業分野の現場において4週間以内の学外学修を行う。里山里海の生活が残る地域で生活することにより、生態系の中に生かされる実感が深まり、自然とのつながりを身体感覚として取り戻す。さらには自然とのつながり感の深化が、集団生活、地域の住民との関わりという擬似的な社会経験の幅を広げる。仲間と体験の振り返りを対話を通じて繰り返すことにより、個々人の人間としての本来の姿について考え直すとともに、人類のウェルビーイングと自然との関係について深く学ぶ。	
		地域・医療・福祉	地域・医療・福祉基礎A（医療・看護）	昔から人々はいのちを守り、そして見送ってきた。人へのケアは人の自己実現を助けるものともいわれ、人として生きていくためには、小児期や老年期はもちろん、成人期においてもケアを必要とする。つまりケアは人と人とが共生していくために必要なものである。本授業は、ケアとは何か、人と人とのつながりとは何か、どのような場が必要か、ウェルビーイングを向上させるために何が必要かを考えることを目的として、疾病に関すること、保健医療システム、看護関連の法律、マネジメントについての講義を受け、意見交換をする。	
			地域・医療・福祉基礎B（地域と福祉）	人間の多くは家族という集団で暮らし、また地域という単位で生活の場を共有している。つまり、個人である私としてのウェルビーイング、そして集団の一部である私としてのウェルビーイング、さらに地域全体としてのウェルビーイングが存在する。本授業では、地域と福祉をテーマとして、多様性、安全で安心な環境、地域社会への帰属、貧困と格差、社会的弱者、偏見と差別、共生社会、福祉サービス、ボランティア活動、ノーマライゼーション運動など、地域課題と関連する活動や実践を取り上げながら、私、友達、家族、地域、社会という関係性の中でのウェルビーイングについて探究する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
学 科 科 目	探究する科目群	地域・医療・福祉	地域・医療・福祉基礎C（高齢者福祉）	本授業の目的は、高齢者福祉について、国内外での実践を学び、ウェルビーイングを考慮した支援について探究することである。国内では、地域包括ケア、認知症共生社会への取り組み、高齢者就労支援での自治体での実践について、また海外では、北欧の福祉、特にスウェーデンの地域福祉について学ぶ。アントノフスキーの健康生成論、WHOの緩和ケア理念、音楽を活かしたケアの実例、介護業界のDX化についても理解し、ウェルビーイングとの関連について考察する。	
			地域・医療・福祉応用A（社会心理）	私たちは多くの場合、家族や近隣、友達、職場、趣味や社会活動の集団など、何らかのコミュニティに所属して生きている。コミュニティとの関わりは、良くも悪くもウェルビーイングに多大な影響を及ぼす。他者や集団との関わりがどのように私たちの心に影響をあたえ、また私たち個々人の心理状態が他者や集団との関わりにどう影響するのか、その相互作用について社会心理学の諸理論に基づいて考える。また、コミュニティで実践されているウェルビーイング向上を目指す取り組みや実践の事例について調べ、その効果や課題を分析する。分析を踏まえて、自分たちが選んだ特定のコミュニティにおけるウェルビーイング向上プログラムの立案を目指す。	
			地域・医療・福祉応用B（公共政策）	ウェルビーイングを実現するための公共経営及び公共政策づくりの意義が近年とみに注目されている。ニューパブリックマネジメント(NPM)、ニューパブリックガバナンス(NPG)など公共経営に関するガバナンスモデルなどの諸理論、さらにポリシアナリシスや伝統的な政策形成サイクルからアドボカシー・コアリションモデルに至る代表的な公共政策モデル、そして政策評価など公共政策の諸理論を学び、地域住民及び国民のウェルビーイング向上のための公共政策形成ができるようにする。そして、各国政府及び日本の地方自治体がこれまで講じてきたウェルビーイング向上のための政策の事例についても学び、政策効果の比較や事例分析ができるようにする。	
		ビジネス	ビジネス基礎A（企業）	企業で人々はいかに働くのか、そこでウェルビーイングはどのように位置づけられるのか。本授業では、大企業から中小企業に至るまで、ウェルビーイングを導入している企業の事例をひも解きながら、どういった視点や理念、取り組み・施策が、従業員や顧客の心身の健康ならびにエンゲージメント（満足度・幸福度）に影響を与えているのかを学ぶ。また、人的資本経営、働き方改革、健康経営など、近年のトピックスも交えながら、ビジネスにおけるウェルビーイングの今について考える。	
			ビジネス基礎B（人事）	ビジネスの現場における人事（HRM、ヒューマンリソースマネジメント）部門の役割について学ぶ。すなわち、人事部門は、単に人材の管理を行うのみならず、働き方改革、健康経営、人的資本経営、ダイバーシティ&インクルージョンなど、今や企業人材のウェルビーイングを向上することによる戦略的経営の核の一つであるということについて述べる。さらに、国内外の人事部門の活発な活動の事例についても学ぶ。	
			ビジネス基礎C（起業）	ウェルビーイングを陽に考慮した製品・サービス開発、人材育成、地域・コミュニティづくりは、今後の起業や企業内新規事業開発における重要なテーマであると考えられる。このため、ウェルビーイングに関連した企業の実例をもとに、そのビジネスモデル、戦略と理念、経営手法、ノウハウなどについて学ぶ。また、豊富な失敗例、成功例にもとづくケースメソッドに基づき、ウェルビーイング産業が今後の有望な市場であると考えられることについて学ぶ。	
			ビジネス応用（社会システム）	社会における人及び人工物を要素するシステムを社会システムとして捉え、システム・エンジニアリングの視点からウェルビーイングをシステムの目的としてデザインし効果を分析する。そのために、社会システム及び社会デザインの諸理論について学修し、さらに社会イノベーションに関する諸技法を実践できるようにした上で、ウェルビーイング中心デザインの立場から、社会システムデザインを実践できるようにする。さらに、ウェルビーイング中心の社会デザインの事例について学び、効果の比較分析や検証ができるようにする。	
	国際理解	地域・ビジネスプロジェクト		地域・福祉・ビジネスの現場において4週間以内のインターンシップ体験を行う。グループに分かれて4カ所程度の地域のいずれかを訪問する。実習のみならず事前学修、事後学修の学びも充実させることによって、学修効果を高める。産業の現場でのビジネス体験や福祉体験、地域活動を通して社会課題を発見するとともに、課題解決策について多様な人とともに話し合うことによって、現代社会の課題と可能性について実践的に理解する。	
		国際コミュニケーション		海外のウェルビーイング研究者を招聘し、日本語と英語による講義を行う。海外の研究者と英語で接すること、または非言語的コミュニケーションを用いることにより、外国への関心を深め、異文化を正しく理解し、差別や偏見のない思いやりのある心をもって世界をフィールドとして学んでいく基盤を養うことを目的とする。本授業ではウェルビーイングを高める技法を学び実践することにより、これから海外インターンシップに赴くことへの不安を軽減し、どこでも適応していけるレジリエンスの力も育むことも目指す。	共同
		多文化理解		文化は多様なかたちで私たちのものごとの理解の仕方、感じ方や行動に影響を与えている。例えばどんな時にどの程度の「幸せ」を感じ、それをどう表現するかは、文化の影響を大きく受けていることが知られている。また、異なる文化や社会様式を理解することは、自分自身の文化を理解することにもつながる。本授業では、文化とは何か、文化による人の行動の相違や共通点を、社会心理学、文化心理学および隣接領域の実証研究から学ぶ。多文化理解の重要性について、学術的知見に基づき理解を深めることを目指す。	
		海外インターンシップ		「世界がキャンパス」という認識のもと、2週間以内の海外でのインターンシップ体験を行う。現地に赴き、現地の現状を理解し、課題を解決する経験を通して、多様な価値観を尊重し国際的視野を持った、世界で活躍する力を育成することを目的とする。「国際コミュニケーション」の講義での学びをベースにして、渡航前に、わが国の外に旅立つことでの安全管理や価値観の相違について学び、フィジー、オーストラリア、スウェーデン等における体験を通して、帰国後には振り返りを行う。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
学 科 科 目	創 造 す る 科 目 群	未 来 デ ザ イ ン	未来デザイン方法論A (イノベーション論)	ウェルビーイングに満ち溢れた未来をデザインするためには、ブレインストーミング、デザイン思考などのイノベーション工学の技法やイノベーション論を学んでおくことが不可欠である。本授業では、まず、イノベーション工学の基本についての総論的な考え方の理解を深める。すなわち、イノベーションのジレンマや多様性の重要性について学ぶ。イノベーションとウェルビーイングの関係についても学ぶ。さらに、イノベーションのための基本的な手法についても学ぶ。	
			未来デザイン方法論B (手法1)	ウェルビーイング・イノベーションのためには、イノベーション工学・創造工学の分野でこれまでに開発されてきた様々な技法やツールを使いこなすことが不可欠である。このため、本授業では、観察、アイデア出し、プロトタイピングの基本について学ぶ。アイデア出しの手法としては、ブレインストーミング、オズボーンのチェックリスト、マトリックス法などの基本を学ぶ。ブレインストーミングと対話の共通点・相違点についても学ぶ。このように、創造的なデザインのための基本的な手法について体系的に学ぶ。	
			未来デザイン方法論C (手法2)	「未来デザイン方法論B」に引き続き、イノベーション工学における様々な技法やツールについて学ぶ。これまでに学んだ手法を何度も使ってみて使い方を深く理解するとともに、二極ブレインストーミングやアーキタイプなど、最先端の手法についても学ぶ。特に、アーキタイプでは、ウェルビーイングを促進する製品・サービスの事例を収集することにより、新たなデザインを行うためのヒント集を得る。ここまでに学んだ手法が、未来デザインプロジェクトを行う際の基本となる。	
			未来デザインプロジェクト	ウェルビーイングな未来をデザインするプロジェクトである。各自、まず、グループで、ウェルビーイングな製品・サービス・コミュニティなどのデザインを行い、発表する。これにより、グループでイノベーションを起こすための方法についての理解を深める。次に、他の人との協力のもとで、各人のウェルビーイングなデザイン創出も行う。各人の個性的な提案を切磋琢磨することが、ウェルビーイングな未来を作るためのキーとなるからである。 (1 前野 隆司) 全体の統括と、特にウェルビーイングイノベーション工学を担当する。 (7 保井 俊之) ソーシャルイノベーションおよびそのための手法の教授を主に担当する。 (15 楠 聖伸) 社会福祉の知識の教授及びファシリテーション全般を担当する。 (31 芝 哲也) イノベーション手法の教授を主に担当する。	
		応 用 ゼ ミ ・ 卒 業 プ ロ ジ ェ ク ト ・ 卒 業 論 文	応用ゼミA	3年次のゼミは、4年次の「卒業論文」で何を創造的にデザインするかを明確化するための活動を行う。ポートフォリオを用いた学びの振り返りや刷新も行う。各人の学びのシェアを行うなどして、少人数での学びを深め、応援し合う関係性を築くことにも注力する。教員は専門のみを担当するのではなく相互に協力し合いながら学問分野を超えて学生を指導する体制とする。 (1 前野 隆司) ウェルビーイングな製品・サービスの工学的デザイン (2 秋山 美紀) 医療・看護面からのウェルビーイングデザイン (3 一ノ瀬 正樹) 西洋哲学の視点からウェルビーイングの分析と理解 (5 下田 正弘) 東洋哲学・仏教学を中心とする視点からのウェルビーイングの探求 (6 西本 照真) 仏教学・建学の精神という視点からのウェルビーイングの推進 (7 保井 俊之) ソーシャルデザインという視点からのウェルビーイングデザイン (8 菅原 育子) 社会心理学・老年学を中心とした視点からのウェルビーイングの推進 (13 浦谷 裕樹) 主に教育のデザインや工学的デザインの立場からのウェルビーイングの推進 (15 楠 聖伸) 福祉とイノベーションという視点からのウェルビーイングデザイン (16 吉野 優香) 心理学、とくにポジティブ心理学という視点からのウェルビーイングの推進	
			応用ゼミB	「応用ゼミA」に引き続き、4年次の「卒業論文」で何を創造的にデザインするかを明確化するための活動を行う。ポートフォリオを用いた学びの振り返りや刷新も行う。各人の学びのシェアを行うなどして、少人数での学びを深め、応援し合う関係性を築くことにも注力する。教員は専門のみを担当するのではなく相互に協力し合いながら学問分野を超えて学生を指導する体制とする。 (1 前野 隆司) ウェルビーイングな製品・サービスの工学的デザイン (2 秋山 美紀) 医療・看護面からのウェルビーイングデザイン (3 一ノ瀬 正樹) 西洋哲学の視点からウェルビーイングの分析と理解 (5 下田 正弘) 東洋哲学・仏教学を中心とする視点からのウェルビーイングの探求 (6 西本 照真) 仏教学・建学の精神という視点からのウェルビーイングの推進 (7 保井 俊之) ソーシャルデザインという視点からのウェルビーイングデザイン (8 菅原 育子) 社会心理学・老年学を中心とした視点からのウェルビーイングの推進 (13 浦谷 裕樹) 主に教育のデザインや工学的デザインの立場からのウェルビーイングの推進 (15 楠 聖伸) 福祉とイノベーションという視点からのウェルビーイングデザイン (16 吉野 優香) 心理学、とくにポジティブ心理学という視点からのウェルビーイングの推進	

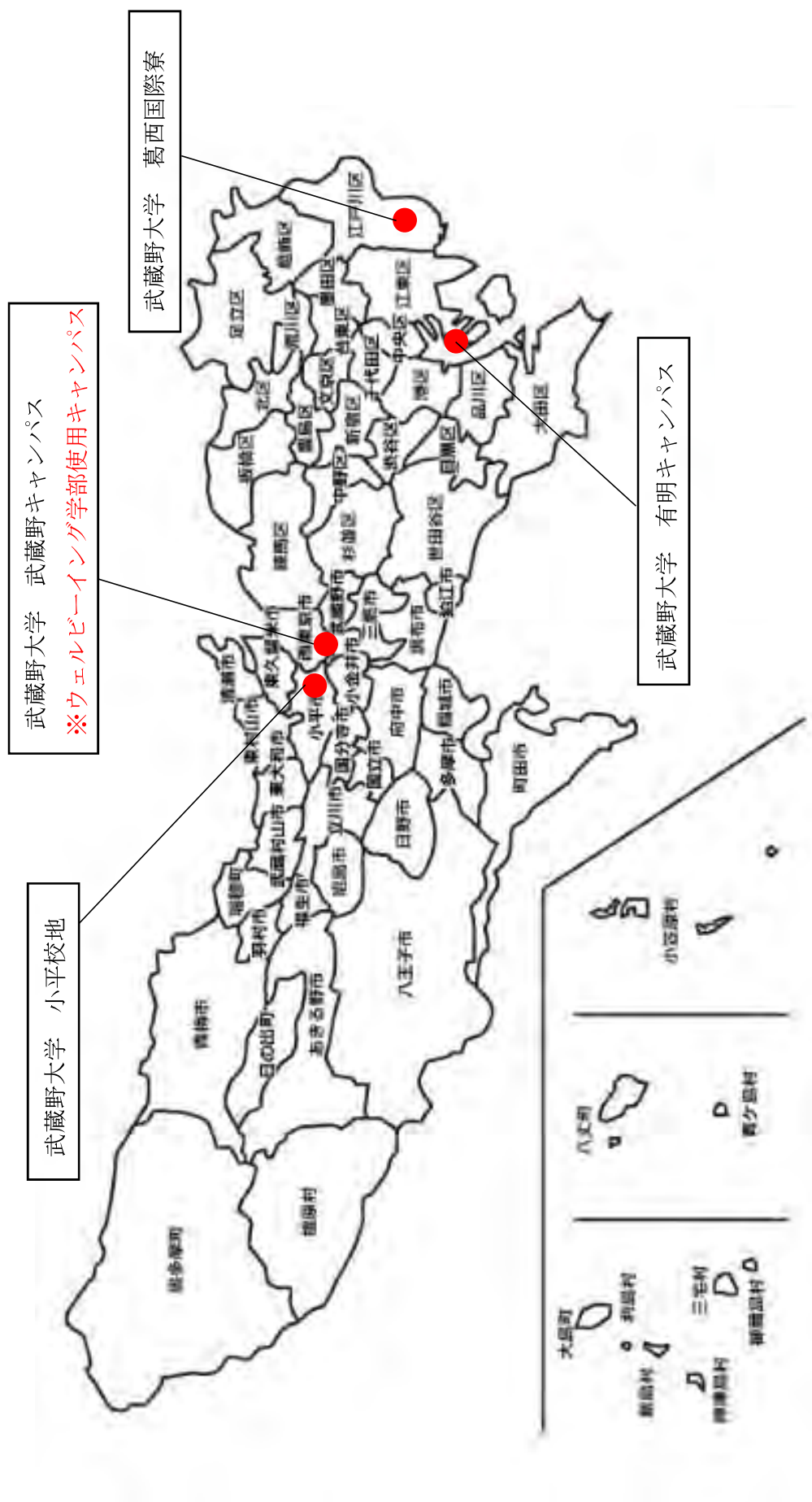
科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科科目	創造する科目群	応用ゼミ・卒業プロジェクト・卒業論文	卒業プロジェクト	「卒業プロジェクト」では、各教員のゼミに所属した学生が、少人数のチームで、ウェルビーイングな人生のデザイン、製品・サービスのデザイン、コミュニティのデザインまたは教育のデザインなど、チームで決めたテーマに取り組む。ここでは、各人の役割を明確化し、プロジェクトマネジメントを徹底して、チームで創造することについての学びの集大成とすることを目指す。最後にはグループでの発表を行い、発表する力も培う。 (1 前野 隆司) ウェルビーイングな製品・サービスの工学的デザイン (2 秋山 美紀) 医療・看護面からのウェルビーイングデザイン (3 一ノ瀬 正樹) 西洋哲学の視点からウェルビーイングの分析と理解 (4 小林 正弥) ポジティブ心理学と哲学という視点からのウェルビーイング教育 (5 下田 正弘) 東洋哲学・仏教学を中心とする視点からのウェルビーイングの探求 (6 西本 照真) 仏教学・建学の精神という視点からのウェルビーイングの推進 (7 保井 俊之) ソーシャルデザインという視点からのウェルビーイングデザイン (8 菅原 育子) 社会心理学・老年学を中心とした視点からのウェルビーイングの推進 (9 グスタフ・ストランドル) 社会福祉の実践的研究指導 (10 島田 由香) 人事面・経営面・地域面からのウェルビーイング推進 (11 松本 紹圭) 浄土真宗と経営という観点からのウェルビーイングデザイン (12 山田 博) 自然環境及びコーチングに関する実践的ウェルビーイング (13 浦谷 裕樹) 主に教育のデザインや工学的デザインの立場からのウェルビーイングの推進 (14 中村 一浩) 自然・他者・自己との対話を通してのウェルビーイング推進 (15 楠 聖伸) 福祉とイノベーションという視点からのウェルビーイングデザイン (16 吉野 優香) 心理学、とくにポジティブ心理学という視点からのウェルビーイングの推進	
			卒業論文	「卒業プロジェクト」での成果を踏まえ、各人が文章にまとめ、卒業論文を作成する。また、卒業論文の発表会も行う。すなわち、本授業は、これまでに学んだことの個人としての総まとめとして、文章にまとめ、発表する力を身につけるための科目である。単に論理的に書いたり発表したりするだけでなく、情熱的かつわかりやすく人に伝える書き方・話し方についても身につけることを目指す。 (1 前野 隆司) ウェルビーイングな製品・サービスの工学的デザイン (2 秋山 美紀) 医療・看護面からのウェルビーイングデザイン (3 一ノ瀬 正樹) 西洋哲学の視点からウェルビーイングの分析と理解 (4 小林 正弥) ポジティブ心理学と哲学という視点からのウェルビーイング教育 (5 下田 正弘) 東洋哲学・仏教学を中心とする視点からのウェルビーイングの探求 (6 西本 照真) 仏教学・建学の精神という視点からのウェルビーイングの推進 (7 保井 俊之) ソーシャルデザインという視点からのウェルビーイングデザイン (8 菅原 育子) 社会心理学・老年学を中心とした視点からのウェルビーイングの推進 (9 グスタフ・ストランドル) 社会福祉の実践的研究指導 (10 島田 由香) 人事面・経営面・地域面からのウェルビーイング推進 (11 松本 紹圭) 浄土真宗と経営という観点からのウェルビーイングデザイン (12 山田 博) 自然環境及びコーチングに関する実践的ウェルビーイング (13 浦谷 裕樹) 主に教育のデザインや工学的デザインの立場からのウェルビーイングの推進 (14 中村 一浩) 自然・他者・自己との対話を通してのウェルビーイング推進 (15 楠 聖伸) 福祉とイノベーションという視点からのウェルビーイングデザイン (16 吉野 優香) 心理学、とくにポジティブ心理学という視点からのウェルビーイングの推進	

学校法人武蔵野大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由	
武蔵野大学				武蔵野大学					
文学部				文学部					
日本文学文化学科	200	2年次	5	815	日本文学文化学科	200	2年次	5	815
グローバル学部				グローバル学部					
グローバルコミュニケーション学科	165	3年次	3	666	グローバルコミュニケーション学科	165	3年次	3	666
日本語コミュニケーション学科	80	3年次	5	330	日本語コミュニケーション学科	80	3年次	5	330
グローバルビジネス学科	55	3年次	7	234	グローバルビジネス学科	55	3年次	7	234
法学部				法学部					
法律学科	190	2年次	3	769	法律学科	190	2年次	3	769
政治学科	100	2年次	3	409	政治学科	100	2年次	3	409
経済学部				経済学部					
経済学科	175	2年次	3	709	経済学科	175	2年次	3	709
経営学部				経営学部					
経営学科	220	2年次	3	889	経営学科	220	2年次	3	889
会計ガバナンス学科	90	—	360	会計ガバナンス学科	90	—	360		
アントレプレナーシップ学部				アントレプレナーシップ学部					
アントレプレナーシップ学科	60	—	240	アントレプレナーシップ学科	60	—	240		
データサイエンス学部				データサイエンス学部					
データサイエンス学科	90	—	360	データサイエンス学科	90	—	360		
人間科学部				人間科学部					
人間科学科	215	2年次	2	866	人間科学科	215	2年次	2	866
社会福祉学科	145	2年次	4	592	社会福祉学科	145	2年次	4	592
				<u>ウェルビーイング学部</u>					
				<u>ウェルビーイング学科</u>	<u>80</u>	2年次	<u>10</u>	<u>350</u>	学部の設置(届出)
工学部				工学部					
サステナビリティ学科	70	—	280	サステナビリティ学科	70	—	280		
数理工学科	60	—	240	数理工学科	60	—	240		
建築デザイン学科	70	—	280	建築デザイン学科	70	—	280		
教育学部				教育学部					
教育学科	120	—	480	教育学科	120	—	480		
幼児教育学科	100	—	400	幼児教育学科	100	—	400		
薬学部				薬学部					
薬学科	145	—	870	薬学科	145	—	870		
看護学部				看護学部					
看護学科	125	—	500	看護学科	125	—	500		
通信教育部				通信教育部					
人間科学部				人間科学部					
人間科学科	250	3年次	700	2,400	人間科学科	250	3年次	700	2,400
教育学部				教育学部					
教育学科	15	2年次	55	225	教育学科	15	2年次	55	225
計	2,740	2年次	78	12,914	計	2,820	2年次	88	13,264
		3年次	715			3年次	715		

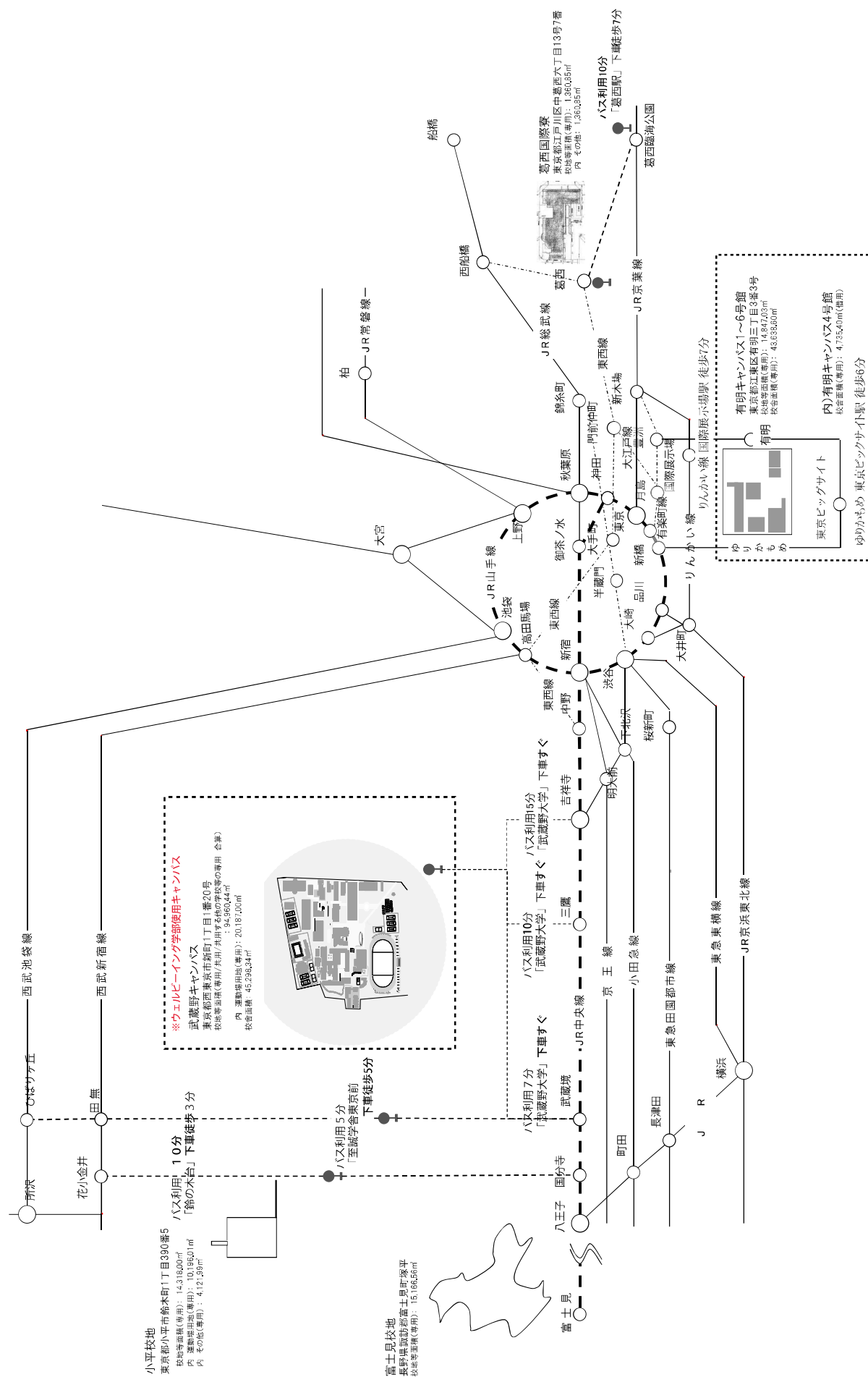
令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
武蔵野大学大学院				武蔵野大学大学院				
文学研究科				文学研究科				
日本文学専攻(修士課程)	7	—	14	日本文学専攻(修士課程)	7	—	14	
日本文学専攻(博士後期課程)	2	—	6	日本文学専攻(博士後期課程)	2	—	6	
言語文化研究科				言語文化研究科				
言語文化専攻(修士課程)	55	—	110	言語文化専攻(修士課程)	55	—	110	
言語文化専攻(博士後期課程)	2	—	6	言語文化専攻(博士後期課程)	2	—	6	
法学研究科				法学研究科				
ビジネス法務専攻(修士課程)	10	—	20	ビジネス法務専攻(修士課程)	10	—	20	
ビジネス法務専攻(博士後期課程)	3	—	9	ビジネス法務専攻(博士後期課程)	3	—	9	
政治経済学研究科				政治経済学研究科				
政治経済学専攻(修士課程)	10	—	20	政治経済学専攻(修士課程)	10	—	20	
政治経済学専攻(博士後期課程)	3	—	9	政治経済学専攻(博士後期課程)	3	—	9	
経営学研究科				経営学研究科				
会計学専攻(修士課程)	10	—	20	会計学専攻(修士課程)	10	—	20	
データサイエンス研究科				データサイエンス研究科				
データサイエンス専攻(修士課程)	10	—	20	データサイエンス専攻(修士課程)	10	—	20	
データサイエンス専攻(博士後期課程)	3	—	9	データサイエンス専攻(博士後期課程)	3	—	9	
人間社会研究科				人間社会研究科				
人間学専攻(修士課程)	30	—	60	人間学専攻(修士課程)	30	—	60	
人間学専攻(博士後期課程)	3	—	9	人間学専攻(博士後期課程)	3	—	9	
実践福祉学専攻(修士課程)	7	—	14	実践福祉学専攻(修士課程)	7	—	14	
仏教学研究科				仏教学研究科				
仏教学専攻(修士課程)	5	—	10	仏教学専攻(修士課程)	5	—	10	
仏教学専攻(博士後期課程)	2	—	6	仏教学専攻(博士後期課程)	2	—	6	
工学研究科				工学研究科				
数理工学専攻(修士課程)	15	—	30	数理工学専攻(修士課程)	15	—	30	
数理工学専攻(博士後期課程)	2	—	6	数理工学専攻(博士後期課程)	2	—	6	
建築デザイン専攻(修士課程)	15	—	30	建築デザイン専攻(修士課程)	15	—	30	
環境学研究科				環境学研究科				
環境マネジメント専攻(修士課程)	10	—	20	環境マネジメント専攻(修士課程)	10	—	20	
環境システム専攻(博士後期課程)	2	—	6	環境システム専攻(博士後期課程)	2	—	6	
教育学研究科				教育学研究科				
教育学専攻(修士課程)	10	—	20	教育学専攻(修士課程)	10	—	20	
薬科学研究科				薬科学研究科				
薬科学専攻(修士課程)	5	—	10	薬科学専攻(修士課程)	5	—	10	
薬科学専攻(博士後期課程)	5	—	15	薬科学専攻(博士後期課程)	5	—	15	
看護学研究科				看護学研究科				
看護学専攻(修士課程)	10	—	20	看護学専攻(修士課程)	10	—	20	
看護学専攻(博士後期課程)	3	—	9	看護学専攻(博士後期課程)	3	—	9	
通信教育部				通信教育部				
人間社会研究科				人間社会研究科				
人間学専攻(修士課程)	60	—	120	人間学専攻(修士課程)	60	—	120	
実践福祉学専攻(修士課程)	10	—	20	実践福祉学専攻(修士課程)	10	—	20	
仏教学研究科				仏教学研究科				
仏教学専攻(修士課程)	20	—	40	仏教学専攻(修士課程)	20	—	40	
環境学研究科				環境学研究科				
環境マネジメント専攻(修士課程)	10	—	20	環境マネジメント専攻(修士課程)	10	—	20	
計	339		708	計	339		708	

都道府県内における位置関係の図面



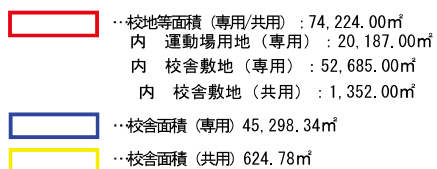
図面-1

最寄り駅からの距離、交通機関及び所要時間がわかる図面



※ウェルビーイング学部使用キャンパス

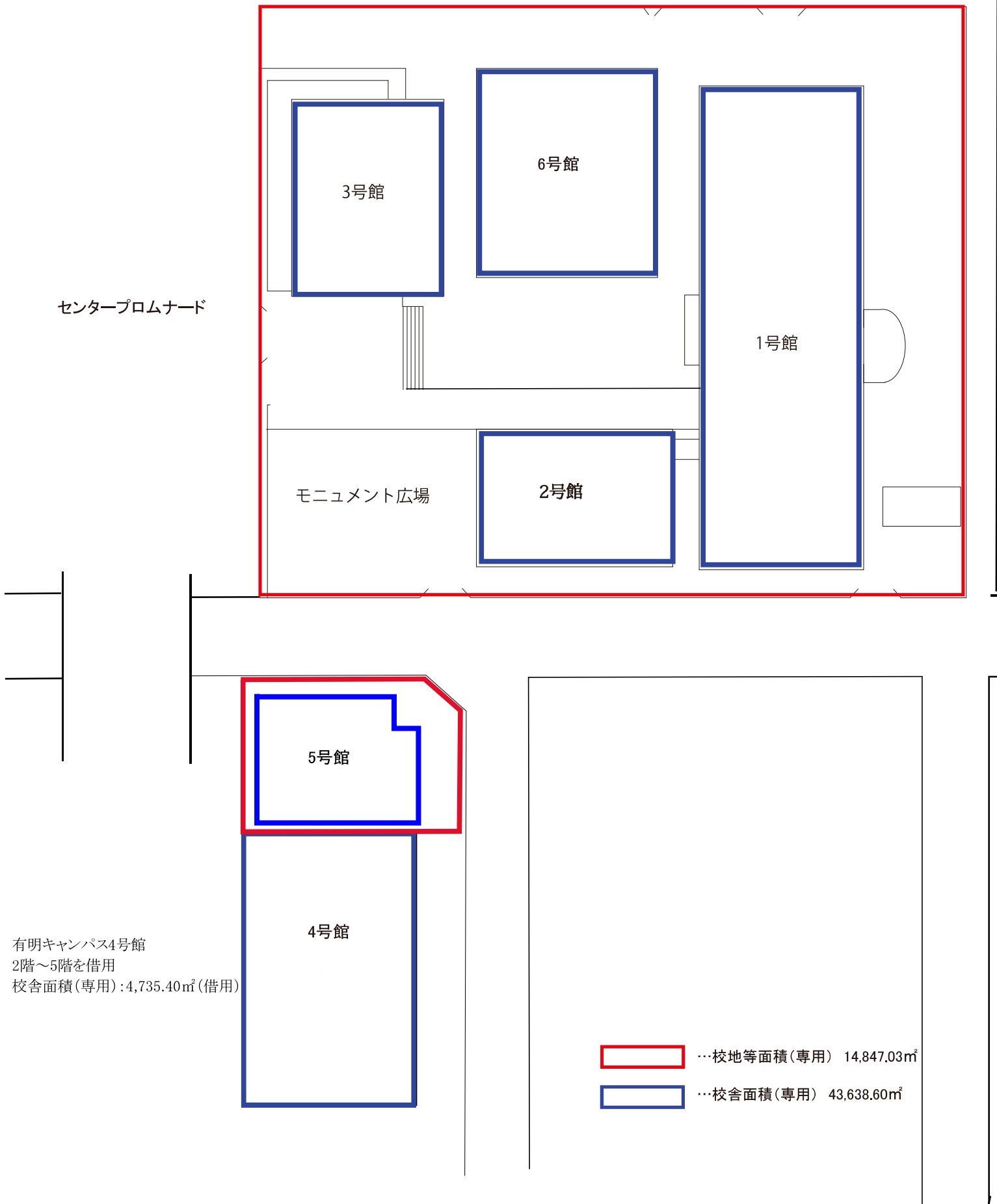
都立田無工業高等学校



平成15年9月一部修正
平成16年12月一部修正 (8号館新築)
平成18年5月一部修正 (学友棟新築)
平成26年2月一部修正

(この現況図は、1/250の縮小図である)

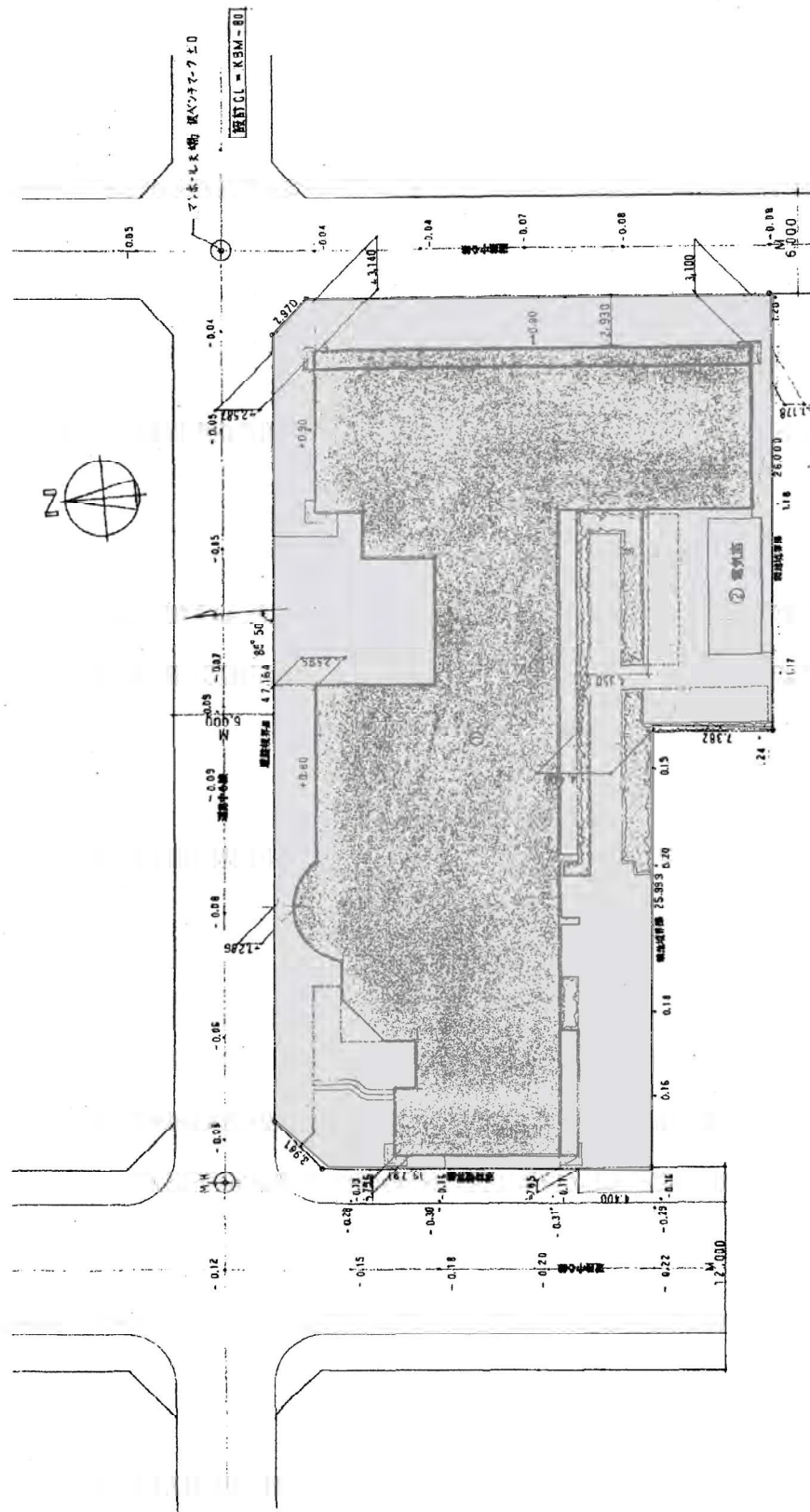
有明キャンパス 建物配置図



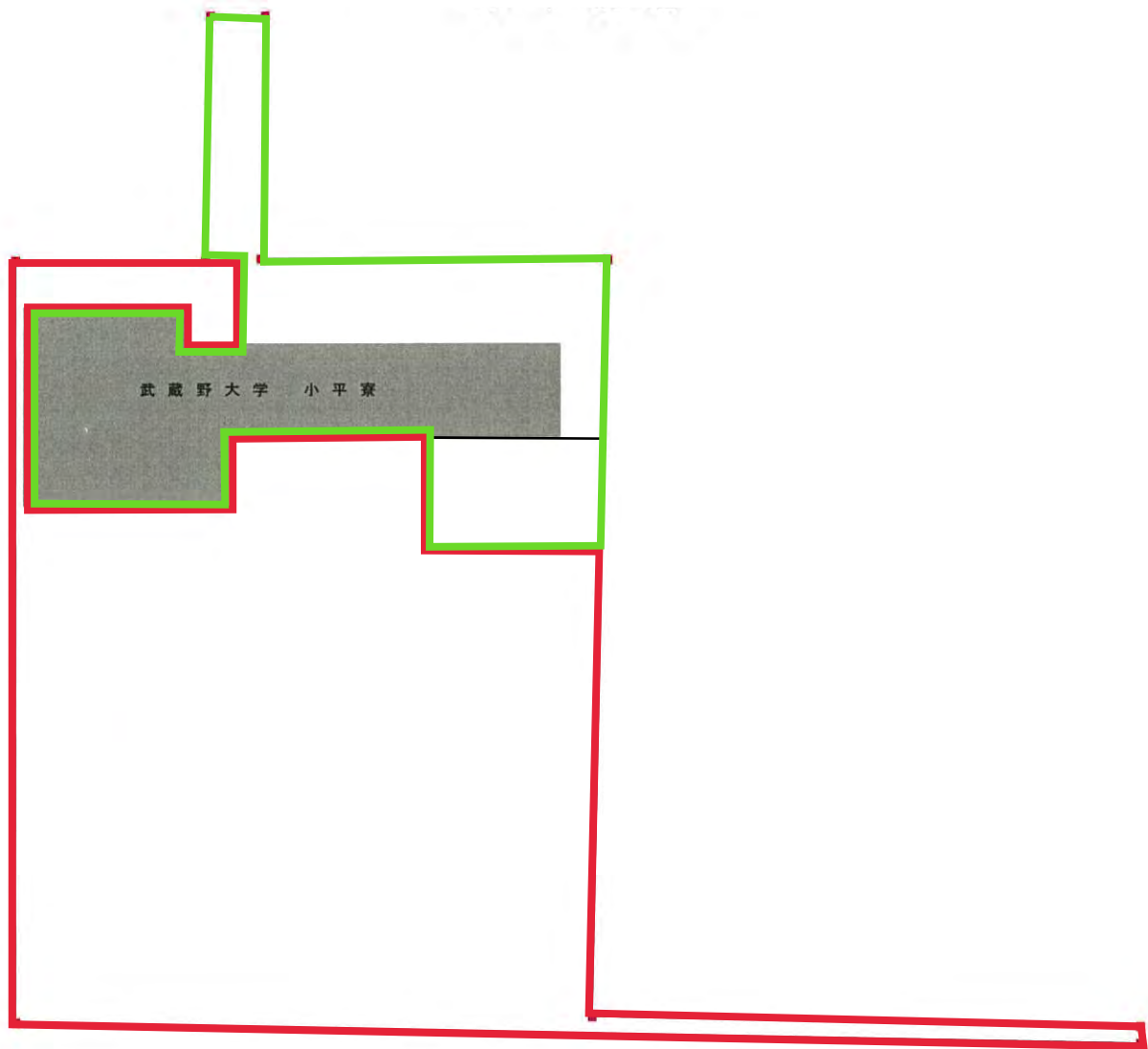
図面-4

葛西国際寮 敷地図

.....校地等面積「その他(専用)」: 1,360.85㎡



小平校地

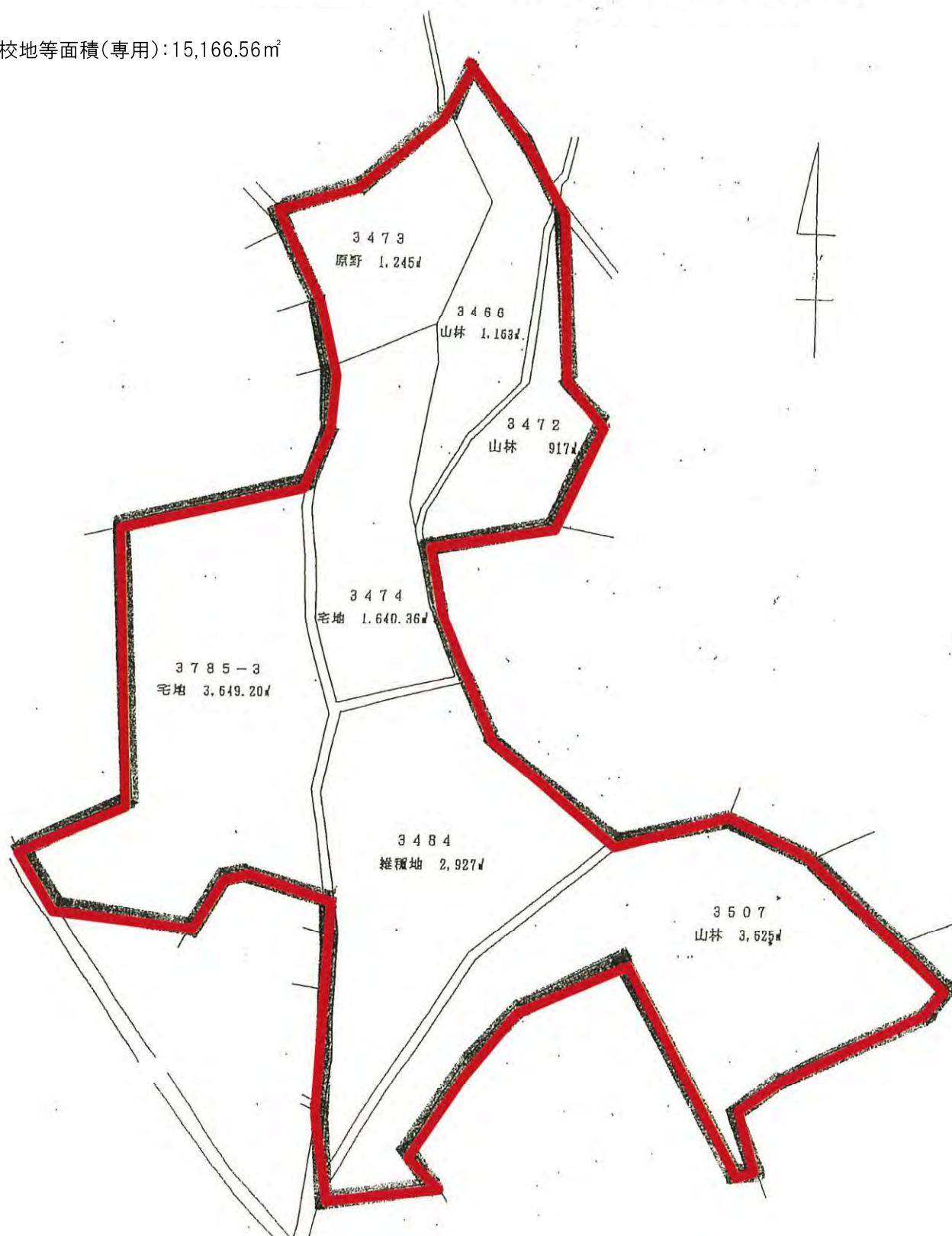


..... 校地等面積「運動場用地（専用）」：10,196.01㎡

..... 校地等面積「その他（専用）」：4,121.99㎡

富士見校地 敷地図

 校地等面積(専用):15,166.56㎡



○武蔵野大学学則（案）

（昭和40年 1月25日）

改正	昭和42年	1月28日	昭和44年	4月1日
	昭和45年	4月10日	昭和46年	4月1日
	昭和47年	4月1日	昭和48年	4月1日
	昭和49年	4月1日	昭和50年	4月1日
	昭和51年	4月1日	昭和52年	4月1日
	昭和53年	4月1日	昭和54年	4月1日
	昭和55年	4月1日	昭和56年	4月1日
	昭和57年	4月1日	昭和58年	4月1日
	昭和59年	4月1日	昭和60年	4月1日
	昭和61年	4月1日	昭和62年	4月1日
	昭和63年	4月1日	平成元年	4月1日
	平成2年	4月1日	平成3年	4月1日
	平成3年	7月1日	平成3年10月	1日
	平成4年	4月1日	平成5年	4月1日
	平成6年	4月1日	平成7年	4月1日
	平成8年	4月1日	平成9年	4月1日
	平成10年	4月1日	平成11年	4月1日
	平成12年	4月1日	平成13年	4月1日
	平成14年	4月1日	平成15年	4月1日
	平成16年	4月1日	平成17年	4月1日
	平成18年	4月1日	平成19年	4月1日
	平成20年	4月1日	平成21年	4月1日
	平成22年	4月1日	平成23年	4月1日
	平成24年	4月1日	平成25年	4月1日
	平成26年	4月1日	平成27年	4月1日
	平成28年	4月1日	平成29年	4月1日
	平成30年	4月1日	平成31年	4月1日
	令和2年	4月1日	令和3年	4月1日
	令和4年	4月1日	令和5年	4月1日
	令和6年	4月1日		

第1章 総則

（名称）

第1条 本学は、武蔵野大学（以下「本学」という。）と称する。

（目的）

第2条 本学は、教育基本法及び学校教育法に準拠し、かつ、仏教精神を根幹として学識、情操、品性ともにすぐれた人格を育成するとともに、学問の研究を深め、世界の平和と人類の幸福に寄与することをもって目的とする。

2 各学部・学科の教育目的は次のとおりとする。

（1）文学部

仏教精神を根幹として学識、情操、品性にすぐれた人格を育成するとともに、文学を学び、文化を理解し、社会で活躍できる表現・伝達能力を身につけた人材の育成を目的とする。

＜日本文学文化学科＞

日本文学及び日本文化を学ぶことを通じて豊かな感性を養い、読解力・表現力・創造力・批評力を身につけ、新しい文化を創造することのできる人材の育成を目的とする。

（2）グローバル学部

仏教精神を根幹として学識、情操、品性にすぐれた人格を育成するとともに、複数の言語を駆使し、多様な学生や多文化との関わりの中で、広い視野をもってグローバルな視点から問題発見・課題解決ができる人材の育成を目的とする。

＜グローバルコミュニケーション学科＞

英語、中国語、日本語のうち、母語以外の2言語を駆使し、言語文化を中心とする知識を有し、グローバルな環境で活躍することのできる人材を育成する。

＜日本語コミュニケーション学科＞

日本語の高度なコミュニケーション能力と課題解決能力を有し、国際社会に日本

語と日本文化を発信するなど、グローバルに活躍できる人材を育成する。

＜グローバルビジネス学科＞

英語を含む複数の言語を駆使し、ビジネス社会でグローバルに活躍できる人材を育成する。

(3) 法学部

仏教精神を根幹として学識、情操、品性にすぐれた人格を育成するとともに、法律学又は政治学の専門的な知識を養い、普遍的なものの見方、考え方を身につけ、共生の視点を持って課題発見・解決のできる人材の育成を目的とする。

＜法律学科＞

幸福な生活の実現に役立つ実用的な法律知識と考え方を身につけることによって、共生の視点を持って持続可能な社会の形成に貢献できる人材を育成する。

＜政治学科＞

自分を取り巻く社会環境を理解し、公共精神と共生の視点をもった市民としての能力・技能を身につけることによって、持続可能な社会の形成に貢献できる人材を育成する。

(4) 経済学部

仏教精神を根幹として学識、情操、品性にすぐれた人格を育成するとともに、経済学の専門的な知識を養い、普遍的・科学的なものの見方、考え方を身につけ、共生の視点を持って課題発見・解決のできる人材の育成を目的とする。

＜経済学科＞

国際化した社会の中で、高い倫理観と共生の視点を持ち、社会貢献と自己実現を目指して、経済学の方法と知見によって普遍的・科学的なものの見方・考え方を修得することで、問題発見・解決ができ、国内外の企業や官公庁など幅広い分野での活躍ができる人材を育成する。

(5) 経営学部

仏教精神を根幹として、世界の幸せの実現に向け高い倫理観と共生の視点を育成するとともに、経営学及び会計学における専門知識と技能を修得し、多様で複雑化するビジネス分野及び非営利・公共分野等において、多様な諸問題を発見・解決できる実践的な能力を身につけた人材を育成する。

＜経営学科＞

変転著しい国際社会の中で、世界の幸せの実現に向け、高い倫理観と共生の視点を持ち、経営学を中心とした社会科学の知識と技能を修得し、組織人として、あるいは個人で、ビジネス分野を中心とした領域及びその他の様々な領域において、多様な諸問題を発見・解決できる実践的な能力を身につけた人材を育成する。

＜会計ガバナンス学科＞

国際化した社会の中で、高い倫理観と共生の視点を持ち、社会貢献と自己実現を目指して、会計言語を駆使し、営利組織・非営利組織を問わず、組織を批判的見地で分析できる知識を養い、国内外の企業等のビジネス分野及び非営利・公共分野等で活躍できる有為な人材、中小企業の事業承継者や経営幹部、並びに公認会計士、税理士等の専門人材を育成する。

(6)アントレプレナーシップ学部

仏教精神を根幹として学識、情操、品性にすぐれた人格を育成するとともに、起業家精神（アントレプレナーシップ）を抱き、既存の枠を超えて新たな価値を創造できる実践的な能力を身につけた人材の育成を目的とする。

＜アントレプレナーシップ学科＞

変革期を迎え、予測困難で多様性に富んだ現代社会の中で、高い倫理観と好奇心をもって、世界の幸せのために未知なるものに挑戦しようという志、起業家精神（アントレプレナーシップ）を抱き、多様な背景を持つ人を巻き込みながら、既存の枠を超えて新たな価値を創造できる実践的な能力を身につけた人材を育成する。

(7) データサイエンス学部

仏教精神を根幹として学識、情操、品性にすぐれた人格を育成するとともに、データ、メディアコンテンツ及びそれらの分析・統合による「知の創造」を対象とする新しい学術を志向し、多くの応用の発展を実現できる人材を養成する。

＜データサイエンス学科＞

ビッグデータ、人工知能・機械学習等の新領域の経済的、技術的基礎と応用を学習し、データ、メディアコンテンツの分析・統合により、ビッグデータの戦略的活用と意思決定が行える人材を養成する。

(8) 人間科学部

仏教精神を根幹として学識、情操、品性にすぐれた人格を育成するとともに、人間が直面する歴史的・社会的諸課題を、心理、生命、社会、福祉などの側面から科学的に理解し、実践的に解決できる人材の育成を目的とする。

＜人間科学科＞

人間の心理、生命、社会行動を科学的方法論に基づいて研究し、人間が直面する諸課題を人間尊重の立場にたって実践的に解決できる人材の育成を目的とする。

＜社会福祉学科＞

人と社会の共生を実現しようとする人格を育成するとともに、社会福祉又はこれに関連する実践的で専門的な知識と技術を持つ人材の育成を目的とする。

(9) ウェルビーイング学部

仏法の真理観を根幹として、人間の抱える根源的な苦悩からの解放を見据えつつ、学識、情操、品性にすぐれた人格を育成するとともに、科学や技術の最先端の知見や成果も取り入れた学際的なアプローチによって、幸せ・生きがい・安心・福祉・健康・平和など、人々と世界のウェルビーイングをデザインし、創造していく人材の育成を目的とする。

＜ウェルビーイング学科＞

ウェルビーイングという総合的概念についての社会学・心理学的知見や、新たに創造的なデザインを行うため問題発見・課題解決できる実践的な能力を身につけ、今後のあるべきウェルビーイング社会の創造に主体的に取り組んでいく人材を養成する。

(10) 工学部

仏教精神を根幹として学識、情操、品性にすぐれた人格を育成するとともに、専門的な知識を養い、持続可能な社会構築に向けて主体的に参画し、工学的手法により課題解決のできる人材を養成する。

＜サステナビリティ学科＞

人類社会や地球環境のサステナビリティに対する深い理解に基づき、ソーシャルデザイン及び環境エンジニアリングの知識・方法・技術によって、サステナブルな世界の実現に貢献できる人材を養成する。

＜数理工学科＞

自然現象や社会現象をモデル化して理解し、システム設計に応用することができる人材や、大規模データから問題の本質を見抜くデータサイエンティスト等、数理工学の専門能力を身につけ、持続可能な社会構築に向けて主体的に参画する人材を養成する。

＜建築デザイン学科＞

建築の分野を中心に、持続可能な社会構築に向けてデザインできる専門的能力を活用して現代社会が直面する多様な課題を解決できる人材を育成する。

(11) 教育学部

仏教精神を根幹として学識、情操、品性にすぐれた人格を育成するとともに、幅広い視野を持って教育及び教育支援に携わることのできる人材の育成を目的とする。

＜教育学科＞

児童生徒の成長・発達に関する知識を学習し、児童生徒を健やかに育むための技術と実践力を身につけ、教育とその支援活動を行える、高い人格と専門的な実践力・

企画力をもった教育者の育成を目的とする。

＜幼児教育学科＞

人格教育に重きを置き、乳幼児期から児童期・青年期に至る発達全体を見通しながら、特に乳幼児期の子供の成長発達に関しての専門性の高い幼児教育者・保育者の育成を目的とする。

(12) 薬学部

仏教精神を根幹として学識、情操、品性にすぐれた人格を育成するとともに、慈悲の心を持ち、多様な薬学関連分野で人々に貢献できる人材の育成を目的とする。

＜薬学科＞

6年一貫教育の趣旨を生かし、教養教育から基礎薬学教育、医療薬学教育へと系統的な教育を行うことで、医療人として高い倫理観と高度な専門知識を兼ね備えた実践力のある薬剤師の育成を目的とする。

(13) 看護学部

仏教精神を根幹として学識、情操、品性にすぐれた人格を育成するとともに、人の「生老病死」と看護は密接に関係することを認識し、人々の健康及び福祉の向上に貢献できる人材の育成を目的とする。

＜看護学科＞

深い人間理解を基盤に、高い倫理観と看護の専門的な知識及び技術を有する看護職の育成を目的とする。

(学長)

第2条の2 学長は、校務をつかさどり、所属職員を統督する。

2 教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるものについては、別に定める。

3 学長の任期及び選任については、別に定める。

(自己点検・評価)

第3条 本学は、教育研究水準の向上を図り、前条の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検し、評価を行う。

2 点検、評価に関しての事項・体制については、別に定める。

(認証評価)

第3条の2 本学は、学校教育法に則り、文部科学大臣の認証を受けた者（認証評価機関）による評価（認証評価）を受けるものとする。

2 認証評価に関しての事項・体制については、別に定める。

(学部・学科及び学生定員)

第4条 本学に次の学部、学科及び専修を置き、定員は次のとおりとする。人間科学科における精神保健福祉士の定員は（ ）内のとおり定める。

学部	学 科 ・ 専 攻	入学定員	編入学定員		収容定員
			2年次	3年次	
文学部	日本文学文化学科	200名	5名	—	815名
グローバル学部	グローバルコミュニケーション学科	165名	—	3名	666名
	日本語コミュニケーション学科	80名	—	5名	330名
	グローバルビジネス学科	55名	—	7名	234名
法学部	法律学科	190名	3名	—	769名
	政治学科	100名	3名	—	409名
経済学部	経済学科	175名	3名	—	709名

経営学部	経営学科		220名	3名	—	889名
	会計ガバナンス学科		90名	—	—	360名
アントレプレナーシップ学部	アントレプレナーシップ学科		60名	—	—	240名
データサイエンス学部	データサイエンス学科		90名	—	—	360名
人間科学部	人間科学科		215名 (20名)	2名	—	866名 (80名)
	社会福祉学科		145名	4名	—	592名
ウェルビーイング学部	ウェルビーイング学科		80名	10名	—	350名
工学部	サステナビリティ学科		70名	—	—	280名
	数理工学科		60名	—	—	240名
	建築デザイン学科		70名	—	—	280名
教育学部	教育学科	初等コース	120名	—	—	480名
		国語コース			—	
		英語コース			—	
		理科コース			—	
	幼児教育学科		100名	—	—	400名
薬学部	薬学科		145名	—	—	870名
看護学部	看護学科		125名	—	—	500名

(大学院)

第4条の2 本学に大学院を置く。

2 大学院に関する事項は、武蔵野大学大学院学則に定める。

(通信教育課程)

第4条の3 本学に通信教育部を置く。

2 通信教育部に関する事項は、武蔵野大学通信教育部学則及び武蔵野大学大学院通信教育部学則に定める。

(別科)

第4条の4 本学に別科（日本語教育課程）及び別科（介護福祉士養成課程）を置く。

2 別科に関する規程は、別に定める。

(専攻科)

第4条の5 本学に専攻科（言語聴覚士養成課程）を置く。

2 専攻科に関する規程は、別に定める。

第5条 (削除)

(修業年限及び在学期間)

第6条 各学科の修業年限は4年とし、在学期間は8年を超えることができない。ただし、薬学部薬学科においては、修業年限は6年とし、在学期間は12年を超えることができない。

第2章 学年、学期及び休業日

(学年)

第7条 学年は、4月1日に始まり翌年3月31日に終る。

(学期)

第8条 学年は、2学期又は4学期に分ける。

2 前項の学期の期間については、別に定める。

3 年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とする。

(休業日)

第9条 休業日は、次のとおりとする。

(1) 日曜日

(2) 国民の祝日に関する法律に定めた日

(3) 本学創立記念日(5月21日)

(4) 夏季休業、冬季休業、春季休業に関しては別に定める。

(5) その他学長が必要と認めたときは、臨時に休業し、又は休業日に授業を行うことがある。

第3章 授業科目及び単位算定基準

(授業科目)

第10条 本学には、次の授業科目を置く。

共通科目・学科科目

2 (削除)

3 前項により開講する授業科目の種類及び単位数は、別表(1)及び教育学部教育学科履修内規のとおりとする。

(資格課程の授業科目)

第11条 前条に定めるほか、教職、司書、司書教諭、日本語教員養成、建築士、保育士、社会福祉士、精神保健福祉士及び保健師に関する授業科目を置く。

2 前項により開講する授業科目の種類及び単位数は、別表(2)～(4)、(6)及び(8)(9)(10)(11)(12)のとおりとする。

(単位)

第12条 各授業科目の単位数は、45時間の学修を必要とする内容をもって1単位とすることを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算するものとする。

(1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。

(2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。

(3) 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することができる。

2 学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、卒業の要件として学生が履修すべき単位数について、1年間に履修科目として登録できる単位数の上限を定める。

3 前項に定める単位数の上限は、別表(1)～3に定める。

4 所定の単位を優れた成績をもって修得した学生については、前項に定める上限を超えて履修科目の登録を認めることができる。

(メディアを利用して行う授業)

第12条の2 本学において教育上有益と認めるときは、前条の授業を、多様なメディアを高度に利用して、教室等以外の場所で履修させることができる。

2 前項の授業の方法により修得する単位数は、卒業の要件として修得すべき単位数のうち60単位を超えないものとする。

- 3 メディアを利用して行う授業科目及び授業方法については別に定める。

第4章 試験及び単位の認定

(単位の認定)

第13条 1つの授業科目を履修した者に対しては、試験の上単位を与える。

- 2 各授業科目について授業時数の3分の1以上欠席した者は、その授業科目の単位の認定を受けることができない。

(追、再試験)

第13条の2 病気その他やむを得ない事情により定期試験に欠席した者に対しては、追試験を行うことがある。

- 2 不合格の科目については、再試験を行うことがある。
3 追試験及び再試験の実施については別に定める。

(成績評価)

第14条 試験の成績評価は、次のとおりとする。

- S (100点～90点)、A (89点～80点)、B (79点～70点)、
C (69点～60点)、D (59点～0点)。
C以上を合格とし、Dは不合格とする。

第15条 (削除)

第16条 (削除)

第17条 (削除)

第18条 (削除)

(他大学等における学修)

第19条 本学において教育上有益と認めるときは、他の大学又は短期大学との協議に基づき、学生に当該他大学又は短期大学の授業科目を履修させることができる。

- 2 前項の規定により履修した授業科目については、合計60単位を超えない範囲で卒業要件の単位として認めることができる。
3 前2項は、国内外の大学等へ留学した場合にも適用する。

(大学以外の教育施設における学修)

第19条の2 本学において教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を本学における授業科目の履修とみなし、単位を認めることができる。

- 2 前項により認めることができる単位数は、前条により本学において修得したものと認める単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

(入学前の既修得単位の認定)

第20条 本学において教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位(科目等履修生として修得した単位を含む。)を本学に入学した後の本学における授業科目の履修により修得したとみなし単位を認めることができる。

- 2 前項により修得したものとみなして認めることのできる単位数は、編入学、転学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、第19条及び前条による単位数と合わせて60単位を超えないものとする。
3 前2項の単位認定の取り扱いについては、別に定める。

(外国人留学生の単位の読み替え)

第21条 (削除)

第5章 卒業・学位授与及び資格の取得

(卒業の要件)

第22条 卒業の要件は、文学部並びにグローバル学部、法学部、経済学部、経営学部、アントレプレナーシップ学部、データサイエンス学部、人間科学部、ウェルビーイング学部、工学部、教育学部、看護学部は合計124単位以上、薬学部は合計205単位

以上を修得していることとする。

(1) 文学部日本文学文化学科

日本文学文化学科の共通科目は、必修16単位。学科科目は、必修46単位を含めて76単位。自由選択単位は、32単位以上。自由選択単位は、共通科目、学科科目、教職課程科目等の資格取得科目、5大学単位認定科目、他学部・他学科の学科科目の単位をあてることができる。

(2) グローバル学部グローバルコミュニケーション学科、日本語コミュニケーション学科、グローバルビジネス学科

グローバルコミュニケーション学科の共通科目は、必修12単位。学科科目は、必修24単位及び選択必修単位を含めて75単位。自由選択単位は、37単位以上。自由選択単位は、共通科目、学科科目、資格取得科目、5大学単位認定科目、他学部・他学科の学科科目の単位をあてることができる。

日本語コミュニケーション学科の共通科目は、必修12単位。学科科目は、必修23単位及び選択必修単位を含めて79単位。自由選択単位は、33単位以上。自由選択単位は、共通科目、学科科目、資格取得科目、5大学単位認定科目、他学部・他学科の学科科目の単位をあてることができる。

グローバルビジネス学科の共通科目は、必修11単位。学科科目は、必修28単位及び選択必修単位を含めて84単位。自由選択単位は、29単位以上。自由選択単位は、共通科目、学科科目、5大学単位認定科目、他学部・他学科の学科科目の単位をあてることができる。

(3) 法学部法律学科、政治学科

法律学科の共通科目は、必修16単位。学科科目は、必修30単位を含めて82単位。自由選択単位は、26単位以上。自由選択単位は、共通科目、学科科目から所要単位以上に取得した単位、他学部・他学科の学科科目の単位をあてることができる。なお、育成プログラムについては別に定める。

政治学科の共通科目は、必修16単位。学科科目は、必修30単位を含めて83単位。自由選択単位は、25単位以上。ただし、卒業論文を履修しない者は、うち6単位は隣接科目群を除く学科科目とする。自由選択単位は、共通科目、学科科目から所要単位以上に取得した単位、他学部・他学科の学科科目の単位をあてることができる。なお、育成プログラムについては別に定める。

(4) 経済学部経済学科

経済学科の共通科目は、必修16単位。学科科目は、84単位。自由選択単位は、24単位以上。自由選択単位は、共通科目、学科科目から所要単位以上に取得した単位、他学部・他学科の学科科目の単位をあてることができる。なお、育成プログラムについては別に定める。

(5) 経営学部経営学科、会計ガバナンス学科

経営学科の共通科目は、必修16単位。学科科目は、必修22単位を含めて78単位。自由選択科目は、30単位以上。自由選択単位は、共通科目、学科科目から所要単位以上に取得した単位、他学部・他学科の学科科目の単位をあてることができる。

会計ガバナンス学科の共通科目は、必修16単位。学科科目は、必修22単位を含めて80単位。自由選択単位は、28単位以上。自由選択単位は、共通科目、学科科目から所要単位以上に取得した単位、他学部・他学科の学科科目の単位をあてることができる。なお、育成プログラムについては別に定める。

(6) アントレプレナーシップ学部アントレプレナーシップ学科

アントレプレナーシップ学科の共通科目は、必修18単位。学科科目は、必修6単位を含めて97単位。自由選択単位は、9単位以上。自由選択単位は、共通科目、学科科目から所要単位以上に取得した単位、他学部・他学科の学科科目の単位をあてることができる。

(7) データサイエンス学部データサイエンス学科

データサイエンス学科の共通科目は、必修16単位。学科科目は必修59単位を含めて96単位。自由選択単位は12単位以上。自由選択単位は、共通科目、学科科目、5大学単位認定科目、他学部・他学科の学科科目の単位をあてることができる。

(8) 人間科学部人間科学科、社会福祉学科

人間科学科の共通科目は、必修16単位。学科科目は、必修38単位を含めて86単位。自由選択単位は、22単位以上。自由選択単位は、共通科目、学科科目、資格取得科目、5大学単位認定科目、他学部・他学科の学科科目の単位をあてることができる。

社会福祉学科の共通科目は、必修16単位。学科科目は必修64単位を含めて88単位。自由選択単位は、20単位以上。自由選択単位は、共通科目、学科科目、5大学単位認定科目、他学部・他学科の学科科目の単位をあてることができる。

(9) ウェルビーイング学部ウェルビーイング学科

ウェルビーイング学科の共通科目は、必修12単位。学科科目は、必修86単位。自由選択単位は26単位以上。自由選択単位は、共通科目、学科科目、5大学単位認定科目、他学部・他学科の学科科目の単位をあてることができる。

(10) 工学部 サステナビリティ学科、数理工学科、建築デザイン学科

サステナビリティ学科の共通科目は、必修16単位。学科科目は、必修49単位を含めて87単位。自由選択単位は21単位以上。自由選択単位は、共通科目、学科科目、5大学単位認定科目、他学部・他学科の学科科目の単位、学校教育法施行規則第143条の2に定める教育関係共同利用拠点として認定された他大学の公開授業及び成果に基づき単位認定される科目をあてることができる。

数理工学科の共通科目は、必修16単位。学科科目は、必修40単位を含めて78単位。自由選択単位は、30単位以上。自由選択単位は、共通科目、学科科目、教職課程科目等の資格取得科目、5大学単位認定科目、他学部・他学科の学科科目の単位をあてることができる。

建築デザイン学科の共通科目は、必修16単位。学科科目は、必修48単位を含めて78単位。自由選択単位は、30単位以上。自由選択単位は、共通科目、学科科目、5大学単位認定科目、他学部・他学科の学科科目の単位をあてることができる。

(11) 教育学部教育学科、幼児教育学科

教育学科の共通科目は、必修15単位。ただし、理科コースの共通科目は、必修15単位を含めて17単位。学科科目は、初等コースが必修54単位を含めて78単位、国語コースが必修66単位を含めて84単位、英語コースが必修64単位を含めて77単位、理科コースが必修70単位を含めて92単位。自由選択単位は、初等コースが31単位以上、国語コースが25単位以上、英語コースが32単位以上、理科コースが15単位以上。自由選択単位は、共通科目、学科科目、資格取得科目、5大学単位認定科目、他学部・他学科の学科科目の単位をあてることができる。

幼児教育学科の共通科目は、必修15単位。学科科目は、必修61単位を含めて84単位。自由選択単位は、25単位以上。自由選択単位は、共通科目、学科科目、資格取得科目、5大学単位認定科目、他学部・他学科の学科科目の単位をあてることができる。

(12) 薬学部薬学科

薬学科の共通科目は、必修14単位、学科科目は、必修185単位。自由選択単位は6単位以上。自由選択単位は、共通科目、学科科目、他学部・他学科の学科科目の単位をあてることができる。

(13) 看護学部看護学科

看護学科の共通科目は、必修15単位、学科科目は、必修101単位。自由選択単位は8単位以上。自由選択単位は、共通科目、学科科目、教職課程科目、他学

部・他学科履修許可科目、通信教育部人間科学部の認定心理士科目の単位をあてることができる。

2 (削除)

3 (削除)

4 (削除)

5 第1項の規定にかかわらず、成果に基づき単位認定する科目の単位を卒業要件に含むことができる。これについては別に定める。

(学位)

第22条の2 本学に4年以上（薬学部薬学科は6年以上）在学し（ただし、全ての学年で1年以上在籍すること）、前条第1項各号に定める単位を修得した者には、学長が教授会の意見を聴き、学長が卒業を認定し、次の学位を授与する。

文学部	日本文学文化学科	学士（文学）
グローバル学部	グローバルコミュニケーション学科	学士（グローバルコミュニケーション）
グローバル学部	日本語コミュニケーション学科	学士（日本語コミュニケーション）
グローバル学部	グローバルビジネス学科	学士（グローバルビジネス）
法学部	法律学科	学士（法律学）
法学部	政治学科	学士（政治学）
経済学部	経済学科	学士（経済学）
経営学部	経営学科	学士（経営学）
経営学部	会計ガバナンス学科	学士（会計学）
アントレプレナーシップ学部	アントレプレナーシップ学科	学士（ビジネス）
データサイエンス学部	データサイエンス学科	学士（データサイエンス学）
人間科学部	人間科学科	学士（人間学）
人間科学部	社会福祉学科	学士（社会福祉学）
ウェルビーイング学部	ウェルビーイング学科	学士（ウェルビーイング）
工学部	サステナビリティ学科	学士（サステナビリティ学）
工学部	数理工学科	学士（工学）
工学部	建築デザイン学科	学士（工学）
教育学部	教育学科	学士（教育学）
教育学部	幼児教育学科	学士（幼児教育学）
薬学部	薬学科	学士（薬学）
看護学部	看護学科	学士（看護学）

2 前項の定めにかかわらず、3年以上在学し、卒業に必要な単位を優秀な成績で修得したと認める場合（薬学部薬学科を除く）には、前項を準用し、卒業させることができる。

(教員免許状の取得)

第22条の3 教員免許状を取得しようとする者は、教育職員免許法及び同法施行規則に基づく本学所定の別表（2）の単位を修得しなければならない。ただし、教育学科及び幼児教育学科において教員免許状取得に要する単位の修得については、別表（1）の中に定める。

2 取得できる教員免許状の種類は、次のとおりとする。

文学部	日本文学文化学科	高等学校教諭1種免許状（国語・書道）
		中学校教諭1種免許状（国語）
工学部	数理工学科	高等学校教諭1種免許状（数学）
		中学校教諭1種免許状（数学）
教育学部	教育学科	高等学校教諭1種免許状（国語・書道）
		高等学校教諭1種免許状（英語）

		高等学校教諭 1 種免許状（理科）
		中学校教諭 1 種免許状（国語）
		中学校教諭 1 種免許状（英語）
		中学校教諭 1 種免許状（理科）
		小学校教諭 1 種免許状
	幼児教育学科	幼稚園教諭 1 種免許状
看護学部	看護学科	養護教諭 1 種免許状

（司書資格）

第 2 2 条の 4 司書の資格を得ようとする者は、図書館法施行規則に基づく本学所定の別表（3）の単位を修得しなければならない。

（司書教諭資格）

第 2 2 条の 5 司書教諭の資格を得ようとする者は、学校図書館司書教諭講習規程に基づく本学所定の別表（4）の単位を修得しなければならない。

（社会教育主事課程）

第 2 2 条の 6 （削除）

（日本語教員養成課程）

第 2 2 条の 7 日本語教員養成のための、課程の修了の認定を受けようとする者は、本学所定の別表（6）の単位を修得しなければならない。

（一級建築士並びに二級建築士及び木造建築士）

第 2 2 条の 8 一級建築士並びに二級建築士及び木造建築士の受験資格を得ようとする者は、建築士法に基づく本学所定の別表（8）建築デザイン学科の単位を修得しなければならない。

（保育士）

第 2 2 条の 9 保育士の資格を得ようとする者は、児童福祉法施行規則に基づく本学所定の別表（9）の単位を修得し、幼児教育学科を卒業しなければならない。ただし、幼児教育学科卒業までの間に別表（9）の単位を修得できなかった者は、幼児教育学科卒業後、科目等履修生として単位を修得すれば、保育士資格を取得することができる。

（社会福祉士）

第 2 2 条の 1 0 社会福祉士の受験資格を得ようとする者は、社会福祉士及び介護福祉士法に基づく本学所定の別表（10）の単位を修得しなければならない。

（精神保健福祉士）

第 2 2 条の 1 1 精神保健福祉士の受験資格を得ようとする者は、精神保健福祉士法に基づく本学所定の別表（11）の単位を修得しなければならない。

第 6 章 入学、転入学、編入学、復学、再入学・復籍、休学、転部・転科・転専攻、留学、転学・退学及び除籍

（入学の時期）

第 2 3 条 入学は原則として毎年 1 回、時期は学年の始めとする。ただし、必要とされる場合には、年に 2 回とし、時期は別に定める。

（入学資格）

第 2 4 条 本学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者でなければならない。

- （1） 高等学校又は中等教育学校を卒業した者
- （2） 通常の課程による 1 2 年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む）
- （3） 外国において学校教育における 1 2 年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- （4） 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

- (5) 文部科学大臣の指定した者
 - (6) 文部科学大臣の行う大学入学資格検定に合格した者
 - (7) 本大学において、個別の入学資格審査により高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18歳に達した者
- (出願)

第25条 入学志願者は、本学所定の入学願書その他の書類に入学検定料を添えて、指定の期日までに提出しなければならない。

(選考)

第26条 入学志願者に対して選考を行う。選考の方法等については、別に定める。

(手続き)

第27条 合格した者は、本学所定の書類に学費を添えて指定の期日までに入学の手続きをしなければならない。

- 2 正当な理由なく前項の手続きをしない者は、合格を取り消すことがある。

(許可)

第28条 合格した者のうちから、前条の手続きを行った者について学長が教授会の意見を聴き、入学を許可する。

- 2 (削除)

(保証人・緊急対応者)

第29条 保証人は、父母又はこれにかわる者とし、他に1名緊急時に対応できる者（以下「緊急対応者」という。）を必要とする。

- 2 保証人は、その学生の在学中に生じた事項について責任を負うものとする。
- 3 緊急対応者は、原則として東京都及びその近県に在住する者とし、緊急時に対応できる者とする。

(氏名・住所等の変更)

第30条 学生、保証人、緊急対応者の氏名、住所等連絡先が変更になったときは、その旨を速やかに届け出なければならない。

(保証人・緊急連絡先の変更)

第31条 保証人、緊急対応者が変更になったときは、速やかに新たな保証人、緊急対応者を届け出なければならない。

(転入学)

第31条の2 本学への転入学又は編入学を希望する者については、選考の上、学長が教授会の意見を聴き、これを許可することがある。

- 2 転入学に関する規程は、別に定める。

(編入学)

第31条の3 編入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者でなければならない。

- (1) 短期大学を卒業した者
- (2) 大学の課程1年（31単位以上）若しくは2年（62単位以上）を修了した者
- (3) 学士の学位を有する者
- (4) 大学入学有資格者で、文部科学大臣の定めた基準（修業年限2年以上の課程修了に必要な総時間数1700時間以上）を満たす専修学校の専門課程を修了した者
- (5) 旧専門学校（3年制）を卒業した者
- (6) 高等専門学校（5年制）を卒業した者
- (7) 国立大学養護教諭養成所（3年制課程）国立工業教員養成所を卒業した者
- (8) 短期大学の課程1年（31単位以上）を修了した者
- (9) 3年以上の社会経験を有する者
- (10) 本学別科(日本語教育課程)において、科目等履修生として、所定の35単位を修得し、かつ一定の成績を修めた者
- (11) 高等学校専攻科（修業年限2年以上で、その他の文部科学大臣が定める基準を満たす）を修了した者

2 編入学に関する規程は別に定める。

(復学)

第31条の4 休学期間が満了した場合は、復学となる。ただし、病気によって休学の許可を受けた者は、医師の診断書を添えて所定の「復学願」を提出しなければならない。

2 復学の時期は、原則として学年始めとする。ただし、修業にさしつかえない場合は、他の時期でも許可することがある。

3 休学期間中に休学の事由がやみ、復学しようとする者は所定の「復学願」を提出しなければならない。

(再入学・復籍)

第31条の5 退学又は除籍した者が3年以内に保証人連署にて再入学又は復籍を願い出たときは、選考の上、学長が教授会の意見を聴き、これを許可することがある。この場合において退学又は除籍以前の在学期間及び修得単位は所定の在学年限及び卒業所要単位に算入する。

2 再入学及び復籍の時期は、原則として学年始めとする。ただし、修業にさしつかえない場合は、他の時期でも許可することがある。

3 再入学及び復籍に関する規程は別に定める。

(休学)

第32条 病気又はやむを得ない理由により2カ月以上修学できない者は、医師の診断書又は詳細な理由を記載した保証人連署の休学願を提出し、学長の許可を得て休学することができる。

2 学長は病気等のため、修学が困難と認められる場合休学を命ずることができる。

(休学期間)

第33条 休学期間は、原則として当該年度内とする。ただし、やむを得ない場合には、その期間を6カ月ごとに延長することができる。

2 休学の期間は、通算して3年を超えることができない。

3 休学期間は、在学年限に算入しない。

(転部・転科・転専攻)

第33条の2 本学の学生が、大学の学部間への転部・転科・転専攻を願い出た場合において、それが教育上有益と認められるときは、学長がこれを許可することがある。

2 転部・転科・転専攻に関する規程は別に定める。

(留学)

第33条の3 本学の学生が、国内外の大学、又はこれに相当する高等教育機関への留学を願い出た場合において、それが教育上有益と認められるときは、学長がこれを許可することがある。

2 留学に関する規程は、別に定める。

第34条 (削除)

(退学・転学)

第35条 退学又は転学を希望する者は、保証人連署の上、その理由を記載した願いを提出して学長の許可を受けなければならない。

第36条 (削除)

第37条 (削除)

(除籍)

第38条 次の各号の一に該当する者は、除籍する。

(1) 在学期間が所定の年数を超えた者

(2) 第33条第2項に定める年数を超えた者

(3) 授業料その他学費を滞納し催告してもなお納付しない者

(4) 薬学部及び看護学部においては、卒業年次を除く同一学年に2年在籍し、なお進級できない者。ただし、休学期間を除く。

(5) 死亡の届け出があった者

(6) 外国人留学生で、出入国管理及び難民認定法に定める在留資格を喪失した者

第 39 条 (削除)

第 40 条 (削除)

第 7 章 学費

(納入方法及び時期)

第 41 条 本学の学費は、別表 (7) のとおりとする。

特別な事由のある場合は、別に定めるところにより学費の減免を行うことができる。

学費の納入時期及び納入期限、延納については、別に定める。

第 42 条 (削除)

(納入金の返還)

第 43 条 既納の学費は、原則として返還しない。ただし、入学手続完了後、定められた期日までに入学辞退を申し出た者に対しては、入学金以外の納入金を返還することができる。

(休学中の学費)

第 44 条 休学中の学費については、別に定める。

(留学中の学費)

第 45 条 第 33 条の 3 における留学中の学費は別に定める。

(学期途中の退学・転学の学費)

第 46 条 学期の途中において退学又は転学をしようとする者は、その期の学費を納入しなければならない。

第 47 条 (削除)

(転入学・編入学・再入学の学費)

第 48 条 転入学、編入学又は再入学の場合の学費については別に定める。

第 8 章 教職員組織

(副学長及び学部長)

第 49 条 第 2 条の 2 に規定する学長の他、副学長、学部長を置くことができる。

2 副学長の業務については別に定める。

3 学部長は、学部に関する校務をつかさどる。

第 49 条の 2 (削除)

第 49 条の 3 (削除)

(教職員)

第 49 条の 4 本学に次の教職員を置く。

(1) 教授

(2) 准教授

(3) 講師

(4) 助教

(5) 助手

(6) 実習助手

(7) 事務職員

2 前項のほか、必要に応じ、技術職員及びその他必要な職員、非常勤の教職員を置くことができる。

(名誉教授)

第 49 条の 5 本学に名誉教授の称号を設ける。

2 名誉教授に関する規程は別に定める。

(名誉博士)

第 49 条の 6 本学に名誉博士の称号を設ける。

2 名誉博士に関する規程は別に定める。

(客員教員)

第 49 条の 7 本学に客員教員の称号を設ける。

2 客員教員に関する規程は別に定める。

(臨床教員)

第49条の8 本学に臨床教員の称号を設ける。

2 臨床教員に関する規程は別に定める。

(職務)

第50条 教職員の職務は、学校教育法及び本学で定める規程による。

第9章 教授会及び委員会

(教授会の設置及び構成)

第51条 学部に教授会を置く。教授会は学部長、学科長及び教授をもって構成する。ただし、学部長が必要と認めたときは構成員以外の教職員の出席をもとめることができる。

(招集及び議長)

第52条 教授会は、原則としてあらかじめ議案を通知して学部長がこれを招集し、その議長となる。学部長に事故があるときはあらかじめ学部長の指名した者が代行する。

(審議事項)

第53条 教授会は、次に掲げる事項を審議する。

(1) 学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項

(2) 学位の授与に関する事項

(3) 前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定める事項

(4) 教育及び研究にかかわる規則及び組織に関する事項

(5) 教育課程及び履修方法に関する事項

(6) 学生の試験に関する事項

(7) 学生の休学、転学、退学に関する事項

(8) 学生の賞罰に関する事項

(9) 学生の厚生補導に関する事項

(10) その他教育及び研究に関する重要事項

(11) 上記各号に関する諸規程の制定・改廃に関する事項

(12) 学部運営上学部長が必要と認めた事項

2 前項第1号から第3号については、学長に意見を述べることとし、第4号以降については、学長の求めに応じ学長に意見を述べることができる。

3 教授会運営内規は別に定める。

(委員会)

第54条 本学又は学部に教育、厚生補導、図書施設等に関して委員会を設けることができる。

2 委員会に関する規程は別に定める。

第10章 付属施設

(付属施設)

第55条 本学に付属の図書館を置く。

2 本学には、前項に定めるほか、付属の研究所、センター、その他必要な教育研究施設を置くことができる。

3 付属施設に関する規則は、別に定める。

第11章 厚生、保健施設

(厚生・保健施設)

第56条 本学の教職員、学生の保健医療及び厚生のため、医務室、休養室その他を設ける。

第12章 学生寮

(学生寮)

第57条 本学に学生寮を設ける。

2 学生寮に関する規程は別に定める。

第13章 賞罰

(表彰)

第58条 次の各号の一に該当する者に対し、学長は、これを賞することができる。

(1) 成績特に優秀なる者

(2) 品行方正にして他学生の模範となる者

2 前項以外にも、学長が特別に優秀と認めた者については、これを賞することができる。

(懲戒)

第59条 本学の学則に背き又は本学の秩序を乱し、学生としての本分に反した行為のあるときは、学長はこれを懲戒する。懲戒は、譴責、停学及び退学とする。

2 前項の退学は次の各号の一に該当する者に対して行う。

(1) 性行不良で改善の見込みがないと認められた者

(2) 学業を怠り成績不良で成業の見込みがないと認められた者

(3) 正当な理由なくして出席が常でない者

(4) 著しく学生の本分に反し、本学の秩序を乱した者

3 第1項の懲戒が正式に決定するまでの期間、学長は当該学生に対し、自宅謹慎を命じることができる。なお、停学の懲戒を受けた場合、自宅謹慎期間を停学期間に含めることができる。

4 懲戒に関しては、別に定める。

第60条 (削除)

第14章 公開講座、研究生、科目等履修生、特別聴講学生及び外国人留学生

(公開講座)

第61条 本学は、社会人の教養と文化の向上に資するため、公開講座を開催することができる。

(研究生)

第62条 本学において特定の専門事項に関する研究に従事することを願い出た者には、選考の上、研究生として受入れを許可することがある。

2 研究生に関する規程は、別に定める。

3 研究生の研究料は別に定める。

(科目等履修生)

第63条 授業科目の履修を願い出た者には、本学の教育に支障のない限りにおいて科目等履修生として受入れを許可することがある。

2 科目等履修生が履修した授業科目については、第13条及び第14条の規定により所定の単位を与えることができる。

3 科目等履修生に関する規程は、別に定める。

4 科目等履修生の履修料は別に定める。

(特別聴講学生)

第64条 他の大学又は短期大学の学生で、本学において授業科目の履修を願い出た者には、当該他大学又は短期大学との協議に基づき、特別聴講学生として受入れを許可することがある。

2 特別聴講学生に関する規程は、別に定める。

3 特別聴講学生の受講料は別に定める。

(外国人留学生)

第65条 外国人で、大学において教育を受ける目的をもって入国し、本学に入学を志願する者があるときは、選考の上、外国人留学生として入学を許可することがある。

2 外国人留学生に関する規程は、別に定める。

(学則の準用)

第66条 研究生、科目等履修生、特別聴講学生及び外国人留学生には、別に規定するほか、本学則を準用する。ただし、研究生、科目等履修生及び特別聴講学生については、第6条、第22条の2条第1項及び第2項を準用しない。

2 (削除)

3 (削除)

第15章 奨学金制度

(奨学金)

第67条 本学は、建学の精神に基づき、学生に対してその学資を補助し、将来の大成を助成するために奨学金制度を設ける。

2 奨学金制度の詳細については別に定める。

附 則

昭和40年1月25日

昭和42年1月28日改正

昭和44年4月 1日改正

昭和45年4月10日改正

昭和46年4月1日改正。ただし、昭和46年3月31日以前から在学している者には、第11条及び第37条については、なお従前の例による。

昭和47年4月1日改正。ただし、昭和47年3月31日以前から在学している者には、第37条については、なお従前の例による。

昭和48年4月1日改正。ただし、昭和48年3月31日以前から在学している者には、第37条並びに第38条については、なお従前の例による。

昭和49年4月1日改正。ただし、昭和49年3月31日以前から在学している者には、第37条並びに第38条については、なお従前の例による。また、入学考査料については入学志願時から適用する。

昭和50年4月1日改正。ただし、昭和50年3月31日以前から在学している者には、第37条並びに第38条については、なお従前の例による。

昭和51年4月1日改正。ただし、昭和51年3月31日以前から在学している者には、第37条並びに第38条については、なお従前の例による。

昭和52年4月1日改正。ただし、昭和52年3月31日以前から在学している者には、第37条並びに第38条については、なお従前の例による。

昭和53年4月1日改正。ただし、昭和53年3月31日以前から在学している者には、第37条並びに第38条については、なお従前の例による。

昭和54年4月1日改正。ただし、昭和54年3月31日以前から在学している者には、第36条並びに第37条については、なお従前の例による。

昭和55年4月1日改正。ただし、昭和55年3月31日以前から在学している者には、第36条並びに第37条については、なお従前の例による。

昭和56年4月1日改正。ただし、昭和56年3月31日以前から在学している者には、第36条並びに第37条については、なお従前の例による。

昭和57年4月1日改正。ただし、昭和57年3月31日以前から在学している者には、第36条並びに第37条については、なお従前の例による。

昭和58年4月1日改正。ただし、昭和58年3月31日以前から在学している者には、第36条並びに第37条については、なお従前の例による。

附 則 (第9条第2項、第18条、第19条、第31条第2項追加、第51条改正、第9条第3項、第31条一部改正)

この学則は、昭和59年4月1日から施行する。

昭和59年3月31日以前から在学している者には、第38条並びに第39条については、なお従前の例による。

附 則（第 38 条別表 5 一部改正）

この学則は、昭和 60 年 4 月 1 日から施行する。

昭和 60 年 3 月 31 日以前から在学している者には、第 38 条並びに第 39 条については、なお従前の例による。

附 則（第 9 条第 3 項別表（1）、別表（2）、第 38 条別表（5） 一部改正）

この学則は、昭和 61 年 4 月 1 日から施行する。

昭和 61 年 3 月 31 日以前から在学している者には、第 38 条並びに第 39 条については、なお従前の例による。

附 則（第 9 条第 3 項別表（1）、第 38 条別表（5） 一部改正）

この学則は、昭和 62 年 4 月 1 日から施行する。

昭和 62 年 3 月 31 日以前から在学している者には、第 38 条並びに第 39 条については、なお従前の例による。

附 則（第 18 条、第 59 条、第 63 条第 3 項追加、第 63 条第 3 項一部追加、第 9 条第 3 項別表（1）、別表（2）、第 21 条第 1 項第 2 号、第 4 号、第 39 条別表（5）第 63 条第 1 項一部改正）

この学則は、昭和 63 年 4 月 1 日から施行する。

昭和 63 年 3 月 31 日以前から在学している者には、第 39 条並びに第 40 条については、なお従前の例による。

附 則（第 8 条、第 9 条第 2 項、第 9 条第 3 項別表（1）及び別表（1）—2、第 13 条、第 20 条、第 39 条別表（5）一部改正）

この学則は、平成元年 4 月 1 日から施行する。

平成元年 3 月 31 日以前から在学している者には、第 13 条、第 39 条並びに第 40 条については、なお従前の例による。

第 39 条並びに第 40 条別表（5）のうち、平成元年 3 月 31 日までに入学を許可された者に係る入学金については、なお従前の例による。

附 則（第 21 条の 2 第 2 項一部改正）

この学則は、平成 2 年 4 月 1 日から施行する。ただし、平成 2 年 3 月 31 日以前から在学している者には、第 13 条、第 21 条の 2 第 2 項、第 39 条並びに第 40 条については、なお従前の例による。

附 則（第 9 条第 3 項別表（1）、第 39 条別表（5） 一部改正）

この学則は、平成 3 年 4 月 1 日から施行する。ただし、平成 3 年 3 月 31 日以前から在学している者には、第 13 条、第 21 条の 2 第 2 項、第 39 条並びに第 40 条については、なお従前の例による。

附 則（第 21 条第 3 項一部改正）

この学則は、平成 3 年 7 月 1 日から施行する。ただし、平成 3 年 3 月 31 日以前から在学している者には、第 13 条、第 21 条の 2 第 2 項、第 39 条並びに第 40 条については、なお従前の例による。

附 則（第 39 条・第 40 条別表（5） 一部改正）

この学則は、平成 3 年 10 月 1 日から施行する。ただし、平成 3 年 9 月 30 日までに納付する入学金、施設設備資金については、なお従前の例による。また、平成 3 年 3 月 31 日以前から在学している者には、第 13 条、第 21 条の 2 第 2 項についてはなお従前の例による。

附 則（第 4 条、第 39 条・第 40 条別表（5） 一部改正、第 41 条）

この学則は、平成 4 年 4 月 1 日から施行する。

第 4 条の規定にかかわらず平成 4 年度から平成 11 年度までの入学定員は、次のとおりとする。

学 部	学 科	入 学 定 員
文 学 部	日 本 文 学 科	200 名
	英 米 文 学 科	200 名

平成 4 年 3 月 31 日以前から在学している者には、第 13 条、第 39 条、第 40 条第

41条については、なお従前の例による。

附 則（第3条追加、第5条、第8条第2項、第24条、第40条・第41条別表（5）、第59条、第60条、第61条、第62条、第63条、第64条一部改正、第39条・第40条別表（5） 一部改正、第41条）

この学則は、平成5年4月1日から施行する。平成5年3月31日以前から在学している者には、第40条、第41条については、なお従前の例による。

附 則（第40条・第41条別表（5）改正）

この学則は、平成6年4月1日から施行する。平成6年3月31日以前から在学している者には、第40条、第41条については、なお従前の例による。

附 則（第4条、第5条、第10条第3項別表（1）及び別表（1）—2、第11条第2項別表（2）（3）（4）、第19条第3項追加、第20条、第21条、第22条、第40条・第41条別表（5） 改正）

この学則は、平成7年4月1日から施行する。

第5条の規定にかかわらず平成7年度から平成11年度までの入学定員は、次のとおりとする。

学 部	学 科	入 学 定 員
文 学 部	日 本 文 学 科	150名
	英 米 文 学 科	150名

また、平成7年3月31日以前から在学している者には、第10条第3項別表（1）及び別表（1）—2、第11条第2項別表（2）（3）（4）、第20条、第21条、第22条については、なお従前の例による。

附 則（第10条・第22条の2別表（2） 一部追加、並びに第2項一部追加及び第22条の5追加）

この学則は、平成8年4月1日から施行する。ただし、平成8年3月31日以前から在学している者には、第41条、第42条については、なお従前の例による。

附 則（第10条第3項別表（1）、第11条、第22条の2別表（2）、第22条の3別表（3）、第22条の4別表（4）、第22条の5別表（5）、第41・第42条別表（7）、第51条、第52条、第54条一部改正、第22条の6及び別表（6）追加）

この学則は平成9年4月1日から施行する。ただし、平成9年3月31日以前から在学している者には、第41条、第42条については、なお従前の例による。

附 則（第4条一部追加、第5条削除、第10条第1項、第10条第3項別表（1）及び別表（1）—2一部追加、第12条改正、第20条第2項、第21条、第22条第1及び3項、第22条の2第2項、第41条別表（7）、第51条一部追加）

この学則は、平成10年4月1日から施行する。ただし、平成10年3月31日以前から在学している者には、第41条、第42条については、なお従前の例による。

附 則（第4条、第10条第1項及び第3項別表（1）—2備考、第20条第2項、第21条、第22条第1項及び第3項、第22条の2別表（2）及び第2項、第22条の4別表（4）、第22条の6別表（6）、第41条別表（7）、第51条一部改正）

この学則は、平成11年4月1日から施行する。ただし、平成11年3月31日以前から在学している者には、第41条、第42条については、なお従前の例による。

附 則（第4条、第10条第1項及び第3項別表（1）、第20条第2項、第21条、第22条第1項、第22条の2第2項一部改正）

この学則は、平成12年4月1日から施行する。ただし、平成12年3月31日以前から在学している者の学費は、第41条、第42条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

2 第4条の規定にかかわらず、平成15年度までの入学定員は次のとおりとする。

学科	年度等	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度
	入 学 定 員	入 学 定 員	入 学 定 員	入 学 定 員	入 学 定 員

日本語・日本文学科	255名	235名	215名	195名
英語・英米文学科	260名	245名	230名	215名

3 第20条第2項については平成12年度入学生から適用する。平成12年3月31日以前から在学している者については、なお従前の例による。

附 則（第10条第3項別表（1）、第11条第2項別表（2）、第22条第4項、第22条の2第2項一部改正）

この学則は、平成13年4月1日から施行する。ただし、平成13年3月31日以前から在学している者の学費は、第41条、第42条の規定にかかわらず、なお従前の例による。第22条第3項については、平成13年度入学生から適用し、平成13年3月31日以前から在学している者については、なお従前の例による。

附 則（第3章 授業科目及び履修方法並びに単位算定基準、第10条第3項別表（1）、第7章学費、第41条別表（7）一部改正及び各条文を整理し、簡潔な「項目」の追加）

この学則は、平成14年4月1日から施行する。ただし、平成14年3月31日以前から在学している者の学費は、第41条規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（第1章第1条、第2条、第4条、第4条の2、第4条の3、第3章第10条第3項別表（1）、第11条、第11条第2項、第5章第22条、第22条第（1）（2）（3）号、第22条の2、第22条の3、第22条の3第2項一部改正、第22条の8、第22条の9追加 改正）

1 この学則は、平成15年4月1日から施行する。ただし、平成15年3月31日以前から在学している者の学費は、第41条規定にかかわらず、なお従前の例による。

2 武蔵野女子大学は、平成15年3月31日現在、同大学（通信教育部を除く）に在学する者が、在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

3 前項の期間、武蔵野大学の学長、その他の教職員は武蔵野女子大学の学長その他の教職員を兼ねるものとする。

4 第4条の規定にかかわらず、平成16年度までの入学定員は次のとおりとする。

学 科・専 攻		平成15年度	平成16年度
環境学科	環境アメニティ専攻	60名	60名
	住環境専攻	60名	60名

附 則（第1章第4条、第3章第10条第3項別表（1）、第5章第22条、第22条第（4）号、第22条の2、第7章第41条別表（7）一部追加、第6章第24条一部改正）

この学則は、平成16年4月1日から施行する。ただし、平成16年3月31日以前から在学している者の学費は、第41条規定にかかわらず、なお従前の例による

附 則（第1章第4条、第3章第10条第3項別表（1）、別表（1）—2、第11条第2項別表（2）～（6）及び（8）（9）、第12条第2・3項別表（1）—3、別表（7）備考、第4章第21条別表（1）—2備考、第5章22条—22条第（1）（2）（3）（4）号、第22条の2、第7章第41条別表（7）、第9章第53条一部追加及び改正）

この学則は、平成16年4月1日から施行する。ただし、平成16年3月31日以前から在学している者の学費は、第41条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（第1章第4条、第5章第22条第（1）・（2）・（3）・（4）号、第6章第24条一部改正）

この学則は、平成17年4月1日から施行する。ただし、平成17年3月31日以前から在学している者の学費は、第41条規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（第4条、第6条、第10条第3項別表（1）、第12条第3項別表（1）—3、第22条、第22条第（4）号、第22条の2、第22条の3 一部改正、第22条第（5）号、第41条別表（7）一部追加）

- 1 この学則は、平成18年4月1日から施行する。ただし、平成18年3月31日以前から在学している者の学費は、第41条の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 2 薬学部薬学科において、平成18年3月31日以前から在学している者は、第6条、第10条第3項別表(1)、第12条第3項別表(1)―3、第22条、第22条第(4)号については、なお従前の例による。

附 則(第4条、第9条、第10条第3項別表(1)、第12条第3項別表(1)―3、第22条、第22条第(3)号、第22条の2、第22条の3別表(2)、及び第2項、第22条の9、及び別表(9)、第41条別表(7)、第49条、第51条 一部改正、第38条第(4)号追加)

- 1 この学則は、平成19年4月1日から施行する。ただし、平成19年3月31日以前から在学している者の学費は、第41条の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 2 第49条第7号の助手の取扱については、当分の間(平成22年3月31日まで)従前の例による。

附 則(第2条第2項追加、第4条、第10条第3項別表(1)・別表(1)―2、第11条第2項別表(2)(3)(4)(6)(8)(9)、第12条第3項別表(1)―3、第21条、第22条、第22条の2、第22条の3別表(2)、第22条の3第2項、第22条の4別表(3)、第22条の5別表(4)、第22条の7別表(6)、第22条の8別表(8)、第22条の9別表(9)、第41条別表(7) 一部改正)

- 1 この学則は、平成20年4月1日から施行する。ただし、平成20年3月31日以前から在学している者の学費は、第41条の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 2 平成20年3月31日以前から、現代社会学部現代社会学科に在学している者については、第4条、第10条第3項別表(1)及び別表(1)―2、第11条第2項別表(2)(3)(4)(6)、第12条第3項別表(1)―3、第21条、第22条、第22条第(2)号、第22条の2、第22条の3別表(2)、第22条の3第2項、第41条別表(7)の規定にかかわらず、なお、従前の例による。ただし、第2条第2項の学科の教育目的については、次のとおりとする。

〈現代社会学科〉

さまざまな課題をかかえる現代社会で、社会科学の専門的な知識を理解するとともに、他の分野との関わり合いを総合的に学び、自己の確立をめざし、多様な課題発見・解決できる人材の育成を目的とする。

附 則(第2条の2、第4条、第10条第3項別表(1)及び別表(1)―2、第11条第2項別表(2)(3)(4)(6)(9)(10)、第12条第3項別表(1)―3、第21条、第22条、第22条の2、第22条の3別表(2)、第22条の3第2項、第22条の4別表(3)、第22条の5別表(4)、第22条の7別表(6)、第22条の8別表(8)、第22条の9別表(9)、第31条の3、第31条の4、第41条別表(7) 一部改正、第22条の10別表(10)、第31条の5追加)

- 1 この学則は、平成21年4月1日から施行する。ただし、平成21年3月31日以前から在学している者の学費は、第41条の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 2 第12条(単位)人間関係学部児童学科については、講義15時間、演習30時間、学内実習30時間、配属実習及び実技45時間をもってそれぞれ1単位とする。

附 則(第2条第2項第(5)号、第4条、第10条第3項別表(1)、別表(1)―2、第11条第2項別表(2)(3)(4)(6)(8)(9)(10)、第12条第3項別表1―(3)、第22条、第22条の3別表(2)、第22条の4別表(3)、第22条の5別表(4)、第22条の7別表(6)、第22条の8別表(8)、第22条の9別表(9)、第22条の10別表(10)、第41条別表(7)、第59条第3項一部改正)

- 1 この学則は、平成22年4月1日から施行する。ただし、平成22年3月31日以前から在学している者の学費は、第41条の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 2 平成22年3月31日以前から、環境学部環境学科住環境専攻に在学している者については、第2条第2項第(5)号、第4条、第10条第3項別表(1)、第11条第2項別表(2)(3)(4)(6)、第12条第3項別表1―(3)、第22条、第22条の

3別表（2）、第22条の8、第41条別表（7）の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則（第4条の4条文追加、第2条第2項、第4条、第10条第3項別表（1）、別表（1）—2、第11条第2項別表（2）（3）（4）（6）（8）（9）、第12条第3項別表（1）—3、第21条、第22条、第22条の2、第22条の3別表（2）、第2項、第22条の4別表（3）、第22条の5別表（4）、第22条の7別表（6）、第22条の8別表（8）、第22条の9別表（9）、第41条別表（7）一部改正）

この学則は、平成23年4月1日から施行する。ただし、平成23年3月31日以前から在学している者の学費は、第41条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（第1条、第2条第2項、第4条、第4条の3第2項、第10条第3項別表（1）（1）—2、第11条第1項、第2項別表（2）（3）（4）（6）（5）（8）（11）、第12条第3項別表（1）—3、第21条、第22条第1項、第22条の2、第22条の3第1項別表（2）、第2項、第22条の4別表（3）、第22条の8別表（8）、第29条、第30条、第31条、第31条の3第10号、第41条別表（7）一部変更、第22条の11追加）

この学則は、平成24年4月1日から施行する。ただし、平成24年3月31日以前から在学している者については、第2条第2項、第4条、第10条第3項別表（1）（1）—2、第11条第1項、第2項別表（2）（3）（4）（5）（6）（8）（11）、第12条第3項別表（1）—3、第21条、第22条第1項、第22条の2、第22条の3第1項別表（2）、第2項、第22条の4別表（3）、第22条の8別表（8）、第31条の3第1項第10号、第41条別表（7）の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則（第4条、第10条第3項別表（1）、第11条第2項別表（11）、第41条別表（7）一部変更）

この学則は、平成25年4月1日から施行する。ただし、平成25年3月31日以前から在学している者については、第4条、第10条第3項別表（1）、第11条第2項別表（11）の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則（第4条、第10条第3項別表（1）、第11条第2項別表（11）、第12条第3項別表（1）—3、第22条第1項、第22条の3第1項別表（2）、第2項、第41条別表（7）一部変更、第58条第2項 追加）

- 1 この学則は、平成25年4月1日から施行する。ただし、平成25年3月31日以前から在学している者については、第4条、第11条第2項別表（11）、第22条の3第2項、第41条別表（7）の規定にかかわらず、なお、従前の例による。
- 2 薬学部の「一般用医薬品学実習」「生薬療法学実習」「病理学」「レギュラトリーサイエンス概論」「卒業研究1」「卒業研究2」「卒業研究3」「卒業研究4」を除き、平成25年3月31日以前から在学している者の授業科目については、第10条第3項別表（1）の規定にかかわらず、なお、従前の例による。
- 3 平成25年3月31日以前から在学している者の卒業の要件については、第22条第1項の規定にかかわらず、なお、従前の例による。ただし、薬学部については、下表のとおりとする。

入学年度(平成)	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
卒業所要単位数	204.5	238	238	237	235

附 則（第2条第2項、第4条、第4条の5、第10条第3項別表（1）（1）—2、第11条第2項別表（2）（3）（4）（6）、第12条第3項別表（1）—3、第21条、第22条第1項、第22条の2、第22条の3第1項別表（2）、第2項、第41条別表（7）一部変更、第4条の5 追加）

- 1 この学則は、平成26年4月1日から施行する。ただし、平成26年3月31日以前から在学している者については、第2条第2項、第4条、第10条第3項別表（1）（1）—2、第11条第2項別表（2）（3）（4）（6）、第12条第3項別表（1）—3、第21条、第22条第1項、第22条の2、第22条の3第1項別表（2）、第2項、第

4 1 条別表（7）の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

- 2 政治経済学部政治経済学科及び政治経済学部経営学科は平成26年度より募集を停止する。ただし、同学科は同学科の学生が在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

附 則（第4条、第10条第3項別表（1）、（1）—2、第11条第2項別表（2）（6）（8）（9）（10）、第12条第3項別表（1）—3、第22条第1項、第22条の3第1項別表（2） 一部変更）

この学則は、平成26年4月1日から施行する。ただし、平成26年3月31日以前から在学している者については、第4条、第10条第3項別表（1）、（1）—2、第11条第2項別表（2）（6）（8）（9）（10）、第12条第3項別表（1）—3、第22条第1項、第22条の3第1項別表（2）の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則（第10条第3項別表（1） 一部変更）

この学則は、平成26年4月1日から施行する。ただし、平成26年3月31日以前から在学している者については、第10条第3項別表（1）の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（第2条、第4条、第10条第3項別表（1）、（1）—2、第12条第3項別表（1）—3、第22条第1項、第22条の3第2項、第44条 一部変更）

- 1 この学則は、平成26年4月1日から施行する。ただし、平成26年3月31日以前から在学している者については、第2条、第4条、第10条第3項別表（1）—2、第12条第3項別表（1）—3、第22条第1項、第22条の3第2項の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

- 2 薬学部の「卒業研究1」「卒業研究2」「卒業研究3」「卒業研究4」を除き、平成26年3月31日以前から在学している者の授業科目については、第10条第3項別表（1）の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則（第2条第2項、第4条、第10条第3項別表（1）（1）—2、第11条第2項別表（2）（3）（4）（6）（8）、第12条第3項別表（1）—3、第21条、第22条第1項、第22条の2、第22条の3第1項別表（2）、第2項、第22条の8、第41条別表（7） 一部変更）

- 1 この学則は、平成27年4月1日から施行する。ただし、平成27年3月31日以前から在学している者については、第2条第2項、第4条、第10条第3項別表（1）（1）—2、第11条第2項別表（2）（3）（4）（6）（8）、第12条第3項別表（1）—3、第21条、第22条第1項、第22条の2、第22条の3第1項別表（2）、第2項、第22条の8、第41条別表（7）の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

- 2 環境学部環境学科は平成27年度より募集を停止する。ただし、同学科は同学科の学生が在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

附 則（第10条第3項別表（1）、第22条第1項 一部変更）

- 1 この学則は、平成27年4月1日から施行する。ただし、薬学部薬学科において、平成27年3月31日以前から在学している者については、第10条第3項別表（1）、第22条第1項の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

- 2 グローバル・コミュニケーション学部グローバル・コミュニケーション学科、法学部法律学科、政治学科、経済学部経済学科、経営学科、人間科学部人間科学科において、平成26年3月31日以前から在学している者については、第10条第3項別表（1）の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則（第2条の2、第8条、第10条第3項別表（1）（1）—2、第11条第2項別表（2）（6）（8）（10）、第22条、第22条の2、第28条、第31条の2、第31条の5、第32条、第33条、第33条の2、第33条の3、第41条別表（7）、第53条、第58条、第59条 一部変更）

- 1 この学則は、平成27年4月1日から施行する。ただし、平成27年3月31日以前から在学している者については、第11条第2項別表（2）（8）（10）、第41条別表（7）（科目等履修生の4学期制の取扱いを除く）の規定にかかわらず、なお、従前

の例による。

- 2 平成26年3月31日以前から在学している者については、第10条第3項別表(1)―2、第11条第2項別表(6)の規定にかかわらず、なお、従前の例による。
- 3 文学部日本文学文化学科、法学部法律学科、政治学科、経済学部経済学科、経営学科、人間科学部人間科学学科、社会福祉学科、教育学部児童教育学科、薬学部薬学科において、平成27年3月31日以前から在学している者については、第10条第3項別表(1)(共通科目の「オリンピック文化論」を除く)の規定にかかわらず、なお、従前の例による。
- 4 グローバル・コミュニケーション学部グローバル・コミュニケーション学科において、平成26年3月31日以前から在学している者については、第10条第3項別表(1)(共通科目の「オリンピック文化論」を除く)の規定にかかわらず、なお、従前の例による。
- 5 看護学部看護学科において、平成27年3月31日以前から在学している者については、第10条第3項別表(1)、第22条第1項の規定にかかわらず、なお、従前の例による。また、第22条第5項は適用しないものとする。
- 6 文学部日本文学文化学科、グローバル・コミュニケーション学部グローバル・コミュニケーション学科、法学部法律学科、政治学科、人間科学部人間科学学科、社会福祉学科、教育学部児童教育学科、薬学部薬学科において、平成27年3月31日以前から在学している者については第22条第1項(成果に基づき単位認定する科目の取扱いを除く)の規定にかかわらず、なお、従前の例による。
- 7 経済学部経済学科、経営学科において、平成27年3月31日以前から在学している者については第22条第1項(自由選択科目の他学部・他学科の学科科目の取扱い及び成果に基づき単位認定する科目の取扱いを除く)の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則(第2条第2項、第4条、第10条第3項別表(1)(1)―2、第11条第1項、第2項別表(2)(3)(4)(5)(6)、第12条第3項別表(1)―3、第21条、第22条第1項、第22条の2、第22条の3第1項別表(2)、第2項、第22条の6、第38条、第41条別表(7)) 一部変更

- 1 この学則は、平成28年4月1日から施行する。ただし、平成28年3月31日以前から在学している者については、第2条第2項、第4条、第10条第3項別表(1)―2、第11条第2項別表(3)(4)(教育学部を除く)(6)、第12条第3項別表(1)―3、第21条、第22条第1項、第22条の2、第22条の3第1項別表(2)(「教職特殊研究A」「教職特殊研究B」を除く)、第2項、第38条、第41条別表(7)の規定にかかわらず、なお、従前の例による。
- 2 グローバル・コミュニケーション学部グローバル・コミュニケーション学科は平成28年度より募集を停止する。ただし、同学科は同学科の学生が在学しなくなる日までの間、存続するものとする。
- 3 グローバル・コミュニケーション学部グローバル・コミュニケーション学科、経済学部経営学科、教育学部児童教育学科において、平成28年3月31日以前から在籍している者については、第10条第3項別表(1)の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 4 薬学部薬学科において、平成27年4月1日以降に入学した者については、第10条第3項別表(1)(学科科目の「微生物医薬品学2」を除く)の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則(第2条第1項、第2項、第4条、第10条第2項、第3項別表(1)、(1)―2、第11条第2項別表(6)、第12条第3項別表(1)―3、第22条第1項第2号、第5号、第6号、第7号、第22条の2第1項、第2項、第23条、第31条の4第1項、第41条別表(7)、第63条第2項 一部変更、第12条第4項、第31条の4第3項 追加)

- 1 この学則は、平成28年4月1日から施行する。ただし、平成28年3月31日以前

から在籍している者については、第2条第2項、第4条、第11条第2項別表(6)、第12条第3項、第22条第1項第5号、第23条、第41条別表(7)の規定にかかわらず、なお従前の例による。

2 教育学部児童教育学科において、平成27年3月31日以前から在籍している者については、第22条第1項第7号の学校教育専修理科コース及び学校教育専修保健体育コースの必修単位数の規定にかかわらず、なお従前の例による。

3 平成28年3月31日以前から在籍している者についての第10条第3項別表(1)の適用については別に定める。

附 則(第4条、第10条第3項別表(1)、第41条別表(7) 一部変更)

この学則は、平成29年4月1日から施行する。ただし、平成29年3月31日以前から在学している者については、第4条、第10条第3項別表(1)、第41条別表(7)の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則(第10条第3項別表(1)、第11条第2項別表(9)、第22条第1項第1号、第3号、第4号、第5号、第6号、第7号、第8号、第9号 一部変更)

1 この学則は、平成29年4月1日から施行する。ただし、平成29年3月31日以前から在籍している者については、第11条第2項別表(9)、第22条第1項第1号、第3号、第4号、第5号、第6号、第7号、第8号、第9号の規定にかかわらず、なお従前の例による。

2 平成29年3月31日以前から在籍している者についての第10条第3項別表(1)の適用については別に定める。

附 則(第10条第3項別表(1)、第11条第2項別表(9)、第12条第3項別表(1)―3、第22条第1項第5号、第7号 一部変更)

1 この学則は、平成29年4月1日から施行する。ただし、平成29年3月31日以前から在籍している者については、第11条第2項別表(9)、第12条第3項別表(1)―3、第22条第1項第5号、第7号の規定にかかわらず、なお従前の例による。

2 平成29年3月31日以前から在籍している者についての第10条第3項別表(1)の適用については別に定める。

附 則(第2条第2項、第4条の3第2項、第8条第1項、第10条第3項別表(1)、(1)―2、第11条第2項別表(2)、(3)、(4)、(6)、(8)、(9)、(10)、(11)、第22条第1項、第5項、第22条の2第1項、第22条の9、第24条、第25条、第27条第1項、第29条第1項、第31条の2第1項、第31条の3第1項、第32条第1項、第33条第1項、第35条、第55条第2項 一部変更)

1 この学則は、平成29年4月1日から施行する。ただし、平成29年3月31日以前から在籍している者については、第11条別表(4)、第22条第1項、第22条の7、第22条の9、第22条の10、第22条の11の規定にかかわらず、なお従前の例による。

2 平成29年3月31日以前から在籍している者についての第10条第3項別表(1)の適用については別に定める。

附 則(第10条第3項別表(1)、第41条別表(7) 一部変更)

この学則は、平成30年4月1日から施行する。ただし、平成30年3月31日以前から在籍している者については、第10条第3項別表(1)、第41条別表(7)の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則(第2条第2項、第4条、第10条第3項別表(1)、第11条第2項別表(3)、第12条第3項別表(1)―3、第22条第1項、第22条の2第1項、第41条別表(7)

この学則は、平成30年4月1日から施行する。ただし、平成30年3月31日以前から在籍している者については、第2条第2項、第4条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則(第2条第2項、第4条、第10条第3項別表(1)、(1)―2、第11条第2項別表(9)、第12条第3項別表(1)―3、第22条第1項、第22条の2第1項、第22条の3、第22条の9、第41条別表(7) 一部改正)

1 この学則は、平成30年4月1日から施行する。ただし、平成30年3月31日以前から在籍している者については第2条第2項、第4条、第10条第3項別表(1)―2、第11条第2項別表(9)、第22条第1項、第22条の3、第22条の9の規定にかかわらず、なお従前の例による。

2 平成30年3月31日以前から在籍している者についての第10条第3項別表(1)、第12条第3項別表(1)―3の適用については別に定める。

附 則(第10条第3項別表(1)、第11条第2項別表(9)、第22条の2第1項 一部改正)

1 この学則は、平成30年4月1日から施行する。

2 平成30年3月31日以前から在籍している者についての第22条の2第1項の適用については別に定める。

附 則(第10条第3項別表(1)、第11条第2項別表(2)、(9)、第22条の第1項 一部改正)、第41条別表(7)

この学則は、平成31年4月1日から施行する。

附 則(第2条第2項、第4条、第10条第3項、第12条第3項別表(1)―3、第22条第1項、第22条の2第1項、第22条の3第1項、第2項、第41条別表(7) 一部改正)

1 この学則は、平成31年4月1日から施行する。ただし、平成31年3月31日以前から在学している者については、第4条(教育学部児童教育学科の名称変更を除く)の規定にかかわらず、なお従前の例による。

2 平成31年3月31日以前から在籍している者についての第10条第3項別表(1)の適用については、別に定める。

3 第22条の2第1項の在籍要件及び第22条の3第2項の教育学科の取得免許状については、平成30年4月1日に遡って適用する。

附 則(第10条第3項別表(1)、第11条第2項別表(2)、第12条第3項別表(1)―3、第21条、第22条第1項、第22条の3第2項)

1 この学則は平成31年4月1日から施行する。

2 第21条外国人留学生の単位の読み替え及び第22条1項日本事情に関する科目の単位については、平成27年4月1日に遡って適用する。

附 則(第12条の2 追加、第38条 一部変更)

この学則は平成31年4月1日から施行する。

附 則(第3条の2追加、第4条、第4条の4、第10条第3項別表(1)、(1)―2、第11条第2項別表(9)、第12条第3項別表(1)―3、第21条、第22条第1項、第51条 一部変更)

1 この学則は令和2年4月1日から施行する。

2 令和2年3月31日以前から在籍している者についての第10条第3項別表(1)の適用については、別に定める。

附 則(第2条第2項、第4条、第10条第3項別表(1)、第11条第2項別表(9)、第12条第3項別表(1)―3、第22条第1項、第22条の2第1項、第22条の3第1項第2項、第22条の9、第41条別表(7) 一部変更)

この学則は令和2年4月1日から施行する。ただし、令和2年3月31日以前から在学している者については教育学部こども発達学科の名称変更を除き、第4条、第10条第3項別表(1)、第11条第2項別表(9)、第22条第1項、第41条別表(7)の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則(第10条第3項別表(1)、第11条第2項別表(6)、第22条第1項 一部変更)

1 この学則は令和2年4月1日から施行する。

2 令和2年3月31日以前から在籍している者についての第10条第3項別表(1)、第11条第2項別表(6)の適用については、別に定める。

附 則(第10条第3項別表(1)、第22条第1項 一部変更)

- 1 この学則は令和2年4月1日から施行する。
- 2 令和2年3月31日以前から在籍している者についての第10条第3項別表(1)の適用については、別に定める。
附 則(第8条、第10条第2項、第3項別表(1)及び別表(1)―2、第11条別表(6)(8)(9)(10)、第12条第3項別表(1)―3一部変更、第21条削除、第22条第1項一部変更)
- 1 この学則は令和3年4月1日から施行する。
- 2 令和3年3月31日以前から在籍している者についての第10条第3項別表(1)の適用については、別に定める。
- 3 令和3年3月31日以前から在籍している者については、第10条第2項、第10条第3項別表(1)―2、第11条別表(6)(8)(9)(10)、第12条第3項別表(1)―3、第21条、第22条第1項の規定にかかわらず、なお従前の例による。
附 則(第2条第2項、第4条、第10条第3項別表(1)、第11条別表(11)、第12条第3項別表(1)―3一部変更、第22条第1項、第22条の2、第41条別表(7)一部変更)
- 1 この学則は令和3年4月1日から施行する。
- 2 令和3年3月31日以前から在籍している者についての第10条第3項別表(1)の適用については、別に定める。
- 3 令和3年3月31日以前から在籍している者については、第4条、第11条別表(11)、第12条第3項別表(1)―3、第41条別表(7)の規定にかかわらず、なお従前の例による。
附 則(第10条第3項別表(1)、第22条第1項 一部変更、第11条別表(12)追加)
- 1 この学則は令和4年4月1日から施行する。
- 2 令和4年3月31日以前から在籍している者についての第10条第3項別表(1)、第11条別表(12)の適用については、別に定める。
- 3 令和4年3月31日以前から在籍している者については、第22条第1項の規定にかかわらず、なお従前の例による。
附 則(第10条第3項別表(1)、第11条第2項別表(12)一部変更)
- 1 この学則は令和4年4月1日から施行する。
- 2 令和4年3月31日以前から在籍している者についての第10条第3項別表(1)、第11条第2項別表(12)の適用については、別に定める。
附 則(第10条第3項別表(1)、第11条第2項別表(2)、(3)、(8)、(9)変更)
- 1 この学則は令和4年4月1日から施行する。
- 2 令和4年3月31日以前から在籍している者についての第10条第3項別表(1)、第11条第2項別表(2)、(3)、(8)、(9)の適用については、別に定める。
- 3 第11条第2項別表(8)備考欄に記載の二級・木造建築士指定科目に係る必要単位数については、令和2年3月1日以降に受験するすべての学生に適用する。
附 則(第10条第3項別表(1)、第11条第2項別表(2)、(6)、(9)、第22条、第49条、第49条の2、第67条 一部変更、第49条の3、4、5、6、7、8 追加)
- 1 この学則は令和5年4月1日から施行する。
- 2 令和5年3月31日以前から在籍している者についての第10条第3項別表(1)、第11条第2項別表(2)、(6)、(9)、第22条の適用については、別に定める。
附 則(第2条第2項、第4条、第10条第3項別表(1)、第11条第2項別表(2)、第12条第3項別表(1)―3、第22条、第22条の2、第22条の3、第41条別表(7)、第49条 一部変更、第22条の2第3項追加、第49条の2、第49条の3削除)
- 1 この学則は令和5年4月1日から施行する。

2 令和5年3月31日以前から在籍している者についての第10条第3項別表(1)の適用については、別に定める。

3 工学部環境システム学科は令和5年度より募集を停止する。ただし、同学科は同学科の学生が在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

附 則(第10条第3項別表(1) 一部変更)

1 この学則は令和5年4月1日から施行する。

2 令和5年3月31日以前から在籍している経営学部経営学科及び経営学部会計ガバナンス学科の学生についての第10条第3項別表(1)の適用については、別に定める。

附 則(第41条別表(7) 一部変更)

この学則は令和5年4月1日から施行する。

附 則(第2条第2項、第4条、第10条第3項別表(1)、第12条第3項別表(1)－3、第22条、第22条の2、第41条別表(7) 一部変更)

この学則は令和6年4月1日から施行する。

文学部日本文学文化学科

別表(1)

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
文学部 日本文学文化学科		【共通科目】			
		【建学】			
		仏教（生き方を考える）基礎	2		
		仏教（生き方を考える）発展	2		
		【スポーツ・身体】			
		スポーツと身体科学		1	
		フィールド・スポーツ		1	
		【情報】			
		データサイエンス基礎	1		
		人工知能基礎	1		
		メディアリテラシー		1	
		情報技法基礎		1	
		情報技法発展A		1	
		情報技法発展B		1	
		情報技法発展C		1	
		プログラミング基礎		1	
		プログラミング発展A		1	
		プログラミング発展B		1	
		人工知能技術と社会		1	
		機械学習活用1		1	
		機械学習活用2		1	
		データサイエンス活用1		1	
		データサイエンス活用2		1	
		メディアデザイン		1	
		サービスデザイン		1	
		人工知能実践プロジェクト		2	
		【外国語】			
		英語基礎A	2		
		英語基礎B		1	
		英語基礎C	2		
		英語基礎D		1	
		英語発展A		1	
		英語発展B		1	
		英語発展C		1	
		英語発展D		1	
		英語総合A		1	
		英語総合B		1	
		中国語基礎1		1	
		中国語基礎2		1	
		中国語発展1		1	
		中国語発展2		1	
		中国語総合1		1	
		中国語総合2		1	
		フランス語基礎1		1	
		フランス語基礎2		1	
		フランス語発展1		1	
		フランス語発展2		1	
		フランス語総合1		1	
		フランス語総合2		1	
		ドイツ語基礎1		1	
		ドイツ語基礎2		1	
		ドイツ語発展1		1	
		ドイツ語発展2		1	
		ドイツ語総合1		1	
		ドイツ語総合2		1	
		スペイン語基礎1		1	

文学部日本文学文化学科

別表(1)

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		スペイン語基礎 2		1	
		スペイン語発展 1		1	
		スペイン語発展 2		1	
		スペイン語総合 1		1	
		スペイン語総合 2		1	
		韓国語基礎 1		1	
		韓国語基礎 2		1	
		韓国語発展 1		1	
		韓国語発展 2		1	
		韓国語総合 1		1	
		韓国語総合 2		1	
		留学準備 1		1	
		留学準備 2		1	
		英語資格・検定試験対策 1		1	
		英語資格・検定試験対策 2		1	
		【教養日本語】			
		日本語リテラシー	1		
		日本語基礎 A		1	留学生または日本語を母語としない学生は、外国語科目群の必修科目に代えることができる
		日本語基礎 B		1	
		日本語基礎 C		1	
		日本語基礎 D		1	
		日本語発展 A		1	
		日本語発展 B		1	
		日本語発展 C		1	
		日本語発展 D		1	
		日本事情		2	
		【CHP】			
		SDG s 基礎	1		
		SDG s 発展 1	1		
		SDG s 発展 2	1		
		SDG s 発展 3	1		
		SDG s 特講		2	
		【フィールド・スタディーズ】			
		フィールド・スタディーズ	1		
		フィールド・スタディーズ 1		1	
		フィールド・スタディーズ 2		2	
		フィールド・スタディーズ 3		3	
		フィールド・スタディーズ 4		4	
		フィールド・スタディーズ発展 1 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 1 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 1 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展 1 D		4	
		フィールド・スタディーズ発展 2 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 2 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 2 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展 2 D		4	
		フィールド・スタディーズ発展 2 E		5	
		フィールド・スタディーズ発展 3 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 3 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 3 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展 3 D		4	
		フィールド・スタディーズ発展 3 E		5	
		フィールド・スタディーズ発展 4 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 4 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 4 C		3	

文学部日本文学文化学科

別表(1)

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		フィールド・スタディーズ発展4D		4	
		【インターンシップ】			
		インターンシップ		1	
		企業協働プロジェクト		2	
		【全学教養ゼミナール】			
		全学教養ゼミナール1		2	
		全学教養ゼミナール2		2	
		【寄付講座】			
		武蔵野市自由講座		2	
		証券ビジネス論		2	
		〔教職関連〕			
		日本国憲法		2	教職必修
		〔学科科目〕			
		【学科基礎科目】			
		古代文学	2		
		中古文学	2		
		中世文学	2		
		近世文学	2		
		近代・現代文学	2		
		日本語学概論Ⅰ	2		
		日本語学概論Ⅱ	2		
		入門ゼミA	2		
		入門ゼミB	2		
		漢文学	2		
		日本文学史Ⅰ（古典）	2		
		日本文学史Ⅱ（近現代）	2		
		小説の歴史		2	
		武蔵野学	2		
		【学科展開科目】			
		プレゼミ1A	2		
		プレゼミ1B	2		
		プレゼミ2A	2		
		プレゼミ2B	2		
		ゼミA	2		
		ゼミB	2		
		日本文学文化研究調査実習Ⅰ		1	
		日本文学文化研究調査実習Ⅱ		1	
		日本文学文化研究調査実習Ⅲ		1	
		日本文学文化研究（日本書誌学と文献資料講読）		2	
		【卒業論文・卒業制作】			
		卒論ゼミ	4		
		卒業論文	4		
		【文学・語学コース】			
		日本文学特講Ⅰ（奈良時代の作家と作品）		2	
		日本文学特講Ⅱ（平安時代の作家と作品）		2	
		日本文学特講Ⅲ（鎌倉・室町時代の作家と作品）		2	
		日本文学特講Ⅳ（江戸時代の作家と作品）		2	
		日本文学特講Ⅴ（近代・現代の作家と作品）		2	
		日本文学特講Ⅵ（戦前・戦後の作家と作品）		2	

文学部日本文学文化学科

別表(1)

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		日本文学特講Ⅶ（児童文学の作家と作品）		2	
		日本文学研究Ⅰ（奈良時代の文学と文化）		2	
		日本文学研究Ⅱ（平安時代の文学と文化）		2	
		日本文学研究Ⅲ（鎌倉・室町時代の文学と文化）		2	
		日本文学研究Ⅳ（江戸時代の文学と文化）		2	
		日本文学研究Ⅴ（近代・現代の文学と文化）		2	
		日本文学研究Ⅵ（児童文学と詩の研究）		2	
		日本文学研究Ⅶ（近代・現代の文学と表現）		2	
		日本文学研究Ⅷ（近代・現代の文学と人生）		2	
		漢文学中国文学特講（漢文訓読学）		2	
		漢文学中国文学研究Ⅰ（和漢比較文学）		2	
		漢文学中国文学研究Ⅱ（日本漢文学）		2	
		日本語学特講（古代の日本語）		2	
		日本語学研究（近代の日本語）		2	
		仏教と日本文学文化		2	
		【文化・創作・芸術コース】			
		創作入門Ⅰ		2	
		創作入門Ⅱ		2	
		日本の演劇（古典芸能）		2	
		書道基礎		2	
		日本文化特講Ⅰ（日本の祭りと民話）		2	
		日本文化特講Ⅱ（日本の生活文化）		2	
		日本文化研究Ⅰ（朗読・語りと舞台演出）		2	
		日本文化研究Ⅱ（演劇実践演習）		2	
		比較文学特講（外国文学）		2	
		創作基礎Ⅰ（小説Ⅰ）		2	
		創作基礎Ⅱ（小説Ⅱ）		2	
		創作基礎Ⅲ（俳句）		2	
		創作基礎Ⅳ（短歌）		2	
		創作基礎Ⅴ（現代詩）		2	
		創作基礎Ⅵ（児童文学）		2	
		創作基礎Ⅶ（絵本）		2	
		創作研究Ⅰ（小説Ⅰ）		2	
		創作研究Ⅱ（小説Ⅱ）		2	
		創作研究Ⅲ（俳句）		2	
		創作研究Ⅳ（短歌）		2	
		創作研究Ⅴ（現代詩）		2	
		書道学特講Ⅰ（書道漢字）		2	
		書道学特講Ⅱ（書道仮名）		2	
		書道学研究（書道応用）		2	
		書論・鑑賞		2	
		日文キャリア演習Ⅰ（編集デザイン）		2	
		日文キャリア演習Ⅱ（編集デザイン）		2	
		【副専攻】			
		日文特別ゼミⅠ		4	
		日文特別ゼミⅡ		4	
		日文特別ゼミⅢ		4	
		日文特別ゼミⅣ		4	

グローバル学部グローバルコミュニケーション学科

別表（１）

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
グローバル学部 グローバルコ ミュニケーショ ン学科		【共通科目】			
		【建学】			
		仏教（生き方を考える）基礎	2		
		仏教（生き方を考える）発展	2		
		【スポーツ・身体】			
		スポーツと身体科学		1	
		フィールド・スポーツ		1	
		【情報】			
		データサイエンス基礎	1		
		人工知能基礎	1		
		メディアリテラシー		1	
		情報技法基礎		1	
		情報技法発展A		1	
		情報技法発展B		1	
		情報技法発展C		1	
		プログラミング基礎		1	
		プログラミング発展A		1	
		プログラミング発展B		1	
		人工知能技術と社会		1	
		機械学習活用1		1	
		機械学習活用2		1	
		データサイエンス活用1		1	
		データサイエンス活用2		1	
		メディアデザイン		1	
		サービスデザイン		1	
		人工知能実践プロジェクト		2	
		【外国語】			
		フランス語基礎1		1	
		フランス語基礎2		1	
		フランス語発展1		1	
		フランス語発展2		1	
		フランス語総合1		1	
		フランス語総合2		1	
		ドイツ語基礎1		1	
		ドイツ語基礎2		1	
		ドイツ語発展1		1	
		ドイツ語発展2		1	
		ドイツ語総合1		1	
		ドイツ語総合2		1	
		スペイン語基礎1		1	
		スペイン語基礎2		1	
		スペイン語発展1		1	
		スペイン語発展2		1	
		スペイン語総合1		1	
		スペイン語総合2		1	
		韓国語基礎1		1	

グローバル学部グローバルコミュニケーション学科

別表（１）

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		韓国語基礎 2		1	
		韓国語発展 1		1	
		韓国語発展 2		1	
		韓国語総合 1		1	
		韓国語総合 2		1	
		留学準備 1		1	
		留学準備 2		1	
		英語資格・検定試験対策 1		1	
		英語資格・検定試験対策 2		1	
		【教養日本語】			
		日本語リテラシー	1		
		【CHP】			
		SDG s 基礎	1		
		SDG s 発展 1	1		
		SDG s 発展 2	1		
		SDG s 発展 3	1		
		SDG s 特講		2	
		【フィールド・スタディーズ】			
		フィールド・スタディーズ	1		
		フィールド・スタディーズ 1		1	
		フィールド・スタディーズ 2		2	
		フィールド・スタディーズ 3		3	
		フィールド・スタディーズ 4		4	
		フィールド・スタディーズ発展 1 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 1 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 1 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展 1 D		4	
		フィールド・スタディーズ発展 2 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 2 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 2 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展 2 D		4	
		フィールド・スタディーズ発展 2 E		5	
		フィールド・スタディーズ発展 3 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 3 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 3 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展 3 D		4	
		フィールド・スタディーズ発展 3 E		5	
		フィールド・スタディーズ発展 4 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 4 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 4 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展 4 D		4	
		【インターンシップ】			
		インターンシップ		1	
		企業協働プロジェクト		2	

グローバル学部グローバルコミュニケーション学科

別表(1)

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		【全学教養ゼミナール】			
		全学教養ゼミナール1		2	
		全学教養ゼミナール2		2	
		【寄付講座】			
		武蔵野市自由講座		2	
		証券ビジネス論		2	
		〔学科科目〕			
		【言語演習科目】			
		＜日本語科目群＞			
		日本語1A		1	8単位選択必修 (留学生のみ)
		日本語1B		1	
		日本語1C		1	
		日本語1D		1	
		日本語2A		1	
		日本語2B		1	
		日本語2C		1	
		日本語2D		1	
		＜中国語科目群＞			
		中国語1A		1	16単位選択必修 (留学生は除く)
		中国語1B		1	
		中国語1C		1	
		中国語1D		1	
		中国語2A		1	
		中国語2B		1	
		中国語2C		1	
		中国語2D		1	
		中国語3A		1	
		中国語3B		1	
		中国語資格試験演習(初級)1		1	
		中国語資格試験演習(初級)2		1	
		中国語資格試験演習(初級)3		1	
		中国語資格試験演習(中級)1		1	
		中国語資格試験演習(中級)2		1	
		中国語資格試験演習(中級)3		1	
		＜英語科目群＞			
		English for Qualifications A	1		
		English for Qualifications B	1		
		English for Qualifications C	1		
		English for Qualifications D	1		
		Practical Communication A	2		
		Practical Communication B	2		
		Integrated Skills for Qualifications A	1		
		Integrated Skills for Qualifications B	1		
		Integrated Skills for Qualifications C	1		
		Integrated Skills for Qualifications D	1		

グローバル学部グローバルコミュニケーション学科

別表(1)

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		Integrated Skills for Communication A	2		
		Integrated Skills for Communication B	2		
		英語資格試験演習A		2	
		英語資格試験演習B		2	
		英語資格試験演習C		2	
		英語資格試験演習D		2	
		Advanced Skills for Communication A		2	
		Advanced Skills for Communication B		2	
		＜English Study Abroad Program＞			
		EAP Beginner 1		4	16単位 選択必修
		EAP Beginner 2		4	
		EAP Beginner 3		4	
		EAP Intermediate 1		4	
		EAP Intermediate 2		4	
		EAP Intermediate 3		4	
		EAP Advanced 1		4	
		EAP Advanced 2		4	
		EAP Advanced 3		4	
		EAP Masters 1		4	
		EAP Masters 2		4	
		EAP Masters 3		4	
		EAP Masters 4		4	
		EAP Masters 5		4	
		EAP Masters 6		4	
		EAP Masters 7		4	
		Undergraduate Courses 1		2	
		Undergraduate Courses 2		2	
		Undergraduate Courses 3		3	
		Undergraduate Courses 4		4	
		Undergraduate Courses 5		5	
		Undergraduate Courses 6		10	
		Undergraduate Courses 7		10	
		【学科基礎科目】			
		基礎ゼミ	1		
		プレゼミ	1		
		【多文化共修科目】			
		グローバルスタディーズ/Global Studies	2		
		キャリアデザイン入門	2		
		異文化コミュニケーション概論	2		
		【学科専門科目】			
		＜翻訳・通訳科目群＞			
		英語翻訳演習A		2	
		英語翻訳演習B		2	
		英語翻訳演習C		2	

グローバルコミュニケーション

グローバル学部グローバルコミュニケーション学科

別表（1）

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		英語翻訳演習 D		2	
		英語通訳演習 A		2	
		英語通訳演習 B		2	
		英語通訳演習 C		2	
		英語通訳演習 D		2	
		中国語翻訳演習 A		2	
		中国語翻訳演習 B		2	
		中国語翻訳演習 C		2	
		中国語翻訳演習 D		2	
		中国語通訳演習 A		2	
		中国語通訳演習 B		2	
		中国語通訳演習 C		2	
		中国語通訳演習 D		2	
		＜言語・文化科目群＞			
		中国研究（文化文学）初級 A		2	
		中国研究（文化文学）初級 B		2	
		中国研究（文化文学）中級 A		2	
		中国研究（文化文学）中級 B		2	
		中国研究（文化文学）中級 C		2	
		中国研究（文化文学）中級 D		2	
		中国研究（文化文学）上級 A		2	
		中国研究（文化文学）上級 B		2	
		中国研究（文化文学）上級 C		2	
		中国研究（文化文学）上級 D		2	
		Communication Studies A		2	
		Communication Studies B		2	
		Area Studies US A		2	
		Area Studies US B		2	
		Area Studies UK A		2	
		Area Studies UK B		2	
		Area Studies China A		2	
		Area Studies China B		2	
		Global Media Literacy A		2	
		Global Media Literacy B		2	
		Media English A		2	
		Media English B		2	
		EFL Reading A		2	
		EFL Reading B		2	
		EFL Reading C		2	
		EFL Reading D		2	
		Literary Texts, Critical Methods A		2	
		Literary Texts, Critical Methods B		2	
		English and Film Studies A		2	
		English and Film Studies B		2	
		Academic Reading A		2	
		Academic Reading B		2	

グローバルコミュニケーション

グローバル学部グローバルコミュニケーション学科

別表（1）

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		Academic Reading C		2	
		Academic Reading D		2	
		Language Acquisition A		2	
		Language Acquisition B		2	
		Sociolinguistics A		2	
		Sociolinguistics B		2	
		World Englishes A		2	
		World Englishes B		2	
		Comparative Culture A		2	
		Comparative Culture B		2	
		Cultural Studies A		2	
		Cultural Studies B		2	
		＜学部隣接科目群＞			
		日本研究（政治・社会）A		2	
		日本研究（政治・社会）B		2	
		日本研究（政治・社会）C		2	
		日本研究（政治・社会）D		2	
		日本研究（文化・文学・サブカルチャー）A		2	
		日本研究（文化・文学・サブカルチャー）B		2	
		日本研究（文化・文学・サブカルチャー）C		2	
		日本研究（文化・文学・サブカルチャー）D		2	
		日本研究（歴史・地域・メディア）A		2	
		日本研究（歴史・地域・メディア）B		2	
		日本研究（歴史・地域・メディア）C		2	
		日本研究（歴史・地域・メディア）D		2	
		＜特別講義＞			
		特別講義 A		1	
		特別講義 B		1	
		特別講義 C		1	
		特別講義 D		1	
		＜ゼミ/Seminar＞			
		ゼミ/Seminar A		2	ゼミ/Seminar（計8単位）又は課題研究演習（計8単位）のいずれかを選択必修
		ゼミ/Seminar B		2	
		ゼミ/Seminar C		2	
		ゼミ/Seminar D		2	
		課題研究演習A		2	
		課題研究演習B		2	
		課題研究演習C		2	
		課題研究演習D		2	
		卒業論文/Research Project		4	

グローバル学部日本語コミュニケーション学科

別表（1）

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
グローバル学部 日本語コミュニケーション学科		【共通科目】			
		【建学】			
		仏教（生き方を考える）基礎	2		
		仏教（生き方を考える）発展	2		
		【スポーツ・身体】			
		スポーツと身体科学		1	
		フィールド・スポーツ		1	
		【情報】			
		データサイエンス基礎	1		
		人工知能基礎	1		
		メディアリテラシー		1	
		情報技法基礎		1	
		情報技法発展A		1	
		情報技法発展B		1	
		情報技法発展C		1	
		プログラミング基礎		1	
		プログラミング発展A		1	
		プログラミング発展B		1	
		人工知能技術と社会		1	
		機械学習活用1		1	
		機械学習活用2		1	
		データサイエンス活用1		1	
		データサイエンス活用2		1	
		メディアデザイン		1	
		サービスデザイン		1	
		人工知能実践プロジェクト		2	
		【外国語】			
		フランス語基礎1		1	
		フランス語基礎2		1	
		フランス語発展1		1	
		フランス語発展2		1	
		フランス語総合1		1	
		フランス語総合2		1	
		ドイツ語基礎1		1	
		ドイツ語基礎2		1	
		ドイツ語発展1		1	
		ドイツ語発展2		1	
		ドイツ語総合1		1	
		ドイツ語総合2		1	
		スペイン語基礎1		1	
		スペイン語基礎2		1	
		スペイン語発展1		1	
		スペイン語発展2		1	
		スペイン語総合1		1	
		スペイン語総合2		1	
		韓国語基礎1		1	

グローバル学部日本語コミュニケーション学科

別表(1)

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		韓国語基礎 2		1	
		韓国語発展 1		1	
		韓国語発展 2		1	
		韓国語総合 1		1	
		韓国語総合 2		1	
		留学準備 1		1	
		留学準備 2		1	
		英語資格・検定試験対策 1		1	
		英語資格・検定試験対策 2		1	
		【教養日本語】 日本語リテラシー	1		
		【CHP】 SDG s 基礎	1		
		SDG s 発展 1	1		
		SDG s 発展 2	1		
		SDG s 発展 3	1		
		SDG s 特講		2	
		【フィールド・スタディーズ】 フィールド・スタディーズ	1		
		フィールド・スタディーズ 1		1	
		フィールド・スタディーズ 2		2	
		フィールド・スタディーズ 3		3	
		フィールド・スタディーズ 4		4	
		フィールド・スタディーズ発展 1 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 1 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 1 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展 1 D		4	
		フィールド・スタディーズ発展 2 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 2 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 2 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展 2 D		4	
		フィールド・スタディーズ発展 2 E		5	
		フィールド・スタディーズ発展 3 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 3 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 3 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展 3 D		4	
		フィールド・スタディーズ発展 3 E		5	
		フィールド・スタディーズ発展 4 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 4 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 4 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展 4 D		4	
		【インターンシップ】 インターンシップ		1	
		企業協働プロジェクト		2	

グローバル学部日本語コミュニケーション学科

別表(1)

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		【全学教養ゼミナール】			
		全学教養ゼミナール1		2	
		全学教養ゼミナール2		2	
		【寄付講座】			
		武蔵野市自由講座		2	
		証券ビジネス論		2	
		【学科科目】			学科科目は、必修23単位及び選択必修単位を含めて79単位以上修得する。
		【言語演習科目】			
		＜日本語科目群＞			
		日本語1A		1	日本語科目群及び観光・ビジネス日本語科目群から16単位選択必修(留学生のみ)
		日本語1B		1	
		日本語1C		1	
		日本語1D		1	
		日本語2A		1	
		日本語2B		1	
		日本語2C		1	
		日本語2D		1	
		＜英語科目群＞			
		English for Qualifications 1A		1	24単位選択必修(留学生は除く)
		English for Qualifications 1B		1	
		English for Qualifications 1C		1	
		English for Qualifications 1D		1	
		English for Qualifications 2A		1	
		English for Qualifications 2B		1	
		English for Qualifications 2C		1	
		English for Qualifications 2D		1	
		English for Qualifications 3A		1	
		English for Qualifications 3B		1	
		English for Qualifications 3C		1	
		English for Qualifications 3D		1	
		Practical Communication 1A		1	
		Practical Communication 1B		1	
		Practical Communication 1C		1	
		Practical Communication 1D		1	
		Practical Communication 2A		1	
		Practical Communication 2B		1	
		Practical Communication 2C		1	
		Practical Communication 2D		1	
		Practical Communication 3A		1	
		Practical Communication 3B		1	
		Practical Communication 3C		1	
		Practical Communication 3D		1	
		Remedial English A		1	
		Remedial English B		1	
		英語資格試験演習A		2	
		英語資格試験演習B		2	

グローバル学部日本語コミュニケーション学科

別表(1)

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		英語資格試験演習 C		2	
		英語資格試験演習 D		2	
		〈中国語科目群〉			
		中国語 1 A		1	
		中国語 1 B		1	
		中国語 1 C		1	
		中国語 1 D		1	
		中国語 2 A		1	
		中国語 2 B		1	
		中国語 2 C		1	
		中国語 2 D		1	
		中国語 3 A		1	
		中国語 3 B		1	
		中国語 3 C		1	
		中国語 3 D		1	
		中国語資格試験演習 1 A		1	
		中国語資格試験演習 1 B		1	
		中国語資格試験演習 2 A		1	
		中国語資格試験演習 2 B		1	
		【学科基礎科目】			
		基礎ゼミ	1		
		プレゼミ A	1		
		プレゼミ B	1		
		【多文化共修科目】			
		グローバルスタディーズ/Global Studies	2		
		グローバルプロジェクト/Global Project	2		
		海外インターンシップ 1 (基礎)		2	
		海外インターンシップ 2 (基礎)		3	
		海外インターンシップ 3 (基礎)		4	
		海外インターンシップ 4 (発展)		2	
		海外インターンシップ 5 (発展)		3	
		海外インターンシップ 6 (発展)		4	
		【学科専門科目】			
		〈日本語教員養成科目群〉			
		異文化コミュニケーション A		2	
		異文化コミュニケーション B		2	
		日本語学概論	2		
		音声学基礎 A		2	
		音声学基礎 B		2	
		第二言語習得理論 A		2	
		第二言語習得理論 B		2	
		日本語教授法概論 A		2	
		日本語教授法概論 B		2	
		日本語教育実習		4	
		日本語実践教育 A		2	

日本語コミュニケーション

14/121

学則-42

グローバル学部日本語コミュニケーション学科

別表(1)

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		日本語実践教育 B		2	
		日本語教育文法 A		2	
		日本語教育文法 B		2	
		日本語学各論 A		2	
		日本語学各論 B		2	
		日本語教育学各論 A		2	
		日本語教育学各論 B		2	
		〈観光・ビジネス日本語科目群〉			
		実用日本語 1 A		1	観光・ビジネス日本語科目群 及び日本語科目群から 16単位選択必修(留学生のみ)
		実用日本語 1 B		1	
		実用日本語 1 C		1	
		実用日本語 1 D		1	
		実用日本語 2 A		1	
		実用日本語 2 B		1	
		実用日本語 2 C		1	
		実用日本語 2 D		1	
		観光学概論	2		
		日本研究(経済・経営) A		2	
		日本研究(経済・経営) B		2	
		日本研究(経済・経営) C		2	
		日本研究(経済・経営) D		2	
		日本研究(政治・社会) A		2	
		日本研究(政治・社会) B		2	
		日本研究(政治・社会) C		2	
		日本研究(政治・社会) D		2	
		日本研究(観光・ビジネス) A		2	
		日本研究(観光・ビジネス) B		2	
		日本研究(観光・ビジネス) C		2	
		日本研究(観光・ビジネス) D		2	
		〈サブカルチャー・メディア科目群〉			
		日本研究(文化・文学・サブカルチャー) A		2	
		日本研究(文化・文学・サブカルチャー) B		2	
		日本研究(文化・文学・サブカルチャー) C		2	
		日本研究(文化・文学・サブカルチャー) D		2	
		日本研究(教育とサブカルチャー) A		2	
		日本研究(教育とサブカルチャー) B		2	
		日本研究(教育とサブカルチャー) C		2	
		日本研究(教育とサブカルチャー) D		2	
		日本研究(歴史・地域・メディア) A		2	
		日本研究(歴史・地域・メディア) B		2	
		日本研究(歴史・地域・メディア) C		2	
		日本研究(歴史・地域・メディア) D		2	
		〈特別講義〉			
		特別講義 A		1	
		特別講義 B		1	
		特別講義 C		1	

グローバル学部日本語コミュニケーション学科

別表（1）

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		特別講義 D		1	
		<ゼミ/Seminar>			
		ゼミ/Seminar A	2		
		ゼミ/Seminar B	2		
		ゼミ/Seminar C	2		
		ゼミ/Seminar D	2		
		卒業論文/Research Project	4		

グローバル学部グローバルビジネス学科

別表（１）

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
グローバル学部 グローバルビ ジネス学科		〔共通科目〕			
		【建学】			
		仏教（生き方を考える）基礎	2		
		仏教（生き方を考える）発展	2		
		【スポーツ・身体】			
		スポーツと身体科学		1	
		フィールド・スポーツ		1	
		【情報】			
		データサイエンス基礎	1		
		人工知能基礎	1		
		メディアリテラシー		1	
		情報技法基礎		1	
		情報技法発展A		1	
		情報技法発展B		1	
		情報技法発展C		1	
		プログラミング基礎		1	
		プログラミング発展A		1	
		プログラミング発展B		1	
		人工知能技術と社会		1	
		機械学習活用 1		1	
		機械学習活用 2		1	
		データサイエンス活用 1		1	
		データサイエンス活用 2		1	
		メディアデザイン		1	
		サービスデザイン		1	
		人工知能実践プロジェクト		2	
		【外国語】			
		フランス語基礎 1		1	
		フランス語基礎 2		1	
		フランス語発展 1		1	
		フランス語発展 2		1	
		フランス語総合 1		1	
		フランス語総合 2		1	
		ドイツ語基礎 1		1	
		ドイツ語基礎 2		1	
		ドイツ語発展 1		1	
		ドイツ語発展 2		1	
		ドイツ語総合 1		1	
		ドイツ語総合 2		1	
		スペイン語基礎 1		1	
		スペイン語基礎 2		1	
		スペイン語発展 1		1	
		スペイン語発展 2		1	
		スペイン語総合 1		1	
		スペイン語総合 2		1	
		韓国語基礎 1		1	

グローバル学部グローバルビジネス学科

別表（１）

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		韓国語基礎 2		1	
		韓国語発展 1		1	
		韓国語発展 2		1	
		韓国語総合 1		1	
		韓国語総合 2		1	
		留学準備 1		1	
		留学準備 2		1	
		英語資格・検定試験対策 1		1	
		英語資格・検定試験対策 2		1	
		【教養日本語】			
		日本語リテラシー		1	
		【CHP】			
		SDG s 基礎	1		
		SDG s 発展 1	1		
		SDG s 発展 2	1		
		SDG s 発展 3	1		
		SDG s 特講		2	
		【フィールド・スタディーズ】			
		フィールド・スタディーズ	1		
		フィールド・スタディーズ 1		1	
		フィールド・スタディーズ 2		2	
		フィールド・スタディーズ 3		3	
		フィールド・スタディーズ 4		4	
		フィールド・スタディーズ発展 1 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 1 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 1 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展 1 D		4	
		フィールド・スタディーズ発展 2 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 2 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 2 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展 2 D		4	
		フィールド・スタディーズ発展 2 E		5	
		フィールド・スタディーズ発展 3 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 3 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 3 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展 3 D		4	
		フィールド・スタディーズ発展 3 E		5	
		フィールド・スタディーズ発展 4 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 4 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 4 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展 4 D		4	
		【インターンシップ】			
		インターンシップ		1	
		企業協働プロジェクト		2	

グローバル学部グローバルビジネス学科

別表(1)

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		【全学教養ゼミナール】			
		全学教養ゼミナール1		2	
		全学教養ゼミナール2		2	
		【寄付講座】			
		武蔵野市自由講座		2	
		証券ビジネス論		2	
		〔学科科目〕			
		【言語演習科目】			
		＜中国語科目群＞			
		中国語1A		1	8単位選択必修(留学生は除く)
		中国語1B		1	
		中国語1C		1	
		中国語1D		1	
		中国語2A		1	
		中国語2B		1	
		中国語2C		1	
		中国語2D		1	
		中国語3A		1	
		中国語3B		1	
		中国語3C		1	
		中国語3D		1	
		中国語資格試験演習1A		1	
		中国語資格試験演習1B		1	
		中国語資格試験演習2A		1	
		中国語資格試験演習2B		1	
		ビジネス中国語A		1	
		ビジネス中国語B		1	
		ビジネス中国語C		1	
		ビジネス中国語D		1	
		＜英語科目群＞			
		English for Qualifications 1A		1	
		English for Qualifications 1B		1	
		English for Qualifications 1C		1	
		English for Qualifications 1D		1	
		English for Qualifications 2A		1	
		English for Qualifications 2B		1	
		English for Qualifications 2C		1	
		English for Qualifications 2D		1	
		English for Qualifications 3A		1	
		English for Qualifications 3B		1	
		English for Qualifications 3C		1	
		English for Qualifications 3D		1	
		Practical Communication 1A		1	
		Practical Communication 1B		1	
		Practical Communication 1C		1	
		Practical Communication 1D		1	

グローバル学部グローバルビジネス学科

別表（１）

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		Practical Communication 2A		1	16 単位選択必修 (学科の定める基準により、他の学 科科目をもって代えることができ る)
		Practical Communication 2B		1	
		Practical Communication 2C		1	
		Practical Communication 2D		1	
		Practical Communication 3A		1	
		Practical Communication 3B		1	
		Practical Communication 3C		1	
		Practical Communication 3D		1	
		Reading for Business Studies		1	
		Business Writing		1	
		Business Presentation		1	
		Business Meeting		1	
		＜日本語科目群＞			8 単位選択必修 (留学生のみ)
		基礎日本語 1 A		1	
		基礎日本語 1 B		1	
		基礎日本語 1 C		1	
		基礎日本語 1 D		1	
		基礎日本語 1 E		1	
		基礎日本語 1 F		1	
		基礎日本語 1 G		1	
		基礎日本語 1 H		1	
		日本語 1 A		1	
		日本語 1 B		1	
		日本語 1 C		1	
		日本語 1 D		1	
		日本語 2 A		1	
		日本語 2 B		1	
		日本語 2 C		1	
		日本語 2 D		1	
		実用日本語 1 A		1	
		実用日本語 1 B		1	
		実用日本語 1 C		1	
		実用日本語 1 D		1	
		実用日本語 2 A		1	
		実用日本語 2 B		1	
		実用日本語 2 C		1	
		実用日本語 2 D		1	
		日本語資格試験演習 A		1	
		日本語資格試験演習 B		1	
		日本語資格試験演習 C		1	
		日本語資格試験演習 D		1	
		【学科基礎科目】			
		基礎ゼミ/Fundamental Seminar	1		
		プレゼミA/Pre-seminar A	1		
		プレゼミB/Pre-seminar B	1		
		Career Design	1		

グローバル学部グローバルビジネス学科

別表（１）

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		【多文化共修科目】			
		グローバルスタディーズ/Global Studies	2		
		グローバルプロジェクト/Global Project	2		
		【ビジネス科目】			
		Introduction to Business Studies A	2		
		Introduction to Business Studies B	2		
		Management A	2		
		Management B	2		
		Accounting A		2	
		Accounting B		2	
		Accounting Advanced A		2	
		Accounting Advanced B		2	
		Research Method for Business Studies		2	
		Problem-Solving and Decision-Making		2	
		Finance A		2	
		Finance B		2	
		Management in Japan		2	
		Digital Economy		2	
		Statistics for Business Studies A		2	
		Statistics for Business Studies B		2	
		Managerial Accounting A		2	
		Managerial Accounting B		2	
		Organizational Behavior A		2	
		Organizational Behavior B		2	
		Business Economics A		2	
		Business Economics B		2	
		Global Trading A		2	
		Global Trading B		2	
		Financial Services A		2	
		Financial Services B		2	
		Hospitality A		2	
		Hospitality B		2	
		Marketing in Global Business A		2	
		Marketing in Global Business B		2	
		Advanced Marketing in Global Business A		2	
		Advanced Marketing in Global Business B		2	
		Digital Marketing		2	
		Strategy in Global Business A		2	
		Strategy in Global Business B		2	
		China Business Studies A		2	
		China Business Studies B		2	
		Emerging Markets		2	
		Business Law and Ethics		2	
		Internship A		1	
		Internship B		1	
		Internship C		2	
		Internship D		4	
		Entrepreneurship		2	

3 2 単位選択必修

グローバル学部グローバルビジネス学科
別表（1）

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		International Lectures 1 (GB)		1	
		International Lectures 2 (GB)		1	
		International Lectures 3 (GB)		1	
		International Lectures 4 (GB)		1	
		【学科専門科目】			
		＜学部隣接科目群＞			
		英語資格試験演習A/Practical Exercises for English Qualifications A		2	
		英語資格試験演習B/Practical Exercises for English Qualifications B		2	
		英語資格試験演習C/Practical Exercises for English Qualifications C		2	
		英語資格試験演習D/Practical Exercises for English Qualifications D		2	
		異文化コミュニケーションA/Cross-cultural Communication A		2	
		異文化コミュニケーションB/Cross-cultural Communication B		2	
		＜特別講義＞			
		特別講義/Special Lectures A		1	
		特別講義/Special Lectures B		1	
		特別講義/Special Lectures C		1	
		特別講義/Special Lectures D		1	
		＜ゼミ/Seminar＞			
		ゼミ/Seminar A		2	
		ゼミ/Seminar B		2	
		ゼミ/Seminar C		2	
		ゼミ/Seminar D		2	
		卒業論文/Research Project for Graduation Thesis		4	

法学部法律学科

別表(1)

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
法学部 法律学科		【共通科目】			
		【建学】			
		仏教（生き方を考える）基礎	2		
		仏教（生き方を考える）発展	2		
		【スポーツ・身体】			
		スポーツと身体科学		1	
		フィールド・スポーツ		1	
		【情報】			
		データサイエンス基礎	1		
		人工知能基礎	1		
		メディアリテラシー		1	
		情報技法基礎		1	
		情報技法発展A		1	
		情報技法発展B		1	
		情報技法発展C		1	
		プログラミング基礎		1	
		プログラミング発展A		1	
		プログラミング発展B		1	
		人工知能技術と社会		1	
		機械学習活用1		1	
		機械学習活用2		1	
		データサイエンス活用1		1	
		データサイエンス活用2		1	
		メディアデザイン		1	
		サービスデザイン		1	
		人工知能実践プロジェクト		2	
		【外国語】			
		英語基礎A	2		
		英語基礎B		1	
		英語基礎C	2		
		英語基礎D		1	
		英語発展A		1	
		英語発展B		1	
		英語発展C		1	
		英語発展D		1	
		英語総合A		1	
		英語総合B		1	
		中国語基礎1		1	
		中国語基礎2		1	
		中国語発展1		1	
		中国語発展2		1	
		中国語総合1		1	
		中国語総合2		1	
		フランス語基礎1		1	
		フランス語基礎2		1	
		フランス語発展1		1	
		フランス語発展2		1	
		フランス語総合1		1	
		フランス語総合2		1	
		ドイツ語基礎1		1	
		ドイツ語基礎2		1	

法学部法律学科

別表(1)

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		ドイツ語発展 1		1	
		ドイツ語発展 2		1	
		ドイツ語総合 1		1	
		ドイツ語総合 2		1	
		スペイン語基礎 1		1	
		スペイン語基礎 2		1	
		スペイン語発展 1		1	
		スペイン語発展 2		1	
		スペイン語総合 1		1	
		スペイン語総合 2		1	
		韓国語基礎 1		1	
		韓国語基礎 2		1	
		韓国語発展 1		1	
		韓国語発展 2		1	
		韓国語総合 1		1	
		韓国語総合 2		1	
		留学準備 1		1	
		留学準備 2		1	
		英語資格・検定試験対策 1		1	
		英語資格・検定試験対策 2		1	
		【教養日本語】			
		日本語リテラシー	1		
		日本語基礎 A		1	留学生または日本語を母語としない学生は、外国語科目群の必修科目に代えることができる
		日本語基礎 B		1	
		日本語基礎 C		1	
		日本語基礎 D		1	
		日本語発展 A		1	
		日本語発展 B		1	
		日本語発展 C		1	
		日本語発展 D		1	
		日本事情		2	
		【CHP】			
		SDG s 基礎	1		
		SDG s 発展 1	1		
		SDG s 発展 2	1		
		SDG s 発展 3	1		
		SDG s 特講		2	
		【フィールド・スタディーズ】			
		フィールド・スタディーズ	1		
		フィールド・スタディーズ 1		1	
		フィールド・スタディーズ 2		2	
		フィールド・スタディーズ 3		3	
		フィールド・スタディーズ 4		4	
		フィールド・スタディーズ発展 1 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 1 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 1 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展 1 D		4	
		フィールド・スタディーズ発展 2 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 2 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 2 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展 2 D		4	

法学部法律学科

別表(1)

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		フィールド・スタディーズ発展2 E		5	
		フィールド・スタディーズ発展3 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展3 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展3 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展3 D		4	
		フィールド・スタディーズ発展3 E		5	
		フィールド・スタディーズ発展4 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展4 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展4 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展4 D		4	
		【インターンシップ】			
		インターンシップ		1	
		企業協働プロジェクト		2	
		【全学教養ゼミナール】			
		全学教養ゼミナール1		2	
		全学教養ゼミナール2		2	
		【寄付講座】			
		武蔵野市自由講座		2	
		証券ビジネス論		2	
		〔学科科目〕			
		【基礎科目群】			
		法学1 (法学の基礎)	2		
		法学2 (法学概論)	2		
		民法1 A (総則)	2		
		民法1 B (総則)	2		
		憲法1 (統治)	2		
		憲法2 (人権)	2		
		刑法1 (総論)	2		
		【基幹科目群】			
		民法2 A (物権)		2	20単位以上選択必修
		民法2 B (担保物権)		2	
		民法3 A (債権各論)		2	
		民法3 B (債権各論)		2	
		民法4 A (債権総論)		2	
		民法4 B (債権総論)		2	
		民法5 A (親族法)		2	
		民法5 B (相続法)		2	
		民事訴訟法1		2	
		民事訴訟法2		2	
		刑法2 (各論)		2	
		刑法3 (各論)		2	
		刑事訴訟法1		2	
		刑事訴訟法2		2	
		会社法1		2	
		会社法2		2	
		企業法総論		2	

別表 (1)

法律
26/121
學則-54

法学部法律学科

別表(1)

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		【エクスターンシップ】 企業エクスターンシップ	2		
		【資格対策科目群】 資格ガイダンス	2		
		キャリア開発		2	
		地方公務員特殊研究 1		4	
		地方公務員特殊研究 2		4	
		地方公務員特殊研究 3		4	
		地方公務員特殊研究 4		4	
		【アカデミック・スキル科目】 プレゼミ	2		
		プレゼンゼミ		2	
		【最先端研究】 ゼミナール 1	2		
		ゼミナール 2	2		
		ゼミナール 3	2		
		ゼミナール 4	2		
		卒業論文	2		
		【隣接科目群】 ＜政治学＞			
		政治学史 1		2	
		政治学史 2		2	
		現代政治理論 1		2	
		現代政治理論 2		2	
		日本政治論		2	
		立法過程論		2	
		政策過程論		2	
		計量政治学		2	
		行政学		2	
		公共政策論 1		2	
		公共政策論 2		2	
		公共選択論		2	
		地方自治		2	
		公共管理論		2	
		国際関係論		2	
		International Lectures 1(Politics)		1	
		International Lectures 2(Politics)		1	
		International Lectures 3(Politics)		1	
		International Lectures 4(Politics)		1	
		＜経済学＞			
		ミクロ経済学 1		2	平成 2 7 年度以前入学生のみ
		ミクロ経済学 2		2	
		マクロ経済学 1		2	
		マクロ経済学 2		2	
		財政学 1		2	
		財政学 2		2	
		経済政策論		2	
		経済学 S 1 (経済学入門)		2	
		経済学 S 2 (ミクロ経済学)		2	

法学部法律学科

別表（1）

学 科 \ 区 分	授業科目	単位数		備考
		必修	選択	
	経済学 S 3（ミクロ経済学）		2	
	経済学 S 4（マクロ経済学）		2	
	経済学 S 5（マクロ経済学）		2	
	<経営学・会計学>			
	経営学入門		2	
	会計学入門		2	
	企業と社会		2	
	経営学基礎		2	
	金融論 1		2	
	金融論 2		2	

法学部政治学科

別表（１）

学 科 区 分	授業科目	単位数		備考
		必修	選択	
法学部 政治学科	〔共通科目〕			
	【建学】			
	仏教（生き方を考える）基礎	2		
	仏教（生き方を考える）発展	2		
	【スポーツ・身体】			
	スポーツと身体科学		1	
	フィールド・スポーツ		1	
	【情報】			
	データサイエンス基礎	1		
	人工知能基礎	1		
	メディアリテラシー		1	
	情報技法基礎		1	
	情報技法発展A		1	
	情報技法発展B		1	
	情報技法発展C		1	
	プログラミング基礎		1	
	プログラミング発展A		1	
	プログラミング発展B		1	
	人工知能技術と社会		1	
	機械学習活用1		1	
	機械学習活用2		1	
	データサイエンス活用1		1	
	データサイエンス活用2		1	
	メディアデザイン		1	
	サービスデザイン		1	
	人工知能実践プロジェクト		2	
	【外国語】			
	英語基礎A	2		
	英語基礎B		1	
	英語基礎C	2		
	英語基礎D		1	
	英語発展A		1	
	英語発展B		1	
	英語発展C		1	
	英語発展D		1	
	英語総合A		1	
	英語総合B		1	
	中国語基礎1		1	
	中国語基礎2		1	
	中国語発展1		1	
	中国語発展2		1	
	中国語総合1		1	
	中国語総合2		1	
	フランス語基礎1		1	
	フランス語基礎2		1	
	フランス語発展1		1	

法学部政治学科

別表（１）

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		フランス語発展 2		1	
		フランス語総合 1		1	
		フランス語総合 2		1	
		ドイツ語基礎 1		1	
		ドイツ語基礎 2		1	
		ドイツ語発展 1		1	
		ドイツ語発展 2		1	
		ドイツ語総合 1		1	
		ドイツ語総合 2		1	
		スペイン語基礎 1		1	
		スペイン語基礎 2		1	
		スペイン語発展 1		1	
		スペイン語発展 2		1	
		スペイン語総合 1		1	
		スペイン語総合 2		1	
		韓国語基礎 1		1	
		韓国語基礎 2		1	
		韓国語発展 1		1	
		韓国語発展 2		1	
		韓国語総合 1		1	
		韓国語総合 2		1	
		留学準備 1		1	
		留学準備 2		1	
		英語資格・検定試験対策 1		1	
		英語資格・検定試験対策 2		1	
		【教養日本語】			
		日本語リテラシー	1		
		日本語基礎 A		1	留学生または日本語を母語としない学生は、外国語科目群の必修科目に代えることができる
		日本語基礎 B		1	
		日本語基礎 C		1	
		日本語基礎 D		1	
		日本語発展 A		1	
		日本語発展 B		1	
		日本語発展 C		1	
		日本語発展 D		1	
		日本事情		2	
		【CHP】			
		SDG s 基礎	1		
		SDG s 発展 1	1		
		SDG s 発展 2	1		
		SDG s 発展 3	1		
		SDG s 特講		2	
		【フィールド・スタディーズ】			
		フィールド・スタディーズ	1		
		フィールド・スタディーズ 1		1	
		フィールド・スタディーズ 2		2	

法学部政治学科

別表（１）

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		フィールド・スタディーズ 3		3	
		フィールド・スタディーズ 4		4	
		フィールド・スタディーズ発展 1 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 1 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 1 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展 1 D		4	
		フィールド・スタディーズ発展 2 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 2 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 2 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展 2 D		4	
		フィールド・スタディーズ発展 2 E		5	
		フィールド・スタディーズ発展 3 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 3 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 3 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展 3 D		4	
		フィールド・スタディーズ発展 3 E		5	
		フィールド・スタディーズ発展 4 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 4 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 4 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展 4 D		4	
		【インターンシップ】			
		インターンシップ		1	
		企業協働プロジェクト		2	
		【全学教養ゼミナール】			
		全学教養ゼミナール 1		2	
		全学教養ゼミナール 2		2	
		【寄付講座】			
		武蔵野市自由講座		2	
		証券ビジネス論		2	
		〔学科科目〕			
		【基礎科目群】			
		政治学原論 1	2		
		政治学原論 2	2		
		日本政治論基礎	2		
		国際政治学基礎	2		
		憲法 1（統治）	2		
		憲法 2（人権）	2		
		地方政府研究 1		1	
		地方政府研究 2		1	
		International Lectures 1(Politics)		1	
		International Lectures 2(Politics)		1	
		International Lectures 3(Politics)		1	
		International Lectures 4(Politics)		1	
		【基幹科目群】			

別表 (1)

政治
32/121
學則-60

法学部政治学科

別表（１）

区 分 学 科	授業科目	単位数		備考
		必修	選択	
	日本政治・政治過程演習 1		2	
	日本政治・政治過程演習 2		2	
	＜国際政治・地域研究＞			
	国際関係論		2	
	アジア政治論		2	
	中国政治論		2	
	中東政治論		2	
	アフリカ政治論		2	
	国際政治・地域研究演習 1		2	
	国際政治・地域研究演習 2		2	
	＜政治学特殊研究＞			
	政治学特殊研究 1		2	
	政治学特殊研究 2		2	
	政治学特殊研究 3		2	
	【資格対策科目群】			
	キャリア開発		2	
	地方公務員特殊研究 1		4	
	地方公務員特殊研究 2		4	
	地方公務員特殊研究 3		4	
	地方公務員特殊研究 4		4	
	【アカデミック・スキル科目】			
	初年次ゼミ	2		
	プレゼミ	2		
	プレゼンゼミ	2		
	【最先端研究】			
	ゼミナール 1	2		
	ゼミナール 2	2		
	ゼミナール 3	2		
	ゼミナール 4	2		
	卒業論文		6	
	【隣接科目群】			
	＜法律学＞			
	法学 1（法学の基礎）		2	
	法学 2（法学概論）		2	
	民法 1 A（総則）		2	
	民法 1 B（総則）		2	
	民法 2 A（物権）		2	
	民法 2 B（担保物権）		2	
	民法 3 A（債権各論）		2	
	民法 3 B（債権各論）		2	
	民法 4 A（債権総論）		2	
	民法 4 B（債権総論）		2	
	民法 5 A（親族法）		2	
	民法 5 B（相続法）		2	
	行政法 1（総論①）		2	

平成 2 7 年度以前入学生のみ

法学部政治学科

別表（１）

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		行政法 2（総論②）		2	
		行政救済法		2	
		国際法 1		2	
		国際法 2		2	
		国際機構論		2	
		企業法総論		2	
		労働法 1		2	
		労働法 2		2	
		社会保障法		2	
		刑法 1（総論）		2	
		刑法 2（各論）		2	
		会社法 1		2	
		会社法 2		2	
		刑法 3（各論）		2	
		民法 S 1（総則）		2	
		民法 S 2（物権法・担保物権法）		2	
		民法 S 3（債権各論）		2	
		民法 S 4（債権総論）		2	
		International Lectures 1(Law)		1	
		International Lectures 2(Law)		1	
		International Lectures 3(Law)		1	
		International Lectures 4(Law)		1	
		<経済学>			
		ミクロ経済学 1		2	平成 2 7 年度以前入学生のみ
		ミクロ経済学 2		2	
		マクロ経済学 1		2	
		マクロ経済学 2		2	
		財政学 1		2	
		財政学 2		2	
		経済政策論		2	
		経済学 S 1（経済学入門）		2	
		経済学 S 2（ミクロ経済学）		2	
		経済学 S 3（ミクロ経済学）		2	
		経済学 S 4（マクロ経済学）		2	
		経済学 S 5（マクロ経済学）		2	

経済学部経済学科

別表（１）

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
経済学部 経済学科		〔共通科目〕			
		【建学】			
		仏教（生き方を考える）基礎	2		
		仏教（生き方を考える）発展	2		
		【スポーツ・身体】			
		スポーツと身体科学		1	
		フィールド・スポーツ		1	
		【情報】			
		データサイエンス基礎	1		
		人工知能基礎	1		
		メディアリテラシー		1	
		情報技法基礎		1	
		情報技法発展A		1	
		情報技法発展B		1	
		情報技法発展C		1	
		プログラミング基礎		1	
		プログラミング発展A		1	
		プログラミング発展B		1	
		人工知能技術と社会		1	
		機械学習活用1		1	
		機械学習活用2		1	
		データサイエンス活用1		1	
		データサイエンス活用2		1	
		メディアデザイン		1	
		サービスデザイン		1	
		人工知能実践プロジェクト		2	
		【外国語】			
		英語基礎A	2		
		英語基礎B		1	
		英語基礎C	2		
		英語基礎D		1	
		英語発展A		1	
		英語発展B		1	
		英語発展C		1	
		英語発展D		1	
		英語総合A		1	
		英語総合B		1	
		中国語基礎1		1	
		中国語基礎2		1	
		中国語発展1		1	
		中国語発展2		1	
		中国語総合1		1	
		中国語総合2		1	
		フランス語基礎1		1	
		フランス語基礎2		1	
		フランス語発展1		1	

経済学部経済学科

別表（１）

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		フランス語発展 2		1	
		フランス語総合 1		1	
		フランス語総合 2		1	
		ドイツ語基礎 1		1	
		ドイツ語基礎 2		1	
		ドイツ語発展 1		1	
		ドイツ語発展 2		1	
		ドイツ語総合 1		1	
		ドイツ語総合 2		1	
		スペイン語基礎 1		1	
		スペイン語基礎 2		1	
		スペイン語発展 1		1	
		スペイン語発展 2		1	
		スペイン語総合 1		1	
		スペイン語総合 2		1	
		韓国語基礎 1		1	
		韓国語基礎 2		1	
		韓国語発展 1		1	
		韓国語発展 2		1	
		韓国語総合 1		1	
		韓国語総合 2		1	
		留学準備 1		1	
		留学準備 2		1	
		英語資格・検定試験対策 1		1	
		英語資格・検定試験対策 2		1	
		【教養日本語】			
		日本語リテラシー	1		
		日本語基礎 A		1	留学生または日本語を母語としない学生は、外国語科目群の必修科目に代えることができる
		日本語基礎 B		1	
		日本語基礎 C		1	
		日本語基礎 D		1	
		日本語発展 A		1	
		日本語発展 B		1	
		日本語発展 C		1	
		日本語発展 D		1	
		日本事情		2	
		【CHP】			
		SDG s 基礎	1		
		SDG s 発展 1	1		
		SDG s 発展 2	1		
		SDG s 発展 3	1		
		SDG s 特講		2	
		【フィールド・スタディーズ】			
		フィールド・スタディーズ	1		
		フィールド・スタディーズ 1		1	
		フィールド・スタディーズ 2		2	

経済学部経済学科

別表（１）

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		フィールド・スタディーズ 3		3	
		フィールド・スタディーズ 4		4	
		フィールド・スタディーズ発展 1 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 1 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 1 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展 1 D		4	
		フィールド・スタディーズ発展 2 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 2 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 2 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展 2 D		4	
		フィールド・スタディーズ発展 2 E		5	
		フィールド・スタディーズ発展 3 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 3 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 3 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展 3 D		4	
		フィールド・スタディーズ発展 3 E		5	
		フィールド・スタディーズ発展 4 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 4 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 4 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展 4 D		4	
		【インターンシップ】			
		インターンシップ		1	
		企業協働プロジェクト		2	
		【全学教養ゼミナール】			
		全学教養ゼミナール 1		2	
		全学教養ゼミナール 2		2	
		【寄付講座】			
		武蔵野市自由講座		2	
		証券ビジネス論		2	
		〔学科科目〕			
		【基礎科目群】			
		経済学基礎 1		2	
		経済学基礎 2		1	
		初年次ゼミ		1	
		経済学入門		2	
		経済学と数学		1	
		経済学のための数学		2	
		統計学 1		2	
		統計学 2		2	
		データ分析入門		2	
		大学での学び方を考える		1	
		ミクロ経済学入門 1		2	
		ミクロ経済学入門 2		2	
		マクロ経済学入門 1		2	
		マクロ経済学入門 2		2	

別表 (1)

経済
38/121
学則-66

別表 (1)

平成27年度以前入学生のみ

経済学部経済学科

別表（1）

区 分 学 科	授業科目	単位数		備考
		必修	選択	
	政治学原論 2		2	
	日本政治論		2	
	国際政治学 1		2	
	国際政治学 2		2	
	政治学史 1		2	
	政治学史 2		2	
	行政学		2	
	公共政策論 1		2	
	公共政策論 2		2	

経営学部経営学科

別表（1）

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
経営学部 経営学科		〔共通科目〕			
		【建学】			
		仏教（生き方を考える）基礎	2		
		仏教（生き方を考える）発展	2		
		【スポーツ・身体】			
		スポーツと身体科学		1	
		フィールド・スポーツ		1	
		【情報】			
		データサイエンス基礎	1		
		人工知能基礎	1		
		メディアリテラシー		1	
		情報技法基礎		1	
		情報技法発展A		1	
		情報技法発展B		1	
		情報技法発展C		1	
		プログラミング基礎		1	
		プログラミング発展A		1	
		プログラミング発展B		1	
		人工知能技術と社会		1	
		機械学習活用1		1	
		機械学習活用2		1	
		データサイエンス活用1		1	
		データサイエンス活用2		1	
		メディアデザイン		1	
		サービスデザイン		1	
		人工知能実践プロジェクト		2	
		【外国語】			
		英語基礎A	2		
		英語基礎B		1	
		英語基礎C	2		
		英語基礎D		1	
		英語発展A		1	
		英語発展B		1	
		英語発展C		1	
		英語発展D		1	
		英語総合A		1	
		英語総合B		1	
		中国語基礎1		1	
		中国語基礎2		1	
		中国語発展1		1	
		中国語発展2		1	
		中国語総合1		1	
		中国語総合2		1	
		フランス語基礎1		1	
		フランス語基礎2		1	
		フランス語発展1		1	
		フランス語発展2		1	

経営学部経営学科

別表（１）

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		フランス語総合 1		1	
		フランス語総合 2		1	
		ドイツ語基礎 1		1	
		ドイツ語基礎 2		1	
		ドイツ語発展 1		1	
		ドイツ語発展 2		1	
		ドイツ語総合 1		1	
		ドイツ語総合 2		1	
		スペイン語基礎 1		1	
		スペイン語基礎 2		1	
		スペイン語発展 1		1	
		スペイン語発展 2		1	
		スペイン語総合 1		1	
		スペイン語総合 2		1	
		韓国語基礎 1		1	
		韓国語基礎 2		1	
		韓国語発展 1		1	
		韓国語発展 2		1	
		韓国語総合 1		1	
		韓国語総合 2		1	
		留学準備 1		1	
		留学準備 2		1	
		英語資格・検定試験対策 1		1	
		英語資格・検定試験対策 2		1	
		【教養日本語】			
		日本語リテラシー	1		
		日本語基礎 A		1	留学生または日本語を母語としない学生は、外国語科目群の必修科目に代えることができる
		日本語基礎 B		1	
		日本語基礎 C		1	
		日本語基礎 D		1	
		日本語発展 A		1	
		日本語発展 B		1	
		日本語発展 C		1	
		日本語発展 D		1	
		日本事情		2	
		【CHP】			
		SDG s 基礎	1		
		SDG s 発展 1	1		
		SDG s 発展 2	1		
		SDG s 発展 3	1		
		SDG s 特講		2	
		【フィールド・スタディーズ】			
		フィールド・スタディーズ	1		
		フィールド・スタディーズ 1		1	
		フィールド・スタディーズ 2		2	
		フィールド・スタディーズ 3		3	
		フィールド・スタディーズ 4		4	

経営学部経営学科

別表（1）

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		フィールド・スタディーズ発展 1 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 1 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 1 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展 1 D		4	
		フィールド・スタディーズ発展 2 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 2 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 2 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展 2 D		4	
		フィールド・スタディーズ発展 2 E		5	
		フィールド・スタディーズ発展 3 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 3 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 3 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展 3 D		4	
		フィールド・スタディーズ発展 3 E		5	
		フィールド・スタディーズ発展 4 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 4 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 4 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展 4 D		4	
		【インターンシップ】			
		インターンシップ		1	
		企業協働プロジェクト		2	
		【全学教養ゼミナール】			
		全学教養ゼミナール 1		2	
		全学教養ゼミナール 2		2	
		【寄付講座】			
		武蔵野市自由講座		2	
		証券ビジネス論		2	
		〔学科科目〕			
		【基礎科目群】			
		経営学入門	2		
		経営学基礎	2		
		経営学への招待	2		
		経営フィールドワーク入門	2		
		グループコミュニケーション 1 A	2		
		グループコミュニケーション 1 B	2		
		戦略データ分析 1		2	
		研究調査のための I C T 基礎		2	
		会計学入門		2	
		経済学入門		2	
		【基幹科目群】			
		経営文献講読 A	1		
		経営文献講読 B	1		
		経営戦略 1		2	
		経営戦略 2		2	
		イノベーションマネジメント		2	

経営学部経営学科

別表(1)

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		マーケティング1		2	30単位以上選択必修
		マーケティング2		2	
		流通経済		2	
		組織行動		2	
		経営組織		2	
		組織と人のマネジメント		2	
		セルフマネジメント		2	
		ダイバーシティマネジメント		2	
		経営のための会計入門		2	
		財務会計1		2	
		財務会計2		2	
		中小企業マネジメント		2	
		経営史		2	
		企業経営とESG		2	
		質的研究調査の方法		2	
		量的研究調査の方法		2	
		戦略データ分析2		2	
		アート&テクノロジーA		2	
		アート&テクノロジーB		2	
		グループコミュニケーション2A		2	
		グループコミュニケーション2B		2	
		ワールドビジネス		2	
		【展開科目群】			8単位以上選択必修
		発展・経営戦略A		2	
		発展・経営戦略B		2	
		発展・イノベーションマネジメント		2	
		発展・マーケティングA		2	
		発展・マーケティングB		2	
		発展・流通経済		2	
		発展・組織行動		2	
		組織コミュニケーション		2	
		組織デザイン		2	
		コンフリクトマネジメント		2	
		人材マネジメント		2	
		キャリアマネジメントA		2	
		キャリアマネジメントB		2	
		キャリアマネジメントC		2	
		経営管理と会計		2	
		企業経営とファイナンス		2	
		発展・中小企業マネジメント		2	
		ビジネスデザイン		2	
		経営者と社会課題		2	
		発展・企業経営とESG		2	
		発展・戦略データ分析		2	
		エリア・観光研究		2	
		観光とホスピタリティ		2	
		観光交通		2	
		エリアマネジメント		2	
		エリア産業		2	

経営学部経営学科

別表（1）

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		エリアガバナンス		2	
		グローバルマネジメント		2	
		ビジネスイングリッシュ		2	
		経営学と未来		2	
		経営フィールドワーク A		2	
		経営フィールドワーク B		2	
		International Lectures 1[Biz]		1	
		International Lectures 2[Biz]		1	
		International Lectures 3[Biz]		1	
		International Lectures 4[Biz]		1	
		経営特別講義 A		2	
		経営特別講義 B		2	
		【応用科目群】			
		経営学の最前線 1 A		2	隔年開講
		経営学の最前線 1 B		2	隔年開講
		経営学の最前線 2 A		2	隔年開講
		経営学の最前線 2 B		2	隔年開講
		【最先端研究】			
		ゼミナール 1	2		
		ゼミナール 2	2		
		経営研究		2	
		ゼミナール 3	2		
		ゼミナール 4	2		
		卒業研究		4	

経営学部会計ガバナンス学科

別表（1）

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
経営学部 会計ガバナンス 学科		〔共通科目〕			
		【建学】			
		仏教（生き方を考える）基礎	2		
		仏教（生き方を考える）発展	2		
		【スポーツ・身体】			
		スポーツと身体科学		1	
		フィールド・スポーツ		1	
		【情報】			
		データサイエンス基礎	1		
		人工知能基礎	1		
		メディアリテラシー		1	
		情報技法基礎		1	
		情報技法発展A		1	
		情報技法発展B		1	
		情報技法発展C		1	
		プログラミング基礎		1	
		プログラミング発展A		1	
		プログラミング発展B		1	
		人工知能技術と社会		1	
		機械学習活用1		1	
		機械学習活用2		1	
		データサイエンス活用1		1	
		データサイエンス活用2		1	
		メディアデザイン		1	
		サービスデザイン		1	
		人工知能実践プロジェクト		2	
		【外国語】			
		英語基礎A	2		
		英語基礎B		1	
		英語基礎C	2		
		英語基礎D		1	
		英語発展A		1	
		英語発展B		1	
		英語発展C		1	
		英語発展D		1	
		英語総合A		1	
		英語総合B		1	
		中国語基礎1		1	
		中国語基礎2		1	
		中国語発展1		1	
		中国語発展2		1	
		中国語総合1		1	
		中国語総合2		1	
		フランス語基礎1		1	
		フランス語基礎2		1	
		フランス語発展1		1	
		フランス語発展2		1	

経営学部会計ガバナンス学科

別表(1)

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		フランス語総合1		1	
		フランス語総合2		1	
		ドイツ語基礎1		1	
		ドイツ語基礎2		1	
		ドイツ語発展1		1	
		ドイツ語発展2		1	
		ドイツ語総合1		1	
		ドイツ語総合2		1	
		スペイン語基礎1		1	
		スペイン語基礎2		1	
		スペイン語発展1		1	
		スペイン語発展2		1	
		スペイン語総合1		1	
		スペイン語総合2		1	
		韓国語基礎1		1	
		韓国語基礎2		1	
		韓国語発展1		1	
		韓国語発展2		1	
		韓国語総合1		1	
		韓国語総合2		1	
		留学準備1		1	
		留学準備2		1	
		英語資格・検定試験対策1		1	
		英語資格・検定試験対策2		1	
		【教養日本語】			
		日本語リテラシー	1		
		日本語基礎A		1	留学生または日本語を母語としない学生は、外国語科目群の必修科目に代えることができる
		日本語基礎B		1	
		日本語基礎C		1	
		日本語基礎D		1	
		日本語発展A		1	
		日本語発展B		1	
		日本語発展C		1	
		日本語発展D		1	
		日本事情		2	
		【CHP】			
		SDG s 基礎	1		
		SDG s 発展1	1		
		SDG s 発展2	1		
		SDG s 発展3	1		
		SDG s 特講		2	
		【フィールド・スタディーズ】			
		フィールド・スタディーズ	1		
		フィールド・スタディーズ1		1	
		フィールド・スタディーズ2		2	
		フィールド・スタディーズ3		3	
		フィールド・スタディーズ4		4	

経営学部会計ガバナンス学科

別表（1）

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		フィールド・スタディーズ発展 1 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 1 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 1 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展 1 D		4	
		フィールド・スタディーズ発展 2 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 2 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 2 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展 2 D		4	
		フィールド・スタディーズ発展 2 E		5	
		フィールド・スタディーズ発展 3 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 3 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 3 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展 3 D		4	
		フィールド・スタディーズ発展 3 E		5	
		フィールド・スタディーズ発展 4 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 4 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 4 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展 4 D		4	
		【インターンシップ】			
		インターンシップ		1	
		企業協働プロジェクト		2	
		【全学教養ゼミナール】			
		全学教養ゼミナール 1		2	
		全学教養ゼミナール 2		2	
		【寄付講座】			
		武蔵野市自由講座		2	
		証券ビジネス論		2	
		〔学科科目〕			
		【基礎科目群】			
		会計人と倫理	4		
		簿記入門 1	2		
		簿記入門 2	2		
		会計学入門	2		
		経営学入門		2	
		経済学入門		2	
		租税法入門		2	
		【基幹科目群】			
		会計人のための法学 1		2	
		会計人のための法学 2		2	
		会計人のための統計学		2	
		会計人のための経営学		2	
		スタンダード商業簿記 1		2	
		スタンダード商業簿記 2		2	
		スタンダード工業簿記 1		2	
		スタンダード工業簿記 2		2	

経営学部会計ガバナンス学科

別表（1）

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		アドバンス商業簿記 1		2	
		アドバンス商業簿記 2		2	
		アドバンス工業簿記 1		2	
		アドバンス工業簿記 2		2	
		原価計算 1		2	
		原価計算 2		2	
		財務会計 1		2	
		財務会計 2		2	
		管理会計 1		2	
		管理会計 2		2	
		金融論 1		2	
		金融論 2		2	
		コーポレート・ガバナンス論 1		2	
		【展開科目群】			
		応用簿記 1		2	
		応用簿記 2		2	
		財務会計 3		2	
		財務諸表分析 1		2	
		財務諸表分析 2		2	
		連結会計		2	
		管理会計 3		2	
		コーポレート・ファイナンス論		2	
		財務会計応用		2	
		監査論		2	
		非営利会計論 1		2	
		非営利会計論 2		2	
		公会計論		2	
		租税法 1		2	
		租税法 2		2	
		税務会計 1		2	
		税務会計 2		2	
		コーポレート・ガバナンス論 2		2	
		ディスクロージャー論		2	
		会計データ分析 1		2	
		会計データ分析 2		2	
		会計データ分析 3		2	
		会計キャリア研究 1		1	
		会計キャリア研究 2		1	
		フィナンシャル・プランニング論 1		2	
		フィナンシャル・プランニング論 2		2	
		金融システム論		2	
		日本経済論		2	
		税理士による租税講座		2	
		【応用科目群】			
		会計学特殊研究 A		2	
		会計学特殊研究 B		2	
		会計学特殊研究 C		2	
		会計学特殊研究 D		2	

経営学部会計ガバナンス学科

別表（1）

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		会計学特殊研究E		2	
		【課題研究】			
		プレゼミ 1	2		
		プレゼミ 2	2		
		ゼミナール 1	2		
		ゼミナール 2	2		
		ゼミナール 3	2		
		ゼミナール 4	2		
		卒業論文		4	
		【資格科目群】			
		地方公務員特殊研究 1		4	
		地方公務員特殊研究 2		4	
		地方公務員特殊研究 3		4	
		地方公務員特殊研究 4		4	
		民法 S 1（総則）		2	
		民法 S 2（物権法・担保物権法）		2	
		民法 S 3（債権各論）		2	
		民法 S 4（債権総論）		2	
		経済学 S 1（経済学入門）		2	
		経済学 S 2（ミクロ経済学）		2	
		経済学 S 3（ミクロ経済学）		2	
		経済学 S 4（マクロ経済学）		2	
		経済学 S 5（マクロ経済学）		2	
		キャリア開発		2	

アントレプレナーシップ学部アントレプレナーシップ学科
別表（１）

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
アントレプレナーシップ 学部		〔共通科目〕			
アントレプレナーシップ 学科		【建学】			
		仏教（生き方を考える）基礎	2		
		仏教（生き方を考える）発展	2		
		【スポーツ・身体】			
		スポーツと身体科学		1	
		フィールド・スポーツ		1	
		【情報】			
		データサイエンス基礎	1		
		人工知能基礎	1		
		メディアリテラシー		1	
		情報技法基礎	1		
		情報技法発展A		1	
		情報技法発展B		1	
		情報技法発展C		1	
		プログラミング基礎	1		
		プログラミング発展A		1	
		プログラミング発展B		1	
		人工知能技術と社会		1	
		機械学習活用 1		1	
		機械学習活用 2		1	
		データサイエンス活用 1		1	
		データサイエンス活用 2		1	
		メディアデザイン		1	
		サービスデザイン		1	
		人工知能実践プロジェクト		2	
		【外国語】			
		英語基礎A	2		
		英語基礎B		1	
		英語基礎C	2		
		英語基礎D		1	
		英語発展A		1	
		英語発展B		1	
		英語発展C		1	
		英語発展D		1	
		英語総合A		1	
		英語総合B		1	

アントレプレナーシップ学部アントレプレナーシップ学科
別表（１）

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		中国語基礎 1		1	
		中国語基礎 2		1	
		中国語発展 1		1	
		中国語発展 2		1	
		中国語総合 1		1	
		中国語総合 2		1	
		フランス語基礎 1		1	
		フランス語基礎 2		1	
		フランス語発展 1		1	
		フランス語発展 2		1	
		フランス語総合 1		1	
		フランス語総合 2		1	
		ドイツ語基礎 1		1	
		ドイツ語基礎 2		1	
		ドイツ語発展 1		1	
		ドイツ語発展 2		1	
		ドイツ語総合 1		1	
		ドイツ語総合 2		1	
		スペイン語基礎 1		1	
		スペイン語基礎 2		1	
		スペイン語発展 1		1	
		スペイン語発展 2		1	
		スペイン語総合 1		1	
		スペイン語総合 2		1	
		韓国語基礎 1		1	
		韓国語基礎 2		1	
		韓国語発展 1		1	
		韓国語発展 2		1	
		韓国語総合 1		1	
		韓国語総合 2		1	
		留学準備 1		1	
		留学準備 2		1	
		英語資格・検定試験対策 1		1	
		英語資格・検定試験対策 2		1	
		【教養日本語】			
		日本語リテラシー	1		

アントレプレナーシップ学部アントレプレナーシップ学科

別表（1）

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		日本語基礎 A		1	留学生または日本語を母語としない学生は、外国語科目群の必修科目に代えることができる
		日本語基礎 B		1	
		日本語基礎 C		1	
		日本語基礎 D		1	
		日本語発展 A		1	
		日本語発展 B		1	
		日本語発展 C		1	
		日本語発展 D		1	
		日本事情		2	
		【CHP】			
		SDG s 基礎	1		
		SDG s 発展 1	1		
		SDG s 発展 2	1		
		SDG s 発展 3	1		
		SDG s 特講		2	
		【フィールド・スタディーズ】			
		フィールド・スタディーズ	1		
		フィールド・スタディーズ 1		1	
		フィールド・スタディーズ 2		2	
		フィールド・スタディーズ 3		3	
		フィールド・スタディーズ 4		4	
		フィールド・スタディーズ発展 1 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 1 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 1 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展 1 D		4	
		フィールド・スタディーズ発展 2 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 2 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 2 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展 2 D		4	
		フィールド・スタディーズ発展 2 E		5	
		フィールド・スタディーズ発展 3 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 3 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 3 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展 3 D		4	
		フィールド・スタディーズ発展 3 E		5	
		フィールド・スタディーズ発展 4 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 4 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 4 C		3	

アントレプレナーシップ学部アントレプレナーシップ学科

別表（１）

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		フィールド・スタディーズ発展４Ｄ		4	
		【インターンシップ】			
		インターンシップ		1	
		企業協働プロジェクト		2	
		【全学教養ゼミナール】			
		全学教養ゼミナール１		2	
		全学教養ゼミナール２		2	
		【寄付講座】			
		武蔵野市自由講座		2	
		証券ビジネス論		2	
		〔学科科目〕			
		【マインド科目】			
		キャリアデザイン１	1		
		キャリアデザイン２	1		
		キャリアデザイン３		1	1 単位選択必修
		幸福学		1	
		好奇心醸成		1	
		未来構想	1		
		事業と哲学	2		
		倫理観１	1		
		倫理観２	1		
		女性とアントレプレナーシップ		1	2 単位選択必修
		政治と社会		1	
		地域課題と事業創造		1	
		デザインと事業創造		1	
		科学技術と事業創造		1	
		グローバルアントレプレナー（海外研修）	1		
		情報編集力	1		
		アントレプレナーシップ１Ａ	1		
		アントレプレナーシップ１Ｂ	1		
		アントレプレナーシップ２Ａ	1		
		アントレプレナーシップ２Ｂ	1		
		アントレプレナーシップ２Ｃ	1		
		アントレプレナーシップ２Ｄ	1		
		アントレプレナーシップ３Ａ	1		
		アントレプレナーシップ３Ｂ	1		

アントレプレナーシップ学部アントレプレナーシップ学科

別表（1）

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		アントレプレナーシップ 3 C	1		
		アントレプレナーシップ 3 D	1		
		アントレプレナーシップ 4 A	1		
		アントレプレナーシップ 4 B	1		
		アントレプレナーシップ 4 C	1		
		アントレプレナーシップ 4 D	1		
		【事業推進科目】			
		クリティカルシンキング基礎	2		
		クリティカルシンキング 1		2	} 2 単位選択必修
		クリティカルシンキング 2		2	
		課題解決プロセス 1		1	} 1 単位選択必修
		課題解決プロセス 2		1	
		ビジネスモデル研究基礎	1		
		インターネットビジネス基礎	1		
		領域別 T e c h 研究 A		1	} 2 単位選択必修
		領域別 T e c h 研究 B		1	
		領域別 T e c h 研究 C		1	
		領域別 T e c h 研究 D		1	
		アフターデジタルの課題解決	1		
		事業計画 A		2	} 2 単位選択必修
		事業計画 B		2	
		プロトタイピング A		1	} 1 単位選択必修
		プロトタイピング B		1	
		コミュニケーション基礎		1	
		コーチング		1	} 1 単位選択必修
		プレゼンテーション		1	
		チーム・プロジェクトマネジメント		1	
		ファイナンス・アカウンティング基礎		1	
		ファイナンス A	1		コミュニケーション基礎、ファイナンス・アカウンティング基礎、リーガル基礎、マーケティング基礎から 2 単位選択必修
		ファイナンス B	1		
		リーガル基礎	1		
		マーケティング基礎	1		
		マーケティング A	1		} 1 単位選択必修
		マーケティング B	1		
		マーケティング C	1		
		グローバルマネジメント	1		
		リーダーシップとマネジメント	1		
		組織・人事マネジメント	1		

アントレプレナーシップ学部アントレプレナーシップ学科
別表（１）

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		【実践科目】			
		プロジェクト入門	1		
		インターンシップ（領域別 T e c h 研究）	1		
		インターンシップ A		2	
		インターンシップ B		3	
		インターンシップ C		4	
		プロジェクト基礎 A	2		
		プロジェクト基礎 B	2		
		プロジェクト基礎 C	2		
		プロジェクト応用 A	4		
		プロジェクト応用 B	4		
		プロジェクト発展 A	4		
		プロジェクト発展 B	4		
		プロジェクト発展 C	4		
		プロジェクト発展 D	4		
		プロジェクト発展 E		1	
		プロジェクト発展 F		2	
		プロジェクト発展 G		3	
		プロジェクト発展 H		4	
		【ゼミナール科目】			
		ゼミナール 1	2		
		ゼミナール 2	2		
		ゼミナール 3	2		
		ゼミナール 4		2	
		ゼミナール 5		2	

データサイエンス学部データサイエンス学科

別表（１）

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
データサイエンス学部 データサイエンス学科		【共通科目】			
		【建学】			
		仏教（生き方を考える）基礎	2		
		仏教（生き方を考える）発展	2		
		【スポーツ・身体】			
		スポーツと身体科学		1	
		フィールド・スポーツ		1	
		【情報】			
		データサイエンス基礎	1		
		人工知能基礎	1		
		メディアリテラシー		1	
		情報技法基礎		1	
		情報技法発展A		1	
		情報技法発展B		1	
		情報技法発展C		1	
		プログラミング基礎		1	
		プログラミング発展A		1	
		プログラミング発展B		1	
		人工知能技術と社会		1	
		機械学習活用1		1	
		機械学習活用2		1	
		データサイエンス活用1		1	
		データサイエンス活用2		1	
		メディアデザイン		1	
		サービスデザイン		1	
		人工知能実践プロジェクト		2	
		【外国語】			
		英語基礎A	2		
		英語基礎B		1	
		英語基礎C	2		
		英語基礎D		1	
		英語発展A		1	
		英語発展B		1	
		英語発展C		1	
		英語発展D		1	
		英語総合A		1	
		英語総合B		1	
		中国語基礎1		1	
		中国語基礎2		1	
		中国語発展1		1	
		中国語発展2		1	
		中国語総合1		1	
		中国語総合2		1	
		フランス語基礎1		1	
		フランス語基礎2		1	
		フランス語発展1		1	
		フランス語発展2		1	
		フランス語総合1		1	
		フランス語総合2		1	
		ドイツ語基礎1		1	

データサイエンス学部データサイエンス学科

別表（１）

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		ドイツ語基礎 2		1	
		ドイツ語発展 1		1	
		ドイツ語発展 2		1	
		ドイツ語総合 1		1	
		ドイツ語総合 2		1	
		スペイン語基礎 1		1	
		スペイン語基礎 2		1	
		スペイン語発展 1		1	
		スペイン語発展 2		1	
		スペイン語総合 1		1	
		スペイン語総合 2		1	
		韓国語基礎 1		1	
		韓国語基礎 2		1	
		韓国語発展 1		1	
		韓国語発展 2		1	
		韓国語総合 1		1	
		韓国語総合 2		1	
		留学準備 1		1	
		留学準備 2		1	
		英語資格・検定試験対策 1		1	
		英語資格・検定試験対策 2		1	
		【教養日本語】			
		日本語リテラシー	1		
		日本語基礎 A		1	留学生または日本語を母語としない学生は、外国語科目群の必修科目に代えることができる
		日本語基礎 B		1	
		日本語基礎 C		1	
		日本語基礎 D		1	
		日本語発展 A		1	
		日本語発展 B		1	
		日本語発展 C		1	
		日本語発展 D		1	
		日本事情		2	
		【CHP】			
		SDG s 基礎	1		
		SDG s 発展 1	1		
		SDG s 発展 2	1		
		SDG s 発展 3	1		
		SDG s 特講		2	
		【フィールド・スタディーズ】			
		フィールド・スタディーズ	1		
		フィールド・スタディーズ 1		1	
		フィールド・スタディーズ 2		2	
		フィールド・スタディーズ 3		3	
		フィールド・スタディーズ 4		4	
		フィールド・スタディーズ発展 1 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 1 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 1 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展 1 D		4	
		フィールド・スタディーズ発展 2 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 2 B		2	

データサイエンス学部データサイエンス学科

別表（1）

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		フィールド・スタディーズ発展 2 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展 2 D		4	
		フィールド・スタディーズ発展 2 E		5	
		フィールド・スタディーズ発展 3 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 3 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 3 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展 3 D		4	
		フィールド・スタディーズ発展 3 E		5	
		フィールド・スタディーズ発展 4 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 4 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 4 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展 4 D		4	
		【インターンシップ】			
		インターンシップ		1	
		企業協働プロジェクト		2	
		【全学教養ゼミナール】			
		全学教養ゼミナール 1		2	
		全学教養ゼミナール 2		2	
		【寄付講座】			
		武蔵野市自由講座		2	
		証券ビジネス論		2	
		〔学科科目〕			
		【専門共通科目】			
		データサイエンス学		2	
		人類と人工知能（AI）		2	
		メディアクリエーション・データデザインⅠ		2	
		メディアクリエーション・データデザインⅡ		2	
		データサイエンスプログラミングⅠ		2	
		データサイエンスプログラミングⅡ		2	
		データと数理Ⅰ		2	
		データと数理Ⅱ		2	
		データと経済統計		2	
		データと計量経済学		2	
		ソーシャルイノベーションの起こし方		2	
		サイバーフィジカルシステム		2	
		機械学習と深層学習		2	
		Webエンジニアリングと社会		2	
		機械学習デザインⅠ		2	
		機械学習デザインⅡ		2	
		人工知能(AI)テクノロジーデザインⅠ		2	
		人工知能(AI)テクノロジーデザインⅡ		2	
		データサイエンス特論		2	

データサイエンス学部データサイエンス学科
別表(1)

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		情報経済特論	2		
		データマイニング	2		
		データベースデザイン	2		
		ビジネスモデル創出	2		
		【専門コース科目】			
		＜AIクリエイション・コース＞			
		人工知能(AI)テクノロジーデプロイメント		2	
		マルチメディア知識ベース		2	
		ロボティクス・IoT		2	
		サイバーセキュリティと人工知能(AI)		2	
		バーチャルリアリティ		2	
		＜AIアルゴリズムデザイン・コース＞			
		機械学習アルゴリズムデザイン		2	
		画像・音声認識システム		2	
		テキストマイニング		2	
		時空間データベース		2	
		リアルワールド解析シミュレータ		2	
		＜ソーシャルイノベーション・コース＞			
		人工知能(AI)社会の情報倫理		2	
		社会・環境デザイン・フィールドワーク		2	
		グローバル・ビジネス・ガバナンス		2	
		テクノロジマネジメント		2	
		マーケティングデータ分析		2	
		【専門デプロイメントコース科目】			
		専門デプロイメントコースⅠ(人工知能(AI) クリエーション)		2	} 2科目4単位選択必修
		専門デプロイメントコースⅡ(人工知能(AI) アルゴリズムデザイン)		2	
		専門デプロイメントコースⅢ(ソーシャルイノベーション)		2	
		【社会連携型教育】			
		社会連携活動概論	1		
		データサイエンス社会実習学習A(短期)		1	
		データサイエンス社会実習学習B(短期)		1	
		データサイエンス社会実習学習(中期)		2	
		データサイエンス社会実習学習(長期)		3	
		データサイエンス社会実習学習(海外)		4	
		【プロジェクト型科目】			
		未来創造PJ-AⅠ		4	
		未来創造PJ-BⅠ		2	
		未来創造PJ-AⅡ		4	
		未来創造PJ-BⅡ		2	
		未来創造PJ-AⅢ		4	
		未来創造PJ-BⅢ		2	
		未来創造PJ-AⅣ		4	
		未来創造PJ-BⅣ		2	
		卒業論文創成課題	4		
		卒業論文Ⅰ	4		
		卒業論文Ⅱ	4		

人間科学部人間科学科

別表（1）

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
人間科学部 人間科学科		〔共通科目〕			
		【建学】			
		仏教（生き方を考える）基礎	2		
		仏教（生き方を考える）発展	2		
		【スポーツ・身体】			
		スポーツと身体科学		1	
		フィールド・スポーツ		1	
		【情報】			
		データサイエンス基礎	1		
		人工知能基礎	1		
		メディアリテラシー		1	
		情報技法基礎		1	
		情報技法発展A		1	
		情報技法発展B		1	
		情報技法発展C		1	
		プログラミング基礎		1	
		プログラミング発展A		1	
		プログラミング発展B		1	
		人工知能技術と社会		1	
		機械学習活用1		1	
		機械学習活用2		1	
		データサイエンス活用1		1	
		データサイエンス活用2		1	
		メディアデザイン		1	
		サービスデザイン		1	
		人工知能実践プロジェクト		2	
		【外国語】			
		英語基礎A	2		
		英語基礎B		1	
		英語基礎C	2		
		英語基礎D		1	
		英語発展A		1	
		英語発展B		1	
		英語発展C		1	
		英語発展D		1	
		英語総合A		1	
		英語総合B		1	
		中国語基礎1		1	
		中国語基礎2		1	
		中国語発展1		1	
		中国語発展2		1	
		中国語総合1		1	
		中国語総合2		1	
		フランス語基礎1		1	
		フランス語基礎2		1	
		フランス語発展1		1	

人間科学部人間科学科

別表（1）

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		フランス語発展 2		1	
		フランス語総合 1		1	
		フランス語総合 2		1	
		ドイツ語基礎 1		1	
		ドイツ語基礎 2		1	
		ドイツ語発展 1		1	
		ドイツ語発展 2		1	
		ドイツ語総合 1		1	
		ドイツ語総合 2		1	
		スペイン語基礎 1		1	
		スペイン語基礎 2		1	
		スペイン語発展 1		1	
		スペイン語発展 2		1	
		スペイン語総合 1		1	
		スペイン語総合 2		1	
		韓国語基礎 1		1	
		韓国語基礎 2		1	
		韓国語発展 1		1	
		韓国語発展 2		1	
		韓国語総合 1		1	
		韓国語総合 2		1	
		留学準備 1		1	
		留学準備 2		1	
		英語資格・検定試験対策 1		1	
		英語資格・検定試験対策 2		1	
		【教養日本語】			
		日本語リテラシー	1		
		日本語基礎 A		1	留学生または日本語を母語としない学生は、外国語科目群の必修科目に代えることができる
		日本語基礎 B		1	
		日本語基礎 C		1	
		日本語基礎 D		1	
		日本語発展 A		1	
		日本語発展 B		1	
		日本語発展 C		1	
		日本語発展 D		1	
		日本事情		2	
		【CHP】			
		SDG s 基礎	1		
		SDG s 発展 1	1		
		SDG s 発展 2	1		
		SDG s 発展 3	1		
		SDG s 特講		2	
		【フィールド・スタディーズ】			
		フィールド・スタディーズ	1		
		フィールド・スタディーズ 1		1	
		フィールド・スタディーズ 2		2	

人間科学部人間科学科

別表（1）

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		フィールド・スタディーズ 3		3	
		フィールド・スタディーズ 4		4	
		フィールド・スタディーズ発展 1 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 1 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 1 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展 1 D		4	
		フィールド・スタディーズ発展 2 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 2 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 2 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展 2 D		4	
		フィールド・スタディーズ発展 2 E		5	
		フィールド・スタディーズ発展 3 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 3 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 3 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展 3 D		4	
		フィールド・スタディーズ発展 3 E		5	
		フィールド・スタディーズ発展 4 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 4 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 4 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展 4 D		4	
		【インターンシップ】			
		インターンシップ		1	
		企業協働プロジェクト		2	
		【全学教養ゼミナール】			
		全学教養ゼミナール 1		2	
		全学教養ゼミナール 2		2	
		【寄付講座】			
		武蔵野市自由講座		2	
		証券ビジネス論		2	
		【学科科目】			
		【学科基礎科目】			
		人間学入門	2		
		人間科学基礎	2		
		人間論基礎	2		
		基礎ゼミ 1	1		
		基礎ゼミ 2	1		
		心理学概論Ⅰ	2		
		心理学概論Ⅱ	2		
		心理学研究法		2	
		心理学統計法		2	
		メンタルヘルス論Ⅰ	2		
		メンタルヘルス論Ⅱ		2	
		対人コミュニケーション論		2	
		【人間学基幹科目群】			

人間科学部人間科学科

別表（1）

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		論理学		2	【人間学基幹科目群】の中から8単位選択必修
		ロジカルシンキング		2	
		東洋思想論 1		2	
		東洋思想論 2		2	
		西洋思想論 1		2	
		西洋思想論 2		2	
		平和学		2	
		宗教学概論		2	
		死生学		2	
		【臨床心理科目群】			
		心理学実験 1		2	
		心理学実験 2		2	
		知覚・認知心理学	2		
		感情・人格心理学		2	
		学習・言語心理学		2	
		臨床心理学概論	2		
		発達心理学 1	2		
		発達心理学 2		2	
		人格心理学		2	
		司法・犯罪心理学 1		2	
		司法・犯罪心理学 2		2	
		教育・学校心理学		2	
		家族心理学		2	
		心理的アセスメント		2	
		心理療法論（心理学的支援法）		2	
		臨床心理学特殊演習		2	
		精神分析学		2	
		英語文献研究		2	
		カウンセリング演習		1	
		心理演習		1	
		公認心理師の職責		2	
		心理実習 1		1	
		心理実習 2		1	
		【産業・社会科目群】			
		社会学	2		
		地域社会学		2	
		家族社会学		2	
		社会調査法		2	
		社会調査実習		2	
		社会・集団・家族心理学	2		
		社会心理学		2	
		対人行動論 1	2		
		対人行動論 2		2	
		産業・組織心理学		2	
		集団心理学		2	
		産業カウンセリング論		2	
		コミュニティ心理学		2	

人間科学部人間科学科

別表（１）

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		文化心理学		2	
		マスコミュニケーション論		2	
		社会保障Ⅰ		2	
		社会保障Ⅱ		2	
		地域福祉論Ⅰ		2	
		地域福祉論Ⅱ		2	
		権利擁護を支える法制度		2	
		社会福祉の原理と政策Ⅰ		2	
		社会福祉の原理と政策Ⅱ		2	
		関係行政論		2	
		刑事司法と福祉		2	
		【生命・健康科学科目群】			
		生命科学１	2		
		生命科学２		2	
		生命科学実験演習１		1	
		生命科学実験演習２		1	
		自然人類学１	2		
		自然人類学２		2	
		生理実験演習１		1	
		生理実験演習２		1	
		脳と心１		2	
		脳と心２		2	
		心理統計法演習		2	
		健康・医療心理学	2		
		健康科学		2	
		精神医学(精神疾患とその治療)Ⅰ		2	
		精神医学(精神疾患とその治療)Ⅱ		2	
		医学知識（人体の構造と機能及び疾病）		2	
		心身医学		2	
		障害者・障害児心理学		2	
		福祉心理学		2	
		神経・生理心理学		2	
		スポーツ心理学		2	
		生体適応論		2	
		【精神保健福祉科目群】			
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ		2	
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ		2	
		精神障害リハビリテーション論		2	
		精神保健福祉の原理Ⅰ		2	
		精神保健福祉の原理Ⅱ		2	
		精神保健福祉制度論		2	
		ソーシャルワーク論		2	
		ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅰ		2	

人間科学部人間科学科

別表（１）

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅱ		2	
		ソーシャルワーク演習		1	
		ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ		1	
		ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱ		1	
		ソーシャルワーク演習(専門)Ⅲ		1	
		ソーシャルワーク実習指導Ⅰ		1	
		ソーシャルワーク実習指導Ⅱ		2	
		ソーシャルワーク実習		4	
		障害者福祉論		2	
		【人間論演習】			
		人間論演習 1	1		
		人間論演習 2	1		
		【フィールド・スタディーズ発展（学科）】			
		フィールド・スタディーズ発展 1（人間科学）		3	
		フィールド・スタディーズ発展 2（人間科学）		3	
		【総合科目】			
		人間科学プロジェクト 1		2	
		人間科学プロジェクト 2		2	
		総合研究 1		2	
		総合研究 2		2	
		International Lectures(Human Sciences)1		1	
		International Lectures(Human Sciences)2		1	
		【卒業研究】			
		卒業論文	2		
		卒業論文演習 1	1		
		卒業論文演習 2	1		

人間科学部社会福祉学科

別表（１）

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
人間科学部 社会福祉学科		【共通科目】			
		【建学】			
		仏教（生き方を考える）基礎	2		
		仏教（生き方を考える）発展	2		
		【スポーツ・身体】			
		スポーツと身体科学		1	
		フィールド・スポーツ		1	
		【情報】			
		データサイエンス基礎	1		
		人工知能基礎	1		
		メディアリテラシー		1	
		情報技法基礎		1	
		情報技法発展A		1	
		情報技法発展B		1	
		情報技法発展C		1	
		プログラミング基礎		1	
		プログラミング発展A		1	
		プログラミング発展B		1	
		人工知能技術と社会		1	
		機械学習活用1		1	
		機械学習活用2		1	
		データサイエンス活用1		1	
		データサイエンス活用2		1	
		メディアデザイン		1	
		サービスデザイン		1	
		人工知能実践プロジェクト		2	
		【外国語】			
		英語基礎A	2		
		英語基礎B		1	
		英語基礎C	2		
		英語基礎D		1	
		英語発展A		1	
		英語発展B		1	
		英語発展C		1	
		英語発展D		1	
		英語総合A		1	
		英語総合B		1	
		中国語基礎1		1	
		中国語基礎2		1	
		中国語発展1		1	
		中国語発展2		1	
		中国語総合1		1	
		中国語総合2		1	
		フランス語基礎1		1	
		フランス語基礎2		1	
		フランス語発展1		1	

人間科学部社会福祉学科

別表（１）

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		フランス語発展 2		1	
		フランス語総合 1		1	
		フランス語総合 2		1	
		ドイツ語基礎 1		1	
		ドイツ語基礎 2		1	
		ドイツ語発展 1		1	
		ドイツ語発展 2		1	
		ドイツ語総合 1		1	
		ドイツ語総合 2		1	
		スペイン語基礎 1		1	
		スペイン語基礎 2		1	
		スペイン語発展 1		1	
		スペイン語発展 2		1	
		スペイン語総合 1		1	
		スペイン語総合 2		1	
		韓国語基礎 1		1	
		韓国語基礎 2		1	
		韓国語発展 1		1	
		韓国語発展 2		1	
		韓国語総合 1		1	
		韓国語総合 2		1	
		留学準備 1		1	
		留学準備 2		1	
		英語資格・検定試験対策 1		1	
		英語資格・検定試験対策 2		1	
		【教養日本語】			
		日本語リテラシー	1		
		日本語基礎 A		1	留学生または日本語を母語としない学生は、外国語科目群の必修科目に代えることができる
		日本語基礎 B		1	
		日本語基礎 C		1	
		日本語基礎 D		1	
		日本語発展 A		1	
		日本語発展 B		1	
		日本語発展 C		1	
		日本語発展 D		1	
		日本事情		2	
		【CHP】			
		SDG s 基礎	1		
		SDG s 発展 1	1		
		SDG s 発展 2	1		
		SDG s 発展 3	1		
		SDG s 特講		2	
		【フィールド・スタディーズ】			
		フィールド・スタディーズ	1		
		フィールド・スタディーズ 1		1	
		フィールド・スタディーズ 2		2	

人間科学部社会福祉学科

別表（１）

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		フィールド・スタディーズ 3		3	
		フィールド・スタディーズ 4		4	
		フィールド・スタディーズ発展 1 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 1 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 1 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展 1 D		4	
		フィールド・スタディーズ発展 2 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 2 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 2 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展 2 D		4	
		フィールド・スタディーズ発展 2 E		5	
		フィールド・スタディーズ発展 3 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 3 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 3 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展 3 D		4	
		フィールド・スタディーズ発展 3 E		5	
		フィールド・スタディーズ発展 4 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 4 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 4 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展 4 D		4	
		【インターンシップ】			
		インターンシップ		1	
		企業協働プロジェクト		2	
		【全学教養ゼミナール】			
		全学教養ゼミナール 1		2	
		全学教養ゼミナール 2		2	
		【寄付講座】			
		武蔵野市自由講座		2	
		証券ビジネス論		2	
		〔学科科目〕			
		【社会福祉基盤形成科目群】			
		ソーシャルワークの基盤と専門職 1	2		
		ソーシャルワークの基盤と専門職 2	2		
		ソーシャルワークの理論と方法 1	2		
		ソーシャルワークの理論と方法 2	2		
		地域福祉と包括的支援体制 1	2		
		地域福祉と包括的支援体制 2	2		
		コミュニティ・オーガナイズイング論		2	
		ケースマネジメント論		2	
		ソーシャルワークの理論と方法 3	2		
		ソーシャルワークの理論と方法 4	2		
		社会福祉の原理と政策 1	2		
		社会福祉の原理と政策 2	2		
		【社会福祉実践領域科目群】			

人間科学部社会福祉学科

別表（１）

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		高齢者福祉	2		
		障害者福祉	2		
		児童・家庭福祉	2		
		貧困に対する支援	2		
		保健医療と福祉	2		
		ソーシャルアントレプレナー論		2	
		ファンドレイジング論		2	
		リハビリテーション論		2	
		刑事司法と福祉	2		
		家族福祉論		2	
		女性福祉論		2	
		スクールソーシャルワーク論		2	
		多文化共生ソーシャルワーク論 1		2	
		多文化共生ソーシャルワーク論 2		2	
		【社会福祉制度政策科目群】			
		福祉サービスの組織と経営	2		
		社会保障 1	2		
		社会保障 2	2		
		社会福祉発達史		2	
		【社会福祉関係科目群】			
		社会学と社会システム	2		
		危機介入論		2	
		生と死を考える福祉論		2	
		心理学と心理的支援	2		
		社会福祉調査の基礎	2		
		フィールド実習指導 1		2	
		フィールド実習指導 2		2	
		フィールド実習 1		2	
		フィールド実習 2		2	
		医学概論	2		
		権利擁護を支える法制度	2		
		発達心理学		2	
		児童精神医学		2	
		精神医学総論		2	
		犯罪・非行心理学		2	
		教育社会学		2	
		住環境論		2	
		学校の制度		2	
		生徒指導論		2	
		精神保健の課題と支援		2	
		【社会福祉実践研究力形成科目群】			
		社会福祉基礎ゼミナール	2		
		社会福祉発展ゼミナール	2		
		ソーシャルワーク演習 1	2		
		ソーシャルワーク実習指導 1		2	
		ソーシャルワーク演習 2	2		

社会福祉

70/121

学則-98

人間科学部社会福祉学科

別表（１）

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		ソーシャルワーク演習 3	2		
		海外ソーシャルワーク実習		1	
		社会福祉専門ゼミナール 1	2		
		ソーシャルワーク演習 4	2		
		ソーシャルワーク実習指導 2		2	
		ソーシャルワーク演習 5		2	
		ソーシャルワーク実習指導 3		2	
		ソーシャルワーク実習		5	
		社会福祉専門ゼミナール 2	2		
		スクールソーシャルワーク演習		2	
		スクールソーシャルワーク実習指導		2	
		スクールソーシャルワーク実習		2	
		卒業研究		2	
		【社会福祉実践力統合科目群】			
		社会福祉職業論		1	
		社会福祉特講 1		1	
		社会福祉特講 2		1	
		社会福祉特講 3		1	
		社会福祉特講 4		1	

ウェルビーイング学部ウェルビーイング学科

別表（１）

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
ウェルビーイング学部 ウェルビーイング学科		【共通科目】			
		【スポーツ・身体】			
		スポーツと身体科学		1	
		フィールド・スポーツ		1	
		【情報】			
		データサイエンス基礎	1		
		人工知能基礎	1		
		メディアリテラシー		1	
		情報技法基礎		1	
		情報技法発展A		1	
		情報技法発展B		1	
		情報技法発展C		1	
		プログラミング基礎		1	
		プログラミング発展A		1	
		プログラミング発展B		1	
		人工知能技術と社会		1	
		機械学習活用1		1	
		機械学習活用2		1	
		データサイエンス活用1		1	
		データサイエンス活用2		1	
		メディアデザイン		1	
		サービスデザイン		1	
		人工知能実践プロジェクト		2	
		【外国語】			
		英語基礎A	2		
		英語基礎B		1	
		英語基礎C	2		
		英語基礎D		1	
		英語発展A		1	
		英語発展B		1	
		英語発展C		1	
		英語発展D		1	
		英語総合A		1	
		英語総合B		1	
		中国語基礎1		1	
		中国語基礎2		1	
		中国語発展1		1	
		中国語発展2		1	
		中国語総合1		1	
		中国語総合2		1	
		フランス語基礎1		1	
		フランス語基礎2		1	
		フランス語発展1		1	
		フランス語発展2		1	
		フランス語総合1		1	
		フランス語総合2		1	
		ドイツ語基礎1		1	
		ドイツ語基礎2		1	
		ドイツ語発展1		1	
		ドイツ語発展2		1	
		ドイツ語総合1		1	
		ドイツ語総合2		1	
		スペイン語基礎1		1	
		スペイン語基礎2		1	

ウェルビーイング学部ウェルビーイング学科

別表(1)

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		スペイン語発展1		1	
		スペイン語発展2		1	
		スペイン語総合1		1	
		スペイン語総合2		1	
		韓国語基礎1		1	
		韓国語基礎2		1	
		韓国語発展1		1	
		韓国語発展2		1	
		韓国語総合1		1	
		韓国語総合2		1	
		留学準備1		1	
		留学準備2		1	
		英語資格・検定試験対策1		1	
		英語資格・検定試験対策2		1	
		【教養日本語】			
		日本語リテラシー	1		
		日本語基礎A		1	留学生または日本語を母語としない学生は、外国語科目群の必修科目に代えることができる
		日本語基礎B		1	
		日本語基礎C		1	
		日本語基礎D		1	
		日本語発展A		1	
		日本語発展B		1	
		日本語発展C		1	
		日本語発展D		1	
		日本事情		2	
		【CHP】			
		SDG s 基礎	1		
		SDG s 発展1	1		
		SDG s 発展2	1		
		SDG s 発展3	1		
		SDG s 特講		2	
		【フィールド・スタディーズ】			
		フィールド・スタディーズ	1		
		フィールド・スタディーズ1		1	
		フィールド・スタディーズ2		2	
		フィールド・スタディーズ3		3	
		フィールド・スタディーズ4		4	
		フィールド・スタディーズ発展1 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展1 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展1 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展1 D		4	
		フィールド・スタディーズ発展2 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展2 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展2 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展2 D		4	
		フィールド・スタディーズ発展2 E		5	
		フィールド・スタディーズ発展3 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展3 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展3 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展3 D		4	
		フィールド・スタディーズ発展3 E		5	
		フィールド・スタディーズ発展4 A		1	

ウェルビーイング学部ウェルビーイング学科

別表(1)

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		フィールド・スタディーズ発展4B		2	
		フィールド・スタディーズ発展4C		3	
		フィールド・スタディーズ発展4D		4	
		【インターンシップ】			
		インターンシップ		1	
		企業協働プロジェクト		2	
		【全学教養ゼミナール】			
		全学教養ゼミナール1		2	
		全学教養ゼミナール2		2	
		【寄付講座】			
		武蔵野市自由講座		2	
		証券ビジネス論		2	
		〔学科科目〕			
		【基盤科目群】			
		<建学の精神>			
		建学の精神入門A(人間観)	1		
		建学の精神入門B(真理観)	1		
		建学の精神入門C(Dharma Dialogue)	1		
		建学の精神入門D(幸福論)	1		
		建学の精神基礎A(死生学)	1		
		建学の精神基礎B(巡礼)	1		
		建学の精神基礎C(縁起・共生)	1		
		建学の精神応用A(文献購読)	1		
		建学の精神応用B(Ancestors' Voices)	1		
		<ウェルビーイングデザイン>			
		WBデザイン入門A(全体像と歴史)	1		
		WBデザイン入門B(健康)	1		
		WBデザイン入門C(心理)	1		
		WBデザイン入門D(教育)	1		
		WBデザイン基礎A(経済・行動科学)	1		
		WBデザイン基礎B(社会)	1		
		WBデザイン基礎C(福祉)	1		
		WBデザイン応用A(社会心理)	1		
		WBデザイン応用B(哲学・倫理学)	1		
		WBデザイン応用C(医療)	1		
		WBデザイン発展(デザイン工学)	1		
		<ウェルビーイングリテラシー>			
		WBリテラシー入門A(ポジティブ心理学基礎)	1		
		WBリテラシー入門B(パーマカルチャー)		1	
		WBリテラシー入門C(アート(書))		1	
		WBリテラシー入門D(アート(身体表現))		1	
		WBリテラシー基礎A(感性工学)	1		
		WBリテラシー基礎B(対人コミュニケーション)	1		
		WBリテラシー基礎C(ロジカル思考)	1		
		WBリテラシー基礎D(システム思考)	1		
		WBリテラシー基礎E(文章)	1		
		WBリテラシー基礎F(プロジェクトマネジメント)	1		
		WBリテラシー基礎G(成人発達理論)		1	
		WBリテラシー基礎H(ビジネス・イノベーション)		1	

ウェルビーイング学部ウェルビーイング学科

別表(1)

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		WBリテラシー基礎I(アート(書))		1	
		WBリテラシー応用A(論理学)	1		
		WBリテラシー応用B(社会調査法)	1		
		WBリテラシー応用C(対話の場づくり)	1		
		WBリテラシー応用D(コーチング的コミュニケーション)	1		
		WBリテラシー応用E(アート(書))		1	
		WBリテラシー応用F(人類の歴史)		1	
		WBリテラシー応用G(エコシステム)		1	
		WBリテラシー発展A(実践者に聴く1)	1		
		WBリテラシー発展B(実践者に聴く2)	1		
		WBリテラシー発展C(プレゼンテーション)	1		
		WBリテラシー発展D(お金)		1	
		【探究する科目群】			
		<ゼミナール>			
		入門ゼミA	2		
		入門ゼミB	2		
		基礎ゼミA	1		
		基礎ゼミB	2		
		<自己理解>			
		自己理解入門A(自己との対話)	1		
		自己理解入門B(自己肯定感)	1		
		自己理解入門C(他者との対話)	1		
		自己理解入門D(自己受容・他者信頼)	1		
		自己理解基礎A(コンパッション)	1		
		自己理解基礎B(対話)	1		
		自己理解基礎C(セルフ・コンパッション)	1		
		<自然・環境>			
		自然・環境入門A	2		
		自然・環境入門B	2		
		自然・環境基礎A	1		
		自然・環境基礎B	2		
		自然・環境プロジェクト	4		
		<地域・医療・福祉>			
		地域・医療・福祉基礎A(医療・看護)	1		
		地域・医療・福祉基礎B(地域と福祉)	1		
		地域・医療・福祉基礎C(高齢者福祉)	1		
		地域・医療・福祉応用A(社会心理)	1		
		地域・医療・福祉応用B(公共政策)	1		
		<ビジネス>			
		ビジネス基礎A(企業)	1		
		ビジネス基礎B(人事)	1		
		ビジネス基礎C(起業)	1		
		ビジネス応用(社会システム)	1		
		地域・ビジネスプロジェクト	4		
		<国際理解>			
		国際コミュニケーション		1	
		多文化理解		1	
		海外インターンシップ		2	

別表 (1)

ウエルビーイング
76/121
学則-104

工学部サステナビリティ学科

別表（１）

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
工学部 サステナビリティ学科		【共通科目】			
		【建学】			
		仏教（生き方を考える）基礎	2		
		仏教（生き方を考える）発展	2		
		【スポーツ・身体】			
		スポーツと身体科学		1	
		フィールド・スポーツ		1	
		【情報】			
		データサイエンス基礎	1		
		人工知能基礎	1		
		メディアリテラシー		1	
		情報技法基礎		1	
		情報技法発展A		1	
		情報技法発展B		1	
		情報技法発展C		1	
		プログラミング基礎		1	
		プログラミング発展A		1	
		プログラミング発展B		1	
		人工知能技術と社会		1	
		機械学習活用1		1	
		機械学習活用2		1	
		データサイエンス活用1		1	
		データサイエンス活用2		1	
		メディアデザイン		1	
		サービスデザイン		1	
		人工知能実践プロジェクト		2	
		【外国語】			
		英語基礎A	2		
		英語基礎B		1	
		英語基礎C	2		
		英語基礎D		1	
		英語発展A		1	
		英語発展B		1	
		英語発展C		1	
		英語発展D		1	
		英語総合A		1	
		英語総合B		1	
		中国語基礎1		1	
		中国語基礎2		1	
		中国語発展1		1	
		中国語発展2		1	
		中国語総合1		1	
		中国語総合2		1	
		フランス語基礎1		1	
		フランス語基礎2		1	
		フランス語発展1		1	

工学部サステナビリティ学科

別表（１）

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		フランス語発展 2		1	
		フランス語総合 1		1	
		フランス語総合 2		1	
		ドイツ語基礎 1		1	
		ドイツ語基礎 2		1	
		ドイツ語発展 1		1	
		ドイツ語発展 2		1	
		ドイツ語総合 1		1	
		ドイツ語総合 2		1	
		スペイン語基礎 1		1	
		スペイン語基礎 2		1	
		スペイン語発展 1		1	
		スペイン語発展 2		1	
		スペイン語総合 1		1	
		スペイン語総合 2		1	
		韓国語基礎 1		1	
		韓国語基礎 2		1	
		韓国語発展 1		1	
		韓国語発展 2		1	
		韓国語総合 1		1	
		韓国語総合 2		1	
		留学準備 1		1	
		留学準備 2		1	
		英語資格・検定試験対策 1		1	
		英語資格・検定試験対策 2		1	
		【教養日本語】			
		日本語リテラシー	1		
		日本語基礎 A		1	留学生または日本語を母語としない学生は、外国語科目群の必修科目に代えることができる
		日本語基礎 B		1	
		日本語基礎 C		1	
		日本語基礎 D		1	
		日本語発展 A		1	
		日本語発展 B		1	
		日本語発展 C		1	
		日本語発展 D		1	
		日本事情		2	
		【CHP】			
		SDG s 基礎	1		
		SDG s 発展 1	1		
		SDG s 発展 2	1		
		SDG s 発展 3	1		
		SDG s 特講		2	
		【フィールド・スタディーズ】			
		フィールド・スタディーズ	1		
		フィールド・スタディーズ 1		1	
		フィールド・スタディーズ 2		2	

工学部サステナビリティ学科

別表(1)

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		フィールド・スタディーズ 3		3	
		フィールド・スタディーズ 4		4	
		フィールド・スタディーズ発展 1 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 1 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 1 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展 1 D		4	
		フィールド・スタディーズ発展 2 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 2 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 2 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展 2 D		4	
		フィールド・スタディーズ発展 2 E		5	
		フィールド・スタディーズ発展 3 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 3 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 3 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展 3 D		4	
		フィールド・スタディーズ発展 3 E		5	
		フィールド・スタディーズ発展 4 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 4 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 4 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展 4 D		4	
		【インターンシップ】			
		インターンシップ		1	
		企業協働プロジェクト		2	
		【全学教養ゼミナール】			
		全学教養ゼミナール 1		2	
		全学教養ゼミナール 2		2	
		【寄付講座】			
		武蔵野市自由講座		2	
		証券ビジネス論		2	
		〔学科科目〕			
		【サステナビリティ基幹科目】			
		サステナビリティ学と創造的学び	1		
		アカデミックスキル入門	2		
		サステナビリティ学基礎 A	2		
		サステナビリティ学基礎 B	2		
		環境倫理・環境正義	2		
		環境エネルギー論	2		
		資源循環論	2		
		サステナビリティ思考入門	2		
		環境福祉学	2		
		環境政策論	2		
		環境経済学		2	
		サステナブルライフスタイル論		2	
		環境保全生態学	2		
		環境地球化学	2		

サステナビリティ

79/121

学則-107

工学部サステナビリティ学科

別表（１）

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		水とサステナビリティ		2	
		食とサステナビリティ		2	
		【ソーシャルデザイン科目】			
		ソーシャルデザイン事例研究		2	
		サステナブルデザイン思考		2	
		システム思考と学習する組織		2	
		共創型リーダーシップ論		2	
		シビックアクション論		2	
		ファシリテーション演習		2	
		メディア表現演習		2	
		社会調査法		2	
		ソーシャルビジネス論		2	
		サステナブル経営論		2	
		サステナビリティ戦略演習		2	
		コミュニティデザイン論		2	
		持続可能な地域づくり論		2	
		交渉と合意形成		2	
		環境心理学		2	
		E S D 論		2	
		【環境エンジニアリング科目】			
		環境統計学		2	
		環境材料学		2	
		環境気象学		2	
		生物多様性保全特論		2	
		環境分析化学		2	
		C A D 演習		2	
		G I S ・ 測量演習		2	
		環境調査演習 A		2	
		環境調査演習 B		2	
		環境調査演習 C		2	
		サステナビリティリスク学		2	
		ライフサイクルアセスメント論		2	
		カーボンマネジメント演習		2	
		資源循環マネジメント演習		2	
		持続可能技術特論 1		2	
		持続可能技術特論 2		2	
		【プロジェクト科目】			
		サステナビリティプロジェクト入門	2		
		サステナビリティプロジェクト 1	4		
		サステナビリティプロジェクト 2	4		
		サステナビリティプロジェクト 3	4		
		サステナビリティプロジェクト 4	4		
		サステナビリティ研究 1	4		
		サステナビリティ研究 2	4		
		卒業論文		4	

サステナビリティ

80/121

学則-108

工学部サステナビリティ学科

別表（１）

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		【社会連携科目】 サステナビリティ学社会実践演習 A サステナビリティ学社会実践演習 B サステナビリティ学社会実践演習 C サステナビリティ学社会実践演習 D サステナビリティ学社会実践演習 E サステナビリティ学総合演習 【サステナビリティ先端科目】 サステナビリティ学特殊授業 A サステナビリティ学特殊授業 B サステナビリティ学特殊授業 C サステナビリティ学特殊授業 D サステナビリティ学特殊授業 E 【総合研究】 総合研究 A 総合研究 B 総合研究 C		1 1 2 2 4 1 2 2 2 1 1 1 2 4	

工学部数理工学科

別表（1）

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
工学部 数理工学科		〔共通科目〕			
		【建学】			
		仏教（生き方を考える）基礎	2		
		仏教（生き方を考える）発展	2		
		【スポーツ・身体】			
		スポーツと身体科学		1	
		フィールド・スポーツ		1	
		【情報】			
		データサイエンス基礎	1		
		人工知能基礎	1		
		メディアリテラシー		1	
		情報技法基礎		1	
		情報技法発展A		1	
		情報技法発展B		1	
		情報技法発展C		1	
		プログラミング基礎		1	
		プログラミング発展A		1	
		プログラミング発展B		1	
		人工知能技術と社会		1	
		機械学習活用1		1	
		機械学習活用2		1	
		データサイエンス活用1		1	
		データサイエンス活用2		1	
		メディアデザイン		1	
		サービスデザイン		1	
		人工知能実践プロジェクト		2	
		【外国語】			
		英語基礎A	2		
		英語基礎B		1	
		英語基礎C	2		
		英語基礎D		1	
		英語発展A		1	
		英語発展B		1	
		英語発展C		1	
		英語発展D		1	
		英語総合A		1	
		英語総合B		1	
		中国語基礎1		1	
		中国語基礎2		1	
		中国語発展1		1	
		中国語発展2		1	
		中国語総合1		1	
		中国語総合2		1	
		フランス語基礎1		1	
		フランス語基礎2		1	
		フランス語発展1		1	
		フランス語発展2		1	
		フランス語総合1		1	
		フランス語総合2		1	
		ドイツ語基礎1		1	
		ドイツ語基礎2		1	

工学部数理工学科

別表(1)

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		ドイツ語発展1		1	
		ドイツ語発展2		1	
		ドイツ語総合1		1	
		ドイツ語総合2		1	
		スペイン語基礎1		1	
		スペイン語基礎2		1	
		スペイン語発展1		1	
		スペイン語発展2		1	
		スペイン語総合1		1	
		スペイン語総合2		1	
		韓国語基礎1		1	
		韓国語基礎2		1	
		韓国語発展1		1	
		韓国語発展2		1	
		韓国語総合1		1	
		韓国語総合2		1	
		留学準備1		1	
		留学準備2		1	
		英語資格・検定試験対策1		1	
		英語資格・検定試験対策2		1	
		【教養日本語】			
		日本語リテラシー	1		
		日本語基礎A		1	} 留学生または日本語を母語としない学生は、外国語科目群の必修科目に代えることができる
		日本語基礎B		1	
		日本語基礎C		1	
		日本語基礎D		1	
		日本語発展A		1	
		日本語発展B		1	
		日本語発展C		1	
		日本語発展D		1	
		日本事情		2	
		【CHP】			
		SDGs 基礎	1		
		SDGs 発展1	1		
		SDGs 発展2	1		
		SDGs 発展3	1		
		SDGs 特講		2	
		【フィールド・スタディーズ】			
		フィールド・スタディーズ	1		
		フィールド・スタディーズ1		1	
		フィールド・スタディーズ2		2	
		フィールド・スタディーズ3		3	
		フィールド・スタディーズ4		4	
		フィールド・スタディーズ発展1A		1	
		フィールド・スタディーズ発展1B		2	
		フィールド・スタディーズ発展1C		3	
		フィールド・スタディーズ発展1D		4	
		フィールド・スタディーズ発展2A		1	
		フィールド・スタディーズ発展2B		2	
		フィールド・スタディーズ発展2C		3	

工学部数理工学科

別表(1)

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		フィールド・スタディーズ発展 2 D		4	
		フィールド・スタディーズ発展 2 E		5	
		フィールド・スタディーズ発展 3 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 3 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 3 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展 3 D		4	
		フィールド・スタディーズ発展 3 E		5	
		フィールド・スタディーズ発展 4 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 4 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 4 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展 4 D		4	
		【インターンシップ】			
		インターンシップ		1	
		企業協働プロジェクト		2	
		【全学教養ゼミナール】			
		全学教養ゼミナール 1		2	
		全学教養ゼミナール 2		2	
		【寄付講座】			
		武蔵野市自由講座		2	
		証券ビジネス論		2	
		〔教職関連〕			
		日本国憲法		2	教職必修
		〔学科科目〕			
		【学科基礎科目】			
		数理工学入門	2		
		線形代数 1	2		
		微積分 1	2		
		数学演習 1		1	
		線形代数 2	2		
		線形代数 2 演習		1	
		微積分 2	2		
		微積分 2 演習		1	
		情報処理		2	
		プログラミング演習		1	
		基礎物理 1	2		
		基礎物理 2	2		
		線形代数 3	2		
		微積分 3	2		
		数学演習 2		1	
		微分方程式 1	2		
		数理工学概論 1	2		
		ベクトル解析	2		
		複素解析	2		
		アルゴリズム		2	
		微分方程式 2		2	
		【学科基幹科目】			
		数理工学実験 1		2	

工学部数理工学科

別表（1）

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		確率・統計	2		
		応用代数		2	
		数理物理		2	
		数理工学実験 2		2	
		数理統計学		2	
		応用幾何		2	
		情報理論		2	
		数理工学概論 2	2		
		応用複素解析		2	
		グラフ理論入門		2	
		数値解析		2	
		環境・エネルギー工学		2	
		知的財産論		2	
		フーリエ解析		2	
		多変量解析		2	
		最適化理論		2	
		量子力学とナノ工学		2	
		機械学習		2	
		システム工学		2	
		応用微分方程式		2	
		計画工学		2	
		計算幾何学		2	
		信号処理		2	
		【学科展開科目】			
		プロジェクト 1		4	
		保険数学		2	
		離散数理工学		2	
		確率数理工学		2	
		データベースと情報管理		2	
		プロジェクト 2		4	
		連続体力学		2	
		生命情報学		2	
		トポロジーとその応用		2	
		金融工学		2	
		【卒業研究】			
		数理工学研究 1	2		
		数理工学研究 2	2		
		数理工学研究 3	2		
		卒業研究	4		

工学部建築デザイン学科

別表（１）

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
工学部 建築デザイン学 科		〔共通科目〕			
		【建学】			
		仏教（生き方を考える）基礎	2		
		仏教（生き方を考える）発展	2		
		【スポーツ・身体】			
		スポーツと身体科学		1	
		フィールド・スポーツ		1	
		【情報】			
		データサイエンス基礎	1		
		人工知能基礎	1		
		メディアリテラシー		1	
		情報技法基礎		1	
		情報技法発展A		1	
		情報技法発展B		1	
		情報技法発展C		1	
		プログラミング基礎		1	
		プログラミング発展A		1	
		プログラミング発展B		1	
		人工知能技術と社会		1	
		機械学習活用1		1	
		機械学習活用2		1	
		データサイエンス活用1		1	
		データサイエンス活用2		1	
		メディアデザイン		1	
		サービスデザイン		1	
		人工知能実践プロジェクト		2	
		【外国語】			
		英語基礎A	2		
		英語基礎B		1	
		英語基礎C	2		
		英語基礎D		1	
		英語発展A		1	
		英語発展B		1	
		英語発展C		1	
		英語発展D		1	
		英語総合A		1	
		英語総合B		1	
		中国語基礎1		1	
		中国語基礎2		1	
		中国語発展1		1	
		中国語発展2		1	
		中国語総合1		1	
		中国語総合2		1	
		フランス語基礎1		1	
		フランス語基礎2		1	
		フランス語発展1		1	
		フランス語発展2		1	
		フランス語総合1		1	
		フランス語総合2		1	
		ドイツ語基礎1		1	
		ドイツ語基礎2		1	

工学部建築デザイン学科

別表(1)

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		ドイツ語発展1		1	
		ドイツ語発展2		1	
		ドイツ語総合1		1	
		ドイツ語総合2		1	
		スペイン語基礎1		1	
		スペイン語基礎2		1	
		スペイン語発展1		1	
		スペイン語発展2		1	
		スペイン語総合1		1	
		スペイン語総合2		1	
		韓国語基礎1		1	
		韓国語基礎2		1	
		韓国語発展1		1	
		韓国語発展2		1	
		韓国語総合1		1	
		韓国語総合2		1	
		留学準備1		1	
		留学準備2		1	
		英語資格・検定試験対策1		1	
		英語資格・検定試験対策2		1	
		【教養日本語】			
		日本語リテラシー	1		
		日本語基礎A		1	} 留学生または日本語を母語としない学生は、外国語科目群の必修科目に代えることができる
		日本語基礎B		1	
		日本語基礎C		1	
		日本語基礎D		1	
		日本語発展A		1	
		日本語発展B		1	
		日本語発展C		1	
		日本語発展D		1	
		日本事情		2	
		【CHP】			
		SDGs 基礎	1		
		SDGs 発展1	1		
		SDGs 発展2	1		
		SDGs 発展3	1		
		SDGs 特講		2	
		【フィールド・スタディーズ】			
		フィールド・スタディーズ	1		
		フィールド・スタディーズ1		1	
		フィールド・スタディーズ2		2	
		フィールド・スタディーズ3		3	
		フィールド・スタディーズ4		4	
		フィールド・スタディーズ発展1A		1	
		フィールド・スタディーズ発展1B		2	
		フィールド・スタディーズ発展1C		3	
		フィールド・スタディーズ発展1D		4	
		フィールド・スタディーズ発展2A		1	
		フィールド・スタディーズ発展2B		2	
		フィールド・スタディーズ発展2C		3	

工学部建築デザイン学科

別表(1)

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		フィールド・スタディーズ発展2D		4	
		フィールド・スタディーズ発展2E		5	
		フィールド・スタディーズ発展3A		1	
		フィールド・スタディーズ発展3B		2	
		フィールド・スタディーズ発展3C		3	
		フィールド・スタディーズ発展3D		4	
		フィールド・スタディーズ発展3E		5	
		フィールド・スタディーズ発展4A		1	
		フィールド・スタディーズ発展4B		2	
		フィールド・スタディーズ発展4C		3	
		フィールド・スタディーズ発展4D		4	
		【インターンシップ】			
		インターンシップ		1	
		企業協働プロジェクト		2	
		【全学教養ゼミナール】			
		全学教養ゼミナール1		2	
		全学教養ゼミナール2		2	
		【寄付講座】			
		武蔵野市自由講座		2	
		証券ビジネス論		2	
		〔学科科目〕			
		【学科基礎科目】			
		基礎デザイン1	2		
		空間表現論	2		
		基礎ゼミ	2		
		基礎デザイン2	2		
		デザインテクノロジー1	2		
		デザインテクノロジー2	2		
		【学科基幹科目】			
		設計製図1	4		
		建築計画	2		
		デザインテクノロジー3	2		
		デザインテクノロジー4	2		
		設計製図2	4		
		日本の建築	2		
		設計方法論	2		
		建築構造	2		
		建築材料	2		
		建築施工法	2		
		建築法規	2		
		建築学演習	2		
		建築構造デザイン	2		
		【学科展開科目】			
		住居論		2	
		住居史		2	
		住宅衛生		2	
		プロジェクト1		2	

工学部建築デザイン学科

別表（１）

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		西洋の建築		2	
		建築と環境		2	
		インテリアデザイン 1		2	
		構造力学 1		2	
		構造力学演習 1		2	
		デザインテクノロジー発展 1		2	
		デザインテクノロジー発展 2		2	
		環境工学		2	
		建築環境行動		2	
		プロジェクト 2		4	
		設計製図 3		4	
		建築景観論		2	
		音環境		2	
		建築設備 1		2	
		構造力学 2		2	
		構造力学演習 2		2	
		デザインテクノロジー発展 3		2	
		デザインテクノロジー発展 4		2	
		インテリアデザイン 2		2	
		都市防災		2	
		都市環境		2	
		設計製図 4		4	
		アジアの建築		2	
		光環境		2	
		建築設備 2		2	
		構造力学 3		2	
		環境デザイン		2	
		空間とデザイン		2	
		ランドスケープデザイン		2	
		プロジェクト 3		4	
		建築環境論		2	
		防災まちづくり論		2	
		建築文化論		2	
		プロジェクト 4		4	
		フィールド・スタディーズ発展 1（建築）		1	
		フィールド・スタディーズ発展 2（建築）		2	
		【卒業研究】			
		卒業研究	6		

教育学部教育学科

別表（1）

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
教育学部 教育学科		〔共通科目〕			学校教育専修理科コースは2単位選択必修
		【建学】			
		仏教（生き方を考える）基礎	2		
		仏教（生き方を考える）発展	2		
		【スポーツ・身体】			
		スポーツと身体科学		1	
		フィールド・スポーツ		1	
		体育講義		1	
		【情報】			
		データサイエンス基礎	1		
		人工知能基礎	1		
		メディアリテラシー		1	
		情報技法基礎		1	
		情報技法発展A		1	
		情報技法発展B		1	
		情報技法発展C		1	
		プログラミング基礎		1	
		プログラミング発展A		1	
		プログラミング発展B		1	
		人工知能技術と社会		1	
		機械学習活用1		1	
		機械学習活用2		1	
		データサイエンス活用1		1	
		データサイエンス活用2		1	
		メディアデザイン		1	
		サービスデザイン		1	
		人工知能実践プロジェクト		2	
		【外国語】			
		英語基礎A	2		
		英語基礎B		1	
		英語基礎C	2		
		英語基礎D		1	
		英語発展A		1	
		英語発展B		1	
		英語発展C		1	
		英語発展D		1	
		英語総合A		1	
		英語総合B		1	
		中国語基礎1		1	
		中国語基礎2		1	
		中国語発展1		1	
		中国語発展2		1	
		中国語総合1		1	
		中国語総合2		1	
		フランス語基礎1		1	
		フランス語基礎2		1	
		フランス語発展1		1	
		フランス語発展2		1	
		フランス語総合1		1	
		フランス語総合2		1	
		ドイツ語基礎1		1	
		ドイツ語基礎2		1	

教育学部教育学科

別表（１）

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		ドイツ語発展 1		1	
		ドイツ語発展 2		1	
		ドイツ語総合 1		1	
		ドイツ語総合 2		1	
		スペイン語基礎 1		1	
		スペイン語基礎 2		1	
		スペイン語発展 1		1	
		スペイン語発展 2		1	
		スペイン語総合 1		1	
		スペイン語総合 2		1	
		韓国語基礎 1		1	
		韓国語基礎 2		1	
		韓国語発展 1		1	
		韓国語発展 2		1	
		韓国語総合 1		1	
		韓国語総合 2		1	
		留学準備 1		1	
		留学準備 2		1	
		英語資格・検定試験対策 1		1	
		英語資格・検定試験対策 2		1	
		【教養日本語】			
		日本語基礎 A		1	留学生または日本語を母語としない学生は、外国語科目群の必修科目に代えることができる
		日本語基礎 B		1	
		日本語基礎 C		1	
		日本語基礎 D		1	
		日本語発展 A		1	
		日本語発展 B		1	
		日本語発展 C		1	
		日本語発展 D		1	
		日本事情		2	
		【CHP】			
		SDG s 基礎	1		
		SDG s 発展 1	1		
		SDG s 発展 2	1		
		SDG s 発展 3	1		
		SDG s 特講		2	
		【フィールド・スタディーズ】			
		フィールド・スタディーズ	1		
		フィールド・スタディーズ 1		1	
		フィールド・スタディーズ 2		2	
		フィールド・スタディーズ 3		3	
		フィールド・スタディーズ 4		4	
		フィールド・スタディーズ発展 1 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 1 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 1 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展 1 D		4	
		フィールド・スタディーズ発展 2 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 2 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 2 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展 2 D		4	
		フィールド・スタディーズ発展 2 E		5	
		フィールド・スタディーズ発展 3 A		1	

教育学部教育学科

別表（1）

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		フィールド・スタディーズ発展 3 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 3 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展 3 D		4	
		フィールド・スタディーズ発展 3 E		5	
		フィールド・スタディーズ発展 4 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 4 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 4 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展 4 D		4	
		【インターンシップ】			
		インターンシップ		1	
		企業協働プロジェクト		2	
		【全学教養ゼミナール】			
		全学教養ゼミナール 1		2	
		全学教養ゼミナール 2		2	
		【寄付講座】			
		武蔵野市自由講座		2	
		証券ビジネス論		2	
		〔教職関連〕			
		日本国憲法		2	教職必修
		〔学科科目〕			
		【学科基礎科目】			
		教育学入門ゼミ		2	コースごとの必修科目は教育学部教育学科履修内規の定めによる
		発達心理学		2	
		教育原理		2	
		教育心理学		2	
		【学科基幹科目】			
		教育学基礎ゼミ		2	
		教育学発展ゼミ		2	
		教職論		2	
		教育の制度		2	
		教育課程論		2	
		学級経営論		2	
		【学科展開科目】			
		<福祉関連科目>			
		社会福祉		2	
		児童家庭福祉		2	
		<初等・中等教育関連科目群>			
		特別活動及び総合的な学習の時間の指導法		2	
		道徳教育の理論と方法		2	
		教育の方法と技術（情報通信技術の活用含む。）		2	
		生徒指導・進路指導論		2	
		教育相談		2	
		特別支援教育		2	
		<指導法関連科目群>			
		初等国語科指導法		2	
		初等社会科指導法		2	

教育学部教育学科

別表（1）

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		初等算数科指導法		2	
		初等理科指導法		2	
		初等生活科指導法		2	
		初等音楽科指導法		2	
		初等図画工作科指導法		2	
		初等家庭科指導法		2	
		初等体育科指導法		2	
		初等外国語（英語）指導法		2	
		国語科指導法A		2	
		国語科指導法B		2	
		書道科指導法A		2	
		書道科指導法B		2	
		英語科指導法A		2	
		英語科指導法B		2	
		理科指導法Ⅰ		4	
		国語科教育法A		2	
		国語科教育法B		2	
		書道科教育法		2	
		英語科教育法A		2	
		英語科教育法B		2	
		理科指導法Ⅱ		4	
		<教科・基礎技能関連科目群>			
		国語（書写を含む。）		2	
		社会		2	
		算数		2	
		理科		2	
		生活		2	
		音楽A		2	
		音楽B		2	
		図画工作A		2	
		図画工作B		2	
		家庭		2	
		体育A		2	
		体育B		2	
		初等外国語（英語）		2	
		日本語学概論A		2	
		日本語学概論B		2	
		古代文学		2	
		中古文学		2	
		中世文学		2	
		近世文学		2	
		近代文学		2	
		現代文学		2	
		漢文学		2	
		書道		2	
		書道史		2	
		書論・鑑賞		2	
		英語学A		2	
		英語学B		2	
		英米文学・文化史A		2	
		英米文学・文化史B		2	
		Practical Communication A		2	
		Practical Communication B		2	
		Comprehensive English A		2	

教育学部教育学科

別表（1）

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		Comprehensive English B		2	
		Comprehensive English C		2	
		Comprehensive English D		2	
		異文化理解A		2	
		異文化理解B		2	
		物理学概論 1		2	
		物理学概論 2		2	
		物理学実験（コンピュータ活用を含む。）		2	
		化学概論 1		2	
		化学概論 2		2	
		化学実験（コンピュータ活用を含む。）		2	
		生物学概論 1		2	
		生物学概論 2		2	
		生物学実験（コンピュータ活用を含む。）		2	
		地学概論 1		2	
		地学概論 2		2	
		地学実験（コンピュータ活用を含む。）		2	
		理科実験指導論		2	
		<教科・応用科目群>			
		ICT活用論A		2	
		ICT活用論B		2	
		Academic English		2	
		実用英語音声学		2	
		英語プレゼンテーション		2	
		科学基礎 1		2	
		科学基礎 2		2	
		物理学特論 1		2	
		物理学特論 2		2	
		化学特論 1		2	
		化学特論 2		2	
		生物学特論 1		2	
		生物学特論 2		2	
		地学特論 1		2	
		地学特論 2		2	
		環境教育学		2	
		自然環境教育演習 1		2	
		自然環境教育演習 2		2	
		<グローバル教員養成科目群>			
		グローバル教育概説		2	
		グローバル教育特論		2	
		21世紀型スキル		2	
		【実習関係】			
		教育インターンシップゼミ		2	
		教育インターンシップ		2	
		教育海外研修 1		2	
		教育海外研修 2		2	
		教育海外研修 3		4	
		教育プレ実習		1	
		教育実習指導【小学校】		1	
		教育実習【小学校】		4	
		教育実習【中学校・高等学校】		3	
		教育実習【中学校】		2	

教育学部教育学科

別表（1）

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		教職実践演習（小・中・高）		2	
		【卒業研究】 教育学総合ゼミ		2	

教育学部幼児教育学科

別表（1）

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
教育学部 幼児教育学科		〔共通科目〕			
		【建学】			
		仏教（生き方を考える）基礎	2		
		仏教（生き方を考える）発展	2		
		【スポーツ・身体】			
		スポーツと身体科学		1	
		フィールド・スポーツ		1	
		体育講義		1	
		【情報】			
		データサイエンス基礎	1		
		人工知能基礎	1		
		メディアリテラシー		1	
		情報技法基礎		1	
		情報技法発展A		1	
		情報技法発展B		1	
		情報技法発展C		1	
		プログラミング基礎		1	
		プログラミング発展A		1	
		プログラミング発展B		1	
		人工知能技術と社会		1	
		機械学習活用1		1	
		機械学習活用2		1	
		データサイエンス活用1		1	
		データサイエンス活用2		1	
		メディアデザイン		1	
		サービスデザイン		1	
		人工知能実践プロジェクト		2	
		【外国語】			
		英語基礎A	2		
		英語基礎B		1	
		英語基礎C	2		
		英語基礎D		1	
		英語発展A		1	
		英語発展B		1	
		英語発展C		1	
		英語発展D		1	
		英語総合A		1	
		英語総合B		1	
		中国語基礎1		1	
		中国語基礎2		1	
		中国語発展1		1	
		中国語発展2		1	
		中国語総合1		1	
		中国語総合2		1	
		フランス語基礎1		1	
		フランス語基礎2		1	
		フランス語発展1		1	

教育学部幼児教育学科

別表（1）

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		フランス語発展 2		1	
		フランス語総合 1		1	
		フランス語総合 2		1	
		ドイツ語基礎 1		1	
		ドイツ語基礎 2		1	
		ドイツ語発展 1		1	
		ドイツ語発展 2		1	
		ドイツ語総合 1		1	
		ドイツ語総合 2		1	
		スペイン語基礎 1		1	
		スペイン語基礎 2		1	
		スペイン語発展 1		1	
		スペイン語発展 2		1	
		スペイン語総合 1		1	
		スペイン語総合 2		1	
		韓国語基礎 1		1	
		韓国語基礎 2		1	
		韓国語発展 1		1	
		韓国語発展 2		1	
		韓国語総合 1		1	
		韓国語総合 2		1	
		留学準備 1		1	
		留学準備 2		1	
		英語資格・検定試験対策 1		1	
		英語資格・検定試験対策 2		1	
		【教養日本語】			
		日本語基礎 A		1	留学生または日本語を母語としない学生は、外国語科目群の必修科目に代えることができる
		日本語基礎 B		1	
		日本語基礎 C		1	
		日本語基礎 D		1	
		日本語発展 A		1	
		日本語発展 B		1	
		日本語発展 C		1	
		日本語発展 D		1	
		日本事情		2	
		【CHP】			
		SDG s 基礎	1		
		SDG s 発展 1	1		
		SDG s 発展 2	1		
		SDG s 発展 3	1		
		SDG s 特講		2	
		【フィールド・スタディーズ】			
		フィールド・スタディーズ	1		
		フィールド・スタディーズ 1		1	
		フィールド・スタディーズ 2		2	
		フィールド・スタディーズ 3		3	
		フィールド・スタディーズ 4		4	

教育学部幼児教育学科

別表（１）

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		フィールド・スタディーズ発展 1 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 1 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 1 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展 1 D		4	
		フィールド・スタディーズ発展 2 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 2 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 2 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展 2 D		4	
		フィールド・スタディーズ発展 2 E		5	
		フィールド・スタディーズ発展 3 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 3 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 3 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展 3 D		4	
		フィールド・スタディーズ発展 3 E		5	
		フィールド・スタディーズ発展 4 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 4 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 4 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展 4 D		4	
		【インターンシップ】			
		インターンシップ		1	
		企業協働プロジェクト		2	
		【全学教養ゼミナール】			
		全学教養ゼミナール 1		2	
		全学教養ゼミナール 2		2	
		【寄付講座】			
		武蔵野市自由講座		2	
		証券ビジネス論		2	
		〔教職関連〕			
		日本国憲法		2	教職必修
		〔学科科目〕			
		【学科基礎科目】			
		幼児教育学入門ゼミ	2		
		発達心理学 1（保・幼）	2		
		保育原理	2		
		教育原理 1（保・幼）	2		
		【学科基幹科目】			
		幼児教育学基礎ゼミ	2		
		幼児教育学発展ゼミ	2		
		教育心理学（幼）	2		
		教職論（保育者論）	2		
		教育課程論（保・幼）	2		
		発達心理学 2（保・幼）		2	
		教育の制度（幼）	2		
		教育原理 2		2	

幼児教育

98/121

学則-126

教育学部幼児教育学科

別表（1）

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		幼児教育学総合ゼミ		2	
		【学科展開科目】			
		<保育・幼児教育関連科目群>			
		社会福祉	2		
		子ども家庭福祉	2		
		社会的養護 1	2		
		子どもの保健	2		
		子どもの健康と安全	1		
		子どもの食と栄養	2		
		子ども家庭支援論	2		
		乳児保育 1	2		
		乳児保育 2	1		
		特別支援教育（保・幼）	2		
		社会的養護 2	1		
		教育の方法と技術（幼）	2		
		幼児理解と教育相談（幼）	2		
		仏教保育論		2	
		保幼小接続論		2	
		<発達・子育て支援科目群>			
		地域子育てネットワーク論		2	
		音楽療法		2	
		保育インターンシップ		2	
		児童心理臨床		2	
		子育て支援	1		
		子どもの理解と援助	1		
		発達検査法		1	
		芸術療法		1	
		病児保育論		2	
		<領域及び保育内容指導法関連科目群>			
		保育内容指導法（健康）		2	
		保育内容指導法（人間関係）		2	
		保育内容指導法（環境）		2	
		保育内容指導法（言葉）		2	
		保育内容指導法（身体表現） 1	1		
		保育内容指導法（身体表現） 2		1	
		保育内容指導法（造形表現） 1	1		
		保育内容指導法（造形表現） 2		1	
		保育内容指導法（音楽表現） 1	1		
		保育内容指導法（音楽表現） 2		1	
		保育内容総論	1		
		保育内容（健康）	1		
		保育内容（人間関係）	1		
		保育内容（環境）	1		
		保育内容（言葉）	1		
		保育内容（表現）	1		
		<領域関連専門科目群>			

教育学部幼児教育学科

別表（1）

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		音楽 1	2		
		音楽 2		2	
		造形 1（保・幼）	1		
		造形 2（保・幼）		1	
		造形 3（保・幼）		1	
		造形 4（保・幼）		1	
		体育 1（保・幼）	1		
		体育 2（保・幼）		1	
		体育 3（保・幼）		2	
		児童文学		2	
		児童文化	1		
		＜グローバル教員養成科目群＞			
		グローバル教育概説	2		
		グローバル教育特論		2	
		21世紀型スキル		2	
		児童英語		1	
		国際保育論		2	
		【実習関係科目】			
		保育・教育海外研修		2	
		プレ実習（保育内容の理解と方法）		1	
		幼児教育プロジェクト 1		2	
		幼児教育プロジェクト 2		2	
		幼児教育プロジェクト 3		2	
		教育実習指導【幼稚園】		1	
		教育実習【幼稚園】		4	
		保育実習指導 1（保育所）		1	
		保育実習指導 1（施設）		1	
		保育実習指導 2		1	
		保育実習指導 3		1	
		保育実習 1（保育所）		2	
		保育実習 1（施設）		2	
		保育実習 2		2	
		保育実習 3		2	
		保育・教職実践演習（幼）		2	
		【卒業研究】			
		卒業研究		2	

薬学部薬学科

別表(1)

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
薬学部 薬学科		〔共通科目〕			
		【建学】			
		仏教（生き方を考える）基礎	2		
		仏教（生き方を考える）発展	2		
		【スポーツ・身体】			
		スポーツと身体科学		1	
		フィールド・スポーツ		1	
		【情報】			
		データサイエンス基礎	1		
		人工知能基礎	1		
		メディアリテラシー		1	
		情報技法基礎		1	
		情報技法発展A		1	
		情報技法発展B		1	
		情報技法発展C		1	
		プログラミング基礎		1	
		プログラミング発展A		1	
		プログラミング発展B		1	
		人工知能技術と社会		1	
		機械学習活用1		1	
		機械学習活用2		1	
		データサイエンス活用1		1	
		データサイエンス活用2		1	
		メディアデザイン		1	
		サービスデザイン		1	
		人工知能実践プロジェクト		2	
		【外国語】			
		英語基礎A	2		
		英語基礎B		1	
		英語基礎C	2		
		英語基礎D		1	
		英語発展A		1	
		英語発展B		1	
		英語発展C		1	
		英語発展D		1	
		英語総合A		1	
		英語総合B		1	
		中国語基礎1		1	
		中国語基礎2		1	
		中国語発展1		1	
		中国語発展2		1	
		中国語総合1		1	
		中国語総合2		1	
		フランス語基礎1		1	
		フランス語基礎2		1	
		フランス語発展1		1	
		フランス語発展2		1	
		フランス語総合1		1	
		フランス語総合2		1	
		ドイツ語基礎1		1	

薬学部薬学科

別表(1)

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		ドイツ語基礎 2		1	
		ドイツ語発展 1		1	
		ドイツ語発展 2		1	
		ドイツ語総合 1		1	
		ドイツ語総合 2		1	
		スペイン語基礎 1		1	
		スペイン語基礎 2		1	
		スペイン語発展 1		1	
		スペイン語発展 2		1	
		スペイン語総合 1		1	
		スペイン語総合 2		1	
		韓国語基礎 1		1	
		韓国語基礎 2		1	
		韓国語発展 1		1	
		韓国語発展 2		1	
		韓国語総合 1		1	
		韓国語総合 2		1	
		留学準備 1		1	
		留学準備 2		1	
		英語資格・検定試験対策 1		1	
		英語資格・検定試験対策 2		1	
		【CHP】			
		SDG s 基礎	1		
		SDG s 発展 1	1		
		SDG s 発展 2	1		
		SDG s 発展 3	1		
		SDG s 特講		2	
		【フィールド・スタディーズ】			
		フィールド・スタディーズ		1	
		フィールド・スタディーズ 1		1	
		フィールド・スタディーズ 2		2	
		フィールド・スタディーズ 3		3	
		フィールド・スタディーズ 4		4	
		フィールド・スタディーズ発展 1 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 1 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 1 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展 1 D		4	
		フィールド・スタディーズ発展 2 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 2 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 2 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展 2 D		4	
		フィールド・スタディーズ発展 2 E		5	
		フィールド・スタディーズ発展 3 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 3 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 3 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展 3 D		4	
		フィールド・スタディーズ発展 3 E		5	
		フィールド・スタディーズ発展 4 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 4 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 4 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展 4 D		4	

薬学部薬学科

別表(1)

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		【全学教養ゼミナール】			
		全学教養ゼミナール1		2	
		全学教養ゼミナール2		2	
		【寄付講座】			
		武蔵野市自由講座		2	
		【学科科目】			
		<薬学準備教育科目>			
		基礎物理学	2		
		薬学物理化学	2		
		薬学数学1	2		
		薬学数学2	2		
		薬学統計学	2		
		基礎化学	2		
		薬学化学1	2		
		薬学化学2	2		
		基礎生物学	2		
		薬学生物学	2		
		医療統計学・生物学的試験法		2	
		生命倫理・医療倫理学	2		
		死生学	2		
		<薬学基幹科目>			
		薬学概論・レギュラトリーサイエンス概論	1		
		早期体験実習	1		
		薬学総合演習1	3		
		薬学総合演習2	2		
		薬学総合演習3	4		
		卒業研究1	8		
		卒業研究2	8		
		研究者養成コース薬学研究		2	
		<物理系薬学を学ぶ>			
		医薬品分析化学1	2		
		医薬品分析化学2	2		
		医薬品物理化学	2		
		放射性医薬品学	1		
		物理系実験実習1	1		
		物理系実験実習2	1		
		<化学系薬学を学ぶ>			
		有機化学1	2		
		有機化学2	2		
		有機化学3	2		
		有機化学4	2		
		生薬化学1	1		
		生薬化学2	2		
		化学系実験実習1	1		
		化学系実験実習2	1		
		<生物系薬学を学ぶ>			

薬学部薬学科

別表(1)

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		解剖学 1	2		
		解剖学 2	2		
		生理学 1	2		
		生理学 2	2		
		生化学 1	2		
		生化学 2	2		
		分子生物学	2		
		微生物医薬品学 1	2		
		微生物医薬品学 2	2		
		生物系実験実習 1	1		
		生物系実験実習 2	1		
		生物系実験実習 3	1		
		< 衛生薬学を学ぶ >			
		栄養代謝化学	2		
		食品衛生学	2		
		環境衛生学 1	2		
		環境衛生学 2	2		
		公衆衛生学	2		
		衛生薬学実験実習	1		
		< 医療薬学を学ぶ >			
		薬理学 1	2		
		薬理学 2	2		
		薬理学 3	2		
		薬効安全性学	1		
		薬物療法学 1	2		
		薬物療法学 2	2		
		薬物動態学 1	2		
		薬物動態学 2	2		
		物理薬剤学	2		
		製剤学	2		
		天然薬物学	1		
		一般用医薬品学	2		
		医薬品情報学	1		
		薬業経済学	1		
		病態学 1	2		
		病態学 2	2		
		医薬品開発学	2		
		臨床生化学・臨床検査学	2		
		医療薬学実験実習 1	1		
		医療薬学実験実習 2	1		
		医療薬学実験実習 3	1		
		医療薬学実験実習 4	1		
		漢方治療学		1	
		薬局経営論		1	
		< 薬学臨床を学ぶ >			
		臨床薬剤学 1	2		
		臨床薬剤学 2	2		
		薬剤疫学	1		
		臨床薬学	2		
		臨床調剤学	2		

薬

薬学部薬学科

別表(1)

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		臨床薬物治療学	2		
		基礎調剤実習	1		
		臨床調剤学実習	1		
		事前実習	4		
		病院薬局実務実習	12		
		保険薬局実務実習	12		
		<法規・制度を学ぶ>			
		薬事行政(制度)・関係法規	2		
		<香粧薬学系科目を学ぶ>			
		香粧品学概論		1	
		香粧品学 1		2	
		香粧品学 2		2	
		<製薬産業系科目を学ぶ>			
		製薬産業論		1	
		化粧品産業論		1	
		臨床開発各論		1	
		<キャリア開発科目>			
		キャリアデザイン 1	1		
		キャリアデザイン 2		1	
		インターンシップ 1 (企業)		1	
		インターンシップ 2 (病院・薬局)		1	
		<グローバル薬学科目>			
		薬学英语 1		1	
		薬学英语 2		1	
		薬学英语 3		1	
		International Lectures 1(pharm)		1	
		International Lectures 2(pharm)		1	

看護学部看護学科

別表（1）

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
看護学部 看護学科		【共通科目】			
		【建学】			
		仏教（生き方を考える）基礎	2		
		仏教（生き方を考える）発展	2		
		【スポーツ・身体】			
		スポーツと身体科学		1	
		フィールド・スポーツ		1	
		【情報】			
		データサイエンス基礎	1		
		人工知能基礎	1		
		メディアリテラシー		1	
		情報技法基礎		1	
		情報技法発展A		1	
		情報技法発展B		1	
		情報技法発展C		1	
		プログラミング基礎		1	
		プログラミング発展A		1	
		プログラミング発展B		1	
		人工知能技術と社会		1	
		機械学習活用1		1	
		機械学習活用2		1	
		データサイエンス活用1		1	
		データサイエンス活用2		1	
		メディアデザイン		1	
		サービスデザイン		1	
		人工知能実践プロジェクト		2	
		【外国語】			
		英語基礎A	2		
		英語基礎B		1	
		英語基礎C	2		
		英語基礎D		1	
		英語発展A		1	
		英語発展B		1	
		英語発展C		1	
		英語発展D		1	
		英語総合A		1	
		英語総合B		1	
		中国語基礎1		1	
		中国語基礎2		1	
		中国語発展1		1	
		中国語発展2		1	
		中国語総合1		1	
		中国語総合2		1	
		フランス語基礎1		1	
		フランス語基礎2		1	
		フランス語発展1		1	
		フランス語発展2		1	
		フランス語総合1		1	
		フランス語総合2		1	
		ドイツ語基礎1		1	

看護学部看護学科

別表(1)

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		ドイツ語基礎 2		1	
		ドイツ語発展 1		1	
		ドイツ語発展 2		1	
		ドイツ語総合 1		1	
		ドイツ語総合 2		1	
		スペイン語基礎 1		1	
		スペイン語基礎 2		1	
		スペイン語発展 1		1	
		スペイン語発展 2		1	
		スペイン語総合 1		1	
		スペイン語総合 2		1	
		韓国語基礎 1		1	
		韓国語基礎 2		1	
		韓国語発展 1		1	
		韓国語発展 2		1	
		韓国語総合 1		1	
		韓国語総合 2		1	
		留学準備 1		1	
		留学準備 2		1	
		英語資格・検定試験対策 1		1	
		英語資格・検定試験対策 2		1	
		【CHP】			
		SDG s 基礎	1		
		SDG s 発展 1	1		
		SDG s 発展 2	1		
		SDG s 発展 3	1		
		SDG s 特講		2	
		【フィールド・スタディーズ】			
		フィールド・スタディーズ	1		
		フィールド・スタディーズ 1		1	
		フィールド・スタディーズ 2		2	
		フィールド・スタディーズ 3		3	
		フィールド・スタディーズ 4		4	
		フィールド・スタディーズ発展 1 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 1 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 1 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展 1 D		4	
		フィールド・スタディーズ発展 2 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 2 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 2 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展 2 D		4	
		フィールド・スタディーズ発展 2 E		5	
		フィールド・スタディーズ発展 3 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 3 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 3 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展 3 D		4	
		フィールド・スタディーズ発展 3 E		5	
		フィールド・スタディーズ発展 4 A		1	
		フィールド・スタディーズ発展 4 B		2	
		フィールド・スタディーズ発展 4 C		3	
		フィールド・スタディーズ発展 4 D		4	

看護

看護学部看護学科

別表（１）

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		【インターンシップ】			
		インターンシップ		1	
		企業協働プロジェクト		2	
		【全学教養ゼミナール】			
		全学教養ゼミナール 1		2	
		全学教養ゼミナール 2		2	
		【寄付講座】			
		武蔵野市自由講座		2	
		【学科教養科目】			
		日本国憲法		2	教職必修
		社会学		2	
		基礎生物		2	
		基礎化学		2	
		心理学の基礎 1		2	
		心理学の基礎 2		2	
		人間工学		2	
		ケアマネジメント論		2	
		家族関係論		2	
		死生学		2	
		フィールド・スタディーズ発展（看護）		4	
		【学科科目】			
		【専門基礎科目】			
		体の働き 1（形態）	1		
		体の働き 2（機能）	1		
		病理学	2		
		疾病治療論 1（急性期）	2		
		疾病治療論 2（慢性期）	2		
		疾病治療論 3（母子）	2		
		疾病治療論 4（感染と免疫）	1		
		疾病治療論 5（精神）	1		
		栄養学	1		
		薬理学	2		
		公衆衛生学	2		
		疫学総論	2		
		保健統計学	2		
		保健医療福祉行政論	2		
		保健医療福祉行政論 2		1	保健師は必修
		生命倫理・医療倫理学	1		
		健康保健学		2	
		健康環境論		2	
		臨床栄養学		1	養護教諭は必修
		精神保健論		1	
		むさしの I P E（保健医療福祉専門職と社会の連携教育）		1	
		セクシュアリティ論		1	
		【看護学・看護実践の基礎】			
		看護学概論	2		
		看護政策論	1		
		基礎看護実習	3		

看護学部看護学科

別表（1）

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		基礎看護実践論 1（看護実践の基礎）	1		
		基礎看護実践論 2（ヘルスアセスメント技術）	2		
		基礎看護実践論 3（基本技術・診療技術）	1		
		基礎看護実践論 4（生活行動援助技術）	2		
		基礎看護実践論 5（シミュレーション）	1		
		看護倫理	1		
		【健康増進・予防と看護】			
		ヘルスプロモーション概論 1（個人・家族・集団・地域）	1		
		ヘルスプロモーション概論 2（リプロダクティブヘルス・小児期）	2		
		ヘルスプロモーション概論 3（成人期・老年期）	2		
		ヘルスプロモーション各論 1（リプロダクティブヘルス）	2		
		ヘルスプロモーション各論 2（家族）	1		
		ヘルスプロモーション演習 1（基本看護技術）	1		
		ヘルスプロモーション演習 2（リプロダクティブヘルス看護技術）	1		
		ヘルスプロモーション演習 3（シミュレーション）	1		
		ヘルスプロモーション実習 1（個人・家族・集団・地域）	3		
		ヘルスプロモーション実習 2（リプロダクティブヘルス）	2		
		【健康段階における看護】			
		＜急性期における看護＞			
		急性期看護概論	1		
		急性期小児看護論	1		
		急性期成人看護論	1		
		急性期老年看護論	1		
		急性期精神看護論	1		
		急性期看護演習 1（成人看護・老年看護）	2		
		急性期看護演習 2（小児看護・精神看護）	1		
		急性期看護演習 3（シミュレーション）	1		
		急性期看護実習 1（成人看護・老年看護）	3		
		急性期看護実習 2（小児看護）	1		
		＜慢性期における看護＞			
		慢性期看護概論	1		
		慢性期小児看護論	1		
		慢性期成人看護論	1		
		慢性期老年看護論	1		
		慢性期精神看護論	1		
		在宅看護論	1		
		慢性期看護演習 1（基本看護技術）	2		
		慢性期看護演習 2（在宅看護技術）	1		
		慢性期看護演習 3（シミュレーション）	1		
		慢性期看護実習 1（成人看護・老年看護）	3		
		慢性期看護実習 2（精神看護）	2		
		慢性期看護実習 3（在宅看護）	1		
		【集団・地域の健康問題に関わる看護】			
		地域看護論	2		
		地域看護論演習	1		
		地域看護論実習	2		
		公衆衛生看護管理論		1	} 保健師は必修
		公衆衛生看護診断論演習		1	
		公衆衛生看護論実習		4	

看護学部看護学科

別表（１）

学 科	区 分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
		【看護統合】 看護研究 1 看護研究 2 看護ゼミ 災害看護 1（基礎編） 災害看護 2（実践編） エンドオブライフケア 看護管理・政策論 総合看護演習 統合実習	1 3 1 1 1 1 1 1 3		
		【自由選択科目】 [心理コース] 認知心理学 1 認知心理学 2 カウンセリング論 心理療法論		2 2 2 2	} 認定心理士は必修
		[医薬コース] 薬物療法学 臨床医薬品概説 医療美粧論 生薬療法（漢方） 一般用医薬品学		1 2 1 1 1	
		[養護教諭コース] 養護概説 学校保健		2 2	} 養護教諭は必修

別表(1)－3

(第12条関係)

上限単位数

文学部	1年生	2年生	3年生	4年生	合 計
日本文学文化学科	40	44	44	32	160単位

グローバル学部	1年生	2年生	3年生	4年生	合 計
グローバルコミュニケーション学科	40	40	40	40	160単位
日本語コミュニケーション学科	40	40	40	40	160単位
グローバルビジネス学科	40	40	40	40	160単位

備考 4月以外に入学した者の履修上限単位数については別に定める。

法学部	1年生	2年生	3年生	4年生	合 計
法律学科	40	44	44	32	160単位
政治学科	40	40	40	40	160単位

経済学部	1年生	2年生	3年生	4年生	合 計
経済学科	40	40	40	40	160単位

経営学部	1年生	2年生	3年生	4年生	合 計
経営学科	40	40	40	40	160単位
会計ガバナンス学科	40	40	40	40	160単位

アントレプレナーシップ学部	1年生	2年生	3年生	4年生	合 計
アントレプレナーシップ学科	40	40	40	40	160単位

データサイエンス学部	1年生	2年生	3年生	4年生	合 計
データサイエンス学科	40	42	44	34	160単位

人間科学部	1年生	2年生	3年生	4年生	合 計
人間科学科	40	42	42	36	160単位
社会福祉学科	44	42	39	35	160単位

ウェルビーイング学部	1年生	2年生	3年生	4年生	合 計
ウェルビーイング学科	45	45	40	30	160単位

工学部	1年生	2年生	3年生	4年生	合 計
サステナビリティ学科	40	40	40	40	160単位
数理工学科	40	40	40	40	160単位
建築デザイン学科	36	46	46	32	160単位

教育学部	1年生	2年生	3年生	4年生	合 計
教育学科	50	58	54	32	194単位
幼児教育学科	47	44	44	32	167単位

備考 上限単位数に含めない科目は別に定める。

薬学部薬学科(6年制)及び看護学部看護学科は履修科目の上限を各学年50単位以内とする。

ただし、薬学部薬学科(6年制)の1年生については履修上限を56単位以内とする。

文学部日本文学文化学科及び法学部法律学科に平成30年3月31日以前から在籍している者については、別に定める。

別表(1)－3 上限単位数

別表（２）

教職関連科目

学 部	区 分	授 業 科 目	単 位 数		備 考
			必修	選択	
文学部		教師論	2		
工学部		教職特殊研究A		2	
(数理工学科のみ)		教職特殊研究B		2	
看護学部		教育原理	2		
		発達と学習	2		
		学校の制度	2		
		特別支援教育	2		
		教育課程論	2		
		国語科指導法A		2	必修 (免許状取得科目を履修)
		国語科指導法B		2	
		書道科指導法A		2	
		書道科指導法B		2	
		数学科指導法A		2	
		数学科指導法B		2	
		国語科教育法A		2	一部必修 (免許状取得科目を履修)
		国語科教育法B		2	
		書道科教育法		2	
		数学科教育法A		2	
		数学科教育法B		2	
		道德教育の理論と方法		2	必修(中1種免)
		道德教育の理論と方法(総合的な学習の時間及び特別活動を含む)		2	必修(看護学部)
		特別活動及び総合的な学習の時間の指導法		2	必修(看護学部を除く)
		教育方法論(情報通信技術の活用含む)	2		
		生徒指導・進路指導論	2		
		教育相談(カウンセリングを含む)	2		
		教育実習 I		3	必修(中1種免・高1種免)
		教育実習 II		2	必修(中1種免)
		養護実習		5	必修(看護学部)
		教職実践演習(中・高)		2	必修(中1種免・高1種免)
		教職実践演習(養護教諭)		2	必修(看護学部)

別表(3)

司書に関する科目

区分 学部	授 業 科 目	単 位 数		備 考
		必修	選択	
文学部	〔司書に関する科目〕			
グローバル学部	生涯学習概論	2		
(グローバルコミュニケーション学科のみ)	図書館概論	2		
法学部	図書館情報技術論	2		
経済学部	図書館制度・経営論	2		
(経済学科のみ)	図書館サービス概論	2		
人間科学部	情報サービス論	2		
	情報サービス演習Ⅰ	1		
	情報サービス演習Ⅱ	1		
	図書館情報資源概論	2		
	情報資源組織論	2		
	情報資源組織演習Ⅰ	1		
	情報資源組織演習Ⅱ	1		
	児童サービス論	2		
	図書館情報資源特論		2	2科目(4単位) 選択必修
	図書・図書館史		2	
	図書館基礎特論		2	

別表(4)

司書教諭に関する科目

区分 学部	授 業 科 目	単 位 数		備 考
		必修	選択	
文学部	〔司書教諭に関する科目〕			
教育学部	学校経営と学校図書館	2		
	学校図書館メディアの構成	2		
	学習指導と学校図書館	2		
	読書と豊かな人間性	2		
	情報メディアの活用	2		

別表(6)

学 部	授業科目	単位数		備考
		必修	選択	
グローバル学部 (日本語コミュニケーション学科のみ)	【日本語教員養成に関する科目】			
	【社会・文化・地域】			
	日本研究（歴史・地域・メディア）A		2	2単位選択必修
	日本研究（歴史・地域・メディア）B		2	
	日本研究（歴史・地域・メディア）C		2	
	日本研究（歴史・地域・メディア）D		2	
	【言語と社会】			
	異文化コミュニケーションA	2		
	異文化コミュニケーションB	2		
	【言語と心理】			
	第二言語習得理論A	2		
	第二言語習得理論B	2		
	【言語と教育】			
	日本語教授法概論A	2		
	日本語教授法概論B	2		
	日本語実践教育A		2	2単位選択必修
	日本語実践教育B		2	
	日本語教育学各論A		2	
	日本語教育学各論B		2	
	日本語教育実習	4		
	【言語】			
	日本語学概論	2		
	日本語学各論A		2	4単位選択必修
	日本語学各論B		2	
	音声学基礎A		2	
	音声学基礎B		2	
	日本語教育文法A		2	
	日本語教育文法B		2	

別表 (7) 学費

〔文学部日本文学文化学科〕

学 費	金 額
入 学 金	180,000 円
授 業 料	770,000 円
教 育 充 実 費	178,000 円

〔グローバル学部グローバルコミュニケーション学科、グローバルビジネス学科〕

学 費	金 額
入 学 金	180,000 円
授 業 料	870,000 円
教 育 充 実 費	250,000 円

〔グローバル学部日本語コミュニケーション学科〕

学 費	金 額
入 学 金	180,000 円
授 業 料	770,000 円
教 育 充 実 費	250,000 円

〔法学部法律学科、政治学科〕

学 費	金 額
入 学 金	180,000 円
授 業 料	820,000 円
教 育 充 実 費	178,000 円

〔経済学部経済学科〕

学 費	金 額
入 学 金	180,000 円
授 業 料	770,000 円
教 育 充 実 費	178,000 円

〔経営学部経営学科、会計ガバナンス学科〕

学 費	金 額
入 学 金	180,000 円
授 業 料	770,000 円
教 育 充 実 費	178,000 円

〔アントレプレナーシップ学部アントレプレナーシップ学科〕

学 費	金 額
入 学 金	180,000 円
授 業 料	770,000 円
教 育 充 実 費	260,000 円

〔データサイエンス学部データサイエンス学科〕

学 費	金 額
入 学 金	180,000 円
授 業 料	970,000 円
教 育 充 実 費	260,000 円

〔人間科学部人間科学科、社会福祉学科〕

学 費	金 額
入 学 金	180,000 円
授 業 料	820,000 円
教 育 充 実 費	178,000 円

〔ウェルビーイング学部ウェルビーイング学科〕

学 費	金 額
入 学 金	180,000 円
授 業 料	1,020,000 円
教 育 充 実 費	275,000 円

別表 (7) 学費

〔工学部サステナビリティ学科〕

学 費	金 額
入 学 金	180,000 円
授 業 料	1,020,000 円
教 育 充 実 費	275,000 円

〔工学部数理工学科〕

学 費	金 額
入 学 金	180,000 円
授 業 料	1,100,000 円
教 育 充 実 費	325,000 円

〔工学部建築デザイン学科〕

学 費	金 額
入 学 金	180,000 円
授 業 料	990,000 円
教 育 充 実 費	330,000 円

〔教育学部教育学科〕

学 費	金 額
入 学 金	180,000 円
授 業 料	870,000 円
教 育 充 実 費	222,000 円

〔教育学部幼児教育学科〕

学 費	金 額
入 学 金	180,000 円
授 業 料	820,000 円
教 育 充 実 費	222,000 円

〔薬学部薬学科〕

学 費	金 額
入 学 金	180,000 円
授 業 料	1,400,000 円
教 育 充 実 費	470,000 円

〔看護学部看護学科〕

学 費	金 額
入 学 金	180,000 円
授 業 料	1,220,000 円
教 育 充 実 費	300,000 円

1. 授業料は2年次以降据え置きとし、前期分、後期分の2期に分納する。
2. 教育充実費については、2年次以降 日本文学文化学科、法律学科、政治学科、経済学科、経営学科、会計ガバナンス学科は年額278,000円、グローバルコミュニケーション学科、日本語コミュニケーション学科、グローバルビジネス学科は年額350,000円、アントレプレナーシップ学科、データサイエンス学科は年額360,000円、社会福祉学科は年額278,000円、人間科学科は年額278,000円、ウェルビーイング学科、サステナビリティ学科は年額275,000円、数理工学科は年額325,000円、教育学科、幼児教育学科は年額312,000円、薬学科は年額530,000円、看護学科は400,000円、建築デザイン学科は、2年次に年額380,000円、3年次以降に年額450,000円を前期分、後期分の2期に分納する。
3. 実費弁償分の実験実習料については、別に定める。
4. (削除)
5. 科目等履修生の履修料については別に定める。
6. 同一法人卒業生の入学金については別に定める。

別表(8)

一級建築士並びに二級建築士及び木造建築士受験資格取得に係る科目

専門分野	授 業 科 目	単位数		備 考
		必修	選択	
建築設計製図	基礎デザイン2 設計製図1 設計製図2 設計製図3 設計製図4	2 4 4	4 4	一級建築士指定科目として7単位以上修得 二級・木造建築士指定科目として3単位以上修得
建築計画	住居史 住居論 西洋の建築 アジアの建築 日本の建築 建築景観論 設計方法論 建築計画	2 2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	一級建築士指定科目として7単位以上修得 二級・木造建築士指定科目として2単位以上修得
建築環境工学	光環境 音環境 建築と環境		2 2 2	一級建築士指定科目として2単位以上修得
建築設備	建築設備1 建築設備2 建築環境論		2 2 2	一級建築士指定科目として2単位以上修得
構造力学	構造力学1 構造力学演習1 構造力学2 構造力学演習2 構造力学3		2 2 2 2 2	一級建築士指定科目として4単位以上修得 二級・木造建築士指定科目として3単位以上修得
建築一般構造	建築構造 建築構造デザイン	2 2		一級建築士指定科目として3単位以上修得
建築材料	建築材料	2		一級建築士指定科目として2単位以上修得
建築生産	建築施工法	2		一級建築士指定科目として2単位以上修得 二級・木造建築士指定科目として1単位以上修得
建築法規	建築法規	2		一級建築士指定科目として1単位以上修得 二級・木造建築士指定科目として1単位以上修得
その他	デザインテクノロジー発展1 デザインテクノロジー発展2 デザインテクノロジー発展3 デザインテクノロジー発展4 住宅衛生 インテリアデザイン1 インテリアデザイン2 都市防災 都市環境 防災まちづくり論 建築文化論		2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	一級建築士指定科目として、上記区分ごとの単位を含め、実務経験2年は60単位以上、3年は50～59単位、4年は40～49単位修得 二級・木造建築士指定科目として、上記区分ごとの単位を含め、実務経験0年は40単位以上、1年が30～39単位、2年は20～29単位修得

別表（９）											
保 育 士 資 格 課 程 科 目											
告示※による教科目				授 業 科 目 名	単位数		授業 時間数 （時間）	開講 学年	授業 形態	備 考	
系 列	教科目	単位数			必修	選択					
教 養 科 目	外国語、体育以外の科目	10以上	6以上	仏教（生き方を考える）基礎	2		30	1	講義		
				仏教（生き方を考える）発展	2		30	3	講義		
				データサイエンス基礎	1		30	1	演習		
	外国語（演習）		2以上	英語基礎A	2		30	1	演習		
				英語基礎C	2		30	1	演習		
体育（講義）	1	1	体育講義	1		15	1	講義			
			体育（実技）	1		30	1	実技			
必修科目	保育の本質・目的に関する科目	2		保育原理（講義）	2		30	1	講義		
				教育原理（講義）	2		30	1	講義		
				子ども家庭福祉（講義）	2		30	2	講義		
				社会福祉（講義）	2		30	1	講義		
				子ども家庭支援論（講義）	2		30	3	講義		
				社会的養護Ⅰ（講義）	2		30	2	講義		
				保育者論（講義）	2		30	1	講義		
	保育の対象の理解に関する科目	2		保育の心理学（講義）	2		30	1	講義		
				子ども家庭支援の心理学（講義）	2		30	2	講義		
				子どもの理解と援助（演習）	1		30	3	演習		
				子どもの保健（講義）	2		30	2	講義		
				子どもの食と栄養（演習）	2		60	3	演習		
	保育の内容・方法に関する科目	2		保育の計画と評価（講義）	2		30	2	講義		
				保育内容総論（演習）	1		30	1	演習		
		5		保育内容（健康）	1		30	1	演習		
				保育内容（人間関係）	1		30	2	演習		
				保育内容（環境）	1		30	2	演習		
				保育内容（言葉）	1		30	2	演習		
		4		保育内容（表現）	1		30	1	演習		
				ブレ実習（保育内容の理解と方法）	1		30	1	演習		
				保育内容指導法（身体表現）Ⅰ	1		30	2	演習		
	必修科目	保育の内容・方法に関する科目	1		保育内容指導法（造形表現）Ⅰ	1		30	2	演習	
					保育内容指導法（音楽表現）Ⅰ	1		30	2	演習	
児童文化					1		30	2	演習		
乳児保育Ⅰ					2		30	2	講義		
乳児保育Ⅱ（演習）					1		30	3	演習		
子どもの健康と安全（演習）					1		30	3	演習		
保育実習		4		障害児保育（演習）	2		60	3	演習	配属実習45時間（1単位あたり） 配属実習45時間（1単位あたり）	
	社会的養護Ⅱ（演習）			1		30	3	演習			
	子育て支援（演習）			1		30	3	演習			
総合演習	2		保育実習Ⅰ（実習）	2		90	3	実習			
			保育実習Ⅰ（施設）	2		90	2	実習			
			保育実習指導Ⅰ（演習）	2		30	3	演習			
選択必修科目	保育の本質・目的に関する科目			保育実習指導Ⅰ（施設）	1		30	2	演習		
				保育実践演習（演習）	2		60	4	演習		
	保育の対象の理解に関する科目			保育実習Ⅱ（実習）	2		90	3	実習		
				保育実習Ⅱ（施設）	2		90	2	実習		
	保育の内容・方法に関する科目	18以上		保育実習指導Ⅱ（演習）	1		30	3	演習	保育実習Ⅱ・保育実習指導Ⅱ（3単位）又は保育実習Ⅲ・保育実習指導Ⅲ（3単位）を含め、9単位以上	
				保育実習指導Ⅲ（演習）	1		30	3	演習		
				保育実習Ⅲ（実習）	2		90	3	実習		
				保育実習Ⅲ（施設）	2		90	2	実習		
				保育実習指導Ⅳ（演習）	1		30	3	演習		
				保育実習指導Ⅳ（施設）	1		30	3	演習		
				保育実習指導Ⅴ（演習）	1		30	3	演習		
				保育実習指導Ⅴ（施設）	1		30	3	演習		
				保育実習指導Ⅵ（演習）	1		30	3	演習		
				保育実習指導Ⅵ（施設）	1		30	3	演習		
				保育実習指導Ⅶ（演習）	1		30	3	演習		
				保育実習指導Ⅶ（施設）	1		30	3	演習		
				保育実習指導Ⅷ（演習）	1		30	3	演習		
				保育実習指導Ⅷ（施設）	1		30	3	演習		
				保育実習指導Ⅸ（演習）	1		30	3	演習		
				保育実習指導Ⅸ（施設）	1		30	3	演習		
				保育実習指導Ⅹ（演習）	1		30	3	演習		
				保育実習指導Ⅹ（施設）	1		30	3	演習		
				保育実習	2以上		保育実習Ⅳ（実習）	2			90
保育実習Ⅳ（施設）	2		90				3	実習			
保育実習指導Ⅺ（演習）	1		30				3	演習			
保育実習	1以上		保育実習指導Ⅺ（施設）	1		30	3	演習			
			保育実習指導Ⅻ（演習）	1		30	3	演習			
保育実習	1以上		保育実習指導Ⅻ（施設）	1		30	3	演習			
			保育実習指導Ⅼ（演習）	1		30	3	演習			
保育実習	1以上		保育実習指導Ⅼ（施設）	1		30	3	演習			
			保育実習指導Ⅽ（演習）	1		30	3	演習			
保育実習	1以上		保育実習指導Ⅽ（施設）	1		30	3	演習			
			保育実習指導Ⅾ（演習）	1		30	3	演習			
保育実習	1以上		保育実習指導Ⅾ（施設）	1		30	3	演習			
			保育実習指導Ⅿ（演習）	1		30	3	演習			
保育実習	1以上		保育実習指導Ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
			保育実習指導ⅰ（演習）	1		30	3	演習			
保育実習	1以上		保育実習指導ⅰ（施設）	1		30	3	演習			
			保育実習指導ⅱ（演習）	1		30	3	演習			
保育実習	1以上		保育実習指導ⅱ（施設）	1		30	3	演習			
			保育実習指導ⅲ（演習）	1		30	3	演習			
保育実習	1以上		保育実習指導ⅲ（施設）	1		30	3	演習			
			保育実習指導ⅴ（演習）	1		30	3	演習			
保育実習	1以上		保育実習指導ⅴ（施設）	1		30	3	演習			
			保育実習指導ⅵ（演習）	1		30	3	演習			
保育実習	1以上		保育実習指導ⅵ（施設）	1		30	3	演習			
			保育実習指導ⅶ（演習）	1		30	3	演習			
保育実習	1以上		保育実習指導ⅶ（施設）	1		30	3	演習			
			保育実習指導ⅷ（演習）	1		30	3	演習			
保育実習	1以上		保育実習指導ⅷ（施設）	1		30	3	演習			
			保育実習指導ⅸ（演習）	1		30	3	演習			
保育実習	1以上		保育実習指導ⅸ（施設）	1		30	3	演習			
			保育実習指導ⅹ（演習）	1		30	3	演習			
保育実習	1以上		保育実習指導ⅹ（施設）	1		30	3	演習			
			保育実習指導ⅺ（演習）	1		30	3	演習			
保育実習	1以上		保育実習指導ⅺ（施設）	1		30	3	演習			
			保育実習指導ⅻ（演習）	1		30	3	演習			
保育実習	1以上		保育実習指導ⅻ（施設）	1		30	3	演習			
			保育実習指導ⅼ（演習）	1		30	3	演習			
保育実習	1以上		保育実習指導ⅼ（施設）	1		30	3	演習			
			保育実習指導ⅽ（演習）	1		30	3	演習			
保育実習	1以上		保育実習指導ⅽ（施設）	1		30	3	演習			
			保育実習指導ⅾ（演習）	1		30	3	演習			
保育実習	1以上		保育実習指導ⅾ（施設）	1		30	3	演習			
			保育実習指導ⅿ（演習）	1		30	3	演習			
保育実習	1以上		保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
			保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
保育実習	1以上		保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
			保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
保育実習	1以上		保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
			保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
保育実習	1以上		保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
			保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
保育実習	1以上		保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
			保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
保育実習	1以上		保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
			保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
保育実習	1以上		保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
			保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
保育実習	1以上		保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
			保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
保育実習	1以上		保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
			保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
保育実習	1以上		保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
			保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
保育実習	1以上		保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
			保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
保育実習	1以上		保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
			保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
保育実習	1以上		保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
			保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
保育実習	1以上		保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
			保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
保育実習	1以上		保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
			保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
保育実習	1以上		保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
			保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
保育実習	1以上		保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
			保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
保育実習	1以上		保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
			保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
保育実習	1以上		保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
			保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
保育実習	1以上		保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
			保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
保育実習	1以上		保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
			保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
保育実習	1以上		保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
			保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
保育実習	1以上		保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
			保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
保育実習	1以上		保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
			保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
保育実習	1以上		保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
			保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
保育実習	1以上		保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
			保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
保育実習	1以上		保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
			保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
保育実習	1以上		保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
			保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
保育実習	1以上		保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
			保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
保育実習	1以上		保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
			保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
保育実習	1以上		保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
			保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
保育実習	1以上		保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
			保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
保育実習	1以上		保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
			保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
保育実習	1以上		保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
			保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
保育実習	1以上		保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
			保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
保育実習	1以上		保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
			保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
保育実習	1以上		保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
			保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
保育実習	1以上		保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
			保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
保育実習	1以上		保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
			保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
保育実習	1以上		保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
			保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
保育実習	1以上		保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
			保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
保育実習	1以上		保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
			保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
保育実習	1以上		保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
			保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
保育実習	1以上		保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
			保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			
保育実習	1以上		保育実習指導ⅿ（施設）	1		30	3	演習			

※児童福祉法施行規則第6条の2第1項第3号の指定保育士養成施設の修業教科目及び単位数並びに履修方法（厚生労働省告示第百九十八号）

別表(10)

社会福祉士受験資格取得に係る科目

指 定 科 目 名	開 講 科 目 名	授業 形態	単位		必要 時間数(h)	備考
			必修	選択		
人・社会・生活と福祉の理解に関する知識と方法						
医学概論	医学概論	講義	2		30	
心理学と心理的支援	心理学と心理的支援	講義	2		30	
社会学と社会システム	社会学と社会システム	講義	2		30	
社会福祉の原理と政策	社会福祉の原理と政策1	講義	2		30	
	社会福祉の原理と政策2	講義	2		30	
社会福祉調査の基礎	社会福祉調査の基礎	講義	2		30	
総合的かつ包括的な相談援助の理念と方法に関する知識と技術						
ソーシャルワークの基盤と専門職	ソーシャルワークの基盤と専門職1	講義	2		30	
ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)	ソーシャルワークの基盤と専門職2	講義	2		30	
ソーシャルワークの理論と方法	ソーシャルワークの理論と方法1	講義	2		30	
	ソーシャルワークの理論と方法2	講義	2		30	
ソーシャルワークの理論と方法(専門)	ソーシャルワークの理論と方法3	講義	2		30	
	ソーシャルワークの理論と方法4	講義	2		30	
地域福祉の基盤整備と開発に関する知識と技術						
地域福祉と包括的支援体制	地域福祉と包括的支援体制1	講義	2		30	
	地域福祉と包括的支援体制2	講義	2		30	
福祉サービスの組織と経営	福祉サービスの組織と経営	講義	2		30	
サービスに関する知識						
社会保障	社会保障1	講義	2		30	
	社会保障2	講義	2		30	
高齢者福祉	高齢者福祉	講義	2		30	
障害者福祉	障害者福祉	講義	2		30	
児童・家庭福祉	児童・家庭福祉	講義	2		30	
貧困に対する支援	貧困に対する支援	講義	2		30	
保健医療と福祉	保健医療と福祉	講義	2		30	
権利擁護を支える法制度	権利擁護を支える法制度	講義	2		30	
刑事司法と福祉	刑事司法と福祉	講義	2		30	
実習・演習						
ソーシャルワーク演習	ソーシャルワーク演習1	演習	2		30	
ソーシャルワーク演習(専門)	ソーシャルワーク演習2	演習	2		30	
	ソーシャルワーク演習3	演習	2		30	
	ソーシャルワーク演習4	演習	2		30	
	ソーシャルワーク演習5	演習		2	30	
ソーシャルワーク実習指導	ソーシャルワーク実習指導1	実習		2	30	
	ソーシャルワーク実習指導2	実習		2	30	
	ソーシャルワーク実習指導3	実習		2	30	
ソーシャルワーク実習	ソーシャルワーク実習	実習		5	240	

別表(11)

精神保健福祉士受験資格取得に係る科目

指 定 科 目 名	開 講 科 目 名	授業 形態	単位		必要 時間数(h)	備考
			必修	選択		
共通科目						「心理学概論Ⅰ」 「心理学概論Ⅱ」に ついては両方履修 することで1科目とみ なす ※「心理学概論Ⅰ」 「心理学概論Ⅱ」は 学科指定科目
医学概論	医学知識(人体の構造と機能及び疾病)	講義	2		30	
心理学と心理的支援	心理学概論Ⅰ	講義	2		30	
	心理学概論Ⅱ	講義	2			
社会学と社会システム	社会学	講義	2		30	
社会福祉の原理と政策	社会福祉の原理と政策Ⅰ	講義	2		30	
	社会福祉の原理と政策Ⅱ	講義	2		30	
地域福祉と包括的支援体制	地域福祉論Ⅰ	講義	2		30	
	地域福祉論Ⅱ	講義	2		30	
社会保障	社会保障Ⅰ	講義	2		30	
	社会保障Ⅱ	講義	2		30	
障害者福祉	障害者福祉論	講義	2		30	
権利擁護を支える法制度	権利擁護を支える法制度	講義	2		30	
刑事司法と福祉	刑事司法と福祉	講義	2		30	
社会福祉調査の基礎	社会調査法	講義	2		30	
専門科目						
精神医学と精神医療	精神医学(精神疾患とその治療)Ⅰ	講義	2		30	
	精神医学(精神疾患とその治療)Ⅱ	講義	2		30	
現代の精神保健の課題と支援	メンタルヘルス論Ⅰ	講義	2		30	
	メンタルヘルス論Ⅱ	講義	2		30	
ソーシャルワークの基盤と専門職	ソーシャルワーク論	講義	2		30	
精神保健福祉の原理	精神保健福祉の原理Ⅰ	講義	2		30	
	精神保健福祉の原理Ⅱ	講義	2		30	
ソーシャルワークの理論と方法	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	講義	2		30	
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	講義	2		30	
ソーシャルワークの理論と方法(専門)	ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅰ	講義	2		30	
	ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅱ	講義	2		30	
精神障害リハビリテーション論	精神障害リハビリテーション論	講義	2		30	
精神保健福祉制度論	精神保健福祉制度論	講義	2		30	
実習・演習						
ソーシャルワーク演習	ソーシャルワーク演習	演習	1		30	
ソーシャルワーク演習(専門)	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ	演習	1		30	
	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱ	演習	1		30	
	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅲ	演習	1		30	
ソーシャルワーク実習指導	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	実習	1		30	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	実習	2		60	
ソーシャルワーク実習	ソーシャルワーク実習	実習	4		210	

別表(12)

保健師受験資格取得に係る科目

指定規則に定める科目	授 業 科 目	単位数		備考
		必修	選択	
公衆衛生看護学概論	地域看護論	2		
公衆衛生看護学	ヘルスプロモーション概論1(個人・家族・集団・地域)	1		
	ヘルスプロモーション概論2(リプロダクティブヘルス・小児期)	2		
	ヘルスプロモーション概論3(成人期・老年期)	2		
	ヘルスプロモーション各論2(家族)	1		
	ヘルスプロモーション演習1(基本看護技術)	1		
	ヘルスプロモーション演習3(シミュレーション)	1		
	在宅看護論	1		
	地域看護論演習	1		
	公衆衛生看護管理論	1		
	公衆衛生看護診断論演習	1		
	災害看護1(基礎編)	1		
	災害看護2(実践編)	1		
疫学	疫学総論	2		
保健統計学	保健統計学	2		
保健医療福祉行政論	保健医療福祉行政論	2		
	保健医療福祉行政論2	1		
臨地実習	公衆衛生看護論実習	4		
	地域看護論実習	2		

○ウェルビーイング学部教授会運営内規

(令和 6 年 4 月 1 日)

(目的)

第1条 この内規は、武蔵野大学学則（以下「学則」という。）第53条第3項に基づき、ウェルビーイング学部の教授会運営に必要な事項について定める。

(教授会)

第2条 教授会は、原則として毎月1回開催する。ただし、学部長が必要と認めたときは、臨時に教授会を開催することができる。

2 学部長は、構成員の3分の1以上の請求があったときは、教授会を招集しなければならない。

(構成)

第3条 教授会は構成員の2分の1以上の出席がなければ議事を開き議決することができない。この場合、海外留学、国内研究及び休職中の者は、構成員の定数には加えないものとする。

(開催)

第4条 教授会開催にあたっては、あらかじめ議案を通知し、円滑な審議を図るものとする。

(決議の方法)

第5条 教授会は十分な審議のすえ、その総意を得られず可否いずれとも決し難いときに限り、無記名投票をもって議決するものとする。この場合の議決は出席者の過半数をもって行い、可否同数のときは議長の決するところによる。

(教員資格審査委員会)

第6条 学校教育法施行規則（以下「施行規則」という。）第143条第2項に基づき、学則第53条第1項第3号に含まれる教員の資格認定に関する事項については、教員資格審査委員会（以下「委員会」という。）をもって行う。なお、共通科目担当教員に関しては教養教育部会で行う。

2 委員会は、次の者をもって構成する。

- (1) 学部長
- (2) 建学の精神担当教員
- (3) 学科長
- (4) 教授会の推薦による教授2名以内

3 委員会の運営内規は、別に定める「ウェルビーイング学部教員資格審査委員会内規」又は「ウェルビーイング学部専任実務家教員資格審査委員会内規」による。

4 第2項の規定にかかわらず、必要に応じて教員資格認定対象者の専攻分野における他学部又は学外の学識経験者複数名を加えることができる。なお、この委員は学長と学部長が協議して、学長が委嘱する。

5 第2項第2号の委員については、学長と学部長が協議して、学長が委嘱する。

(関係者の出席)

第7条 教授会は学則第53条第1項に定める審議事項のうち次の事項に限って、以下の者を教授会に出席させるものとする。

- (1) 同項第6号の学業評価に関する事項については、准教授及び専任講師
- (2) 同項第8号及び第9号の学生生活に関する事項については、准教授及び専任講師

(代議員会)

第8条 施行規則第143条第2項に基づき、学則第53条第1項に定める審議事項のうち、同項第4号及び第10号の事項は代議員会の議決をもって教授会の議決に代えることができる。

- 2 代議員会は、次の者をもって構成する。
 - (1) 学部長
 - (2) 建学の精神担当教員
 - (3) 学科長
 - (4) 教授会の推薦による教授2名以内、この代議員の任期は2年とする。
- 3 代議員会の運営内規は別に定める「ウェルビーイング学部代議員会運営内規」による。
- 4 第2項第2号の代議員については、第6条第2項第2号の委員をもって充てる。
(入学者選考委員会)

第9条 学則第53条第1項第1号に定める学生の入学に関する事項については、入学者選考委員会の議決をもって教授会の議決に代えることができる。

- 2 入学者選考委員会は、次の者をもって構成する。
 - (1) 学部長
 - (2) 学科長
 - (3) 入試実務委員
- 3 入学者選考委員会の運営内規は別に定める「入学者選考委員会運営内規」による。
(議事録)

第10条 議事録は、武蔵野学部事務課が保管し、構成員から請求があったときは、これを閲覧させるものとする。
(庶務)

第11条 委員会の庶務は、武蔵野学部事務課が行う。
(改廃)

第12条 この内規の改廃は、教授会の議を経て学部長が行う。

附 則

- 1 この内規は、常務理事会が制定し、令和6年4月1日から施行する。
- 2 前項の規定にかかわらず、施行前に第6条に規定する教員資格審査委員会及び専任実務家教員資格審査委員会並びに第9条に規定する入学者選考委員会を行うことができるものとする。その場合の構成員は、学長、学部長候補者及び学長が指名する教員候補者1名とする。

設置の趣旨等を記載した書類

目次

1. 設置の趣旨及び必要性	p. 3
(1) 本学の教育理念及び沿革	p. 3
(2) ウェルビーイング学部設置の必要性について	p. 3
(3) 養成する人材像	p. 4
(4) 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）及び入学者受入れの方針（アドミSSION・ポリシー）並びに養成する人材像と3つのポリシーの各項目との相関及び整合性	p. 5
(5) 組織として研究対象とする中心的な学問分野	p. 6
(6) 教育研究上の具体的な到達目標等	p. 7
2. 学部・学科等の特色	p. 7
3. 大学、学部・学科等の名称及び学位の名称	p. 9
(1) 学部・学科・学位名・英語名称	p. 9
(2) 当該名称とする理由	p. 9
4. 教育課程の編成の考え方及び特色	p. 10
(1) 教育課程の編成	p. 10
(2) 共通科目及び学科科目の編成	p. 13
5. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件	p. 16
6. 多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合の 具体的計画	p. 17
7. 編入学定員を設定する場合の具体的計画	p. 18
(1) 既修得単位の認定方法	p. 18
(2) 履修指導方法	p. 18
(3) 教育上の配慮等	p. 18
8. 企業実習や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画	p. 18
9. 入学者選抜の概要	p. 20
10. 教員組織の編成の考え方及び特色	p. 25
11. 研究の実施についての考え方、体制、取組	p. 26
12. 施設、設備等の整備計画	p. 27
(1) 校地、運動場の整備計画	p. 27
(2) 校舎等施設の整備計画	p. 27
(3) 図書等の資料及び図書館の整備計画	p. 27
13. 管理運営及び事務組織	p. 29
(1) 教学面における管理運営体制	p. 29

(2) 事務組織体制及び厚生補導を行うための組織	p. 30
14. 自己点検・評価	p. 31
15. 情報の公表	p. 33
16. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等	p. 34
17. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	p. 36
(1) 教育課程内の取組について	p. 36
(2) 教育課程外の取組について	p. 37
(3) 適切な体制の整備について	p. 37

1. 設置の趣旨及び必要性

(1) 本学の教育理念及び沿革

武蔵野大学（以下「本学」という。）は、大正 13 年に東京都中央区の本願寺築地別院（現在の築地本願寺）境内に創設された武蔵野女子学院を母体としており、建学の精神である「仏教の根本精神の四弘誓願（しぐぜいがん／ほとけのねがい）を基礎とする人格教育」に基づき昭和 40 年度に文学部を設置して以来、時代とともに変遷する多様な社会ニーズに対応しながら、専門的知識・能力を有する人材を養成し、社会貢献を行ってきた。平成 16 年度には男女共同参画社会の実現に向けて、全学部を男女共学とし、平成 24 年 4 月 1 日には法人名を学校法人武蔵野大学に変更し、東京都江東区有明の臨海副都心に有明キャンパスを開設。その立地を活かして企業や官公庁との産官学連携や国内外の教育研究機関との交流等を推進している。

近年は、令和元年度にデータサイエンス学部データサイエンス学科、令和 3 年度にアントレプレナーシップ学部アントレプレナーシップ学科、そして令和 5 年度に工学部サステナビリティ学科を設置し、現在は通学制 12 学部 13 研究科、通信制 2 学部 3 研究科を擁する総合大学として、更なる教育研究の充実に向けた改革を進めている。

平成 28 年度には、仏教の根本精神である四弘誓願の第一の願い「生きとし生けるものが幸せになるために」を受けて、ブランドステートメント「世界の幸せをカタチにする。」を発表している。このブランドステートメントは、2050 年の未来に向けて本学に課された使命を果たしていく決意の表明であり、ブランドの具現化として同年「武蔵野大学しあわせ研究所」を設置し、以後、国際シンポジウムの開催等を推進している。平成 31 年 3 月には「武蔵野大学 SDGs 宣言」を発表し、SDGs の 17 の目標のうち、各学部・研究科・研究所において、それぞれが担当する領域に根差した活動を街や現場に出て意識的かつ具体的に行うことで、「世界の幸せをカタチにする。」の実現を目指している。

(2) ウェルビーイング学部設置の必要性について

VUCA（変動性、不確実性、複雑性、曖昧性）の時代と称されるよう、先行きが不透明かつ将来の予測が困難な未来を迎えている中、経済先進国において、経済的な豊かさのみならず、精神的な豊かさや健康までを含めて幸福や生きがいをつめるウェルビーイング（Well-being）の考え方が重視されてきている。このような時代において、一人一人の多様な幸せと社会全体の幸せを実現するウェルビーイングという総合的概念についての社会学・心理学的知見や、新たに創造的なデザインを行うため問題発見・課題解決できる実践的な能力を身につけ、今後のあるべきウェルビーイング社会の創造に主体的に取り組んでいく人材を養成するため、令和 6 年度より武蔵野キャンパス（東京都西東京市）にウェルビーイング学部ウェルビーイング学科（以下「本学部」という。）を設置する。

経済協力開発機構（OECD）の「OECD ラーニング・コンパス 2030（学びの羅針盤 2030）」においては、個人と社会のウェルビーイングは「私たちの望む未来」であり、社会のウェルビーイングは共通の目的地とされている【資料 1】。また、次期教育振興基本計画（令和 5 年度～令和 9 年度）の答申において、社会の現状や変化への対応と今後の展望として「社会の多様化が進む中、障害の有無や年齢、文化的・言語的背景、家庭環境などにかかわらず、誰一人取り残すことなく、誰もが生き生きとした人生を享受することのできる共生社会の実現を目指し、その実現に向けた社会的包摂を推進する必要がある」と言われている。さらに、今後の教育政策に関する基本的な方針として、「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」が次期計画のコンセプトの一つとして掲げられており、概念整理の中で「ウェルビーイングの実現とは、多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じるとともに、地域や社会が幸せや豊かさを感じられるものとなることであり、教育を通じて日本社会に根差したウェルビーイングの向上を図っていくことが求められる。」と述べられている【資料 2】。これらのことから、今後、多様な個人がそれぞれ幸せや生きがいを感じるとともに、個人を取り巻く場や地域、社会が幸せや豊かさを感じられる良い状態、すなわちウェルビーイングな状態を、個人、地域、企業等で創造することが求められると考えられ、ウェルビーイングの向上に寄与するために、ウェルビーイングを理解、推進し、ウェルビーイング社会を創造できる人材の育成が重要であると考ええる。

実際に、企業・自治体においては、従業員のウェルビーイングを高める健康経営や、ウェルビーイングを成長戦略の中心に位置づけるところが出てきており、今後、ウェルビーイングに関連した様々なビジネスを新たに創出する人材、ウェルビーイング産業の創造に基づきそれぞれの地域の特徴を活かした地域活性化をリードする人材、ウェルビーイングの研究者、教員等の人材需要は高まっていくと考えられる。

これらの社会的な背景等を踏まえ、ウェルビーイングの向上に寄与する人材を育成するため本学部を設置する。

（３） 養成する人材像

① 養成する人材像

＜ウェルビーイング学部＞

仏法の真理観を根幹として、人間の抱える根源的な苦悩からの解放を見据えつつ、学識、情操、品性にすぐれた人格を育成するとともに、科学や技術の最先端の知見や成果も取り入れた学際的なアプローチによって、幸せ・生きがい・安心・福祉・健康・平和など、人々と世界のウェルビーイングをデザインし、創造していく人材の育成を目的とする。

＜ウェルビーイング学科＞

ウェルビーイングという総合的概念についての社会学・心理学的知見や、新たに創造

的なデザインを行うため問題発見・課題解決できる実践的な能力を身につけ、今後のあるべきウェルビーイング社会の創造に主体的に取り組んでいく人材を養成する。

② 教育研究上の目的

＜ウェルビーイング学部＞

人々がウェルビーイング（幸せ・生きがい・安心・福祉・健康・平和など）を感じられる世界を創出するための基盤となる考え方を学び、仮説立案能力、計画立案能力、及び新たな世界をデザインするための創造力と実行力を身につける。

＜ウェルビーイング学科＞

人文科学、自然科学、社会科学の分野からウェルビーイングに関連する項目を学際的に学ぶことによって、ウェルビーイングについての理解を多面的に深める。すなわち、社会学・心理学的知見や、新たに創造的なデザインを行うための工学的・デザイン学的手法を学ぶことにより、ウェルビーイング社会の実現のために問題発見・課題解決できる実践的な能力を身につける。

（４）卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成・実施の方針

（カリキュラム・ポリシー）及び入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

並びに養成する人材像と３つのポリシーの各項目との相関及び整合性

本学部のディプロマ・ポリシーは、上述の養成する人材像を育成することを目的に、修得すべき能力を「知識・専門性（学びの基礎力を基盤とした専門能力）」「関心・態度・人格（他者と自己を理解し、自発的に踏み出す力）」「思考力・判断力（課題を多角的に捉え、創造的に考える力）」「交感力・発信力（多様な人々のなかで、自らの考えを表現・発信する力）」の４つの能力に分類し、それぞれに定められた能力を修得し、所定の卒業要件を満たした者に、卒業を認定して学位を授与する方針である。

本学部のカリキュラム・ポリシーは、上記のディプロマ・ポリシーを達成するため、「生きとし生けるものがウェルビーイング（幸せ・生きがい・安心・福祉・健康・平和など）に満ち溢れた世界」を創造的にデザインする能力を修得できるよう教育課程を編成し、１年次から全学共通基礎課程「武蔵野 INITIAL」で教養を育むとともに、専門科目では、ウェルビーイングに満ち溢れた世界を創造的にデザインするという最上位の目的に即した形で全科目を学ぶこととする。具体的には、基盤となる知識の修得と実践からの学びをバランスよく取り入れるために、『基盤科目群』『探究する科目群』『創造する科目群』という、全体としての理念と要素としての学びの関係を常に明確に意識しやすいことを目指したシンプルな科目群構成とする。さらに、知識の修得と感性の陶冶をバランスよく行うために、古来の「道」のホリスティックな学び方から近代以降の教育の分解型・分析型の方法論まで、様々な教育方法論を統合することによって、入門から発展まで（１年次が入門、２年次が基礎、３年次が応用、４年次が発展）、アート（人文科学、芸術）からサイエンス（社会科学、自然科学）まで、過去（哲学や歴史）

から未来（科学技術や創造性開発）まで、という俯瞰的・全体的な学問構造を科目構成に反映することによって、国際社会の人類史的な構造変化に先鞭をつけることを目指したカリキュラムとする。

本学部のアドミッション・ポリシーは、上記の養成する人材像やディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを踏まえ、産業革命以来の経済成長重視型社会から生きとし生けるもののウェルビーイングを最優先にする社会への大きな転換点である現代において、「生きとし生けるものがウェルビーイングに満ち溢れた世界」を創造的にデザインする気概を持った者の入学を求め、前述の養成する人材を育成する。

また、期待する能力について、「知識・専門性」では、高等学校で幅広く履修することが望ましい科目として英語、国語、数学、地理・歴史・公民を、取得することが望ましい資格等として英語アセスメントテストや標準的な ICT リテラシーを求める。「関心・態度・人格」では、ウェルビーイングに満ち溢れた世界を創りたいという情熱と他利心のある者や大きな時代変化を担っていききたいという野心と挑戦心のある者を求める。「思考力・判断力」では、論理的に考える力や他の人を惹きつける人間的魅力を求める。「交感力・発信力」では、自分の個性を理解し、自分らしく生きてより良い世界を創りたいという純粋な想いを表現し実践する行動力を求める。

以上のことから、本学部の養成する人材像と3つのポリシーの各項目との整合性については、養成する人材を育成することを目的に、ディプロマ・ポリシーにて卒業までに学生が身につけるべき資質・能力を示し、それを達成するための具体的な教育課程の編成としてカリキュラム・ポリシーを示しており、ディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーを踏まえ、アドミッション・ポリシーにて入学に際して求められる基礎的な知識の水準や専攻分野への関心、意欲、態度等を示していることから、本学部の養成する人材像と3つのポリシーの各項目は整合性がとれていると言える【資料3】。

（５） 組織として研究対象とする中心的な学問分野

本学部が研究対象とする中心的な学問分野は、文学及び社会学・社会福祉学の分野である。

文学では特に、人々がウェルビーイング（幸せ・生きがい・安心・福祉・健康・平和など）を感じられる世界を創出するための基盤の考え方となる仏教学、哲学、倫理学の知識とスキルの分野を研究対象とする。社会学・社会福祉学では特に、ウェルビーイングという総合的概念についての社会学・心理学的知見や、新たに創造的なデザインを行うため問題発見・課題解決策を実践的に検討する社会学、社会心理学、社会福祉学の知識とスキルの分野を研究対象とする。

高等教育においては、ウェルビーイングに関する学問分野がまだ確立されていないと考えられるが、本学部は前述の文学及び社会学・社会福祉学の学問分野を中心に、ウェルビーイングに関するデザイン学、自然環境学等の自然科学や教育学、経済学等の分野

からもウェルビーイングを学際的に学ぶことで、人々がウェルビーイング（幸せ・生きがい・安心・福祉・健康・平和など）を感じられる新たな世界をデザインする学問分野として「ウェルビーイング学」を新たに構築していく。

（６） 教育研究上の具体的な到達目標等

本学部では、教育研究上の具体的な到達目標として、卒業後の具体的な進路を以下のとおり想定している。

① ウェルビーイング産業デザイナー

グローバルな世界をフィールドとして、ウェルビーイングな世界や産業を創出する人材（企業（メーカー、商社、医療看護、介護福祉等）や教育現場でのウェルビーイング推進担当者、起業家等）

② ウェルビーイング地域デザイナー

地域をフィールドとして、それぞれの地域の特性をいかしたウェルビーイングをデザインし、地域活性化を担う人材（ウェルビーイングな地域の創生を目指す自治体の公務員、企業への就職、NPO諸団体への所属等）

③ ウェルビーイングの研究者等

大学院に進学し、ウェルビーイングの学問研究の方法論をさらに学び、ウェルビーイングな世界を総合的にデザインしていく人材（海外・国内の大学院進学、研究機関・シンクタンク職員等）

2. 学部・学科等の特色

本学部では、仏法の真理観を根幹として、人間の抱える根源的な苦悩からの解放を見据えつつ、学識、情操、品性にすぐれた人格を育成するとともに、ウェルビーイングという総合的概念についての社会学・心理学的知見や、新たに創造的なデザインを行うため問題発見・課題解決できる実践的な能力を身につけ、今後のあるべきウェルビーイング社会の創造に主体的に取り組んでいく人材を養成する。

本学部の主な特色を、学部・学科自体の特色と、学部・学科科目の特色に分けて、以下に述べる。

近代以降の経済成長至上主義は、環境問題、格差の問題、戦争・紛争の問題、パンデミックの問題といった世界的課題を人類にもたらした。世界の課題を解決するためには、人々のウェルビーイング（幸せ、健康）を第一に考えた社会への変革が不可欠である。なぜなら、ウェルビーイングの高い者は創造性、生産性が高く、視野が広く、利他的で、健康・長寿であるなど、様々な学術的知見が知られており、ウェルビーイングについて深く知るとともに各人のウェルビーイングを高めることが、イノベーションを起こしつつ社会課題を解決することのできる健全な社会につながると考えられるからである。そのために

は、ウェルビーイングについての新たな学問を構築し、それを学び身につけた者を輩出し、学んだ者が世界を変革していくという3つのステップが必要である。このため、本学部・学科は、ウェルビーイングを中心に据え常にウェルビーイングに立ち帰る新たな学問体系を構築し、これを教授するという従来にない学部・学科であるという特色を有する。科目としては、後述する特徴的な科目群により、知識を教え込むことよりも、主体的かつ対話的に学ぶことを重視するという特色を有する。その結果、これからの時代において極めて重要となる、自らのウェルビーイング、社会のウェルビーイング、世界のウェルビーイングを創造的に構築していく人材を輩出する。本学部で学んだ者は、産業界から自治体まで、様々な分野における、時代変革を先導する仕事において活躍することが期待できる。

科目の特色は以下の5点である。

① 必修科目の重視

多くの科目を必修科目にし、ウェルビーイングについての基本を学ぶカリキュラムとする。多くの学部では多彩な個人のニーズに合わせるために選択科目を増やす傾向があるが、本学部では、ウェルビーイングを中心に据えた学問を徹底的に学ぶという観点から、必修科目の比率を高くしている。

② 基盤科目群、探究する科目群、創造する科目群の三つから成る学科科目

学科科目は、『基盤科目群』、『探究する科目群』、『創造する科目群』の三つから成る。すなわち、基盤を学び、探究を行ったのちに、創造的に未来を創造するという明確な科目構造としている。詳細は③～⑤で述べる。

③ ウェルビーイングの基本を学ぶ『基盤科目群』

ウェルビーイングの基礎と周辺について徹底的に学ぶための『基盤科目群』は、『建学の精神』科目群、『ウェルビーイングデザイン』科目群、『ウェルビーイングリテラシー』科目群から成る。『建学の精神』科目群は、仏法や哲学の基本とウェルビーイングの関係について学ぶ科目群である。『ウェルビーイングデザイン』科目群は、ウェルビーイングの基本について、様々な学問分野との関係も含めて学ぶ科目群である。『ウェルビーイングリテラシー』科目群は、ウェルビーイングについて学ぶ上で重要な項目について学ぶ科目群である。

④ 自然、地域、ビジネス、世界を舞台に学ぶ『探究する科目群』

探究する科目群は、『ゼミナール』科目群、『自己理解』科目群、『自然・環境』科目群、『地域・医療・福祉』科目群、『ビジネス』科目群、『国際理解』科目群から成る。特徴的な科目としては、自然・環境プロジェクト、地域・ビジネスプロジェクト、海外インターンシップなど、長期間、自然環境、地域・ビジネス環境、国際環境に身を

置き、多様な世界から学ぶ実践型科目がある。

⑤ 未来を創造的にデザインする体験を行う『創造する科目群』

3年次の『未来デザイン』科目群では、創造的に新しいアイデアを出したり新しい提案を実践することについて学ぶ。また、卒業プロジェクト・卒業論文では、各自が何らかの対象について創造的なデザインを行う創造的未来デザイン体験を行う。

以上の具体的な特色を通して、本学のブランドステートメントである、「世界の幸せをカタチにする。」を実践することが本科目の総合的な特色である。

3. 大学・学部・学科等の名称及び学位の名称

(1) 学部・学科・学位名・英語名称

学部名：ウェルビーイング学部	[Faculty of Well-being]
学科名：ウェルビーイング学科	[Department of Well-being]
学位名：学士（ウェルビーイング）	[Bachelor of Well-being]

(2) 当該名称とする理由

ウェルビーイングとは、幸せ、生きがい、安心、福祉、健康、平和など、心と体と社会の良い状態を表す英単語 well-being のカタカナ表記である。環境問題、格差の問題、戦争・紛争の問題、パンデミックの問題など、世界的な課題が山積する現代社会において、個人の状態から人類の状態までを見据えたウェルビーイング概念の普及とウェルビーイング向上の重要性が世界的に認知されつつあり、日本においてもこの単語の使用頻度が急激に上昇している。また、ウェルビーイング学会の発足、自民党ウェルビーイング計画推進特命委員会の活動の活発化、ウェルビーイングアワードの実施、全国の大学におけるウェルビーイング部門の設置、企業・事業体におけるウェルビーイング推進部門の設置、自治体におけるウェルビーイング関連部署の設置などが活発化しており、ウェルビーイングという単語は日本においても急速に定着しつつある。

本学においても、「世界の幸せをカタチにする。」というブランドステートメントを掲げ、武蔵野大学しあわせ研究所で活動を盛んに行うなど、ウェルビーイングについての活動が活発化しつつある。

このような背景に鑑み、ウェルビーイング概念を中心に据え、個人のウェルビーイングから世界のウェルビーイングまでを創造的に高めていく新たな社会の構築を主目的として、本学部を発足する。ウェルビーイングを中心に据え、ウェルビーイングの向上を担うことによって時代の変化を先導することが学部・学科の特色であるため、学部設置の趣旨や養成する人材像、カリキュラムを踏まえると、学部名称をウェルビーイング学

部、学科名称をウェルビーイング学科、学位に付記する専攻分野の名称をウェルビーイングとすることが適切である。

また、海外では学位の名称の一部に「ウェルビーイング（Well-being 又は Wellbeing）」を含む大学がいくつかみられるため、国際的な通用性も一定程度確保していると考えられる【資料4】。

以上のことから、学部・学科名をウェルビーイング学部ウェルビーイング学科とし、学位に付記する専攻分野の名称をウェルビーイングとする。

4. 教育課程の編成の考え方及び特色

(1) 教育課程の編成

本学部の教育課程は、ディプロマ・ポリシーを実現するために、カリキュラム・ポリシーを定め、編成・実施している。また、ディプロマ・ポリシーでは修得する能力として、「知識・専門性（学びの基礎力を基盤とした専門能力）」「関心・態度・人格（他者と自己を理解し、自発的に踏み出す力）」「思考力・判断力（課題を多角的に捉え、創造的に考える力）」「交感力・発信力（多様な人々のなかで、自らの考えを表現・発信する力）」の4つの能力を定めている。各能力を修得するために、以下のとおり教育課程を編成する。なお、本学部の科目は、「ウェルビーイング」という単一の概念について複合的に学ぶために、基礎・教養から専門までがシームレスにつながった教育を行うような科目構成としている。1年次から4年次までが、入門、基礎、応用、発展というフェーズとしており、ウェルビーイング学のための基礎・教養から専門までが全体としてつながっている。すなわち、全ての科目が、「生きとし生けるものがウェルビーイングに満ち溢れた世界」を創造的にデザインできる人材を育成するという最上位の目的に促していることを、全ての科目において常に意識し、一貫性を持って学ぶカリキュラムとしている。そのため、専門教育を行う学科科目の必修科目の比率を学科科目全体の約8割（68科目／81科目）と高く設定している。

① 知識・専門性（学びの基礎力を基盤とした専門能力）の修得

「知識」「専門性」を修得するため、『基盤科目群』では、ウェルビーイングの基本を学び、『探究する科目群』では、自己、自然・環境、社会・世界・ビジネスについて実践的に学ぶ。また、『創造する科目群』では、ウェルビーイングに満ち溢れた世界を創造的にデザインする方法について学ぶ。

ディプロマ・ポリシーに定めた「教養・基礎力（建学の精神、ウェルビーイング、自己理解、世界理解、創造的デザインの基礎を身につけている）」を修得するために、主に全学共通基礎課程である共通科目「武蔵野INITIAL」、1～2年次の「建学の精神入門A（人間観）」「WBデザイン入門A（全体像と歴史）」「自己理解入門A（自己との対話）」科目等の学科科目（入門科目、基礎科目）によって教

養・基礎力を身につける。

「専門性（教養・基礎力とシームレスにつながる形で、建学の精神、ウェルビーイング、自己理解、世界理解、創造的デザインの専門性を身につけている）」については、主に3～4年次の「建学の精神応用B（Ancestors' Voices）」「地域・医療・福祉応用B（公共政策）」「ビジネス応用（社会システム）」「未来デザイン方法論C（手法2）」科目等の学科科目（応用科目、発展科目）によって、専門性を身につける。

② 関心・態度・人格（他者と自己を理解し、自発的に踏み出す力）の修得

「関心」「態度」「人格」を修得するため、経済成長重視から生きとし生けるものの幸せの重視へのパラダイムシフトという大きな時代変化を先導的に担うために、自己と他者を主体的に理解し自発的に踏み出す人材を育成するカリキュラムとしている。

ディプロマ・ポリシーに定めた「自己認識力（自己との対話により自己の状態を認識し、自己肯定感・自己受容を向上することによって、自己のウェルビーイングを認識・向上できる）」については、「自己理解入門A（自己との対話）」「自己理解入門B（自己肯定感）」「自己理解入門D（自己受容・他者信頼）」科目等の自己理解科目を中心としつつ多くの科目により自己認識力を育成する。

「他者理解力（他者との対話、世界との対話により、他者のウェルビーイングを理解し思いやることができる）」については、自己理解科目以外のすべての科目が他者のウェルビーイングを扱うため、多くの科目により他者理解力を育成する。

「主体性・実行力（ウェルビーイングに満ち溢れた世界を創造的にデザインする主体性と実行力を身につけている）」については、『創造する科目群』の「未来デザインプロジェクト」「卒業プロジェクト」科目等によって主に主体性・実行力を養う。

「人格形成・使命感・倫理観（ウェルビーイングに満ち溢れた世界を創造的にデザインするという理想を目指す大きな使命感・倫理観を持った人格を形成している）」については、ウェルビーイングに溢れた世界を構築するという学科の理念自体が人格、使命感、倫理観の育成に貢献する。よって、全科目が、人格形成、使命感育成、倫理観育成に寄与する。

③ 思考力・判断力（課題を多角的に捉え、創造的に考える力）の修得

「思考力」「判断力」を修得するため、ウェルビーイングに満ち溢れた世界を創造的にデザインするための様々な科目群により思考力・判断力を養う。

ディプロマ・ポリシーに定めた「論理的思考力（課題の多い現代社会においてウェルビーイングに満ち溢れた世界を創造的にデザインする方法について論理的かつ複合的に思考し表現できる）」については、『基盤科目群』の『ウェルビーイングリテラ

シー』科目群のうちの「WBリテラシー基礎C（ロジカル思考）」科目、「WBリテラシー応用A（論理学）」科目が、直接的に論理的思考力を育成する。他のすべての科目についても論理的思考力（と感性的感受性）を育成する。

「課題発見力（現実世界はウェルビーイングに満ち溢れた世界ではないことの理由を実体験の中から体系的に見つけ出すことができる）」については、『探究する科目群』の「未来デザイン方法論A（イノベーション論）」「応用ゼミA・B」科目等が主に課題発見力を担う。他のすべての科目も課題発見力の育成に貢献する。

「創造的思考力・課題解決力（ウェルビーイングに溢れた世界をデザインする方法を創造的に提案するとともに、解決策を実践的に適用することによって課題を解決できる）」については、主に『創造する科目群』の「未来デザインプロジェクト」「卒業プロジェクト」科目等が創造的思考力と課題解決力を育成する。

④ 交感力・発信力（多様な人々のなかで、自らの考えを表現・発信する力）の修得

「交感力」「発信力」を修得するため、ウェルビーイングに満ち溢れた世界を創造的にデザインするための様々な科目群により交感力・発信力を養う。

ディプロマ・ポリシーに定めた「コミュニケーション力・傾聴力（他者の話を傾聴するとともに、自分の考えを明確に発信するなど、他者と適切にコミュニケーションすることができる）」については、主に『探究する科目群』の『自己理解』科目群のうち対話に関連する科目が傾聴力を育成する。『創造する科目群』、『探究する科目群』の学外学修科目である「自然・環境プロジェクト」「地域・ビジネスプロジェクト」「海外インターンシップ」科目、『基盤科目群』の『ウェルビーイングリテラシー』科目群の「WBリテラシー基礎B（対人コミュニケーション）」科目をはじめとする多くの科目がコミュニケーション力を育成する。

「表現力（論理と感性により自分の考えと情熱を表現できる）」については、『探究する科目群』の『ゼミナール』科目群の「入門ゼミA・B」科目、「基礎ゼミA・B」科目、『基盤科目群』の『ウェルビーイングリテラシー』科目群の「WBリテラシー発展C（プレゼンテーション）」科目、「WBリテラシー入門D（アート（身体表現））」科目、「WBリテラシー入門C（アート（書））」科目、『創造する科目群』の「卒業プロジェクト」「卒業論文」科目等が、多面的に表現力を育成する。

「リーダーシップ・チームワーク（チームでのワークをリードしたりファシリテートしたりする力を持っている）」については、『基盤科目群』の『ウェルビーイングリテラシー』科目群の「WBリテラシー基礎F（プロジェクトマネジメント）」科目、『探究する科目群』の学外学修科目である「自然・環境プロジェクト」「地域・ビジネスプロジェクト」「海外インターンシップ」科目、『創造する科目群』の「未来デザインプロジェクト」「卒業プロジェクト」科目など、グループワークを基調とする多くの科目によって、リーダーシップとチームワークの能力を育成する。

（２） 共通科目及び学科科目の編成

具体的な「共通科目」、「学科科目」の編成については、以下のとおりである。

① 共通科目の編成

共通科目は大学全体で令和３年度より「武蔵野 I N I T I A L」と呼ばれる全学共通基礎課程を導入しており、本学部も他学部等と同様に「武蔵野 I N I T I A L」を導入する（ただし、後述のとおり一部科目群のみ変更）。「武蔵野 I N I T I A L」は、全学生が１年次から履修し、社会の中核として活躍する 2050 年の未来を想定して、世界の諸課題を担い解決していける人材となるための学びとして展開している。学科の専門課程の学びと融合されることで、社会で活躍するためのアクティブな知の獲得を目指す。具体的には、主に１年次から『建学』『スポーツ・身体』『情報』『外国語』『CHP（Creating Happiness Program）』『フィールド・スタディーズ』等の科目群を配置し、２年次以降の学科の専門教育の基礎となる能力を育てる。少人数制のゼミナールや授業を通じてグループワークやプレゼンテーション等の訓練を重ね、より実践的なコミュニケーション力やチームワーク形成力等を養う。

『建学』科目群については、本学部は、他学部以上に建学の精神を教学の基盤とする学部であるため、共通科目「武蔵野 I N I T I A L」のうち『建学』科目群の２科目（必修科目４単位）を開講せず、学科科目の『基盤科目群』の『建学の精神』で開講する９科目（９単位）を必修科目とし、仏教の真理観（ブッダ・ダルマ）を根幹とする考え方を体系的に学修する。

『スポーツ・身体』科目群では、身体運動の実践的学習を通じて、健康・体力の維持増進等の自己の身体及び身体運動のもつ意義を考えると同時に、社会的適応能力や社会発展のメカニズムに積極的に関わりうる能力の獲得を企図し実現する。

『情報』科目群では、文部科学省が推進する「数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム（リテラシーレベル）」にも認定された「データサイエンス基礎」「人工知能基礎」を１年次必修科目とし、ＡＩ（人工知能）や最新のツールを自ら取り入れて活用する力を身につける。また、本学部では、ウェルビーイングの研究者等（大学院進学、大学教員、研究機関・シンクタンク職員等）を目指す学生に副専攻（ＡＩエキスパートコース）の履修を推奨し、ＡＩを活用するために、ＡＩによって変化する社会の展望、ＡＩを使ったサービスの構想、実現のためのプログラミングやメディアの知識、様々な関係者の理解と協力を得るための情報技法を実践的な授業を通じて身につける。

『外国語』科目群では、バランスのとれたコミュニケーション能力の養成を目指し、自然言語である外国語の運用能力等コミュニケーションスキルの向上を目的とした教育を行う。

『CHP（Creating Happiness Program）』科目群では、SDGsについて学ぶ。「SDGs 基礎」で、世界の課題とSDGsの17の目標の関連性について学び、

「SDGs 発展 1・2・3」で、分野ごとに深く掘り下げ、サステナブルな世界をいかに実現できるかを考え、近未来の社会を展望する力を養う。

『フィールド・スタディーズ』科目群では、入学直後の 2 学期から夏休み期間を中心に学外（国内、海外）で学ぶ学外学修プログラムを実践し、地方や世界が直面する課題に気づき、解決するための想像力、実践力等を養う。

『インターンシップ』科目群では、社会で“働く”ことの意義や、就業に必要な心構え・知識・能力を理解するとともに、就業体験において最低限必要な基礎的能力や知識・技術等を総合的に学ぶ。

② 学科科目の編成

ディプロマ・ポリシーを達成するためのカリキュラム・ポリシーに基づき、学科科目は『基盤科目群』『探究する科目群』『創造する科目群』に分類し、学際的な科目構成とするとともに、常にウェルビーイングを中心に置き、どの科目においてもウェルビーイングに立ち帰ることのできる教育課程を体系的に編成する。

『基盤科目群』は、『建学の精神』『ウェルビーイングデザイン』『ウェルビーイングリテラシー』の科目群で構成され、ウェルビーイングの本質を理解し、学科科目の基盤となる基礎的な知識や考え方を修得することを目的としている。『建学の精神』の科目群では、1 年次から 3 年次にかけて、人々が幸せ（平和、安心、生きがい等々）と受け止められるウェルビーイングな世界を創出するための基盤となる考え方を修得する。『ウェルビーイングデザイン』の科目群では、1 年次から 4 年次にかけて、ウェルビーイングを構成する健康、幸せ、福祉を含めたウェルビーイング学の全体像と歴史的な位置づけを学び、社会心理学、哲学・倫理学、医療、デザイン工学などの側面からウェルビーイングな社会をデザインするための学びを展開する。また、『ウェルビーイングリテラシー』の科目群では、ウェルビーイングについて多面的な理解を深めると共に、自分の興味や適性を知り、社会に出た後にウェルビーイングを自らの仕事に活かすために必要な感性工学、対人コミュニケーション、ロジカル思考、システム思考、プロジェクトマネジメント等の手法を学ぶ。

『探究する科目群』は、『ゼミナール』『自己理解』『自然・環境』『地域・医療・福祉』『ビジネス』『国際理解』の科目群で構成され、幸せな自己と世界を探究するため、ウェルビーイングを学ぶにあたり重要な“自分とは何者なのか”を理解し、農林水産業分野の現場での学外学修、地域・医療・福祉・ビジネスの現場でのインターンシップ体験、さらには海外でのインターンシップ体験等を通じて、自分は世界の関係性のもとに成立していることを体験的に理解することを目的としている。

“自分とは何者なのか”を理解するために、1～2 年次の『ゼミナール』の科目群では、学生間の交流を活発化して各科目の理解度・進捗度を相互に確認し、深く知合うことによって、学びについてフォローをし合う関係性を構築する。また、『自己

理解』の科目群では、自己と対話する基本的手法、ウェルビーイングの高い自己を形成するために必要な自己受容・他者信頼、対人援助や自分が困難を乗り越えるために必要なセルフ・コンパッション等を学ぶ。

自分は世界の関係性のもとに成立していることを体験的に理解するために、学外学修での実践を中心に事前学修での計画立案、学外学修での実践、事後学習での成果発表を実践的・体験的に学修し、仮説立案からアウトプットまでの能力を修得する。具体的には、1～2年次の『自然・環境』の科目群の「自然・環境プロジェクト」科目にて自然の中で感性、感覚を高めるために農林水産業分野の現場において学外学修を行い、人類のウェルビーイングと自然との関係について深く学び、2～3年次の『ビジネス』の科目群の「地域・ビジネスプロジェクト」科目にて地域・医療・福祉・ビジネスの現場にてインターンシップ体験を行い、産業の現場でのビジネス体験や福祉体験、地域活動を通して社会課題を発見するなどして、現代社会の課題と可能性について実践的に理解する。また、卒業後に海外での活躍を希望する学生については、

『国際理解』の科目群の「海外インターンシップ」科目にて海外でのインターンシップ体験を行い、多様な価値観を尊重し国際的視野を持った、世界で活躍する力を育成する。

『創造する科目群』は、『未来デザイン』『応用ゼミ・卒業プロジェクト・卒業論文』の科目群で構成され、これまで修得してきたスキル・知識を基に、ウェルビーイングな社会をデザインするために各人がテーマを設定し、4年間の集大成として学修成果をカタチにすることを目的としている。3年次の『未来デザイン』の科目群では、「未来デザインプロジェクト」にて、未来の自分の人生のデザイン、未来の製品・サービスのデザイン、未来の地域社会のデザイン等を対象に、創造的なデザインの方法を学び、実践的に新たな提案を行う。具体的には、地域や企業の未知の課題の発見・解決や、自らの起業アイデアを考える中で、ウェルビーイングな未来をデザインする方法を学ぶ。3～4年次の『応用ゼミ・卒業プロジェクト・卒業論文』の科目群では、3年次の学科科目「応用ゼミA」「応用ゼミB」にて、4年次の学科科目

「卒業論文」で何を創造的にデザインするかを明確化するための活動を行い、4年次前期の学科科目「卒業プロジェクト」にて、各教員のゼミに所属した学生が、少人数のチームでウェルビーイングな人生のデザイン、製品・サービスのデザイン、コミュニティーのデザインまたは教育のデザイン等、チームで決めたテーマに取り組み、各人の役割の明確化によりプロジェクトマネジメントを徹底のうえ、チームで創造することを目指す。4年次後期の学科科目「卒業論文」では、「卒業プロジェクト」での成果を踏まえ、これまでに学んだことの個人としての総まとめとして研究成果を学術論文にまとめ、卒業論文の発表会にて発表を行う。

以上のとおり、本学部の教育課程はカリキュラム・ポリシーを踏まえ、体系的に編成している。

5. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

本学部の教育方法、履修指導方法として、カリキュラム・ポリシーに従って、以下の履修モデルを設定する【資料5】。

履修モデル1	ウェルビーイング産業デザイナー
グローバルな世界をフィールドとして、ウェルビーイングな世界や産業を創出する人材（企業（メーカー、商社、医療看護、介護福祉等）や教育現場でのウェルビーイング推進担当者、起業家等）	
履修モデル2	ウェルビーイング地域デザイナー
地域をフィールドとして、それぞれの地域の特色をいかしたウェルビーイングをデザインし、地域活性化を担う人材（ウェルビーイングな地域の創生を目指す自治体の公務員、企業への就職、NPO諸団体への所属等）	
履修モデル2	ウェルビーイングの研究者等
大学院に進学し、ウェルビーイングの学問研究の方法論をさらに学び、ウェルビーイングな世界を総合的にデザインしていく人材（海外・国内の大学院進学、研究機関・シンクタンク職員等）	

卒業要件については、全ての履修モデルにおいて、共通科目は必修12単位、学科科目は必修86単位、自由選択単位26単位以上の合計124単位とする。自由選択単位は、共通科目、学科科目、後述の5大学単位認定科目、他学部・他学科の学科科目の単位をあてることができる。

また、在学期間における成績平均値（総合GPA）が2.00以上であることを、卒業要件として適用する。本学では、既に全学的に学習到達目標（ミニマム・リクワイアメント）が設定されており、後述のCAP制と合わせて、学生個々人の学修目標の明確化を促すものである。なお、GPAは各科目で得た評価をポイントに置き換えたものであり、計算式は以下のとおりである。

GPA計算式

$$\frac{\text{科目単位数} \times \text{成績ポイント (S=4.0、A=3.0、B=2.0、C=1.0、D=0.0、X=0.0)}}{\text{総履修単位数}}$$

※合格（S、A、B、C）、不合格（D、X）

※Dは合格と認められる最低限の成績（60点）に未到達。

Xは出席不良、評価不能。

単位数については、1単位を授業時間と自習時間を合わせて45時間の学修を必要とする内容に相当するものとしている。具体的には、講義・演習科目は、原則として15～30時間の授業時間と自習時間を合わせた45時間の学修をもって1単位とし、実験・実習・実技科目は、原則として30～45時間の授業時間と自習時間を合わせた45時間の学修をも

って1単位としている。

履修科目の年間登録上限（CAP制）の設定については、各学年で年間に取得できる単位数に上限を定めた「CAP制」を全学的に導入している。本学部での履修科目の登録の上限は、1年次45単位、2年次45単位、3年次30単位、4年次30単位、計160単位とする。この制度は、学生各人が自身の適性或希望する進路に従って厳選した科目一つひとつの学修に十分なコミットメントをもって取り組むことにより、高度な専門能力を修得することを目的とするものである。この方針に従い、アドバイザー教員は担当クラス（ゼミ、卒業研究等含む）の各学生に対し履修すべき科目・単位についてきめ細かな履修指導を行う。

また、本学部は留学生の入学も予定している。在籍管理は学生支援課及び国際課、履修指導は学務課、怪我や体調管理は保健室、心や友人関係の悩み相談等は学生相談室が行う他、留学生の全般的なサポート役は国際課が担う。また、留学生ノート（International Student Handbook）を発行し、在留手続きや学生生活、日本における日常生活のルール等を指導する。

6. 多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合の具体的計画

本学では、武蔵野INITIALを中心に、教育効果に影響が生じない科目に限り、オンライン授業を導入している。また、本学学則において以下のとおり規定している。

【学則抜粋】

（メディアを利用して行う授業）

第12条の2 本学において教育上有益と認めるときは、前条の授業を、多様なメディアを高度に利用して、教室等以外の場所で履修させることができる。

2 前項の授業の方法により修得する単位数は、卒業の要件として修得すべき単位数のうち60単位を超えないものとする。

3 メディアを利用して行う授業科目及び授業方法については別に定める。

規程にて定めているとおり自宅等でも履修できることとするが、インターネット環境等が整わない学生や、学内でも履修することが可能となるよう、空き教室の他、オンライン学修スペースとして武蔵野キャンパスには5室（全234席）を用意しているほか、クリエイティブ・ラーニングスクエアでも授業の受講ができるよう、環境を整備している。

オンライン授業の実施にあたっては、対面授業と同様シラバスに詳細を明記し、授業内外においてインターネット上で質疑応答や意見交換を行う場を設けているほか、各教員はオフィスアワーを設け、履修相談や学修指導を併せておこなうことができるよう、配慮し

ている。

なお、本学部のオンライン授業を実施する科目は全 34 単位であり、全て履修した場合であっても 60 単位を上回ることはない。

7. 編入学定員を設定する場合の具体的計画

本学部は、2 年次に 10 人の編入学定員を設定している。既修得単位の認定方法、履修指導方法、教育上の配慮等は以下のとおりである。

(1) 既修得単位の認定方法

学生が本学に入学する前に大学又は短期大学等において履修した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）について、本学の授業科目の履修により修得したとみなし、単位を認めることができる。具体的には、既修得科目の成績証明書、シラバスを基に、本学の開講科目の授業内容と一致する場合、学長が単位認定を行う。なお、修得した単位認定の上限は 60 単位、また成績評価は「認」とする。

(2) 履修指導方法

入学年度当初に本学における履修制度（履修登録の方法やポータルサイトの使用方法など）の説明を行う。また、年間の履修計画等について所属学科の指導教員（アドバイザー）と面談を行う。編入学後の履修モデル（卒業要件単位数で作成したもの）は【資料 6】のとおり。

(3) 教育上の配慮等

教育上の配慮として、所属学科の指導教員（アドバイザー）と面談を行い、入学後の学修や生活が円滑に進むように指導する。

8. 企業実習や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画

学外学修については、以下のとおり実施する。

No	科目区分		授業科目の名称	配当年次	必修/選択/自由
①	共通科目	フィールド・スタディーズ	フィールド・スタディーズ	1 休	必修
			フィールド・スタディーズ 1～4	1 休	選択
②			フィールド・スタディーズ発展 1 A～4 D	1・2・3・4 休	選択
③	学科科目	インターンシップ	インターンシップ	2 ②～④	選択
			企業協働プロジェクト	2 ②～④	選択
④		自然・環境	自然・環境プロジェクト	2 ②・休	必修
⑤		ビジネス	地域・ビジネスプロジェクト	3 ②・休	必修
⑥		国際理解	海外インターンシップ	2・3・4 ②～休	選択

各授業科目の実習先の確保の状況、実習先との連携体制、成績評価体制及び単位認定方法等は以下のとおりである。

① 「フィールド・スタディーズ」「フィールド・スタディーズ１～４」

ア 実習先の確保の状況
「北海道東川町役場 地方行政フィールドワーク」「世界を牽引する IT 産業都市上海の今」「小金井市 地域の寄り合い所 また明日」等のプログラムで構成する【資料 7】。全学部共通科目（薬学部を除く）として毎年実施しており、令和４年度については、他学科含め２千５百人程度の受入枠を確保している。
イ 実習先との連携体制
各受入団体と連携し、本学の担当教職員が実習中に同行、巡回するとともに、実習前や実習後に実習内容についてヒアリング及び振り返りを行うことで連携を図っている。
ウ 成績評価体制及び単位認定方法
実習ノート及びプログラムの求める到達度目標、実習期間等を踏まえ、総合的に評価する。
エ その他特記事項
プログラム実施期間（実日数）により、「フィールド・スタディーズ１～４」に分かれている。

② 「フィールド・スタディーズ発展１Ａ～４Ｄ」

ア 実習先の確保の状況
「映像制作表現プログラム（基礎）・（応用）」「仏教を学び、仏教から学ぶ F S」「“商い”を知る」等のプログラムで構成する【資料 8】。令和４年度については、全学科の学生を対象に１５０人程度の受入枠を確保している。
イ 実習先との連携体制
各受入団体と本学の担当教職員は、実習前や実習後に実習内容についてヒアリング及び振り返りを行うことで連携を図っている。
ウ 成績評価体制及び単位認定方法
プログラムの求める到達度目標、実習期間等を踏まえ、総合的に評価する。
エ その他特記事項
プログラム実施時間により、「フィールド・スタディーズ発展１Ａ～４Ｄ」に分かれている。

③ 「インターンシップ」「企業協働プロジェクト」

ア 実習先の確保の状況
例年、ホテル、旅行会社、官公庁、小売等の国内約 50 社と連携している。他学科含め 130 人強の受入枠を確保している。令和４年度については、コロナ禍の影響にもかかわらず、32 社 63 人の受入枠を確保している【資料 9】。
イ 実習先との連携体制
実習中の記録となる実習ノートに実習先の担当者からコメント・評価をいただくとともに、本学の担当教職員が実習後必要に応じて訪問し、実習内容や実習学生についてヒアリングを行うことで連携を図っている。状況に応じて担当教職員が新規の実習先を中心に視察を行うことで、翌年度以降の提携等に向けて連携を図っている。令和４年度については、コロナ禍の影響で訪問はせず、必要に応じてオンラインや電話等にて対応した。
ウ 成績評価体制及び単位認定方法

実習ノート及び実習先での評価・目標の達成度、フォローアップ授業により、総合的に評価する。なお、受入先企業での課題解決を主として取り組む実習の場合には、「企業協働プロジェクト」という授業科目名称としている。
エ その他特記事項 「インターンシップ」は、企業や自治体等で原則として5日以上の就業体験を行う科目である。「企業協働プロジェクト」は、企業や自治体等より提示された課題に対し、企業等と協働して解決に取り組むプロジェクトに従事する科目である。

④ 「自然・環境プロジェクト」

ア 実習先の確保の状況 農林水産業分野の現場など5カ所で実習を行う予定である【資料10】。
イ 実習先との連携体制 各受入団体と連携し、本学の担当教職員が実習中に同行するとともに、実習前や実習後に実習内容についてヒアリング及び振り返りを行うことで連携を図っている。
ウ 成績評価体制及び単位認定方法 実習先での気づきを記録するノート、オリエンテーション授業、フォローアップ授業、報告会やレポート提出の内容により、総合的に評価する。

⑤ 「地域・ビジネスプロジェクト」

ア 実習先の確保の状況 地域・福祉・ビジネスの現場など4カ所で実習を行う予定である【資料11】。
イ 実習先との連携体制 各受入団体と本学の担当教職員は、実習前や実習後に実習内容についてヒアリング及び振り返りを行うことで連携を図っている。
ウ 成績評価体制及び単位認定方法 実習ノート及び実習先での評価・目標の達成度、オリエンテーション授業、フォローアップ授業、報告会の内容により、総合的に評価する。

⑥ 「海外インターンシップ」

ア 実習先の確保の状況 海外の5カ所で実習を行う予定である【資料12】。
イ 実習先との連携体制 各受入団体と本学の担当教職員は、実習前や実習後に実習内容についてヒアリング及び振り返りを行うことで連携を図っている。
ウ 成績評価体制及び単位認定方法 実習ノート及び実習先での評価・目標の達成度、オリエンテーション授業、フォローアップ授業、報告会の内容により、総合的に評価する。

9. 入学者選抜の概要

本学部では、ウェルビーイングという総合的概念についての社会学・心理学的知見や、新たに創造的なデザインを行うため問題発見・課題解決できる実践的な能力を身につけ、今後のあるべきウェルビーイング社会の創造に主体的に取り組んでいく人材を養成する。

したがって、入学者には以下のとおりアドミッション・ポリシーを定め、入学者を受け入れる。

＜ウェルビーイング学部アドミッション・ポリシー＞

産業革命以来の経済成長重視型社会から生きとし生けるもののウェルビーイングを最優先する社会への大きな転換点である現代において、「生きとし生けるものがウェルビーイングに満ち溢れた世界」を創造的にデザインする気概を持った者の入学を求める。

＜ウェルビーイング学科アドミッション・ポリシー＞

「生きとし生けるものがウェルビーイングに満ち溢れた世界」を創造的にデザインできる人材を育成する。そのため、以下のような者の入学を求める。

志向性： 将来の進路	具体的な進路として以下の将来像を描く者 ・ グローバルな世界をフィールドとして、ウェルビーイングな世界や産業を創出する人材（企業（メーカー、商社、医療看護、介護福祉等）や教育現場でのウェルビーイング推進担当者、起業家等） ・ 地域をフィールドとして、それぞれの地域の特色をいかしたウェルビーイングをデザインし、地域活性化を担う人材（ウェルビーイングな地域の創生を目指す自治体の公務員、企業への就職、NPO諸団体への所属等） ・ 大学院に進学し、ウェルビーイングの学問研究の方法論をさらに学び、ウェルビーイングな世界を総合的にデザインしていく人材（海外・国内の大学院進学、研究機関・シンクタンク職員等）
期待する能力： 知識・専門性	・ 高等学校で履修することが望ましい科目：英語、国語、数学、地理・歴史・公民（日本史、世界史、政治・経済）。いずれにせよ、各自の個性と特徴に応じて興味のある教科の基本を十分かつ深く学習していること ・ 高等学校で取得することが望ましい資格等：英語アセスメントテスト（TOEIC、TOEFL、IRLTS、実用英語検定試験等） ・ スキル：標準的な ICT リテラシー
期待する能力： 関心・態度・人格	・ ウェルビーイングに満ち溢れた世界を創りたいという情熱と利他心のある者 ・ 大きな時代変化を担っていききたいという野心と挑戦心のある者
期待する能力： 思考力・判断力	・ 論理的に考える力 ・ 他の人を惹きつける人間的魅力
期待する能力： 交感力・発信力	・ 自分の個性を理解し、自分らしく生きてより良い世界を創りたいという純粋な思いを表現し実践する行動力

選抜方法、選抜体制、選抜基準等については、上記のアドミッション・ポリシーに基づ

き、学修を積み上げていくのに必要な学力及び教育課程に積極的に取り組む姿勢を有しているかを重視し、以下のとおり計画している。

【出願資格】（共通）※外国人を対象とした入試を除く。

- ・高等学校（特別支援学校の高等部含む、以下同じ。）若しくは中等教育学校を卒業した者及び入学予定前年度3月卒業見込みの者
- ・通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び入学予定前年度3月修了見込みの者
- ・高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者、入学予定前年度3月31日までにこれに該当する見込みのある者

① 一般選抜

募集人員	36人
時期	2月を中心に数回実施
試験内容	学力検査：英語、国語、数学、物理、化学、生物、世界史、日本史、政治・経済、情報の教科・科目のうち、2科目～3科目を選択

② 大学入学共通テスト利用選抜

募集人員	12人
時期	12月から3月にかけて出願期間を設けている。学力検査は1月の大学入学共通テストのみ
出願基準	共通テストの定められた科目を受験していること
試験内容	・ 共通テスト結果を利用し、特に書類審査や面接等は行わない ・ 英語、国語、地理歴史・公民、数学、理科のうち2科目～5科目を選択

③ 総合型選抜

募集人員	12人
時期	10月実施
出願基準	・ 定められた課題等を提出できる者 ・ 定められた資格等を有する者
試験内容	書類審査、面接、プレゼンテーション、能力・適性、基礎学力等に関する検査

④ 推薦選抜

【募集人員】若干名

ア. 系列校学校推薦型選抜

時期	11月実施
出願基準	高等学校の成績指定
試験内容	書類審査

イ. 指定校学校推薦型選抜

時期	11月実施

出願基準	高等学校の成績指定
試験内容	書類審査

⑤ 特別選抜

【募集人員】 若干名

ア. 帰国生選抜

時期	10月～3月の間に数回実施
出願基準	日本国籍を有し、入学予定年度4月1日現在18歳に達する者で、次の各項のいずれかに該当する者。 A. 外国の高等学校に最終学年を含め2年以上継続して在籍し卒業（修了）した者。または、入学予定前年度3月31日までに卒業（修了）見込みの者。 B. 外国の中学・高等学校で継続して2年以上教育を受け、入学予定前年度3月31日までに日本の高等学校（中等教育学校含む）を卒業見込みの者、もしくは文部科学大臣が行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者（大学入学資格検定に合格した者を含む）及び入学予定前年度3月31日までに合格見込みの者で、卒業時点で帰国後原則として2年以内の者。 C. 文部科学大臣が、高等学校の課程と同等の課程またはそれに相当する課程を有すると認定した在外教育施設に2年以上在籍した者。 D. 国際バカロレア資格取得者など本学が適当と認めた者。
試験内容	書類審査、面接

イ. 社会人選抜

時期	2月実施
出願基準	入学予定年度4月1日現在22歳に達する者で出願時点で1年以上の社会経験を有し、次の各項のいずれかに該当する者。 A. 入学予定前年度の4年前の3月以前に高等学校（中等教育学校含む）を卒業した者、もしくは文部科学大臣が行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者（大学入学資格検定に合格した者を含む）及び入学予定前年度3月31日までに合格見込みの者 B. 通常の課程による12年の学校教育を修了した者。 C. 学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者。
試験内容	書類審査、面接

- ※ 本学部が選抜対象とする社会人は、「社会経験を経た多様な世代、多様な知識・経験を積んだ者を対象とし、主体性を持って多様な人々と学ぶ態度、社会経験をふまえた入学後の学習意欲、卒業後のビジョンを明確に持った者」と定義する。
- ※ 社会人の既修得単位認定については、既修得科目の成績証明書及びシラバスを基に、本学の開講科目の授業内容と一致する場合、学長が単位認定を行う。また、修得した単位認定の上限は60単位、成績評価は「認」とする。なお、時間の確保が困難な社会人学生については、申請書類準備期間に十分な時間を設ける、資料の提出方法はメールや郵送でのやり取りで完結させるなどの配慮を行う。

ウ. 編入学選抜

時期	10 月～3 月の間に実施
出願基準	・ 入学予定年度 4 月 1 日現在 18 歳に達する者で、次の各項のいずれかに該当する者。 ・ 短期大学を卒業した者および入学予定前年度 3 月 31 日までに卒業見込みの者。 ・ 高等専門学校を卒業した者および入学予定前年度 3 月 31 日までに卒業見込みの者。 ・ 大学に 1 年以上在学し、33 単位以上を修得した者および入学予定前年度 3 月 31 日までに卒業見込みの者。 ・ 外国において学校教育における 14 年以上の課程を修了した者。 ・ 本学が短期大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者。 ・ 専修学校専門課程のうち、文部科学大臣の定める基準（修業年限が 2 年以上で、かつ、課程の修了に必要な総授業時数が 1,700 時間以上）を満たすものを修了した者および入学予定前年度 3 月 31 日までに卒業見込みの者。 ・ 文部科学大臣の指定した者。
試験内容	書類審査、専門に関する基礎知識、面接

⑥ 外国人留学生入学試験

募集人員	若干名
時期	11 月、12 月、2 月、3 月実施
出願基準	(外国人共通) 以下(1)～(3)のすべての項目を満たす者。 (1) 日本国籍を有しない者 (2) 次の(a)～(e)のいずれかに該当する者 (a) 日本国の内外を問わず学校教育における 12 年以上の課程を修了した者（2024 年 3 月までに修了見込みの者、「飛級」により通常の課程を 12 年未満で修了した者を含む）。ただし日本の教育制度に基づく中学校・高等学校の在籍期間が通算 3 年以内の者。 (b) 外国における 12 年の教育課程修了相当の学力認定試験に合格し、2024 年 3 月 31 日までに 18 歳に達する者。 (c) 外国の大学入学資格である国際バカロレア、アビトゥア、バカロレア、GCEA レベルを保有（見込み）する者。 (d) 外国における 12 年未満の教育課程を修了した者で、文部科学大臣の指定する準備教育課程を修了（見込み）した者。 (e) 高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められ、2024 年 3 月 31 日までに 18 歳に達する者。 ※ (e)で出願される場合は各入試区分の出願開始日の 1 カ月前までに大学入試センター事務課までお問い合わせください。 (3) 本学在学中の学費・生活費を支弁する能力を有する者。
試験内容	学力検査、面接、書類審査

- ※ 日本語能力等の資格要件については、出願書類として日本留学試験又は日本語能力試験の結果を提出することとしている。
- ※ 経費支弁能力の確認方法については、「外国人留学生入学試験要項」の出願基準の必須要件として「本学在学中の学費・生活費を支弁する能力を有する者」を明記してい

る。また、海外から直接日本に渡航する留学生に関しては、在留資格認定証明書を本学から出入国在留管理庁へ申請する前に、留学生本人から本学に滞在費（生活費、学費及び家賃等）の支弁方法等を申告することとしているため、事前に本学で確認がとれる体制を整備している。なお、本学は出入国在留管理庁から「適正校（在籍管理優良校）」の認定を受けているため、在留資格認定証明書申請時の手続きは一部簡素化されている。

- ※ 在籍管理方法については、入学と同時にすべての外国人留学生に、在留資格管理システムへ学生基本情報（在留資格情報、パスポート情報、日本国内連絡先、母国の連絡先、緊急連絡先、学歴情報等）を登録させており、登録した情報に変更が生じた場合は、随時更新するよう指導し、最新の情報を常に管理できる体制を整えている。また、在留資格が留学である留学生に対しては、毎月初めに各キャンパスの国際課窓口にて、対面で在籍確認を行い、在籍状況を管理している。なお、一時帰国する場合には一時帰国届を、再入国の際には再入国届を国際課に提出させ、出入国状況についても管理している。

10. 教員組織の編成の考え方及び特色

専任教員は16人の専任教員（うち12人は教授）から構成されている。教員数の設置基準を満たしたうえで、年齢構成にも配慮しながら、教育研究上の優れた業績を有する者をそれぞれ適切に配置して、きめ細やかな専門教育・指導を行っていく。特に、教育上主要と考える本学部の必修科目については、主に専任教員のうち教授または准教授を配置している。

また、本学部は、ウェルビーイングという総合的概念についての社会学・心理学的知見や、新たに創造的なデザインを行うため問題発見・課題解決できる実践的な能力を身につけ、今後のあるべきウェルビーイング社会の創造に主体的に取り組んでいく人材を養成することを目的とする。そのため、学際的な科目構成とするとともに、常にウェルビーイングを中心に置き、どの科目においてもウェルビーイングに立ち帰ることのできる教育課程を体系的に編成している。この教育課程の実現に向け、専任教員組織については、文学、社会学・社会福祉学の分野を中心とした専任教員を配置している。

文学においては、人々がウェルビーイング（幸せ・生きがい・安心・福祉・健康・平和など）を感じられる世界を創出するための基盤となる考え方となる仏教学、西洋哲学、東洋哲学、倫理学に関する専門家を配置し、社会学・社会福祉学においては、ウェルビーイングという総合的概念についての社会学・心理学的知見や、新たに創造的なデザインを行うため問題発見・課題解決策を実践的に検討する社会学、基礎心理学、社会福祉デザイン等に関する専門家を配置し、両分野ともに教育研究経験の豊富な教員で組織している。また、自然環境体験、企業・自治体等への学外学修等の様々な体験から感性的にウェルビー

イングを学修するため、自然環境、人材開発等の分野における実務経験の豊富な教員も配置する。

本学部を中心となる研究分野については、前述の文学及び社会学・社会福祉学の学問分野となる。併せて、まだ高等教育において構築されていない研究分野として、ウェルビーイングに関するデザイン学、自然環境学等の自然科学や教育学、経済学等の分野からもウェルビーイングを学際的に研究することで、人々がウェルビーイング（幸せ・生きがい・安心・福祉・健康・平和など）を感じられる新たな世界をデザインする学問分野「ウェルビーイング学」を新たに構築していく。研究体制については、世界のしあわせを響創するための学際的な研究を行い、自他ともにしあわせを享受できる世界の実現に貢献することを目的に設立した「武蔵野大学しあわせ研究所」（平成 28 年 7 月設立）を基盤に研究活動をより充実させる予定である。

教員の年齢構成について、開設年度の年齢で 60 代 6 人、50 代 4 人、40 代 5 人、30 代 1 人の計 16 人であり完成年度の 3 月 31 日には 70 代 2 人、60 代 6 人、50 代 6 人、40 代 1 人、30 代 1 人となるが、教育研究水準の維持向上及び活性化に支障がない構成になっている。定年に関する学内規程【資料 13】では、大学教員の定年は 65 歳、大学院を担当している場合には 70 歳まで延長が可能としている。完成年度までに 3 人が定年を迎えるが、定年規程附則第 17 項により、本学部の完成年度末まで延長が可能としている。定年により退職となる教員の後任には、50 代以下の教員を積極的に採用し、教育研究の活性化と継続性を確保していく。

11. 研究の実施についての考え方、体制、取組

本学には、学部・研究科以外の幅広い活動の場として、従来の学問領域にとどまらない研究環境を整備しており、現在 24 の研究所を設置し、専任教員は専門領域等に応じていずれかの研究所に所属し、研究を行う。

所属する研究所に応じて、一律に配分される大学研究費の他、学術研究の推進及び教育実践の向上を目的とした研究に対し、申請・審査のうえ特別に配布する大学特別研究費により、全専任教員が研究を実施することとしており、研究費の執行に当たっては、研究計画書及び報告書の提出を課すことで適切に運用できるよう管理している。

また、研究支援のための事務局を整備し、学内研究費の執行管理に加え、外部研究費（科学研究費等を含む）の獲得に向けた支援を行っている。

さらに「武蔵野大学研究活動規範」に基づき「研究活動規範委員会」「全学研究倫理委員会」「学部研究倫理委員会」「研究科学研究倫理委員会」を設け、研究倫理遵守のための体制を整備している。

12. 施設、設備等の整備計画

(1) 校地、運動場の整備計画

本学部は4年間を通じて武蔵野キャンパスで学修する。敷地内には学習施設の他、図書館やコンピュータ室等の情報サービス施設や食堂、売店等の福利厚生施設も全て同敷地内にあり、本学部の学生は現在の教育環境をそのまま利用する。

学生の休息その他の利用のため、開放的な中庭やベンチといった休息の場を整備しており、武蔵野キャンパス1号館2階、7号館1階、8号館2階には開放的な学生ホールを設け、多くの学生が余裕をもって休息、交流その他に利用している。

運動場については、武蔵野キャンパスには、体育の授業利用に十分なランニングコースを有するグラウンド(20,187.00 m²)、体育館として第二体育館(939.65 m²)及び第三体育場(234.27 m²)を備えている。

(2) 校舎等施設の整備計画

本学部の教育課程、学生人数等の体制で運営するためには、専任教員の研究室、授業を実施するための教室が必要であり、校舎等施設については、4年間を通じて原則武蔵野キャンパス(東京都西東京市)を利用する。

必要な教員研究室について、1人1室又は2人1室の研究室を6号館及び2号館等に用意する。2人1室の研究室についても、学生のプライバシーが確保されるよう床から天井までの間仕切り壁を設置し、半個室の研究室を用意する。専任教員16人が入居し、各研究室で個別研究指導や学生の個別面談を行う。

本学部の時間割案は【資料14】のとおりであり、主に1号館、6号館及び7号館の教室を利用する。本学部の設置に伴い、最大で必要となる通常の教室数(クラス数)は、ゼミナール等が配置される1、2学期の水曜日1、2限にて19教室が必要となることが見込まれているが【資料14】、対象となる時限の令和5年度教室稼働率の予測では最大42.6%(23室/54室)となっており、4学期中最も稼働率の高い1学期の教室稼働率は平均44.5%(24室/54室)で5割を下回っていることから【資料15】、本学部設置後も教育を行うに十分な教室を備えており、本学部を含め他学部学科等の教育研究にも支障がない。

また、全学生の主体的な自学自習及びグループ学習を支援する施設として、5号館1・2階の「クリエイティブ・ラーニングスクエア」(8時40分～20時00分開室)が利用可能である。

(3) 図書等の資料及び図書館の整備計画

本学は、総合大学として、既に文学部、グローバル学部、法学部、経済学部、経営学部、アントレプレナーシップ学部、データサイエンス学部、人間科学部、工学部、教育学部、薬学部、看護学部の12学部及び大学院文学研究科、言語文化研究科、法学研究

科、政治経済学研究科、データサイエンス研究科、経営学研究科、人間社会研究科、仏教学研究科、環境学研究科、工学研究科、教育学研究科、薬科学研究科、看護学研究科の13研究科、さらには各学部に研究所を設置している。教育研究に必要な図書・文献については既に十分所蔵しており、これらの図書等を有効に活用する。また、必要に応じて更なる充実を図っていく予定である。

本学では、約3,500タイトルの学術雑誌(そのうち、Elsevier、Springer Nature、Wiley、American Chemical Society等主な出版社の電子ジャーナル約2,000タイトル)の閲覧が可能である。また、本学部の学生が教育研究に必要と考えられる125種のジャーナルを整備している【資料16】。

データベースにおいては、国内の総合データベース「日経BP」「日経テレコン21」等をそろえ、海外の新聞データベース「EBSCOhost Newspaper SourcePLUS」「ProQuest New York Times」等とともに各種学習・研究のサポートをしている。さらに、雑誌記事検索・全文データベース・書籍情報として、「Scopus」「EBSCOhost Business Source Elite」、「EconLit」等の利用が可能である。また、電子書籍の導入も積極的に進めており国内の学術系電子書籍約3,200タイトル、海外の学術系電子書籍5,900タイトル以上が閲覧可能である。

本学図書館では、学生が来館時に閲覧・借用できることに加え、以下のサービスを提供することで、自宅での学習・研究にも配慮する。

(i) インターネットによる蔵書検索
インターネットに接続していれば、本学の図書館WEBから、本学図書館の蔵書(約45万冊)を検索することが可能である。また、該当の図書が貸出中であるかどうかと同時に確認することができる。
(ii) 貸出予約
希望する図書が貸出中の場合、当該図書が返却された後に優先的に利用できる制度を設け、学生は、貸出窓口あるいは図書館のホームページ上から予約申込をし、当該図書が返却された後、来館により貸出を可能にする。
(iii) 2キャンパス間のシャトル便サービス
武蔵野キャンパス・有明キャンパスの両キャンパスに所蔵する図書資料についても、相互に予約・貸出ができる図書館システム機能を導入し、キャンパス間の定期便等で相互に資料の転送を行い利用者サービスの向上を行っている。
(iv) 文献複写
既に本学所蔵の図書・雑誌については、著作権法に反しない範囲で文献複写サービスを行っているが、学生が検索した結果、本学に所蔵していない図書資料については、他大学図書館等に文献複写・資料貸借の依頼をすることを可能にする。平成29年度からは海外の雑誌資料の文献複写サービスであるReprintsDeskを導入した。
(v) 他大学等の図書館の閲覧案内
本学図書館では、他大学図書館のほか、国立国会図書館をはじめとした全国の公共図書館の情報も学生に提供する。学生が検索した結果、本学に所蔵していない図書資料については、レファレンスカウンターでの申込により、当該大学図書館を検索し、閲覧の依頼を可能とする。 また、国立国会図書館でデジタル化した図書や雑誌のうち、絶版等で現在手に入らない約153万点について、国立国会図書館の承認を受け平成26年6月から両キャンパス

ンパス図書館で「デジタル化資料送信サービス」（閲覧・複写）の運用を開始した。
（vi）文献調査、事項調査
学生が希望する研究分野・テーマに関する文献調査、事項調査に対応する。メールでも受け付けている。
（vii）全資料の開架化
武蔵野キャンパスの図書館は、一般図書、基本文献等については、開架図書として自由に閲覧、貸出が可能である。 有明キャンパスの図書館は貴重書以外のすべての図書資料を開架図書として自由に閲覧、貸出が可能である。大学院の学生については、学術雑誌バックナンバーの貸出にも対応している。
（viii）研究閲覧室の設置
武蔵野キャンパスの図書館には、600席を有する閲覧室があり、館内には50台のパソコン（うち8台は館内貸出用ノートパソコン）を有する。また、両キャンパス図書館とも館内には無線LANの環境が整備されており、学生が持ち込んだノートパソコン、タブレット端末等で、インターネットを利用して、研究に必要な情報の収集及び論文作成を行うことを可能にする。 有明キャンパスの図書館には、296席の閲覧室がある。また、館内には34台のパソコン（うち12台は館内貸出用ノートパソコン）を有する。これにより、学生がインターネットを利用し、研究に必要な情報の収集及び論文作成を行うことを可能にする。
（ix）電子リソースの遠隔地利用
本学では図書館の電子化を積極的に推進しており、教職員及び学生を対象に自宅からのデータベース利用を実現すべく、リモートアクセスソフトを導入し、運用している。

13. 管理運営及び事務組織

（1） 教学面における管理運営体制

本学部に教授会、代議員会を設け、学部学科に関する運営を行う。教授会は教授をもって構成する。ただし、学部長が必要と認めたときは構成員以外の教職員の出席を求めることができる。また、原則としてあらかじめ議案を通知して、学部長がこれを招集しその議長となる。なお、学部長に事故があるときは、あらかじめ学部長の指名した者が代行する。

月1回を目安に教授会を開催し、学則第53条に規定されている本学部に関する次の各号に掲げる事項を審議する。

- ① 学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項
- ② 学位の授与に関する事項
- ③ 前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定める事項
- ④ 教育及び研究にかかわる規則及び組織に関する事項
- ⑤ 教育課程及び履修方法に関する事項

- ⑥ 学生の試験に関する事項
- ⑦ 学生の休学、転学、退学に関する事項
- ⑧ 学生の賞罰に関する事項
- ⑨ 学生の厚生補導に関する事項
- ⑩ その他教育及び研究に関する重要事項
- ⑪ 上記各号に関する諸規程の制定・改廃に関する事項
- ⑫ 学部運営上学部長が必要と認めた事項

上記の④及び⑩の事項は代議員会の議決をもって、また、①の学生の入学に関する事項は入学者選考委員会の議決をもって、教授会の議決に代えることができるものとする。

代議員会は、学部長、建学の精神担当教員、学科長、教授会の推薦による教授2名以内（この代議員の任期は2年とする）をもって構成する。代議員会は、必要に応じて開催し、学部長が招集し議長となる。学部長に事故があるときは、あらかじめ学部長が指名した者がその職務を代行する。代議員会は、次の事項について審議し、その決定について教授会に報告するものとする。

- ① 教授会並びに教員資格審査委員会に付議する議案に関する事項
- ② 教授会から審議を付託された事項
- ③ 理事長及び学長から諮問された事項
- ④ 学部長から提案された事項
- ⑤ その他学部の運営に必要な事項

（２） 事務組織体制及び厚生補導を行うための組織

事務組織体制については、大学の教学に関する事務として、大学の教育改革推進、海外大学連携、留学生支援、学外学修等を所掌する「教育企画部」、教員人事、研究支援、予算・研究費、学部長会議・教授会等諸会議、産官学連携、外部資金獲得等を所掌する「研究支援部」、教育課程、授業科目編成、授業・学修支援等を所掌する「教学事務部」、学生支援、就職支援等を所掌する「学生支援部」を置き、教育研究活動等の組織的かつ効果的な運営を図っている。

厚生補導を行うための組織については、教授会や武蔵野大学学生指導委員会にて、学生補導に関すること、奨学援助に関すること、学生の健康管理に関すること等を審議している。武蔵野大学学生指導委員会の構成員は教員管理職の学生部長を委員長とし、各学科から各1名、事務局から学生支援部長及び学生支援課長、その他必要に応じて教職員を若干名としている。厚生補導に関わる事務については、学生支援部学生支援課及び武蔵野学生支援課が所掌している。

14. 自己点検・評価

① 実施方法

本学の自己点検・評価は、武蔵野大学教育改革推進会議（以下「教育改革推進会議」という。）で定めた方針に従い、武蔵野大学自己点検・評価委員会（以下「自己点検・評価委員会」という。）が主体となって全学的に点検・評価を行っている。また、平成24年度から各学部・研究科及び事務局等に自己点検・評価小委員会（以下「自己点検・評価小委員会」という。）を置き、各学部・研究科・事務局内の点検・評価を行っている。

直近では、平成30年度において、平成28年度～平成30年度の本学の取組について自己点検・評価を実施し、自己点検・評価報告書を作成した。令和元年度には武蔵野大学外部評価委員会（以下「外部評価委員会」という。）を立ち上げ、この自己点検・評価報告書に基づいた外部評価を行い、客観的な評価による教育水準の向上に取り組んでいる。さらに、令和3年度からは、大学独自に定めた自己点検・評価チェックシートに基づく点検・評価活動を導入し、毎年実施している。

また、自己点検・評価の一環として学生による授業評価を平成10年に開始し、以降、原則的に毎年実施している。結果については教員に通知し、授業の改善・水準向上に役立てている。平成27年度からは、授業評価に対する授業改善の取組を実質化させるべく、全学科・全科目（実習・実技・少人数授業を除く）を対象とした教員アンケートを実施し、自己評価と授業改善案を教員が提出している。平成28年度からは授業評価の対象を大学院科目にも拡大し、これを継続して実施している。

② 実施体制

自己点検・評価については、学則第3条及び武蔵野大学自己点検・評価規程に基づき、点検・評価に関する実施体制を整備している。具体的には、自己点検・評価の方針を定める責任主体を教育改革推進会議と定め、教育改革推進会議のもと内部質保証を推進するための全学的な体制として、包括的な点検・評価を行う自己点検・評価委員会、自己点検・評価小委員会を置いている。また、外部評価委員会を置くことで、客観的な評価の実施により、質の担保及び更なる向上を図っている。

教育改革推進会議については、武蔵野大学の教育改革を推進するとともに、全学的な教育体制を充実させ、組織的な取組を行うために設置しており、「武蔵野大学教育改革推進会議規程」に基づき、学長を議長とし、内部質保証推進に関する事項や自己点検・評価の方針に関する事項について検討を行っている。

自己点検・評価委員会については、「武蔵野大学自己点検・評価委員会規程」に基づき、学長を委員長とし、点検・評価の実施に関すること、点検・評価に関する報告書の作成に関すること、点検・評価についての総合調整に関すること、認証評価に関すること等の検討を行っている。なお、議題に応じ毎年度1～3回程度、必ず開催している。

自己点検・評価小委員会については、「武蔵野大学自己点検・評価委員会規程」に基づき、各組織の長を委員長とし、各学部・研究科・事務局の自己点検・評価を行っている。なお、毎年行う点検・評価活動に基づき、年1回は必ず開催している。

外部評価委員会については、「武蔵野大学外部評価委員会規程」に基づき、委員長は委員（副学長、教育企画部長、学長が委嘱する学外有識者）の互選により決定し、自己点検・評価委員会が行う自己点検・評価について検証、評価を行っている。

③ 点検・評価の進め方

【教育改革推進会議】 点検・評価の方針を定める。
【自己点検・評価委員会】 点検・評価の実施方法を策定し、大学全体の点検・評価を行うとともに、各学部・研究科等の自己点検・評価小委員会が行う点検・評価を統括し報告書を作成する。
【自己点検・評価小委員会】 点検方針、基準、実施方法に基づき、各学部・研究科等における点検・評価を実施する。
【外部評価委員会】 自己点検・評価委員会が行う自己点検・評価について検証及び評価を行い、評価結果を教育改革推進会議に報告する。

④ 評価項目

「武蔵野大学自己点検・評価規程」において、評価項目を次のように定めている。

1) 建学の精神、教育理念・目的、2) 内部質保証、3) 教育研究組織、4) 教育課程・学習成果、5) 学生の受け入れ、6) 教員・教員組織、7) 学生支援、8) 教育研究等環境、9) 社会連携・社会貢献、10) 大学運営・財務、11) その他

⑤ 結果の活用

自己点検・評価報告書は大学ホームページで公開している (<https://www.musashino-u.ac.jp/guide/information/inspection.html>)。自己点検・評価委員会及び外部評価委員会からの報告を受けて教育改革推進会議で改善が必要と認めた事項については、その事項を所管する学部・研究科・事務局に対し、改善を要請する。また、自己点検・評価小委員会において改善が必要と認められた事項については、各学部長・研究科長・事務局部長を中心に改善を図っている。

⑥ 第三者評価への取組

平成18年7月に公益財団法人日本高等教育評価機構による認証評価の実施を受け、平成19年3月に同機構が定める大学評価基準を満たしていると認定された。また、平成24年度と令和元年度には公益財団法人大学基準協会による認証評価を受審し、それぞれ平

成25年3月、令和2年3月に同協会が定める大学基準に適合していると認定された。なお、いずれの認証評価においても是正勧告は受けていない。また、これらの評価結果並びに自己点検・評価報告書は大学のホームページで公開している。

15. 情報の公表

仏教の根本精神の四弘誓願（しぐぜいがん／ほとけのねがい）を基礎とする人格教育という建学の精神を掲げ、その精神のもとに独自の特色ある教育を展開し、社会の各方面で活躍する人材の育成を目指している本学においては、社会から信頼・支持され、期待される大学になることを何より重要かつ必要不可欠とし、高等教育機関としての社会的役割を堅実に果たしていくことが最も重要であると考えている。

そのために、教育力の向上、その裏付けとなる研究水準の維持・向上、社会貢献力の強化に、不断の努力を傾注することはもちろんのこと、本学の現状を示す情報を積極的に公開し、社会からの批判的意見や評価を真摯に受け止め、日々、改革・前進に努めることとしている。

本学では、前述の方針及び社会に対する説明責任を果たし、教育と研究の質の維持向上を図るため、学校教育法第113条及び学校教育法施行規則第172条の2に基づき、教育研究活動等の情報を公表している。

公表している情報については、本学ホームページ上に「公開情報」としてまとめて掲載している（<https://www.musashino-u.ac.jp/guide/information/>）。なお、公開情報の項目及びその掲載箇所については、【資料17】のとおりである。

また、ホームページの他、以下の冊子等を作成し、学内教職員をはじめ全国の大学・研究機関、官公庁等に配布し、教員の教育研究についての情報公開を行っている。

- ・「大学紀要」
- ・「学内学会誌」
- ・「センター報」「研究所報」「年報」（附置機関の教育研究活動状況）
- ・「自己点検・評価報告書」：平成30年度刊行

さらに、授業評価の結果についてもホームページ上で公開している。

項目	内容	URL
授業評価の実施概要	・ 実施概要（実施期間、対象、科目、方法、設問数） ・ 調査内容 ・ 実施状況（対象科目数、履修者数、回答者数、回答率）	https://www.musashino-u.ac.jp/guide/information/evaluation.html
調査内容	・ 授業外学習時間 ・ 授業理解度 ・ 授業満足度	https://www.musashino-u.ac.jp/guide/information/surveys.html

16. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

本学では、平成10年12月に全学一斉による授業評価を実施し、調査結果を各教員に報告した。この全学調査を契機に、個々の教員が授業内容・授業手法の研究、開発に着手し、シラバス作成や授業運営への反映とともに、学部・学科単位でFD活動が拡大していった。平成16年の全学部男女共学化並びに薬学部設置を契機に、大学改革をより積極的に推進させ、新設学部着任の教員中心に綿密な学部・学科の授業構成が練られ、それに伴う授業改善の回路が定着していった。並行して学内では新設学部に対し「運営会議」が設置され、学部・学科の自律的な授業改善の試みに対する進捗確認と同時に、新設学部における教育の質保証、学部運営に関する重要事項、教授会・代議員会に付議する重要事項等が議論された。

令和5年3月現在で12学部20学科、13大学院研究科、通信教育部2学部3研究科、1専攻科と2別科、24研究所・センターに本学は拡大したが、これは全学的なFD活動と教職協働、職員の能力開発により、その実効性が担保されてきた。

① FD研修

令和4年度は、全学FD研修を3回開催した。ハイフレックス形式（後日動画視聴も可能）での開催のほか、アカデミック・ハラスメントに関するeラーニング形式の研修も導入するなど、多様な学びの機会を提供し、いずれの回も教職員ともに理解度・満足度の高い研修機会になっている（2回実施したハイフレックス研修の事後アンケートは「とても理解できた」＋「概ね理解できた」の割合がいずれも95%以上、eラーニング研修の満足度は約87%）。

さらに、目的別FD研修として、外部講師による対面式のワークショップ型研修を実施し、教員同士が情報共有し合う機会を創出した。ワークショップ型研修（各学科代表者1人以上、及び希望者のみ参加）の理解度は100%であった。

また全学的なFD活動以外にも、学科FD、研究科FDや学生FDを実施している。これらは、学修者本位の教育へ転換するべく、各学科・研究科主体のFD活動を推進し、各学科・研究科の教育活動を充実させることや、学生の授業への主体的参加を引き出すための課題、ノウハウ、スキルの学科・研究科内での共有を目的とした活動である。

令和4年度武蔵野大学全学FD研修実施一覧

回数	タイトル	開催方法	開催日
第1回	私たちは、どのように武蔵野ブランドを組織的に実現するか？ ～響学スパイラルの授業実践事例から～	ハイフレックス （後日動画視聴も可能）	令和4年 6月14日（火）
第2回	大学教職員のためのアカハラ対策	eラーニング	令和4年 月11日（月）～ 10月31日（月）

第3回	主体的な学修者の育成のために、教職員は何ができるか ～『響学スパイラル』の実践をどのようにファシリテートするか～	ハイレックス (後日動画視聴も可能)	令和4年 9月21日(水)

令和4年度武蔵野大学目的別FD研修実施一覧

回数	タイトル	開催方法	開催日
第1回	クリエイティブラーニングを実現する教育のあり方・実践を考える	対面(ワークショップ型) (後日動画視聴も可能)	令和4年 11月15日(火)

令和5年度以降も、響学開発センターが主体となり、複数回の全学FD研修及び目的別FD、そして各学科・教科グループ、研究科FDを開催予定である。また、建学の精神について学ぶ研修、新たなワークショップ型研修等を企画・検討している。

このほか、教職協働の取り組みとして、2024年の法人創立100周年に向けた記念事業にかかる委員会や、2050年の未来を眺望した中長期計画の計画・推進委員会などが挙げられる。特に、中長期計画においては、「自己と世界を問う」「未来の世界を創るCreativeな実践者の輩出」「AI世界を先導するMUSIC(Smart Intelligence)」「Global & Universal」「MU-GEN(Musashino University GENERations)につながるInfinite Linking」という5つのチャレンジを掲げ、チャレンジ毎に設置された委員会において具体的な目標設定や事業計画を立案し、令和3年度以降、目標達成のための具体的施策に着手し始めている。その中でも、「自己と世界を問う」において検討され生み出された本学独自の学びのスタイル「響学スパイラル」は、今後の教育改革施策を検討していくうえで指針となるものであり、同時に教育活動を自己点検するためのガイドラインとしても重要な成果といえる。同様に、いずれのチャレンジにおいても、委員会においては教員・職員の双方から建設的な意見が出されており、課題を多角的に捉えながら教育改革を实践できる創造的な職能開発の場となっている。

② SD研修

令和4年度の大学職員のSDについては、帰属意識の向上、個々のビジネススキル向上、管理職の能力向上及び組織としてハラスメントを起こさない環境、体制作りを目的に、「建学の精神涵養研修」、「ビジネスセミナー研修」、「評価者研修」、「管理職研修」、「ハラスメント防止研修」を実施した。

「建学の精神涵養研修」は、全職員を対象に、カテゴリーに分けて建学の精神研修動画の配信を行い、習熟度テストを実施した。

「ビジネスセミナー研修」は、全職員を対象に、SMBCコンサルティング株式会社主催のビジネスセミナーの受講を実施した。

「評価者研修」は、管理職資格対象者に、公益財団法人関西生産性本部による評価者研修を実施した。また、管理職資格対象者には、担当理事より大学設置基準の改正、ガバナンス、最新トレンドのリーガルトピックに関する研修を実施した。

「ハラスメント防止研修」は、一定の資格者以上を対象に実施した。

令和5年度以降の大学職員のSDについては、法人事務局の長期計画で「組織の活性化と職場環境改善の推進」、中期計画として「人事・組織の活性化」を掲げ、その上で事業計画における「人事に関する計画」の取り組みとして人事制度の見直しを行っており、資格制度に連動した新たな職員研修制度の構築として、建学の精神、学校教育法・私立学校法等教育関連法令、寄附行為・主要規程、本学の中長期計画、学校会計等の研修を企画・検討している。

17. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

(1) 教育課程内の取組について

本学では、令和3年度から初年次を中心とした全学共通基礎課程「武蔵野INITIAL」を導入している。「武蔵野INITIAL」は、『(知識・体系等の)基礎・共通基盤』を意味し、専門的な分野を学ぶ前にまず自己基礎力を養う。その上で、少人数制のゼミナールや授業を通じてグループワークやプレゼンテーション等のアカデミックスキルの修得訓練を重ね、より実践的なコミュニケーション力やチームワーク形成力、思考力等を養う。また、学士課程の質の維持・向上を目指すものとして、一方的な知識・技能を教え込むのではなく、学生に自ら成長させる「場」を提供することで、社会で活躍するための汎用的な力を身につけ、豊かな人間性や課題探求能力等の養成を目的としている。

社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う教育課程について、本学部の共通科目において該当する授業科目は『フィールド・スタディーズ』科目群の「フィールド・スタディーズ」「フィールド・スタディーズ1～4」「フィールド・スタディーズ発展1A～1D」「フィールド・スタディーズ発展2A～2E」「フィールド・スタディーズ発展3A～3E」「フィールド・スタディーズ発展4A～4D」科目、及び『インターンシップ』科目群の「インターンシップ」「企業協働プロジェクト」科目である【資料18】。また、『フィールド・スタディーズ』科目群において、1年次から4年次の夏休み期間を中心に学外（国内、海外）で学ぶ学外学修プログラムを実践し、地方や世界が直面する課題に気づき、解決するための想像力、実践力等を養う。2年次では「インターンシップ」「企業協働プロジェクト」科目を軸に体験活動を通じ、職業に必要な知識・技能を修得し、自らの適性等に応じ主体的に進路を選択する能力を養成している。これらの科目では、学生の能動性を引き出し、自己成長していくための“自己発見”“社会と他者への気付き”“再定義”等のプロセスを経て、“学修姿勢”を形成さ

せる契機としている。

学科科目では、「未来デザインプロジェクト」「卒業プロジェクト」科目において、地域や企業の未知の課題の発見・解決に取り組むことで、自らの起業アイデアを考える力、主体性に行動する力、チームで創造する力、ウェルビーイングな未来をデザインする実行力を身につける。また、「自然・環境プロジェクト」「地域・ビジネスプロジェクト」「海外インターンシップ」科目において、農林水産業分野の現場、地域・医療・福祉・ビジネス等の現場でのインターンシップ、さらには海外でのインターンシップ体験等は、卒業後のキャリアイメージの形成につながる【資料18】。

（２）教育課程外の取組について

全学生を対象に、キャリア形成支援、就職支援、資格取得支援を行っている。就職支援においては求人票の公開や就職支援ガイダンスの実施、キャリアアドバイザー（就職相談員）による学生相談対応をはじめ、学内合同企業説明会、模擬面接対策講座、SPI試験対策講座、外国人留学生向けの講座・ガイダンス等も開講している。資格取得に関しては、資格取得対策講座を開講している（令和4年度）。また、TOEIC試験や各種外国語検定試験を団体申込とし、受検料の割引や学内での試験実施、TOEIC試験の受検料補助を行い、学生の資格・検定試験の受検機会の促進に努めている。

（３）適切な体制の整備について

学生生活や授業の履修に必要な情報にアクセスするための本学のポータルサイト「MUSCAT」上に、学生ポートフォリオシステム「学生カルテ」を構築し、学生と教職員が相互に目標の確認をしながら、学修成果・行動実績・志向の変化を蓄積しつつ、キャリア記録を作成する。加えて、各アドバイザー教員は、定期的に担当する学生と個人面談を行い、学生一人ひとりに対し、より適切な指導・助言できる体制を整えている。

さらに令和3年8月、キャリア教育・就職支援に関する基本計画の策定・推進・検証、キャリア教育の企画等を実施することを目的に、「武蔵野大学キャリアセンター」を置き、センター長をキャリア開発部長とし、センター員（センター長を補佐する教員）をもって構成している。また、「運営委員会」を置き、センター長、センター長が指名するセンター員、学生支援部長、その他センター長が指名する教職員をもって構成し、センターの基本計画、運営に必要なことを審議している。本キャリアセンターにより、学生のニーズを把握し、それに合うイベント等を実施することで、学生の社会的・職業的自立に関するサポートを推進している。

以 上

設置の趣旨等を記載した書類

資料目次

資料 1	OECD Learning Compass 2030 仮訳・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 2
資料 2	中央教育審議会「次期教育振興基本計画について（答申）（中教審第 241 号）」・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 4
資料 3	ウェルビーイング学部ウェルビーイング学科 3つのポリシー・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 10
資料 4	「ウェルビーイング」を冠した学部・学科・学位を持つ海外大学	p. 11
資料 5	ウェルビーイング学部ウェルビーイング学科 履修モデル・・・・・・・・	p. 12
資料 6	ウェルビーイング学部ウェルビーイング学科 編入学生履修モデル・	p. 15
資料 7	令和 4 年度実習先一覧（共通科目「フィールド・スタディーズ」「フィールド・スタディーズ 1～4」）・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 18
資料 8	令和 4 年度実習先一覧（共通科目「フィールド・スタディーズ発展 1 A～4 D」）・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 22
資料 9	令和 4 年度インターンシップ先一覧（共通科目「インターンシップ」「企業協働プロジェクト」）・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 23
資料 10	実習先一覧（学科科目「自然・環境プロジェクト」）・・・・・・・・	p. 24
資料 11	実習先一覧（学科科目「地域・ビジネスプロジェクト」）・・・・・・・・	p. 25
資料 12	実習先一覧（学科科目「海外インターンシップ」）・・・・・・・・	p. 26
資料 13	学校法人武蔵野大学定年規程・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 27
資料 14	ウェルビーイング学部ウェルビーイング学科 時間割（案）・・・・・・・・	p. 31
資料 15	武蔵野キャンパス教室稼働率（令和 5 年度見込み）・・・・・・・・	p. 33
資料 16	ウェルビーイング学部設置に係る学術雑誌整備一覧・・・・・・・・	p. 34
資料 17	公開情報及び掲載先一覧・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 37
資料 18	社会的・職業的自立に関係する授業科目一覧・・・・・・・・	p. 38

概要

OECD ラーニング・コンパス（学びの羅針盤）2030

OECD ラーニング・コンパス（学びの羅針盤）2030（訳注：以下、ラーニング・コンパス）は OECD Future of Education and Skills 2030 プロジェクトの成果であり、教育の未来に向けての望ましい未来像を描いた、進化し続ける学習の枠組みです。教育の幅広い目標を支えるとともに、私たちの望む未来(Future We Want)、つまり個人のウェルビーイングと集団のウェルビーイングに向けた方向性を示します。

ラーニング・コンパスという比喻は、生徒が教師の決まりきった指導や指示をそのまま受け入れるのではなく、未知なる環境の中を自力で歩みを進め、意味のある、また責任意識を伴う方法で、進むべき方向を見出す必要性を強調する目的で採用されました。

この枠組みは生徒が 2030 年以降も活躍するために必要なコンピテンシーの種類に関する幅広いビジョンを提供しています。この枠組みはまた、ローカルな文脈に合わせて調整できる余地を残しながら、グローバルに妥当で、情報交換のできる共通の言語と理解を育んでいくものです。

ラーニング・コンパスの構成要素には学びの中核的な基盤（訳注：エージェンシーと変革を起こすコンピテンシーを育む土台となる主な力）、知識、スキル、態度と価値、より良い未来の創造に向けた変革を起こすコンピテンシー、そして見通し (Anticipation)、行動 (Action)、振り返り (Reflection) の AAR サイクル（これらの構成要素に関しては各要素の concept notes を参照）が含まれます。ラーニング・コンパスは、生徒が周囲の人々、事象、そして状況をより良いものにすることを学ぶ上で、責任ある有意義な行動を取るための方向性を決めるために生徒が使うことができるツールであることから、生徒エージェンシー (concept note を参照) はラーニング・コンパスの中心的な概念です。

キー・ポイント

- ・ ラーニング・コンパスは評価の枠組みでもカリキュラムの枠組みでもありません。大きな構造における学習の幅広い範囲と種類を明確にすることで学習そのものが持つ価値を認めています。そして、学習が学校の中だけで起きているわけではないことも示しています。
- ・ この学習の枠組みは、教育システムをより良いものへと変革することに貢献する意思をもった世界の政府代表者、研究者、学校のリーダー、教師、生徒、そしてソーシャル・パートナーの協働によって生み出された成果物です。
- ・ 社会的ウェルビーイングという概念は、年月の経過により、これまでの経済や物質的な豊かさよりも多くの意味を含むようになりました。私たちが望む未来には数多くのビジョンが存在するかもしれませんが、社会のウェルビーイングは共通の目的地です。

OECD ラーニング・コンパス（学びの羅針盤）2030

歴史的に見て、教育は社会変革の波に乗り遅れることがほとんどでした。19 世紀と 20 世紀における教育システムは突発的な拡大と再構築を時折行うことで変化してきました。しかしこれらの突発的な時期を外せば、カリキュラムは往々にして静的であり、直線的で固定的な構造を持っていました。また産業形態としての学校教育では、生徒が授業を受動的に受けることが期待されていました（[OECD Future of Education and Skills 2030 project background](#) を参照）。しかし我々の世界を変革し、数多くの分野で現状の制度を覆す深淵かつ広域な変化に直面する今日、教育の目標や活躍するために必要な生徒のコンピテンシーを再考する必要があるという認識が広がっています。地球規模のトレンドである、デジタル化、気候変動、人工知能の発展の 3 つの要因だけとて、これらは教育の目標や方法を根本的に見直す必要性を呼び起こしているといえます。

2015 年、OECD の教育政策委員会は、客観的な立場から俯瞰し、教育が直面する長期的な課題を検討するとともにカリキュラムの設計や開発をより体系的かつ根拠に基づいたものにするため、OECD Future of Education and Skills 2030 プロジェクトを立ち上げることに合意しました。このプロジェクトの目的は、世界の国々が次の 2 つの大きな問いへの答えを見つけられるようにすることです：

- 現代の生徒が成長して、世界を切り拓いていくためには、どのような知識や、スキル、態度及び価値が必要か。
- 学校や授業の仕組みが、これらの知識や、スキル、態度及び価値を効果的に育成していくことができるようにするためには、どのようにしたらよいか。

これらの問いに対するひとつの答えとして、OECD Future of Education and Skills 2030 プロジェクトは **2030 年の教育に求められている未来像を描いた、進化し続ける学習の枠組みである OECD ラーニング・コンパス（学びの羅針盤）2030（図 1 を参照）を開発しました。**このラーニング・コンパスは、個人や社会のウェルビーイング：私たちの望む未来（Future We Want）に向けた方向性を示しています。ラーニング・コンパスは、学習者個人、教育実践者、システム・リーダー、政策立案者、組織の意思決定者といった複数のレベルで利用できるように、共有する未来に含まれる中核的な目標や要素を言語化することによって、彼らの努力を明確にし、結びつけ、また方向づけることを目標としています。

ラーニング・コンパスは様々なステークホルダーが形成する幅広いコミュニティにより時間と共に改良される「進化し続ける枠組み」です。この学習の枠組みは、教育システムをより良いものへと変革することに貢献する意思をもった政府代表者、研究者、学校のリーダー、教師、生徒、そしてソーシャル・パートナーの協働によって生み出された成果物です。これらのステークホルダーの出身国は多様です。そのため、この枠組みはまた、ローカルな文脈に合わせて調整できる余地を残しながら、グローバルに妥当で、かつ情報交換のできる共通の言語と理解を育んでいくものです。

ラーニング・コンパスは評価の枠組みでもカリキュラムの枠組みでもない

ラーニング・コンパスが提示するのは「評価の枠組み」ではなく、「学習の枠組み」です。この枠組みでは、どのようなコンピテンシーが評価されるべきか、あるいは評価できるのかではなく、生徒が 2030 年に活躍するために必要なコンピテンシーの種類に関する幅広いビジョンを提示しています。「測定されるものは大切にされる」と一般的に言われますが、この学習の枠組みは（少なくとも現段階では）測定できないものに価値を認められるようにします。つまりラーニング・コンパスは、大きな構造のもとで幅広い範囲と種類の学習があることを明確にし、学習そのものに価値があることを認めます。それと同時に、評価を主導するものとして学習の枠組みを使うこともできます。例えば生徒の進捗状況を確認しながら支援するために、どのような文脈においてどのような学習を優先させるべきかを話し合うことができます。

層推進していく必要がある。

- 学校施設については、老朽化の進行や多様な教育内容・方法等への対応が依然課題となっていることから、安全・安心で質の高い教育研究環境の整備を継続的に行っていく必要がある。

(3) 社会の現状や変化への対応と今後の展望

- 現代は将来の予測が困難な時代であり、その特徴である変動性、不確実性、複雑性、曖昧性の頭文字⁵を取って「VUCA」の時代とも言われている。これまでの3回にわたる計画の中で、少子化・人口減少や高齢化、グローバル化の進展と国際的な地位の低下、地球規模の課題、子供の貧困、格差の固定化と再生産、地域間格差、社会のつながりの希薄化などは、社会の課題として継続的に掲げられてきた。こうした中、第3期計画期間中に発生した新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響及びロシアのウクライナ侵略による国際情勢の不安定化は、正に予測困難な時代を象徴する事態であったと言えよう。このような危機に対応する強靱さ（レジリエンス）を備えた社会をいかに構築していくかという観点はこれからの重要な課題である。
- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響としては、国際経済の停滞、グローバルな人的交流の減少、体験活動の機会の減少などの事態が生じた。また、学校の臨時休業により、学校の居場所やセーフティネットとしての福祉的役割を再認識するきっかけとなった。感染拡大当初は ICT の活用が十分ではなく、デジタル化への対応の遅れが浮き彫りとなったが、これを契機として遠隔・オンライン教育が進展し、学びの変容がもたらされた。こうした社会状況もあいまって、デジタルトランスフォーメーション（DX）の進展は社会により良い変化をもたらす可能性のある変革として注目されている。
- 2040 年以降の社会を見据えたとき、現時点で予測される社会の課題や変化に対応して人材を育成するという視点と、予測できない未来に向けて自らが社会を創り出していくという視点の双方が必要となる。
- 予測できる社会の変化としてはまず、人口減少が挙げられ、現在の生産年齢人口である 15～64 歳の人口は、2050 年には現在の 2／3 に減少すると推計されている。我が国の労働生産性は国際的に見て低く、このままでは社会経済の活力や水準の維持が危ぶまれる状況にある。また、人口減少・高齢化は特に地方において深刻であり、地方創生の観点からの対応も必要である。加えて、長寿化が進展する中での対応も求められる。
- デジタルトランスフォーメーションや地球温暖化と関連して、デジタル人材やグリーン（脱炭素）人材が不足するとの予測がある。また、AI やロボットの

⁵ Volatility（変動性）、Uncertainty（不確実性）、Complexity（複雑性）、Ambiguity（曖昧性）。

発達により、特定の職種では雇用が減少し、今後は問題発見力や的確な予測、革新性といった能力が一層求められることが予測されており、労働市場の在り方や働く人に必要とされるスキルが今後変容していくことが見通される。

- 経済先進諸国においては、経済的な豊かさのみならず、精神的な豊かさや健康までを含めて幸福や生きがいを捉える「ウェルビーイング（Well-being）」の考え方が重視されてきており、経済協力開発機構（OECD）の「ラーニング・コンパス 2030（学びの羅針盤 2030）」⁶では、個人と社会のウェルビーイングは「私たちの望む未来（Future We Want）」であり、社会のウェルビーイングは共通の「目的地」とされている。
- 社会の多様化が進む中、障害の有無や年齢、文化的・言語的背景、家庭環境などにかかわらず、誰一人取り残すことなく、誰もが生き生きとした人生を享受することのできる共生社会の実現を目指し、その実現に向けた社会的包摂を推進する必要がある。
- 成年年齢や選挙権年齢が 18 歳に引き下げられ、若者の自己決定権の尊重や積極的な社会参画が図られるとともに、こども基本法及びこども家庭庁設置法が成立し、子供の権利利益の擁護及び意見表明などについて規定されたことを踏まえた対応が必要である。
- また、予測できない未来に向けて自らが社会を創り出していくという視点からは、「持続可能な社会の創り手」という学習指導要領前文に定められた目指すべき姿を実現することが求められる。その際、教育基本法の理念・目的・目標について規定されている普遍的価値を共有した上で、主体的な社会の創り手となる考え方が重要である。
- 今後目指すべき未来社会像として、第 6 期科学技術・イノベーション基本計画⁷において、持続可能性と強靱性を備え、国民の安全と安心を確保するとともに、一人一人が多様な幸せを実現できる、人間中心の社会としての「Society 5.0（超スマート社会）」が示されている。
- これら社会の現状や変化を踏まえて 2040 年以降の社会を展望したとき、教育こそが、社会をけん引する駆動力の中核を担う営みであり、人間中心の社会を支えるシステムとなる時代が到来していると言えよう。将来の予測が困難な時代において、一人一人の豊かで幸せな人生と社会の持続的な発展を実現するために、教育の果たす役割はますます大きくなっている。
- こうした認識の下、目指すべき社会像の中での教育の在り方を本計画において示すものである。

⁶ OECD「ラーニング・コンパス 2030（学びの羅針盤 2030）」（2019 年 5 月）（原文 OECD Future of Education and Skills 2030, Conceptual learning framework: Learning Compass 2030, OECD, 2019）

⁷ 「第 6 期科学技術・イノベーション基本計画」（令和 3 年 3 月 26 日閣議決定）

（４）教育政策に関する国内外の動向

- 第３期計画期間中には、中央教育審議会において、「学校における働き方改革」答申^８、「令和の日本型学校教育」答申^９、「高等教育のグランドデザイン」答申、「第３次学校安全の推進に関する計画の策定」答申^{１０}、「「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方」答申^{１１}が示された。また、生涯学習分科会、初等中等教育分科会、大学分科会において、各政策分野の審議まとめ等が取りまとめられるとともに、文部科学省に設置された各種の有識者会議において教育政策に係る提言がなされた。
- また、教育未来創造会議第一次提言^{１２}、総合科学技術・イノベーション会議の教育・人材育成に関する政策パッケージ^{１３}、経済産業省の未来人材ビジョン^{１４}など、関係省庁においても、教育政策に関する議論・提言が行われている。
- 国外では、経済協力開発機構（OECD）において、2030年の教育を見据えた「ラーニング・コンパス 2030（学びの羅針盤 2030）」が示されるとともに、ユネスコでは「教育の未来」グローバルレポート^{１５}が取りまとめられている。

Ⅱ. 今後の教育政策に関する基本的な方針

（総括的な基本方針・コンセプト）

- 上述の我が国の教育をめぐる現状・課題・展望を踏まえ、本計画では2040年以降の社会を見据えた教育政策におけるコンセプトとも言うべき総括的な基本方針として「持続可能な社会の創り手の育成」及び「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」を掲げる。両者は今後我が国が目指すべき社会及び個人の在り様として重要な概念であり、これらの相互循環的な実現に向けた取組が進められるよう教育政策を講じていくことが必要である。

^８ 「新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策について（答申）」（平成31年1月中央教育審議会）

^９ 「「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」（令和3年1月中央教育審議会）

^{１０} 「第３次学校安全の推進に関する計画の策定について（答申）」（令和4年2月中央教育審議会）

^{１１} 「「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～（答申）」（令和4年12月中央教育審議会）

^{１２} 「我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について（第一次提言）」（令和4年5月10日教育未来創造会議）

^{１３} 「Society 5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ」（令和4年6月総合科学技術・イノベーション会議）

^{１４} 「未来人材ビジョン」（令和4年5月経済産業省）

^{１５} UNESCO 教育の未来に係る国際委員会『「教育の未来」国際レポート』（2021年11月）（原文 UNESCO International Commission on the Futures of Education. Reimagining our futures together: a new social contract for education, UNESCO, 2021）

(1) 2040 年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成

- グローバル化や気候変動などの地球環境問題、少子化・人口減少、都市と地方の格差などの社会課題やロシアのウクライナ侵略による国際情勢の不安定化の中で、一人一人のウェルビーイングを実現していくためには、この社会を持続的に発展させていかなければならない。特に我が国においては少子化・人口減少が著しく、将来にわたって財政や社会保障などの社会制度を持続可能なものとし、現在の経済水準を維持しつつ、活力あふれる社会を実現していくためには、一人一人の生産性向上と多様な人材の社会参画を促進する必要がある。また、社会課題の解決と経済成長を結び付けて新たなイノベーションにつながる取組を推進することが求められる。Society 5.0においてこれらを実現していくために不可欠なのは「人」の力であり、「人への投資」を通じて社会の持続的な発展を生み出す人材を育成していかなければならない。
- こうした社会の実現に向けては、一人一人が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り開き、「持続可能な社会の創り手」になることを目指すという考え方が重要である。将来の予測が困難な時代において、未来に向けて自らが社会の創り手となり、課題解決などを通じて、持続可能な社会を維持・発展させていくことが求められる。
- Society 5.0においては、「主体性」、「リーダーシップ」、「創造力」、「課題設定・解決能力」、「論理的思考力」、「表現力」、「チームワーク」などの資質・能力を備えた人材が期待されている。こうした要請も踏まえ、個々人が自立して自らの個性・能力を伸長するとともに、多様な価値観に基づいて地球規模課題の解決等をけん引する人材を育成していくことも重要である。

(2) 日本社会に根差したウェルビーイングの向上

- ウェルビーイングとは身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義など将来にわたる持続的な幸福を含むものである。また、個人のみならず、個人を取り巻く場や地域、社会が持続的に良い状態であることを含む包括的な概念である。
- ウェルビーイングの捉え方は国や地域の文化的・社会的背景により異なり得るものであり、一人一人の置かれた状況によっても多様なウェルビーイングの求め方があり得る。
- すなわち、ウェルビーイングの実現とは、多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じるとともに、地域や社会が幸せや豊かさを感じられるものとなることであり、教育を通じて日本社会に根差したウェルビーイングの向上を図っていくことが求められる。

- ウェルビーイングの国際的な比較調査においては、自尊感情や自己効力感が高いことが人生の幸福をもたらすとの考え方が強調されており、これは個人が獲得・達成する能力や状態に基づくウェルビーイング（獲得的要素）を重視する欧米的な文化的価値観に基づく側面がある。同調査によると日本を含むアジアの文化圏の子供や成人のウェルビーイングは低いとの傾向が報告されることがあるが、我が国においては利他性、協働性、社会貢献意識など、人とのつながり・関係性に基づく要素（協調的要素）が人々のウェルビーイングにとって重要な意味を有している。このため、我が国においては、ウェルビーイングの獲得的要素と協調的要素を調和的・一体的に育む日本発のウェルビーイングの実現を目指すことが求められる。こうした「調和と協調（Balance and Harmony）」に基づくウェルビーイングの考え方は世界的にも取り入れられつつあり、我が国の特徴や良さを生かすものとして国際的に発信していくことも重要である。
- 日本社会に根差したウェルビーイングの要素としては、「幸福感（現在と将来、自分と周りの他者）」、「学校や地域でのつながり」、「協働性」、「利他性」、「多様性への理解」、「サポートを受けられる環境」、「社会貢献意識」、「自己肯定感」、「自己実現（達成感、キャリア意識など）」、「心身の健康」、「安全・安心な環境」などが挙げられる。これらを、教育を通じて向上させていくことが重要であり、その結果として特に子供たちの主観的な認識が変化したかについてエビデンスを収集していくことが求められる。なお、協調的幸福については、「同調圧力」につながるような組織への帰属を前提とした閉じた協調ではなく、他者とのつながりやかかわりの中で共創する基盤としての協調という考え方が重要であるとともに、物事を前向きに捉えていく姿勢も重要である。
- ウェルビーイングと学力は対立的に捉えるのではなく、個人のウェルビーイングを支える要素として学力や学習環境、家庭環境、地域とのつながりなどがあり、それらの環境整備のための施策を講じていくという視点が重要である。また、社会情動的スキルやいわゆる非認知能力を育成する視点も重要である。さらに、組織や社会を優先して個人のウェルビーイングを犠牲にするのではなく、個人の幸せがまず尊重されるという前提に立つことが必要である。
- 子供たちのウェルビーイングを高めるためには、教師のウェルビーイングを確保することが必要であり、学校が教師のウェルビーイングを高める場となることが重要である。子供の成長実感や保護者や地域との信頼関係があり、職場の心理的安全性が保たれ、労働環境などが良い状態であることなどが求められる。加えて、職員や支援人材など学校の全ての構成員のウェルビーイングの確保も重要である。こうしたことが学びの土壌や環境を良い状態に保ち、学習者のウェルビーイングを向上する基盤となり、結果として家庭や地域のウェルビ

ーイングにもつながるものとなる。

- さらに、生涯学習・社会教育を通じて、地域コミュニティを基盤としてウェルビーイングを実現していく視点も大切である。
- ウェルビーイングが実現される社会は、子供から大人まで一人一人が担い手となって創っていくものである。社会全体のウェルビーイングの実現に向けては、個人のウェルビーイングが様々な場において高まり、個人の集合としての場や組織のウェルビーイングが高い状態が実現され、そうした場や組織が社会全体に増えていくことが必要となる。子供たち一人一人が幸福や生きがいを感じられる学びを保護者や地域の人々とともにつくっていくことで、学校に携わる人々のウェルビーイングが高まり、その広がりが一人一人の子供や地域を支え、更には世代を超えて循環していくという在り方が求められる。
- 第2期教育振興基本計画において掲げられるとともに、第3期教育振興基本計画においてもその理念が継承された「自立」、「協働」、「創造」については、「自立」と「協働」は個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実に対応する方向性であり、「創造」は主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を通じてもたらされるものである。これまでの計画の基軸を発展的に継承し、誰もが地域や社会とのつながりや国際的なつながりを持つことができるような教育を推進することで、個人と社会のウェルビーイングの実現を目指すことが重要である。

（5つの基本的な方針）

- 本計画においては、上述の総括的な基本方針の下、以下の5つの基本的な方針を定める。
 - ①グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成
 - ②誰一人取り残さず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進
 - ③地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進
 - ④教育デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進
 - ⑤計画の実効性確保のための基盤整備・対話

① グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成 （社会の持続的な発展に向けて）

- 将来の予測が困難な VUCA と言われる時代の中で、個人と社会のウェルビーイングを実現していくためには、社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成が必要である。グローバル化やデジタルトランスフォーメーションは労働市場に変容をもたらしており、これからの時代の働き手に必要となる能力は変

ウェルビーイング学部ウェルビーイング学科 3つのポリシー

◆ウェルビーイング学部

ディプロマ・ポリシー（DP）	カリキュラム・ポリシー（CP）	アドミッション・ポリシー（AP）
ウェルビーイング学部は、産業革命以来の経済成長重視型社会から生きとし生けるもののウェルビーイングを最優先する社会への大きな転換点である現代社会をリードするために、「生きとし生けるものがウェルビーイング（幸せ・生きがい・安心・福祉・健康・平和など）に満ち溢れた世界」を創造的にデザインできる人材を育成することを目的とし、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に適合する者に学士の学位を授与します。	ウェルビーイング学部では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するために、「生きとし生けるものがウェルビーイング（幸せ・生きがい・安心・福祉・健康・平和など）に満ち溢れた世界」を創造的にデザインする能力を修得できるよう教育課程を編成・実施しています。1 年次から武蔵野INITIAL で教養を育むとともに、専門科目では、ウェルビーイングに満ち溢れた世界を創造的にデザインするという最上位の目的に即した形で全科目を学びます。基盤となる知識の修得と実践からの学びをバランスよく取り入れるために、基盤科目群、探究する科目群、創造する科目群という、全体としての理念と要素としての学びの関係を常に明確に意識しやすいことを目指したシンプルな科目群構成としています。さらに、知識の修得と感性的陶冶をバランスよく行うために、古来の「道」のホリスティックな学び方から近代以降の教育の分解型・分析型の方法論まで、様々な教育方法論を統合することによって、入門から発展まで（1 年次が入門、2 年次が基礎、3 年次が応用、4 年次が発展）、アート（人文科学、芸術）からサイエンス（社会科学、自然科学）まで、過去（哲学や歴史）から未来（科学技術や創造性開発）まで、という俯瞰的・全体的な学問構造を科目構成に反映することによって、国際社会の人類史的な構造変化に先鞭をつけることを目指したカリキュラムとしています。	ウェルビーイング学部は、産業革命以来の経済成長重視型社会から生きとし生けるもののウェルビーイングを最優先する社会への大きな転換点である現代において、「生きとし生けるものがウェルビーイングに満ち溢れた世界」を創造的にデザインする気風を持った者の入学を求めます。

◆ウェルビーイング学科

ディプロマ・ポリシー（DP）	カリキュラム・ポリシー（CP）	アドミッション・ポリシー（AP）
ウェルビーイング学科では、所定の卒業要件を満たし、以下の能力を修得した者に学士（ウェルビーイング）の学位を授与します。	ウェルビーイング学科では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を実現するために、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。	ウェルビーイング学科は、「生きとし生けるものがウェルビーイングに満ち溢れた世界」を創造的にデザインできる人材を育成します。そのため、以下のような者の入学を求めます。 ＜志向性：将来の進路＞ 具体的な進路として以下の将来像を描く者 ・グローバルな世界をフィールドとして、ウェルビーイングな世界や産業を創出する人材（企業（メーカー、商社、医療看護、介護福祉等）や教育現場でのウェルビーイング推進担当者、起業家等） ・地域をフィールドとして、それぞれの地域の特色をいかしたウェルビーイングをデザインし、地域活性化を担う人材（ウェルビーイングな地域の創生を目指す自治体の公務員、企業への就職、NPO 諸団体への所属等） ・大学院に進学し、ウェルビーイングの学問研究の方法論をさらに学び、ウェルビーイングな世界を総合的にデザインしていく人材（海外・国内の大学院進学、研究機関・シンクタンク職員等）
1 知識・専門性 【学びの基礎力を基盤とした専門能力】	ウェルビーイング学科の科目は、「ウェルビーイング」という単一概念について複合的に学ぶために、基礎・教養から専門までがシームレスにつながった教育を行うような科目構成としています。1 年次から 4 年次までが、入門、基礎、応用、発展というフェーズとしており、ウェルビーイングのための基礎・教養から専門までが全体としてつながっています。すなわち、全ての科目が、「生きとし生けるものがウェルビーイングに満ち溢れた世界」を創造的にデザインできる人材を育成するという最上位の目的に促していることを、全ての科目において常に意識し、一貫性を持って学ぶカリキュラムとしています。基盤科目群では、ウェルビーイングの基本を学びます。探究する科目群では、自己、自然・環境、社会・世界・ビジネスについて実践的に学びます。創造する科目群では、ウェルビーイングに満ち溢れた世界を創造的にデザインする方法について学びます。 a. 主に武蔵野INITIAL、1～2 年次科目（入門科目、基礎科目）によって教養・基礎力を身につけます。 b. 主に 3～4 年次科目（応用科目、発展科目）によって、専門性を身につけます。	＜期待する能力：知識・専門性＞ ・高等学校で履修することが望ましい科目：英語、国語、数学、地理・歴史・公民（日本史、世界史、政治・経済）。いずれにせよ、各自の個性と特徴に応じて興味のある教科の基本を十分かつ深く学習していること ・高等学校で取得することが望ましい資格等：英語アセスメントテスト（TOEIC、TOEFL、IELTS、実用英語検定試験等） ・スキル：標準的な ICT リテラシー
2 関心・態度・人格 【他者と自己を理解し、自発的に踏み出す力】	a. 自己との対話により自己の状態を認識し、自己肯定感・自己受容を向上することによって自己のウェルビーイングを認識・向上できる【自己認識力】 b. 他者との対話、世界との対話により、他者のウェルビーイングを理解し思いやることができる【他者理解力】 c. ウェルビーイングに満ち溢れた世界を創造的にデザインする主体性と実行力を身につけている【主体性・実行力】 d. ウェルビーイングに満ち溢れた世界を創造的にデザインするという理想を目指す大きな使命感・倫理観を持った人格を形成している【人格形成・使命感・倫理観】	＜期待する能力：関心・態度・人格＞ ・ウェルビーイングに満ち溢れた世界を創りたいという情熱と利他心のある者 ・大きな時代変化を担っていきたいという野心と挑戦心のある者
3 思考力・判断力 【課題を多角的に捉え、創造的に考える力】	a. 課題の多い現代社会においてウェルビーイングに満ち溢れた世界を創造的にデザインする方法について論理的かつ複合的に思考し表現できる【論理的思考力】 b. 現実世界はウェルビーイングに満ち溢れた世界ではないことの理由を実体験の中から体系的に見つけ出すことができる【課題発見力】 c. ウェルビーイングに溢れた世界をデザインする方法を創造的に提案するとともに、解決策を実践的に適用することによって課題を解決できる【創造的思考力・課題解決力】	＜期待する能力：思考力・判断力＞ ・論理的に考える力 ・他の人を惹きつける人間的魅力
4 交感力・発信力 【多様な人々のなかで、自らの考えを表現・発信する力】	ウェルビーイングに満ち溢れた世界を創造的にデザインするための様々な科目群により交感力・発信力を養います。 a. 主に自己理解科目のうち対話に関連する科目が傾聴力を養成します。プロジェクト科目、インターンシップ科目、WB リテラシー（対人コミュニケーション）をはじめとする多くの科目がコミュニケーション力を養成します。 b. 入門ゼミ、基礎ゼミ、WB リテラシー（プレゼンテーション、身体表現、書）、創造する科目群などが、多面的に表現力を養成します。 c. WB リテラシー（プロジェクトマネジメント）、プロジェクト科目、インターンシップ科目、創造する科目群など、グループワークを基調とする多くの科目によって、リーダーシップとチームワークの能力を養成します。	＜期待する能力：交感力・発信力＞ ・自分の個性を理解し、自分らしく生きてより良い世界を創りたいという純粋な思いを表現し実践する行動力

「ウェルビーイング」を冠した学部・学科・学位を持つ海外大学

学部名	学科名	学位の名称
West Virginia University(米)	College of Applied Human Sciences	Bachelor of Arts in <u>Health and Well-being</u>
		Bachelor of Science in <u>Health and Well-being</u>
University of Minnesota(米)	College of Continuing & Professional Studies	Bachelor of Science in <u>Health and Wellbeing Sciences</u>
University of Winchester(英)	Faculty of <u>Health and Wellbeing</u>	Bachelor of Arts (Hons) in <u>Health and Well-being</u>
Cardiff Metropolitan University(英)	School of Sport and Health Sciences	Bachelor of Science (Hons) in <u>Health and Wellbeing</u>
Edge Hill University(英)	Faculty of Health, Social Care and Medicine	Bachelor of Arts (Hons) in <u>Health & Social Wellbeing</u>
University of Bradford(英)	Study of Social Care and Community	Bachelor of Science (Hons) in <u>Public Health and Community Wellbeing</u>
Wrexham Glyndwr University(英)	Faculty of Social & Life Sciences	Bachelor of Science (Hons) in <u>Mental Health & Wellbeing</u>
Canterbury Christ Church University(英)	Faculty of Medicine, Health and Social Care	Bachelor of Science (Hons) in <u>Mental Health, Wellbeing & Society</u>
University of South Wales(英)	Faculty of Life Sciences and Education	Bachelor of Science (Hons) in <u>Community Health & Wellbeing</u>
The Glasgow School of Art (英)	Innovation School	Bachelor of Design (Hons) for <u>Health and Wellbeing</u>
Hong Kong Baptist University(香)	Faculty of Social Sciences	Bachelor of Science (Hons) in Innovation in <u>Health and Social Well-being</u>
		Bachelor of Social Sciences (Hons) in Innovation in <u>Health and Social Well-being</u>

ウェルビーイング学部ウェルビーイング学科 履修モデル
履修モデルとは、将来の進路や目的に合わせて学年ごとに何を学ぶかを示すための代表的なモデルです。必ずご自身で、学修型に履修条件、履修上履修単位数（OPE）、卒業要件を考慮し履修計画を立ててください。また、時間割上記載の学年で履修できない場合があります。
モデル1 ウェルビーイング産業デザイナー 【選択イメージ】企業（メーカー、商社、医療機関、介護福祉等）や教育現場でのウェルビーイング標準担当者、起業家 等

科目区分		1年	2年	3年	4年	
必修 (12)	情報 (2)	★ データサイエンス基礎 ★ 人工知能基礎 ★ 英語基礎 A ★ 英語基礎 C	1 1 2 2			
	教養日本語 (1)	★ 日本語リテラシー	1			
	CHP (4)	★ SDGs 基礎 ★ SDGs 発展 1 ★ SDGs 発展 2 ★ SDGs 発展 3	1 1 1 1			
	フィールド・スタディーズ (1)	★ フィールド・スタディーズ	1			
	スポーツ・身体 (1)	★ スポーツと身体科学	1			
選択 必修 (12)	外国語 (6)	英語基礎 B 英語基礎 D 留学準備 1 留学準備 2	1 1 1 1			
	フィールド・スタディーズ (2)	★ フィールド・スタディーズ 2	1			
	情報 (1)	メディアリテラシー	1			
	寄付講座 (2)		2			
	建学の精神 (9)	★ 建学の精神入門 A（人間観） ★ 建学の精神入門 B（真理解） ★ 建学の精神入門 C（Dharma Dialogue） ★ 建学の精神入門 D（幸福論） ★ WBデザイン入門 A（全体像と歴史） ★ WBデザイン入門 B（健康） ★ WBデザイン入門 C（心理） ★ WBデザイン入門 D（教育） ★ WBリテラシー入門 A（ポジティブ心理学基礎）	1 1 1 1 1 1 1 1 1	★ 建学の精神基礎 A（死生学） ★ 建学の精神基礎 B（道徳） ★ 建学の精神基礎 C（縁起・共生） ★ WBデザイン基礎 A（経済・行動科学） ★ WBデザイン基礎 B（社会） ★ WBデザイン基礎 C（福祉） ★ WBデザイン基礎 D（システマ思考） ★ WBリテラシー基礎 A（感性工学） ★ WBリテラシー基礎 B（対人コミュニケーション） ★ WBリテラシー基礎 C（ロジカル思考） ★ WBリテラシー基礎 D（システマ思考） ★ WBリテラシー基礎 E（文章） ★ WBリテラシー基礎 F（プロジェクトマネジメント） ★ 基礎ゼミ A ★ 基礎ゼミ B	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 2	★ 建学の精神応用 A（文脈講話） ★ 建学の精神応用 B（Ancestors' Voices） ★ WBデザイン応用 A（社会心理） ★ WBデザイン応用 B（哲学・倫理学） ★ WBデザイン応用 C（医療） ★ WBリテラシー応用 A（論理学） ★ WBリテラシー応用 B（社会調査法） ★ WBリテラシー応用 C（対話の場づくり） ★ WBリテラシー応用 D（コーチャングのコミュニケーション） ★ WBリテラシー発展 A（基礎者に働く 1） ★ WBリテラシー発展 B（実践者に働く 2） ★ WBリテラシー発展 C（プレゼンテーション）
必修 (86)	基礎科目群 (34)					
	ゼミナール (7)	★ 入門ゼミ A ★ 入門ゼミ B ★ 自己理解入門 A（自己との対話） ★ 自己理解入門 B（自己肯定感） ★ 自己理解入門 C（他者との対話） ★ 自己理解入門 D（自己受容・他者信頼） ★ 自然・環境入門 A ★ 自然・環境入門 B	2 2 1 1 1 1 1 2 2			
	探究する科目群 (38)					
	地域・医療・福祉 (5)	★ 地域・医療・福祉プロジェクト	4			
	ビジネス (8)	★ ビジネス基礎 A（企業） ★ ビジネス基礎 B（人事） ★ ビジネス基礎 C（起業）	1 1 1			
選択 必修 (14)	未来デザイン (7)					
	応用ゼミ・卒業プロジェクト・卒業論文 (7)					
	基礎科目群 (10)	★ WBリテラシー入門 B（バーミカルチャー） ★ WBリテラシー入門 C（アート（書）） ★ WBリテラシー入門 D（アート（身体表現））	1 1 1			
	国際理解 (4)	★ 国際コミュニケーション ★ 海外インターンシップ	1 2			
	GAP（履修上限単位数）		44	39	30	11
卒業所定単位数		45	45	40	30	
合計 124 単位以上						

（注意）卒業所定履修単位数は別途、卒業所定履修単位表も必ず確認し、必修科目や指定された科目の履修漏れが無いようにしてください。

★＝必修科目

モデル2 ウェルビーイング地域デザイナー【連絡イメーজ】ウェルビーイングな地域を創生を目指す自治体の公務員、企業への就職、NP0機関体への所属等

科目区分		1 年	2 年	3 年	4 年	
必修 (12)	情報 (2)	★ データサイエンス基礎 ★ 人工知能基礎	1 2			
	外国語 (4)	★ 英語基礎 A ★ 英語基礎 C	2 2			
	教養日本語 (1)	★ 日本語リテラシー	1			
	CHP (4)	★ SDGs 基礎	1			
		★ SDGs 発展 1	1			
		★ SDGs 発展 2	1			
	★ SDGs 発展 3	1				
	フィールド・スタディーズ (1)	★ フィールド・スタディーズ	1			
	スポーツ・身体 (1)	★ スポーツと身体科学	1			
	外国語 (2)	英語基礎 B 英語基礎 D	1 1			
選択 必修 (15)	フィールド・スタディーズ (5)	フィールド・スタディーズ 2				
共通科目 (27)	全学就業ゼミナール (4)	全学就業ゼミナール 1 全学就業ゼミナール 2	2 2			
	情報 (1)	メディアリテラシー	1			
	審判講座 (2)	環境野営自由講座	2			
	基盤科目群 (34)	建学の精神 (9)	★ 建学の精神入門 A (人間観) ★ 建学の精神入門 B (真理観) ★ 建学の精神入門 C (Oharina Dialogue) ★ 建学の精神入門 D (夢探検)	1 1 1 1	★ 建学の精神応用 A (文獻精読) ★ 建学の精神応用 B (Ancestors' Voices)	1 1
		ウェルビーイングデザイン (11)	★ WBデザイン基礎 A (全体像と歴史) ★ WBデザイン入門 B (健康) ★ WBデザイン入門 C (心理) ★ WBデザイン入門 D (教育)	1 1 1 1	★ WBデザイン応用 A (社会心理) ★ WBデザイン応用 B (哲学・倫理学) ★ WBデザイン応用 C (医療・倫理学) ★ WBデザイン応用 D (コーピング的コミュニケーション)	1 1 1 1
		基礎科目群 (34)	★ WBリテラシー入門 A (ポジティブ心理学基礎) ★ WBリテラシー基礎 A (感性工学) ★ WBリテラシー基礎 B (対人コミュニケーション) ★ WBリテラシー基礎 C (ロジカル思考) ★ WBリテラシー基礎 D (システム思考) ★ WBリテラシー基礎 E (文章) ★ WBリテラシー基礎 F (プロジェクトマネジメント)	1 1 1 1 1 1 1	★ WBリテラシー応用 A (論理学) ★ WBリテラシー応用 B (社会調査法) ★ WBリテラシー応用 C (対話の場づくり) ★ WBリテラシー応用 D (コーピング的コミュニケーション)	1 1 1 1
		ゼミナール (7)	★ 入門ゼミ A ★ 入門ゼミ B ★ 自己理解入門 A (自己との対話) ★ 自己理解入門 B (自己肯定感) ★ 自己理解入門 C (他者との対話) ★ 自己理解入門 D (自己受容・他者信頼)	2 2 1 1 1 1	★ 基礎ゼミ A ★ 基礎ゼミ B ★ 自己理解基礎 A (コンパッション) ★ 自己理解基礎 B (対話) ★ 自己理解基礎 C (セルフ・コンパッション)	
		探究する科目群 (38)	★ 自然・環境入門 A ★ 自然・環境入門 B ★ 自然・環境プロジェクト ★ 地域・医療・福祉基礎 A (医療・看護) ★ 地域・医療・福祉基礎 B (地域と福祉) ★ 地域・医療・福祉基礎 C (高齢者福祉) ★ ビジネス基礎 A (企業) ★ ビジネス基礎 B (人事) ★ ビジネス基礎 C (起業)	2 2 2 1 1 1 1 1 1 1	★ 自然・環境基礎 A ★ 自然・環境基礎 B ★ 自然・環境プロジェクト ★ 地域・医療・福祉応用 A (社会心理) ★ 地域・医療・福祉応用 B (公共政策) ★ 地域・医療・福祉応用 C (社会心理) ★ ビジネス応用 (社会システム) ★ ビジネスプロジェクト ★ ビジネス基礎 (起業)	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
	新選する科目群 (14)	★ 未来デザイン (7) ★ 応用ゼミ・卒業プロジェクト・卒業論文 (7) ★ ウェルビーイングリテラシー (10) ★ 国際理解 (1)		★ 未来デザイン方法論 A (イノベーション論) ★ 未来デザイン方法論 B (手法 1) ★ 未来デザイン方法論 C (手法 2) ★ 未来デザインプロジェクト ★ 応用ゼミ A ★ 応用ゼミ B ★ WBリテラシー応用 E (アート (書)) ★ WBリテラシー応用 F (人類の歴史) ★ WBリテラシー応用 G (エコシステム) ★ 多文化理解	1 1 1 1 1 2 2 1 1 1 1 1	
	選択 必修 (11)	基礎科目群 (10)	★ WBリテラシー入門 B (バーマカルチャー) ★ WBリテラシー入門 C (アート (書)) ★ WBリテラシー入門 D (アート (身体表現))	1 1 1	★ WBリテラシー発展 A (実践習に臨む 1) ★ WBリテラシー発展 B (実践習に臨む 2) ★ WBリテラシー発展 C (プレゼンテーション)	1 1 1
CAP (履修上限単位数) 卒業所要単位数	計	45	37	33	9	
		45	45	40	30	
		合計 124 単位以上				

注意) 卒業所要単位数は別途、卒業所要単位表も必ず確認し、必修科目や指定された科目の履修漏れが無いようにしてください。

ウェルビーイング学部ウェルビーイング学科 編入学生履修モデル

[illegible]

モデル1 ウェルビーイング産業デザイナー

[illegible]

注意) 卒業所要単位数は別途、卒業所要単位数表も必ず確認し、必修科目や指定された科目の履修単位数が無いようにしてください。

モデル2 ウェルビーイング地域デザイナー【進路イメージ】ウェルビーイングな地域の創生を目指す自治体の公務員、企業への就職、NP0植団体への所属等

[illegible]

注意) 卒業所要単位数は別途、卒業所要単位数表も必ず確認し、必修科目や指定された科目の履修漏れが無いようにしてください。

注意) 卒業所要単位数は別途、卒業所要単位表も必ず確認し、必修科目や指定された科目の履修漏れが無いようにしてください。

令和4年度実習先一覧（共通科目「フィールド・スタディーズ」「フィールド・スタディーズ1～4」）

No	プログラム名	概要	所在地	実習施設名	受入可能人数(人)	日程	科目
1	(オンライン)隣のアジア人	今やどこにでも見かける外国人労働者。かれらの背後にある文化、家族、思いなどを共生者としての視点から見聞かせてもらい、これからの多文化社会のありようを学ぶ。	オンライン型		200	1週間	フィールド・スタディーズ
2	沖縄に学ぶ	沖縄はもとも日本の周辺にあって独自の文化を持つ小さな国であったが、近代に入り日本に飲み込まれ、今や辺境の一県として国境に立たされている。沖縄の文化的独自性と特異な政治的地位を見て学ぶ。	オンライン型		20	1週間	フィールド・スタディーズ
3	人間とその営為	さまざまな専門分野の先生方による学外学修要素を含むオムニバス形式のオンラインプログラム。FSが本来目指している「結びつきと支え合い」による人間社会の総合的な理解・実感を、多方面にわたる専門分野を持つ先生方の知識・見識を総合し、学ぶ。	オンライン型		153	1週間	フィールド・スタディーズ
4	山梨県西桂町地域活性化プロジェクト2022	地域活性化に向けて、西桂町を知り、町の人が大切にしているものを、共に学び、動画や写真等をFacebookやInstagram等に発信する。8/15(月 夏祭り参加)と最終日(成果発表 8/22～26の間の1日)の計2日間現地での活動を予定している(日帰り)。	オンライン型		10	1週間	フィールド・スタディーズ
5	(オンライン)江戸東京 都市史の試み	都市の歴史は人間の暮らしの歴史である。私たちの住んでいる東京を歩き、その成り立ちを学ぶことで、私たちの歴史が祖先たちによってどのように織りなされてきたのか、どう書かれ、記憶されてきたのかといった、人間の固有の属性である「歴史」について理解を深め、この世界の結びつき。支えあいの姿に目を開いていくプログラムである。	オンライン型		312	1週間	フィールド・スタディーズ
6	世界文化遺産富士山エコツアーから学ぶ自然共生サステナブルな生き方	富士山麓のキャンプ場を本拠地として世界遺産となっている富士山の自然、歴史、文化をエコツアーを体験することで学び、自治体、NGO、自然学校、農林業、観光業などを訪ね、可能な限り現場での運営側での体験の機会を得るようにする。自然体験活動指導者の資格取得希望者には、本講座終了後に補習の機会を作り、資格取得を目指す。	オンライン型		30	1週間	フィールド・スタディーズ
7	山形県大石田町「そばの里 大石田町の歴史と文化・未来に向かって」	大石田町の自然環境、産業、歴史と文化などについて学び、町の現状と課題を把握する。現在、農林水産省から出向している副町長から町の課題やその解決策などの講義を受け、町をより活性化する方法を学生の視点から提案する。さらに、町の食文化として根付いている「そば」についての理解を深め、そばの産業が更に発展する方策等を提案する。	オンライン型		16	1週間	フィールド・スタディーズ
8	(オンライン)日本の「神様」めぐり	宗教は言語と並んで人間の基本的かつ固有の属性である。人間である以上祈りのない民族はない。日本人は無宗教だと外国人から言われ、自分でもそう言うことがあるが、本当にそうだろうか。日本人にとっての祈りとはどのようなものなのか。本プログラムでは日本人の祈りの現場をめぐること、日本人の心性への理解、しいては広く人間を理解する一助としたい。	オンライン型		236	1週間	フィールド・スタディーズ
9	はばたけ秋田県上小阿仁村！～人口2,000人の小さな村にある魅力を見つける～	お年寄りが多く、産まれてくる子供たちが少ない上小阿仁村で、高齢者福祉施設での支援活動、自然環境、食文化等を体験する。その体験を通して、上小阿仁村を今よりも活性化するためには、どのような取組みをすればよいかを考える。具体的には、高齢者福祉センターや、老人ホームでの高齢者の福祉活動の他、上小阿仁村の方より深く関わり、村の抱える課題について解決策を考え、地域を元気にする活動を行う。	オンライン型		19	1週間	フィールド・スタディーズ
10	(オンライン)仏さまとの出会い	日本文化に仏教が与えた影響の大きさについては今更言うまでもないだろう。しかし、高校までの文化史で習った日本仏教は最澄や空海、あるいは鎌倉新仏教の祖師方の思想であつたり博物館にある美術の名作であつたりして、実際の暮らしの中の仏教は全然登場してこなかったのではないだろうか。しかも、それらも京都・奈良を中心とした畿内中心の歴史だったのではないだろうか。本プログラムでは東国庶民の仏教信仰をテーマにして、東京から日帰り圏での仏教信仰の実態を見学し、地域の人々の結びつきや信仰を通じた支えあいについて気づきを深めていく。	オンライン型		113	1週間	フィールド・スタディーズ
11	グローバル教育オンライン研修	アメリカの学校の様子や、現地の日本人教育学部教授現任教員による講演などを聞き、アメリカの教育現場を学ぶ。また、同時にベトナムの教育現場も学び、違いを比較する。	オンライン型		21	1週間	フィールド・スタディーズ
12	海外医療・福祉・薬学オンライン研修	アメリカ在住の日本人看護師と日本人心理カウンセラー等の講演を聞いたり、ベトナムで活躍している日本人医療従事者からの業界最前線のお話を聞く。アメリカの医療、ベトナムの医療を学ぶことで、これからの学びに活かす。	オンライン型		31	1週間	フィールド・スタディーズ
13	きらめく仏塔の都	タイに來なくてもタイを体験できる!タイに來てもなかなか体験できないをコンセプトに、タイの環境と今・タイ人のくらし・タイの歴史と美術・タイ語・タイの観光などについて、現地にいる日本人教員とオンラインで学修をする。	オンライン型		53	1週間	フィールド・スタディーズ
14	台湾南部「琉球」スタディーツアー—高雄・屏東・台南から“つながり”を考える—	台湾の複雑な民族と言語について、それが形成された歴史的背景や、そうした多文化性が生み出す台湾の魅力について学ぶ。協定大学である大に科技大学応用日語系(日本語学科)学生とのオンライン交流会を始め、台湾南部(高雄、小琉球、屏東、台南)をオンラインで散策する。	オンライン型		49	1週間	フィールド・スタディーズ
15	ハリーポッター&シャーロックホームズからイギリス文学を学ぶ旅	このプログラムでは、世界中で人気を誇るイギリスの代表作、ハリー・ポッターとシャーロック・ホームズを通してイギリスの文学、そして物語の背景にあるイギリスの文化、歴史などについて学ぶ。講義+一部イギリスとオンライン中継(予定)でつながり、日本に居ながら物語の舞台となった地をバーチャルで体験、その世界観に入り込む。その他、テーマに合わせたグループごとのディスカッション、発表まで行う。	オンライン型		39	1週間	フィールド・スタディーズ
16	世界を牽引するIT産業都市上海の今	オンラインで現地の専門家等との交流を通じ、中国の経済を牽引する都市・上海を中心として、IT産業の中でテーマを設定し、中国での各企業の現状やサービスの展開方法などを学ぶ。大学・企業をオンラインで深く知ることにより、グローバル化が進む中で、新しいビジネスになっていくエネルギーや国際人としての在り方、自国の文化をどのように発信していくかを学ぶきっかけにしたいと考えている。	オンライン型		26	1週間	フィールド・スタディーズ

No	プログラム名	概要	所在地	実習施設名	受入可能 人数(人)	日程	科目
17	Online カンボジアSDGs研修	カンボジアには、教育・福祉・労働など様々な社会問題がある。カンボジアの社会問題の背景として、1970年から1993年まで内戦があった。特に原紙共産主義を目指したポル・ポト政権時代には、医者や教師などたくさんの知識人が虐殺され、当時の人口の4分の1になる約200万人が処刑されたと言われている。今回の研修では、カンボジアの内戦から、現地の社会起業家からソーシャルビジネスを学び、研修最終日に「自分たちは何ができるか」を社会起業家に発表する。	オンライン型		3	1週間	フィールド・スタディーズ
18	台湾入門～台湾を楽しみ、台湾を学ぶ～	台湾について学び、考えるプログラム。親しき隣人たちの素顔について学ぶ。現地事情や歴史、日台の絆と結びつき、日台関係論など、複数の視点から台湾という土地を見つめていく。同時に、台湾について学ぶことで、冷静でかつ客観的な国際感覚を培養し、見聞を広めることも目的とする。現在台湾に暮らしている日本人の生き方、台湾人の戦争体験、台湾の若者事情など、盛りだくさんの内容を想定している。台湾について学びたいという気持ちを抱く、すべての皆さんを歓迎する。	オンライン型		49	1週間	フィールド・スタディーズ
19	日本文化 海の道	福岡県対馬から福岡市・大阪・奈良を巡り、日本文化の成り立ちについて学ぶ。	福岡県・大阪府・奈良等	各寺院など	18	1週間	フィールド・スタディーズ
20	八丈島 島の人々との交流及び観光モニター活動	東京都の離島である八丈島に実際に訪問を行い、フィールド・ワークや老人ホーム等での活動や交流を通して、現地の環境・観光・教育について理解を深める。	東京都八丈町	社会福祉法人 養和会	23	1週間	フィールド・スタディーズ
21	北海道東川町役場 地方行政フィールドワーク	35年前から写真文化を核とした町づくりを進め全国的にも珍しく人口が増加し、全国の自治体から注目されて元気のある町で、数多くのユニークな施策に取り組んでいる行政の仕事体験する。	北海道東川町	東川町役場	30	1週間	フィールド・スタディーズ
22	京都・西本願寺を中心とした仏教フィールド・スタディーズ ～仏教思想・仏教文化の源流を探る～	京都・西本願寺の宿泊施設に滞在し、通常では経験することの少ないお寺の活動や、茶道・坐禅などの体験を通して、仏教が日本の日常生活や伝統文化に深く浸透していることを感じてもらうプログラム。	京都府	西本願寺	28	1週間	フィールド・スタディーズ
23	武蔵野大学×長野県信濃町 実体験！ 地方発掘プロジェクト	信濃町の歴史、産業等を学び、そこから地域の活性化に繋がるPR動画を作成する。 町内の事業所などに協力をいただき、信濃町の生活に根付いた人々とコミュニケーションをとりながらPR動画を作成する。	長野県信濃町	信濃町役場	4	1週間	フィールド・スタディーズ
24	東方の華	ブッダ以後約1000年の後、6世紀にアジアの東端である日本まで伝わった仏教は、その後多様な展開を見せた。日本に花開いた仏教の諸相を代表的な16寺院を訪問することで体験する。福岡・大阪・京都・東京を巡る。	福岡県・大阪府・京都府・東京都	各寺院など	19	1週間	フィールド・スタディーズ
25	長野県信濃町における地域産業の体験と課題発掘	実際に農業を体験し、地方産業やこれからの農業ビジネス、6次産業化などについて考える。また、信濃町の産業、観光、環境などを調査し、課題や利用可能な町の資産を発掘して信濃町の地域活性化のための企画をチームで作成発表する。	長野県信濃町	株式会社エフワイ	27	1週間	フィールド・スタディーズ
26	のじりこマルシェ 英語インターン(長野県信濃町)	国内ホームステイで外国人と触れ合う・語学学習や文化学が、海外の人と就労体験(外国人経営の宿泊施設での就労体験)を主に実施。加えて、野尻湖サンデーマルシェでの英語版チラシ作成や広報などのアシスタント業務や、農業体験、アファンホースロッジでの馬引き体験などの自然体験を実施。	長野県信濃町	信濃町役場	6	1週間	フィールド・スタディーズ
27	那須甲子の森 SDGs運動会～自然の中で感じる、学ぶ、考える～	武蔵野大学生の提案から始まったこのプログラム、那須甲子の森の自然の中でフィールド・ワークを行うことによって、自然の中で感じ、学び、考えていく、都会の生活の中で体験することのできない、自然からの学び。自然に触れ、ものづくりを体験しながら、SDGsや那須甲子の地域課題を考えていく。	福島県那須甲子地区	国立那須甲子青少年自然の家 独立行政法人	11	1週間	フィールド・スタディーズ
28	宮城県大崎市 世界農業遺産大崎耕土エコツアーから学ぶ歴史探訪サステイナブルな生き方	何世代にわたって継承されてきた伝統的な農林水産業とそれを取り巻く自然(生物多様性)と文化を国際連合食糧農業機関(FAO)が世界農業遺産に認定した大崎耕土でのエコツアーを体験することによって日本型SDGsのモデルとしてサステイナブルな生き方の一つを学び、エネルギーの自給にも挑戦している生活も体験し、近未来の持続可能な生き方の心地よさを実感する。	宮城県大崎市	有限会社リバーン	38	1週間	フィールド・スタディーズ
29	宮城県名取市 関上(ゆりあげ)～3.11を忘れない～自分で考える防災プログラム	東日本大震災から学び、今後の防災・減災・復興のあり方を検討するプログラム。津波の被害を受けた宮城県名取市関上にて語り部さんの話を聞き、天災への対策を学び、自分の五感と心で感じて、防災・減災・復興について考えを深めていく。名取図書館蔵書・震災蔵書見学、防災公園見学、防災住宅見学、関上地区フィールド・ワーク、語り部さんの講話、現地からのZOOMによる防災士 宮城県防災指導員による講話等。	宮城県名取市	NPO 法人まちづくりひとづくりネットワーク・日本キリスト教団 名取教会	48	1週間	フィールド・スタディーズ
30	宮城県石巻市 放課後デイサービス(障がい児)あつふるじゃんぶ石巻・あつふるプラス	[あつふるじゃんぶ]障がい児(中高生)が利用し、様々な体験を通して社会に必要な基本を学び、生活面の自立の向上また就労体験を行う場所。活動の支援、スタッフ補助、活動の企画をし実施も行う。子ども達は、とても笑顔でフレンドリー。心のふれあいがある。 [あつふるぶらす]日常生活に少し困難を生じている18歳以上の方が通う福祉サービス。生活訓練や就労訓練を行い、自立支援、就労支援を行う。一緒に活動をし、利用者様(障がい者)対応・スタッフ補助を行う。 [未来サポート館]3.11東日本大震災から防災学修をする。	宮城県石巻市	株式会社アップルファーム	8	1週間	フィールド・スタディーズ
31	福岡県大川市 モノ作りの魅力発信プロジェクト	国内有数の家具の生産地である福岡県大川市にて、自身のデザインによる家具作りをとおし、大川市のモノ作りや地方都市の魅力の魅力を学び、発信するプログラムとなっている。大川市は、伝統技術だけでなく「ねこ家具」など新たな試みもあり、魅力ある地域資源が溢れている。	福岡県大川市	株式会社プロセス井口	4	2週間	[事前事後学修]フィールド・スタディーズ [学外学修]フィールド・スタディーズ3
32	秋田県鹿角市地域DMO体験プロジェクト	北東北の中心に位置する十和田八幡平国立公園に抱かれ、世界遺産1件、ユネスコ無形文化遺産2件を有する自然と伝統文化に恵まれた鹿角市において、本市の主力産業である観光産業に関する調査研究活動を通じて、地域の魅力を発信しながら観光客の増加に結びつけるための戦略的な地域活性化策について学ぶ。	秋田県鹿角市	鹿角市役所	10	2週間	[事前事後学修]フィールド・スタディーズ [学外学修]フィールド・スタディーズ4
33	鹿児島県SDGs 未来都市「徳之島」"豊かさ"溢れる島民の暮らしエコツーリズム開発体験	さあ、シマの宝を見つける学びの旅へ。2021年に世界自然遺産登録された豊かな山・海。それらの自然と共にある島民の暮らし。自然や人に感謝する「文化」や、助け合いの精神である「ユイ」など自然と共に織りなされてきた人々の暮らしの中にはさまざまな「豊かさ」が存在している。本プログラムでは徳之島の1つの集落を舞台に「環境文化」という視点で住民から「歴史」や「文化」など大切にしている「豊かさ」をインタビュー取材し、みなさん自身が1つのエコツーリズムコースを開発する。あなたの考えた企画が実際に徳之島の「豊かさ」を紡ぎきつかけになるかもしれない！	鹿児島県徳之島町	徳之島町役場	10	2週間	[事前事後学修]フィールド・スタディーズ [学外学修]フィールド・スタディーズ2

No	プログラム名	概要	所在地	実習施設名	受入可能 人数(人)	日程	科目
34	福島県猪苗代町 レイクサイド ホテルみなとや・グリーンハウ ス	ホテル「レイクサイドみなとや」や農家で体験活動を通して、猪苗代地域の活性化に取り組むホテルと農家の経営や運営の実感をもつて理解する。猪苗代の人・自然・産業・歴史に親しみ、そのよさや魅力を理解するとともに、地域のホテル・農家の取り組みについて、学生の目線からさらに改善する方策等を思考・検討して、提案できるようにする。学外学修の活動に主体的・能動的に取り組むとともに、チームで学修する互いのよさを生かしながらか活動し、自分の生き方を考えられるようにする。上記のねらい実現のため、事前授業では、猪苗代・会津地域の地理的歴史的な環境、ホテル業務、農家の仕事の基礎的な理解に取り組む、各自の学外学修の課題設定につなげる。事後授業では、学修内容をふり返り、整理・まとめ・表現する活動を通して、学修の意味理解や自覚を深める。	福島県猪苗代町	レイクサイドホテル みなとや・グリーンハ ウス	2	3週間	[事前事後学修]フィールド・スタディーズ [学外学修]フィールド・スタディーズ4
35	白象の国(タイ)	タイでの仏教施設や文化施設の訪問、サイアム大学学生との交流を実施する。	タイ(海外)	現地寺院など	16	1週間	フィールド・スタディーズ
36	グローバル・ビジネス研修(ア メリカLA)	アメリカLAを実際に訪問し、ビジネス講演会、企業見学、アメリカ在住ビジネスパーソンとの対話、ロス在住日本人ビジネスパーソンとともにセミナーなどを実施する。	アメリカLA(海外)	現地企業など	18	1週間	フィールド・スタディーズ
37	必修1単位:江東区児童館イン ターンシップ(南砂児童館)	江東区内にある児童館で保護者や一般の方の来館者対応や児童館に遊びに来た児童と遊んだり、遊具の片付け、掃除などの日常業務補助、機会があれば子ども達の手作りお化け屋敷などのイベント運営補助等を行う。	江東区	江東区役所	2	1週間	フィールド・スタディーズ
38	共生社会フィールド・スタディ ーズ 身近なバリアを探る(東 京)	障害の有無にかかわらず全ての人が共に生きる社会(インクルーシブ社会)の推進にむけて、学外に足を運びながら、私たちの身近にあるバリアを理解し、そのバリアを克服するために必要とされる視点や行動を学ぶ。	江東区	株式会社ミライロ、 宇都市役所	115	1週間	フィールド・スタディーズ
39	仏教・築地・鎌倉FS	武蔵野大学の基盤となる建学・仏教の精神への理解を深めるプログラム。実習先は、本学発祥の地である築地本願寺・鎌倉の古寺、博物館や美術館。実習先で感じたことや学んだことが、今後の大学の学修に対するモチベーションにつながることを期待する。	中央区築地・ 鎌倉市	築地本願寺など	20	1週間	フィールド・スタディーズ
40	【法律学科限定】武蔵野地区 空き家等状況調査(西東京市)	【法律学科限定】西東京市の空き家等の状況調査を行う。市内をいくつかのエリアに分け、エリアごと空き家等の現地調査を実施し、地域の課題を含め、現状報告書を作成する。また、現状調査の結果を踏まえ、空き家問題に対する予防や利活用について提案を行う。	西東京市	西東京市役所	6	1週間	フィールド・スタディーズ
41	【法律学科限定】出入国在留 管理・税関視察プログラム	【法律学科限定】日本の出入国在留管理行政や税関行政について、事前学修、関連施設の訪問及び講演への参加等を通じて学び、「人」と「物」の出入りについて制度を確認する。そして、これらを通じて見聞した課題を整理し、今後の行政や市民社会のありかたを検討する。	渋谷区	東京ジャミー	40	1週間	フィールド・スタディーズ
42	【法律学科限定】武蔵野地区 空き家等状況調査(武蔵野市)	【法律学科限定】武蔵野市の空き家等の状況調査を行う。市内をいくつかのエリアに分け、エリアごと空き家等の現地調査を実施し、地域の課題を含め、現状報告書を作成する。また、状況調査の結果を踏まえ、武蔵野市の空き家対策として、空き家の予防・適正管理・利活用に関する提案を行う。	武蔵野市	武蔵野市役所	23	1週間	フィールド・スタディーズ
43	東京臨海副都心 まちの景観 づくり活動(花壇管理・クリ ン活動)	「まちの景観」を構成する植栽の維持管理活動。2020東京大会の会場に隣接する都立公園で実施されている「花と緑のおもてなしプロジェクト」に参加し、活動とおして「まちの景観づくり」に貢献するとともに、社会人との交流体験により個々のキャリア向上を図る。活動内容は「サマーガーデン」の維持管理活動(花殻摘み、除草、灌水、花植えなど)を2日間実施する。	江東区有明	東京埠頭株式会社	318	1週間	フィールド・スタディーズ
44	TOKYO GLOBAL GATEWAY 体験型英語学習+途上国社 会問題解決フィールド・スタ ディーズ	イングリッシュスピーカーとの会話を通じて、英語でのコミュニケーション力と異文化理解力を強化する。その後、途上国の社会課題について理解を深め、解決策の創出に挑戦することを目的としたフィールドスタディを対面で3日間実施する。途上国の課題をチームで考え、解決策を提案する。	オンライン型		37	1週間	フィールド・スタディーズ
45	東京グリーン・キャンパス・ブ ログラム(東京に残された緑 地での保全活動)	東京都は都内に残された里山を保全地域として指定し、保護している。里山は人が自然を利用することで保たれていた景観であり、維持していくためには、定期的に草刈りや伐木を行うなど、多くの人手が必要である。本プログラムでは作業の必要性などの説明を受けた上で、実際に保全地域にて、草刈り等の保全活動を実施する。作業の楽しさ、大変さを体験することを通じて、人と自然との関わりについて考えるきっかけとなることを期待する。	八王子市	東京都環境局 自然 環境部 緑環境課	30	1週間	フィールド・スタディーズ
46	東京でマレーシア・ボルネオ 島の熱帯林と人々の関わりを 学ぶ	マレーシア・ボルネオ島の自然や野生生物の保全について現地の専門家によるオンライン講義(日本語訳含む)を通じて学ぶ。また、板橋区立熱帯環境植物園を訪れ、実際に熱帯林に生息する植物や動物について見学する。現地の人々の暮らしと熱帯林の関わりについても地域研究の専門家も招いて伺い、ディスカッションを行う。	板橋区	板橋区立植物園	29	1週間	フィールド・スタディーズ
47	ビジネスと国際協力〜SDGs複 数目標の達成に取り組む人々 の「セルフ・デベロップメント」	インドのオリッサ州、テランガナ州は、児童労働などの問題も現存する貧困州。一般財団PBP Cottonはそれらの地域で綿花栽培農家とその家族にオーガニックコットン栽培の導入を支援している団体である。本研修では、SDGs達成に寄与する一般財団PBP Cottonの理事で企業に勤務している人々が様々な立場から講演を行い、学生の皆さんが楽しくインドの問題や貧困問題、綿農家から衣服ができるまでの過程を学ぶ。最終日は東北地域で綿農家作業を行う。	宮城県石巻市	一般財団法人 PBP COTTON	30	1週間	フィールド・スタディーズ
48	作陶における伝統の創造	陶芸家の伊藤麻沙人先生にご指導いただきながら、陶器を製作する。伊藤先生の工房で撮影した動画によって制作の手順を学び、各自自宅で陶土を捏ね、形を作り、施釉の段階では伊藤先生の工房に伺って作業を行う。オンラインで行う事前・事後授業では、陶磁器史、陶芸にまつわる文化、陶芸における化学などについて学ぶ。この体験と講義を通じて、自分自身の手でものを作り出す喜びと、陶磁器に関わる人間の営みの歴史や陶磁器が生まれる原理などを知ることができる。それは私たちの身の回りにある様々なもののなかから本物を見分ける力を養うことにもつながる。	神奈川県秦野市	陶芸家・伊藤 麻沙 人	35	1週間	フィールド・スタディーズ
49	Field Study in English (FSiE)	Explore career development opportunities by attending more than three events such as a public seminar, forum, symposium, job fair and so forth to be offered in English. A student selects one from periodical announcement on Mascot or one finding themselves and need to approval of a teacher prior to attending. A reflection report needs to be turned in within two weeks after the event.	東京都内各所	都内各講演会など	62	1週間	フィールド・スタディーズ
50	小金井市貫井北センター (NPO法人市民の図書館・公 民館こがねい)インターンシ ップ	図書館・公民館でのインターンシップです。日常業務やイベントの運営補助を行う。NPOだからこその運営を体験する。	小金井市	小金井市貫井北セ ンター	2	1か月	[事前事後学修]フィールド・スタディ ーズ [学外学修]フィールド・スタディーズ4

No	プログラム名	概要	所在地	実習施設名	受入可能 人数(人)	日程	科目
51	西東京市役所 インターンシ ップ（児童館ランチタイム）	西東京市内の児童館では、夏休み期間、家庭での孤食防止や居場所としてランチタイムを設けている。その児童館で夏休みを過ごす子どもへの指導を行う。	西東京市	西東京市役所	18	1か月	[事前事後学修]フィールド・スタディーズ [学外学修]フィールド・スタディーズ3
52	小金井市観光まちおこし協会 インターンシップ（まちと遊び まちから学ぶインターンシップ）	まちの観光資源や地域の魅力発信の取り組みについて学習し、商店街や公共施設のイベントの体験実習を行うことで、まちの楽しい人々と交流し地域活動を体験する。	小金井市	小金井市観光まち おこし協会	2	1か月	[事前事後学修]フィールド・スタディーズ [学外学修]フィールド・スタディーズ3
53	武蔵野市福祉公社 高齢者福 祉支援インターンシップ	社会活動センターの各種講座の運営を中心に、在宅介護・地域包括支援センター、住宅改修・福祉用具相談支援センター、デイサービスセンター、権利擁護センター、法人本部等の実務補助を実施。	武蔵野市	公益財団法人 武蔵 野福祉公社	2	1か月	[事前事後学修]フィールド・スタディーズ [学外学修]フィールド・スタディーズ4
54	小金井市 地域の寄り合い所 また明日	赤ちゃんからお年寄りまで、小中高生や地域の人も立ち寄る「また明日」にて地域の人々と交流する。乳幼児のお世話や、小中学生の話し相手、勉強の見守り、高齢者に寄り添いながらサポート業務を行う。	小金井市	小金井市 地域の寄 り合い所	4	1か月	[事前事後学修]フィールド・スタディーズ [学外学修]フィールド・スタディーズ3
55	合計5単位：江東区児童館イン ターンシップ（4児童館：亀戸・ 亀戸第三・東砂児童館・千田 児童館）	江東区内にある児童館で保護者や一般の方の来館者対応や児童館に遊びに来た児童と遊んだり、遊具の片付け、掃除などの日常業務補助、機会があれば子ども達の手作りお化け屋敷などのイベント運営補助等を行う。	江東区	江東区児童館	7	1か月	[事前事後学修]フィールド・スタディーズ [学外学修]フィールド・スタディーズ4
56	合計4単位：江東区児童館イン ターンシップ（4児童館：大島・ 亀戸第二・小名木川・東陽児 童館）	江東区内にある児童館で保護者や一般の方の来館者対応や児童館に遊びに来た児童と遊んだり、遊具の片付け、掃除などの日常業務補助、機会があれば子ども達の手作りお化け屋敷などのイベント運営補助等を行う。	江東区	江東区児童館	6	1か月	[事前事後学修]フィールド・スタディーズ [学外学修]フィールド・スタディーズ3
57	合計3単位：江東区児童館イン ターンシップ（2児童館：辰巳・ 塩浜児童館）	江東区内にある児童館で保護者や一般の方の来館者対応や児童館に遊びに来た児童と遊んだり、遊具の片付け、掃除などの日常業務補助、機会があれば子ども達の手作りお化け屋敷などのイベント運営補助等を行う。	江東区	江東区児童館	2	2週間	[事前事後学修]フィールド・スタディーズ [学外学修]フィールド・スタディーズ2
58	小金井市役所 インターンシ ップ	ほどよく都会 ほどよく田舎の小金井で、市役所の仕事を体験する。様々な部署で市役所内の補助業務や公民館での事務等補助を行う。 ① 所属部署における一般的な市役所業務の補助業務 ② 公民館での補助業務	小金井市	小金井市役所	2	1か月	[事前事後学修]フィールド・スタディーズ [学外学修]フィールド・スタディーズ4
59	江東区役所（江東区文化コミュ ニティ財団）文化事業インター ンシップ（江東公会堂（ティア ラこうとう））	1,200人の大ホールを擁するティアラこうとうで開催されるコンサートや公園の準備を行い、舞台芸術がどのように運営されるかを知るとともに、人々の生活にとって文化や芸術がどのような意味を持つかを考える。	江東区	江東区役所	2	2週間	[事前事後学修]フィールド・スタディーズ [学外学修]フィールド・スタディーズ1
60	千川福祉会 社会福祉施設サ ポートインターンシップ	就労継続支援B型事業所においては、封入・封緘作業の支援・補助を行う。生活介護事業所においては、封入・封緘作業の支援・補助の他にアート活動の支援・補助なども行う。放課後等デイサービス事業においては、買い物・アート・運動などの活動支援・補助をする。	武蔵野市	千川福祉会	8	1か月	[事前事後学修]フィールド・スタディーズ [学外学修]フィールド・スタディーズ4
61	西東京市役所 インターンシ ップ（サマー子ども教室）	実施小学校全児童を対象に、夏休みの居場所作りとしてカリキュラムを組み、体験学習を中心に1クール約20人の教室形式で工作・クッキング・企業の出前講座などの指導補助を行う。また、学生立案による企画事業や児童指導全般の指導なども実施。また、サマー子ども教室の実施がない日は、市内児童館もしくは学童クラブで、児童指導補助として子どもたちの活動を援助する実習を行う。	西東京市	西東京市役所	5	1か月	[事前事後学修]フィールド・スタディーズ [学外学修]フィールド・スタディーズ3
62	【建築デザイン学科限定】大成 建設 体験してみよう！「地図 に残る仕事。」	【建築デザイン学科限定】建築作業所で、現場管理業務の流れを学修する。工事計画を基に実際に建物が建てられていくダイナミックな過程を、体験する。国内最大手のゼネコンである大成建設の都内の工事現場において様々な取り組みを見学・体験する。現場担当者の指導の下、毎朝朝礼とラジオ体操から始まり、コンクリート打設見学、タワークレーン見学、配筋見学などを行う。様々な職能を有する専門家が活動する建設工事現場での業務は、モノづくりを実体験出来、多くの気づきや智恵となる。	中央区	大成建設株式会社	1	2週間	[事前事後学修]フィールド・スタディーズ [学外学修]フィールド・スタディーズ3
63	東京特別区人事厚生事務組 合／特別区協議会（東京23 区特別区を知ってもらうプロ グラム）	特別区協議会でのインターンシップを行う。特別区協議会（事業部）では、「情報」「研究」「教育」をキーワードに特別区の自治の発展につくす事業を行っている。三つの分野を全て体験することを前提に、東京大都市地域の歴史的な資料、古地図の目録の作成、行政資料を検索するための簡単なガイドの作成、研究成果書（特別区制度の紹介）の整理、中高生向けの特別区制度の紹介教材の作成、一般市民向け特別区の自治に関する講座・講演会・自治体間連携シンポジウムの運営等の補助業務を行う。東京23区施設区関連施設を取材し、記事作成する。これらの事業をとおして、特別区について知ると同時に、一部の事業については自分自身でも企画を考えるプログラム。	新宿区	特別区人事厚生事 務組合	2	1か月	[事前事後学修]フィールド・スタディーズ [学外学修]フィールド・スタディーズ4
合計					2,510		

令和4年度実習先一覧（共通科目「フィールド・スタディーズ発展1A～4D」）

No	プログラム名	概要	所在地	実習施設名	受入可能人数(人)	日程	科目
1	仏教を学び、仏教から学ぶFS	仏教に関連する様々な分野の学修を通して、新たな視点から自己と世界を見る。	都内各所	首都圏の寺院、博物館、美術館	5	7～9月：5日間	フィールド・スタディーズ発展2B
2	映像制作表現プログラム(基礎)	西東京市と連携を取り、自治体の個性を活かした映画制作を行う。 また、基礎的な映像製作(企画、シナリオ、演出、制作、撮影、編集など)の習得を目的とする。	西東京市	西東京市役所	16	8月：1週間程度	フィールド・スタディーズ発展2D
3	映像制作表現プログラム(応用)	西東京市と連携を取り、自治体の個性を活かした映画制作を行う。 映像製作の習得にとどまらず、映像文化の歴史を踏まえながらも、新たな価値を生み出す創造者を育成することを目的とする。	西東京市	西東京市役所	8	8月：1週間程度	フィールド・スタディーズ発展3D
4	“商い”を知る	本学有明キャンパスにあるロハスカフェ有明のご協力のもと、足立恵介代表社員にご指導いただき、限られた元手をもとに、学生たちには実際に商いをしてもらい、何をどのように売るか、企画から交渉、経理、決算にいたるまで全て学生の責任において行ってもらい。	江東区有明	ロハスカフェ有明	10	9月～11月：10日間程度	フィールド・スタディーズ発展2B
5	陶作における伝統の創造II	オンライン事前授業と教材で作陶の方法を学んだ後、送られた陶土と道具を用いて自宅で作る。履修者には、素材と釉薬の選択と絵付けも可能とする。担当教員(伊藤)による素焼きの後、全員が工房で直接指導を受けながら施釉する。同教員が本焼きの後、各自の自宅に送付する。オンライン事後授業として、陶芸の歴史(伊藤)と陶芸の文化史(菅原)、陶芸の化学(小川)の講義および各自が作製した動画による作品紹介を行う。	神奈川県秦野市	伊藤 麻沙生先生工房	8	2月：3日間程度	フィールド・スタディーズ発展1A
6	学生が取材編集する中堅企業のCSR・SDGsを指向した経営戦略	企業が取り組むCSR及びSDGsのレクチャーに加え、将来重要となる企業経営の視点(SDGs等)から企業の経営戦略を立案する。上記、活動を通じ、実践的に企業の非財務価値を理解する。更に、実際に中堅企業のCSR・SDGsレポートや関連動画を制作し、企業のメディア戦略についても実践するプロジェクトである。	港区	ニッセイエプロ株式会社	13	8月～11月：15日間程度	フィールド・スタディーズ発展2C
7	DV被害女性と子どもに対する支援	DV被害等を受け、シェルターに滞在したことのある女性やその子どもに対して、自立を目指す多様な心理的支援活動に参加する。 被害を受けた子どもの学習支援を行ったり、ワークショップや行事の運営、会議に参加しつつ、被害者支援活動について学ぶ。5月から12月、月に2、3回計10時間程度/月の参加となる。不定期の活動となるため、曜日等は、その都度話し合いにより決定する。 新型コロナの影響により、中止・延期・変更の可能性あり。	荒川区	DVシェルターSaya・saya	8	5月～10月：20日間程度	フィールド・スタディーズ発展1
8	「働きがい」を創り出す人材になる	SDGsの目標8を目指す「働きがい」と「経済成長」を達成するためには、会社の求める人材像を知り、自分自身を知る必要がある。それらが上手くマッチしない社会からは「働きがい」も「経済成長」も失われてしまうだろう。本プログラムは、①人事部門等で働く人々へのインタビューを通して、会社が求める人材像を理解する。②ワークショップ等に参加することを通して、自分自身を理解するためメソッドを直にこなせるようになる。という2つの目標を置いている。さらに、そこで身に着けた知識や理論やメソッドを応用して、履修者の学生自身だけでなく、彼(女)等の周りの学生に対して「働きがい」を創り出せるような人材となることを、本プログラムの最終的な目的としている	都内各所	・企業合同説明会(有明等) ・株日本能率協会マネジメントセンター(日本橋) ・サントリー武蔵野ビール工場(府中)	11	7～9月：2日程度、11～12月：2日程度	フィールド・スタディーズ発展2A
9	鹿角市Uターン者の起業活動に関する研究プログラム	Uターン者の経営者にインタビュー調査を行い、地方で事業を起こすために必要な視点や考え方、知識を学ぶ。また、インタビューから事業課題を聞き出し、ワークショップなどを通して解決策を考えて、発表する。	秋田県鹿角市	鹿角市役所	12	9月：1週間程度	フィールド・スタディーズ発展2B
10	鹿角市中心市街地活性化	鹿角市の中高生と一緒に鹿角市の未来を考えよう。具体的には、ステークホルダーへのインタビュー調査を実施し、その結果をもとにワークショップを開催します。	秋田県鹿角市	鹿角市役所	7	8月：1週間程度	フィールド・スタディーズ発展2B
11	長野県信濃町の地域活性化企画Ⅰ	長野県信濃町における地域活性化を考える。日本の地域経済、産業、地方行政に触れて、地方活性化の企画を作成する。2週間程度(60時間)の学外学修を行う。	長野県上水内郡信濃町	信濃町役場	8	8月、9月、2月：各月1週間程度	フィールド・スタディーズ発展2D
12	長野県信濃町の地域活性化企画Ⅱ	長野県信濃町における地域活性化を考える。発展FS基礎で学んだことに基づき日本の地域経済、産業、地方行政について考察し提言をまとめる。提言は論文としてまとめ、提出する。2週間程度(60時間)の学外学修を行う。	長野県上水内郡信濃町	信濃町役場	3	8月、9月、2月：各月1週間程度	フィールド・スタディーズ発展3D
13	長野県信濃町の地域活性化企画Ⅲ	長野県信濃町における地域活性化を考える。発展FS応用で学んだことに基づき日本の地域経済、産業、地方行政について考察し提言をまとめる。提言は論文としてまとめ、提出する。2週間程度(60時間)の学外学修を行う。基礎、応用を学ぶ学生の指導の立場となり、他者の理解と向上に努める。3年間を通して人のつながりについて深く学ぶ。	長野県上水内郡信濃町	信濃町役場	2	9月：10日間程度	フィールド・スタディーズ発展4D
14	コピーライティング応用	広告・ブランディング分野で働くコピーライターの技術やノウハウを学び、情報のアウトプット力(取材やヒアリングにより情報を集め、整理し、伝えるように言語化、編集、発信する力)を高める。特に応用では実践的な活動を行う。	新潟県燕市	公益社団法人つばめいと	3	9月：10日間程度	フィールド・スタディーズ発展3C
15	コピーライティング基礎	広告・ブランディング分野で働くコピーライターの技術やノウハウを学び、情報のアウトプット力(取材やヒアリングにより情報を集め、整理し、伝えるように言語化、編集、発信する力)を高める。	新潟県燕市	公益社団法人つばめいと	14	2月：10日間程度	フィールド・スタディーズ発展2C
16	ヘリテージツーリズム：和歌山の古道を歩く	本プログラムは、和歌山大学が主催し、例年、スペイン・サンティアゴ大学も参加して行われるフィールド・スタディーズである。「和歌山の参詣道歩き」ことを通じて「環境と精神文化」を基盤とする持続可能な「スローツーリズム」について学ぶことを目的とする。世界遺産地「熊野古道中辺路」の全行程を歩き、自然の持つ精神文化に触れると同時に、観光開発の基礎要素～来訪者の動機、地域住民との関わり、リスク管理を含む、プランニング、マネジメント、マーケティングなどについて議論する。古道を舞台として観光の多様な側面について学ぶことを趣旨とし、「国内外の学習者に広く門戸を開く国際プログラム」である。	和歌山県熊野古道中辺路	—	1	1月：4日間	フィールド・スタディーズ発展2B
17	教育海外研修	アメリカ、ミズーリ州Lee's Summitにおいて教育インターンシップを行う。参加学生が現地の小学校、中学校、高等学校で授業補助、見学を行い国内外の教育実践の理解を深める。研修期間中はホームステイを行い、現地の文化を学ぶ。	アメリカ・ミズーリ州	Lee's Summit	18	2月：3週間程度	教育海外研修
合計					147		

令和4年度インターンシップ一覧（共通科目「インターンシップ」「企業協働プロジェクト」）

No	企業名	業種	所在地	受入可能人数	インターンシップ	企業協働
1	株式会社アスタ西東京	不動産業、物品賃貸業	東京都西東京市	2	●	
2	株式会社アトリエニキティキ	卸売業、小売業	東京都武蔵野市	2	●	
3	株式会社NB建設	建設業	神奈川県横浜市の	1	●	
4	MSP株式会社	製造業	東京都新宿区	2	●	
5	株式会社オータパブリケーションズ	その他	東京都中央区	1	●	
6	株式会社オカムラ	製造業	東京都千代田区	1	●	
7	株式会社川島織物セルコン	製造業	東京都江東区	1	●	
8	キョーエソリューションズ株式会社	情報通信業	東京都世田谷区	1	●	
9	株式会社紀伊國屋書店	卸売業、小売業	東京都目黒区	1	●	
10	銀座アスター食品株式会社	宿泊業、飲食サービス業	東京都中央区	1	●	
11	株式会社グランドニッコー東京	宿泊業、飲食サービス業	東京都港区	3	●	
12	国際ソフトウェア株式会社	情報通信業	東京都府中市	1	●	
13	株式会社サクラウイングジャパン	情報通信業	東京都千代田区	5	●	
14	株式会社システムクオース	情報通信業	東京都千代田区	2	●	
15	墨田区役所	公務	東京都墨田区	1	●	
16	株式会社ソフテックス	情報通信業	神奈川県横浜市の	2	●	
17	大成建設株式会社	建設業	東京都新宿区	1	●	
18	株式会社竹尾	卸売業、小売業	東京都千代田区	1	●	
19	株式会社タワージャパン	その他	東京都港区	3	●	
20	株式会社東和エンジニアリング	建設業	東京都千代田区	1	●	
21	株式会社ナリカ	教育、学習支援業	東京都千代田区	5	●	●
22	西東京市役所①	公務	東京都西東京市	1	●	
23	西東京市役所②	公務	東京都西東京市	1	●	
24	公益社団法人日本フラインソロビー協会	その他	東京都千代田区	2	●	
25	株式会社文伸	教育、学習支援業	東京都三鷹市	4	●	
26	株式会社マイナビ	複合サービス事業	東京都千代田	5	●	●
27	松井建設株式会社	建設業	東京都中央区	1	●	
28	株式会社武蔵境自動車教習所	教育、学習支援業	東京都武蔵野市	5	●	●
29	公益財団法人武蔵野文化生涯学習事業団	教育、学習支援業	東京都武蔵野市	1	●	
30	ヤマトドレス株式会社	卸売業、小売業	東京都千代田区	1	●	
31	株式会社RayArc	情報通信業	東京都新宿区西	1	●	
32	株式会社エムユーマーケティング（大学事業会社）	サービス業	東京都江東区	3	●	●
合計				63		

実習先一覧（学科科目「自然・環境プロジェクト」）

No.	実習施設名	所在地	受入可能人数 (人)
1	ブラウズフィールド、 パーマカルチャーと平和道場／暮らしの学校	千葉県いすみ市岬町桑田1501-1／ 千葉県いすみ市岬町井沢1026	20
2	一般社団法人小さな地球古民家したさん	千葉県鴨川市釜沼875	20
3	タイワノイエ	北海道苫小牧市錦岡491-61	20
4	小栗八平衡商店	長野県上高井郡小布施町大字小布施伊 勢町1148	20
5	ZATTAZISSE（沖縄拠点）	沖縄県中頭郡中城村南上原1007	20
合計			100

資料11

本文20ページ参照

実習先一覧（学科科目「地域・ビジネスプロジェクト」）

No.	実習施設名	所在地	受入可能人数 (人)
1	株式会社岩本食品 他	和歌山県日高郡みなべ町晩稲1187	30
2	社会福祉法人一静会しずか荘 他	千葉県浦安市当代島3-10-35 他	20
3	一般社団法人長良川カンパニー	岐阜県郡上市大和町牧834-5	20
4	株式会社あなたの幸せが私の幸せ	埼玉県熊谷市新堀817	30
合計			100

実習先一覧（学科科目「海外インターンシップ」）

No.	実習施設名	所在地	受入可能人数 (人)
1	Griffith University	オーストラリア（クイーンズランド州）	20
2	Color Your Life Pte Limited.	フィジー（ビディレブ島（ナンディ市））	10
3	Vardaga Villa Fornudden	スウェーデン（ティーレソー）	20
4	Positran	フランス（エポンヌ）	20
5	COSTA BLUE HAWAII, INC	アメリカ（ハワイ州（ホノルル市））	20
合計			90

○学校法人武蔵野大学定年規程

		(昭和50年 4月 1日)			
改正	平成 元年	4月 1日	平成 2年	3月 1日	
	平成 8年	9月 13日	平成 9年	7月 1日	
	平成 12年	5月 29日	平成 14年	3月 15日	
	平成 15年	5月 28日	平成 17年	5月 27日	
	平成 19年	11月 19日	平成 21年	3月 25日	
	平成 23年	5月 24日	平成 25年	4月 1日	
	平成 26年	4月 1日	平成 26年	11月 27日	
	平成 27年	3月 26日	平成 29年	4月 1日	
	平成 30年	4月 1日	平成 30年	5月 25日	
	平成 31年	4月 1日	令和 2年	4月 1日	
	令和 2年	6月 1日	令和 3年	4月 1日	
	令和 4年	5月 26日	令和 4年	12月 8日	
	令和 5年	4月 1日			

第1条 専任教職員の定年を次のとおり定める。

- (1) 大学
教員 満65歳
- (2) 武蔵野大学中学校・高等学校
教員 満65歳
- (3) 幼稚園
教員 満60歳
ただし、管理職については、満65歳とする。
- (4) こども園
職員 満60歳
ただし、管理職については、満65歳とする。
- (5) 事務
職員 満65歳
- (6) 保育園
職員 満60歳
ただし、管理職については、満65歳とする。

2 前項第1号の規定にかかわらず、大学院担当教員、大学の教員管理職及び附属施設の長にあっては、特に必要ある者について、常務理事会の了承を得て、1年毎に最長満70歳まで定年を延長することができる。

3 幼稚園の教員で定年に達した者が継続して雇用を希望した場合は、幼稚園非常勤講師として雇用することができる。

4 こども園の職員で定年に達した者が継続して雇用を希望した場合は、非常勤嘱託職員として雇用することができる。

5 保育園の職員で定年に達した者が継続して雇用を希望した場合は、非常勤嘱託職員として雇用することができる。

6 学長及び事務局長について、任期中は第1項の規定を適用しないことができる。

7 千代田国際中学校・武蔵野大学附属千代田高等学院の教員については、別に定める。

第2条 定年により退職する時期は、定年に達した日の属する学年度の末日とする。

第3条 この規程の改廃は、理事会が行う。

附 則

- 1 この規程は、昭和50年4月1日から施行する。
- 2 平成8年度設置認可申請にかかる新学部設置のため、理事会が特に必要と認めた教職員については、新学部の完成年度末までの間第1条の規定を適用しないことができる。
- 3 平成12年度設置認可申請にかかる大学院人間社会・文化研究科の新専攻設置のため、理事会が特に必要と認めた教員については、新専攻の完成年度末までの間第1条の規定

を適用しないことができる。

- 4 平成15年度設置認可申請にかかる薬学部設置のため、理事会が特に必要と認めた教員については、薬学部の完成年度末までの間、第1条の規定を適用しないことができる。
- 5 平成17年度設置認可申請にかかる看護学部設置のため、理事会が特に必要と認めた教員については、看護学部の完成年度末までの間、第1条の規定を適用しないことができる。
- 6 平成21年度設置認可申請にかかる大学院看護学研究科設置のため、理事会が特に必要と認めた教員については、大学院看護学研究科の完成年度末までの間、第1条の規定を適用しないことができる。
- 7 平成23年度課程変更認可申請にかかる大学院看護学研究科看護学専攻（博士後期課程）設置のため、理事会が特に必要と認めた教員については、大学院看護学研究科看護学専攻（博士後期課程）の完成年度末までの間、第1条の規定を適用しないことができる。
- 8 平成25年度設置届出にかかる法学部及び経済学部設置のため、理事会が特に必要と認めた教員については、法学部及び経済学部の完成年度末までの間、第1条の規定を適用しないことができる。
- 9 平成26年度設置届出にかかる工学部設置のため、理事会が特に必要と認めた教員については、工学部の完成年度末までの間、第1条の規定を適用しないことができる。
- 10 平成27年度設置届出にかかるグローバル学部設置のため、理事会が特に必要と認めた教員については、グローバル学部の完成年度末までの間、第1条の規定を適用しないことができる。
- 11 平成30年度設置届出にかかる教育学部こども発達学科設置のため、理事会が特に必要と認めた教員については、教育学部こども発達学科の完成年度末までの間、第1条の規定を適用しないことができる。
- 12 平成31年度設置届出にかかるデータサイエンス学部データサイエンス学科設置のため、理事会が特に必要と認めた教員については、データサイエンス学部データサイエンス学科の完成年度末までの間、第1条の規定を適用しないことができる。
- 13 平成31年度設置届出にかかる経営学部設置のため、理事会が特に必要と認めた教員については、経営学部の完成年度末までの間、第1条の規定を適用しないことができる。
- 14 令和3年度設置届出にかかる法学研究科ビジネス法務専攻（博士後期課程）設置のため、理事会が特に必要と認めた教員については、法学研究科ビジネス法務専攻（博士後期課程）の完成年度末までの間、第1条の規定を適用しないことができる。
- 15 令和5年度開設の工学部サステナビリティ学科設置のため、理事会が特に必要と認めた教員については、工学部サステナビリティ学科の完成年度末までの間、第1条の規定を適用しないことができる。
- 16 令和4年度開設のデータサイエンス研究科データサイエンス専攻（博士後期課程）設置のため、理事会が特に必要と認めた教員については、データサイエンス研究科データサイエンス専攻（博士後期課程）の完成年度末までの間、第1条の規定を適用しないことができる。
- 17 令和6年度開設のウェルビーイング学部ウェルビーイング学科設置のため、理事会が特に必要と認めた教員については、ウェルビーイング学部ウェルビーイング学科の完成年度末までの間、第1条の規定を適用しないことができる。
- 18 附則第2項から前項に規定する教職員の任期、給与等の勤務条件については、理事会が別に定める。

附 則 （第1条、第2条、第3条、附則改正、附帯議決削除）

この規程は、平成元年4月1日から施行する。

附 則 （第1条、附則改正）

- 1 この規程は、平成2年3月1日から施行する。
- 2 第1条において大学・短期大学部教授等（定年年齢満70歳の者）が幼稚園の園長又は副園長を兼務する場合の定年年齢は、同条の定めにかかわらず満70歳とする。

- 3 この規程施行の日に、第1条（2）に定める定年を超えている校長、副校長、主事、教頭がいる場合、それらの者の定年年齢は、同条の定めにかかわらずなお従前の例による。

附 則

- 1 この規程は、平成8年9月13日から施行する。
2 この規程による改正後の定年規程附則第2項は、新学部設置に伴う新規採用の人事に限り適用するものとする。

附 則（附則改正）

この規程は、平成9年7月1日から施行する。

附 則（附則改正）

- 1 この規程は、平成12年5月29日から施行する。
2 学校法人武蔵野女子学院定年規程（就業規則第23条）改正規程（平成8年9月13日施行）の一部を次のように改正する。附則第2項中「及び第3項」及び「し、新学部の完成年度をもって削除」を削る。
3 定年規程附則第2項適用者の勤務条件に関する内規の一部を次のように改正する。第1条中「附則第3項」を「附則第4項」に改める。

附 則（第1条改正）

- 1 この規程は、平成14年4月1日から施行する。
2 この規程施行の日の前日に在職し、改正前の第1条第1号の規定の適用を受けていた者については、改正後の第1条第1項第1号の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（附則改正）

この規程は、平成15年5月28日から施行する。

附 則（附則改正）

この規程は、平成17年5月27日から施行する

附 則（第1条改正）

- 1 この規程は、平成19年11月19日から施行する。
2 この規程施行の日の前日に在職し、改正前の第1条第2項の規定の適用を受けていた者については、改正後の第1条第2項の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（附則改正）

この規程は、平成21年3月25日から施行する。

附 則（附則改正）

この規程は、平成23年5月24日から施行する。

附 則

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

附 則（附則改正）

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

附 則（附則改正）

この規程は、平成26年11月27日から施行する。

附 則（附則改正）

この規程は、平成27年3月26日から施行する。

附 則（第1条改正）

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附 則（第1条、附則改正）

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

附 則（附則改正）

この規程は、平成30年5月25日から施行する。

附 則（第1条改正）

この規程は、平成31年4月1日から施行する。

附 則（附則改正）

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

附 則（専務理事及び学院長並びに学内理事者会の廃止に伴う規程改正規程制定による改正）

この規程は、令和２年６月１日から施行する。

附 則（第１条改正）

この規程は、令和３年４月１日から施行する。

附 則（附則改正）

この規程は、令和４年５月２６日から施行する。

附 則（第１条、附則改正）

この規程は、令和４年１２月８日から施行する。

附 則（附則改正）

この規程は、令和５年４月１日から施行する。

ウェルビーイング学部ウェルビーイング学科 時間割(案)

1学期

【区分】共通:共通科目 学科:学科科目 【必・選】必:必修科目 選:選択科目

曜日	月				火				水				木				金				不定期(集中・変則)開講				
	区分	必・選	科目名	学年	クラス数	区分	必・選	科目名	学年	クラス数	区分	必・選	科目名	学年	クラス数	区分	必・選	科目名	学年	クラス数	区分	必・選	科目名	学年	クラス数
1	学科	選	WBデザイン入門B(バーマカルチャー)	1	1	学科	必	入門ゼミA	1	8 (※1)	共通	必	データサイエンス基礎	1	3	共通	選	英語基礎B	1	6	学科	必	自然・環境入門A	1	(※3)
	学科	必	自己理解基礎A(ボランティア)	2	1	学科	必	基礎ゼミA	2		学科	必	応用ゼミA	3	16	学科	必	地域医療・福祉基礎A(医療・看護)	2	1	共通	選	企業協働プロジェクト	2	1
	共通	選	SDGs基礎	1	8	学科	必	応用ゼミA	1	8 (※1)	学科	必	企業プロジェクト	4	(※2)	学科	必	NBデザイン発展(デザイン工学)	1	12	学科	必	建学の精神基礎B(選1)	2	1
	共通	選	英語発展A	2	6	学科	必	基礎ゼミA	2		学科	必	応用ゼミA	3	16 (※2)	学科	必	自然・環境入門A	4	1	学科	必	建学の精神応用B(Auditors' Voices)	3	1
2	学科	必	WBデザイン基礎A(感性工学)	2	1	共通	選	スポーツと身体科学	2	1	学科	必	卒業プロジェクト	4		学科	必	WBデザイン発展A(実務者に繋ぐ1)	4	1					
	学科	必	建学の精神応用A(生涯講座)	3	1	共通	選	WBデザイン方法論A(インバッション論)	3	1	学科	必	未来デザイン	2	1	共通	選	英語発展B	2	6	学科	必	NBデザイン応用A(倫理学)	3	1
	学科	必	建学の精神入門A(人間観)	1	1	学科	必	WBデザイン基礎B(対人コミュニケーション)	2	1	学科	必	データサイエンス基礎	2	1	学科	必	自己理解入門A(自己との対話)	1	1	共通	選	外国語(中国語基礎1、フランス語基礎1、韓国語基礎1)	1	4
	学科	必	WBデザイン応用A(社会心理)	3	1	学科	選	WBデザイン応用B(アート(書))	3	1	共通	選	英語総合A	3	1	学科	選	国際コミュニケーション	2	1					
3	共通	選	留学準備1	1	1	学科	必	WBデザイン入門A(全体像と歴史)	1	1						共通	選	日本語発展A	2	1	共通	選	地域医療福祉応用A(社会心理)	3	1
	共通	選	英語資格・検定試験対策1	1	1											共通	選	情報法発展A	2	1					
	共通	選	英語資格・検定試験対策2	1	1	共通	選	英語発展B	1	1						共通	選	外国語(中国語発展1、フランス語発展1、ドイツ語発展1、スペイン語発展1、韓国語発展1)	2	1					
	共通	選	日本語基礎A	1	2												共通	選	外国語(中国語総合1、フランス語総合1、ドイツ語総合1、スペイン語総合1、韓国語総合1)	3	1				
4	共通	選	留学準備2													共通	選	人工知能実践プロジェクト	3	2					
	共通	選	英語資格・検定試験対策1													共通	選	SDGs特講	3	1					
	共通	選	英語資格・検定試験対策2																						
	共通	選	日本語基礎A																						

(※1)8クラスのうち4クラスはA、基礎ゼミAの開講 (※2)16クラスのうち10クラスは応用ゼミA、卒業プロジェクトの開講 (※3)学外での演習

2学期

曜日	月				火				水				木				金				不定期(集中・変則)開講				
	区分	必・選	科目名	学年	クラス数	区分	必・選	科目名	学年	クラス数	区分	必・選	科目名	学年	クラス数	区分	必・選	科目名	学年	クラス数	区分	必・選	科目名	学年	クラス数
1	学科	選	WB(ワテラ)・入門C(ワーク本番)	1	1	学科	必	入門ゼミA	1	4	共通	選	英語基礎B	1	6	学科	必	自然・環境入門A	1	1(※)	共通	必	ワールド・スタディーズ	1	-
	共通	選	SDGs発展1	1	7	学科	必	入門ゼミA	1	4	共通	選	卒業プロジェクト	1	3	共通	選	自然・環境入門A	1	1	共通	選	インターンシップ	2	3
2	共通	選	英語発展A	2	6																			-	
	共通	選	英語発展A	2	6	共通	選	スポーツと身体科学	1	1	共通	必	卒業プロジェクト	1	16	共通	選	自然・環境入門A	1	1	共通	選	インターンシップ	2	-
3						共通	選	スポーツと身体科学	1	1	共通	必	日本語のプレゼン	1	12	学科	必	WBデザイン入門B(健康)	1	1	共通	選	企業情報プロジェクト	2	5
	学科	必	進学の精神入門B(文理職)	1	1						学科	必	自己理解入門B(自己肯定感)	1	1	共通	選	外国語(中国語基礎)、フランツ語基礎、ドイツ語基礎、スペイン語基礎、韓国語基礎)	1	4	学科	必	自然・環境プロジェクト	2	5
4																								3	4
	共通	選	留学準備1	1	1	共通	選	情報法発展B	2	1	共通	必	ワールド・スタディーズ	1	-	共通	選	全学教養ゼミナール1	1	2					
5	共通	選	英語資格・検定試験対策1	1	1	共通	選	情報法発展C	2	1	共通	選	日本語発展B	2	1	共通	選	情報法発展A	2	1					
	共通	選	英語資格・検定試験対策2	1	1											共通	選	外国語(中国語基礎)、フランツ語基礎、ドイツ語基礎、スペイン語基礎、韓国語基礎)	2	1					
6	共通	選	日本語基礎B	1	2											共通	選	外国語(中国語総合)、フランツ語総合、ドイツ語総合、スペイン語総合、韓国語総合)	3	1					
																共通	選	人工知能発展プロジェクト	3	2					
7	共通	選	留学準備2	1	1	共通	選	プログラミング発展A	2	2	共通	選	プログラミング発展B	2	2	共通	選	プログラミング発展B	2	2					
	共通	選	英語資格・検定試験対策1	1	1											共通	選	SDGs特講	3	1					
8	共通	選	英語資格・検定試験対策2	1	1																				
	共通	選	日本語基礎B	1	2																				

(※1)学外での演習

ウエルビーイング学部ウエルビーイング学科 時間割(案)

3学期

【区分】共通: 共通科目
【必・選】必: 必修科目
選: 選択科目

科目	月			火			水			木			金			不定期(集中・要所)開講								
	区分・必・選	科目名	学年	クラス数	区分・必・選	科目名	学年	クラス数	区分・必・選	科目名	学年	クラス数	区分・必・選	科目名	学年	クラス数	区分・必・選	科目名	学年	クラス数				
1	学科 選	WB/デザイン入門D(ワーク(身体表現))	1	1	共通 選	日本事情	1	1	学科 必	応用ゼミB	3	16 (※6)	共通 選	英語基礎D	1	6	学科 必	自然・環境入門B	1	(※7)	共通 選	フィールド・スポーツ	2	3
	学科 必	自己理解基礎B(対話)	2	1	学科 必	入門ゼミB	1	8 (※5)	学科 必	卒業論文	4		学科 必	地域医療・福祉基礎B(地域・福祉)	2	1	学科 必	自然・環境基礎B	2	(※7)	共通 選	インターンシップ	2	-
2	共通 必	SDGs発展2	1	7	学科 必	基礎ゼミB	2	2	学科 必	応用ゼミB	3	16 (※6)	共通 必	英語基礎C	1	12	学科 必	WB/デザイン発展C(プレゼンテーション)	4	1	共通 選	企業協働プロジェクト	2	-
	共通 選	英語発展C	2	6	学科 必	基礎ゼミB	2	(※5)	学科 必	卒業論文	4		学科 必	自然・環境入門B	1	(※7)	学科 必	自然・環境基礎B	2	(※7)				
3	学科 必	WB/デザイン基礎C(ロジカル思考)	2	1	学科 必	未来デザイン(方法論B(手法1))	3	1	学科 必	自己理解入門C(他者との対話)	1	1	共通 選	英語発展D	2	6	学科 必	WB/デザイン応用C(対話の場づくり)	3	1				
									学科 選	WB/デザイン発展D(公衆)	4	1												
4	学科 必	健康の精神入門C(Dharma Dialogue)	1	1	共通 選	プログラミング基礎	1	2	共通 選	メディアデザイン	1	1	共通 選	延命ビジネス論	2	1	共通 選	外国語(中国語基礎2、フランス語基礎2、ドイツ語基礎2、スペイン語基礎2、韓国語基礎2)	1	4				
	学科 必	未来デザインプロジェクト	3	4	学科 必	未来デザインプロジェクト	3	4	学科 必	WB/デザイン・応用B(社会調査法)	3	1	学科 必	WB/デザイン・基礎D(社会)	2	1	学科 選	WB/デザイン基礎G(成人発達理論)	2	1				
5	共通 選	日本語基礎C	1	2	学科 必	WB/デザイン入門C(心理)	1	1	共通 選	武蔵野市自由講座	1	1	共通 選	フィールド・スタディーズ	1	-	共通 選	全学教養ゼミナール2	1	1				
	共通 選	英語資格・検定試験対策2	1	1	共通 選	情報法基礎B	2	1	学科 選	WB/デザイン・応用B(人脈の歴史)	3	1	共通 選	日本語発展2	2	1	共通 選	外国語(中国語発展2、フランス語発展2、ドイツ語発展2、スペイン語発展2、韓国語発展2)	2	1				
6	学科 必	未来デザインプロジェクト	3	4	共通 選	情報法発展C	2	1	学科 必	WB/デザイン・応用B(哲学・倫理学)	3	1	共通 選	日本語発展C	3	1	共通 選	外国語(中国語発展2、フランス語発展2、ドイツ語発展2、スペイン語発展2、韓国語発展2)	3	1				
	共通 選	日本語基礎C	1	2	共通 選	人工知能技術と社会	2	1	共通 選	フィールド・スタディーズ	1	-	共通 選	プログラミング発展B	2	2	共通 選	外国語(中国語発展2、フランス語発展2、ドイツ語発展2、スペイン語発展2、韓国語発展2)	2	2				

※5)8クラスのうち4クラスは入門ゼミB、基礎ゼミBの合同開講 ※6)16クラスのうち10クラスは応用ゼミB、卒業論文の合同開講 ※7)学外での演習

4学期

項目	月			火			水			木			金			不定期(集中・変動)開講					
	区分	必・選	科目名	学年	クラス数	区分	必・選	科目名	学年	クラス数	区分	必・選	科目名	学年	クラス数	区分	必・選	科目名	学年	クラス数	
1	学科	必	自己理解基礎C(セルフ・コンパッション)	2	1	共通	選	日本事情入門ゼミB	1	1	学科	必	自己理解入門D(自己受容・他者信頼)	1	1	共通	選	英語基礎D	1	(89)	
												学科	必	応用ゼミB	3	16	学科	必	地域医療・福祉基礎C(高齢者福祉)	2	1
												学科	必	卒業論文基礎ゼミB	2	(88)					
	共通	必	SDGs発展3	1	7	学科	必	入門ゼミB	1	6	学科	必	応用ゼミB	3	16	共通	必	英語基礎C	1	12	
2	共通	選	英語発展C	2	6	学科	必	基礎ゼミB	2	3	学科	必	卒業論文	4	(89)						
3	学科	必	NBデザイン基礎E(文庫)	2	1																
	学科	必	NBデザイン基礎F(ト)	2	1	学科	必	NBデザイン入門A(グラフィック心理学習基礎)	1	1	学科	必	NBデザイン基礎C(福祉)	2	1	共通	選	英語発展D	2	6	
3	学科	選	NBデザイン応用G(エコシステム)	3	1	学科	必	未来デザイン力法論C(非22)	3	1											
4	学科	必	建築の精神入門I(幸福論)	1	1	共通	選	プログラミング基礎	1	2	共通	選	情報技法基礎	1	1	学科	必	NBデザイン入門J(教育)	2	1	
	学科	必	未来デザインプロジェクト	3	4	学科	必	未来デザインプロジェクト	3	4	学科	必	建築の精神基礎C(健康・共生)	2	1	共通	選	運動ビジネス論	2	1	
																共通	選	英語総合B	3	1	
																学科	選	NBデザイン基礎H(ビジネス・コミュニケーション)	2	1	
																学科	必	NBデザイン応用I(医療)	3	1	
共通	選	日本語基礎D		1	2	共通	選	サービスデザイン	2	2	共通	選	武蔵野市自由講座	1	1	共通	選	日本語発展D	2	1	
学科	必	未来デザインプロジェクト		3	4	学科	必	未来デザインプロジェクト	3	4						共通	選	外国語(中国語発展2、フランス語発展2、ドイツ語発展2、スペイン語発展2、韓国語発展2)	2	1	
5																共通	選	機械学習活用1	2	1	
																共通	選	機械学習活用2	2	1	
																共通	選	外国語(中国語発展2、フランス語発展2、ドイツ語発展2、スペイン語発展2、韓国語発展2)	3	1	
	共通	選	日本語基礎D		1	2	共通	選	人工知能技術と社会	2	1	共通	選	日本語発展D	2	1	共通	選	データサイエンス活用1	2	1
6																共通	選	データサイエンス活用2	2	1	

※8)8クラスのうち4クラスは入門ゼミB、基礎ゼミBの合同開講 (※9)16クラスのうち10クラスは応用ゼミB、卒業論文の合同開講 (※10)学外での演習

武蔵野キャンパス教室稼働率（令和5年度見込み）

（単位：室）

	1 学期						2 学期					
	月	火	水	木	金	平均	月	火	水	木	金	平均
1 限	20.4%	44.4%	42.6%	48.1%	11.1%	33.3%	9.3%	44.4%	37.0%	48.1%	13.0%	30.4%
2 限	57.4%	61.1%	31.5%	90.7%	24.1%	53.0%	42.6%	63.0%	22.2%	90.7%	27.8%	49.3%
3 限	77.8%	53.7%	44.4%	74.1%	48.1%	59.6%	64.8%	51.9%	42.6%	72.2%	48.1%	55.9%
4 限	57.4%	68.5%	33.3%	50.0%	42.6%	50.4%	57.4%	68.5%	29.6%	50.0%	40.7%	49.2%
5 限	29.6%	46.3%	13.0%	13.0%	29.6%	26.3%	25.9%	44.4%	13.0%	9.3%	29.6%	24.4%
6 限	27.8%	11.1%	7.4%	1.9%	1.9%	10.0%	24.1%	11.1%	7.4%	3.7%	3.7%	10.0%
平均	45.1%	47.5%	28.7%	46.3%	26.2%	44.5%	37.4%	47.2%	25.3%	45.7%	27.2%	41.8%

	3 学期						4 学期					
	月	火	水	木	金	平均	月	火	水	木	金	平均
1 限	1.9%	40.7%	38.9%	48.1%	11.1%	28.1%	0.0%	50.0%	37.0%	46.3%	11.1%	28.9%
2 限	31.5%	63.0%	29.6%	88.9%	31.5%	48.9%	29.6%	74.1%	27.8%	88.9%	33.3%	50.7%
3 限	59.3%	68.5%	55.6%	70.4%	61.1%	63.0%	57.4%	77.8%	59.3%	70.4%	59.3%	64.8%
4 限	46.3%	59.3%	33.3%	37.0%	50.0%	45.2%	44.4%	68.5%	25.9%	40.7%	48.1%	45.5%
5 限	16.7%	59.3%	14.8%	9.3%	20.4%	24.1%	18.5%	55.6%	18.5%	13.0%	22.2%	25.6%
6 限	18.5%	18.5%	11.1%	3.7%	3.7%	11.1%	18.5%	16.7%	13.0%	3.7%	5.6%	11.5%
平均	29.0%	51.6%	30.6%	42.9%	29.6%	41.9%	28.1%	57.1%	30.3%	43.8%	29.9%	43.1%

	年間平均					
	月	火	水	木	金	平均
1 限	7.9%	44.9%	38.9%	47.7%	11.6%	30.2%
2 限	40.3%	65.3%	27.8%	89.8%	29.2%	50.5%
3 限	64.8%	63.0%	50.5%	71.8%	54.2%	60.8%
4 限	51.4%	66.2%	30.5%	44.4%	45.4%	47.6%
5 限	22.7%	51.4%	14.8%	11.2%	25.5%	25.1%
6 限	22.2%	14.4%	9.7%	3.3%	3.7%	10.7%
平均	34.9%	50.9%	28.7%	44.7%	28.2%	42.8%

ウェルビーイング学部設置に係る学術雑誌整備一覧

No.	タイトル	電子 ジャーナル	外国書
1	環：歴史・環境・文明：学術総合誌・季刊		
2	別冊環		
3	現代思想		
4	理想		
5	思想		
6	思潮（復刻版）		
7	思想の科学 第8次		
8	思想の科学 第7次		
9	フィルカル		
10	日本仏教教育学研究		
11	日本仏教社会福祉学会年報		
12	日本仏教社会福祉学会年報（復刻版）		
13	へちまの花（復刻版）		
14	月刊新社会（復刻版）		
15	新社会評論：The shin-shakai hyoron：The socialist review（復刻版）		
16	社会主義：社会問題批判雑誌（復刻版）		
17	厚生（継続後誌：厚生労働）		
18	厚生労働（継続前誌：厚生）		
19	社会学評論（複製版）		
20	社会学評論		
21	都市問題研究		
22	都市問題		
23	Aging		
24	地域福祉情報		
25	月刊福祉		
26	福祉広報		
27	ホームレスと社会		
28	生きがい研究		
29	慈善（復刻版）		
30	国民生活研究		
31	救済研究（復刻版）		
32	介護福祉学		
33	関係学研究		
34	日本社会福祉実践理論学会研究紀要（継続後誌：社会福祉実践理論研究）		
35	社会福祉実践理論研究（継続後誌：ソーシャルワーク学会誌）		
36	ソーシャルワーク学会誌		
37	老年社会科学		
38	労働の科学		
39	生活と福祉		

No.	タイトル	電子 ジャーナル	外国書
40	社会心理学研究		
41	消費者レポート＝草の根運動（復刻版）		
42	社会福祉学		
43	社会福祉研究		
44	ソーシャルワーク研究		
45	サラリーマン（復刻版）		
46	産業福利（復刻版）		
47	週刊社会保障		
48	社会事業史研究		
49	科学哲学		
50	保健の科学		
51	厚生指標		
52	健康管理		
53	公衆衛生		
54	土木建築工事画報（復刻版）		
55	環境と公害		
56	環境科学会誌		
57	環境教育		
58	環境社会学研究		
59	環境情報科学		
60	環境情報科学論文集		
61	水		
62	人間と環境		
63	日本LCA学会誌		
64	都市計画		
65	地域活性研究		
66	日本地域政策研究		
67	日本都市学会年報		
68	事業構想 = Project design		
69	国際公共経済研究		
70	Learning design = ラーニングデザイン		
71	ナレッジ・マネジメント研究		
72	地域社会学会年報		
73	日本都市社会学会年報		
74	日本労働研究雑誌		
75	労働科学		
76	産業・組織心理学研究		
77	精神保健福祉		
78	環境ビジネス		
79	MERA journal		
80	ソトコト		
81	BI0-City（バイオシティ）		
82	ランドスケープデザイン		
83	観光とまちづくり : tourism		

No.	タイトル	電子 ジャーナル	外国書
84	Journal of the history of ideas		○
85	Revue des sciences humaines. N.S.		○
86	Humanities index / Cumulated volumes		○
87	Philosophy and public affairs		○
88	Ergonomics : an international journal devoted to the scientific study of human factors in relation to working environments and equipment design : the official publication of the Ergonomics Society International Ergonomic		○
89	Journal of experimental social psychology		○
90	Journal of personality and social psychology		○
91	Journal of environmental psychology		○
92	Ethics : an international journal of social, political, and legal philosophy		○
93	British journal of social work		○
94	Community care		○
95	Social work : a journal of the National Association of Social Workers		○
96	Social work in health care		○
97	The Social service review : a quarterly devoted to the scientific and professional interests of social work		○
98	Environment		○
99	Umwelt und Planungsrecht : Zeitschrift für Wissenschaft und Praxis		○
100	Canadian Journal of Philosophy	○	○
101	Journal of the American Philosophical Association	○	○
102	Philosophy (OJ)	○	○
103	Royal Institute of philosophy supplement(supplement to "Philosophy") (OJ)	○	○
104	Social Philosophy and Policy	○	○
105	Think	○	○
106	Utilitas	○	○
107	Episteme	○	○
108	Ethics and International Affairs	○	○
109	Journal of Public Policy	○	○
110	Journal of Social Policy	○	○
111	Politics and Life Sciences	○	○
112	Environment and Development Economics	○	○
113	Ageing & Society	○	○
114	Business and Human Rights Journal	○	○
115	Canadian Journal on Aging	○	○
116	Economic and Labour Relations Review	○	○
117	Industrial and Organizational Psychology	○	○
118	Journal of International and Comparative Social Policy	○	○
119	Archives of environmental contamination and toxicology (OJ)	○	○
120	Cambridge Quarterly of Healthcare Ethics	○	○
121	Environmental science & technology (OJ)	○	○
122	Environmental Science & Technology Letters	○	○
123	Transnational Environmental Law	○	○
124	ACS Agricultural Science & Technology	○	○
125	Journal of agricultural and food chemistry (OJ)	○	○
計		26	42

公開情報及び掲載先一覧

ア	大学の教育研究上の目的及び3つのポリシーに関すること	【教育研究上の目的】	https://www.musashino-u.ac.jp/academics/basic/purpose.html
		【3つのポリシー】通学課程	https://www.musashino-u.ac.jp/academics/basic/policies/policies.html
		通信教育部	http://www.mu-tsushin.jp/university/outline/policy
イ	教育研究上の基本組織に関すること		https://www.musashino-u.ac.jp/guide/information/figure.html
ウ	教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること		https://www.musashino-u.ac.jp/guide/information/professor_profile.html
エ	入学者に関する受入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること		
	アドミッション・ポリシー	【学部】	https://www.musashino-u.ac.jp/admission/faculty/policies.html
		【研究科】	https://www.musashino-u.ac.jp/admission/graduate_school/policies.html
	学生数（入学者数/在学者数/卒業・修了者数）		https://www.musashino-u.ac.jp/guide/information/students.html
オ	就職状況		https://www.musashino-u.ac.jp/student-life/career/
	授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること		
	カリキュラム・ポリシー		https://www.musashino-u.ac.jp/academics/basic/policies/curriculumpolicy.html
カ	シラバス		https://muscat.musashino-u.ac.jp/portal/slbssrch.do
	履修案内（履修要覧）		https://risvuyouran.musashino-u.ac.jp/
	学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること		
キ	ディプロマ・ポリシー		https://www.musashino-u.ac.jp/academics/basic/policies/policies.html
	履修案内（履修要覧）		https://risvuyouran.musashino-u.ac.jp/
	取得可能学位		https://www.musashino-u.ac.jp/guide/information/degree.html
ク	校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること		
	教育研究等環境の整備方針		https://www.musashino-u.ac.jp/guide/information/adjustment_policy.html
	キャンパス		https://www.musashino-u.ac.jp/guide/campus/
	図書館		https://www.musashino-u.ac.jp/library/
	附置研究施設		https://www.musashino-u.ac.jp/research/laboratory/
	センター・附属施設等		https://www.musashino-u.ac.jp/guide/facility/
ケ	校舎等の耐震化率		https://www.musashino-u.ac.jp/guide/information/taishin.html
	授業料、入学科その他の大学が徴収する費用に関すること		
	学費等納入金		https://www.musashino-u.ac.jp/student-life/fees/fees/
コ	学生寮費		https://www.musashino-u.ac.jp/student-life/life/dormitory/
	大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること		
	学生支援に関する方針		https://www.musashino-u.ac.jp/guide/information/support_policy.html
コ	奨学金		https://www.musashino-u.ac.jp/student-life/fees/scholarship/
	修学支援		https://www.musashino-u.ac.jp/student-life/learning/course.html
	留学支援		https://www.musashino-u.ac.jp/international/study-abroad/
	留学生支援		https://www.musashino-u.ac.jp/international/international-students/
	資格取得支援		https://www.musashino-u.ac.jp/student-life/career/qualification.html
	就職・キャリア支援		https://www.musashino-u.ac.jp/student-life/career/
	学生生活・クラブ・課外活動		https://www.musashino-u.ac.jp/student-life/campus_life/
	学生寮		https://www.musashino-u.ac.jp/student-life/life/dormitory/kasai.html
	心身健康支援		https://www.musashino-u.ac.jp/guide/facility/healthcare.html
	大学保健室		https://www.musashino-u.ac.jp/student-life/life/infirmarv/
	学生相談室		https://www.musashino-u.ac.jp/student-life/life/counseling_room.html
	障がいをもつ学生への支援		https://www.musashino-u.ac.jp/student-life/campus_life/fag/
	通信教育部サポート体制		http://www.mu-tsushin.jp/university/system
	その他		
	学則等各種規程		https://www.musashino-u.ac.jp/guide/information/
	設置計画履行状況等報告書		https://www.musashino-u.ac.jp/guide/information/situation.html
	自己点検・評価報告書		https://www.musashino-u.ac.jp/guide/information/inspection.html
	認証評価の結果		https://www.musashino-u.ac.jp/guide/information/accruited.html
	大学院の学位論文に係る評価基準		https://risvuyouran.musashino-u.ac.jp/

※各研究科の履修要覧「研究指導計画、学位論文審査基準」にて公開している

社会的・職業的自立に関する授業科目一覧

科目区分			授業科目の名称	目的
共通科目	フィールド・スタディーズ		フィールド・スタディーズ	キャリアを考える
			フィールド・スタディーズ1	キャリアを考える
			フィールド・スタディーズ2	キャリアを考える
			フィールド・スタディーズ3	キャリアを考える
			フィールド・スタディーズ4	キャリアを考える
			フィールド・スタディーズ発展1 A	キャリアを考える
			フィールド・スタディーズ発展1 B	キャリアを考える
			フィールド・スタディーズ発展1 C	キャリアを考える
			フィールド・スタディーズ発展1 D	キャリアを考える
			フィールド・スタディーズ発展2 A	キャリアを考える
			フィールド・スタディーズ発展2 B	キャリアを考える
			フィールド・スタディーズ発展2 C	キャリアを考える
			フィールド・スタディーズ発展2 D	キャリアを考える
			フィールド・スタディーズ発展2 E	キャリアを考える
			フィールド・スタディーズ発展3 A	キャリアを考える
			フィールド・スタディーズ発展3 B	キャリアを考える
			フィールド・スタディーズ発展3 C	キャリアを考える
			フィールド・スタディーズ発展3 D	キャリアを考える
			フィールド・スタディーズ発展3 E	キャリアを考える
			フィールド・スタディーズ発展4 A	キャリアを考える
			フィールド・スタディーズ発展4 B	キャリアを考える
			フィールド・スタディーズ発展4 C	キャリアを考える
			フィールド・スタディーズ発展4 D	キャリアを考える
	インターンシップ		インターンシップ	就業体験
			企業協働プロジェクト	就業体験
学科科目	探究する科目群	自然・環境	自然・環境プロジェクト	就業体験
		ビジネス	地域・ビジネスプロジェクト	就業体験
		国際理解	海外インターンシップ	就業体験
	創造する科目群	応用ゼミ・卒業プロジェクト・卒業論文	未来デザインプロジェクト	キャリアを考える
			卒業プロジェクト	キャリアを考える

学生の確保の見通し等を記載した書類

目次

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況	p. 2
ア 設置又は定員を変更する学科等を設置する大学等の現状把握・分析	p. 2
イ 地域・社会的動向等の現状把握・分析	p. 4
ウ 新設学科等の趣旨目的、教育内容、定員設定等	p. 5
エ 学生確保の見通し	p. 7
A. 学生確保の見通しの調査結果	p. 7
B. 新設学部等の分野の動向	p. 8
C. 中長期的な 18 歳人口の全国的、地域的動向等	p. 8
D. 競合校の状況	p. 8
E. 既設学部等の学生確保の状況	p. 9
F. その他、申請者において検討・分析した事項	p. 10
オ 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果	p. 10
(2) 人材需要の動向等社会の要請	p. 11
① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）	p. 11
② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観 的な根拠	p. 11

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

ア 設置又は定員を変更する学科等を設置する大学等の現状把握・分析

武蔵野大学（以下「本学」という。）は、大正 13 年に東京都中央区の本願寺築地別院（現在の築地本願寺）境内に武蔵野女子学院として創設された。建学の精神である「仏教の根本精神の四弘誓願（しぐぜいがん／ほとけのねがい）を基礎とする人格教育」に基づき昭和 40 年度に文学部を設置して以来、時代とともに変遷する多様な社会ニーズに対応しながら、専門的知識・能力を有する人材を養成し、社会貢献を行ってきた。平成 16 年度には男女共同参画社会の実現に向けて、全学部を男女共学とした。平成 24 年 4 月 1 日には法人名を学校法人武蔵野大学に変更し、東京都江東区有明の臨海副都心に有明キャンパスを開設。その立地を活かして企業や官公庁との産官学連携や国内外の教育研究機関との交流等を推進している。

近年は、令和元年度にデータサイエンス学部データサイエンス学科、令和 3 年度にアントレプレナーシップ学部アントレプレナーシップ学科、そして令和 5 年度に工学部サステナビリティ学科を設置し、現在は通学制 12 学部 13 研究科、通信制 2 学部 3 研究科を擁する総合大学として、更なる教育研究の充実に向けた改革を進めている。

平成 28 年度には、仏教の根本精神である四弘誓願の第一の願い「生きとし生けるものが幸せになるために」を受けて、ブランドステートメント「世界の幸せをカタチにする。」を発表している。このブランドステートメントは、2050 年の未来に向けて本学に課された使命を果たしていく決意の表明であり、ブランドの具現化として同年「しあわせ研究所」を設置し、以後、国際シンポジウムの開催等を推進している。平成 31 年 3 月には「武蔵野大学 SDGs 宣言」を発表し、SDGs の 17 の目標のうち、各学部・研究科・研究所において、それぞれが担当する領域に根差した活動を街や現場に出て意識的かつ具体的に行うことで、「世界の幸せをカタチにする。」の実現を目指している。

また、2024 年の創立 100 周年を見据えながら 2050 年の未来を眺望した「武蔵野大学 2050VISION 5 つのチャレンジ」を掲げ、中長期計画[2020 年度～2030 年度]において具体的な施策とアクションプランに基づいた実践及び教育改革を推進している。

「武蔵野大学 2050VISION 5 つのチャレンジ」	
①チャレンジ 1	自己と世界を問う
自ら考え、課題を設定し、国内外の他者を巻き込み主体的に取り組むマインドの醸成	
②チャレンジ 2	未来の世界を創る Creative な実践者の輩出
教育の質向上と研究力強化による未来の世界を創る実践者、研究者の育成	
③チャレンジ 3	A I 世界を先導する M U S I C（※）（Smart Intelligence）

最先端の科学・技術・システムを駆使するスキルを修得するプログラムの提供と支援
④チャレンジ4 Global & Universal
世界の全ての他者と響創するための人格の育成
⑤チャレンジ5 MU-GEN (Musashino University GENerations) につながる Infinite Linking
在学生、教職員、卒業生、関係する他者との繋がり深化

※MUSIC (Musashino University Smart Intelligence Center) :

本学における情報・メディア教育推進組織のこと。全ての学生がAIの基礎知識を学び、いつでもどこでも自分にあった学びを可能とし、”AI-Ready-University”を実現するというビジョンのもと、先進的な情報教育を推進していくために平成31年1月に設立。

以上のような改革のもと、本学は幅広い分野の教育研究を推進する総合大学として充実が図られてきた。しかし、現代社会は米中対立、ロシアのウクライナへの軍事侵攻等による国際情勢の不安定化、感染症のパンデミック、大規模災害や環境破壊、人口減少と少子高齢化、富の一極集中とその歪み等、多くの予測困難な社会的変化や複雑な問題を抱えている。これまで確かに強固な価値とされてきた民主主義や資本主義、成長主義や個人主義等にはほころびが生じ、人々はどう生きていけばいいのか、どうすれば幸福になれるのか、どのように社会や世界と向き合うべきかという切実な悩みを抱えており、経済的な豊かさのみならず、精神的な豊かさや健康までを含めて幸福や生きがいをつめるウェルビーイングの考え方が重視されてきている。

文部科学省が設置する中央教育審議会の「次期教育振興基本計画について（答申）（中教審第241号）」においても、「我が国の教育をめぐる現状・課題・展望」として、「社会や時代の変化への対応」が教育の普遍的な使命であり、「新型コロナウイルス感染症の拡大」や「VUCAの時代（変動性、不確実性、複雑性、曖昧性）」等と並び、「精神的豊かさの重視（ウェルビーイング）」が「社会の現状や変化」に該当する事項の1つとして掲げられている【資料1】。

本学では、時代によって変遷する高等教育機関としての社会的使命や国際情勢の変化への対処等、本学を取り巻く将来環境の見通しを踏まえ、各教学主体の持続可能性を視座に、学部等の設置構想について審議する「設置検討委員会」を置き、時代のニーズにあった学部学科の改編計画の検討を行っている。また、設置検討委員会にて設置計画の妥当性を検討し、理事会にて設置準備が認められた際には、その開設準備のために学部等ごとに「設置準備委員会」を置き、学部等の設置に係る教員組織に関する事項、教育課程の編成に関する事項、教室その他の施設、器具、備

品及び図書等の整備又は配置に関する事項、学生・大学院生の入学に関する事項、認可申請又は設置届出に関する事項、及びその他設置に関する事項を審議している。

本設置検討委員会及び設置準備委員会での議論を踏まえ、現代の精神的豊かさを重視する時代背景において、「生きとし生けるものが幸せになるために」という仏の願いを受けた本学のブランドステートメント「世界の幸せをカタチにする。」を実現するため、ウェルビーイングという総合的概念についての社会学・心理学的知見や、新たに創造的なデザインを行うため問題発見・課題解決できる実践的な能力を身につけ、今後のあるべきウェルビーイング社会の創造に主体的に取り組んでいく人材を養成することを目的とするウェルビーイング学部ウェルビーイング学科を、令和6年度に武蔵野キャンパス（東京都西東京市）に設置する。

イ 地域・社会的動向等の現状把握・分析

前述のとおり、産業革命以来、経済的成長を第一に目指してきた人類が、紛争問題、パンデミックの問題、環境問題、貧困と格差の問題等に直面し、精神的豊かさ（ウェルビーイング）が重視され始めている。総務省の「令和3年度 情報通信白書」第3章第1部の「我が国及び世界が乗り越えるべき社会課題」によると、「新型コロナウイルスの流行によって、経済的な成功よりも生きがいや健康に楽しく生きることを優先させる「ウェルビーイング」への志向が個人に高まっていると言われる。その志向の高まりが日常生活や経済活動に変化をもたらし、ひいては社会構造の変革へとつながる可能性が考えられる。」と述べられている【資料2】。また、内閣府は、内閣府省庁が連携して Well-being に関する取組を推進するため、令和3年7月に「Well-being に関する関係府省庁連絡会議」を設置し【資料3】、令和4年10月には連絡会議に参加する関係府省庁の Well-being 関連の基本計画等の K P I、取組・予算が暫定的に取り纏められたことから【資料4】、今後、ウェルビーイングに関する取組が推進され、社会的認知度が向上していくとともにその重要性が高まっていくと考えられる。

また、次期教育振興基本計画（令和5年度～令和9年度）の諮問においても、超スマート社会（Society5.0）とともにウェルビーイングが創り上げていくべき社会像の中心に据えられ、それに基づいた教育政策が推進されようとしており【資料5】、「ウェルビーイング」をキーコンセプトとした社会・産業・教育の在り方が注目されはじめている。

さらに、令和5年5月に開催予定のG7広島サミット（主要国首脳会議）の関係閣僚会合として、G7教育大臣会合がウェルビーイングを推進する富山県及び石川県で開催されることが決まった【資料6】。永岡桂子文部科学大臣は、ウェルビーイング教育などのポストコロナ教育を意識した両県の招致提案を評価したと令和4年9

月 16 日文部科学大臣記者会見で述べており【資料 7】、G 7 教育大臣会合でウェルビーイング教育が話題になる可能性も大いにあることから、自治体等におけるウェルビーイングの取り組みについても重要性が高まっていると考えられる。

これらのウェルビーイングに関する社会的な高まりを踏まえると、今後、ウェルビーイングの向上に寄与するために、ウェルビーイングを理解、推進し、ウェルビーイング社会を創造できる人材の育成が重要であると考えられる。そこで、「ウェルビーイング」を冠した学部・学科・学位を持つ大学を調査すると、現状、学科及び学位の名称に「ウェルビーイング」を含む海外大学はいくつかあるが、日本国内においては実例がない状況である【資料 8】。しかし、国内においても「ウェルビーイング」と題した研究所については、慶應義塾大学ウェルビーイングリサーチセンター、神戸大学ウェルビーイング推進本部・先端研究センター、同志社大学 Well-being 研究センター、九州大学ウェルビーイング研究部門、東京都市大学ウェルビーイング・リビングラボ研究ユニット、関西国際大学 Well-being 研究所、東北工業大学 Well-being 研究所等が設置され、ウェルビーイングに関する研究が推進されている。また、一般社団法人ウェルビーイングデザイン、公益財団法人 Well-being for Planet Earth といった団体も設置され、人々のウェルビーイング向上のためのコミュニティー運営、情報収集、情報提供、人材育成、人材交流、学術研究への助成及び普及啓発等を推進している。これらの研究所や団体の取組は、今後より推進、発展していくと考えられる。

以上のウェルビーイングに関する地域・社会的動向及び教育研究の推進状況を踏まえると、今後のあるべきウェルビーイング社会の創造に主体的に取り組んでいける人材の育成がより一層必要になると考え、令和 6 年度にウェルビーイング学部ウェルビーイング学科を設置する。

ウ 新設学科等の趣旨目的、教育内容、定員設定等

新設学科等の趣旨目的については、VUCA（変動性、不確実性、複雑性、曖昧性）の時代と称され、先行きが不透明かつ将来の予測が困難な未来を迎えている中、精神的な豊かさや健康までを含めて幸福や生きがいをつめるウェルビーイング（Well-being）な社会の創造に貢献することを目指し、本学部を設置する。本学部は、仏法の真理観を根幹として、人間の抱える根源的な苦悩からの解放を見据えつつ、学識、情操、品性にすぐれた人格を育成するとともに、科学や技術の最先端の知見や成果も取り入れた学際的なアプローチによって、幸せ・生きがい・安心・福祉・健康・平和など、人々と世界のウェルビーイングをデザインし、創造していく人材を育成していくことを目的とする。

なお、今、本学部を設置する理由については、前述のとおり、令和 5 年から令和 9 年を対象期間と定める「次期教育振興計画基本計画について（答申）」において、「日

本社会に根差したウェルビーイングの向上」が次期計画のコンセプトの一つとして掲げられていること【資料1】、経済協力開発機構（OECD）の「OECD ラーニング・コンパス 2030（学びの羅針盤 2030）」においても、2030 年度（令和 12 年度）の未来像を描きながら方向性を示していることから【資料9】、令和 6 年度から学部を設置し、社会に貢献できる人材を出来る限り早期に輩出することが重要であると考えます。

本学部の教育内容については、前述の趣旨目的を実現するために、社会で活躍するためのアクティブな知の獲得を目指す全学共通基礎課程に加え、学科科目『基盤科目群』『探究する科目群』『創造する科目群』を配置し、学際的な科目構成とするとともに、常にウェルビーイングを中心に置き、どの科目においてもウェルビーイングに立ち返ることのできる教育課程を体系的に編成する。具体的には、『基盤科目群』では、ウェルビーイングの本質を理解し、学科科目の基盤となる基礎的な知識や考え方を修得する。『探究する科目群』では、幸せな自己と世界を探究するため、自然、地域・福祉・ビジネスの現場、海外等での学外学修を通じて、自分は世界の関係性のもとに成立していることを体験的に理解する。『創造する科目群』では、これまで修得してきたスキル・知識をもとに、ウェルビーイングな社会をデザインするために各人がテーマを設定し、4 年間の集大成として学修成果を卒業論文にまとめる。

定員設定については、本学部では、ウェルビーイングな社会を実現するための具体的な課題を用いたプロジェクト型授業や、実習等の実践を中心とした教育活動を行うことから、学外学修等を展開できる高度の実務能力及び実経験を有する実務家教員 5 人を含めた専任教員を 16 人置き、きめ細やかな学生指導や相談に乗る体制を取る。そこで、入学定員 80 人、2 年次編入学定員 10 人、収容定員 350 人とすることで、専任教員 1 人あたり一学年 5～6 人を担当することになり、きめ細やかな指導や相談を実施することができると考えた。この定員を充足する見込みについては、後述のとおり、既設の学部等の定員充足状況が過去 5 年において十分であること、地域の人口動態調査、同分野を有する近隣大学の志願動向、及び受験対象者等へのアンケート調査で一定数の志願者数が確保できる予測であることから、定員充足の見込みは立っている。

本学部の入学金、授業料等の学生納付金の設定については、収容定員による学納金収入の見込みに対する教育研究費や施設設備費、教員人件費等の支出の見込みを踏まえ、学部としての採算性及び持続性を考慮している。また、他大学及び本学他学部等の学費の状況を踏まえ、受験生や保護者に無理のない設定を行っている。

具体的には、本学部は初年次納入金を 1,475,000 円（入学金 180,000 円、授業料等 1,295,000 円）と設定している。後述の「近隣競合校」及び「偏差値上位校」の 1,299,000～1,460,000 円と比べるとやや高いが【資料10】、本学部は学外学修やプロジェクト型授業等を中心に教育を展開しており、同様に学外学修等を中心に教育を展開している本学工学部サステナビリティ学科（学位の分野に「社会学・社会福祉学関係」を

含む)を参考に学費を設定しているため、適切な学費設定であると考え。

エ 学生確保の見通し

A. 学生確保の見通しの調査結果

本学部への受験生の志願動向を調査するため、令和4年12月～令和5年1月にアンケート調査を実施した。

アンケート調査対象校の抽出にあたっては、次の観点から行った。本学の過去3年間の新入生の出身高校のうち、平均 65.3%が1都3県（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県）に位置している。特に東京都の出身が 33.8%と最も割合が高い【資料11】。このことから、アンケートは、本学への進学実績がある東京都の私立及び都立高校の高校2年生（令和6年度入学生）を対象に実施することとした。

該当する60校にアンケート調査実施の依頼を行い、そのうち7,638人から有効回答を得ることができた。

アンケートの内容は、本学部についての説明を読んだ上で、進学意向を選択するものとした【資料12】。

有効回答7,638人のうち、本学部への入学意思のある人数を明確にするため、集計にあたっては、高校2年生のうち①ウェルビーイングについて大学で学ぶことへの興味、②興味のある学問分野、③進学希望、④受験意向、⑤入学意向の回答結果をクロス集計し、調査結果を踏まえた分析を行った。クロス集計結果によると、以下①～⑤のすべての条件を充たす回答をした生徒は合計 373 人であった【資料13】。

- ①ウェルビーイングについて大学で学ぶことに「とても興味がある」または「興味がある」と回答した生徒（2,502人）
- ②本学部の学位の分野である「文学関係」「社会学・社会福祉学関係」のいずれかの学問分野に興味があると回答した生徒（931人）
- ③高校卒業後に4年制大学への進学を「希望する」と回答した生徒（818人）
- ④本学部を「ぜひ受験したい」または「やや受験したい」と回答した生徒（420人）
- ⑤本学部に合格した場合、「ぜひ入学したい」または「やや入学したい」と回答した生徒（373人）

本学への全入学者のうち、東京都出身者は過去3年間平均で 33.8%であったことから、この373人を東京都からの入学志願者数とみなし、全国の入学志願者数として割り返して推計すると、1,103人となり、入学定員80人は十分充足されるものとする。

本学部は、外国人留学生の入学も想定している。近年、本学の留学生の志願者数及び入学者数は、コロナ禍の令和4年度を除き増加傾向であり、過去5年間の入学者数平均が179人、全入学者数のうち外国人留学生が占める割合が平均7.5%となっている。同じ学位の分野を持つ人間科学部人間科学科においても、安定的に外国

人留学生が入学しており（外国人留学生比率5ヶ年平均7.0%）、本学部も含め本学では今後も一定数の外国人留学生の安定的な確保が見込まれる【資料14】。

B. 新設学部等の分野の動向

同分野を有する近隣大学の志願動向の調査として、本学部と同じ学位分野である「文学関係」、「社会学・社会福祉学関係」を有する首都圏の近隣大学の志願動向を調べた。

本学部と同分野を有する近隣大学の過去3年間の志願者倍率をみると、文学関係の学位分野を持つ大学の志願者倍率は8～16倍程度、社会学・社会福祉学関係の学位分野を持つ大学は3～25倍程度であった【資料15】。この結果より、本学部においても同程度の志願者倍率が想定され、定員を充足できる見込みがあると考えられる。

C. 中長期的な18歳人口の全国的、地域的動向等

本学の学生の出身高校の都道府県所在地をみると、令和2年度から令和4年度の3年間で新入生の平均65.3%が1都3県（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県）の出身であり、割合が高い【資料11】。また、令和4年度学校基本調査から抜粋した人口動態によると、本学部を開設する令和6年度大学入学予定者である現高校2年生の生徒数は、1都3県計271,777人である。また、本学部開設4年後の令和10年度大学入学予定者である現中学1年生の生徒数は1都3県計292,406人であり、令和6年度比約108%となっている。さらに、本学部開設8年後となる令和14年度大学入学予定者である現小学3年生の児童数は1都3県計286,800人である【資料16】。これらのデータから、少子化の中でも1都3県については18歳人口が学部開設8年後においても、開設年度より減らないことが予想されている。以上のことから、大学進学率が現状維持であっても、開設時と同様の受験者数が想定され、定員を充足できる見込みがあると考えられる。

また、令和4年度学校基本調査の「関係学科別大学入学状況」によると、本学部が該当する分野である「人文科学・その他」「社会科学・社会学」の令和4年度入学志願者数は、それぞれ206,985人、235,171人、合計442,156人であった。平成30年度から令和4年度の5年間の入学志願者数は令和元年度の559,406人をピークに減少傾向がみられるが、全志願者数に占める「人文科学・その他」「社会科学・社会学」の志願者数の割合は10%以上を維持していることから【資料17】、本学部が該当する分野の学科を志願する受験生の動向は安定的に推移しており、定員を充足できる見込みがあると考えられる。

D. 競合校の状況

近隣の競合大学を設定し、志願状況を調べた。

国内においては「ウェルビーイング」を冠した学部学科又は学位を持つ大学がないため、「ウェルビーイング」を学べる大学、及び学位の分野が類似する大学を中心に、「偏差値」「キャンパスの場所」を考慮し以下の方法で抽出した。まず、偏差値について、「私立大 2023 年度入試難易予想一覧表」（令和 5 年 1 月 21 日付河合塾発表）において、本学部の学位の分野と類似する学位の分野を持つ本学人間科学部人間科学科（学位の分野「文学関係」「社会学・社会福祉学関係」）の偏差値は 50.0、と予想されている。したがって、本学の近隣競合校としては、偏差値 45.0～55.0 と予想されている大学を抽出した。次に、キャンパスの場所について、本学部は東京都西東京市にある武蔵野キャンパスで学ぶことから、本学と同様に首都圏にキャンパスを有する大学を、近隣競合校候補として絞り込みを行った。そしてその中から、教育の特徴が類似する大学を「近隣競合校」として 3 大学抽出した。また、本学の目指すところとなる偏差値 60.0 前後で、教育の特徴が類似する大学を「偏差値上位校」として 2 大学抽出した。

「近隣競合校」の過去 3 年間の入学志願状況等を見てみると、入学定員に対する志願者倍率は安定的に 5～13 倍程度となっており、「偏差値上位校」においても 8～14 倍程度となっている【資料 18】。また、入学者数を公表している大学については、定員充足率が 0.95～1.05 であり、安定的に入学者を確保できている。

以上のことから、首都圏にキャンパスを有し、偏差値帯が近く、学位の分野が類似している本学部についても定員を充足できる見込みがあると考えられる。

E. 既設学部等の学生確保の状況

本学の既設学部等の過去 5 年間の入学志願状況等（志願者数、受験者数、合格者数、入学者数、定員充足率）は【資料 19】のとおりである。

本学部は学位の分野が「文学関係」「社会学・社会福祉学関係」であるが、学位の分野が「文学関係」「社会学・社会福祉学関係」である本学人間科学部人間科学科の実志願者数（入学定員 215 人（平成 30 年度は 235 人））は、平成 30 年度に 1,193 人、令和元年度に 1,783 人、令和 2 年度に 1,808 人、令和 3 年度に 1,716 人、令和 4 年度に 1,486 人と、過去 5 年間の平均は 1,597 人である。実質倍率についても平成 30 年度に 5.08 倍、令和元年度に 8.29 倍、令和 2 年度に 8.41 倍、令和 3 年度に 7.98 倍、令和 4 年度に 6.91 倍と、過去 5 年間の平均は 7.33 倍である。また、入学定員充足率は平成 30 年度 0.95 倍、令和元年度 0.99 倍、令和 2 年度 1.00 倍、令和 3 年度 1.06 倍、そして令和 4 年度 1.11 倍と、過去 5 年間平均は 1.02 であり安定的に入学者を確保できている。

以上のとおり、過去 5 年間の本学の入学志願状況等を踏まえると、本学部と同じ学位の分野を持つ本学人間科学部人間科学科では、安定的に入学者を確保できて

いることから、本学部についても安定的に志願者数を確保できる見込みがあると考えられる。

F. その他、申請者において検討・分析した事項

本学部の社会的ニーズや進学ニーズを調査するために、本学への進学実績がある東京都の私立及び都立高校の 162 校の進路指導担当教員に対してアンケート調査を依頼し【資料 20】、154 人から回答を得ることができた。

回答集計結果【資料 21】によると、本学部の養成する人材像を「評価する」または「やや評価する」と回答した教員が 128 人 (83.1%)、本学部における学修について社会的ニーズが「ある」または「ややある」と回答した教員が 117 人 (76.0%)、本学部への進学を「勧める」または「やや勧める」と回答した教員が 105 人 (68.2%)、受験生の進学ニーズが「ある」または「ややある」と回答した教員が 107 人 (69.5%) であった。この結果より、進路指導担当教員の視点からも社会的ニーズや高校生の進学ニーズは概ねあるといえる。

オ 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

本学では、令和 3 年 1 月に「学校法人武蔵野大学入試戦略策定委員会」を設置し、構成員は理事長を委員長とし、学長、経営企画担当常務理事、大学経営担当常務理事、中高等経営担当常務理事及び事務局長とした。本委員会において、入学志願者募集に関する基本方針、入学者選抜に関する基本方針、その他関連する重要事項の調整を審議・決定している。また、「学校法人武蔵野大学入試戦略策定委員会」のもとに、「武蔵野大学入試検討委員会」を設け、各学部等の入試戦略の推進に関する施策、入学志願者募集及び入試広報に関する事項、並びに各学部等の入学者選抜に関する事項を審議し、学科等の協力を得て大学入試センター事務課が入学者選抜・入学志願者募集の事務、入試広報を行っている。

本学部の学生募集及び広報活動は、一般的な取り組みとして、大学WEBサイトでの告知、受験生向け大学パンフレット等の配布、各種受験情報誌やWEBサイト、SNSサイトへの学部情報・入試情報の掲載、説明会等を行う予定である。また、本学部独自の取り組みとして、高校生向けのオンラインイベントの実施、学科特設サイトの開設、プレスリリース発信等、より訴求力の高い募集広報を展開していく。

主たる広報物の受験生向け大学パンフレットには、学部・学科の概要やカリキュラムをはじめ、担当教員、進路先イメージ等を掲載し、入学後から卒業までの具体的なイメージが湧くように工夫する。

学内においては、例年 6 回 (令和 4 年度実績) のオープンキャンパス (対面及び Web 開催) を実施している。また、Web オープンキャンパスサイトでは、大学・入試説明や模擬授業の動画、学科紹介サイト等を掲載し、年間通じて大学の学びに触れる機会

を提供する。

この他、本学教員による出張授業や教職員による高校訪問、進学相談会等も実施している。出張授業や進学相談会は、高校生の視野を広げ、学びへの動機づけや進路に対する意識を高める機会として活用している。新型コロナウイルスの流行により一時控えていたが、新しい生活様式での学校教育活動の継続の指針に則り、令和4年度からは、主に1都3県の高等学校を対象に積極的に実施している。

以上の取り組みにより、直近5年間の入試において、大学全体の実志願者数が16,367～22,185人、実質倍率が6.65～9.01、定員充足率が0.93～1.03で推移しており、学生を安定的に確保している【資料19】。今後は、資料請求者やオープンキャンパス参加者等の本学の接触者に対し、継続的なアプローチを図り出願への行動喚起を促進する施策を取り入れ、より効果的な学生募集を行う予定である。

(2) 人材需要の動向等社会の要請

①人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

本学部では、ウェルビーイングという総合的概念についての社会学・心理学的知見や、新たに創造的なデザインを行うため問題発見・課題解決できる実践的な能力を身につけ、今後のあるべきウェルビーイング社会の創造に主体的に取り組んでいく人材を養成することを目的とする。また、人文科学、自然科学、社会科学の分野からウェルビーイングに関連する項目を学際的に学ぶことによって、ウェルビーイングについての理解を多面的に深め、社会学・心理学的知見や、新たに創造的なデザインを行うための工学的・デザイン学的手法を学ぶことにより、ウェルビーイング社会の実現のために問題発見・課題解決できる実践的な能力を身につけることを教育研究上の目的とする。

②上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

ア 各種統計調査

我が国の経済社会の構造を人々の満足度(Well-being)の観点から多面的に把握し、政策運営に活かしていくことを目的に内閣府が行っている「満足度・生活の質に関する調査報告書2022(令和4年7月)」において、政策課題の検証等に直結する指標群と活用が紹介されている。各国政府の事例として、ドイツのWell-being指標システムやアイルランドのWell-beingフレームワークの開発等の指標群が紹介され、国内における事例として、岩手県の「いわて幸福関連指標」、東京都荒川区の「荒川区民総幸福度(GAH)」、三重県の「15の幸福実感指標」が紹介されている【資料22】。また、富山県では、経済成長による物質的な幸せを実感することが難しい時代、収入や健康といった外形的な価値に囚われず、自分らしく生きられる、そんな「ウェルビーイング」の向上を目指し、次世代の価値を産む人が育ち集まる富山となるため、成長戦略「幸せ人口1

000万 ウェルビーイング先進地域、富山を目指して」を掲げ、6つの柱『①真の幸せ（ウェルビーイング）、②まちづくり、③ブランディング（広報・観光・移住）、④新産業支援、⑤スタートアップ支援、⑥県庁オープン化』のもと、県内人口100万人の幸せではなく、富山で暮らす人、仕事する人、よく訪れる人、生まれ育った人など富山に愛着を持って関わるすべての人1000万人が幸せになる社会形成を目指し、今後スピード感を持って取り組むこととしている【資料23】。

企業においては、HR総研が企業の人事責任者・担当者を対象に令和4年9月～10月に実施した調査「ウェルビーイングと健康経営」に関するアンケート（有効回答221件）によると、ウェルビーイングの実施状況については、大企業（1,001名以上）では、「実施している」と回答した企業の割合は40%ではあるものの、「実施に向けて検討中／準備中」まで含めると78%となっており、今後、実施企業の拡大が期待される状況である。また、ウェルビーイングが経営戦略や経営方針に位置づけられているかについては、「位置づけられている」と回答した企業の割合は27%ではあるものの、「位置づける予定である」まで含めると69%となっており、今後、ウェルビーイングの取り組みを開始する企業が増加することで、「位置づけられる予定」から「位置づけられている」にボリューム層が移行していくだろうと述べられている【資料24】。

このような社会的、地域的な動向を踏まえると、今後、企業、自治体等において、ウェルビーイングを推進し、ウェルビーイング社会の創造に主体的に取り組む人材の需要が高まっていくことが考えられる。

したがって、本学部の養成する人材である「ウェルビーイングという総合的概念についての社会学・心理学的知見や、新たに創造的なデザインを行うため問題発見・課題解決できる実践的な能力を身につけ、今後のあるべきウェルビーイング社会の創造に主体的に取り組んでいく人材」については、社会的、地域的人材需要の動向等を踏まえたものであると考えられる。

イ 企業・関係機関等への採用意向調査

本学部を卒業した学生の進路は、主に企業（メーカー、商社、医療看護、介護福祉等）や教育現場でのウェルビーイング推進担当者、ウェルビーイングな地域の創生を目指す自治体・企業・NPO法人等の推進担当者、国内外の大学院、研究機関・シンクタンク職員等を想定している。そこで、本学部の育成する人材が活用できると考えられる企業・関係機関等の新卒採用人事担当者向けにアンケートを実施した【資料25】。ウェルビーイング・健康経営に積極的に取り組む企業や自治体、就職実績がある企業等を中心に122社にアンケートを依頼し、36人から回答を得られた。回答結果によると、本学部の養成する人材像を「評価する」と回答した人事担当者が36人中22人（61.1%）、「やや評価する」が14人（38.9%）であり、「評価する」「やや評価する」をあわせると100%であった。また、本学部で育成する人材を「採用したい」と回答した人事担当

者が 36 人中 17 人 (47.2%)、「やや採用したい」が 19 人 (52.8%) であり、「採用したい」「やや採用したい」をあわせると 100%であり、本学部卒業生への採用意向は一定数あると考えられる【資料 26】。その他、「ウェルビーイング学部ウェルビーイング学科で育成する人材は、特にどの地域で必要だと考えるか」との質問には、36 人中 30 人 (83.3%) が「地域は問わない」と回答しており、ウェルビーイングを推進する人材は特定の地域ではなく、広く全国で必要であると考えられる。

ウ 現在又は将来における人材需給に関する調査・研究等

内閣府は、令和 3 年 7 月に「Well-being に関する関係省庁連絡会議」を設置し、Well-being に関する取組の推進に向けて情報共有・連携強化・優良事例の横展開をはかることとしている。令和 4 年 10 月に公表された「関係府省庁における Well-being 関連の基本計画等の K P I、取組・予算（概要）」では、教育振興基本計画（文部科学省）、子供・若者育成支援推進大綱（内閣府）、住生活基本計画（国土交通省）、スポーツ基本計画（文部科学省）等において、Well-being に関連する KPI がすでに策定されていることが示されている。また、Well-being 関連の個別分野の事業・取組として、地域毎に Well-being 指標を定期的に測定し、KPI を設けて恒常的な改善につなげることを目的としたデジタル庁の「Well-Being 指標管理システム」、健康寿命を延伸するためのライフステージに応じた健康づくりの取り組みを総合的に推進する厚生労働省の「健康日本 21」、従業員の健康保持・増進に向けた企業の取り組みである健康経営について実施状況を調査する経済産業省の「健康経営度調査」、妊娠・出産等のライフイベントと仕事の両立やヘルスリテラシーの向上等、個人の Well-being 実現に向け、働く女性に対しフェムテックを活用したサポートサービスを提供する実証事業を実施する経済産業省の「フェムテック等サポートサービス実証事業費補助金」が紹介されており、各事業の令和 5 年概算要求額は億円単位となっていることから【資料 4】、今後も各関係府省庁のもと、ウェルビーイングに関する取り組みが推進され、企業・自治体等においてもウェルビーイングを推進していくことが求められると考える。

学術界においては、前述のとおり、慶應義塾大学ウェルビーイングリサーチセンター、神戸大学ウェルビーイング推進本部・先端研究センター、同志社大学 Well-being 研究センター、九州大学ウェルビーイング研究部門等において研究が進んでいる。具体的には、令和 4 年 10 月に神戸大学が、誰もが心豊かで幸せを実感できる社会を実現するため、各学部・研究科で行われるウェルビーイング関連研究を横断的に支援し連携を強化する「ウェルビーイング推進本部」と、健康・発達・環境の 3 領域において最先端の研究を行い、国内外に向けて情報発信する「ウェルビーイング先端研究センター」を設置し、人生 100 年時代のいずれのステージにおいても、疾病や障害の有無に関係なく、心豊かで幸せを実感できる社会の実現を目指している【資料 27】。

これらの動向等を踏まえると、本学部の養成する人材像であるウェルビーイングに

関連した様々なビジネスを新たに創出する人材、ウェルビーイング産業の創造に基づきそれぞれの地域の特徴を活かした地域活性化をリードする人材、ウェルビーイングの研究者等については人材需給があると考えられる。

エ 外国人留学生に関する卒業後の進路を踏まえた人材需要

2008年に日本政府により「留学生30万人計画」が策定されたこともあり【資料28】、本学においては、コロナ禍の令和4年度を除き、外国人留学生が増加傾向にある。本学の外国人留学生の過去5年間における志願者数の平均は706人、入学者数の平均は179人となっており【資料14】、全入学者数のうち留学生を占める比率が5年間平均で7.5%となっている。同時に外国人留学生の学部卒業生も増えており、令和元年度に90人、令和2年度に95人、令和3年度に129人が卒業し、うち令和元年度に40人(44.4%)、令和2年度に41人(43.2%)、令和3年度に37人(28.7%)が就職又は起業している。進学は令和元年度に12人(13.3%)、令和2年度に9人(9.5%)、令和3年度に25人(19.4%)であった。帰国を含む国外での就職・起業・進学は令和元年度6人(6.7%)、令和2年度8人(8.4%)、そして令和3年度は5人(3.9%)であった【資料29】。

外国人留学生に関する卒業後の想定される進路について、朝日新聞デジタル「藤田康人のウェルビーイング解体新書【6】」によると、アメリカの健康産業として注目されているウェルネス産業では、「ウェルネス領域の調査研究を進める米NPO「GLOBAL WELLNESS INSTITUTE」の調査によると、その市場規模は令和4年時点で約4.4兆ドル、日本円で約600兆円」と言われている。さらに、「令和2年には、ウェルビーイング分野へのスタートアップに対する投資が1兆円を突破し、企業向け遠隔メンタルヘルスケア、瞑想アプリ、ビデオ診療など、投資を受けた企業は350社を超え、5年前より2割以上増えており、アメリカのウェルビーイングビジネスは、すでに成長モードに入っているといえると」述べられていることから【資料30】、今後、米国を中心に他国を含む海外のウェルビーイングビジネスが大きく展開され、ウェルビーイングに関連した様々なビジネスを新たに創出する人材が求められると考える。

また、ウェルビーイングを専門に学ぶ海外の進学先として、ポジティブ心理学創始者のマーティン・セリグマン氏が在籍するペンシルベニア大学(アメリカ)や、人の幸せを前提に考える新しい経済学が学べる大学院として、シューマッハ・カレッジ(イギリス)等も考えられる。

なお、国際連合が掲げる持続可能な開発目標SDGsの3番目の項目である「GOOD HEALTH AND WELLBEING(すべての人に健康と福祉)」や8番目の項目である「DECENT WORK AND ECONOMIC GROWTH(働きがいも経済成長も)」においても、ウェルビーイングに関わる内容が世界的な目標として定められていることから、目標を達成するにあたって、本学部が育成するウェルビーイング社会の創造に主体的に取り組んでいく人材は、日本国内のみならず海外においても就職・進学の需要があり、外国人留学生の卒業後の進

路も踏まえたものであると考えられる。

以上のことから、本学部において育成する人材は社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであるといえる。

以 上

学生の確保の見通し等を記載した書類

資料目次

資料 1	中央教育審議会「次期教育振興計画について（答申）【概要】」・・・・・・・・	p. 3
資料 2	「令和 3 年版 情報通信白書 第 1 部特集 デジタルで支える暮らしと経済」（総務省）・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 6
資料 3	令和 3 年 7 月 30 日第 1 回 Well-being に関する関係府省庁連絡会議 「資料 1 Well-being に関する関係府省庁連絡会議」・・・・・・・・	p. 8
資料 4	「関係府省庁における Well-being 関連の基本計画等の K P I、取組・予算（概要）」（2022 年 10 月、内閣府）・・・・・・・・	p. 9
資料 5	「次期教育振興基本計画（令和 5（2023）年度～令和 9（2027）年度） 諮問の概要」（文部科学省）・・・・・・・・	p. 1 2
資料 6	G 7 富山・金沢教育大臣会合（文部科学省）・・・・・・・・	p. 1 3
資料 7	永岡桂子文部科学大臣記者会見録（令和 4 年 9 月 16 日）（文部科学省）・・・・・・・・	p. 1 6
資料 8	「ウェルビーイング」を冠した学部・学科・学位を持つ大学・・・	p. 2 1
資料 9	OECD Learning Compass 仮訳・・・・・・・・	p. 2 2
資料 10	近隣競合校及び偏差値上位校の初年次納入金等・・・・・・・・	p. 2 4
資料 11	武蔵野大学 令和 2 年度～4 年度 出身高校都道府県別新入生数・・	p. 2 5
資料 12	武蔵野大学ウェルビーイング学部についてのアンケート（高校生）・・	p. 2 6
資料 13	高校生アンケートの結果・・・・・・・・	p. 2 8
資料 14	武蔵野大学 外国人留学生の志願者数等推移・・・・・・・・	p. 3 5
資料 15	同分野を有する近隣大学等の志願動向の調査・・・・・・・・	p. 3 6
資料 16	人口動態（令和 4 年度学校基本調査）・・・・・・・・	p. 3 7
資料 17	関係学科別大学入学状況（令和 4 年度学校基本調査）・・・・・・・・	p. 3 8
資料 18	近隣競合校及び偏差値上位校・・・・・・・・	p. 3 9
資料 19	武蔵野大学 既設学部等の学生確保の状況（平成 30 年度～令和 4 年度）・・・・・・・・	p. 4 0
資料 20	武蔵野大学ウェルビーイング学部についてのアンケート（進路指導の先生方へ）・・・・・・・・	p. 4 1
資料 21	高校 進路指導担当教員向けアンケートの結果・・・・・・・・	p. 4 3
資料 22	「満足度・生活の質に関する調査報告書 2022～我が国の Well-being の動向～」（内閣府）・・・・・・・・	p. 4 5
資料 23	富山県成長戦略「幸せ人口 1 0 0 0 万」（富山県）・・・・・・・・	p. 5 4
資料 24	「「ウェルビーイングと健康経営」に関するアンケート」（HR 総研）・・	p. 5 6

資料 25	武蔵野大学ウェルビーイング学部についてのアンケート（企業等新卒採用責任者及びご担当者様へ）・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 5 8
資料 26	企業等新卒採用担当者向けアンケートの結果・・・・・・・・・・	p. 6 0
資料 27	神戸大学ウェルビーイング推進本部・ウェルビーイング先端研究センターの設置・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 6 3
資料 28	「留学生 30 万人計画」骨子の概要（文部科学省）・・・・・・・・	p. 6 5
資料 29	武蔵野大学 外国人留学生の卒業後の進路・・・・・・・・・・	p. 6 6
資料 30	「藤田康人のウェルビーイング解体新書【6】」(朝日新聞デジタル)・	p. 6 7

我が国の教育をめぐる現状・課題・展望

教育の普遍的な使命：学制150年、教育基本法の理念・目的・目標（不易）の実現のための、社会や時代の変化への対応（流行）
▶ 教育振興基本計画は予測困難な時代における教育の方向性を示す**羅針盤**となるものであり、教育は社会を牽引する駆動力の中核を担う営み

- ・社会の現状や変化
- ・新型コロナウイルス感染症の拡大
- ・ロシアのウクライナ侵略による国際情勢の不安定化
- ・VUCAの時代（変動性、不確実性、複雑性、曖昧性）
- ・少子化・人口減少や高齢化
- ・グローバル化・地球規模課題
- ・DXの進展、AI・ロボット・グリーン（脱炭素）
- ・共生社会・社会的包摂
- ・精神的豊かさの重視（ウェルビーイング）
- ・18歳成年・子ども基本法 等

第3期計画期間中の成果

- ・（初等中等教育）国際的に高い学力水準の維持、GIGAスクール構想、教職員定数改善
- ・（高等教育）教学マネジメントや質保証システムの確立、連携・統合のための体制整備
- ・（学校段階横断）教育費負担軽減による進学率向上、教育研究環境整備や耐震化 等

第3期計画期間中の課題

- ・コロナ禍でのグローバルな交流や体験活動の停滞
- ・不登校・いじめ重大事態等の増加
- ・学校の長時間勤務や教師不足
- ・地域の教育力の低下、家庭を取り巻く環境の変化
- ・高度専門人材の不足や労働生産性の低迷
- ・博士課程進学率の低下 等

次期計画のコンセプト

2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成

- ・将来の予測が困難な時代において、未来に向けて**自らが社会の創り手**となり、課題解決などを通じて、**持続可能な社会**を維持・発展させていく
- ・社会課題の解決を、経済成長と結び付けて**イノベーション**につなげる取組や、一人一人の**生産性向上**等による、**活力ある社会の実現**に向けて「**人への投資**」が必要
- ・Society5.0で活躍する、主体性、リーダーシップ、創造力、課題発見・解決力、論理的思考力、表現力、チームワークなどを備えた人材の育成

今後の教育政策に関する基本的な方針

グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成

- ・主体的に社会の形成に参画、持続的社会的発展に寄与
- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善、大学教育の質保証
- ・探究・STEAM教育、文理横断・文理融合教育等を推進
- ・グローバル化の中で**留学等国際交流**や大学等国際化、外国語教育の充実、SDGsの実現に貢献するESD等を推進
- ・リカレント教育を通じた高度人材育成

誰一人取り残さず、全ての人の可能性を引き出す 共生社会の実現に向けた教育の推進

- ・子供が抱える困難が多様化・複雑化する中で、個別最適・協働的学びの一体的充実やインクルーシブ教育システムの推進による**多様な教育ニーズへの対応**
- ・支援を必要とする子供の**長所・強みに着目**する視点の重視、**地域社会の国際化**への対応、**多様性、公平・公正、包摂性**（DE&I）ある**共生社会の実現**に向けた教育を推進
- ・ICT等の活用による学び、交流機会、アクセシビリティの向上

人生100年時代に複雑化する生涯にわたって学び続ける学習者

教育デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進

- GIGAスクール構想、情報活用能力の育成、校務DXを通じて働き方改革、教師のICT活用指導力の向上等、DX人材の育成等を推進

計画の実効性確保のための基盤整備・対話

指導体制・ICT環境等の整備、学校における働き方改革の更なる推進、経済的・地理的状況によらない学びの確保

NPO・企業等多様な担い手との連携・協働、安全・安心で質の高い教育研究環境等の整備、児童生徒等の安全確保

日本社会に根差したウェルビーイング（※）の向上

- ・多様な個人それぞれの**幸せや生きがい**を感じるとともに、**地域や社会**が**幸せや豊かさ**を感じられるものとなるための教育の在り方
- ・幸福感、**学校や地域でのつながり**、利他性、協働性、**自己肯定感**、自己実現等が含まれ、協調的要素と獲得的要素を調和的・一体的に育む
- ・**日本発の調和と協調**（Balance and Harmony）に基づくウェルビーイングを発信

※身体的・精神的・社会的に良い状態にわたる持続的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念。

地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進

- ・持続的な**地域コミュニティの基盤形成**に向けて、**公民館等の社会教育施設**の機能強化や**社会教育人材**の養成と活躍機会の拡充
- ・**コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進**、家庭教育支援の充実による**学校・家庭・地域の連携強化**
- ・**生涯学習**を通じて自己実現、地域や社会への貢献等により、**当事者として地域社会の担い手**となる

今後の教育政策の遂行に当たっての評価・投資等の在り方

教育政策の持続的改善のための評価・指標の在り方

- ・客観的な根拠を重視した教育政策のPDCAサイクルの推進
- ・調査結果（定量・定性調査）に基づく多様な関係者の対話を通じた政策・実践の改善
- ・データ等を分析し、企画立案等を行うことのできる行政職員の育成
- ・教育データ（ビッグデータ）の分析に基づいた政策の評価・改善の促進

教育投資の在り方

「人への投資」は成長の源泉であり、成長と分配の好循環を生み出すため、教育への効果的投資を図る必要。「未来への投資」としての教育投資を社会全体で確保。

① 教育費負担軽減の着実な実施及び更なる推進

- ・幼児教育・保育の無償化、高等学校等就学支援金による授業料支援、高等
- 教育の修学支援新制度等による教育費負担軽減を着実に実施
- ・高等教育の給付型奨学金等の多子世帯や理工農系の学生等の中間層への
- 拡大 等

② 各教育段階における教育の質の向上に向けた環境整備

- ・GIGAスクール構想、教師の処遇等の在り方の検討、指導体制の構築、教員研修高度化
- ・国立大学法人運営費交付金・私学助成の適切な措置、成長分野への転換支援の基金創設
- ・リカレント教育の環境整備、学校施設・大学キャンパスの教育研究環境向上と老朽化対策 等

OECD諸国など諸外国における公財政支出など教育投資の状況を参考とし、必要な予算について財源を措置し、真に必要な教育投資を確保

今後 5 年間の教育政策の目標と基本施策

教育政策の目標		基本施策（例）	指標（例）
1. 確かな学力の育成、幅広い知識と教養、専門的能力・職業実践力の育成	○ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実 ○ 新しい時代に求められる資質・能力を育む学習指導要領の実施 ○ 幼児教育の質の向上 ○ 高等学校教育改革 ○ 大学入学者選抜改革 ○ 修業者本位の教育の推進 ○ 文理横断・文理融合教育の推進 ○ キャリア教育・職業教育の推進 ○ 学校段階間・学校と社会の接続の推進	○ OECDのPISAにおける世界トップレベル水準の維持・到達 ・授業の内容がよく分かる、勉強は好きと思う児童生徒の割合 ・将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合 ・高校生・大学生の授業外学習時間 ・PBL（課題解決型学習）を行う大学等の割合 ・職業実践力育成プログラム（BP）の認定課程数	
2. 豊かな心の育成	○ 道徳教育の推進 ○ いじめ等への対応、人権教育の推進 ○ 発達支持的生徒指導の推進 ○ 体験・交流活動の充実 ○ 読書活動の充実 ○ 伝統や文化等に関する教育の推進 ○ 文化芸術による子供の豊かな心の推進		・自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合 ・人が困っている時は進んで助けていると考える児童生徒の割合 ・自然体験活動に関する行事に参加した青少年の割合
3. 健やかな体の育成、スポーツを通じた豊かな心身の育成	○ 学校保健、学校給食・食育の充実 ○ 生活習慣の確立、学校体育の充実・高度化 ○ 運動部活動改革の推進と身近な地域における子供のスポーツ環境の整備充実 ○ アスリートの発掘・育成支援	・朝食を欠食する児童生徒の割合 ・1 週間の総運動時間が60分未満の児童生徒の割合 ・卒業後にもスポーツをしたと思う児童生徒の割合	
4. グローバル社会における人材育成	○ 日本人学生・生徒の海外留学の推進 ○ 外国人留学生の受入れの推進 ○ 高等学校・高等専門学校・大学等の国際化 ○ 外国語教育の充実	・英語力について、中学・高校卒業段階で一定水準を達成した中高生の割合 ※留学等の国際交流は今後設定予定	
5. インバジョンを担う人材育成	○ 探究・STEAM教育の充実 ○ 大学院教育改革 ○ 高等専門学校の高度化 ○ 理工系分野をはじめとした人材育成及び女性の活躍推進 ○ 起業家教育（アントレプレナーシップ教育）の推進 ○ 大学の共創拠点化	・修士入学者数に対する博士入学者数の割合 ・自然科学（理系）分野を専攻する学生の割合 ・大学等における起業家教育の受講者数	
6. 主体的に社会の形成に参画する態度の育成・規範意識の醸成	○ 子供の意見表明 ○ 主権者教育の推進 ○ 消費者教育の推進 ○ 持続可能な開発のための教育（ESD）の推進 ○ 男女共同参画の推進 ○ 環境教育の推進 ○ 災害復興教育の推進	・地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う児童生徒の割合 ・学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると答える児童生徒の割合	

教育政策の目標	基本施策（例）	指標（例）
7. 多様な教育ニーズへの対応と社会的包摂	○特別支援教育の推進 ○不登校児童生徒への支援の推進 ○ヤングケアラーの支援 ○子供の貧困対策 ○海外で学ぶ日本人・日本で学ぶ外国人等への教育の推進 ○特異な才能のある児童生徒に対する指導・支援 ○大学等における学生支援 ○夜間中学の設置・充実 ○高校定時制・通信制課程の質の確保・向上 ○高等専修学校の教育の推進 ○日本語教育の充実 ○障害者の生涯学習の推進	・個別の指導計画・個別の教育支援計画の作成状況 ・学校内外で相談・指導等を受けていない不登校児童生徒数の割合 ・不登校特別校の設置数 ・夜間中学の設置数 ・日本語指導が必要な児童生徒で指導を受けている者の割合 ・在留外国人数に占める日本語教育機関等の日本語学習者割合
8. 生涯学び、活躍できる環境整備	○大学等と産業界の連携等によるリカレント教育の充実 ○働きながら学べる環境整備 ○リカレント教育のための経済支援・情報提供 ○現代的・社会的課題に対応した学習 ○女性活躍に向けたリカレント教育の推進 ○高齢者の生涯学習の推進 ○リカレント教育の成果の適切な評価・活用 ○生涯を通じた文化芸術活動の推進	・この1年くらいの間に生涯学習をしたことがある者の割合 ・この1年くらいの間の学修を通じて得た成果を仕事や就職の上で生かしている等と回答した者の割合 ・国民の鑑賞、鑑賞以外の文化芸術活動への参加割合
9. 学校・家庭・地域の連携・協働の推進による地域の教育力の向上	○コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進 ○家庭教育支援の充実 ○部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行に向けた環境の一体的な整備	・コミュニティ・スクールを導入している公立学校数 ・学校に対する保護者や地域の理解が深まったと認識する学校割合 ・コミュニティ・スクールや地域学校協働活動の住民等参画状況
10. 地域コミュニティの基盤を支える社会教育の推進	○社会教育施設の機能強化 ○社会教育人材の養成・活躍機会拡充 ○地域課題の解決に向けた関係施設・施策との連携	・知識・経験等を地域や社会での活動に生かしている者の割合 ・社会教育士の称号付与数 ・公民館等における社会教育主事有資格者数
11. 教育DXの推進・デジタル人材の育成	○1人1台端末の活用 ○児童生徒の情報活用能力の育成 ○教師の指導力向上 ○校務DXの推進 ○教育データの標準化 ○教育データ分析・利活用 ○デジタル人材育成の推進（高等教育） ○社会教育分野のデジタル活用推進	・児童生徒の情報活用能力（情報活用能力調査能力値） ・教師のICT活用指導力 ・ICT機器を活用した授業頻度 ・数理・データサイエンス・AI教育プログラム受講対象学生数
12. 指導体制・ICT環境の整備、教育研究基盤の強化	○指導体制の整備 ○学校における働き方改革の更なる推進 ○ICT環境の充実 ○教師の養成・採用・研修の一体的改革 ○地方教育行政の充実 ○教育研究の質向上に向けた基盤の確立（高等教育段階）	・教師の在校等時間の短縮 ・特別免許状の授与件数 ・教員採用選考試験における優れた人材確保のための取組状況 ・児童生徒1人1台端末の整備状況 ・ICT支援員の配置人数 ・大学における外部資金獲得状況 ・大学間連携に取り組む大学数
13. 経済的状況、地理的条件によらない質の高い学びの確保	○教育費負担の軽減に向けた経済的支援 ○へき地や過疎地域等における学びの支援 ○災害時における学びの支援	・住民税非課税世帯等の子供の大学等進学率 ・経済的理由による高等学校・大学等の中退者数・割合 ・高等学校における学びの質向上のための遠隔授業（教科・科目充実型）によって行われる実施科目数
14. NPO・企業・地域団体等との連携・協働	○NPOとの連携 ○企業との連携 ○スポーツ・文化芸術団体との連携 ○医療・保健機関との連携 ○福祉機関との連携 ○警察・司法との連携 ○関係省庁との連携	・職場見学・職業体験・就業体験活動の実施の割合 ・都道府県等の教育行政に係る法務相談体制の整備状況
15. 安全・安心で質の高い教育研究環境の整備、児童生徒等の安全確保	○学校施設の整備 ○学校における教材等の充実 ○私立学校の教育研究基盤の整備 ○文教施設の官民連携 ○学校安全の推進	・公立小中学校や国立大学等の施設の老朽化対策実施率 ・私立学校施設の耐震化率 ・学校管理下における障害や重度の負傷を伴う事故等の件数
16. 各ステークホルダーとの対話を通じた計画策定・フォローアップ	○各ステークホルダー（子供を含む）からの意見聴取・対話	・国・地方公共団体の教育振興基本計画策定における各ステークホルダー（子供を含む）の意見の聴取・反映の状況の改善

第3章 「誰一人取り残さない」デジタル化の実現に向けて

コロナ以前から少子高齢化等の深刻な社会課題を抱える我が国において、生産性を向上させ、経済再生を図るにはデジタルを最大限に活用することが必要不可欠と言われてきた。コロナ禍によって社会課題の影響が深刻になる中、社会全体のデジタル化に向けた取組はますます重要となっている。

本章では、我が国が抱える社会課題を整理し、コロナ後に求められる社会像について展望する。コロナ禍を契機として急速に進展するデジタル化は、社会構造にどのような変化をもたらしつつあるか考察する。

そして、コロナ後の我が国において、デジタル化による社会課題の克服と経済再生に向けて必要となる取組について整理する。

1 コロナ後に求められる社会像

コロナ後に求められる社会像について、コロナ禍にある現在、我が国及び世界が直面する乗り越えるべき課題とともに、有識者に行ったヒアリングの結果を基に整理する。

1 我が国及び世界が乗り越えるべき社会課題

ア 新型コロナウイルス感染症への対応

目下、世界規模での最大の社会課題であり、感染症が収束するまでの間は、感染リスクを抑えながら国民生活や経済活動への影響を最小限に食い止めるか、そのために、デジタル技術を活用しながら、非接触・非対面での行動様式や社会全体としての行動変容の在り方などを確立させていくかが重要な課題となっている。

イ 我が国を含む世界的な課題

(ア) 持続可能な社会の構築

2015年に国際連合は持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）を採択し、持続可能な世界を実現するための17のゴールと169のターゲットを掲げた（図表3-1-1-1）。これまでの人間の活動から生じた様々な課題（貧困・飢餓、気候変動、差別、環境破壊等）を解決するために、将来的な持続可能性を考慮した開発の実施が世界的な課題となっている。

(イ) グリーン・カーボンニュートラル

(ア) とも重複するが、途上国も含めた経済発展により生じているCO2排出量の増大は地球温暖化の原因となり、地球規模での生態系の破壊等を招く一因になっていると言われている。そのた

図表 3-1-1-1 持続可能な開発目標（SDGs）



（出典）外務省ホームページ

め、再生可能エネルギーの活用など、温室効果ガスを削減するための様々な取組に注目が集まっている。

(ウ) 災害の激甚化

世界規模での気候変動は、干ばつや水害等の自然災害の激甚化の一要因と考えられており、各国で甚大な人的・物的被害をもたらしている。これらの災害による被害を最小化するための取組（観測、資源管理、情報伝達等）が求められている。

(エ) 情報過多、情報独占への対応

デジタル化の進展により距離等の制約を受けることなく、デジタル化された情報が瞬時にオンライン上で流通・共有され、容易に複製される環境が整っている。情報伝達コストの低減により利便性が上昇する反面、偽情報と呼ばれるフェイクニュースなども瞬時に流通することで社会的混乱を招くほか、情報操作や世論誘導、プライバシーの侵害への懸念もより深刻となっている。情報の真偽を見極めるリテラシーの向上のほか、適切な情報を抽出するマッチングやキュレーションといったサービスが求められている。

(オ) 嗜好の多様化

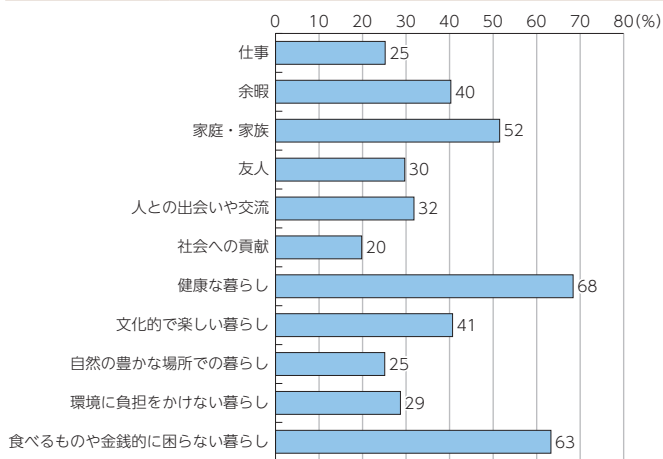
デジタル化の進展により、これまでは一定の規模がなければ成立しなかったミクロの取引の成立が可能となり、利用者の需要にきめ細かく応えることが可能な環境が整うこととなった^{*1}。このいわゆる「市場の細粒化」の進展に伴い、供給側もまた、利用者の嗜好の多様化への対応が必要となってくる。このことは、新たなビジネスチャンスをもたらす一方、行政分野などでは多様化する住民ニーズへの対応はコスト増にもつながり得ることから、最適なサービスのあり方を見直す必要も生じることが考えられる。

(カ) ウェルビーイング志向の高まり

新型コロナウイルスの流行によって、経済的な成功よりも生きがいや健康に楽しく生きることを優先させる「ウェルビーイング」への志向が個人に高まっていると言われる。その志向の高まりが日常生活や経済活動に変化をもたらし、ひいては社会構造の変革へとつながる可能性が考えられる。

なお、我が国の消費者に対して、今後の社会において重視する事項を尋ねたところ、「健康な暮らし」が「食べるものや金銭的に困らない暮らし」を僅かではあるが上回る結果となった（図表3-1-1-2）。

図表3-1-1-2 今後の社会において重視する事項（複数回答）



（出典）総務省（2021）「ウィズコロナにおけるデジタル活用の実態と利用者意識の変化に関する調査研究」

*1 「市場の細粒化」について、詳しくは、令和元年版情報通信白書を参照のこと。

Well-beingに関する関係府省庁連絡会議

1. 趣旨

GDPのような経済統計に加え、社会の豊かさや人々の生活の質、満足度等に注目していくことは極めて有意義である。経済財政運営と改革の基本方針2021（2021年6月閣議決定）において「政府の各種の基本計画等について、Well-beingに関するKPIを設定する」とされたこと等を踏まえ、関係府省庁が連携してWell-beingに関する取組を推進するため、Well-beingに関する関係府省庁連絡会議（以下「会議」という。）を設置する。

2. 検討事項

以下のような観点から、関係府省庁におけるWell-beingに関する取組について情報共有を行い、関係府省庁間の連携を強化するとともに、優良事例の横展開をはかる。

- ・各種基本計画等におけるWell-beingに関するKPIの設定
- ・Well-beingに関する統計・調査、研究・分析、実証事業の推進
- ・その他Well-beingに関する取組の推進

3. 会議の構成

会議の構成員は以下のとおりとし、必要に応じ追加することができるものとする。

内閣官房内閣参事官（成長戦略会議事務局）
内閣府大臣官房企画調整課長
内閣府政策統括官（経済社会システム担当）付参事官（総括担当）
消費者庁消費者政策課長
総務省政策統括官（統計制度担当）付統計企画管理官
外務省国際協力局地球規模課題総括課長
文部科学省大臣官房政策課長
厚生労働省政策統括官（総合政策担当）参事官
農林水産省大臣官房環境バイオマス政策課長
経済産業省経済産業政策局経済社会政策室長
経済産業省商務・サービスグループヘルスケア産業課長
国土交通省総合政策局政策課長
環境省大臣官房総合政策課長

4. 事務局

内閣府政策統括官（経済社会システム担当）付参事官（総括担当）とする。

5. その他

会議は原則非公開とする。

その他会議の運営等に関し必要な事項は会議において定める。

6. 設置

令和3年7月30日

関係府省庁におけるWell-being関連の 基本計画等のK P I、取組・予算 (概要)

2021年7月に「Well-beingに関する関係府省庁連絡会議」を設置し、Well-beingに関する取組の推進に向けて、情報共有・連携強化・優良事例の横展開をはかることとした。

本資料及び別添 1、別添 2 は、連絡会議に参画する関係府省庁のWell-being関連の基本計画等のK P I、取組・予算について、暫定的に取りまとめるものである。

2022年10月

内閣府 政策統括官（経済社会システム担当）参事官（総括担当）

1. 基本計画等のWell-beingに関するK P I

＜基本計画等のWell-beingに関するK P I の例＞

基本計画名	策定期期	Well-beingに関連するKPI
教育振興基本計画 (文部科学省)	2018. 6	・ 自分には良いところがあると思う児童生徒の割合 ・ 人の役に立つ人間になりたいと思う児童生徒の割合 ・ 進路について将来の仕事に関することを意識する高校生の割合
子供・若者育成支援 推進大綱（内閣府）	2021. 4	・ 自己肯定感 ・ 今の充実感 ・ 将来への希望 ・ チャレンジ精神 等
住生活基本計画 (国土交通省)	2021. 3	・ 火災・地震・水害などに対する安全への満足率 ・ 近隣の人やコミュニティとの関わりに対する満足率 ・ 新築住宅の建築・購入と既存住宅購入の住宅・居住環境に対する満足率

＜新たに策定された基本計画等のK P I の例＞

基本計画名	策定期期	Well-beingに関連するKPI
スポーツ基本計画 (文部科学省)	2022. 3	【主観的指標】 卒業後にも運動やスポーツをしたいと「思う」「やや思う」児童の割合 等 【客観的指標】 スポーツ実施率、運動習慣者の割合の増加 等

2-1 Well-being関連の統計・調査の例

(1) 調査規模の大きな調査の例

調査名	調査人数	R5概算要求額	Well-beingに関する質問項目の例
全国学力・学習状況調査	約200万人 (全国の小6、中3)	40.0億円 (R4:36.7億円)	挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等
全国体力・運動能力、 運動習慣等調査	約200万人 (全国の小5、中2)	2.3億円 (R4:2.3億円)	運動・スポーツや体育授業の大切さ、嗜好性、充実感、積極性等
国民生活基礎調査	約70万人	— (R4:7.2億円)	健康上の問題の日常生活への影響 現在の健康状態の自己認識

(2) R4年度に実施(予定)の調査の例

調査名	R5概算要求額	Well-beingに関する質問項目の例
人々のつながりに関する基礎調査 (孤独・孤立の実態把握に関する全国調査)	0.4億円 (R4:0.4億円)	孤独感(人とのつきあいが無い・取り残されている・孤立していると感じるか、孤独であると感じる頻度等)
こども・若者の意識と生活に関する調査(子供・若者総合調査)	— (R4:0.7億円)	自己肯定感、居場所に関する認識等
高齢者の健康に関する調査 (高齢者対策総合調査)	0.1億円 (R4:0.1億円)	高齢者の健康、日常生活における生活満足度、生きがい等
青少年の体験活動等に関する意識調査	84.6億円の内数 (R4:84.1億円の内数)	自己肯定感、道徳観、正義感等

2

2-2 Well-being関連の個別分野の事業・取組

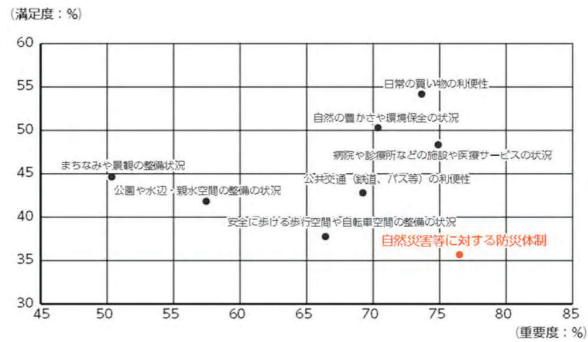
事業名	R5概算要求額	事業・取組の内容
デジタル庁 「Well-Being指標管理システム」	2.6億円	- 地域毎にWell-Being指標を定期的に測定し、KPIを設けて恒常的な改善につなげるため、客観指標と主観指標を整理した上で、基本的なデータや計測ツールについて提供。 「デジタル田園都市国家構想推進交付金」により、採択27自治体のWell-Being指標活用を支援。
厚生労働省 「健康日本21」	16.0億円 (R4:16.0億円)	- 健康寿命を延伸するため、適正な栄養・食生活、適切な運動、禁煙等の具体的な目標を掲げ、ライフステージに応じた健康づくりの取組を総合的に推進。 - 具体的には、民間企業や関係団体等と協力・連携をしながら、取組を推進する「スマート・ライフ・プロジェクト」等を展開。
経済産業省 「健康経営度調査」	9.5億円の内数 (R4:7.5億円の内数)	- 従業員の健康保持・増進に向けた企業の取組である「健康経営」について実施状況を調査。 - 調査結果を活用した「健康経営優良法人認定制度」の運用を通じて、優良な健康経営に取り組む法人を「見える化」し、社会的な評価を受けることができる環境を整備。
経済産業省 「フェムテック等サポートサービス実証事業費補助金」	7.9億円の内数 (R4:6.5億円の内数)	- 妊娠・出産等のライフイベントと仕事の両立やヘルスリテラシーの向上等、個人のWell-Being実現に向け、働く女性に対しフェムテックを活用したサポートサービスを提供する実証事業を実施。 - 事業実施の前後で主観的Well-beingの変化を測り、効果検証。

3

2-3 Well-being関連の分析例（白書等）

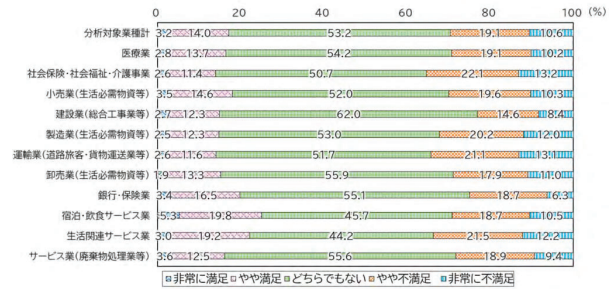
令和4年版国土交通白書

お住まいの地域の生活環境の重要度と満足度の分布



令和3年版労働経済白書

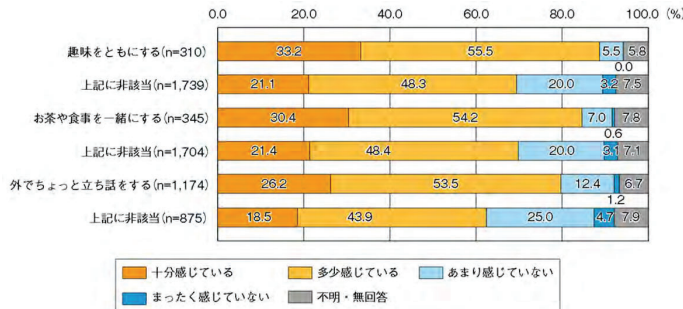
新型コロナウイルス感染症の感染拡大前の平時の賃金の満足度



資料出所（独）労働政策研究・研修機構「新型コロナウイルス感染症の感染拡大下における労働者の働き方に関する調査（労働者調査）」（2021年）をもとに厚生労働省政策統括官付政策統括室にて独自集計
（注）「あなたの仕事に対する給与（時間外手当等を含む）及び賞与への満足度はどの程度でしたか」と尋ねたもの。

令和4年版 高齢社会白書

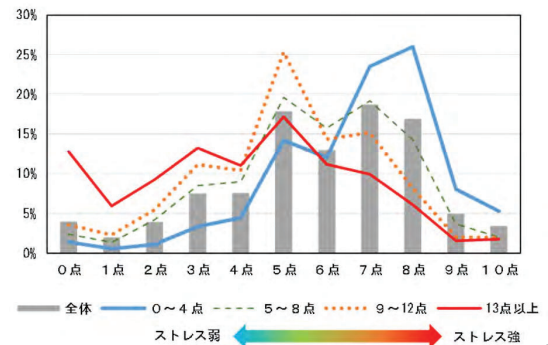
65歳以上の人の生きがいを感ずる程度について
（近所の人との付き合い方別）



※ 四捨五入の関係で回答した人の割合の合計が100.0%とならない場合がある。

令和4年版 満足度・生活の質に関する調査

K6（心の健康状態）と生活満足度の分布



次期教育振興基本計画（令和5(2023)年度～令和9(2027)年度） 諮問の概要

○教育基本法（平成18年法律第120号）第17条第1項（教育振興基本計画）

政府は、教育の振興に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、教育の振興に関する施策についての基本的な方針及び講ずべき施策その他必要な事項について、基本的な計画を定め、これを国会に報告するとともに、公表しなければならない。

社会の変化（2040年以降の社会）

- ・人口減少や高齢化、デジタルトランスフォーメーション、グローバル化や多極化、地球環境問題など
- ・変動性、不確実性、複雑性、曖昧性の時代であり、先行き不透明で将来の予測が困難な未来

望む未来を私たち自身で示し、作り上げていくことが求められる時代

超スマート社会（Society 5.0）

一人一人の人間が中心となる社会
労働市場の構造や職業そのものの抜本的な変化

ウェルビーイング

一人一人の多様な幸せであるとともに社会全体の
幸せでもあるウェルビーイング（Well-being）

- ・「変革を起こすコンピテンシー」、新たな価値を創造していく力
- ・幼児教育・義務教育の基礎の上に、高等学校、さらには大学、高等専門学校、専門学校、大学院までが、より一層の連続性・一貫性の中で有機的につながりを持つとともに、これらが産業界や国際社会も含めた幅広い社会のニーズに応えるものとなること
- ・絶えず変化する予測困難な社会における人材移動を支える社会人の学び直し（リカレント教育）
- ・全ての人がお互いを尊重し、誰もが生き生きとした人生を享受することのできる共生社会を目指し、その実現に向けた社会的包摂を推進

○「令和の日本型学校教育」答申：「個別最適な学び」と「協働的な学び」

- ・一人一台環境の実現や公立小学校における35人学級の計画的整備など教職員定数の改善 等

○「グランドデザイン」答申

- ・「学修者本位」を前提とした制度改正の提言 等

○新型コロナウイルス感染症を契機として

- ・デジタルがもたらす学びにおける可能性の提示、学びの在り方の変容
- ・学校の持つ福祉的機能や教師の存在意義、リアルな体験の持つ価値の再認識

○超スマート社会（Society 5.0）に対応し、幼児教育・義務教育から高等学校、大学、高等専門学校、専門学校、大学院まで全体が連続性・一貫性を持ち、社会のニーズに応えるものとなるよう、教育や学習の在り方も大きく変容が求められる状況。「デジタル」と「リアル」の最適な組合せの観点から、コロナ後の教育や学習の在り方について検討することが必要。

○共生社会を実現していく上で、学習者の背景や特性・意欲の多様性を前提として、学習者視点に立ち、誰もが、いつでもどこからでも、誰とでも、自分らしく学ぶことができ、誰一人取り残されず、一人一人の可能性が最大限に引き出され、一人一人の多様な幸せであるとともに社会全体の幸せでもあるウェルビーイングが実現されるように制度等の在り方を考えていく必要。

諮問事項

- ① 改正教育基本法の基本理念、現行計画の成果と課題、国内状況の変化、国際環境の変化等を踏まえた今後の教育政策に関する基本的な方針について。特に、オンライン教育を活用する観点など「デジタル」と「リアル」の最適な組合せ、及び、幼児教育・義務教育の基礎の上に、高等学校、大学、高等専門学校、専門学校、大学院まで全体が連続性・一貫性を持ち、社会のニーズに応えるものとなる教育や学習の在り方について
- ② 上記の基本的な方針を踏まえた、生涯を通じたあらゆる教育段階における、今後5年間の教育政策の目指すべき方向性と主な施策について
- ③ 学校内外において、生涯を通じて学び成長し、主体的に社会の形成に参画する中で、共生社会の実現を目指した学習を充実するための環境づくりについて
- ④ 第3期教育振興基本計画及びその点検結果を踏まえつつ、多様な教育データをより有効な政策の評価・改善に活用するための方策について

G7富山・金沢教育大臣会合 G7 Education Ministers' Meeting in Toyama and Kanazawa

2023年5月に開催されるG7広島サミット(主要国首脳会議)関係関係会合として、G7富山・金沢教育大臣会合を開催します。

開催まであと68日



富山県(上): 左から「雪の大谷」、「雨晴海岸から望む立山連峰」、「ガラス美術館」
石川県(下): 左から「満開の桜と金沢城」、「ひがし茶屋街と加賀友禅」、「金沢駅もてなしドームと鼓門」

開催概要

- 開催日程 : 令和5年5月12日(金曜日)～15日(月曜日)(5月12日(金)及び13日(土)は富山市、5月14日(日)及び15日(月)は金沢市で開催)
- 開催地 : 富山県富山市、石川県金沢市
- 参加国・機関 : 日本、イタリア、カナダ、フランス、米国、英国、ドイツ、(議長国順)及び欧州連合(EU)
経済協力開発機構(OECD)、国際連合教育科学文化機関(UNESCO)

リンク

- [G7広島サミット\(※首相官邸サイトへリンク\)](#)
- [富山県G7教育大臣会合サイト\(※富山県サイトへリンク\)](#)
- [石川県G7教育大臣会合サイト\(※石川県サイトへリンク\)](#)



G7富山・金沢教育大臣会合概要

G7サミット（主要国首脳会議）とは

G7サミット（主要国首脳会議）とは、フランス、米国、英国、ドイツ、日本、イタリア、カナダ（議長国順）の7か国並びに欧州連合(EU)が参加して、毎年開催される国際会議です。

G7サミットでは、自由、民主主義、人権などの基本的価値を共有するG7首脳が一つのテーブルを囲みながら、世界経済、地域情勢、様々な地球規模課題について、率直な意見交換を行います。

G7サミットの日本での開催は2023年が7回目で、今回は広島サミットが開催されます。

関連リンク

- [G7広島サミット公式HP（外務省）](#)
- [G7広島サミット県民会議（広島県）](#)
- [G7富山・金沢教育大臣会合（文部科学省HP）](#)
- [G7富山・金沢教育大臣会合（石川県HP）](#)

G7富山・金沢教育大臣会合とは

広島サミット（5月19日～21日）に合わせて、関係閣僚会合が各地で開催されます。

本県と石川県では、5月12日～15日に教育大臣会合が開催されます。国内で開催した閣僚会合で、複数自治体による共催は初めてとなります。



↑ 2016年に富山県で開催された、G7環境大臣会合の様子

関係閣僚会合一覧

会合名	開催地	日程
気候・エネルギー・環境大臣会合	北海道札幌市	4月15日（土曜日）～16日（日曜日）
外務大臣会合	長野県軽井沢町	4月16日（日曜日）～18日（火曜日）
労働雇用大臣会合	岡山県倉敷市	4月22日（土曜日）～23日（日曜日）
農業大臣会合	宮崎県宮崎市	4月22日（土曜日）～23日（日曜日）
デジタル・技術大臣会合	群馬県高崎市	4月29日（日曜日）～30日（月曜日）
財務大臣・中央銀行総裁会議	新潟県新潟市	5月11日（木曜日）～13日（土曜日）
科学技術大臣会合	宮城県仙台市	5月12日（金曜日）～14日（日曜日）
教育大臣会合	富山県富山市・石川県金沢市	5月12日（金曜日）～15日（月曜日）
保健大臣会合	長崎県長崎市	5月13日（土曜日）～14日（日曜日）
交通大臣会合	三重県志摩市	6月16日（金曜日）～18日（日曜日）
男女共同参画・女性活躍担当大臣会合	栃木県日光市	6月24日（土曜日）～25日（日曜日）
都市大臣会合	香川県高松市	7月7日（金曜日）～9日（日曜日）
貿易大臣会合	大阪府堺市	10月28日（土曜日）～29日（日曜日）
内務・安全担当大臣会合	茨城県水戸市	12月8日（金曜日）～10日（日曜日）

お問い合わせ

所属課室：経営管理部行政経営室G7教育大臣会合推進班
〒930-8501 富山市新総曲輪1-7 県庁本館2階
電話番号：076-444-3586
ファックス番号：076-444-8694

富山県庁 法人番号 7000020160008

〒930-8501 富山市新総曲輪1番7号

電話番号: (代表)076-431-4111

Copyright © Toyama Prefecture All rights reserved.

● 永岡桂子文部科学大臣記者会見録（令和4年9月16日）

令和4年9月16日（金曜日）

永岡桂子文部科学大臣記者会見映像版

令和4年9月16日（金曜日）に行われた、永岡桂子文部科学大臣の記者会見の映像です。



[令和4年9月16日永岡桂子文部科学大臣記者会見（※「YouTube」文部科学省動画チャンネルへリンク）](#)

永岡桂子文部科学大臣記者会見テキスト版

大臣）

おはようございます。それでは、冒頭、私から2件、お話をさせていただきます。

1点目は、**G7教育大臣会合の開催地の決定**についてでございます。本日の閣議で、来年5月19日から21日に広島で開催されるG7サミットの関係閣僚会合の開催地につきまして官房長官からご発言がありました。当省関係では、**教育大臣会合について、富山県と、そして石川県の共同で開催されることになりました。**なお、具体的な開催日程等につきましては、今後、富山県、石川県ともご相談の上、決定していくこととなります。教育は、国際社会におきまして、常に重要なテーマでございます。私も、先日開催されましたG20の教育大臣会合にビデオメッセージを送る形で参加をいたしました。当該会合におきましても、誰もが享受できる質の高い教育、教育におけるデジタル技術の活用等、まさに世界各国が直面する課題につい

て知見を共有したところでございます。日本では、開催する教育大臣会合は、倉敷教育大臣会合に続きまして3回目となります。富山県、石川県とも連携をいたしまして、来年G7教育大臣会合での成果を我が国の今後の教育政策に生かせるよう、しっかりと準備に取り組んでまいりたいと考えております。

2件目でございます。一昨日、14日になりますが、できるだけ早く訪問をしたいと希望しておりました福島県に出張してまいりました。最初に訪問した「なみえ創成小学校・中学校」は、平成28年度末の一部地域の避難指示解除を受けまして、平成30年に新たに開校した学校でございます。今回、様々な授業などを拝見いたしました。特に、「ふるさと創造学」の研究発表では、地域の課題を解決しようと探究学習に取り組む子供たちの姿に触れることができました。ふるさとの未来を自分たちで一生懸命切りひらこうというその力強さというのを味わった感じでした。また、ICTを活用いたしまして、いわき市に避難中の双葉町立双葉中学校と遠隔で交流事業を行うなど、様々な工夫がなされていることも非常に感銘を受けました。次に、伊澤双葉町長と吉田大熊町長を訪問させていただきまして、お話を伺いました。伊澤双葉町長からは、8月の特定復興再生の拠点区域の避難指示の解除を受けまして、これから学校再開に向けた検討の予定などのお話を伺いましたし、また、吉田大熊町長からは、来年4月の開校に向けまして建設中でございます、認定こども園と義務教育学校とが一体となった施設、「学び舎ゆめの森」の概要などのお話を伺いました。さらに、両町長からは、集団訴訟の裁判の確定を踏まえました中間指針の見直しのご要望もいただきました。最後に訪問いたしました、富岡町のJAEA廃炉環境国際共同研究センターでは、廃炉に向けた研究や人材育成の状況を伺いまして、若手研究者や海外からの研究者の方を激励をさせていただきました。この出張で、震災から11年が経ち、復興に向けた歩みが着実に進んでいることを実感したわけでございます。学校の児童生徒の教育環境の充実ですとか、また、東電の福島原発事故の被災者の皆様方に対する迅速・公平・適切な賠償、そして東電福島第一原発の廃炉の現場を支える長期的な取組への支援を、引き続きまして、着実に進めてまいりたいと考えております。今後も、文部科学大臣といたしまして、「東北の復興なくして日本の再生なし」と、その強い思いから、被災地の皆様に寄り添い、そして福島復興・再生に向けて全力で取り組んでまいる所存でございます。私からは、以上でございます。

記者)

1問お伺いします。一昨日、千葉県内の中学生が、起立性調節障害で登校できない児童生徒への教育機会確保のための支援が必要だとして、提言を文科省に提出しました。提言では実態調査の実施などについて求めています。こういった調査や教育機会確保に向けた支援を行うお考えはありますか。大臣の考えをお聞かせください。

大臣)

生徒自身で社会的な課題を発見をして、試行錯誤しながら課題解決方法の、その策をですね、検討し、一つの提言書という形でまとめるといった活動は大変素晴らしい取組だと思います。ご指摘の起立性調節障害につきましては、思春期に発症しやすい、自律神経機能不全の一つで、立ちくらみや倦怠感、動悸、また頭痛などの症状を伴い、朝起きるのが辛くなることも多い疾病でございます。このため、不登校になって、そういう場合もあるということは承知をしているところでございます。文部科学省といたしましては、各学校におきまして、起立性調節障害について、教職員が理解を深め、そして児童生徒に対しまして健康相談や保健指導を行うなど、しっかり対応できるよう、事例を紹介した指導手引きを作成するとともに、指導主事を集めました会議などにおきまして周知を図ってきたところでございます。また、不登校となってしまう児童生徒に対しては、教育相談体制の充実とともに、ICT等も活用した多様な教育機会の確保が図られるように努めているところでございます。引き続きまして、起立性

調節障害を含めた健康課題を抱える児童生徒に対し、各学校におきましてきめ細やかな対応が行われるように取り組んでまいり所存でございます。以上です。

記者）

私、こども基本法と学校教育の件で伺いたいと思います。現在、中教審で、学校教育の方針を示す次の教育振興基本計画が検討されていますけれども、8月下旬の前回会合で示された骨子案の中では、こども基本法ですとかこどもの権利に関する表記というのは見当たりませんでした。昨日、民間団体の方が大臣に要望されているところでもあるんですけれども、こうしたこども基本法と教育基本振興基本計画の在り方をどうお考えなのか。また、この問題ってというのは、どうしても文部科学省とこども家庭庁の2つの役所にまたがる場所なので、どうしても行政の縦割りに陥りやすいという一面があるかと思うんですけども、そうしたこども基本法ですとかこどもの権利に関する考え方を学校現場に浸透させていく方法について、何かしらお考えがありましたら教えてください。

大臣）

いろいろ、今お話しいただきましたが、これは児童の権利に関する条約ということでございます。これは、やはり学校の運用の見直しなどの場面におきまして、児童生徒の意見を聞くなどということは、やはり児童生徒の主体性を養うということにもつながりまして、大変教育的な意義を有するものと考えております。他方、ご指摘の児童の権利に関する条約に関しましては、平成6年度の通知は、年齢や成熟の度合いによりまして、児童生徒の意見が相応に考慮されるべき旨を示しているものでございます。これは、こども基本法の考えと軌を一にするものと考えていることから、やはり現時点におきましては、こども基本法の成立を契機に、通知を廃止することは考えておりませんが、しかしながら、文部科学省といたしましては、こども基本法の周知につきまして、内閣官房の取組も協力するとともに、教育的意義の観点からですね、児童生徒の主体性を育む取組を進めてまいりたいと考えているところでございます。

記者）

すみません、最初に伺った教育振興基本計画のところはいかがでございましょうか。

大臣）

次期の教育振興基本計画につきましてでございますが、現在、中央教育審議会教育振興基本計画部会におきましてご議論をいただいているところでございます。議論の中では、こども基本法を踏まえまして、子供の基本的人権の保障やこどもの権利利益の擁護の観点の重要性についても、委員から指摘をされているところでございます。こうした意見も踏まえつつですね、引き続きまして、審議を行っていただきたいと考えているところでございます。

記者）

新型コロナワクチン接種の関係でお尋ねしたいんですけども、オミクロン株対応の新しいワクチンが承認されて、高齢者等から順次始まっていくと思うんですが、大学を拠点とした接種については、このオミクロン株対応ワクチンはどんなふうに対応されるのかお聞かせください。

大臣）

大学の拠点接種は、職域接種の枠組みを活用いたしまして、大学等を中核といたしまして、まず自分の大学の教職員、そして学生、のみならずですね、近隣の教育関係者、また学生などへのワクチン接種を行うものでございます。これまで、1・2回、2回目の、いわゆる初回

接種と3回目接種を合わせまして、延べ195万人分の接種を進めてきたところでございます。オミクロン株対応のワクチンの職域接種につきましては、14日に、官房長官から「これまでと同様に実施をする方向で調整をしている」という旨の発言がございました。文部科学省といたしましても、政府全体の方針を踏まえまして、大学の声も聞きながら、希望する大学等において拠点接種が実施をされ、そして、ワクチン接種を望む学生などの皆様方に、機会を提供できるように支援をしてまいりたいと考えております。以上です。

記者）

一応、確認なんですけれど、そうすると希望する大学では、大学の拠点接種を同様にできるように調整されているということでしょうか。

大臣）

はい。そういうことでございます。

記者）

G7サミットについてお伺いします。今回、富山県、石川県共同開催となるということですが、2県を評価された点と、これまでに過去に例がない共同開催とされる理由、目的を教えてください。

大臣）

開催地の選定に当たりましては、誘致に名乗りを上げてこられた地方公共団体の中から、会場、宿舎、警備等の様々な観点から検討を進めまして、政府として、富山県と、そして石川県に決定されたものと承知をしております。今、お話のように、これまで日本で開催いたしましたG7の関係閣僚会合では、複数の自治体によります共催実績はございません。今回が初めての試みと承知をしているところでございます。両県は、両方とも地理的に隣接をしておりますし、また、教育熱心な土地柄を生かしまして、インクルーシブ教育、ICT教育、そしてSTEAM教育、ウェルビーイング教育など、本当にポストコロナ教育を意識しました招致提案をされていたと承知をしているところでございます。両県の関心事ですね、こういうものを、しっかり、問題意識は、相互に、やはり親和性、そして補完性の高いものでございまして、両県のこれまでの取組、そして知見が、今回の教育大臣会合を一層有意義なものとしていただけると、私は大いに期待をしているところでございます。そうですね、開催予定日時ですね、そういうことは、今後の、両県とですね、両県の関係者の方々と十分に相談の上、決めていきたいというふうに考えているところでございます。

記者）

ありがとうございます。現状想定でもよろしいんですが、教育と言っても幅広い分野あると思うんですけれども、議論の想定されるテーマ、考えがありましたらお願いいたします。

大臣）

具体的なテーマにつきましては、今後、両県とも相談しまして決めていくことになりますが、やはり、コロナ禍が社会にもたらした影響ですとか変化ですね、教育がどのように対応し、そして、ポストコロナの社会で求められる人材を育てていくのかということが、一応、大きな柱となるのではないかと考えているところでございます。

記者）

生徒指導提要に関連して質問させていただきます。先ほどの質問と被ってしまうんですけど、安全な生徒指導を考える会の方々が、大臣に不適切指導に関する要望書を出されたかと思います。様々な要望事項がありますが、この受け止めをお聞かせください。また、新たな生徒指導提要には不適切指導の項目が入りますが、こうした項目を盛り込む狙いと、学校現場での浸透に向けてどのように取り組まれるのかお聞きします。

大臣）

昨日、こども基本法の成立を求めるPTの方、そして、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの方、また、安全な生徒指導を考える会の方のご訪問をいただきまして、こども基本法の精神の教育行政での実現などについて要望いただいたところでございます。具体的には、現在改訂中の生徒指導提要を受けまして、生徒指導上の不適切指導への対応を進めることや、こども基本法の精神・規定を受けました教育委員会や学校への周知等などについて要望をいただいたわけでございます。私の方からは、不適切な指導に係ります内容を生徒指導提要の改訂案に明記をしております、今後、その周知徹底を図っていくこと、そして、こども基本法の周知につきましては、こども家庭庁の準備室とも連携をしつつ、積極的に対応していくことを申し上げました。私といたしましても、生徒、児童の主体性を育むことは極めて重要だと考えておりますので、こども基本法の周知については、しっかりと取り組んでまいるという所存でございます。また、教職員によります不適切な指導等が不登校や自殺のきっかけになる場合もあることから、体罰や不適切な言動等は、学校生活全体で、いかなる児童生徒に対しても決して許されないことだと考えております。私といたしましても、不適切な指導等による児童生徒の自殺をゼロにしないとの決意を、昨日の要望でも申し上げた次第でございます。ご指摘の生徒指導提要の改訂案におきましては、児童生徒に対しまして懲戒を行う際には、本人や関係者の言い分をしっかりと聞き、また、事実関係の確認を含めて適正な手続を経ること、そして、指導を行った後には、やはり、子供1人、生徒1人を残さずに、心身の状況をですね、しっかりと観察をするなど、指導後のフォローが重要であることなどを明記をいたしました上で、さらに、不適切な指導と捉えられる例をですね、具体的に記載をいたしました。今後、生徒指導提要の改訂内容をしっかりと現場に周知をされ、活用いただくことが重要と考えているところでございまして、生徒指導担当者向けの研修会等にですね、様々な機会を通じまして、学校現場への浸透を図って参りたいと考えているところでございます。以上です。

（了）

[▶ ページの先頭に戻る](#)

お問合せ先

大臣官房総務課広報室

（大臣官房総務課広報室）

「ウェルビーイング」を冠した学部・学科・学位を持つ大学

学部名	学科名	学位の名称
West Virginia University(米)	College of Applied Human Sciences	Bachelor of Arts in <u>Health and Well-being</u>
		Bachelor of Science in <u>Health and Well-being</u>
University of Minnesota(米)	College of Continuing & Professional Studies	Bachelor of Science in <u>Health and Wellbeing Sciences</u>
University of Winchester(英)	Faculty of <u>Health and Wellbeing</u>	Bachelor of Arts (Hons) in <u>Health and Well-being</u>
Cardiff Metropolitan University(英)	School of Sport and Health Sciences	Bachelor of Science (Hons) in <u>Health and Wellbeing</u>
Edge Hill University(英)	Faculty of Health, Social Care and Medicine	Bachelor of Arts (Hons) in <u>Health & Social Wellbeing</u>
University of Bradford(英)	Study of Social Care and Community	Bachelor of Science (Hons) in <u>Public Health and Community Wellbeing</u>
Wrexham Glyndwr University(英)	Faculty of Social & Life Sciences	Bachelor of Science (Hons) in <u>Mental Health & Wellbeing</u>
Canterbury Christ Church University(英)	Faculty of Medicine, Health and Social Care	Bachelor of Science (Hons) in <u>Mental Health, Wellbeing & Society</u>
University of South Wales(英)	Faculty of Life Sciences and Education	Bachelor of Science (Hons) in <u>Community Health & Wellbeing</u>
The Glasgow School of Art(英)	Innovation School	Bachelor of Design (Hons) for <u>Health and Wellbeing</u>
Hong Kong Baptist University(香)	Faculty of Social Sciences	Bachelor of Science (Hons) in Innovation in <u>Health and Social Well-being</u>
		Bachelor of Social Sciences (Hons) in Innovation in <u>Health and Social Well-being</u>

概要

OECD ラーニング・コンパス（学びの羅針盤）2030

OECD ラーニング・コンパス（学びの羅針盤）2030（訳注：以下、ラーニング・コンパス）は OECD Future of Education and Skills 2030 プロジェクトの成果であり、教育の未来に向けての望ましい未来像を描いた、進化し続ける学習の枠組みです。教育の幅広い目標を支えるとともに、私たちの望む未来(Future We Want)、つまり個人のウェルビーイングと集団のウェルビーイングに向けた方向性を示します。

ラーニング・コンパスという比喻は、生徒が教師の決まりきった指導や指示をそのまま受け入れるのではなく、未知なる環境の中を自力で歩みを進め、意味のある、また責任意識を伴う方法で、進むべき方向を見出す必要性を強調する目的で採用されました。

この枠組みは生徒が 2030 年以降も活躍するために必要なコンピテンシーの種類に関する幅広いビジョンを提供しています。この枠組みはまた、ローカルな文脈に合わせて調整できる余地を残しながら、グローバルに妥当で、情報交換のできる共通の言語と理解を育んでいくものです。

ラーニング・コンパスの構成要素には学びの中核的な基盤（訳注：エージェンシーと変革を起こすコンピテンシーを育む土台となる主な力）、知識、スキル、態度と価値、より良い未来の創造に向けた変革を起こすコンピテンシー、そして見通し (Anticipation)、行動 (Action)、振り返り (Reflection) の AAR サイクル（これらの構成要素に関しては各要素の concept notes を参照）が含まれます。ラーニング・コンパスは、生徒が周囲の人々、事象、そして状況をより良いものにすることを学ぶ上で、責任ある有意義な行動を取るための方向性を決めるために生徒が使うことができるツールであることから、生徒エージェンシー (concept note を参照) はラーニング・コンパスの中心的な概念です。

キー・ポイント

- ・ ラーニング・コンパスは評価の枠組みでもカリキュラムの枠組みでもありません。大きな構造における学習の幅広い範囲と種類を明確にすることで学習そのものが持つ価値を認めています。そして、学習が学校の中だけで起きているわけではないことも示しています。
- ・ この学習の枠組みは、教育システムをより良いものへと変革することに貢献する意思をもった世界の政府代表者、研究者、学校のリーダー、教師、生徒、そしてソーシャル・パートナーの協働によって生み出された成果物です。
- ・ 社会的ウェルビーイングという概念は、年月の経過により、これまでの経済や物質的な豊かさよりも多くの意味を含むようになりました。私たちが望む未来には数多くのビジョンが存在するかもしれませんが、社会のウェルビーイングは共通の目的地です。

OECD ラーニング・コンパス（学びの羅針盤）2030

歴史的に見て、教育は社会変革の波に乗り遅れることがほとんどでした。19 世紀と 20 世紀における教育システムは突発的な拡大と再構築を時折行うことで変化してきました。しかしこれらの突発的な時期を外せば、カリキュラムは往々にして静的であり、直線的で固定的な構造を持っていました。また産業形態としての学校教育では、生徒が授業を受動的に受けることが期待されていました（[OECD Future of Education and Skills 2030 project background](#) を参照）。しかし我々の世界を変革し、数多くの分野で現状の制度を覆す深淵かつ広域な変化に直面する今日、教育の目標や活躍するために必要な生徒のコンピテンシーを再考する必要があるという認識が広がっています。地球規模のトレンドである、デジタル化、気候変動、人工知能の発展の 3 つの要因だけとて、これらは教育の目標や方法を根本的に見直す必要性を呼び起こしているといえます。

2015 年、OECD の教育政策委員会は、客観的な立場から俯瞰し、教育が直面する長期的な課題を検討するとともにカリキュラムの設計や開発をより体系的かつ根拠に基づいたものにするため、OECD Future of Education and Skills 2030 プロジェクトを立ち上げることに合意しました。このプロジェクトの目的は、世界の国々が次の 2 つの大きな問いへの答えを見つけられるようにすることです：

- 現代の生徒が成長して、世界を切り拓いていくためには、どのような知識や、スキル、態度及び価値が必要か。
- 学校や授業の仕組みが、これらの知識や、スキル、態度及び価値を効果的に育成していくことができるようにするためには、どのようにしたらよいか。

これらの問いに対するひとつの答えとして、OECD Future of Education and Skills 2030 プロジェクトは **2030 年の教育に求められている未来像を描いた、進化し続ける学習の枠組みである OECD ラーニング・コンパス（学びの羅針盤）2030（図 1 を参照）**を開発しました。このラーニング・コンパスは、個人や社会のウェルビーイング：私たちの望む未来（Future We Want）に向けた方向性を示しています。ラーニング・コンパスは、学習者個人、教育実践者、システム・リーダー、政策立案者、組織の意思決定者といった複数のレベルで利用できるように、共有する未来に含まれる中核的な目標や要素を言語化することによって、彼らの努力を明確にし、結びつけ、また方向づけることを目標としています。

ラーニング・コンパスは様々なステークホルダーが形成する幅広いコミュニティにより時間と共に改良される「進化し続ける枠組み」です。この学習の枠組みは、教育システムをより良いものへと変革することに貢献する意思をもった政府代表者、研究者、学校のリーダー、教師、生徒、そしてソーシャル・パートナーの協働によって生み出された成果物です。これらのステークホルダーの出身国は多様です。そのため、この枠組みはまた、ローカルな文脈に合わせて調整できる余地を残しながら、グローバルに妥当で、かつ情報交換のできる共通の言語と理解を育んでいくものです。

ラーニング・コンパスは評価の枠組みでもカリキュラムの枠組みでもない

ラーニング・コンパスが提示するのは「評価の枠組み」ではなく、「学習の枠組み」です。この枠組みでは、どのようなコンピテンシーが評価されるべきか、あるいは評価できるのかではなく、生徒が 2030 年に活躍するために必要なコンピテンシーの種類に関する幅広いビジョンを提示しています。「測定されるものは大切にされる」と一般的に言われますが、この学習の枠組みは（少なくとも現段階では）測定できないものに価値を認められるようにします。つまりラーニング・コンパスは、大きな構造のもとで幅広い範囲と種類の学習があることを明確にし、学習そのものに価値があることを認めます。それと同時に、評価を主導するものとして学習の枠組みを使うこともできます。例えば生徒の進捗状況を確認しながら支援するために、どのような文脈においてどのような学習を優先させるべきかを話し合うことができます。

近隣競合校及び偏差値上位校の初年次納入金等

1. 近隣競合校

大学名	学部学科	入学定員 【単位：人】	初年次納入金（※１） 【単位：円】				在学期間 合計（※１） 【単位：円】
			入学金	授業料	その他	初年次合計	
法政大学	現代福祉学部 福祉コミュニティ学科	150	240,000	831,000	228,000	1,299,000	4,476,000
東洋大学	ライフデザイン学部(※２) 人間環境デザイン学科	160	250,000	880,000	330,000	1,460,000	5,090,000
明星大学	人文学部人間社会学科	80	200,000	800,000	370,000	1,370,000	4,880,000

2. 偏差値上位校

大学名	学部学科	入学定員 【単位：人】	初年次納入金（※１） 【単位：円】				在学期間 合計（※１） 【単位：円】
			入学金	授業料	その他	初年次合計	
明治大学	文学部心理社会学科哲学専攻	45	200,000	841,000	258,000	1,299,000	4,626,000
立教大学	コミュニティ福祉学部 コミュニティ政策学科	154	200,000	1,128,000	3,000	1,331,000	—

（※１）日本私立大学連合会「令和４年度学生納金等調査」より引用

（※２）東洋大学ライフデザイン学部人間環境デザイン学科及び社会学部社会福祉学科は、2023年度福祉社会デザイン学部へ改組予定

（参考）武蔵野大学

大学名	学部学科	入学定員 【単位：人】	初年次納入金 【単位：円】				在学期間 合計 【単位：円】
			入学金	授業料	その他	初年次合計	
武蔵野大学	ウェルビーイング学部 ウェルビーイング学科	80	180,000	1,020,000	275,000	1,475,000	5,360,000
武蔵野大学	人間科学部人間科学科	215	180,000	820,000	178,000	1,178,000	4,472,000
武蔵野大学	工学部サステナビリティ学科	70	180,000	1,020,000	275,000	1,475,000	5,360,000

1（書類等の題名）

武蔵野大学 令和2年度～令和4年度 出身高校都道府県別新入生数
（【資料11】25ページ）

2（出典）

学校法人武蔵野大学経営企画部大学入試センター事務課所持データ

3（その他の説明）

本内容は、学内資料（学外秘）であり、省略とする。

(仮称)

QR
コード

武蔵野大学

ウェルビーイング学部

ウェルビーイング学科 (仮称)

2024年4月開設予定 (設置構想中)

* 概要・計画等は予定であり、今後、変更になる場合があります。

Q: 「ウェルビーイング」ってなに？

A: 幸せ・生きがい・安心・福祉・健康・平和など、一人一人の多様な幸せと社会全体の幸せをカタチにしている状態のことです。

ウェルビーイング学部の特徴 (設置の理念、養成する人材像)

ウェルビーイング学部の最大の特徴は、環境学、経済学、ポジティブ心理学、デザイン工学等を学び、自然、地域、企業、世界での実習を通して一人一人の多様な幸せと社会全体の幸せをカタチにできる人材を育成することです。

世界がキャンパス

ウェルビーイング学・ポジティブ心理学等を得意とする海外大学との連携、短期留学ができる

日本中がキャンパス

全国各地域 (沖縄から北海道まで) と連携し、自然体験や地域課題解決型実習ができる

企業がキャンパス

ウェルビーイングに関心が高い企業、病院、福祉施設、自治体等で創造的な実習ができる

卒業後のイメージ

① ウェルビーイング産業デザイナー

グローバルな世界をフィールドとして、ウェルビーイングな世界や産業を創出する人材

(例) 企業 (メーカー、商社、医療看護、介護福祉等) や教育現場でのウェルビーイング推進担当者、起業家 等

② ウェルビーイング地域デザイナー

地域をフィールドとして、それぞれの地域の特色をいかしたウェルビーイングをデザインし、地域活性化を担う人材

(例) ウェルビーイングな地域の創生を目指す自治体の公務員、企業への就職、NPO諸団体への所属 等

③ ウェルビーイングの専門家

大学院に進学し、ウェルビーイングの学問研究の方法論をさらに学び、ウェルビーイングな世界を総合的にデザインしていく人材

(例) 海外・国内の大学院進学、研究機関・シンクタンク職員 等

設置場所・入学定員・学費

○ 武蔵野キャンパス (〒202-8585 東京都西東京市新町一丁目1番20号)

○ 入学定員 80名

○ 初年度納入金 1,475,000円※

※ 入学金、授業料、教育充実費等 (諸会費等別途)

※ 学費は現時点での予定であり、変更になる場合があります。

<類似する分野の学問を学ぶ他の大学>

○ 東洋大学 福祉社会デザイン学部 人間環境デザイン学科 (2023年度開設予定)

○ 法政大学 現代福祉学部 福祉コミュニティ学科 ○ 明星大学 人文学部 人間社会学科

吉祥寺 三鷹 武蔵境	バス 7~15分	武蔵野 キャンパス
田無	徒歩 15分	

世界の幸せをカタチにする。



武蔵野大学

高校生アンケートの結果

1. 実施時期：令和 4 年 12 月 13 日～令和 5 年 1 月 20 日
2. 対象：東京都の高校生（高校 2 年生）60 校
3. 回答：東京都の高校生（高校 2 年生）7,638 人

4. 全アンケート結果（有効回答のみ）

問 1. あなた自身についてお聞きます。

①性別

回答	回答数	割合 (%)
男性	3,562	46.6%
女性	3,794	49.7%
その他	57	0.7%
回答しない	221	2.9%
無回答	4	0.1%
合計：	7,638	100%

②高校所在地

回答	回答数	割合 (%)
東京都	7,631	99.9%
無回答	7	0.1%
合計：	7,638	100%

③高校名

開示せず

④学年

回答	回答数	割合 (%)
高校 2 年生	7,638	100%
合計：	7,638	100%

問 2. あなたは高校卒業後、4 年制大学への進学を希望しますか。

回答	回答数	割合 (%)
希望する	5,940	77.8%
希望しない	825	10.8%
わからない	835	10.9%
その他	36	0.5%
無回答	2	0.0%
合計：	7,638	100%

問 3. 高校卒業後に何かを学ぶとしたら、どのような学問分野に興味がありますか。

文部科学省が示す以下 17 の学問体系から選んでください。(複数回答可)

回答	回答数	割合 (%)
文学関係	1,717	13.4%
教育学・保育学関係	1,119	8.8%
法学関係	783	6.1%
経済学関係	1,860	14.6%
社会学・社会福祉学関係	873	6.8%
理学関係	844	6.6%
工学関係	765	6.0%
農学関係	275	2.2%
獣医学関係	192	1.5%
医学関係	607	4.8%
歯学関係	97	0.8%
薬学関係	258	2.0%
家政関係	268	2.1%
美術関係	669	5.2%
音楽関係	405	3.2%
体育関係	721	5.6%
保健衛生学関係	330	2.6%
上記以外の複合分野（リベラルアーツなど、文系・理系の区別なく幅広い学び）	322	2.5%
その他	666	5.2%
合計：	12,771	100%

問4. 「ウェルビーイング」について大学で学ぶことに興味がありますか。

回答	回答数	割合 (%)
とても興味がある	291	3.8%
興味がある	2,211	28.9%
あまり興味がない	3,390	44.4%
全く興味がない	1,707	22.3%
無回答	39	0.5%
合計：	7,638	100%

問5. 武蔵野大学では「ウェルビーイング」について学ぶ「ウェルビーイング学部」を開設予定です。ウェルビーイング学部の受験を希望しますか。

回答	回答数	割合 (%)
ぜひ受験したい	90	1.2%
やや受験したい	1,193	15.6%
あまり受験したくない	3,488	45.7%
全く受験したくない	2,848	37.3%
無回答	19	0.2%
合計：	7,638	100%

問6. 問5で「ぜひ受験したい」もしくは「やや受験したい」と回答した方にお聞きします。武蔵野大学ウェルビーイング学部に合格した場合、入学を希望しますか。

回答	回答数	割合 (%)
ぜひ入学したい	127	9.9%
やや入学したい	930	72.5%
あまり入学したくない	199	15.5%
全く入学したくない	24	1.9%
無回答	3	0.2%
合計：	1,283	100%

問7. 問6で「ぜひ入学したい」もしくは「やや入学したい」と答えた方にお聞きします。
 ウェルビーイング学部に入學したら、将来は何になることを目指して勉強したいですか（複数回答可）。

回答	回答数	割合（%）
ウェルビーイング産業デザイナー	265	22.3%
ウェルビーイング地域デザイナー	240	20.2%
ウェルビーイングの専門家	85	7.1%
まだ分からないが、ウェルビーイングに興味がある	590	49.5%
無回答	11	0.9%
合計：	1,191	100%

5. クロス集計結果

① ウェルビーイングについて大学で学ぶことへの興味

5-①-1 : ウェルビーイングを大学で学ぶことへの興味

問4. 「ウェルビーイング」について大学で学ぶことに興味がありますか。

回答	回答数	割合 (%)
とても興味がある	291	3.8%
興味がある	2,211	28.9%
あまり興味がない	3,390	44.4%
全く興味がない	1,707	22.3%
無回答	39	0.5%
合計 :	7,638	100%

↓ 「とても興味がある」または「興味がある」2,502 人のみ抽出

② 興味のある学問分野

5-①-2 : 「文学関係」「社会学・社会福祉学関係」のいずれかの学問分野への興味

問3. 高校卒業後に何かを学ぶとしたら、どのような学問分野に興味がありますか。

文部科学省が示す以下17の学問体系から選んでください。(複数回答可)

回答	回答数	割合 (%)
「文学関係」「社会学・社会福祉学関係」 のいずれかの学問分野への興味	931	37.2%
その他 (無回答含む)	1,571	62.8%
合計 :	2,502	100%

↓ 「文学関係」「社会学・社会福祉学関係」のいずれかの学問分野への興味がある931 人のみ抽出

③進路希望

5-②：4年制大学への進学希望

問2. あなたは高校卒業後、4年制大学への進学を希望しますか。

回答	回答数	割合 (%)
希望する	818	87.9%
希望しない	32	3.4%
わからない	79	8.5%
その他	2	0.2%
無回答	0	0%
合計：	931	100%

↓ 「希望する」818人のみ抽出

④受験意向

5-③：武蔵野大学ウェルビーイング学部の受験意向

問5. 武蔵野大学では「ウェルビーイング」について学ぶ「ウェルビーイング学部」を開設予定です。ウェルビーイング学部の受験を希望しますか。

回答	回答数	割合 (%)
ぜひ受験したい	33	4.0%
やや受験したい	387	47.3%
あまり受験したくない	334	40.8%
全く受験したくない	64	7.8%
無回答	0	0%
合計：	818	100%

↓ 「ぜひ受験したい」または「やや受験したい」420人のみ抽出

⑤入学意向

5-④：武蔵野大学ウェルビーイング学部への入学意向

問6. 問5で「ぜひ受験したい」もしくは「やや受験したい」と回答した方にお聞きします。

武蔵野大学ウェルビーイング学部に合格した場合、入学を希望しますか。

回答	回答数	割合 (%)
ぜひ入学したい	48	11.4%
やや入学したい	325	77.4%
あまり入学したくない	47	11.2%
全く入学したくない	0	0%
無回答	0	0%
合計：	420	100%

↓東京都からの本学部への入学志願者数=373人

※割合 (%) は小数点第2位で四捨五入しているため、各項目の合計が 100.0%にならない場合がある

1（書類等の題名）

武蔵野大学 外国人留学生の志願者数等推移
（【資料 14】 3 5 ページ）

2（出典）

学校法人武蔵野大学経営企画部大学入試センター事務課所持データ

3（その他の説明）

本内容は、学内資料（学外秘）であり、省略とする。

同分野を有する近隣大学等の志願動向の調査

類似分野（文学（哲学・思想）、社会学、社会福祉学等）を学べる大学

分類	大学名	学部学科	入学 定員 【単位：人】	志願者（※1）【単位：人】			偏差値 （※3）	通学 キャンパス	最寄駅	養成する人材像等
				令和4年度	令和3年度	令和2年度				
文学関係	東洋大学	文学部東洋思想文化学科	100	894	1,194	非公開	55.0	白山 キャンパス	都営三田線 白山駅ほか	世界を見渡す広い視野と、自らを見つめる力を養い、豊かな教養と国際性を備えた人財を目指す。
			志願者倍率	8.94	11.94	—				
	専修大学	文学部哲学科	76	930	926	1,280	50.0	生田 キャンパス	小田急線 向ヶ丘遊園駅	ものごとを分析的に捉え、粘り強く筋道立って思考する力を持つとともに、自分の考えや立場を絶対視することなく、他者や異なる文化を、他者として、異なる文化として理解することのできる柔軟な発想を備えた人材を養成。
			志願者倍率	12.24	12.18	16.84				
	明治大学	文学部心理社会学科哲学専攻	45	617	521	617	62.5	【1、2年】 和泉 キャンパス 【3、4年】 駿河台 キャンパス	【和泉】 京王線 明大前駅 【駿河台】 JR中央線ほか 御茶ノ水駅	子供から高齢者まで生きがいや心身の諸問題が噴出している現代社会の状況を踏まえ、人間的な教養を持ち、総合的なヒューマンサービスを担うことができる人間の育成。
			志願者倍率	13.71	11.58	13.71				
社会学・社会福祉学関係	東洋大学	社会学部社会福祉学科(※2)	150	1,664	1,994	非公開	50.0	赤羽台 キャンパス ※2023年度 より	JR埼京線等 赤羽駅	「共生社会」の実現に向け、支援の現場で求められる知識と実践的技能を身につける。また社会・経済の変化に対応する政策や制度、福祉ビジネスなどについても学びを深め、創造力とリーダーシップをもって国内外の幅広い分野に貢献する人財を目指す。
			志願者倍率	11.09	13.29	—				
	成城大学	社会イノベーション学部 心理社会学科	120	1,655	1,417	3,046	55.0	成城学園	小田急線 成城学園前	文化や社会の変容という経済以外のマクロ現象を積極的に学習することにより、広い視野から比較を行う力を身につける。また、イノベーションの与える影響について、印象形成や流行などの心理過程から、対人コミュニケーション、集団そして社会へと発展的に考察できる能力を養成する。
			志願者倍率	13.79	11.81	25.38				
	立教大学	コミュニティ福祉学部 コミュニティ政策学科	154	1,359	2,159	1,268	57.5	新座 キャンパス	東武東上線 志木駅 JR武蔵野線 新座駅	コミュニティを基盤にさまざまな生活課題を解決するための取り組みを探索し、健康、福祉に携わる専門の人材を育成。健康を、生きがい感なども含め、個人の生き方そのものを問い、よりよく生きるという考え方であるウェルネスの実践は、個人を取りまくコミュニティとも関わる。学部理念でもある「いのちの尊厳のために」という言葉を自分のものとして語ることができる人材を育てる。
			志願者倍率	8.82	14.02	8.23				
	明星大学	人文学部人間社会学科	80	464	非公開	非公開	47.5	日野 キャンパス	多摩モノレール 中央大学・明星大学駅ほか	主体的に行動し、他者と協働し、自分の人生を不断にデザインできる人
			志願者倍率	5.80	—	—				
	法政大学	現代福祉学部 福祉コミュニティ学科	150	1,546	2,006	1,441	55.0	多摩 キャンパス	京王線 めじろ台駅 JR中央線 西八王子駅	「健康で幸福な暮らし＝Well-Being」を実現する福祉コミュニティを創造するために地域社会の福祉リーダーの育成を目指す。
			志願者倍率	10.31	13.37	9.61				
	東洋大学	ライフデザイン学部(※2) 人間環境デザイン学科	160	1,220	1,734	非公開	52.5	赤羽台 キャンパス ※2023年度 より	JR埼京線等 赤羽駅	「みんなが幸せになるデザイン」を創造するための「思考」と「技術」をもった人材を育成
			志願者倍率	7.63	10.84	—				
	桜美林大学	健康福祉学群	300	1,109	1,335	1,668	40.0	町田 キャンパス	JR横浜線 淵野辺駅ほか	すべての人々の健康的な生活を実現し、福祉を推進するプロフェッショナルを育成。
			志願者倍率	3.70	4.45	5.56				

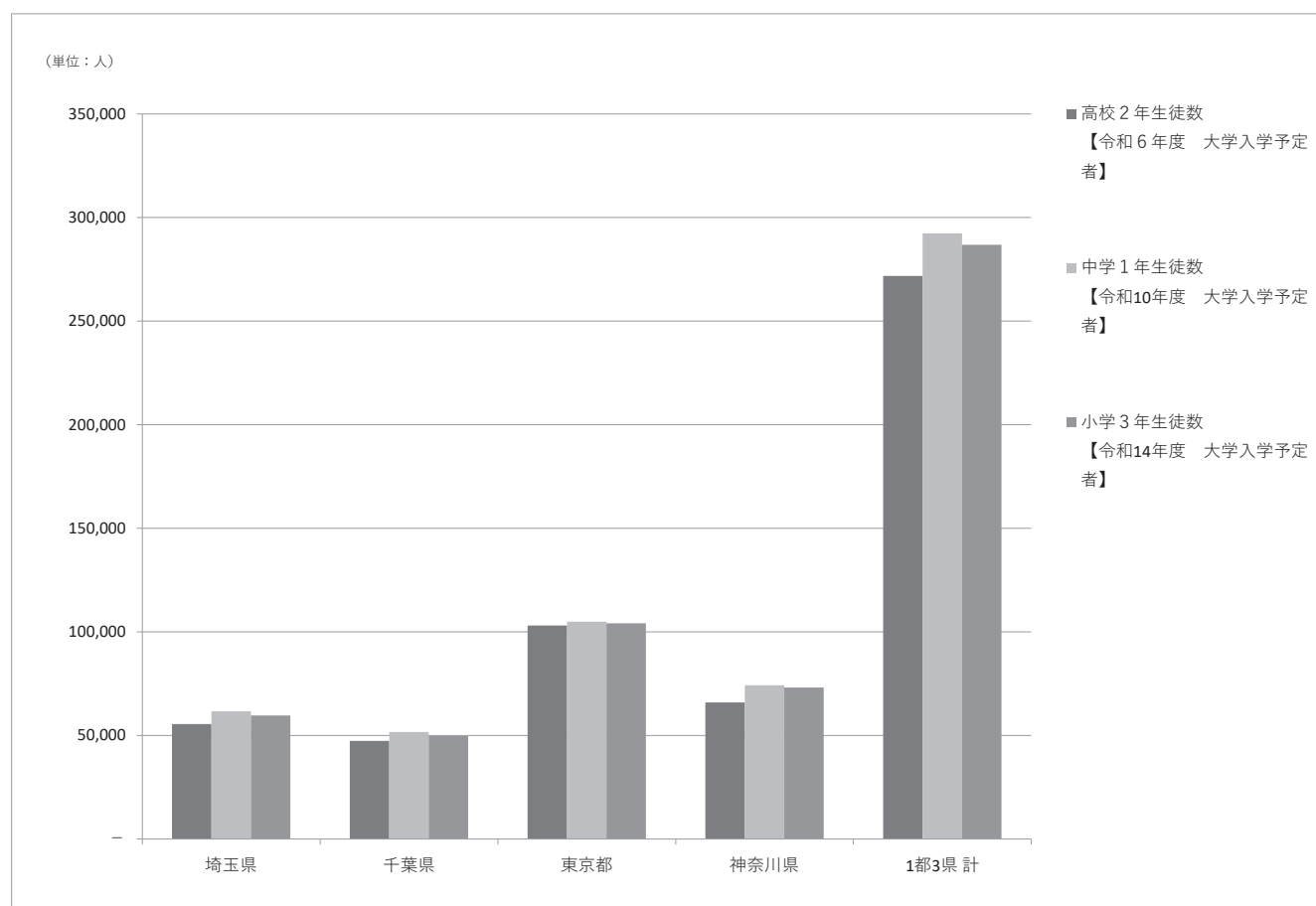
(※1)一般選抜、共通テスト利用型の合計

(※2)東洋大学ライフデザイン学部人間環境デザイン学科及び社会学部社会福祉学科は、令和5年度福祉社会デザイン学部へ改組予定

(※3)偏差値は、河合塾Kei-net（令和5年1月21日更新）「入試難易予想ランキング表」より

人口動態（令和 4 年度学校基本調査より抜粋）

都県名	高校 2 年生徒数 【令和 6 年度 大学入学予定者】	中学 1 年生徒数 【令和10年度 大学入学予定者】	小学 3 年生徒数 【令和14年度 大学入学予定者】
埼玉県	55,477	61,658	59,673
千葉県	47,416	51,674	49,757
東京都	103,002	104,838	104,172
神奈川県	65,882	74,236	73,198
1都3県 計	271,777	292,406	286,800



関係学科別大学入学状況（令和 4 年度学校基本調査より抜粋）

平成30年度～令和 4 年度「人文科学・その他」「社会科学・社会学」

分野	入学志願者（人）				
	平成30年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
人文科学・その他	252, 282	274, 781	255, 622	216, 132	206, 985
社会科学・社会学	261, 052	284, 625	258, 993	237, 391	235, 171
計	513, 334	559, 406	514, 615	453, 523	442, 156

全志願者数（人） (a)	平成30年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
	4, 723, 558	5, 032, 682	4, 943, 946	4, 380, 427	4, 351, 965
うち「人文科学・その他」「社会科学・社会学」 志願者数（人） (b)	513, 334	559, 406	514, 615	453, 523	442, 156
全志願者数に占める割合 (b÷a)	10. 9%	11. 1%	10. 4%	10. 4%	10. 2%

近隣競合校及び偏差値上位校

1. 近隣競合校

大学名	学部名 学科名	入学 定員 (人) [a]	入学志願状況等 (※1)						偏差値 (※3)	通学キャンパス	最寄駅	養成する人材像等		
			年度	志願者数 (人) [b]	受験者数 (人)	合格者数 (人)	志願者倍率 [b]÷[a]	入学者数 (人) [d]					定員充足率 [d]÷[a]	
法政大学	現代福祉学部 福祉コミュニティ学科	150	令和4年度	1,546	1,507	354	10.31	158	1.05	55.0	多摩キャンパス	京王線 めじろ台駅 JR中央線 西八王子駅	「健康で幸福な暮らし＝Well-Being」を実現する福祉コミュニティを創造するために地域社会の福祉リーダーの育成を目指す。	
			令和3年度	2,006	1,936	304	13.37	156	1.04					
			令和2年度	1,441	1,407	263	9.61	144	0.96					
東洋大学	ライフデザイン学部(※2) 人間環境デザイン学科	160	令和4年度	1,220	非公開	328	7.63	164	1.03	52.5	赤羽台キャンパス ※2023年度より	JR埼京線等 赤羽駅	「みんなが幸せになるデザイン」を創造するための「思考」と「技術」をもった人材を育成。	
			令和3年度	1,734	非公開	338	10.84	159	0.99					
			令和2年度	非公開					—					
明星大学	人文学部 人間社会学科	80	令和4年度	464	非公開	316	5.80	非公開	—	47.5	日野キャンパス	多摩都市モノレール 中央大学・明星大学駅ほか	主体的に行動し、他者と協働し、自分の人生を不断にデザインできる人材を養成。	
			令和3年度	非公開					—					
			令和2年度	非公開					—					

2. 偏差値上位校

大学名	学部名 学科名	入学 定員 (人) [a]	入学志願状況等 (※1)							偏差値 (※3)	通学キャンパス	最寄駅	養成する人材像等
			年度	志願者数 (人) [b]	受験者数 (人)	合格者数 (人)	志願者倍率 [b]÷[a]	入学者数 (人) [d]	定員充足率 [d]÷[a]				
明治大学	文学部 心理社会学科哲学専攻	45	令和4年度	617	571	152	13.71	非公開	—	62.5	【1、2年】 和泉キャンパス 【3、4年】 駿河台キャンパス	【和泉】 京王線 明大前駅 【駿河台】 JR中央線ほか 御茶ノ水駅	子供から高齢者まで生 きがいや心身の諸問題 が噴出している現代社 会の状況を踏まえ、人 間学的な教養を持ち、 総合的なヒューマン サービスを担うことが できる人間の育成。
			令和3年度	521	476	118	11.58	非公開	—				
			令和2年度	617	560	109	13.71	非公開	—				
立教大学	コミュニティ福祉学部 コミュニティ政策学科	154	令和4年度	1,359	1,333	402	8.82	150	0.97	57.5	新座キャンパス	東武東上線 志本駅 JR武蔵野線 新座駅	コミュニティを基盤に さまざまな生活課題を 解決するための取り組 みを探求し、健康、福 祉に携わる専門的人材 を育成。健康を、生き がい感なども含め、個 人の生き方そのものを 問い、よりよく生きる という考え方であるウ ェルネスの実践は、個 人を取りまくコミュニ ティとも関わる。学部 の理念でもある「いの ちの尊厳のために」と いう言葉を自分のもの として語ることができ る人材を育てる。
			令和3年度	2,159	2084	401	14.02	146	0.95				
			令和2年度	1,268	1228	305	8.23	148	0.96				

(※1)各大学ホームページより（一般選抜、共通テスト利用型の合計）
(※2)東洋大学ライフデザイン学部人間環境デザイン学科及び社会学部社会福祉学科は、2023年度福祉社会デザイン学部へ改組予定
(※3)偏差値は、河合塾Kei-net（令和5年1月21日更新）「入試難易予想ランキング表」より
(※4)理工学部全体

1（書類等の題名）

武蔵野大学 既設学部等の学生確保の状況（平成 30 年度～令和 4 年度）
（【資料 19】 40 ページ）

2（出典）

学校法人武蔵野大学経営企画部大学入試センター事務課所持データ

3（その他の説明）

本内容は、学内資料（学外秘）であり、省略とする。

武蔵野大学ウェルビーイング学部についてのアンケート

(仮称)

武蔵野大学では令和6(2024)年にウェルビーイング学部(仮称)の開設を構想しています。

構想の参考とさせていただきたく、以下アンケートへの回答にご協力をお願いいたします。

アンケートの結果につきましては、集計結果を本学部開設のための参考資料及び文部科学省提出資料にて利用させていただきます、それ以外の目的で使用することは一切ございません。高校名や個人が特定されるような情報として公表されることもございません。また、回答内容が貴校の生徒様の入学試験へ影響を及ぼすことは一切ありません。

別紙の学部概要をご覧ください。以下の質問にお答えください。選択肢からあてはまるものに☑、または()内に記述してください。

* WEBからもご回答いただけます。お手持ちのスマートフォン等から
右のQRコードを読み込んでいただき、アンケートのページにアクセスしてください。

QR
コード**問1. 貴校についてお聞きます。**

①高校所在地：() 都・県) ②高校名：()

問2. 「ウェルビーイング」について学生が大学で学ぶことは、有意義であると考えますか。

☐ 有意義である ☐ やや有意義である ☐ あまり意義がない ☐ 意義がない

問3. 武蔵野大学では「ウェルビーイング」について学ぶ「ウェルビーイング学部」を開設予定です。本学部の養成する人材像について、どのように評価しますか。

☐ 評価する ☐ やや評価する ☐ あまり評価しない ☐ 評価しない

問4. 本学部における学修について、社会的ニーズがあるとお考えですか。

☐ ある ☐ ややある ☐ あまりない ☐ ない

問5. 本学部への進学を勧めますか。

☐ 勧める ☐ やや勧める ☐ あまり勧めない ☐ 勧めない

問6. 本学部は受験生の進学ニーズがあるとお考えですか。

☐ ある ☐ ややある ☐ あまりない ☐ ない

アンケートのご協力、ありがとうございました。

＜お問い合わせ＞ 学校法人武蔵野大学 経営企画部法人企画課
TEL 03-5530-7404 (平日のみ) E-Mail kikaku@musashino-u.ac.jp

武蔵野大学

ウェルビーイング学部

ウェルビーイング学科 (仮称)

2024年4月開設予定 (設置構想中)

* 概要・計画等は予定であり、今後、変更になる場合があります。

Q: 「ウェルビーイング」ってなに？

A: 幸せ・生きがい・安心・福祉・健康・平和など、一人一人の多様な幸せと社会全体の幸せをカタチにしている状態のことです。

ウェルビーイング学部の特徴 (設置の理念、養成する人材像)

ウェルビーイング学部の最大の特徴は、環境学、経済学、ポジティブ心理学、デザイン工学等を学び、自然、地域、企業、世界での実習を通して一人一人の多様な幸せと社会全体の幸せをカタチにできる人材を育成することです。

世界がキャンパス

ウェルビーイング学・ポジティブ心理学等を得意とする海外大学との連携、短期留学ができる

日本中がキャンパス

全国各地域 (沖縄から北海道まで) と連携し、自然体験や地域課題解決型実習ができる

企業がキャンパス

ウェルビーイングに関心が高い企業、病院、福祉施設、自治体等で創造的な実習ができる

卒業後のイメージ

① ウェルビーイング産業デザイナー

グローバルな世界をフィールドとして、ウェルビーイングな世界や産業を創出する人材

(例) 企業 (メーカー、商社、医療看護、介護福祉等) や教育現場でのウェルビーイング推進担当者、起業家 等

② ウェルビーイング地域デザイナー

地域をフィールドとして、それぞれの地域の特色をいかしたウェルビーイングをデザインし、地域活性化を担う人材

(例) ウェルビーイングな地域の創生を目指す自治体の公務員、企業への就職、NPO諸団体への所属 等

③ ウェルビーイングの専門家

大学院に進学し、ウェルビーイングの学問研究の方法論をさらに学び、ウェルビーイングな世界を総合的にデザインしていく人材

(例) 海外・国内の大学院進学、研究機関・シンクタンク職員 等

設置場所・入学定員・学費

○ 武蔵野キャンパス (〒202-8585 東京都西東京市新町一丁目1番20号)

○ 入学定員 80名

○ 初年度納入金 1,475,000円※

※ 入学金、授業料、教育充実費等 (諸会費等別途)

※ 学費は現時点での予定であり、変更になる場合があります。

<類似する分野の学問を学ぶ他の大学>

○ 東洋大学 福祉社会デザイン学部 人間環境デザイン学科 (2023年度開設予定)

○ 法政大学 現代福祉学部 福祉コミュニティ学科 ○ 明星大学 人文学部 人間社会学科

吉祥寺 三鷹 武蔵境	バス 7~15分	武蔵野 キャンパス
田無	徒歩 15分	

世界の幸せをカタチにする。



武蔵野大学

高校 進路指導担当教員向けアンケートの結果

1. 実施時期：令和3年12月14日～令和4年1月31日

2. 対象：高校 進路指導担当教員 52校

3. 回答：高校 進路指導担当教員 154人

4. アンケート結果

問1. 貴校についてお聞きします。

①高校所在地

回答	回答数	割合 (%)
東京都	154	100%
合計：	154	100%

②高校名

開示せず

問2. 「ウェルビーイング」について学生が大学で学ぶことは、有意義であると考えますか。

回答	回答数	割合 (%)
有意義である	63	40.9%
やや有意義である	69	44.8%
あまり意義がない	19	12.3%
意義がない	2	1.3%
無回答	1	0.6%
合計：	154	100%

問3. 武蔵野大学では「ウェルビーイング」について学ぶ「ウェルビーイング学部」を開設予定です。本学部の養成する人材像について、どのように評価しますか。

回答	回答数	割合 (%)
評価する	60	39.0%
やや評価する	68	44.2%
あまり評価しない	21	13.6%
評価しない	5	3.2%
合計：	154	100%

問4. 本学部における学修について、社会的ニーズがあるとお考えですか。

回答	回答数	割合 (%)
ある	48	31.2%
ややある	69	44.8%
あまりない	34	22.1%
ない	3	1.9%
合計：	154	100%

問5. 本学部への進学を勧めますか。

回答	回答数	割合 (%)
勧める	27	17.5%
やや勧める	78	50.6%
あまり勧めない	44	28.6%
勧めない	5	3.2%
合計：	154	100%

問6. 本学部は受験生の進学ニーズがあるとお考えですか。

回答	回答数	割合 (%)
ある	30	19.5%
ややある	77	50.0%
あまりない	43	27.9%
ない	4	2.6%
合計：	154	100%

※割合 (%) は小数点第2位で四捨五入しているため、各項目の合計が 100.0%にならない場合がある

第2節 各国政府・地方の指標群とその活用状況

1. 各国における指標群とその活用

前節において示したように、格差や環境等の高次の施策目標が掲げられる中、様々な国で生活の質に関する指標を計測し評価する取組、またそれを政策立案等に活用する取組が広がっている。

（OECD の Well-being 指標の体系）

OECD は、2011 年に人々が暮らしを計測、比較することを可能にするインタラクティブな指標として、「より良い暮らし指標（Better Life Index : BLI）」を開発した。BLI は、暮らしの 11 の分野（①所得と富、②住宅、③雇用と仕事の質、④健康、⑤知識と技能、⑥環境の質、⑦主観的 well-being、⑧安全、⑨ワークライフバランス、⑩社会的つながり、⑪市民参画）で構成され、OECD 加盟 37 カ国とブラジル、ロシア、南アフリカを加え、あわせて 40 カ国の指標を比較できるように OECD の HP 上で公開されており、各分野に対して利用者がウェイト付けをすることで、好みのウェイトに沿って国別順位を表示することができる。

2011 年より定期的に作成されている報告書「How's Life?」において、Well-being 測定のためのフレームワークを公表している。OECD の Well-being フレームワークは、現在の Well-being と将来の Well-being のための資源の 2 つのカテゴリーに分類され、それぞれのカテゴリーの指標測定時に着目すべき観点が示されている。

現在の Well-being は、BLI の分野に対応する上記 11 領域での指標がこれに当たり、指標測定の際には、平均値だけではなく人口集団間の格差²⁹や、各指標における上位と下位の人々の差³⁰、はく奪³¹に着目することとされている。

将来の Well-being のための資源は、①自然資本、②人的資本、③経済的資本、④社会資本の 4 分野で構成され、指標測定の際には資本のストックとフローだけではなく、リスク（例えば、経済的資本の家計の負債は将来の経済見通しのリスクとなる）とレジリエンスの要因にも着目することとされている。

（諸外国における主観的 Well-being 等に関する指標群と政策への活用）

OECD の BLI や Well-being フレームワークは、内閣府の「満足度・生活の質を表す指標群（Well-being ダッシュボード）」（以下、内閣府ダッシュボード）において検討の土台としたように、諸外国においても主観的 Well-being に関する指標群を策定する際に参考とされている。例えば、アイルランドでは 2021 年に OECD の

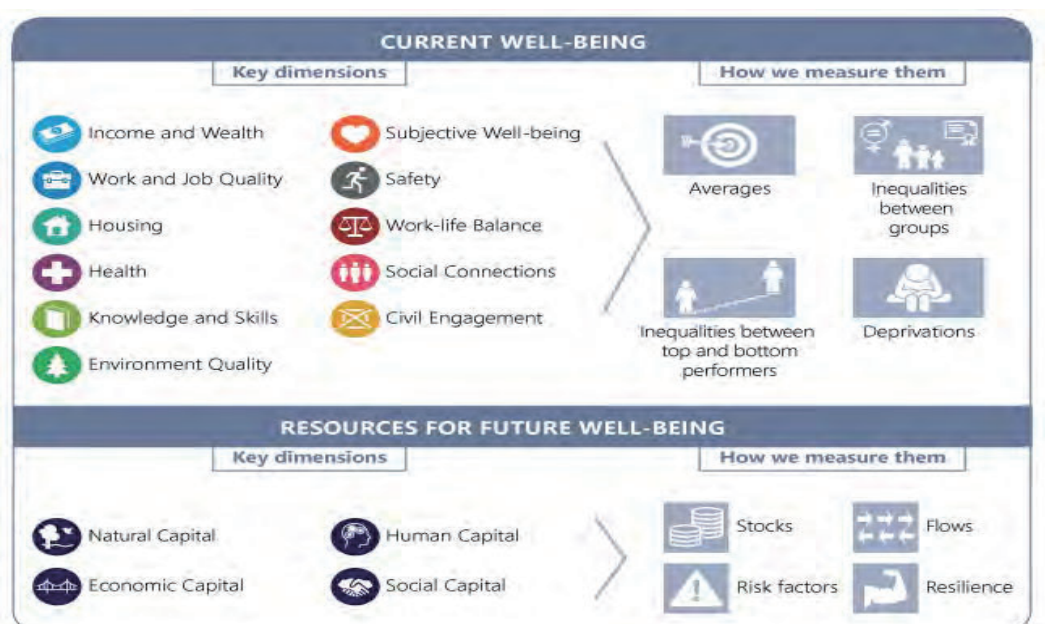
²⁹ 水平方向の不平等と呼ばれ、例えば、男女差や年齢間差等で示される。

³⁰ 垂直方向の不平等と呼ばれ、例えば、貧困層 20%の所得と比較した富裕層の所得等で示される。

³¹ 潜在的な不平等と呼ばれ、例えば、長期失業者率や屋内水洗トイレのない世帯率等で示される。

Well-being フレームワークをベースとしてアイルランドの Well-being フレームワークを開発するなど、各国で OECD の指標群等をベースに検討された Well-being に関する指標群が構築されている（図表 2－2－2 参照）。

図表2－2－1 OECD の Well-being フレームワーク



（出典） OECD Better Life Initiative (2020) *How's Life?2020*

図表 2－2－2 主観的 Well-being 等に関する各国の指標群（ダッシュボード）と政策への活用

国名	指標群の名称	指標群の構成・特徴	概要	指標群の作成主体
カナダ	生活の質フレームワーク The Quality of Life Framework	5分野 83 指標 ・指標は「ヘッドライン」、「コア」、「追加」の3段階に分けて構成される	2021 年 4 月に「カナダの QOL 戦略に向けて」において公表。政府の意思決定や予算編成に指標を導入。	財務省
ドイツ	ドイツの Well-being 指標システム The indicator system for wellbeing in Germany	12 分野 46 指標 ・3次元で配置される	人々のウェルビーイングにとって何が重要かを理解するために 2015 年に国民対話を実施し、指標群を構築。	連邦政府
フランス	豊かさの新指標 Nouveaux indicateurs de richesse	10 指標 ・指標のうち1つが生活満足度	2015 年 10 月に GDP を補完する指標として「豊かさの新指標」が決定され、毎年、指標の進捗状況が報告書として公表。	経済・社会・環境評議会（法律等の諮問機関）
アイルランド	アイルランドの Well-being フレームワーク Well-being	11 分野 34 指標 ・3次元で配置される	政策の優先順位設定、政策評価のための補完的なツールとして、2021 年に策定	中央統計局（CSO）

	Framework for Ireland			
イタリア	公平で持続可能な Wellbeing のための指標 Benessere Bequo e sostenibile	12 分野 130 指標	2010 年より指標を開発。2017 年以降は毎年、現状分析と指標改善に向けた政策立案に向けて指標に関する報告書を公表。	統計局 (ISTAT) ※報告書の作成主体は財務省
ニュージーランド	生活水準の枠組みに関するダッシュボード The Living Standards Framework Dashboard (LSF)	12 分野 42 指標 ・ 3 次元で配置される ・ 4 つの横断的視点を含む	2011 年以降、国民の wellbeing の向上という観点から作成。政策決定、予算配分を行うための一つの基準として活用。	財務省
イギリス	国の Well-being 計測に関するダッシュボード Measures of National Well-being Dashboard	10 分野 42 指標	2010 年に国家 Well-being プログラムが立ち上げられ、指標群を開発、公表。 2021 年には、政策評価書（グリーンブック）における Well-being の活用に関する補足ガイドラインが公表。	国家統計局 (ONS)

(出典：内閣府調べ)

主観的 Well-being 等に関する指標群の構築は、アイルランド、イタリアやイギリスなど統計作成機関が主導するケースやカナダやニュージーランドなど財務省が主導するケースなど中央政府によるもののほか、フランスでは諮問機関が、ドイツでは連邦政府が主導している。いずれも OECD の Well-being フレームワークと同様に指標群をいくつかのカテゴリーに分類している。指標群の取扱にあたっての横断的視野などを設定している国もある。

財務省が主体となって指標群を構築しているケースでは、予算編成過程において予算配分の一つの基準として指標群が用いられるなど、政府の政策決定に Well-being の観点が重視される。

例えば、カナダの生活の質フレームワーク (The Quality of Life Framework) においては、5 分野 83 指標が設定されており、これらのそれぞれに対して、「公平性と包括性 (Fairness and Inclusion)」と「持続可能性と回復力 (Sustainability and Resilience)」という 2 つの横断的視野を適用している (図表 2-2-3)。今後、政府の意思決定や予算編成に指標群を活用していくこととしている。

また、ニュージーランドでは、指標群を 3 つのカテゴリーに分類した上で、「分配 (Distribution)」、「回復力 (Resilience)」、「生産性 (Productivity)」、「持続可能性 (Sustainability)」の 4 つの分析のための視点が設定されている (図表 2-2-4)。2019 年からは「Wellbeing Budget」を発表し、予算配分を行うための一つの基準として指標群を活用している。

（１）岩手県「いわて幸福関連指標」

岩手県では、県の総合計画である「いわて県民計画(2019～2028)」において、県民一人ひとりがお互いに支え合いながら、幸福を追求していくことができる地域社会を実現していくため、幸福に関連する客観的指標（「いわて幸福関連指標」）を定め、一人ひとりの幸福を守り育てる取組を展開している。

「いわて幸福関連指標」の設定に当たっては、県民の「幸福」についての的確に把握する方法を研究するため、平成 28 年度に「岩手の幸福に関する指標研究会」（以下、「研究会」という。）が設置された。岩手県では、研究会が示した「岩手の幸福に関する指標の体系」をもとに検討を行い、「いわて幸福関連指標」を設定している³³。

研究会の目的は、①様々な要素からなる県民の「幸福」を的確に把握できるツールを確立し、施策の展開に活用すること、②幸福に関する指標の策定に向けた研究を通じて、これから岩手県はどのような社会を目指していくのかという問いに、「幸福」という切り口から1つの考え方を示すこと、③県民が自らの幸福について考えるきっかけとすること、との3つを「岩手の幸福に関する指標」を策定することとされた。

研究会では、①新たな施策の展開に活用できる指標とする、②県民の実感を踏まえた指標とする、③物質的なゆたかさに加え、岩手が目指すゆたかさにも着目した指標とする、の3つの指標策定の基本方針に基づき、検討を進め、「岩手の幸福に関する指標」の指標の体系として、図表 2-2-5 のとおり設定した。

主観的指標は、総合的な幸福を示す「主観的幸福感」と、関連する領域ごとに設定した「領域別実感」、すべての領域に関連する「つながり」で構成されている。また、客観的指標は、主観的指標ではとらえにくい点を補足する観点から、強みや弱みなど、現状を的確に把握するため、経年把握や全国比較が可能な指標を領域別に設定している。加えて、岩手が目指すゆたかさを示す指標として、「協調的幸福感」と「ソーシャル・キャピタル」を設定している。

なお、研究会報告書において、主観的指標には、以下のような項目が設定されている。

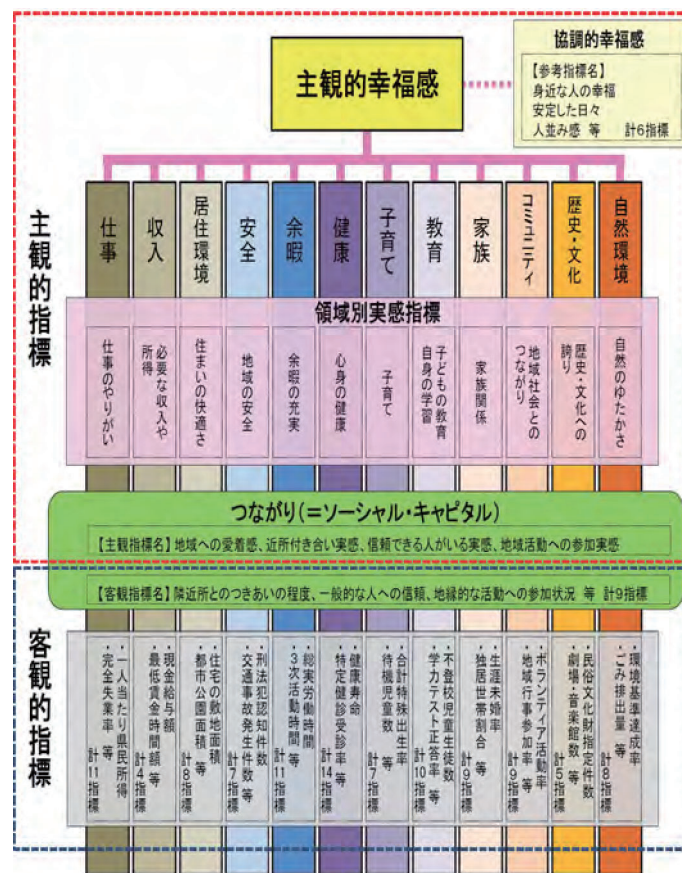
- ・ 主観的幸福感：県民意識調査で「あなたは現在、どの程度幸福だと感じていますか。」という設問に対し、5段階で評価されたもの。
- ・ 領域別実感指標：主観的幸福感に関連するとされる12領域について、それぞれの実感を県民意識調査において5段階で評価された結果を領域別実感として設定している。12の領域は、①仕事、②収入、③居住環境、④安全、⑤余暇、⑥健康、⑦子育て、⑧教育、⑨家族、⑩コミュニティ、⑪歴史・文化、⑫自然環境がある。
- ・ 協調的幸福感：主観的幸福感との因果関係が明らかではなく、政策として関与

³³ 県の総合計画に幸福度に関する考え方を直接盛り込んだのは岩手県が初めての試みである。

しにくい概念であるが、「岩手ならではの生き方」といった観点から、継続して把握が必要な参考的な指標として設定されている。①身近な人の幸福、②周囲からの承認、③大切な人の幸福への寄与、④安定した日々、⑤他者に迷惑をかける自己実現、⑥人並み感の6つがある。

- ・ つながり（ソーシャル・キャピタル、社会関係資本）指標：交流、信頼、社会参加等の個人間のつながりを示す指標。これらが豊かな地域は幸福が高い傾向にあるとされている。岩手県の特徴の一つである「つながり」を示す指標として、全領域に関連する横断的な指標として主観的指標と客観的指標のそれぞれに設定された指標から形成される。主観的指標に4つが設定されている。

図表2-2-5 岩手の幸福に関する指標の体系



出典：「岩手の幸福に関する指標」研究会報告書

（2）荒川区「荒川区民総幸福度（グロス・アラカワ・ハッピーネス：GAH）」

荒川区では、区民がどのような部分に幸福を実感しているかを把握する指標として、「幸福実感度」と、その基礎となる「健康・福祉」「子育て・教育」「産業」「環境」「文化」「安全・安心」の6分野の指標によって構成される「荒川区総幸福度（GAH）」を設定している。「幸福実感度」を最上位指標と位置付け、各分野にそれぞれ1つの上位指標と全部で39の下位指標が存在する（図表2-2-6）。

これらの指標は継続的に実施される「区民アンケート」等で区民がどのような部分に不幸や不安を感じ、どのような課題を抱えているかを調査・分析しており、調査結果等はホームページ等で公表している。さらに、評価・分析ツールとして活用するほか、地域の課題解決に向けた運動³⁴を展開するのに用いられている。

図表 2-2-6 荒川区民総幸福度（グロス・アラカワ・ハピネス:GAH）の指標の体系

荒川区民総幸福度（GAH）指標	幸福実感	分野	上位指標	下位指標
		健康・福祉	健康の実感	体の健康 心の健康 健康環境
		子育て・教育	子どもの成長の実感	生きる力 家族関係 子育て教育環境
		産業	生活のゆとり	仕事 地域経済
		環境	生活環境の充実	利便性・ユニバーサルデザイン 快適性 持続可能性
		文化	充実した余暇・文化活動、地域の人とのふれあいの実感	余暇活動 地域文化
		安全・安心	安全・安心の実感	犯罪 事故 災害

（出典）「荒川区民総幸福度（GAH）に関する調査研究報告」

（３）三重県「15の幸福実感指標」

三重県は、みえ県民力ビジョン(平成 24 年度～令和3年度)の中で 15 の政策分野を示しており、それらの政策を実現するための行動計画において、政策分野毎に「幸福実感指標」を設定している。また、同行動計画にて示している 58 の施策には、その成果をより適切に評価するためそれぞれ「主指標」、「副指標」を設定しており³⁵、「幸福実感指標」、

³⁴ 例えば、防災地域活動に積極的に参加している人ほど幸福度が高いことが示されているが、平日の防災訓練には参加しづらい、子育て世代が親子で参加できるプログラムになっていないなどの問題があり、これを解消する取組みとして、休日にアトラクション形式の防災訓練が実施されている。

³⁵ 例えば、「政策分野Ⅰ-2（命を守る）」における施策の一つである「健康づくりの推進」については、主指標として「健康寿命」、副指標として「特定健康診査受診率」・「フッ化物洗口を実施している施設数（累計）」を設定している。

「主指標」、「副指標」の推移を把握することで、行動計画全体の進行管理をおこなっている。なお、「幸福実感指標」は住民を対象に「みえ県民意識調査」を毎年実施することで把握している。

施策ごとに設定する「主指標」及び「副指標」が県をはじめさまざまな主体の活動による成果について評価するための数値目標的指標であるのに対して、「幸福実感指標」は、一人一人が生活している中で感じる実感の推移を把握するための指標であり、目標値は設定されていない。

図表 2-2-8 15の幸福実感指標

	政策分野	幸福実感指標
Ⅰ 守る	Ⅰ-1 防災・減災、国土強靱化	災害の危機への備えが進んでいると感じる県民の割合
	Ⅰ-2 命を守る	必要な医療サービスを利用できていると感じる県民の割合
	Ⅰ-3 支え合い福祉社会	必要な福祉サービスを利用できていると感じる県民の割合
	Ⅰ-4 暮らしの安全を守る	犯罪や事故が少なく、安全に暮らせていると感じる県民の割合
	Ⅰ-5 環境を守る	身近な自然や環境が守られていると感じる県民の割合

	政策分野	幸福実感指標
Ⅱ 創る	Ⅱ-1 人権の尊重とダイバーシティ社会の推進	性別や年齢、障がいの有無、国籍などにとらわれず、誰もが社会に参画できていると感じる県民の割合
	Ⅱ-2 学びの充実	子どものためになる教育が行われていると感じる県民の割合
	Ⅱ-3 希望がかなう少子化対策の推進	結婚・妊娠・子育てなどの希望がかなっていると感じる県民の割合
	Ⅱ-4 三重とこわか国体・三重とこわか大会の成功とレガシーを生かしたスポーツの推進	スポーツをしたり、みたり、支えたりする環境や機会が整っていると感じる県民の割合
	Ⅱ-5 地域の活力の向上	自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたいと感じる県民の割合

	政策分野	幸福実感指標
Ⅲ 拓く	Ⅲ-1 持続可能なもうかる農林水産業	三重県産の農林水産物を買いたいと感じる県民の割合
	Ⅲ-2 強じんて多様な産業	県内の産業活動が活発であると感じる県民の割合
	Ⅲ-3 世界の三重、三重から世界へ	国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいると感じる県民の割合
	Ⅲ-4 多様な人材が活躍できる雇用の推進	働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ていると感じる県民の割合

	Ⅲ－５ 安心と活力を生み出す基盤	道路や公共交通機関等が整っていると感じる県民の割合

（４）地方公共団体（市区町村）における測定及び政策への活用

内閣府が行った市区町村に対するアンケート調査³⁶によれば、162 の団体で、主観的満足度・幸福度指標を、297 団体において個別施策に関する主観的満足度・幸福度の調査を行っている。294 の団体では、総合計画等への策定へ活用しているという状況であった³⁷。

図表 2－2－1 1 地方公共団体（市区町村）における満足度・幸福度指標の測定及び政策への活用状況

	満足度・幸福度指標の測定		政策等への活用
	主観的満足度・幸福度指標の調査を行っている団体 ³⁸	個別施策に関する主観的満足度・幸福度指標の調査を行っている団体	総合計画等の策定への活用を行っている団体 ³⁹
北海道	11	24	18
青森県	4	9	6
岩手県	1	8	7
宮城県	1	3	4
秋田県	4	7	11
山形県	5	4	3
福島県	3	2	1
茨城県	6	12	11
栃木県	2	9	6
群馬県	1	5	4
埼玉県	6	16	16
千葉県	5	10	7
東京都	11	12	10
神奈川県	8	4	5
新潟県	1	9	7
富山県	3	5	5
石川県	2	2	3
福井県	0	2	2
山梨県	1	4	4
長野県	4	11	10
岐阜県	5	8	9

³⁶ 調査方法：システムによる一斉アンケート調査 調査期間：2021 年 11 月 1 日～15 日。回答があった市区町村数：1,071 団体。

³⁷ 総合的な主観的満足度・幸福度指標の調査を行っている 162 団体のうち、159 団体で総合計画等への策定へ活用している。

³⁸ 住民へのアンケート調査における主観的満足度・幸福度等の Well-being に関する設問の有無について、有とした団体。なお、この具体的設問の内容が個別施策に関するものであると判断できるものについては、「個別施策に関する主観的満足度・幸福度指標の調査を行っている団体として、カウントしている。

³⁹ 政策運営に（主観的）満足度や幸福度等の Well-being の観点を活用している取組概要に、記載を行った団体の数。

静岡県	3	7	8
愛知県	9	13	14
三重県	4	7	8
滋賀県	2	3	1
京都府	5	2	4
大阪府	6	9	10
兵庫県	7	10	13
奈良県	3	5	5
和歌山県	2	4	4
鳥取県	2	2	3
島根県	2	3	4
岡山県	5	2	5
広島県	3	5	7
山口県	2	5	6
徳島県	0	2	2
香川県	0	4	3
愛媛県	2	2	3
高知県	3	1	4
福岡県	4	11	12
佐賀県	3	3	4
長崎県	0	7	7
熊本県	3	5	6
大分県	4	4	5
宮崎県	2	4	6
鹿児島県	1	5	1
沖縄県	1	3	3

幸せ人口1000万

ウェルビーイング先進地域、富山を目指して



富山県成長戦略

とやまが目指す、新時代の成長戦略とは

(ウェルビーイング)
キーワードは、真の幸せ。



幸せの定義が変わりつつある現代、目標や価値観も変わらないと。

かつてのバブル時代のような、経済成長による物質的な幸せを実感することが難しい現代。だからこその金銭に換算できない価値観が求められています。「真の幸せ」は、いまだ「ウェルビーイング」という言葉で呼ばれているのをご存知でしょうか。収入や健康といった外形的な価値に囚われず、自分らしく生きられる、そんな「ウェルビーイング」の向上を目指し、次世代の価値を度む人が育ち集まる富山となるため、新たな成長戦略に富山県は今後スピード感を持って取り組んでいきます。

※ウェルビーイング (well-being) 世界保健機関(WHO)憲章の前文において、「健康とは、病気ではないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態(=well-being)にあること」と定義

幸せでありたい。これは、地域や世代を超えた人類共通の願いだと思います。
今「ウェルビーイング」と呼ばれ、世界中の注目を集めている考え方があります。
日本語にすると「自分らしく幸せに生きられること」。

GDPのような客観的な経済指標から、一人ひとりの主観的な幸福指標へと、
社会のものさしが変わってきているのです。富山には、豊かな自然や水、
おいしい食、安全な土地という「幸せの基盤」が揃っています。

未来は大都市からやってくる。富山は後から追いかける。
未来に対してそんなふうに思っていないませんか。私はそうは思いません。
むしろ富山こそ、世界中が追い求めている「幸せの先進地域」になれると信じています。

「県内人口100万人」という考え方に縛られてはいはもったいない。
そうではなく、幸せという大きな傘のもと「関係人口1000万人」を目指しましょう。
富山で暮らす人、仕事する人、よく訪れる人、生まれ育った人など
愛着を持って関わるすべての人が、富山の仲間です。

「幸せ人口1000万」これがビジョンです。
一緒に新しい合言葉にしていきましょう。富山で生きる人が
「ここに生まれてよかった」そう胸を張れる未来をつくる。
富山から世界が目指す新しい日本をつくっていきましょう。

富山県知事 新田八朗



成長戦略には、6つの柱があります。

① 真の幸せ(ウェルビーイング)



【現状】県民と共に“しあわせ”が向上する地域づくりに取り組み、人が集い、人も暮らしも潤うウェルビーイング先進地域富山へ!

全国でも幸福度が高いと言われる富山県ですが、あなたは「今、幸せです!」と言えますか? 一人一人がもっと自分らしく生きられるようになれば、きっと幸せを感じる人がもっともっと増えていくはず。

富山の“当たり前”は宝物 富山の豊かな日常を魅力に、多様な人財を惹きつけ共に成長を目指す。 女性が幸せ＝富山が成長 男性社会が変わり、女性を取り巻く環境の改善を目指します。 ドントン行け、パンパン来い。 流出を恐れず、多様な人材が出入りする地域づくりに取り組みます。

② まちづくり



【現状】地域が主役となってまちづくりを進める官民連携の組織を創出!
【現状】富山の自然・風土×新しい文化で、持続可能なプロジェクトを創出!

ひとりひとりが自分らしくのびのびと活動できていると実感できるまちは、外から見ても居心地がよさそうに見えるし、うらやましく思える。そんな自由な風土を築き、引き寄せられた人々と共に富山の未来を創っていきましょう。

創造を促すに、個性が育つ クリエイティブな人々を惹きつける 個性的なまちを育てます。 既に“ある”を再編集しよう ものまねでない「富山らしい」新たな価値を見出します。 安心安全はまちの基盤 感染症や自然災害など、万一の事態に対応できるまちを築きます。

③ ブランディング(広報・観光・移住)



【現状】「富山=ウェルビーイング」を確立する「〇〇といえば富山」の創出!
【現状】世界に評価され人を惹きつける、ウェルビーイングを象徴する場を創出!

富山のありのままの日常こそ、一番の地域資源。私たちが日常と向き合い、暮らしの中の幸せを発信していく。小さな幸せのシェアが、富山のフォロワー・関係人口を増やす大きな波を起こしていくのでは…?

暮らしように旅する観光 富山の「カッコイイ」をアピール 富山の「カッコイイ」をアピール 人々とのふれあいから富山の暮らしを感じられる観光に取り組みます。 本物志向の人々を呼び込むための上質なサービスづくりに取り組む。 「富山には〇〇がある」を知ることから始めていきましょう。

富山県がこれからも力強く経済成長し、県民のウェルビーイング向上を実現していくには、幅広い分野から取り組みを考えることが必要です。そこで次の6つを“成長戦略の柱”に定め、目標実現に向けてみなさんと共にワンチームとなって実行していきます。

4 新産業支援

- ① デジタルの活用や世界的な潮流を見据えた取り組みにより、全国有数の付加価値率を実現!
- ② 新たなサービスや市場などを生み出し、県民一人あたりの県内総生産を増加!



私たちの豊かな生活を持続可能とするには、やはり稼げる地域でなければなりません。地元企業の生産性や経営力を磨き上げ、多様な人材集めと育成に取り組みます。MADE IN TOYAMAを磨き、県外や国外からの消費を呼び込み、自立した経済圏を目指します。

突き抜けた人材を集めよう

多彩な人材を取り込み、企業に新たな活力を生み出します。

富山が潤う仕組みをつくらう

県外の消費を呼び込み自立した経済圏を目指します。

生産性向上=デジタル技術を活用

県内企業のDX化や高付加価値化を実現します。

だれもが学び続ける時代

クリエイティブ人材の育成や社会人の学び直しなどを進めます。

5 スタートアップ支援



- ① 新たな上場企業1社または同等に地域に貢献する企業の複数創出!さらに大学発ベンチャー企業を10社以上設立!

富山発の代表的な企業も、はじめは数人から立ち上げたベンチャー企業でした。現在、次世代を担う新しいベンチャーがまだ育ってきていない状況です。みんなで固まっている土を耕し、挑戦を応援する土壌を築いていきましょう。

出る杭を応援しよう

意欲ある人が挑戦しやすい環境をみんなで整えていきましょう。

もう、保守的とは言わせない!

ベンチャー企業を支援するコミュニティ形成を進めます。

ピンチをチャンスに

「後継者ベンチャー」などの新たなチャレンジを支援します。



6 県庁オープン化



- ① 地域に出て活躍する“越境人材”の県庁職員を育成!
- ② “デジタルにより公共サービスが便利な自治体”全国トップ5を実現!

県庁って、なんとなく親しみが湧かないと感じませんか?何か困った時に相談しやすい県庁でありたい。県民目線の行政情報の発信や、見える化を進めると共に、みなさんと共に富山の未来を考え、つくりあげていく仕掛けづくりを進めます。

さらば、堅苦しいイメージ

県民や地域との交流を促し、身近な県庁を実現します。

多彩な人材が集う県庁へ

職員の方針改革を進め、若者・女性など多様な人材の活躍を目指します。

参加しやすい県庁へ

DX化と共に、わかりやすい情報発信で、県民への参加を推進します。

①は、成長戦略のKPI(成果指標)をわかりやすく示したものです。KPIの詳細については、富山県成長戦略特設サイトを参照してください。

富山県の成長戦略についてわかりやすく紹介しています。
富山県成長戦略特設サイト
www.seichosenryaku-toyama.com



富山県成長戦略についてのお問い合わせ

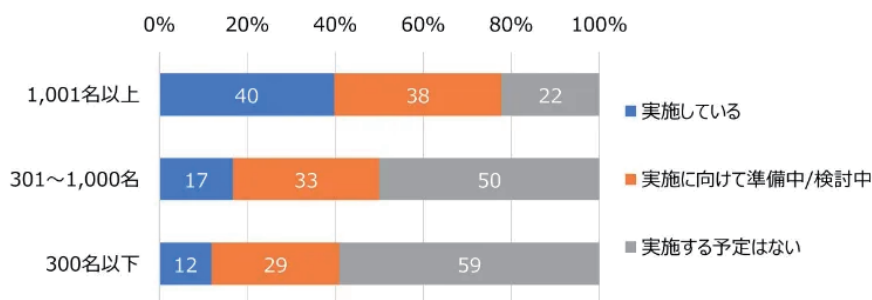
富山県知事政策局成長戦略室戦略企画課 / TEL.076-444-8916 FAX.076-444-3473



ウェルビーイングの実施、大企業で8割

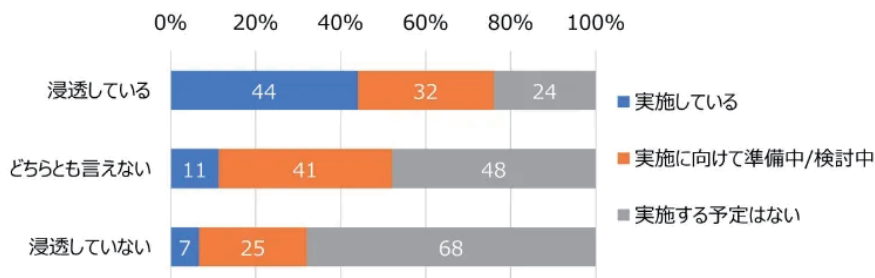
ウェルビーイングの実施状況について見てみると、すでに「実施している」としている割合は、大企業では40%、中堅企業では17%、中小企業では12%となり、最も割合の高い大企業でも半数に満たず4割にとどまっている。ただし、「実施に向け準備中/検討中」まで含めると、大企業では78%、中堅企業では50%、中小企業では41%と一気に割合が高まっており、今後の実施企業の拡大が期待される（図表3-1）。

【図表3-1】企業規模別 「ウェルビーイング」の実施状況



これについてもパーパスの社員浸透度別に見てみると、「実施している」と「実施に向け準備中/検討中」を含めた「実施に前向きな意向」の割合は、「浸透している」企業群で76%、「どちらとも言えない」企業群で52%、「浸透していない」企業群で32%となり、浸透している企業ほどウェルビーイング実施に前向きであることが推測される（図表3-2）。

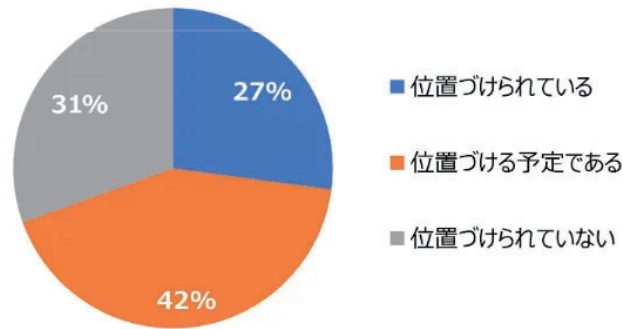
【図表3-2】パーパス社員浸透度別 「ウェルビーイング」の実施状況



ウェルビーイングの経営戦略等での位置付け、3割未満にとどまる

健康経営と同様に、ウェルビーイングについても経営戦略や経営方針に明確に位置づけられているか聞いてみたところ、「位置づけられている」とする企業の割合は27%と3割未満で、「位置づけられる予定である」が42%、「位置づけられていない」が31%となっている（図表4）。現時点では「位置づけられている」は少数派であるものの、今後、ウェルビーイングの取組みを開始する企業が増加することで、「位置づけられる予定」から「位置づけられている」にボリューム層が移行していくだろう。

【図表4】「ウェルビーイング」の経営戦略等での位置付け

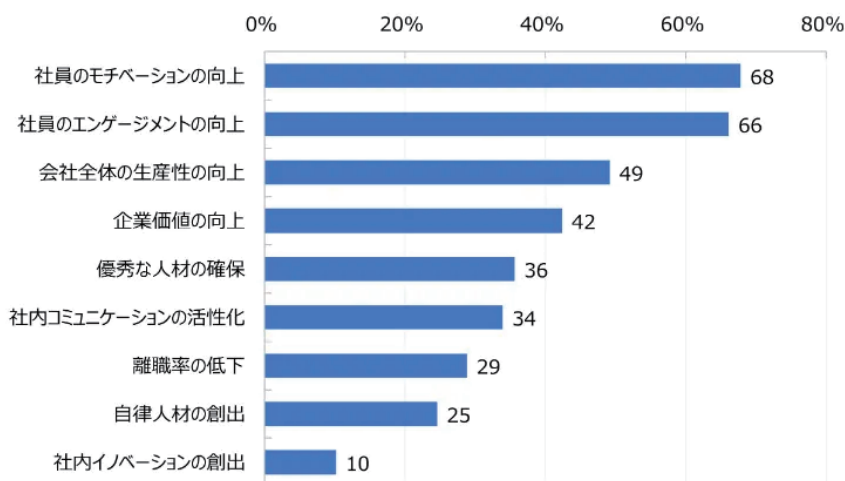


ウェルビーイング推進の目的は「社員のモチベーション・エンゲージメント向上」が7割近く

ウェルビーイングへの取り組みの目的については、「社員のモチベーションの向上」が最多で68%、次いで「社員のエンゲージメントの向上」が66%、「会社全体の生産性の向上」が49%などとなっている（図表5）。

従業員のウェルビーイングを実現することで、従業員の仕事や会社に対する向き合い方が変わり、ひいては会社全体の生産性・価値の向上へと繋がるのが期待されているようである。

【図表5】「ウェルビーイング」の実現に向けた施策実施の目的



取り組み施策に「多様な働き方の推進」「健康経営の推進」が半数

それでは、従業員のウェルビーイングの実現に向けてどのような取り組みを実施しているのだろうか。

最も多いのは「多様な働き方の推進」で50%、次いで「健康経営の推進」が49%、「社内コミュニケーション活性化」と「長時間労働の是正」がともに47%などとなっている（図表6）。

働き方に自由度を持たせ選択肢の幅を広げることで、個々人がより良い状態で働きやすくとともに、ウェルビーイングという概念の中で健康経営に取り組むことにより、心身の健康維持だけでなく幸福度にも繋がる健康経営にする狙いがあると推測される。

【図表6】「ウェルビーイング」の実現に向けた取り組み施策（実施予定含む）

武蔵野大学ウェルビーイング学部についてのアンケート

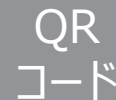
(仮称)

武蔵野大学では令和6(2024)年にウェルビーイング学部(仮称)の開設を構想しています。構想の参考とさせていただきたく、以下アンケートへの回答にご協力をお願いいたします。

アンケートの結果につきましては、集計結果を本学部開設のための参考資料及び文部科学省提出資料にて利用させていただき、それ以外の目的で使用することは一切ございません。社名・団体名及び個人が特定されるような情報として公表されることもございません。

別紙の学部概要をご覧ください。以下の質問にお答えください。選択肢からあてはまるものに☑、または（ ）内に記述してください。

* WEBからもご回答いただけます。お手持ちのスマートフォン等から
右のQRコードを読み込んでいただき、アンケートのページにアクセスしてください。



問 1. 貴社・貴団体・貴法人についてお聞きます。

- ①所在地：（ 都・道・府・県 ／ 海外 ）
- ②貴社名・貴団体名・貴法人名：（ ）

問2. 本学部の養成する人材像について、どのように評価しますか。

- ☐
- 評価する
- ☐
- やや評価する
- ☐
- あまり評価しない
- ☐
- 評価しない

問3. 本学部における学修について、社会的ニーズがあるとお考えですか。

- ☐
- ある
- ☐
- ややある
- ☐
- あまりない
- ☐
- ない

問4. 本学部で育成する人材を、貴社で採用したいとお考えですか。

- ☐
- 採用したい
- ☐
- やや採用したい
- ☐
- あまり採用したくない
- ☐
- 採用したくない

問5. 問4で「採用したい」または「やや採用したい」と回答された方に伺います。

本学部で育成する人材は、特にどの地域で必要だとお考えですか。

- ☐東京及び首都圏 ☐首都圏以外の地域 ☐地域は問わない

問6. 問4で「採用したい」または「やや採用したい」と回答された方に伺います。

本学部の学生に卒業までに特に身につけてほしい能力や資格はありますか。

アンケートのご協力、ありがとうございました。

＜お問い合わせ＞ 学校法人武蔵野大学 経営企画部法人企画課
TEL 03-5530-7404（平日のみ） E-Mail kikaku@musashino-u.ac.jp

武蔵野大学

ウェルビーイング学部

ウェルビーイング学科 (仮称)

2024年4月開設予定 (設置構想中)

* 概要・計画等は予定であり、今後、変更になる場合があります。

Q: 「ウェルビーイング」ってなに？

A: 幸せ・生きがい・安心・福祉・健康・平和など、一人一人の多様な幸せと社会全体の幸せをカタチにしている状態のことです。

ウェルビーイング学部の特徴 (設置の理念、養成する人材像)

ウェルビーイング学部の最大の特徴は、環境学、経済学、ポジティブ心理学、デザイン工学等を学び、自然、地域、企業、世界での実習を通して一人一人の多様な幸せと社会全体の幸せをカタチにできる人材を育成することです。

世界がキャンパス

ウェルビーイング学・ポジティブ心理学等を得意とする海外大学との連携、短期留学ができる

日本中がキャンパス

全国各地域 (沖縄から北海道まで) と連携し、自然体験や地域課題解決型実習ができる

企業がキャンパス

ウェルビーイングに関心が高い企業、病院、福祉施設、自治体等で創造的な実習ができる

卒業後のイメージ

① ウェルビーイング産業デザイナー

グローバルな世界をフィールドとして、ウェルビーイングな世界や産業を創出する人材

(例) 企業 (メーカー、商社、医療看護、介護福祉等) や教育現場でのウェルビーイング推進担当者、起業家 等

② ウェルビーイング地域デザイナー

地域をフィールドとして、それぞれの地域の特色をいかしたウェルビーイングをデザインし、地域活性化を担う人材

(例) ウェルビーイングな地域の創生を目指す自治体の公務員、企業への就職、NPO諸団体への所属 等

③ ウェルビーイングの専門家

大学院に進学し、ウェルビーイングの学問研究の方法論をさらに学び、ウェルビーイングな世界を総合的にデザインしていく人材

(例) 海外・国内の大学院進学、研究機関・シンクタンク職員 等

設置場所・入学定員・学費

○ 武蔵野キャンパス (〒202-8585 東京都西東京市新町一丁目1番20号)

○ 入学定員 80名

○ 初年度納入金 1,475,000円※

※ 入学金、授業料、教育充実費等 (諸会費等別途)

※ 学費は現時点での予定であり、変更になる場合があります。

<類似する分野の学問を学ぶ他の大学>

○ 東洋大学 福祉社会デザイン学部 人間環境デザイン学科 (2023年度開設予定)

○ 法政大学 現代福祉学部 福祉コミュニティ学科 ○ 明星大学 人文学部 人間社会学科

吉祥寺 三鷹 武蔵境	バス 7~15分	武蔵野 キャンパス
田無	徒歩 15分	

世界の幸せをカタチにする。



武蔵野大学

企業等新卒採用担当者向けアンケートの結果

1. 実施時期：令和 5 年 1 月 15 日～令和 5 年 2 月 10 日
2. 対象：企業等新卒採用責任者及び担当者 122 社
3. 回答：企業等新卒採用担当者及び担当者 36 人

4. アンケート結果

問 1. 貴社・貴団体・貴法人についてお聞きします。

①所在地

回答	回答数	割合 (%)
東京都	29	80.6%
神奈川県	3	8.3%
埼玉県	1	2.8%
秋田県	1	2.8%
茨城県	1	2.8%
富山県	1	2.8%
合計：	36	100%

②貴社名・貴団体名・貴法人名

開示せず

問 2. 本学部の養成する人材像について、どのように評価しますか。

回答	回答数	割合 (%)
評価する	22	61.1%
やや評価する	14	38.9%
あまり評価しない	0	0%
評価しない	0	0%
合計：	36	100%

問3. 本学部における学修について、社会的ニーズがあるとお考えですか。

回答	回答数	割合 (%)
ある	19	52.8%
ややある	16	44.4%
あまりない	1	2.8%
ない	0	0%
合計：	36	100%

問4. 本学部で育成する人材を、貴社・貴団体・貴法人で採用したいとお考えですか。

回答	回答数	割合 (%)
採用したい	17	47.2%
やや採用したい	19	52.8%
あまり採用したくない	0	0%
採用したくない	0	0%
合計：	36	100%

問5. 問4で「採用したい」または「やや採用したい」と回答された方に伺います。

本学部で育成する人材は、特にどの地域で必要だとお考えですか。

回答	回答数	割合 (%)
東京及び首都圏	6	16.7%
首都圏以外の地域	0	0%
地域は問わない	30	83.3%
合計：	36	100%

問6. 問4で「採用したい」または「やや採用したい」と回答された方に伺います。

本学部の学生に卒業までに特に身につけてほしい能力や資格はありますか。

(非公開)

※割合 (%) は小数点第2位で四捨五入しているため、各項目の合計が 100.0%にならない場合がある

1（書類等の題名）

企業等新卒採用担当者向けアンケートの結果
（【資料 26】 6 1、 6 2 ページ）

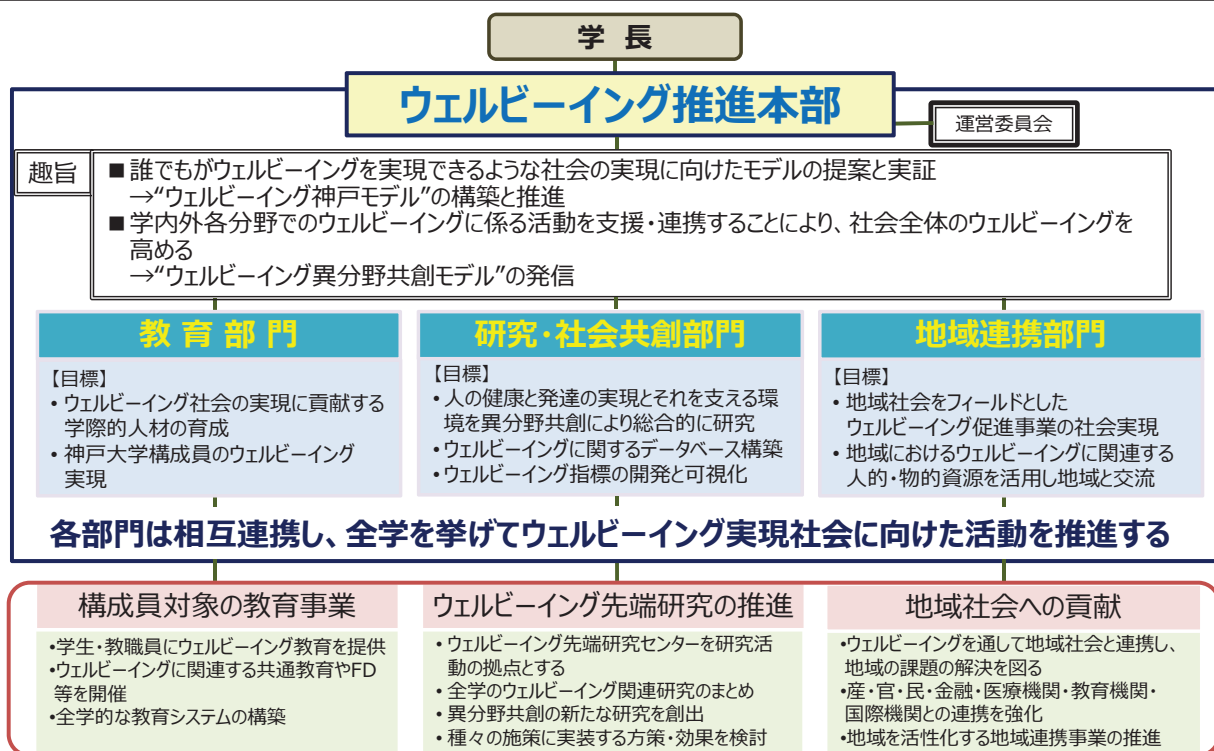
2（出典）

学校法人武蔵野大学経営企画部法人企画課所持データ

3（その他の説明）

本内容の間 6 「本学部の学生に卒業までに特に身につけてほしい能力や資格
はありますか。」は、学内資料（学外秘）であり、省略とする。

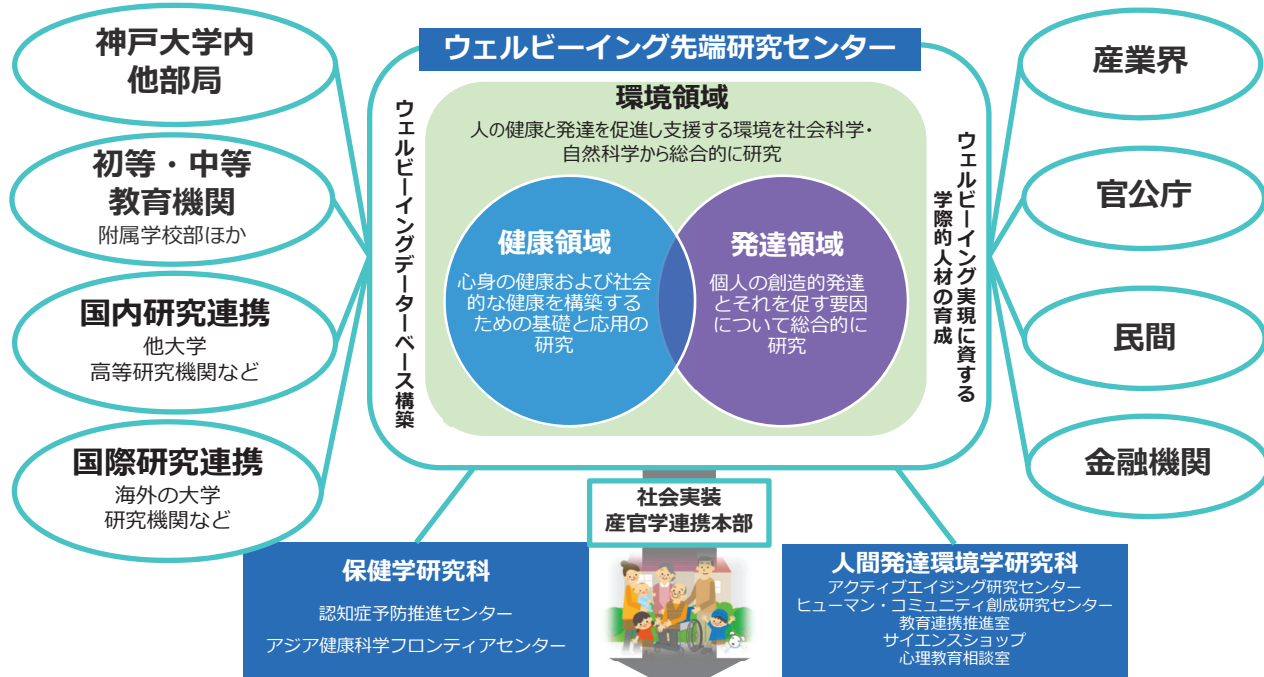
ウェルビーイング推進本部の設置



異分野共創によりウェルビーイングを実現し、持続可能な社会をリードする

ウェルビーイング先端研究センター

【ミッション】 少子・超高齢化，貧困格差，新型コロナウィルスのパンデミック，紛争や自然災害による劇的な環境の変化においても，持続可能な社会を築き、生涯にわたるウェルビーイングを実現することは最重要課題。その実現には，人を総合的に捉え，環境との相互作用を考慮することが不可欠であり，学際的な視点が必要。人生100年時代のいずれのステージにおいても，疾病や障害の有無に関係なく，心豊かで幸せを実感できる社会の実現を目指す。



【目標】 生物学的・生理学的知見を基盤とした健康・医科学に，発達科学，環境科学を融合し，エビデンスに基づいた異分野共創のアクションを産官民金と連携して実施し、持続可能なウェルビーイング・心豊かで幸せを実感できる社会を実現

まとめ

- 神戸大学は、ウェルビーイング推進本部・ウェルビーイング先端研究センターを設置します
- 推進本部は、研究・地域共創、教育、地域連携の3部門を設置し、各学部・研究科で行われるウェルビーイング関連研究を横断的に支援し連携を強化します
- 先端研究センターでは、健康、発達、環境の3領域において、最先端の研究を行い、国内外に向けて情報発信します
- 学外の学術機関および産・官・民・金との連携や 共同研究を進め、研究・教育を充実させます
- その成果を地域社会・地域住民のウェルビーイング達成のために活かします

世界トップレベルのウェルビーイング推進拠点を目指します

「留学生30万人計画」骨子の概要

- ☆ 「グローバル戦略」展開の一環として2020年を目途に留学生受入れ30万人を目指す。
- ☆ 大学等の教育研究の国際競争力を高め、優れた留学生を戦略的に獲得。
- ☆ 関係省庁・機関等が総合的・有機的に連携して計画を推進

ポイント



資料28

本文14ページ参照

1（書類等の題名）

武蔵野大学 外国人留学生の卒業の進路

（【資料 29】 6 6 ページ）

2（出典）

学校法人武蔵野大学学生支援部キャリアセンター事務課所持データ

3（その他の説明）

本内容は、学内資料（学外秘）であり、省略とする。

2023/03/07 11:59

12.5兆円と600兆円 日米の格差、原因は？ 藤田康人のウェルビーイング解体新書【6】：【SDGs ACTION!】朝日新聞デ...



インテグレート代表取締役CEO／藤田康人



藤田康人（ふじた・やすと）

株式会社インテグレート代表取締役CEO。1964年東京都生まれ。慶應義塾大学文学部を卒業後、味の素に入社。ザイロフィンファースト社（現ダニスコジャパン）の設立に参画してキシリトール・ブームを仕掛け、製品市場をゼロから2000億円規模へと成長させた。2007年5月、IMC（統合型マーケティング）プランニングを実践するマーケティングエージェンシー「インテグレート」を設立。著書に『カスタマーセントリック思考』

『THE REAL MARKETING—売れ続ける仕組みの本質』（いずれも宣伝会議）など。

政治から研究の分野まで、世界中のあらゆる人々の注目が今、ウェルビーイングに集まっています。

SDGsの大きな潮流の中でコロナ禍を経て、人々の幸せに対する価値観や生き方、暮らし方が大きく変わったことは、このコラムの中でも何度もお話ししてきました。

マーケターの立場から、私は今こそすべての企業がウェルビーイングの視点で既存ビジネスを見直し、新規領域へ参入する絶好のチャンスだと考えています。今のこのタイミングは、新しいビジネスが生まれる環境がそろっていると言えるからです。

目次

巨大化するアメリカのウェルネス産業

背景のひとつに「負の歴史」？

保険制度の問題点 かえって普及のきっかけに

巨大化するアメリカのウェルネス産業

では実際に、ウェルビーイングに関連するビジネスは現在、どのような状況なのでしょうか。

ウェルビーイングの概念は、体と心、そして社会との関係性という広範囲をカバーしています。そのため、そもそも「ウェルビーイングビジネス市場」といっても、その実情を明確に推計することはとても難しいのです。

そんななか、実態が顕在化していてわかりやすいのは、アメリカのウェルネス産業です。

対象となるのは、「ウェルネスツーリズム」や「フィジカルアクティビティー」、「予防医療・公衆衛生関連」といった、いわゆる「健康産業まわり」になります。

ウェルネス領域の調査研究を進める米NPO「GLOBAL WELLNESS INSTITUTE」の調査によると、その市場規模は2022年時点で約4.4兆ドル。日本円にすると約600兆円になります。

同様の枠組みで見たときの同年の日本の市場規模は約12.5兆円（予測）ですから、この領域ではアメリカがかなり先行しているといえるでしょう。

さらにアメリカでは今、睡眠・マインドフルネス・瞑想（めいそう）に関するテクノロジー領域を指す意味で使われていた「トランステック」という言葉が「ウェルビーイング・テクノロジー」へと名前を変え、産業としての規模を拡大しようとしています。

2020年には、ウェルビーイング分野へのスタートアップに対する投資が1兆円を突破。企業向け遠隔メンタルヘルスケア、瞑想アプリ、ビデオ診療など、投資を受けた企業は350社を超え、5年前より2割以上増えています。アメリカのウェルビーイングビジネスは、すでに成長モードに入っているといえるかもしれません。

巨大化するアメリカのウェルネス産業ですが、世界の「ウェルビーイング市場」のすべてを占めるのかといわれると、さすがにそうではなく、一部に過ぎないでしょう。世界中の人たちのウェルビーイングを実現するためのアイデアは、既存のウェルネス産業という枠組みを超え、いくらでも出てくることになるはずだからです。

たとえば、私たちが心から楽しませてくれるエンターテインメント産業、家族や友人との大切な時間に満足感を与えてくれる外食産業などは、ウェルビーイング産業と言っていいと思います。

そういった周辺の産業を加えると、世界規模でのウェルビーイング市場は、750兆円規模にも広がるのではないかとされています。ウェルビーイングビジネスの領域は、これからさらにどんどん広がっていくことになるでしょう。

背景のひとつに「負の歴史」？

正確な比較は難しいとはいえ、600兆円と12.5兆円という日米のウェルネス領域での市場規模の差は、人口（米国・約3億3000万人、日本・約1億2500万人）を考慮しても、あまりにも大きく広がっています。

では、日本とアメリカの市場環境には、どんな違いがあるのでしょうか？

アメリカでウェルビーイングビジネスが急成長する背景のひとつに、アメリカにおける偏見と差別の歴史があると考えられます。「負」の側面を持つ歴史を背負っているアメリカ社会は、差別や不平等といった問題にとっても敏感で、社会的に弱者とされる人々の救済にも積極的です。

その姿勢は、メンタルヘルスの領域でも同様です。1999年には世界で初めてのメンタルヘルス会議を開催し、2008年には「メンタルヘルス・パリティ法」という、精神疾患と身体疾患の保険の取り扱いの不平等をなくす法律を施行しました。

アメリカではウェルビーイングが注目されるはるか昔から、メンタルヘルスという心の問題を社会として黙殺することなく、むしろ解決すべき要件としてさまざまな取り組みが進められてきたのです。

保険制度の問題点 かえって普及のきっかけに

アメリカと日本では決定的な違いがもうひとつあります。保険制度です。

日本は「国民皆保険」が制度として確立している国です。保険証があれば、誰でも、どこでも、いつでも、保険医療を受けることができます。

一方、アメリカは民間保険中心の国です。公的医療保険としてあるのは、高齢者や障害者を対象とした「メディケア」と、低所得者向けの「メディケイド」の2つ。それ以外の人たちは、企業が提供する民間の医療保険に加入しているケースが一般的です。

従業員200人以上の企業には医療保険の提供が義務付けられているため、アメリカ国民の約7割が民間保険に加入しているといえます。ただし、どんな内容の保険になるかは、勤めている企業次第。医療保険の内容が、働く人たちの会社選びの重要な選択肢のひとつになっています。

裏を返せば、アメリカの企業は、質の高い従業員を確保するためには条件のよい医療保険を提供することが採用戦略上の重要なテーマになっています。一方で、手厚い内容の保険になればなるほど、当然ながら企業が負担する保険料は大きくなります。

このような「民間保険を中心に成り立っている医療制度」が、実はアメリカでウェルビーイングビジネスが先行する大きな理由のひとつになっているのです。

高齢化社会にともなう医療費の増大は、日本でも大きな問題とされています。しかし世界の中でみると、1人当たりの年間の保険医療支出は、日本は上位10カ国にも入りません。

一方、支出額が群を抜いて多いのがアメリカです。例えば、アメリカの中でも医療費が高いニューヨークのマンハッタン地区の場合、虫垂炎で入院・手術したとすると1日の入院費が100万円を超えることも少なくないといえます。

保険医療が高額になると、自己負担分を支払う個人も、保険負担部分を支払う企業も、そして保険請求に対して保険適用分を支払わなければいけない保険事業者も、みんなが困ってしまいます。

三者いずれも医療費の抑制が重要になってきますが、その中で特に深刻なのが企業です。民間医療保険の掛け金は年々増加の一途をたどっていますが、その増加分の多くを負担しているのは、雇用主である企業だからです。

そこで企業が注目したのが、従業員が心身の健康を保つための遠隔メンタルヘルスケア、瞑想アプリ、ビデオ診療など、さまざまな「ウェルビーイング・ソリューション」です。

増え続ける医療費を抑制するために、そもそも従業員が病気にならないよう心身の健康を保つための工夫が必要とされ、そこに需要が生まれ、ビジネスが生まれる。これが今、アメリカでウェルビーイングビジネスが急成長している土壌になっているのです。

実際、アメリカでは、Google、インテル、Meta（Facebook）などの先進企業を中心に、多くの企業がストレスケアだけでなく生産性向上を目的としてマインドフルネスプログラムを導入しています。

では、保険制度などのビジネス環境がアメリカとは違う日本では今後、ウェルビーイングビジネスはどのように市場が形成されていくのでしょうか。そして、どんな領域が有望なのでしょう。

この話はまた、別の機会にお伝えしたいと思います。

の教科書

ウェルビーイングビジネス

著 藤田 康人
株式会社インテグレート
代表取締役CEO

インテグレート
ウェルビーイング
プロジェクト

「人とのつながり」
ができる
ビール

「家族
との時間」
が増える
洗剤

「病気の
予防」
を目的とした
生命保険

今、こうした商品が
新しい市場を創造

マーケティングも、新規事業開発も
ウェルビーイング視点で

ビジネスの突破口になる

ポスト
SDGs
最有力

2025
年には
12.5兆円
市場
に成長!

アスコム

教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
6	学長	ニシモト テルマ 西本 照真 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)		武蔵野大学 学長 (平成28.4～令和6.3)

（注） 高等専門学校にあっては校長について記入すること。

教 員 の 氏 名 等													
（ウエルビーイング学部ウエルビーイング学科）													
調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 （千円）	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 （就任年月）	申請に係 る大学等 の職務に 従事する 相当たり 平均日数	
1	専	教授 （学部長）	マエノ リョウシ 前野 隆司 ＜令和6年4月＞		博士 （工学）		WBデザイン入門A（全体像と歴史）	1①	1	1	慶應義塾大学大学院 システムデザイン・ マネジメント研究科 教授 （平7.4）	5日	
							WBデザイン発展（デザイン工学）	4①	1	1		2日	
							WBリテラシー基礎A（感性工学）	2①	1	1			
							基礎ゼミA	2①	1	1			
							基礎ゼミB	2③～④	2	1			
							地域・ビジネスプロジェクト	3②・休	4	1			
							未来デザイン方法論A（イノベーション論）	3①	1	1			
							未来デザインプロジェクト	3③～④	4	1			
							応用ゼミA	3①	1	1			
							応用ゼミB	3③～④	2	1			
							卒業プロジェクト	4①～②	2	1			
							卒業論文	4③～④	2	1			
							WBデザイン入門B（健康）	1②	1	1			
							WBデザイン応用C（医療）	3④	1	1			
							WBリテラシー入門A（ポジティブ心理学基礎） ※	1④	0.6	1			
							基礎ゼミA	2①	1	1			
							基礎ゼミB	2③～④	2	1			
							自己理解基礎A（コンパッション）	2①	1	1			
							自己理解基礎C（セルフ・コンパッション）	2④	1	1			
							地域・医療・福祉基礎A（医療・看護）	2①	1	1			
							国際コミュニケーション	2①	1	1			
							海外インターンシップ	2・3・4 ②～休	2	1			
							応用ゼミA	3①	1	1			
							応用ゼミB	3③～④	2	1			
							卒業プロジェクト	4①～②	2	1			
							卒業論文	4③～④	2	1			
							建学の精神入門C（Dharma Dialogue）	1③	1	1			
							建学の精神入門D（幸福論）	1④	1	1			
							建学の精神基礎A（死生学） ※	2①	0.6	1			
							建学の精神応用A（文献講読）	3①	1	1			
							WBデザイン応用B（哲学・倫理学）	3③	1	1			
							WBリテラシー応用A（論理学）	3①	1	1			
							応用ゼミA	3①	1	1			
							応用ゼミB	3③～④	2	1			
							卒業プロジェクト	4①～②	2	1			
							卒業論文	4③～④	2	1			
							卒業プロジェクト	4①～②	2	1			
							卒業論文	4③～④	2	1			
							建学の精神入門B（真理観）	1②	1	1			
							建学の精神入門C（Dharma Dialogue）	1③	1	1			
							建学の精神基礎A（死生学） ※	2①	0.6	1			
							建学の精神基礎C（縁起・共生） ※	2④	0.6	1			
							建学の精神応用A（文献講読）	3①	1	1			
							応用ゼミA	3①	1	1			
							応用ゼミB	3③～④	2	1			
							卒業プロジェクト	4①～②	2	1			
							卒業論文	4③～④	2	1			
							建学の精神入門A（人間観）	1①	1	1			
							建学の精神入門C（Dharma Dialogue）	1③	1	1			
							建学の精神基礎B（巡礼）	2休	1	1			
							建学の精神基礎C（縁起・共生） ※	2④	0.6	1			
							建学の精神応用A（文献講読）	3①	1	1			
							建学の精神応用B（Ancestors' Voices）	3休	1	1			
							基礎ゼミA	2①	1	1			
							基礎ゼミB	2③～④	2	1			
							応用ゼミA	3①	1	1			
							応用ゼミB	3③～④	2	1			
							卒業プロジェクト	4①～②	2	1			
							卒業論文	4③～④	2	1			
							WBデザイン基礎A（経済・行動科学）	2①	1	1			
							WBリテラシー基礎F（プロジェクトマネジメント）	2④	1	1			
							基礎ゼミA	2①	1	1			
							基礎ゼミB	2③～④	2	1			
							地域・医療・福祉応用B（公共政策）	3③	1	1			
							ビジネス応用（社会システム）	3④	1	1			
							海外インターンシップ	2・3・4 ②～休	2	1			
							未来デザインプロジェクト	3③～④	4	1			
							応用ゼミA	3①	1	1			
							応用ゼミB	3③～④	2	1			
							卒業プロジェクト	4①～②	2	1			
							卒業論文	4③～④	2	1			

教 員 の 氏 名 等													
(ウェルビーイング学部ウェルビーイング学科)													
調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係 る大学等 の職務に 従事する 週当たり 平均日数	
8	専	教授	スガワラ(フカニ) イコ 菅原(福谷) 育子 ＜令和6年4月＞		博士 (社会心理学)		WBデザイン基礎B(社会) WBリテラシー応用B(社会調査法) 入門ゼミA 入門ゼミB 基礎ゼミA 基礎ゼミB 自然・環境入門A ※ 自然・環境基礎B ※ 自然・環境プロジェクト 地域・医療・福祉応用A(社会心理) 多文化理解 応用ゼミA 応用ゼミB 卒業プロジェクト 卒業論文	2③ 3③ 1①～② 1③～④ 2① 2③～④ 1①～② 2③～④ 2②・休 3① 3④ 3① 3③～④ 4①～② 4③～④	1 1 2 2 1 2 1 1 4 1 1 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	西武文理大学 サービス経営学部 准教授 (令3.4)	5日	
9	専	教授	グスタフ・ストランド Gustav Strandell ＜令和7年4月＞		Master of East Asian Studies 【スウェーデン】		地域・医療・福祉基礎C(高齢者福祉) 地域・ビジネスプロジェクト 海外インターンシップ 卒業プロジェクト 卒業論文	2④ 3②・休 2・3・4 ②～休 4①～② 4③～④	1 4 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	株式会社朝日ケア コンサルタント 取締役 (令3.4) 株式会社朝日ケア コンサルタント 取締役 (令3.4)	4日 5日	
10	専	教授	シマダ ユカ 島田 由香 ＜令和7年4月＞		Master of Arts in Organizational Psychology 【米国】		ビジネス基礎B(人事) ビジネス基礎C(起業) 地域・ビジネスプロジェクト 卒業プロジェクト 卒業論文	2③ 2④ 3②・休 4①～② 4③～④	1 1 4 2 2	1 1 1 1 1	株式会社YeeY 代表取締役 (平29.2) 株式会社YeeY 代表取締役 (平29.2)	4日 7日	
11	兼任	講師	マツモト ショウイ 松本 紹圭 ＜令和6年4月＞		MBA (経営学修士) 【インド】		建学の精神入門C(Dharma Dialogue) 建学の精神基礎B(巡礼)	1③ 2休	1 1	1 1	株式会社Interbeing 代表役員 (令4.11)		
	専	教授	マツモト ショウイ 松本 紹圭 ＜令和8年4月＞				建学の精神応用B(Ancestors' Voices) 卒業プロジェクト 卒業論文	3休 4①～② 4③～④	1 2 2	1 1 1	株式会社Interbeing 代表役員 (令4.11) 株式会社Interbeing 代表役員 (令4.11)	4日 4日	
12	専	教授	ヤマダ ヒロシ 山田 博 ＜令和6年4月＞		教育学士		WBリテラシー応用D(コーチング的コミュニケーション) 自然・環境入門A ※ 自然・環境基礎B ※ 自然・環境プロジェクト 卒業プロジェクト 卒業論文	3④ 1①～② 2③～④ 2②・休 4①～② 4③～④	1 1 1 4 2 2	1 1 1 1 1 1	株式会社もりびと 代表取締役 (平27.3) 株式会社もりびと 代表取締役 (平27.3)	4日 5日	
13	専	准教授	ウラタニ ヒロキ 浦谷 裕樹 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		WBデザイン入門D(教育) WBリテラシー基礎C(ロジカル思考) WBリテラシー基礎E(文章) WBリテラシー発展A(実践者に聴く1) ※ WBリテラシー発展B(実践者に聴く2) ※ WBリテラシー発展C(プレゼンテーション) 入門ゼミA 入門ゼミB 基礎ゼミA 基礎ゼミB 自然・環境プロジェクト ビジネス基礎A(企業) 応用ゼミA 応用ゼミB 卒業プロジェクト 卒業論文	1④ 2③ 2④ 4① 4③ 4③ 1①～② 1③～④ 2① 2③～④ 2②・休 2① 3① 3③～④ 4①～② 4③～④	1 1 1 0.6 0.4 1 2 2 1 4 1 1 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	武蔵野大学 准教授 (令5.4)	5日	
14	専	准教授	ナカムラ カズヒロ 中村 一浩 ＜令和6年4月＞		事業構想修士 (専門職)		WBリテラシー応用C(対話の場づくり) 自己理解入門A(自己との対話) 自己理解入門C(他者との対話) 自己理解基礎B(対話) 自然・環境入門B ※ 自然・環境プロジェクト 卒業プロジェクト 卒業論文	3③ 1① 1③ 2③ 1③～④ 2②・休 4①～② 4③～④	1 1 1 1 1 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	株式会社森へ 代表取締役 (令2.6) 株式会社森へ 代表取締役 (令2.6)	4日 5日	
15	専	講師	タス キョウブ 楠 聖伸 ＜令和6年4月＞		修士 (システムエンジ ニアリング学)		WBデザイン基礎C(福祉) WBリテラシー基礎D(システム思考) WBリテラシー発展A(実践者に聴く1) ※ WBリテラシー発展B(実践者に聴く2) ※ 入門ゼミA 入門ゼミB 基礎ゼミA 基礎ゼミB 地域・医療・福祉基礎B(地域と福祉) 地域・ビジネスプロジェクト 未来デザインプロジェクト 応用ゼミA 応用ゼミB 卒業プロジェクト 卒業論文	2④ 2③ 4① 4③ 1①～② 1③～④ 2① 2③～④ 2③ 3②・休 3③～④ 3① 3③～④ 4①～② 4③～④	1 1 0.4 0.6 2 2 1 2 1 4 4 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	全国社会福祉協議会 地域福祉部 全国ボランティア・市民 活動振興センター 副部長 (令4.4)	5日	

教 員 の 氏 名 等												
(ウェルビーイング学部ウェルビーイング学科)												
調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係 る大学等 の職務に 従事する 週当たり 平均日数
16	専	講師	ヨシノ ヨシノ 吉野 優香 ＜令和6年4月＞		博士 (心理学)		WBデザイン入門C (心理) WBデザイン応用A (社会心理) WBリテラシー入門A (ポジティブ心理学基礎) ※ WBリテラシー基礎B (対人コミュニケーション) 入門ゼミA 入門ゼミB 基礎ゼミA 基礎ゼミB 自然・環境入門B ※ 自然・環境基礎A 自然・環境プロジェクト 応用ゼミA 応用ゼミB 卒業プロジェクト 卒業論文	1③ 3① 1④ 2① 1①～② 1③～④ 2① 2③～④ 1③～④ 2① 2②・休 3① 3③～④ 4①～② 4③～④	1 1 0.4 1 2 2 1 2 1 1 4 1 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	武蔵野大学 講師 (令5.4)	5日
17	兼任	教授	アベ カズホ 阿部 和穂 ＜令和6年4月＞		博士 (薬学)		SDGs発展2	1③	1	1	武蔵野大学 薬学部 教授 (平16.4)	
18	兼任	教授	イ ヒョンジュン 李 賢峻 ＜令和7年4月＞		博士 (学術)		韓国語発展1 韓国語発展2 韓国語総合1 韓国語総合2	2①～② 2③～④ 3①～② 3③～④	1 1 1 1	1 1 1 1	武蔵野大学 人間科学部 教授 (令3.4)	
19	兼任	教授	イチノベ コウジ 市瀬 浩志 ＜令和6年4月＞		薬学博士		SDGs発展2	1③	1	1	武蔵野大学 薬学部 教授 (平16.4)	
20	兼任	教授	イトリ キミ 伊藤 清美 ＜令和6年4月＞		博士 (薬学)		SDGs発展3	1④	1	1	武蔵野大学 薬学部 教授 (平21.4)	
21	兼任	教授	イワサミ カズノリ 石上 和敬 ＜令和6年4月＞		博士 (文学)		全学教養ゼミナール1	1①～②	2	1	武蔵野大学 経営学部 教授 (平17.4)	
22	兼任	教授	イワタ コウジ 岩田 弘三 ＜令和6年4月＞		博士 (教育学)		SDGs基礎 SDGs発展1	1① 1②	1 1	1 1	武蔵野大学 人間科学部 教授 (平10.4)	
23	兼任	教授	エンドウ コウスケ 遠藤 祐介 ＜令和6年4月＞		博士 (文学)		中国語基礎1 中国語基礎2 中国語総合1 中国語総合2	1①～② 1③～④ 3①～② 3③～④	1 1 1 1	1 1 1 1	武蔵野大学 グローバル学部 教授 (平23.4)	
24	兼任	教授	オオサキ ヒロキ 大崎 広行 ＜令和6年4月＞		修士 (教育学)		SDGs発展1	1②	1	1	武蔵野大学 人間科学部 教授 (平30.4)	
25	兼任	教授	オオミ トシヒロ 碧海 寿広 ＜令和6年4月＞		博士 (社会学)		日本事情 全学教養ゼミナール1	1③～④ 1①～②	2 2	1 1	武蔵野大学 文学部 教授 (平31.4)	
26	兼任	教授	オグサ シンキ 貝塚 茂樹 ＜令和6年4月＞		博士 (教育学)		SDGs基礎	1①	1	1	武蔵野大学 教育学部 教授 (平15.4)	
27	兼任	教授	オケノ タケシ 掛野 剛史 ＜令和6年4月＞		博士 (文学)		SDGs発展1	1②	1	1	武蔵野大学 文学部 教授 (令4.4)	
28	兼任	教授	オトリ ミチコ 加藤 みち子 ＜令和6年4月＞		博士 (哲学)		SDGs発展2 SDGs発展3 全学教養ゼミナール1	1③ 1④ 1①～②	1 1 2	1 1 1	武蔵野大学 仏教文化研究所 教授 (平31.4)	
29	兼任	教授	カミヨウ ケイ 神吉 宇一 ＜令和8年4月＞		言語文化修士		フィールド・スタディーズ発展3B	3休	2	1	武蔵野大学 グローバル学部 教授 (平28.4)	
30	兼任	教授	カワハラ マサヒロ 川原 正博 ＜令和6年4月＞		博士 (薬学)		SDGs基礎	1①	1	1	武蔵野大学 薬学部 教授 (平24.4)	
31	兼任	教授	シバ テヲ 芝 哲也 ＜令和8年4月＞		修士 (システムデザイン・マネジメント学)		未来デザイン方法論B (手法1) 未来デザイン方法論C (手法2) 未来デザインプロジェクト	3③ 3④ 3③～④	1 1 4	1 1 1	武蔵野大学 アントレプレナーシップ 学部 教授 (令3.4)	
32	兼任	教授	スガワラ カネ 菅原 克也 ＜令和6年4月＞		文学修士※		SDGs特講 全学教養ゼミナール2 証券ビジネス論	3①～② 1③～④ 2③～④	2 2 2	1 1 1	武蔵野大学 グローバル学部 教授 (平31.4)	
33	兼任	教授	スギタキ ナツオ 杉崎 夏夫 ＜令和6年4月＞		文学修士※		SDGs発展1 SDGs発展3	1② 1④	1 1	1 1	武蔵野大学 文学部 教授 (昭62.4)	
34	兼任	教授	スズキ ジュンイチ 鈴木 純 ＜令和6年4月＞		工学修士、 Master of BusinessAdminist ration 【米国】		SDGs発展2	1③	1	1	武蔵野大学 経営学部 教授 (令3.4)	
35	兼任	教授	ナカミ ケイイチ 中込 啓一 ＜令和6年4月＞		博士(薬学)、 Doctor of Pharmacy 【米国】		SDGs発展1	1②	1	1	武蔵野大学 薬学部 教授 (平18.4)	

教 員 の 氏 名 等												
(ウェルビーイング学部ウェルビーイング学科)												
調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係 る大学等 の職務に 従事する 週当たり 平均日数
53	兼任	准教授	ワサベ リナミ 渡邊 紀文 ＜令和7年4月＞		博士 (政策・メディア)		プログラミング発展B 機械学習活用1 機械学習活用2	2②～③ 2④ 2④	1 1 1	1 1 1	武蔵野大学 データサイエンス学部 准教授 (平31.1)	
54	兼任	講師	オサキ アヤノ 大崎 理乃 ＜令和6年4月＞		博士 (学術)		メディアリテラシー SDGs発展1	1③・④ 1②	1 1	1 1	武蔵野大学 データサイエンス学部 講師 (令3.9)	
55	兼任	講師	オオタ ヒロト 太田 裕通 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		SDGs発展3	1④	1	1	武蔵野大学 工学部 講師 (令3.4)	
56	兼任	講師	タカエ エミコ 田中 笑子 ＜令和6年4月＞		博士 (医学)		SDGs発展3	1④	1	1	武蔵野大学 看護学部 講師 (令2.4)	
57	兼任	講師	ナガオ シゲキ 長尾 重輝 ＜令和6年4月＞		修士 (文学) ※		全学教養ゼミナール1	1①～②	2	1	武蔵野大学 文学部 講師 (平26.4)	
58	兼任	講師	ナカムラ ヲシ 中村 剛 ＜令和6年4月＞		修士 (コーチ学)		スポーツと身体科学 ※ フィールド・スポーツ	1①～② 2休	0.7 1	1 1	武蔵野大学 教育学部 講師 (平19.4)	
59	兼任	講師	ミヨシ ノブヨシ 三好 伸芳 ＜令和6年4月＞		博士 (言語学)		SDGs発展3	1④	1	1	武蔵野大学 文学部 講師 (令4.4)	
60	兼任	助教	エノキキ ユウキ 園崎 祐貴 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		プログラミング基礎 プログラミング発展A	1③・④ 2①・②	1 1	1 1	武蔵野大学 データサイエンス学部 助教 (令2.4)	
61	兼任	助教	オノダ リョウタロウ 岡田 龍太郎 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		プログラミング基礎 プログラミング発展A	1③・④ 2①・②	1 1	1 1	武蔵野大学 データサイエンス学部 助教 (令2.4)	
62	兼任	助教	ミヤタ タケヒロ 宮下 貴裕 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		SDGs発展2	1③	1	1	武蔵野大学 工学部 助教 (令2.4)	
63	兼任	講師	アサヒ マチ 青葉 真紀 ＜令和6年4月＞		修士 (体育学)		スポーツと身体科学 ※	1①～②	0.6	1	武蔵野大学 非常勤講師 (平19.4)	
64	兼任	講師	アライ カズヒロ 新井 和宏 ＜令和9年4月＞		工学士		WBリテラシー発展D(お金)	4③	1	1	株式会社eumo 代表取締役 (平30.9)	
65	兼任	講師	アリノ マチ 有信 真美菜 ＜令和6年4月＞		Ph.D (哲学博士) 【ドイツ】		ドイツ語基礎1 ドイツ語基礎2 ドイツ語発展1 ドイツ語発展2 ドイツ語総合1 ドイツ語総合2	1①～② 1③～④ 2①～② 2③～④ 3①～② 3③～④	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	武蔵野大学 非常勤講師 (平30.9)	
66	兼任	講師	イ テム 李 泰文 ＜令和6年4月＞		修士 (文学・文化人類学)		韓国語基礎1 韓国語基礎2	1①～② 1③～④	1 1	1 1	武蔵野大学 非常勤講師 (平24.4)	
67	兼任	講師	イシカワ マミ 石川 真奈実 ＜令和6年4月＞		修士 (学術)		日本語リテラシー	1②	1	1	武蔵野大学 非常勤講師 (令2.4)	
68	兼任	講師	イトミ ミサト 井戸 美里 ＜令和6年4月＞		博士 (言語学)		日本語リテラシー	1②	1	1	武蔵野大学 非常勤講師 (令4.4)	
69	兼任	講師	イロハ・ボンウェル Ilona Boniwell ＜令和7年4月＞		PhD in Positive Psychology 【英国】		国際コミュニケーション	2①	1	1	University of East London, Professor (平26.4)	
70	兼任	講師	イワナミ ナオキ 岩波 直樹 ＜令和7年4月＞		学士 (経済学)		WBリテラシー基礎G(成人発達理論)	2③	1	1	株式会社eumo 代表取締役 (平30.9)	
71	兼任	講師	オオバウ ヒロユキ 大久保 寛之 ＜令和6年4月＞		修士(健康スポーツ) 修士(スポーツ医学)		スポーツと身体科学 ※	1①～②	0.7	1	武蔵野大学 非常勤講師 (平27.4)	
72	兼任	講師	オノ アヤコ 小野 綾子 ＜令和6年4月＞		博士 (文学)		日本語基礎A 日本語基礎B 日本語基礎C 日本語基礎D	1① 1② 1③ 1④	1 1 1 1	1 1 1 1	武蔵野大学 非常勤講師 (平31.4)	
73	兼任	講師	カグヤマ ナミ 影山 なおみ ＜令和6年4月＞		修士 (文学科学) ※		英語基礎B 英語基礎D	1①～② 1③～④	1 1	1 1	武蔵野大学 非常勤講師 (平30.4)	
74	兼任	講師	カサハラ シンイチロウ 笠原 慎一朗 ＜令和6年4月＞		人文学修士		英語基礎A 英語基礎C	1①～② 1③～④	2 2	1 1	武蔵野大学 非常勤講師 (平29.4)	
75	兼任	講師	カシヅメ ノブミ 梶谷 希美 ＜令和6年4月＞		学士 (教育学)		自己理解入門D(自己受容・他者信頼)	1④	1	1	個人事業主 (教育系講師・ カウンセラー) (令2.4)	
76	兼任	講師	カネ ヒロシ 金 鉦洙 ＜令和6年4月＞		修士 (学術)		韓国語基礎1 韓国語基礎2	1①～② 1③～④	1 1	1 1	武蔵野大学 非常勤講師 (平23.4)	
77	兼任	講師	ケイ ヨシフミ 具 聡和 ＜令和6年4月＞		修士 (文化科学/日本・アジア研究)		韓国語基礎1 韓国語基礎2	1①～② 1③～④	1 1	1 1	武蔵野大学 非常勤講師 (平24.4)	

教 員 の 氏 名 等												
(ウェルビーイング学部ウェルビーイング学科)												
調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係 る大学等 の職務に 従事する 週当たり 平均日数
78	兼任	講師	アリハラ ショウ 栗原 志功 ＜令和7年4月＞		修士 (システムデザイン・マネジメント学)		WBリテラシー基礎H (ビジネス・イノベーション)	2④	1	1	サムライワークス 株式会社 取締役 (平20.6)	
79	兼任	講師	クロサキ シノ 黒崎 紫乃 ＜令和6年4月＞		博士 (応用言語学)		英語基礎A 英語基礎C	1①～② 1③～④	2 2	1 1	武蔵野大学 非常勤講師 (平29.4)	
80	兼任	講師	コトリナ オヨ レディイ ジェミレ COTRINA CAYO LEIDY YEMIRE ＜令和6年4月＞		修士 (言語学) 【スペイン】		スペイン語基礎1 スペイン語基礎2 スペイン語発展1 スペイン語発展2	1①～② 1③～④ 2①～② 2③～④	1 1 1 1	1 1 1 1	武蔵野大学 非常勤講師 (令3.4)	
81	兼任	講師	サイトウ ノリヒト 斎藤 憲仁 ＜令和6年4月＞		学士 (造形学)		情報技法基礎	1③・④	1	1	武蔵野大学 非常勤講師 (平22.9)	
82	兼任	講師	サカマ キズヒコ 佐久間 保彦 ＜令和6年4月＞		Doktor der Philosophie 【ドイツ】		日本語リテラシー	1②	1	1	武蔵野大学 非常勤講師 (平31.4)	
83	兼任	講師	サツタテ アイ 三田 愛 ＜令和8年4月＞		学士 (商学)		WBリテラシー応用G (エコシステム)	3④	1	1	一般社団法人コクリ 代表理事 (令3.3)	
84	兼任	講師	シゲモリ ヒロミ 重盛 ひろみ ＜令和6年4月＞		修士 (文学)		英語基礎A 英語基礎C 英語発展A 英語発展C	1①～② 1③～④ 2①～② 2③～④	2 2 1 1	1 1 1 1	武蔵野大学 非常勤講師 (平25.4)	
85	兼任	講師	ショウ ミンレイ 蕭 明禮 ＜令和6年4月＞		博士 (歴史学)		中国語基礎1 中国語基礎2	1①～② 1③～④	1 1	1 1	武蔵野大学 非常勤講師 (平30.9)	
86	兼任	講師	タカハシ トオル 高橋 徹 ＜令和6年4月＞		修士 (スポーツ健康科学)		スポーツと身体科学 ※	1①～②	0.6	1	武蔵野大学 非常勤講師 (平31.4)	
87	兼任	講師	タケタラ ミミ 竹倉 史人 ＜令和8年4月＞		修士 (学術)		WBリテラシー応用F (人類の歴史)	3③	1	1	東京情報大学 非常勤講師 (令2.4)	
88	兼任	講師	タケナ タケイ 田中 太一 ＜令和6年4月＞		修士 (文学)		日本語基礎A 日本語基礎B 日本語基礎C 日本語基礎D	1① 1② 1③ 1④	1 1 1 1	1 1 1 1	武蔵野大学 非常勤講師 (平31.4)	
89	兼任	講師	テラタ トモコ 寺田 倫子 ＜令和6年4月＞		学士 (外国文化)		メディアリテラシー 情報技法基礎	1③・④ 1③・④	1 1	1 1	武蔵野大学 非常勤講師 (平23.9)	
90	兼任	講師	ナガサキ コウマ 永崎 裕麻 ＜令和7年4月＞		学士 (経営学)		海外インターンシップ	2・3・4 ②～休	2	1	株式会社アールイー カンパニー 取締役 (令3.10)	
91	兼任	講師	ハタ エヨウ 秦 慧州 ＜令和6年4月＞		修士 (仏教学)		スポーツと身体科学 ※	1①～②	0.1	1	武蔵野大学 非常勤講師 (令4.4)	
92	兼任	講師	ハヤシ カイナ(ナホ) 林 海奈(直宏) ＜令和6年4月＞		学士 (総合政策学)		WBリテラシー入門C (アート(書)) WBリテラシー基礎I (アート(書)) WBリテラシー応用E (アート(書))	1② 2④ 3①	1 1 1	1 1 1	書道家 (平30.12)	
93	兼任	講師	ハラタ ティ 原田 美穂 ＜令和6年4月＞		修士 (英語英文学) 【米国】		英語基礎B 英語基礎D	1①～② 1③～④	1 1	1 1	武蔵野大学 非常勤講師 (平22.4)	
94	兼任	講師	ハタタ エミ 半田 恵美 ＜令和6年4月＞		修士 (文学)		英語基礎A 英語基礎B 英語基礎C 英語基礎D 英語発展B 英語発展D	1①～② 1①～② 1③～④ 1③～④ 2①～② 2③～④	2 1 2 1 1 1	1 1 1 1 1 1	武蔵野大学 非常勤講師 (平16.9)	
95	兼任	講師	ワケ エウナン 湧 日珍 ＜令和6年4月＞		修士 (教育学)		中国語基礎1 中国語基礎2 中国語発展1 中国語発展2	1①～② 1③～④ 2①～② 2③～④	1 1 1 1	1 1 1 1	武蔵野大学 非常勤講師 (平30.9)	
96	兼任	講師	フジイ レイ 藤井 礼奈 ＜令和8年4月＞		地域研究修士 ※		スペイン語総合1 スペイン語総合2	3①～② 3③～④	1 1	1 1	武蔵野大学 非常勤講師 (平28.4)	
97	兼任	講師	フヂエ ミコ 淵江 明子 ＜令和7年4月＞		学士 (総合政策学)		海外インターンシップ	2・3・4 ②～休	2	1	株式会社COSTA BLUE (フォニックス・ ガーデン) 代表 (平28.4)	
98	兼任	講師	マエノ マドカ 前野 マドカ ＜令和6年4月＞		学士 (栄養学)		自己理解入門B (自己肯定感) 海外インターンシップ 地域・ビジネスプロジェクト	1② 2・3・4 ②～休 3②・休	1 2 4	1 1 1	一般社団法人 ウェルビーイング デザイン 理事 (平30.2)	
99	兼任	講師	ミズノ タロウ 水野 太郎 ＜令和7年4月＞		修士 (学術)		英語発展B 英語発展D	2①～② 2③～④	1 1	1 1	武蔵野大学 非常勤講師 (令4.4)	
100	兼任	講師	ミヤタ マサヒロ 宮田 真宏 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		プログラミング基礎	1③・④	1	1	武蔵野大学 非常勤講師 (令1.9)	

教 員 の 氏 名 等												
(ウェルビーイング学部ウェルビーイング学科)												
調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係 る大学等 の職務に 従事する 週当たり 平均日数
101	兼任	講師	モリ シンタロウ 森 真太郎 ＜令和6年4月＞		修士 (文学)		フランス語基礎1 フランス語基礎2 フランス語発展1 フランス語発展2 フランス語総合1 フランス語総合2	1①～② 1③～④ 2①～② 2③～④ 3①～② 3③～④	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	武蔵野大学 非常勤講師 (平23.4)	
102	兼任	講師	モリタ ミヨ 森下 教代 ＜令和6年4月＞		修士 (文学)		英語基礎B 英語基礎D 英語発展B 英語発展D	1①～② 1③～④ 2①～② 2③～④	1 1 1 1	1 1 1 1	武蔵野大学 非常勤講師 (平26.4)	
103	兼任	講師	モリモト マホ 守本 真帆 ＜令和7年4月＞		修士 (言語学)		日本語発展A 日本語発展B 日本語発展C 日本語発展D	2① 2② 2③ 2④	1 1 1 1	1 1 1 1	武蔵野大学 非常勤講師 (令2.4)	
104	兼任	講師	ヤマモト エミリ 山本 恵弥里 ＜令和6年4月＞		修士 (体育学) ※		スポーツと身体科学 ※	1①～②	0.6	1	武蔵野大学 非常勤講師 (平24.4)	
105	兼任	講師	ヤマモト カツラ 山本 桂 ＜令和6年4月＞		学術修士		英語基礎A 英語基礎C	1①～② 1③～④	2 2	1 1	武蔵野大学 非常勤講師 (平28.4)	
106	兼任	講師	リ ライ 李 蕾 ＜令和6年4月＞		修士 (人文科学)		中国語基礎1 中国語基礎2	1①～② 1③～④	1 1	1 1	武蔵野大学 非常勤講師 (平23.4)	
107	兼任	講師	ロドリゲス ベニト, マリア Rodriguez Benito, Maria de ＜令和6年4月＞		FORMACIÓN DE PROFESORES DE ESPAÑOL COMO LENGUA EXTRANJERA 【スベ イン】		スペイン語基礎1 スペイン語基礎2	1①～② 1③～④	1 1	1 1	武蔵野大学 非常勤講師 (平27.4)	
108	兼任	講師	ワカマツ /リコ 若松 宣子 ＜令和6年4月＞		博士 (ドイツ文学)		ドイツ語基礎1 ドイツ語基礎2	1①～② 1③～④	1 1	1 1	武蔵野大学 非常勤講師 (平28.4)	
109	兼任	講師	ワタ アキコ 和田 晃子 ＜令和6年4月＞		日本語教育学修 士・環境科学計画 学修士		日本語リテラシー	1②	1	1	武蔵野大学 非常勤講師 (平29.4)	

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
職 位	学 位	29 歳 以 下	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 歳 以 上	合 計	備 考
教 授	博 士	人	人	人	1人	1人	3人	2人	7人	
	修 士	人	人	1人	2人	人	人	人	3人	
	学 士	人	人	人	人	2人	人	人	2人	
	短 期 大 学	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准 教 授	博 士	人	人	人	1人	人	人	人	1人	
	修 士	人	人	人	1人	人	人	人	1人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 学	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講 師	博 士	人	1人	人	人	人	人	人	1人	
	修 士	人	人	人	1人	人	人	人	1人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 学	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助 教	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 学	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合 計	博 士	人	1人	人	2人	1人	3人	2人	9人	
	修 士	人	人	1人	4人	人	人	人	5人	
	学 士	人	人	人	人	2人	人	人	2人	
	短 期 大 学	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	

(注)

1 この書類は、申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。

2 この書類は、専任教員についてのみ、作成すること。

3 この書類は、申請又は届出に係る学部等の開設後、当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度における状況を記載すること。

4 専門職大学院若しくは専門職大学の前期課程を修了した者又は専門職大学又は専門職短期大学を卒業した者に対し授与された学位については、「その他」の欄にその数を記載し、「備考」の欄に、具体的な学位名称を付記すること。

別記様式第3号（その3）別添

（ウェルビーイング学部 ウェルビーイング学科）

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏 名 〈就任予定年月〉	年齢	採用根拠等
1	専	教授	マエノ タカシ 前野 隆司 〈令和6年4月〉		学校法人武蔵野大学定年規程附則第17項 令和4年度第10回理事会（令和5年3月23日開催） にて承認
3	専	教授	イチノセ マサキ 一ノ瀬 正樹 〈令和6年4月〉		学校法人武蔵野大学定年規程附則第17項 令和4年度第10回理事会（令和5年3月23日開催） にて承認
5	専	教授	シモダ マサヒロ 下田 正弘 〈令和6年4月〉		学校法人武蔵野大学定年規程附則第17項 令和4年度第10回理事会（令和5年3月23日開催） にて承認